令和5年度以前

日本大学大学院
法学研究科

令和5年度以前入学者

科 目 名 索 引

この大学院シラバスは、専攻の順に、今年度開講されている授業科目が掲載されている。

イ
意匠法特殊講義Ⅰ …… 232
意匠法特殊講義Ⅱ …… 234
エ
英米法特殊講義Ⅰ …… 94・280
英米法特殊講義Ⅱ …… 97・283
カ
外国公法特殊講義Ⅰ …… 107
外国公法特殊講義Ⅱ …… 109
環境政策特論 …… 523
キ
危機管理特論 …… 515
行政学特殊講義Ⅰ …… 449
行政学特殊講義Ⅱ …… 457
行政制度論特論 …… 509
行政法特殊講義Ⅰ …… 19
行政法特殊講義Ⅱ …… 27
金融法特殊講義Ⅰ …… 267
金融法特殊講義Ⅱ …… 269
ケ
経済行政法特殊講義Ⅰ …… 255
経済行政法特殊講義Ⅱ …… 257
経済政策特殊講義Ⅰ …… 485
経済政策特殊講義Ⅱ …… 489
経済政策特論 …… 519
刑事政策特殊講義Ⅰ …… 77
刑事政策特殊講義Ⅱ …… 79
刑事訴訟法特殊講義Ⅰ …… 73
刑事訴訟法特殊講義Ⅱ …… 75
刑法特殊講義Ⅰ …… 56
刑法特殊講義Ⅱ …… 64・68・71
憲法特殊講義Ⅰ …… 3
憲法特殊講義Ⅱ …… 11
コ
公共経済学特殊講義Ⅰ …… 497
公共経済学特殊講義Ⅱ …… 499
公共政策実務演習 …… 529
公共政策特殊演習 …… 527
公共政策論特殊講義Ⅰ …… 477
公共政策論特殊講義Ⅱ …… 479
公共政策論特論 …… 505
合同演習 …… 379
国際関係論特殊講義Ⅰ …… 441
国際関係論特殊講義Ⅱ …… 443
国際私法特殊講義Ⅰ …… 208
国際私法特殊講義Ⅱ …… 210・212
国際政治学特殊講義Ⅰ …… 433
国際政治学特殊講義Ⅱ …… 437
国際取引法特殊講義Ⅰ …… 215
国際取引法特殊講義Ⅰ（知財） …… 217
国際取引法特殊講義Ⅱ …… 220
国際法特殊講義Ⅰ …… 52
国際法特殊講義Ⅱ …… 54
サ
財政学特殊講義Ⅰ …… 481
財政学特殊講義Ⅱ …… 483
裁判法特殊講義Ⅰ …… 81
裁判法特殊講義Ⅱ …… 84
シ
私法学特論Ⅰ（外国知財法Ⅰ） …… 345
私法学特論Ⅱ（外国知財法Ⅲ） …… 348
私法学特論Ⅲ（審決取消訴訟） …… 350
私法学特論Ⅳ（日米知財比較） …… 356
社会保障特殊講義Ⅰ …… 493
社会保障特殊講義Ⅱ …… 495
社会保障特論 …… 517
社会保障法特殊講義Ⅰ …… 154・272
社会保障法特殊講義Ⅱ …… 158・276
商標法特殊講義Ⅰ …… 236
商標法特殊講義Ⅱ …… 238
商法特殊講義Ⅰ …… 188
商法特殊講義Ⅱ …… 196
セ
政策管理特論 …… 513
政策研究特論 …… 525
政治学原書研究Ⅰ(英) …… 531
政治学原書研究Ⅰ(独) …… 539
政治学原書研究Ⅰ(仏) …… 543
政治学原書研究Ⅱ(英) …… 535
政治学原書研究Ⅱ(独) …… 541
政治学原書研究Ⅱ(仏) …… 545
政治学特論Ⅰ …… 501
政治学特論Ⅱ …… 503
政治過程論特殊講義Ⅰ …… 473
政治過程論特殊講義Ⅱ …… 475
政治思想史特殊講義Ⅰ …… 415
政治思想史特殊講義Ⅱ …… 417
政治哲学特殊講義Ⅰ …… 411
政治哲学特殊講義Ⅱ …… 413
政治理論特殊講義Ⅰ …… 407
政治理論特殊講義Ⅱ …… 409
税法特殊講義Ⅰ …… 39
税法特殊講義Ⅱ …… 45・48
西洋政治史特殊講義Ⅰ …… 429
西洋政治史特殊講義Ⅱ …… 431
専門演習（行政学） …… 549
専門演習（行政法） …… 136
専門演習（憲法） …… 132
専門演習（商法） …… 389
専門演習（政治理論） …… 555
専門演習（税法） …… 140
専門演習（西洋政治史） …… 547
専門演習（知的財産法） …… 395
専門演習（地方自治論） …… 553
専門演習（民事訴訟法） …… 393
専門演習（民法） …… 383

チ
地域研究特殊講義Ⅰ …… 445
地域研究特殊講義Ⅱ …… 447
地域政策特論 …… 521
知的財産実務特論ⅠA（産業財産権Ⅰ） …… 289
知的財産実務特論ⅠB（産業財産権Ⅰ） …… 291
知的財産実務特論ⅡA（産業財産権Ⅱ） …… 293
知的財産実務特論ⅡB（産業財産権Ⅱ） …… 296
知的財産条約特殊講義Ⅰ …… 251
知的財産条約特殊講義Ⅱ …… 253
知的財産政策特論Ⅰ（知的財産政策） …… 299
知的財産政策特論Ⅱ（知財とイノベーション） …… 303
知的財産ビジネス特論Ⅰ（知財英語・国際ビジネスⅠ） … 307
知的財産ビジネス特論Ⅱ（企業ブランド戦略） …… 311
知的財産ビジネス特論Ⅲ（知的財産戦略） …… 319
知的財産ビジネス特論Ⅳ（ＩＣＴ知財） …… 327・330
知的財産ビジネス特論Ⅴ（ＩＣＴ） …… 334
知的財産ビジネス特論Ⅵ（機械・エネルギー） … 338・340・343
地方財政論特論 …… 511
地方自治法特殊講義Ⅰ …… 35
地方自治法特殊講義Ⅱ …… 37
地方自治論特殊講義Ⅰ …… 465
地方自治論特殊講義Ⅱ …… 469
地方自治論特論 …… 507
著作権法特殊講義Ⅰ …… 240
著作権法特殊講義Ⅱ …… 243
ト
独法特殊講義Ⅰ …… 99・164
独法特殊講義Ⅱ …… 101・166
特許・実用新案法特殊講義ⅠA …… 222
特許・実用新案法特殊講義ⅠB …… 225
特許・実用新案法特殊講義ⅡA …… 228
特許・実用新案法特殊講義ⅡB …… 230
ニ
日本政治史特殊講義Ⅰ …… 419・422
日本政治史特殊講義Ⅱ …… 424・427
フ
不正競争防止法特殊講義Ⅰ …… 245
不正競争防止法特殊講義Ⅱ …… 248
仏法特殊講義Ⅰ …… 103・285
仏法特殊講義Ⅱ …… 105・287
ホ
法史学特殊講義Ⅰ …… 90
法史学特殊講義Ⅱ …… 92
法哲学特殊講義Ⅰ …… 86
法哲学特殊講義Ⅱ …… 88
法律学原書研究Ⅰ（英） …… 112・359
法律学原書研究Ⅰ（独） …… 124・371
法律学原書研究Ⅰ（仏） …… 128・375
法律学原書研究Ⅱ（英） …… 118・365
法律学原書研究Ⅱ（独） …… 126・373
法律学原書研究Ⅱ（仏） …… 130・377
ミ
民事訴訟法特殊講義Ⅰ …… 204
民事訴訟法特殊講義Ⅱ …… 206
民法特殊講義Ⅰ …… 168
民法特殊講義Ⅱ …… 178
ロ
労働法特殊講義Ⅰ …… 146・259
労働法特殊講義Ⅱ …… 150・263

法学研究科

公法学専攻

科目名	憲法特殊講義Ⅰ	担当者	池田　実	期間	前期	単位数	2

授業概要	大学院での研究にとって不可欠の前提となる憲法学の基礎知識に遺漏なきを期するとともに、学部レベルの授業では扱われない専門的知見を提供する。		
授業目的・到達目標	憲法学全般についての基礎知識をもとに、憲法に関する諸問題を説明できるようになることを目的とする。憲法をめぐる問題の諸相を説明し、法的な観点から議論できるようになる。 関連するDP・CP公法学専攻1,2,3,4,5,6,8		
履修条件	特になし。		
授業方法	面接授業により授業を行う。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	実施しない。
	平常評価	100%	毎回の授業への取組みと学期末に課するレポートを評価する。

	年	出版社	書名	著者名
教科書	2016年	嵯峨野書院	憲法〔第2版〕	池田実
	備考			
参考書	講義中に適宜指示する。			
オフィスアワー	金曜日12:10-13:00 研究室（4号館5階454号室） ikeda.minoru61@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	学部での研究歴等、本大学院に入学するまでの経緯や、自分の研究関心を教員に説明できるよう、用意しておく。（２時間）
	授業内容	**授業案内・導入**
	事後学習	講義を振り返り、この科目の履修を自分の今後の研究にどのように役立てていけばよいかを考える。（２時間）
2	事前学習	教科書「第1章　憲法総論」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**憲法総論**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）
3	事前学習	教科書「第11章　国会」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**国会をめぐる諸問題（1）**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）

4	事前学習	教科書「第11章　国会」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**国会をめぐる諸問題（2）**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）
5	事前学習	教科書「第12章　内閣」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**内閣をめぐる諸問題（1）**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）
6	事前学習	教科書「第12章　内閣」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**内閣をめぐる諸問題（2）**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）
7	事前学習	教科書「第2章　天皇」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**象徴天皇制をめぐる諸問題**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）
8	事前学習	教科書「第13章　裁判所」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**裁判所をめぐる諸問題（1）**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）
9	事前学習	教科書「第13章　裁判所」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**裁判所をめぐる諸問題（2）**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）
10	事前学習	教科書「第14章　財政」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**財政をめぐる諸問題**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）
11	事前学習	教科書「第15章　地方自治」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**地方自治をめぐる諸問題（1）**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）
12	事前学習	教科書「第15章　地方自治」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**地方自治をめぐる諸問題（2）**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）
13	事前学習	教科書「第3章　戦争の放棄」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**戦争の放棄をめぐる諸問題（1）**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）
14	事前学習	教科書「第3章　戦争の放棄」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**戦争の放棄をめぐる諸問題（2）**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）
15	事前学習	適宜指示する。（２時間）
	授業内容	**総括・補遺（統治機構論全般に関し、法令改正、新制度、最新判例等を講義する）**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）

科目名	憲法特殊講義Ⅰ	担当者	高畑　英一郎	期間	前期	単位数	2

授業概要	比較的最近の憲法判例を検討することを通して憲法の内容をより深く理解することを中心課題とする。
授業目的・到達目標	この講義では、憲法判例の分析を通じて、その内容を確認するとともに、先例との対比やその問題点を検討する。多様な見解とそれに伴う問題点を咀嚼して自分の意見を構築する訓練の場を提供することも講義目的の１つである1つである。 関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻１～６，８
履修条件	履修条件はないが、法的思考に基づいて、客観的論理的な意見を作り出すことを期待している。また、受講者の積極的な発言と議論も期待している。
授業方法	毎回受講者の１人が担当の判例について、事案の紹介、判決理由の詳細な分析、関連する先例との対比、当該判例に対する評論の紹介、私見を発表する。他の受講者はその発表に対して、質問して議論することが求められる。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	発表報告、討論、受講態度を総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			

参 考 書	宍戸常寿ほか「判例プラクティス　憲法〔3版〕」（2022、信山社）
オフィスアワー	月曜18:00～19:00、研究室（９号館９３０３）にて行います。 メールでの相談は（takahata@law.nihon-u.ac.jp）に送信してください。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを読み、前期で検討するテーマの概要を理解するよう努める。（2時間）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	ガイダンスにおいて説明があった内容を理解し、参考文献などを手掛かりに、どのようにまとめるべきかを考えておく。（2時間）
2	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「年金支給額引下げ事件」最判令和5･12･15**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）
3	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「『宮本から君へ』事件」最判令和5･11･17**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）

4	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「性別変更要件違憲判決」最大判令和5･10･25**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）
5	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「臨時国会召集請求事件」最判令和5・9・12**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）
6	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「経産省トイレ事件」最判令和5・7・11**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）
7	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「マイナンバー使用差止請求事件」最判令和5・3・9**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）
8	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「金沢市役所前広場事件」最判令和5・2・21**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）
9	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「在外国民国民審査事件」最大判令和4･5･25**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）
10	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「ツイッター投稿削除請求事件」最判令和4･6･24**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）
11	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「大阪市ヘイトスピーチ条例事件」最判令和4･2･15**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）
12	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「マッサージ指圧師学校設立事件」最判令和4･2･7**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）
13	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「楽天ダイレクト事件」最判令和3・3・18**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）
14	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）））
	授業内容	**「地方議会出席停止事件」最大判令和2・11・25**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）
15	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「那覇孔子廟訴訟」最大判令和3・2・24**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）

科目名	憲法特殊講義Ⅰ	担当者	東　裕	期間	前期	単位数	2

授業概要	日本国憲法の基本問題(総論・統治機構）に関する新旧の学説と判例を整理して理解を深める。「本物の学説には決して流行というものはないのである。批判するにしても『継承』がなければ、憲法『学説』はただの床屋政談のようなものに堕落する」（尾吹善人）との指摘を念頭に置き、授業を進める。
授業目的・到達目標	戦後の憲法学説・判例の展開を正確に把握することで、可能な限り客観的（科学的）な憲法解釈を行える能力を養成することを目的とし、かつ日本国憲法そのものが抱える問題点ないし欠陥についても客観的（科学的）に認識できるようになり、そのことを説得的に説明できることを目標とする。関連するDP・CP公法学専攻1，2，3，4，5，6，8。
履修条件	特になし。
授業方法	指定教科書をもとに、担当者による講義と受講者との対話により授業を進める。但し、受講者の状況に応じて柔軟に対応する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	授業の中での質疑応答などの授業への積極的な参加の度合いおよび理解度により評価する。なお、理解度は期末レポートによって評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	1990年発行	木鐸社	日本憲法一学説と判例一	尾吹善人
	1986年発行	有斐閣	解説　憲法基本判例	尾吹善人
	備考	いずれも30年ほど前（1990年、1986年）に出版された本のため、入手できない場合は法学部図書館の蔵書を利用すること。		

参考書	近年の学説・判例については、適宜最近の憲法概説書や『判例百選』等を参照すること。
オフィスアワー	事前連絡の上、適宜対応する。 メールアドレス：higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の一を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	**「憲法規範の特質」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（2時間）
2	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の二を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	**「憲法典の前文」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（2時間）
3	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の三を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	**「国民主権」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（2時間）

4	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の四を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	**「国民代表」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（2時間）
5	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の五を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	**「象徴天皇制」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（2時間）
6	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の六を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	**「自衛権・自衛措置・自衛戦争」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（2時間）
7	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の七を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	**「憲法改正権の限界について」**
	事後学習	授業内容をまとめること。（2時間）
8	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の八を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	**「唯一の立法機関」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（2時間）
9	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の一二を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	**「参議院の特色と衆議院の優越」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（2時間）
10	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の一三を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	**「議院の国政調査権」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（2時間）
11	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の一四を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	**「内閣の構成と権限」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（2時間）
12	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の一五を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	**「衆議院の解散」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（2時間）
13	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の一六を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	**「裁判官の独立」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（2時間）
14	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の一七を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	**「違憲審査制」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（2時間）
15	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の一八を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	**「統治行為」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（2時間）

科目名	憲法特殊講義 I	担当者	柳瀬　昇	期間	前期	単位数	2

授業概要	日本の憲法学・憲法理論・憲法問題についての外国語（英語）で書かれた研究論文・資料を網羅的に収集・分析するとともに、諸外国における日本の憲法研究の現状について検討する。
授業目的・到達目標	日本国憲法の解釈論等に関する外国語（英語）文献を検索し収集し読解する能力を身に付けるとともに、その内容を理解し批判的に分析することができるようになる。併せて、法律学の文献の収集方法を熟達するようになる。 関連するDP・CP公法学専攻1,2,3,4,5,6,8
履修条件	日本国憲法の解釈論について学部卒業レベルの内容を理解していることと、英語の法律文献を読むことができること（大学の学部卒業レベルでよい）を履修条件とする。
授業方法	教室での講義と図書館での文献検索実習を行う。また、授業時間外にも、文献の収集・分析が求められる。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	講義への参加状況及び学期末レポートを総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
			指定しない	
	備考			

参 考 書	必要に応じて、授業時間中に紹介する。
オフィスアワー	授業期間中の金曜日（12時20分～12時50分）に研究室（本館8階1810号室）で対応する。電子メール（yanase.noboru@nihon-u.ac.jp）で連絡をとることもできる。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	日本国憲法の解釈論についての学部レベルの内容を復習するとともに、自分の研究計画を簡潔に説明できるようにしておく（2時間）。
	授業内容	**この講義の意義と具体的な内容についての解説**
	事後学習	ガイダンスで説明されたこの講義の意義と内容を復習するとともに、自分の研究計画への示唆があれば、その点について考えておく（2時間）。
2	事前学習	法学部図書館（地下1階閉架書庫を含む）でどこにどのような文献があるのかを確認しておくとともに、図書館のウェブサイトで、OPACや電子ジャーナル・データベースの利用方法を確認しておく（2時間）。
	授業内容	**法学部図書館の利用方法についての実習**
	事後学習	この講義の内容と自分の研究計画との関連性について検討し、自分の論文執筆に役立ちそうな文献があるかどうかを、電子ジャーナル・データベースで検索しておく（2時間）。
3	事前学習	地下1階閉架書庫で、自分の担当する紀要の所在を確認しておく（15分）。
	授業内容	**日本全国の大学紀要における日本憲法学に関する外国語文献の網羅的調査（1）**
	事後学習	自分の担当個所について、文献調査をしておく（3時間45分）。

4	事前学習	地下1階閉架書庫で、自分の担当する紀要の所在を確認しておく（15分）。
	授業内容	**日本全国の大学紀要における日本憲法学に関する外国語文献の網羅的調査（2）**
	事後学習	自分の担当個所について、文献調査をしておく（3時間45分）。
5	事前学習	地下1階閉架書庫で、自分の担当する紀要の所在を確認しておく（15分）。
	授業内容	**日本全国の大学紀要における日本憲法学に関する外国語文献の網羅的調査（3）**
	事後学習	自分の担当個所について、文献調査をしておく（3時間45分）。
6	事前学習	地下1階閉架書庫で、自分の担当する紀要の所在を確認しておく（15分）。
	授業内容	**日本全国の大学紀要における日本憲法学に関する外国語文献の網羅的調査（4）**
	事後学習	自分の担当個所について、文献調査をしておく（3時間45分）。
7	事前学習	地下1階閉架書庫で、自分の担当する紀要の所在を確認しておく（15分）。
	授業内容	**日本全国の大学紀要における日本憲法学に関する外国語文献の網羅的調査（5）**
	事後学習	自分の担当個所について、文献調査をしておく（3時間45分）。
8	事前学習	地下1階閉架書庫で、自分の担当する学会誌等の所在を確認しておく（15分）。
	授業内容	**学会誌等における日本憲法学に関する外国語文献の網羅的調査（1）**
	事後学習	自分の担当個所について、文献調査をしておく（3時間45分）。
9	事前学習	地下1階閉架書庫で、自分の担当する学会誌等の所在を確認しておく（15分）。
	授業内容	**学会誌等における日本憲法学に関する外国語文献の網羅的調査（2）**
	事後学習	自分の担当個所について、文献調査をしておく（3時間45分）。
10	事前学習	地下1階閉架書庫で、自分の担当する学会誌等の所在を確認しておく（15分）。
	授業内容	**学会誌等における日本憲法学に関する外国語文献の網羅的調査（3）**
	事後学習	自分の担当個所について、文献調査をしておく（3時間45分）。
11	事前学習	収集した文献の内容を分析し、概要を説明できるようにしておく（3時間45分）。
	授業内容	**憲法総論・人権総論についての文献の分析・検討**
	事後学習	使用した文献の書誌情報等を整理する（15分）。
12	事前学習	収集した文献の内容を分析し、概要を説明できるようにしておく（3時間45分）。
	授業内容	**包括的基本権・精神的自由権（内心の自由）についての文献の分析・検討**
	事後学習	使用した文献の書誌情報等を整理する（15分）。
13	事前学習	収集した文献の内容を分析し、概要を説明できるようにしておく（3時間45分）。
	授業内容	**精神的自由権（表現の自由）・経済的自由権についての文献の分析・検討**
	事後学習	使用した文献の書誌情報等を整理する（15分）。
14	事前学習	収集した文献の内容を分析し、概要を説明できるようにしておく（3時間45分）。
	授業内容	**人身の自由・国務請求権・社会権・参政権についての文献の分析・検討**
	事後学習	使用した文献の書誌情報等を整理する（15分）。
15	事前学習	半年間のこの講義を振り返り、レポートにまとめるための準備をしておく（2時間）。
	授業内容	**総括**
	事後学習	半年間のこの講義での研究成果を学期末レポートにまとめておく（2時間）。

科目名	憲法特殊講義Ⅱ	担当者	池田　実	期間	後期	単位数	2

授業概要	大学院での研究にとって不可欠の前提となる憲法学の基礎知識に遺漏なきを期するとともに、学部レベルの授業では扱われない専門的知見を提供する。
授業目的・到達目標	憲法学全般についての基礎知識をもとに、憲法に関する諸問題を説明できるようになることを目的とする。憲法をめぐる問題の諸相を説明し、法的な観点から議論できるようになる。 関連するDP・CP公法学専攻1,2,3,4,5,6,8
履修条件	特になし。
授業方法	面接授業により授業を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	実施しない。
	平 常 評 価	100%	毎回の授業への取組みと学期末に課するレポートを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年	嵯峨野書院	憲法〔第2版〕	池田実
	備考			

参 考 書	講義中に適宜指示する。
オフィスアワー	金曜日12:10-13:00 研究室（4号館5階454号室） ikeda.minoru61@nihon-u.ac.j

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	学部での研究歴等、本大学院に入学するまでの経緯や、自分の研究関心を教員に説明できるよう、用意しておく。（２時間）
	授業内容	**授業案内・導入**
	事後学習	講義を振り返り、この科目の履修を自分の今後の研究にどのように役立てていけばよいかを考える。（２時間）
2	事前学習	教科書「第1章　憲法総論」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**憲法総論**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）
3	事前学習	教科書「第6章　精神的自由権」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**精神的自由権をめぐる諸問題（1）**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）

4	事前学習	教科書「第6章　精神的自由権」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**精神的自由権をめぐる諸問題（2）**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）
5	事前学習	教科書「第6章　精神的自由権」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**精神的自由権をめぐる諸問題（3）**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）
6	事前学習	教科書「第6章　精神的自由権」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**精神的自由権をめぐる諸問題（4）**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）
7	事前学習	教科書「第7章　経済的自由権」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**経済的自由権をめぐる諸問題（1）**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）
8	事前学習	教科書「第7章　経済的自由権」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**経済的自由権をめぐる諸問題（2）**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）
9	事前学習	教科書「第8章　身体的自由権」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**身体的自由権をめぐる諸問題（1）**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）
10	事前学習	教科書「第8章　身体的自由権」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**身体的自由権をめぐる諸問題（2）**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）
11	事前学習	教科書「第9章　受益権」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**受益権をめぐる諸問題**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）
12	事前学習	教科書「第10章　社会権」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**社会権をめぐる諸問題（1）**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）
13	事前学習	教科書「第10章　社会権」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**社会権をめぐる諸問題（2）**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）
14	事前学習	教科書「第4章　個人の尊重と幸福追求権」を1～2回通読し、自分の基礎知識に遺漏がないかを確認しておく。（２時間）
	授業内容	**新しい人権をめぐる諸問題**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）
15	事前学習	適宜指示する。（２時間）
	授業内容	**総括・補遺（人権全般に関し、法令改正、新制度、最新判例等を講義する）**
	事後学習	講義で得た知見につき、自分でも調べをすすめ、ノートにまとめておく。（２時間）

科目名	憲法特殊講義Ⅱ	担当者	高畑　英一郎	期間	後期	単位数	2

授業概要	最新の憲法判例を検討することを通して憲法の内容をより深く理解することを中心課題とする。
授業目的・到達目標	この講義では、憲法判例の分析を通じて、その内容を確認するとともに、先例との対比やその問題点を検討する。多様な見解とそれに伴う問題点を咀嚼して自分の意見を構築する訓練の場を提供することも講義目的の１つである1つである。 関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻１～６，８
履修条件	履修条件はないが、法的思考に基づいて、客観的論理的な意見を作り出すことを期待している。また、受講者の積極的な発言と議論も期待している。
授業方法	毎回受講者の１人が担当の判例について、事案の紹介、判決理由の詳細な分析、関連する先例との対比、当該判例に対する評論の紹介、私見を発表する。他の受講者はその発表に対して、質問して議論することが求められる。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	発表報告、討論、受講態度を総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			

参 考 書	宍戸常寿ほか「判例プラクティス　憲法〔3版〕」（2022、信山社）
オフィスアワー	月曜18:00～19:00、研究室（９号館９３０３）にて行います。 メールでの相談は（takahata@law.nihon-u.ac.jp）に送信してください。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを読み、前期で検討するテーマの概要を理解するよう努める。（2時間）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	ガイダンスにおいて説明があった内容を理解し、参考文献などを手掛かりに、どのようにまとめるべきかを考えておく。（2時間）
2	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「同性パートナー犯罪被害給付金事件」名古屋高判令和4・8・26**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）
3	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「警備法事件」名古屋高判令和4･11･15**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）

4	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「重国籍規定事件」東京高判令和5・2・21**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）
5	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「被選挙権年齢事件」大阪高裁令和5・5・25**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）
6	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「グローバルダイニング訴訟」東京地判令和4・5・16**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）
7	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「健康増進法事件」東京地判令和4･8･29**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）
8	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「堀越学園事件」東京地判令和4･11･30**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）
9	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「警察庁データベース事件」名古屋地判令和5・2・17**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）
10	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「受刑者選挙権事件」東京地判令和5・7・20**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）
11	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「ゴルフクラブ入会拒否事件」名古屋高判令和5・10・27**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）
12	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「北海道職員扶養手当事件」札幌地判令和5・9・11**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）
13	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「性風俗営業店持続化給付金不支給訴訟」東京高判令和5・10・5**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）
14	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）））
	授業内容	**「琉球民族遺骨返還請求事件」大阪高判令和5・9・22**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）
15	事前学習	課題判決を読み、その内容をまとめ、自分の見解を用意してくる。（2時間）
	授業内容	**「政務活動費返還請求事件」最判令和5・12・12**
	事後学習	報告者の報告資料と自らの「まとめ」とを確認し、さらに講義中の議論を踏まえ、判決についてのさらなる理解に努める。（2時間）

科目名	憲法特殊講義Ⅱ	担当者	東　裕	期間	後期	単位数	2

授業概要	日本国憲法の基本問題(基本的人権）に関する新旧の学説と判例を整理して理解を深める。「本物の学説には決して流行というものはないのである。批判するにしても『継承』がなければ、憲法『学説』はただの床屋政談のようなものに堕落する」（尾吹善人）との指摘を念頭に置き、授業を進める。
授業目的・到達目標	戦後の憲法学説・判例の展開を正確に把握することで、可能な限り客観的（科学的）な憲法解釈を行える能力を養成することを目的とし、かつ日本国憲法そのものが抱える問題点ないし欠陥についても客観的（科学的）に認識できるようになり、そのことを説得的に説明できることを目標とする。関連するDP・CP公法学専攻1，2，3，4，5，6，8。
履修条件	特になし。
授業方法	指定教科書をもとに、担当者による講義と受講者との対話により授業を進める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0％	
	平常評価	100%	授業の中での質疑応答などの授業への積極的な参加の度合いおよび理解度により評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	1990年発行	木鐸社	日本憲法一学説と判例一	尾吹善人
	1986年発行	有斐閣	解説　憲法基本判例	尾吹善人
	備考	いずれも30年以上前に出版（1990年、1986年）された本のため、入手できない場合は法学部図書館の蔵書を利用すること。		

参考書	近年の学説・判例については、適宜最近の憲法概説書や『判例百選』等を参照すること。
オフィスアワー	事前連絡の上、適宜対応する。 メールアドレス：higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の二〇を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**「法人と基本的人権」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（２時間）
2	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の二一を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**「外国人と基本的人権」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（２時間）
3	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の二二を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**「基本的人権の私人間における効力」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（２時間）

4	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の二三を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**「公共の福祉」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（２時間）
5	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の二四を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**「法の下の平等」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（２時間）
6	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の二五を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**「新しい人権」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（２時間）
7	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の二七を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**「信教の自由と政教分離」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（２時間）
8	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の二八を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**「表現の自由」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（２時間）
9	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の二九を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**「取材の自由」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（２時間）
10	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の三六を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**「生命・身体の不可侵」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（２時間）
11	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の三八を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**「私有財産制度と財産権の制限」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（２時間）
12	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の三九を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**「損失補償」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（２時間）
13	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の四一を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**「国家賠償請求権」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（２時間）
14	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の四二を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**「選挙権の性質とその平等」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（２時間）
15	事前学習	教科書『日本憲法一学説と判例一』の四三を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**「公務員と憲法」について**
	事後学習	授業内容をまとめること。（２時間）

科目名	憲法特殊講義Ⅱ	担当者	柳瀬　昇	期間	後期	単位数	2

授業概要	日本の憲法学・憲法理論・憲法問題についての外国語（英語）で書かれた研究論文・資料を網羅的に収集・分析するとともに、諸外国における日本の憲法研究の現状について検討する。
授業目的・到達目標	日本国憲法の解釈論等に関する外国語（英語）文献を検索し収集し読解する能力を身に付けるとともに、その内容を理解し批判的に分析することができるようになる。併せて、法律学の文献の収集方法を熟達するようになる。 関連するDP・CP公法学専攻1,2,3,4,5,6,8
履修条件	日本国憲法の解釈論について学部卒業レベルの内容を理解していることと、英語の法律文献を読むことができること（大学の学部卒業レベルでよい）を履修条件とする。
授業方法	教室での講義と図書館での文献検索実習を行う。また、授業時間外にも、文献の収集・分析が求められる。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	講義への参加状況及び学期末レポートを総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
			指定しない	
	備考			

参考書	必要に応じて、授業時間中に紹介する。
オフィスアワー	授業期間中の金曜日（12時20分～12時50分）に研究室（本館8階1810号室）で対応する。電子メール（yanase.noboru@nihon-u.ac.jp）で連絡をとることもできる。

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	夏季休業時間中の研究活動を踏まえて、自分の研究計画を簡潔に説明できるようにしておく（2時間）。
	授業内容	**この講義の意義と具体的な内容についての解説**
	事後学習	ガイダンスで説明されたこの講義の意義と内容を復習するとともに、自分の研究計画への示唆があれば、その点について考えておく（2時間）。
2	事前学習	3階開架書庫で、自分の担当する法律雑誌の所在を確認しておく（15分）。
	授業内容	**法律雑誌における日本憲法学に関する外国語文献の網羅的調査（1）**
	事後学習	自分の担当個所について、文献調査をしておく（3時間45分）。
3	事前学習	3階開架書庫で、自分の担当する法律雑誌の所在を確認しておく（15分）。
	授業内容	**法律雑誌における日本憲法学に関する外国語文献の網羅的調査（2）**
	事後学習	自分の担当個所について、文献調査をしておく（3時間45分）。

4	事前学習	3階開架書庫で、自分の担当する法律雑誌の所在を確認しておく（15分）。
	授業内容	**法律雑誌における日本憲法学に関する外国語文献の網羅的調査（3）**
	事後学習	自分の担当個所について、文献調査をしておく（3時間45分）。
5	事前学習	3階開架書庫で、自分の担当する法律雑誌の所在を確認しておく（15分）。
	授業内容	**法律雑誌における日本憲法学に関する外国語文献の網羅的調査（4）**
	事後学習	自分の担当個所について、文献調査をしておく（3時間45分）。
6	事前学習	4階開架書庫で、自分の担当する学術書の所在を確認しておく（15分）。
	授業内容	**学術書における日本憲法学に関する外国語文献の網羅的調査（1）**
	事後学習	自分の担当個所について、文献調査をしておく（3時間45分）。
7	事前学習	4階開架書庫で、自分の担当する学術書の所在を確認しておく（15分）。
	授業内容	**学術書における日本憲法学に関する外国語文献の網羅的調査（2）**
	事後学習	自分の担当個所について、文献調査をしておく（3時間45分）。
8	事前学習	4階開架書庫で、自分の担当する学術書の所在を確認しておく（15分）。
	授業内容	**学術書における日本憲法学に関する外国語文献の網羅的調査（3）**
	事後学習	自分の担当個所について、文献調査をしておく（3時間45分）。
9	事前学習	4階開架書庫で、自分の担当する学術書の所在を確認しておく（15分）。
	授業内容	**学術書における日本憲法学に関する外国語文献の網羅的調査（4）**
	事後学習	自分の担当個所について、文献調査をしておく（3時間45分）。
10	事前学習	4階開架書庫で、自分の担当する学術書の所在を確認しておく（15分）。
	授業内容	**学術書における日本憲法学に関する外国語文献の網羅的調査（5）**
	事後学習	自分の担当個所について、文献調査をしておく（3時間45分）。
11	事前学習	収集した文献の内容を分析し、概要を説明できるようにしておく（3時間45分）。
	授業内容	**国会・内閣についての文献の分析・検討**
	事後学習	使用した文献の書誌情報等を整理する（15分）。
12	事前学習	収集した文献の内容を分析し、概要を説明できるようにしておく（3時間45分）。
	授業内容	**裁判所についての文献の分析・検討**
	事後学習	使用した文献の書誌情報等を整理する（15分）。
13	事前学習	収集した文献の内容を分析し、概要を説明できるようにしておく（3時間45分）。
	授業内容	**財政・地方自治についての文献の分析・検討**
	事後学習	使用した文献の書誌情報等を整理する（15分）。
14	事前学習	収集した文献の内容を分析し、概要を説明できるようにしておく（3時間45分）。
	授業内容	**天皇・平和主義・憲法改正についての文献の分析・検討**
	事後学習	使用した文献の書誌情報等を整理する（15分）。
15	事前学習	半年間のこの講義を振り返り、レポートにまとめるための準備をしておく（2時間）。
	授業内容	**総括**
	事後学習	半年間のこの講義での研究成果を学期末レポートにまとめておく（2時間）。

科目名	行政法特殊講義Ⅰ	担当者	鵜澤　剛	期間	前期	単位数	2

授業概要	行政法総論の主要テーマに関する邦語文献を購読する。			
授業目的・到達目標	行政法総論の主要テーマに関する邦語文献の購読を通じて、 ①現在の行政法理論の到達点について説明できるようになる ②現在の行政法理論の抱えている課題について説明できるようになる ③現在の行政法理論の抱えている課題について、自力で考えられるようになる 関連するDP・CP公法学専攻１，３，４，５，６			
履修条件	特になし。			
授業方法	受講生の報告をもとに、適宜、解説や質疑応答を交えて勧めていく。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業内での報告や質疑応答等をもとに総合的に評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特に使用しない。参考文献は適宜指示する。		
参考書	塩野宏『行政法Ⅰ行政法総論〔第6版補訂版〕』（有斐閣、2024年3月下旬予定）、藤田宙靖『新版　行政法総論　上巻』（青林書院、2020年）、宇賀克也『行政法概説Ⅰ行政法総論〔第8版〕』（有斐閣、2023年）など			
オフィスアワー	火曜日昼休み（12：10～13：00）に研究室（本館6階1615）で受け付ける。この時間帯であれば事前連絡は不要。 これ以外も、希望に応じて受け付けます。			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、行政法の教科書や基本判例について大まかに確認しておく。（2時間）
	授業内容	**この講義の概要、目標、進め方等について、受講生と相談しつつ、決定する。**
	事後学習	教科書に目を通して、これから学ぶことを確認する。この講義で取り上げる文献について図書館等で確認する。（2時間）
2	事前学習	課題の文献を読んだ上で、関連する文献や判例等を調査しておく。（2時間）
	授業内容	**行政法の基本原則の一つとしての法律の留保原則に関する文献を購読する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査する。（2時間）
3	事前学習	前回の授業をふまえ、文献や判例等を調査し、自分なりの意見をまとめておく。（2時間）
	授業内容	**前回の授業をふまえ、法律の留保原則の意義について、議論する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査し、自分の意見をさらに発展させる。（2時間）

4	事前学習	課題の文献を読んだ上で、関連する文献や判例等を調査しておく。（2時間）
	授業内容	**行政主体の概念等に関する文献を購読する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査する。（2時間）
5	事前学習	前回の授業をふまえ、文献や判例等を調査し、自分なりの意見をまとめておく。（2時間）
	授業内容	**前回の授業をふまえ、行政主体の概念やその必要性について、議論する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査し、自分の意見をさらに発展させる。（2時間）
6	事前学習	課題の文献を読んだ上で、関連する文献や判例等を調査しておく。（2時間）
	授業内容	**行政行為（行政処分）の効力に関する文献を購読する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査する。（2時間）
7	事前学習	前回の授業をふまえ、文献や判例等を調査し、自分なりの意見をまとめておく。（2時間）
	授業内容	**前回の授業をふまえ、行政行為（行政処分）の効力の作用やその限界について、議論する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査し、自分の意見をさらに発展させる。
8	事前学習	課題の文献を読んだ上で、関連する文献や判例等を調査しておく。（2時間）
	授業内容	**行政裁量に関する文献を購読する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査する。（2時間）
9	事前学習	前回の授業をふまえ、文献や判例等を調査し、自分なりの意見をまとめておく。（2時間）
	授業内容	**前回の授業をふまえ、行政裁量の限界やその司法的統制のあり方について、議論する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査し、自分の意見をさらに発展させる。（2時間）
10	事前学習	課題の文献を読んだ上で、関連する文献や判例等を調査しておく。（2時間）
	授業内容	**行政手続に関する文献を購読する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査する。（2時間）
11	事前学習	前回の授業をふまえ、文献や判例等を調査し、自分なりの意見をまとめておく。（2時間）
	授業内容	**前回の授業をふまえ、行政手続に関する立法的課題や、手続的瑕疵の効果等について、議論する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査し、自分の意見をさらに発展させる。（2時間）
12	事前学習	課題の文献を読んだ上で、関連する文献や判例等を調査しておく。（2時間）
	授業内容	**行政強制に関する文献を購読する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査する。（2時間）
13	事前学習	前回の授業をふまえ、文献や判例等を調査し、自分なりの意見をまとめておく。（2時間）
	授業内容	**前回の授業をふまえ、行政強制に関する解釈上あるいは立法上の課題について、議論する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査し、自分の意見をさらに発展させる。（2時間）
14	事前学習	課題の文献を読んだ上で、関連する文献や判例等を調査しておく。（2時間）
	授業内容	**行政行為以外の行為形式（行政計画、行政立法、行政指導、行政契約など）に関する文献を購読する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査する。（2時間）
15	事前学習	前回の授業をふまえ、文献や判例等を調査し、自分なりの意見をまとめておく。（2時間）
	授業内容	**前回の授業をふまえ、当該テーマに関する立法上あるいは解釈上の課題について、議論する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査し、自分の意見をさらに発展させる。（2時間）

科目名	行政法特殊講義Ⅰ	担当者	小澤　久仁男	期間	前期	単位数	2

授業概要	本講義においては、すでに大学の学部において行政法総論・行政救済法を履修しており、一定程度の行政法の知識を持っていることを前提に、ドイツの行政法のテキストを原文で読むことによって、更なる深い理解を行うことになります。その際、本講義においては、行政法の基本原則と行政作用法を中心に学習を行っていくことになります。
授業目的・到達目標	本講義の進め方としては、担当者による和訳を行ってもらい、それを踏まえた議論という形式をとっていくことになります。これによって、これまで培ってきた行政法の知識を発展させ、更にはドイツにおける議論も吸収することによって、修士論文のテーマ選びに際して、僅かながらも貢献したいと考えています。なお、本シラバスについては、研究者を目指す院生を念頭に執筆を行っていますが、履修者との相談の上、変更場合もあります。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻１，３，４，５，６
履修条件	特にありません。
授業方法	受講生の報告および質疑応答で進めていきます。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	課題の提出状況および受講態度を総合的に評価し、成績を付けていきたいと思います。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2024	C.H.Beck	Allgemeines Verwaltungsrecht Aufl.21.	H.Maurer/C.Waldhoff
	2010	成文堂	独和法律用語辞典（第2版）	ベルンド・ゲッツェ
	備考	上記の洋書を教科書として指定しておりますが、新しい版が出る場合もありますので、授業開始後あるいは履修が確定してから購入するようにしてください。		

参考書	シュミット・アスマン著（太田匡彦ほか訳）『行政法理論の基礎と課題－秩序づけ理念としての行政法総論－』東京大学出版会（2006）
オフィスアワー	メールにて随時受け付けを行うようにいたします。

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	行政作用法について大まかに確認をするようにしてください。（2時間）
	授業内容	**オリエンテーション**
	事後学習	配布された資料などの確認をし、ざっと見るようにしてください。（2時間）
2	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Der Begriff der Verwaltung(行政の概念)**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）
3	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Zur Geschichte der Verwaltung und Verwaltungsrecht（行政と行政法の歴史）①**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）

4	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Zur Geschichte der Verwaltung und Verwaltungsrecht（行政と行政法の歴史）②**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）
5	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Die Rechtsquellen des Verwaltungsrechts（行政法の法源）**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）
6	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Grundbegriffe des Verwaltungsrechts（行政法の基本概念）①**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）
7	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Grundbegriffe des Verwaltungsrechts（行政法の基本概念）②**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）
8	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Rechtsverordnung（法規命令）**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）
9	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Der Verwaltungsakt（行政行為）①**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）
10	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Der Verwaltungsakt（行政行為）②**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）
11	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Der Verwaltungsakt（行政行為）③**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）
12	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Der Verwaltungsvertrag（行政契約）**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）
13	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Die Planung（行政計画）**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）
14	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Der Verwaltungsverfahren（行政手続）**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）
15	事前学習	ここまでに訳した内容をざっともう一度読み直してください。（2時間）
	授業内容	**総括**
	事後学習	再度、分からない箇所などを確認するようにしてください。（2時間）

科目名	行政法特殊講義Ⅰ	担当者	高橋　雅夫	期間	前期	単位数	2

授業概要	行政法学における基礎概念を再確認した後に、判例研究を通して行政活動の法的コントロールのあり方について学修する。
授業目的・到達目標	行政活動において用いられる多様化した行為形式に対する法的コントロールが十全たるものとなりえているのか、問題点はないか等を把握することを目的とする。 各自の研究テーマと関連した行政法上の論点を摘示し、それに対する法的解を導出し、修士論文に反映させることを目標とする。 関連するDP・CP公法学専攻１，３，４，５，６
履修条件	履修に条件は設けない。
授業方法	毎回、前半に講義を行い、後半で判例の検討を行う。判例に対する質疑応答を通して各自の理解を深める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	主に授業内での質疑応答、レポートに基づいて、［到達目標］に関わる能力が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない		

参考書	行政判例百選Ⅰ・Ⅱ［第8版］（有斐閣、2022年）
オフィスアワー	火曜日（12:10～13:00）に本館教員控室。可能な限り次のメールアドレスで事前に予約をとること。 takahashi.masao○nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、学生教員共有フォルダから第1回レジュメを印刷し、あらかじめ読んでおき、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	**年間講義計画･成績評価の方法についての説明と参考文献の紹介等を行い、受講生が授業の準備を行えるようにする。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討を加える。（2時間）
2	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第2回レジュメ及び判例百選Ⅰ9事件を読み、行政法の特質を検討する（2時間）
	授業内容	**行政法の法源、行政法の意義・特質について 行政法とされる法の存在形式とその特質等を考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、行政法の特質について簡潔にまとめる。（2時間）
3	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第3回レジュメ及び判例百選Ⅰ5事件を読み、行政組織とは何か検討する。（2時間）
	授業内容	**行政組織について 行政活動の担い手である行政組織について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、典型的な行政組織について簡潔にまとめる。（2時間）

4	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第4回レジュメ及び判例百選Ⅰ98事件を読み、法律による行政の原理の限界を検討する。（2時間）
	授業内容	**法律による行政の原理について 行政活動をコントロールする原理である「法律による行政の原理」について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、法律による行政の原理の各論点について簡潔にまとめる。（2時間）
5	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第5回レジュメ及び判例百選Ⅰ114事件を読み、事前手続について検討する。（2時間）
	授業内容	**行政手続について 行政活動の手続的コントロールのあり方を考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、行政手続の意義について簡潔にまとめる。（2時間）
6	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第6回レジュメ及び判例百選Ⅰ71事件を読み、行政裁量について検討する。（2時間） 該当する判例を読んでおくこと
	授業内容	**行政行為について 行政裁量のコントロールのあり方について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、行政裁量と司法審査の関係について簡潔にまとめる。（2時間）
7	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第7回レジュメ及び判例百選Ⅰ44事件・52事件を読み、行政立法の役割について検討する。（2時間）
	授業内容	**行政立法について 行政立法の意義と法規命令・行政規則について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、法規命令と行政規則との相違点を把握し、法的コントロールのあり方を簡潔にまとめる。（2時間）
8	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第8回レジュメ及び判例百選Ⅰ53事件を読み、行政計画の役割について検討する。（2時間）
	授業内容	**行政計画について 行政計画の手続的コントロール、司法的コントロールについて考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、計画間調整について簡潔にまとめる。（2時間）
9	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第9回レジュメ及び判例百選Ⅰ95事件を読み、行政指導の役割について検討する。（2時間）
	授業内容	**行政指導について 行政指導の手続的コントロール、司法的コントロールについて考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、行政過程における行政指導の位置づけについて簡潔にまとめる。（2時間）
10	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第10回レジュメ及び判例百選Ⅰ89・90事件を読み、行政契約の役割について検討する。（2時間）
	授業内容	**行政契約について 行政契約の意義、種類について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、行政契約の観点から「私法への逃避」の問題点を簡潔にまとめる。（2時間）
11	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第11回レジュメ及び判例百選Ⅰ105事件・106事件を読み、行政的執行について検討する。（2時間）
	授業内容	**行政上の義務履行確保の手段について 行政上の義務履行確保制度の類型について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、わが国において行政上の義務履行確保の手段の多くが、機能不全に陥っている原因を簡潔にまとめる。（2時間）
12	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第12回レジュメ及び判例百選Ⅰ30事件を読み、行政保有情報の利用について検討する。（2時間）
	授業内容	**行政情報管理について 情報公開制度、個人情報保護、公文書管理、行政調査について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、行政活動と情報との関係について簡潔にまとめる。（2時間）
13	事前学習	該当する判例を読み、行政法における論点を検討する。（2時間）
	授業内容	**受講者の選択した判例報告に基づき、質疑応答を通して、行政法上の問題点を考察する。**
	事後学習	判例を再度読み直し、論点に対する各自の見解を簡潔にまとめる。（2時間）
14	事前学習	該当する判例を読み、行政法における論点を検討する。（2時間）
	授業内容	**受講者の選択した判例報告に基づき、質疑応答を通して、行政法上の問題点を考察する。**
	事後学習	判例を再度読み直し、論点に対する各自の見解を簡潔にまとめる。（2時間）
15	事前学習	該当する判例を読み、行政法における論点を検討する。（2時間）
	授業内容	**受講者の選択した判例に基づき、質疑応答を通して、行政法上の問題点を考察する。**
	事後学習	判例を再度読み直し、論点に対する各自の見解を簡潔にまとめる。（2時間）

科目名	行政法特殊講義Ⅰ	担当者	西原　雄二	期間	前期	単位数	2

授業概要	本授業では、行政法に関する様々な判例研究を通して、行政活動をいかに統制してゆくのかについて考察する。
授業目的・到達目標	本授業では、行政法の基本概念・事項を習得することを目的とする。 各自の研究テーマと関連した行政法上の論点を十分に理解し、新たな知見を生み出すことができるようになることを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻１，３，４，５，６
履修条件	特になし。
授業方法	講義形式で行うのを原則とするが、適宜、質疑応答や個人発表等を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業内での質疑応答やレポート等に基づいて総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	使用しない。	使用しない。	使用しない。	使用しない。
	備考			

参 考 書	行政判例百選Ⅰ・Ⅱ［第8版］（有斐閣、2022年）
オフィスアワー	水曜日12時10分に授業講堂にて質問を受け付ける。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、行政法の教科書や文献等を事前にざっと目を通しておくこと。（2時間）
	授業内容	**ガイダンス** **講義計画、成績評価の方法、参考文献紹介など**
	事後学習	教科書や文献等をざっと目を通して、これから学ぶことを理解してみること。（2時間）
2	事前学習	当該箇所について事前に文献等で調べておくこと。（2時間）
	授業内容	**行政法の意義や特質について考える。**
	事後学習	授業で行った内容をさらに調べて、行政法の意義や特質について自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
3	事前学習	当該箇所について事前に文献等で調べておくこと。（2時間）
	授業内容	**行政法の法源の種類や問題点について考える。**
	事後学習	授業で行った内容をさらに調べて、行政法の法源について自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）

4	事前学習	当該箇所について事前に文献等で調べておくこと。（2時間）
	授業内容	**「法律による行政の原理」の争いや問題点について考える。**
	事後学習	授業で行った内容をさらに調べて、「法律による行政の原理」について自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
5	事前学習	当該箇所について事前に文献等で調べておくこと。（2時間）
	授業内容	**行政活動の担い手である行政組織について考える。**
	事後学習	授業で行った内容をさらに調べて、行政組織について自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
6	事前学習	当該箇所について事前に文献等で調べておくこと。（2時間）
	授業内容	**行政活動に対する手続的統制のあり方を考える。**
	事後学習	授業で行った内容をさらに調べて、行政の手続的統制について自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
7	事前学習	当該箇所について事前に文献等で調べておくこと。（2時間）
	授業内容	**行政裁量に対する統制のあり方について考える。**
	事後学習	授業で行った内容をさらに調べて、行政裁量について自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
8	事前学習	当該箇所について事前に文献等で調べておくこと。（2時間）
	授業内容	**行政立法の種類や問題点について考える。**
	事後学習	授業で行った内容をさらに調べて、行政立法について自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
9	事前学習	当該箇所について事前に文献等で調べておくこと。（2時間）
	授業内容	**行政計画に対する手続的・司法的統制について考える。**
	事後学習	授業で行った内容をさらに調べて、行政計画について自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
10	事前学習	当該箇所について事前に文献等で調べておくこと。（2時間）
	授業内容	**行政指導に対する手続的・司法的統制について考える。**
	事後学習	授業で行った内容をさらに調べて、行政指導について自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
11	事前学習	当該箇所について事前に文献等で調べておくこと。（2時間）
	授業内容	**行政契約の意義や種類について考える。**
	事後学習	授業で行った内容をさらに調べて、行政契約について自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
12	事前学習	当該箇所について事前に文献等で調べておくこと。（2時間）
	授業内容	**行政情報管理（情報公開、個人情報保護、公文書管理）の諸問題について考える。**
	事後学習	授業で行った内容をさらに調べて、行政情報管理について自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
13	事前学習	該当する判例や文献を事前に読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	**受講者の選択した判例を詳細に研究する。**
	事後学習	当該判例と再度読み直しておくこと。（2時間）
14	事前学習	該当する判例や文献を事前に読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	**受講者の選択した判例を詳細に研究する。**
	事後学習	当該判例と再度読み直しておくこと。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業内容を確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	**前期のまとめ**
	事後学習	テキストや判例等と再度読み直し、自分の意見をまとめること。（2時間）

科目名	行政法特殊講義Ⅱ	担当者	鵜澤　剛	期間	後期	単位数	2

授業概要	行政救済法の主要テーマに関する邦語文献を購読する。			
授業目的・到達目標	行政救済法の主要テーマに関する邦語文献の購読を通じて、 ①現在の行政救済法の到達点について説明できるようになる ②現在の行政救済法の抱えている課題について説明できるようになる ③現在の行政救済法の抱えている課題について、自力で考えられるようになる 関連するDP・CP公法学専攻３，４，５，６			
履修条件	特になし。			
授業方法	受講生の報告をもとに、適宜、解説や質疑応答を交えて勧めていく。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業内での報告や質疑応答等をもとに総合的に評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特に使用しない。参考文献は適宜指示する。		
参考書	塩野宏『行政法Ⅱ行政救済法〔第6版〕』（有斐閣、2019年）、藤田宙靖『新版　行政法総論　下巻』（青林書院、2020年）、宇賀克也『行政法概説Ⅱ行政救済法〔第7版〕』（有斐閣、2021年）など			
オフィスアワー	火曜日昼休み（12：10～13：00）に研究室（本館6階1615）で受け付ける。この時間帯であれば事前連絡は不要。 これ以外も、希望に応じて受け付けます。			

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、行政法の教科書や基本判例について大まかに確認しておく。（2時間）
	授業内容	**この講義の概要、目標、進め方等について、受講生と相談しつつ、決定する。**
	事後学習	教科書に目を通して、これから学ぶことを確認する。この講義で取り上げる文献について図書館等で確認する。（2時間）
2	事前学習	課題の文献を読んだ上で、関連する文献や判例等を調査しておく。（2時間）
	授業内容	**抗告訴訟の対象性（処分性）に関する文献を購読する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査する。（2時間）
3	事前学習	前回の授業をふまえ、文献や判例等を調査し、自分なりの意見をまとめておく。（2時間）
	授業内容	**前回の授業をふまえ、処分性要件の意義や課題等について議論する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査し、自分の意見をさらに発展させる。（2時間）

4	事前学習	課題の文献を読んだ上で、関連する文献や判例等を調査しておく。（2時間）
	授業内容	**原告適格要件に関する文献を購読する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査する。（2時間）
5	事前学習	前回の授業をふまえ、文献や判例等を調査し、自分なりの意見をまとめておく。（2時間）
	授業内容	**前回の授業をふまえ、原告適格要件の意義や課題について議論する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査し、自分の意見をさらに発展させる。（2時間）
6	事前学習	課題の文献を読んだ上で、関連する文献や判例等を調査しておく。（2時間）
	授業内容	**取消訴訟の審理のあり方に関する文献を購読する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査する。（2時間）
7	事前学習	前回の授業をふまえ、文献や判例等を調査し、自分なりの意見をまとめておく。（2時間）
	授業内容	**前回の授業をふまえ、取消訴訟の審理に関する諸問題について議論する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査し、自分の意見をさらに発展させる。
8	事前学習	課題の文献を読んだ上で、関連する文献や判例等を調査しておく。（2時間）
	授業内容	**取消判決の効力に関する文献を購読する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査する。（2時間）
9	事前学習	前回の授業をふまえ、文献や判例等を調査し、自分なりの意見をまとめておく。（2時間）
	授業内容	**前回の授業をふまえ、取消判決の効力論に関する諸問題について議論する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査し、自分の意見をさらに発展させる。（2時間）
10	事前学習	課題の文献を読んだ上で、関連する文献や判例等を調査しておく。（2時間）
	授業内容	**行政事件訴訟の類型に関する文献を購読する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査する。（2時間）
11	事前学習	前回の授業をふまえ、文献や判例等を調査し、自分なりの意見をまとめておく。（2時間）
	授業内容	**前回の授業をふまえ、訴訟類型に関する諸問題について議論する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査し、自分の意見をさらに発展させる。（2時間）
12	事前学習	課題の文献を読んだ上で、関連する文献や判例等を調査しておく。（2時間）
	授業内容	**国家賠償法1条1項の責任に関する文献を購読する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査する。（2時間）
13	事前学習	前回の授業をふまえ、文献や判例等を調査し、自分なりの意見をまとめておく。（2時間）
	授業内容	**前回の授業をふまえ、国家賠償法1条1項の責任に関する解釈上の問題について議論する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査し、自分の意見をさらに発展させる。（2時間）
14	事前学習	課題の文献を読んだ上で、関連する文献や判例等を調査しておく。（2時間）
	授業内容	**損失補償に関する文献を購読する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査する。（2時間）
15	事前学習	前回の授業をふまえ、文献や判例等を調査し、自分なりの意見をまとめておく。（2時間）
	授業内容	**前回の授業をふまえ、損失補償に関する立法上あるいは解釈上の課題について議論する。**
	事後学習	授業内容をふまえ、さらに文献や判例等を調査し、自分の意見をさらに発展させる。（2時間）

科目名	行政法特殊講義Ⅱ	担当者	小澤　久仁男	期間	後期	単位数	2

授業概要	本講義においては、すでに大学の学部において行政法総論・行政救済法および行政法特殊講義Ⅰを履修しており、一定程度の行政法の知識およびドイツ語能力を持っていることを前提に、ドイツの行政法のテキストを原文で読むことによって、更なる深い理解を得たいと考えています。その際、本講義においては、行政救済法を中心に学習を行っていくことになります。
授業目的・到達目標	本講義の進め方としては、担当者による和訳を行ってもらい、それを踏まえた議論という形式をとっていくことになります。これによって、これまで培ってきた行政法の知識を発展させ、更にはドイツにおける議論も吸収することによって、修士論文のテーマ選びに際して、僅かながらも貢献したいと考えています。なお、本シラバスについては、研究者を目指す院生を念頭に執筆を行っていますが、履修者との相談の上、変更場合もあります。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻３，４，５，６
履修条件	特にありません。
授業方法	受講生の報告および質疑応答で進めていきます。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	課題の提出状況および受講態度を総合的に評価し、成績を付けていきたいと思います。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2024	C.H.Beck	Allgemeines Verwaltungsrecht Aufl.21.	H.Maurer/C.Waldhoff
	2010	成文堂	独和法律用語辞典（第2版）	ベルンド・ゲッツェ
	備考	上記の洋書を教科書として指定しておりますが、新しい版が出る場合もありますので、授業開始後あるいは履修が確定してから購入するようにしてください。		

参考書	塩野宏『行政法Ⅱ（第6版）』有斐閣(2019)などが参考になります。
オフィスアワー	メールにて随時受け付けをするようにいたします。

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	行政救済法について大まかに確認をするようにしてください。（2時間）
	授業内容	**オリエンテーション**
	事後学習	配布された資料などの確認をし、ざっと見るようにしてください。（2時間）
2	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Begriff und Bedeutung des Verwaltungsprozessrecht(行政訴訟法の概念と意義)**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）
3	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Zur Geschichte der Verwaltungsgerichtsbarkeit（行政裁判権の歴史）①**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）

4	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Zur Geschichte der Verwaltungsgerichtsbarkeit（行政裁判権の歴史）②**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）
5	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Zur Geschichte der Verwaltungsgerichtsbarkeit（行政裁判権の歴史）③**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）
6	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Aufbau der Verwaltungsgerichtsbarkeit（行政裁判権の構成）**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）
7	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Die Anfechtungsklage（取消訴訟）①**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）
8	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Die Anfechtungsklage（取消訴訟）②**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）
9	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Die Anfechtungsklage（取消訴訟）③**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）
10	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Die Anfechtungsklage（取消訴訟）④**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）
11	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Die Verpflichtungsklage（義務付け訴訟）**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）
12	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Die Unterlassungsklage（不作為訴訟）**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）
13	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Die Feststellungsklage（確認訴訟）**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）
14	事前学習	担当箇所の訳語を作成するようにしてください。（2時間）
	授業内容	**Die Normenkontrolle（規範統制）**
	事後学習	文法および訳語について確認をするとともに、日本の議論との比較も行うようにしてください。（2時間）
15	事前学習	ここまでに訳した内容をざっともう一度読み直してください。（2時間）
	授業内容	**総括**
	事後学習	再度、分からない箇所などを確認するようにしてください。（2時間）

科目名	行政法特殊講義Ⅱ	担当者	高橋　雅夫	期間	後期	単位数	2

授業概要	行政救済法に関連した判例の研究を通して、司法的コントロールの概要について学修する。
授業目的・到達目標	行政救済法の基本概念を習得し、行政活動の司法的コントロールのあり方を理解することを目的とする。 各自の研究テーマと関連した行政救済法上の論点を摘示し、それに対する法的解を導出し、修士論文に反映させることを目標とする。 関連するDP・CP公法学専攻３，４，５，６
履修条件	履修に条件は設けない。
授業方法	毎回、前半に講義を行い、後半で判例の検討を行う。判例に対する質疑応答を通して各自の理解を深める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	主に授業内での質疑応答、レポートに基づいて、［到達目標］に関わる能力が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	使用しない			
	備考	使用しない		

参 考 書	行政判例百選Ⅰ・Ⅱ［第8版］（有斐閣、2022年）
オフィスアワー	火曜日（12:10～13:00）に本館教員控室。可能な限り次のメールアドレスで事前に予約をとること。 takahashi.masao○nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを概観するとともに、学生教員共有フォルダから第1回レジュメを印刷し、あらかじめ読んでおき、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	**年間講義計画･成績評価の方法についての説明と参考文献の紹介等を行い、受講生が授業の準備を行えるようにする。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討を加える。（2時間）
2	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第2回レジュメ及び行政不服審査法を読み、行政不服審査法の特徴を検討する。（2時間）
	授業内容	**行政不服申立ての概要について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、行政が審判に当たる行政不服申立ての概要を簡潔にまとめる。（2時間）
3	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第3回レジュメ及び判例百選Ⅱ128事件を読み、不服申立適格等の不服申立ての要件を検討する。（2時間）
	授業内容	**行政不服申立ての諸要件について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、主要な不服申立ての要件を簡潔にまとめる。（2時間）

4	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第4回レジュメ及び行政事件訴訟法を読み、訴訟類型について検討する。（2時間）
	授業内容	**取消訴訟の訴訟類型について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、行政事件訴訟法中の主要な訴訟類型について簡潔にまとめる。（2時間）
5	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第5回レジュメ及び判例百選Ⅱ147事件・150事件を読み、処分性、原告適格について検討する。（2時間）
	授業内容	**原告適格等の取消訴訟の訴訟要件について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、処分性、原告適格以外の訴訟要件について簡潔にまとめる。（2時間）
6	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第6回レジュメ及び判例百選Ⅱ173事件を読み、無効等確認訴訟の役割を検討する。（2時間）
	授業内容	**無効等確認訴訟について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、取消訴訟と無効等確認訴訟との相違点について簡潔にまとめる。（2時間）
7	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第7回レジュメ及び判例百選Ⅱ199事件を読み、義務付け訴訟の役割を検討する。（2時間）
	授業内容	**義務付け訴訟の訴訟要件、本案勝訴要件について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、取消訴訟と義務付け訴訟との相違点について簡潔にまとめる。（2時間）
8	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第8回レジュメ及び判例百選Ⅱ200事件を読み、差止訴訟の役割を検討する。（2時間）
	授業内容	**差止訴訟の訴訟要件、本案勝訴要件について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、取消訴訟と差止訴訟との相違点について簡潔にまとめる。（2時間）
9	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第9回レジュメ及び判例百選Ⅱ202事件を読み、当事者訴訟の役割を検討する（2時間）
	授業内容	**当事者訴訟について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、行政事件訴訟における当事者訴訟の位置づけを簡潔にまとめる。（2時間）
10	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第10回レジュメ及び判例百選Ⅱ209事件を読み、公権力の行使概念を検討する。（2時間）
	授業内容	**国家賠償法1条の訴訟要件について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、取消訴訟と国家賠償請求訴訟における公権力の行使概念の相違点を簡潔にまとめる。（2時間）
11	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第11回レジュメ及び判例百選Ⅱ230事件、232事件を読み、国家賠償法における公の営造物について検討する。（2時間）
	授業内容	**国家賠償法2条の訴訟要件について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、自然公物と人工公物における、請求認容の可能性の相違について簡潔にまとめる。（2時間）
12	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第12回レジュメ及び判例百選Ⅱ242事件を読み、損失補償の特徴を検討する。（2時間）
	授業内容	**損失補償（公用収用、公用制限）について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、国家賠償と損失補償との相違点について簡潔にまとめる。（2時間）
13	事前学習	該当する判例を読み、行政法における論点を検討する。（2時間）
	授業内容	**受講者の選択した判例報告に基づき、質疑応答を通して、行政法上の問題点を考察する。**
	事後学習	判例を再度読み直し、論点に対する各自の見解を簡潔にまとめる。（2時間）
14	事前学習	該当する判例を読み、行政法における論点を検討する。（2時間）
	授業内容	**受講者の選択した判例報告に基づき、質疑応答を通して、行政法上の問題点を考察する。**
	事後学習	判例を再度読み直し、論点に対する各自の見解を簡潔にまとめる。（2時間）
15	事前学習	該当する判例を読み、行政法における論点を検討する。（2時間）
	授業内容	**受講者の選択した判例報告に基づき、質疑応答を通して、行政法上の問題点を考察する。**
	事後学習	判例を再度読み直し、論点に対する各自の見解を簡潔にまとめる。（2時間）

科目名	行政法特殊講義Ⅱ	担当者	西原　雄二	期間	後期	単位数	2

授業概要	本授業では、行政法に関する様々な判例研究を通して、行政活動をいかに統制してゆくのかについて考察する。 行政救済を中心に研究するが、その過程で行政法総論の範囲にも考察を広げる。
授業目的・到達目標	本授業では、行政救済に関する基本概念や考え方を習得することを目的とする。 各自の研究テーマと関連した行政救済法上の論点を十分に理解し、新たな知見を生み出すことができるようになることを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻３，４，５，６
履修条件	特になし。
授業方法	講義形式で行うのを原則とするが、適宜、質疑応答や個人発表等を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業内での質疑応答やレポート等に基づいて総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	使用しない。	使用しない。	使用しない。	使用しない。
	備考			

参 考 書	行政判例百選Ⅰ・Ⅱ［第8版］（有斐閣、2022年）
オフィスアワー	水曜日12時10分に授業講堂にて質問を受け付ける。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、行政法の教科書や文献等を事前にざっと目を通しておくこと。（2時間）
	授業内容	**ガイダンス** **講義計画、成績評価の方法、参考文献紹介など**
	事後学習	教科書や文献等をざっと目を通して、これから学ぶことを理解してみること。（2時間）
2	事前学習	当該箇所について事前に文献等で調べておくこと。（2時間）
	授業内容	**行政救済法の意義や特質について考える。**
	事後学習	授業で行った内容をさらに調べて、行政救済法の意義や特質について自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
3	事前学習	当該箇所について事前に文献等で調べておくこと。（2時間）
	授業内容	**行政不服申立ての意義や特質等について考える。**
	事後学習	授業で行った内容をさらに調べて、行政不服申立てについて自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）

4	事前学習	当該箇所について事前に文献等で調べておくこと。（2時間）
	授業内容	**行政不服申立ての要件について考える。**
	事後学習	授業で行った内容をさらに調べて、行政不服申立ての要件について自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
5	事前学習	当該箇所について事前に文献等で調べておくこと。（2時間）
	授業内容	**行政事件訴訟の意義や種類について考える。**
	事後学習	授業で行った内容をさらに調べて、行政事件訴訟について自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
6	事前学習	当該箇所について事前に文献等で調べておくこと。（2時間）
	授業内容	**取消訴訟における訴訟要件について考える。**
	事後学習	授業で行った内容をさらに調べて、取消訴訟について自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
7	事前学習	当該箇所について事前に文献等で調べておくこと。（2時間）
	授業内容	**無効等確認訴訟について考える。**
	事後学習	授業で行った内容をさらに調べて、無効等確認訴訟について自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
8	事前学習	当該箇所について事前に文献等で調べておくこと。（2時間）
	授業内容	**義務付け訴訟について考える。**
	事後学習	授業で行った内容をさらに調べて、義務付け訴訟について自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
9	事前学習	当該箇所について事前に文献等で調べておくこと。（2時間）
	授業内容	**差止訴訟について考える。**
	事後学習	授業で行った内容をさらに調べて、差止訴訟について自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
10	事前学習	当該箇所について事前に文献等で調べておくこと。（2時間）
	授業内容	**当事者訴訟について考える。**
	事後学習	授業で行った内容をさらに調べて、当事者訴訟について自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
11	事前学習	当該箇所について事前に文献等で調べておくこと。（2時間）
	授業内容	**国家賠償について考える。**
	事後学習	授業で行った内容をさらに調べて、国家賠償について自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
12	事前学習	当該箇所について事前に文献等で調べておくこと。（2時間）
	授業内容	**損失補償について考える。**
	事後学習	授業で行った内容をさらに調べて、損失補償について自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
13	事前学習	該当する判例や文献を事前に読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	**受講者の選択した判例を詳細に研究する。**
	事後学習	当該判例と再度読み直しておくこと。（2時間）
14	事前学習	該当する判例や文献を事前に読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	**受講者の選択した判例を詳細に研究する。**
	事後学習	当該判例と再度読み直しておくこと。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業内容を確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	**後期のまとめ**
	事後学習	判例や文献等と再度読み直し、自分の考えをノートにまとめること。（2時間）

科目名	地方自治法特殊講義 I	担当者	高橋　雅夫	期間	前期	単位数	2

授業概要	地方自治法における基礎概念を再確認した後に、判例研究を通して地方公共団体等の活動に対する法的コントロールのあり方について学修する。
授業目的・到達目標	地方公共団体等の活動において用いられる多様化した行為形式に対する法的コントロールが十全たるものとなりえているのか、問題点はないか等を把握することを目的とする。 各自の研究テーマと関連した地方自治法上の論点を摘示し、それに対する法的解を導出し、修士論文に反映させることを目標とする。 関連するDP・CP公法学専攻１，３，５，６
履修条件	履修に条件は設けない。
授業方法	毎回、前半に講義を行い、後半で判例の検討を行う。判例に対する質疑応答を通して各自の理解を深める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	主に授業内での質疑応答、レポートに基づいて、［到達目標］に関わる能力が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない		

参 考 書	地方自治判例百選［第5版］（有斐閣、2023年）
オフィスアワー	火曜日（12:10～13:00）に本館教員控室。可能な限り次のメールアドレスで事前に予約をとること。 takahashi.masao○nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、学生教員共有フォルダから第1回レジュメを印刷し、あらかじめ読んでおき、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	**年間講義計画･成績評価の方法についての説明と参考文献の紹介等を行い、受講生が授業の準備を行えるようにする。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討を加える。（2時間）
2	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第2回レジュメ及び判例百選1事件を読み、地方公共団体の意義を検討する（2時間）
	授業内容	**地方公共団体の意義・特質について 憲法上の地方公共団体の意義を考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、地方公共団体の意義について簡潔にまとめる。（2時間）
3	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第3回レジュメ及び判例百選6事件を読み、自治会・町内会とは何か検討する。（2時間）
	授業内容	**自治会・町内会について 公私協働の主体である自治会・町内会について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、自治会・町内会の役割、位置づけについて簡潔にまとめる。（2時間）

4	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第4回レジュメ及び判例百選10事件・11事件を読み、住民の意義を検討する。（2時間）
	授業内容	**住民について** **地方公共団体の主体である住民について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、住民の意義について簡潔にまとめる。（2時間）
5	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第5回レジュメ及び判例百選15事件を読み、住民基本台帳制度について検討する。（2時間）
	授業内容	**住民基本台帳制度について** **住民の居住関係を公証する住民基本台帳のあり方を考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、住民票作成義務について簡潔にまとめる。（2時間）
6	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第6回レジュメ及び判例百選16事件を読み、地方公共団体における住民の平等取扱いについて検討する。（2時間）
	授業内容	**条例の制定行為について** **条例の制定行為における平等原則のあり方について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、住民の平等取扱いについて簡潔にまとめる。（2時間）
7	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第7回レジュメ及び判例百選17事件を読み、情報公開制度の役割について検討する。（2時間）
	授業内容	**情報公開制度について** **情報公開制度の意義について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、地方公共団体の保有する情報に対する法的コントロールのあり方を簡潔にまとめる。（2時間）
8	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第8回レジュメ及び判例百選19事件・20事件・21事件を読み、個人情報保護の役割について検討する。（2時間）
	授業内容	**個人情報保護について** **個人情報の手続的コントロール、司法的コントロールについて考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、個人情報保護のあり方について簡潔にまとめる。（2時間）
9	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第9回レジュメ及び判例百選22事件を読み、解職請求制度の役割について検討する。（2時間）
	授業内容	**解職請求制度について** **解職請求制度の手続及び司法的コントロールについて考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、解職請求制度の位置づけについて簡潔にまとめる。（2時間）
10	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第10回レジュメ及び判例百選23事件を読み、条例制定改廃請求権の役割について検討する。（2時間）
	授業内容	**条例制定改廃請求権について** **条例制定改廃請求権の意義及び手続について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、条例制定改廃請求権の問題点を簡潔にまとめる。（2時間）
11	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第11回レジュメ及び判例百選25事件を読み、住民投票条例について検討する。（2時間）
	授業内容	**住民投票について** **住民投票条例の類型について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、住民投票条例のあり方について簡潔にまとめる。（2時間）
12	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第12回レジュメ及び判例百選27事件・28事件・30事件を読み、条例のあり方について検討する。（2時間）
	授業内容	**地方公共団体の条例について** **地方公共団体の制定する条例のあり方及び法律との関係について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、条例の可能性について簡潔にまとめる。（2時間）
13	事前学習	該当する判例を読み、地方自治法における論点を検討する。（2時間）
	授業内容	**受講者の選択した判例報告に基づき、質疑応答を通して、地方自治法上の問題点を考察する。**
	事後学習	判例を再度読み直し、論点に対する各自の見解を簡潔にまとめる。（2時間）
14	事前学習	該当する判例を読み、地方自治法における論点を検討する。（2時間）
	授業内容	**受講者の選択した判例報告に基づき、質疑応答を通して、地方自治法上の問題点を考察する。**
	事後学習	判例を再度読み直し、論点に対する各自の見解を簡潔にまとめる。（2時間）
15	事前学習	該当する判例を読み、地方自治法における論点を検討する。（2時間）
	授業内容	**受講者の選択した判例に基づき、質疑応答を通して、地方自治法上の問題点を考察する。**
	事後学習	判例を再度読み直し、論点に対する各自の見解を簡潔にまとめる。（2時間）

科目名	地方自治法特殊講義Ⅱ	担当者	高橋　雅夫	期間	後期	単位数	2

授業概要	地方自治法における基礎概念を再確認した後に、判例研究を通して地方公共団体等の活動に対する法的コントロールのあり方について学修する。
授業目的・到達目標	地方公共団体等の活動において用いられる多様化した行為形式に対する法的コントロールが十全たるものとなりえているのか、問題点はないか等を把握することを目的とする。 各自の研究テーマと関連した地方自治法上の論点を摘示し、それに対する法的解を導出し、修士論文に反映させることを目標とする。 関連するDP・CP公法学専攻３，５，６
履修条件	履修に条件は設けない。
授業方法	毎回、前半に講義を行い、後半で判例の検討を行う。判例に対する質疑応答を通して各自の理解を深める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	主に授業内での質疑応答、レポートに基づいて、［到達目標］に関わる能力が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない		

参考書	地方自治判例百選［第5版］（有斐閣、2023年）
オフィスアワー	火曜日（12:10～13:00）に本館教員控室。可能な限り次のメールアドレスで事前に予約をとること。 takahashi.masao○nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、学生教員共有フォルダから第1回レジュメを印刷し、あらかじめ読んでおき、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	**年間講義計画･成績評価の方法についての説明と参考文献の紹介等を行い、受講生が授業の準備を行えるようにする。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討を加える。（2時間）
2	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第2回レジュメ及び判例百選39事件・40事件を読み、地方公共団体の行う行政指導の意義を検討する（2時間）
	授業内容	**地方公共団体の行う行政指導について 行政指導の手続的コントロール・司法的コントロールについて考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、地方公共団体の行う行政指導のコントロールのあり方について簡潔にまとめる。（2時間）
3	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第3回レジュメ及び判例百選42事件・43事件を読み、地方公共団体の締結する行政契約について検討する。（2時間）
	授業内容	**公害防止協定の法的拘束力について 公害防止協定を通して地方公共団体の締結する行政契約について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、行政契約のコントロールのあり方について簡潔にまとめる。（2時間）

4	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第4回レジュメ及び判例百選45事件・46事件を読み、地方公共団体の行う私人に対する義務履行確保の手段を検討する。（2時間）
	授業内容	**住民について** **地方公共団体の主体である住民について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、住民の意義について簡潔にまとめる。（2時間）
5	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第5回レジュメ及び判例百選51事件・52事件を読み、競争入札について検討する。（2時間）
	授業内容	**競争入札について** **一般競争入札・指名競争入札・随意契約について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、地方公共団体の締結する契約のあり方について簡潔にまとめる。（2時間）
6	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第6回レジュメ及び判例百選55事件～59事件を読み、地方公共団体の公物管理について検討する。（2時間）
	授業内容	**公物管理について** **地方公共団体の公物管理のあり方について海岸、道路、公の施設を題材に考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、公物管理のあり方について簡潔にまとめる。（2時間）
7	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第7回レジュメ及び判例百選63事件・64事件を読み、第三セクターの役割について検討する。（2時間）
	授業内容	**第三セクターについて** **第三セクターの果たす役割について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、第三セクターに対する法的コントロールのあり方を簡潔にまとめる。（2時間）
8	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第8回レジュメ及び判例百選65事件～68事件を読み、民営化の意義について検討する。（2時間）
	授業内容	**行政事務の民間委託・民営化について** **行政事務の民営化等の司法的コントロールについて考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、行政事務の民間委託・民営化のあり方について簡潔にまとめる。（2時間）
9	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第9回レジュメ及び判例百選69事件～74事件を読み、地方議会の役割について検討する。（2時間）
	授業内容	**地方議会について** **地方議会及び議員が地方公共団体において果たす役割について考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、地方議会の位置づけについて簡潔にまとめる。（2時間）
10	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第10回レジュメ及び判例百選75事件～77事件を読み、長の役割について検討する。（2時間）
	授業内容	**長の役割について** **長の職務及びその活動のコントロールについて考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、長が地方公共団体において果たす役割を簡潔にまとめる。（2時間）
11	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第11回レジュメ及び判例百選85事件～87事件を読み、地方公共団体における補助金・寄付について検討する。（2時間）
	授業内容	**補助金・寄付について** **地方公共団体における補助金・寄付の法的コントロールについて考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、補助金・寄付のあり方について簡潔にまとめる。（2時間）
12	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第12回レジュメ及び判例百選88事件～94事件を読み、住民監査請求のあり方について検討する。（2時間）
	授業内容	**住民監査請求について** **地方公共団体の活動に対する住民監査請求によるコントロールについて考察する。**
	事後学習	レジュメを再度読み直し、住民監査請求の可能性について簡潔にまとめる。（2時間）
13	事前学習	該当する判例を読み、地方自治法における論点を検討する。（2時間）
	授業内容	**受講者の選択した判例報告に基づき、質疑応答を通して、地方自治法上の問題点を考察する。**
	事後学習	判例を再度読み直し、論点に対する各自の見解を簡潔にまとめる。（2時間）
14	事前学習	該当する判例を読み、地方自治法における論点を検討する。（2時間）
	授業内容	**受講者の選択した判例報告に基づき、質疑応答を通して、地方自治法上の問題点を考察する。**
	事後学習	判例を再度読み直し、論点に対する各自の見解を簡潔にまとめる。（2時間）
15	事前学習	該当する判例を読み、地方自治法における論点を検討する。（2時間）
	授業内容	**受講者の選択した判例に基づき、質疑応答を通して、地方自治法上の問題点を考察する。**
	事後学習	判例を再度読み直し、論点に対する各自の見解を簡潔にまとめる。（2時間）

科目名	税法特殊講義Ⅰ	担当者	阿部　徳幸	期間	前期	単位数	2

授業概要	修士論文作成のため税法基礎理論を習得する。授業でとりあげるテーマは論者によりその主張はさまざまである。それぞれの主張を整理し、法律論の視点から評価する。
授業目的・到達目標	修士論文の作成を最終目的とする。修士論文の作成には税法基礎理論の習得が必須項目である。さらにはそれぞれのテーマについて様々な主張がある。その主張の意図するところを追求し理解し、それぞれの主張を評価できることを到達目標とする。 関連するDP・CP公法学専攻1.2.3.4.5.6.7.8
履修条件	税法特殊講義Ⅱの履修を条件とする。また、基本的な法律学、会計学の習得ができていることを前提とする。
授業方法	各テーマについてチューター方式により授業を進めていく。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	授業参加度、質問内容、理解度などにより評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2022年	中央経済社	『税法がわかる３０話(第２版)』	阿部徳幸
	2022年	勁草書房	『税法学原論(第９版)』	北野弘久
	備考			

参考書	石村耕治編著『現代税法入門塾(第12版)』（清文社）、金子宏『租税法(第24版)』（弘文堂）、税務六法（法令・通達）は必須
オフィスアワー	月曜日・金曜日の午後　研究室にて　事前に連絡のこと。 abe.noriyuki17〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	「税法学の特質と課題」について、その内容をを考察する。（2時間以上）
	授業内容	**「税法学の特質と課題」** **税法学とはどのように位置づけられているのか。行政法との関係、財政学・会計学の視点から税を考察することの問題点等について学習する。**
	事後学習	授業内容を踏まえ、テーマに対する各自の意見を構築すること。（2時間以上）
2	事前学習	「租税の法的概念・税法の体系」について、その内容をを考察する。（2時間以上）
	授業内容	**「租税の法的概念・税法の体系」** **税法学を研究するにあたり、そもそも租税とはどのように法的に定義されるのか。さらにはこの租税の定義のもと、課税はどのような根拠のもと行われるのかについて学習する。**
	事後学習	授業内容を踏まえ、テーマに対する各自の意見を構築すること。（2時間以上）
3	事前学習	「租税法律主義の原則」について、その内容をを考察する。（2時間以上）
	授業内容	**租税法律主義の原則** **税についての憲法上の原則である租税法律主義の歴史的経緯、意義、内容、目的、派生する法理とその立法上、税務執行上の問題点について学習する。**
	事後学習	授業内容を踏まえ、テーマに対する各自の意見を構築すること。（2時間以上）

4	事前学習	「実質課税の原則」について、その内容をを考察する。（2時間以上）
	授業内容	**実質課税の原則** **税法上の一つの原則とされる実質課税の原則について、その内容を確認するとともに租税法律主義との関係について学習する。**
	事後学習	授業内容を踏まえ、テーマに対する各自の意見を構築すること。（2時間以上）
5	事前学習	「税法の解釈と適用」について、その内容をを考察する。（2時間以上）
	授業内容	**税法の解釈と適用(1)** **税法の解釈と適用の在り方について、租税法律主義の視点から学習する。**
	事後学習	授業内容を踏まえ、テーマに対する各自の意見を構築すること。（2時間以上）
6	事前学習	「税法の解釈と適用」について、その内容をを考察する。（2時間以上）
	授業内容	**税法の解釈と適用(2)** **税法の解釈と適用の在り方について、実質課税の原則と租税法律主義の視点から考察し、裁判所の動向とその問題点について学習する。**
	事後学習	授業内容を踏まえ、テーマに対する各自の意見を構築すること。（2時間以上）
7	事前学習	「応能負担原則」について、その内容をを考察する。（2時間以上）
	授業内容	**応能負担原則(1)** **応能負担原則とは何か。応益負担原則、水平的公平論と垂直的公平論との関係、人税・物税等を人権論の立場から学習する。**
	事後学習	授業内容を踏まえ、テーマに対する各自の意見を構築すること。（2時間以上）
8	事前学習	「応能負担原則」について、その内容をを考察する。（2時間以上）
	授業内容	**応能負担原則(2)** **応能負担原則から導き出される最低生活費非課税の原則、課税の限界の現状と課題を学習する。**
	事後学習	授業内容を踏まえ、テーマに対する各自の意見を構築すること。（2時間以上）
9	事前学習	「租税法律関係の性質」について、その内容をを考察する。（2時間以上）
	授業内容	**租税法律関係の性質** **租税法律関係には、権力関係説と債務関係説との対立がある。それぞれについての実態と課題について学習する。**
	事後学習	授業内容を踏まえ、テーマに対する各自の意見を構築すること。（2時間以上）
10	事前学習	「納税義務の成立・確定」について、その内容をを考察する。（2時間以上）
	授業内容	**納税義務の成立・確定** **納税義務の成立と確定の関係、納税義務の画定方式の内容とその問題点について学習する。**
	事後学習	授業内容を踏まえ、テーマに対する各自の意見を構築すること。（2時間以上）
11	事前学習	「連帯納税義務・第二次納税義務制度」について、その内容をを考察する。（2時間以上）
	授業内容	**連帯納税義務・第二次納税義務制度** **連帯納税義務・第二次納税義務それぞれの規定の存在根拠とその問題点、課税庁職員に認められる自力執行力の法的限界について学習する。**
	事後学習	授業内容を踏まえ、テーマに対する各自の意見を構築すること。（2時間以上）
12	事前学習	「税務行政処分の瑕疵論」について、その内容をを考察する。（2時間以上）
	授業内容	**税務行政処分の瑕疵論** **税務行政に瑕疵がある場合の納税者救済制度をはじめ、不服申立前置主義を前提とした納税者救済制度の現状と問題点について学習する。**
	事後学習	授業内容を踏まえ、テーマに対する各自の意見を構築すること。（2時間以上）
13	事前学習	「源泉徴収制度」について、その内容をを考察する。（2時間以上）
	授業内容	**源泉徴収制度** **給与所得者の課税関係のの現状と問題点について、確定申告権の視点から学習する。**
	事後学習	授業内容を踏まえ、テーマに対する各自の意見を構築すること。（2時間以上）
14	事前学習	「地方財政権」について、その内容をを考察する。（2時間以上）
	授業内容	**地方財政権** **地方財政権の根拠と地方税法の立場を踏まえ、新固有権説と制度的保障説の対立について学習する。**
	事後学習	授業内容を踏まえ、テーマに対する各自の意見を構築すること。（2時間以上）
15	事前学習	「税務調査権」について、その内容をを考察する。（2時間以上）
	授業内容	**税務調査権** **３種類の税務調査権の内容と特質、ことさら課税処分のための税務調査の法的限界を諸外国の例を交えて学習する。**
	事後学習	授業内容を踏まえ、テーマに対する各自の意見を構築すること。（2時間以上）

科目名	税法特殊講義Ⅰ	担当者	黒川　功	期間	前期	単位数	2

授業概要	国政の内容を規定し、国民生活のあらゆる局面に決定的影響を及ぼす税法は、現代法の中心領域に位置する。それゆえに、現代における真に生きたリーガルマインドを形成する上では不可欠の科目となる。本講座は、租税法律関係を理解し、納税者の権利を侵害から擁護しうるだけの税法学の学識と法的実践力の養成を目指す。テキスト以外に教材をコピーして使うことも多い。
授業目的・到達目標	具体的な事件から的確に租税法律関係を読み解き、そこに含まれる法的問題の本質を理解し、事件の正しい法的解決の方途まで指し示せるだけの税法専門家としての力量を養成することを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻１，２，３，４，５，６，７，８
履修条件	基礎的な法律学、会計学の習得はできていることを前提とする。
授業方法	我国税法の特徴を考慮しながら、重要で実務上もよく問題となるテーマを中心に採り上げ、これを民主主義法学の立場から体系的、具体的に分析し、理解を進めていく。テキスト以外の教材を使う場合には、予めコピーを配布する。ありきたりの知識の伝授ではなく、課税当局との法的論争ができる程度の分析を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	平常点で評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2022年12月	勁草書房	税法学原論（第9版）	北野弘久著 黒川功補訂
	１９８１年１１月	岩波新書	納税者の権利	北野弘久
	備考	税法学原論を研究の基本書とする。		

参考書	北野弘久・谷山治夫編著『日本税制の総点検』（勁草書房）２００８年１０月。
オフィスアワー	金曜１４時４０分～１６時１０分、研究室。事前にアポイントメント(kuro-nin@ezweb.ne.jp)を取り、相談内容を知らせた上で訪問してください。

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	テキストに目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**租税制度と国民生活・権利**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
2	事前学習	テキストに目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**税法学の特質（１）**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
3	事前学習	テキストに目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**税法学の特質（２）**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）

4	事前学習	テキストに目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**租税概念**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
5	事前学習	テキストに目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**租税法律関係と税法体系**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
6	事前学習	テキストに目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**租税法律主義の原則（１）**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
7	事前学習	テキストに目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**租税法律主義の原則（２）**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
8	事前学習	テキストに目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**実質課税論**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
9	事前学習	テキストに目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**税法の解釈適用と租税回避行為（２時間）**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
10	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（２時間）
	授業内容	**応能負担原則**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
11	事前学習	テキストに目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**応益課税論**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
12	事前学習	テキストに目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**税法と法の一般原則**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
13	事前学習	テキストに目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**新地方財政権と本来的租税条例主義**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
14	事前学習	事前に配布された資料を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**所得税法（１）－所得概念と所得課税**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
15	事前学習	事前に配布された資料を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**所得税法（２）－納税義務者、課税単位、帰属**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）

科目名	税法特殊講義Ⅰ	担当者	鳥飼　貴司	期間	前期	単位数	2

授業概要	本講義では、いわゆる「税法総論」（金子宏『租税法』でいえば、第１編「租税法序説」、第２編「租税実体法」第1章「序説」第2章「課税要件総論」第4章「納税義務の成立・承継および消滅」、第３編「租税手続法」、第４章「租税争訟法」、第５編「租税処罰法」に相当する領域）を学修する。
授業目的・到達目標	金子宏『租税法』、租税判例百選、租税法判例六法や最新の裁判例を精読することにより、いわゆる「税法総論」の学説と裁判例に関する深い理解を得ることを目的とする。 租税に関する法的諸問題の解決するための税法学基礎理論の理解をテーマとする。 学生が、税法における基礎理論を理解し、法的思考に基づいた税法の諸課題に関する基礎的解決能力を修得できるようになることを目標とする。 関連するDP・CP公法学専攻1.2.3.4.5.6.7.8
履修条件	特になし。
授業方法	本授業は、文献講読により税法の解釈・適用方法を修得する。 テキストを読み進めながら解説を加えるとともに、受講者への質問及び回答、受講者からの質問及び回答等、双方向・多方向的授業を展開する予定である。 なお、毎回レポート（授業内容をまとめたもの）を課する。自分の言葉で授業をまとめることは、修士論文作成に有用である。メールを利用して翌週（具体的には授業の前日）までに提出すること。 レポートに対するフィードバックは、授業時間内に実施する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしてのか、レポートを締切までに提出できたのか、を基準に「到達目標」にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2021	弘文堂	租税法第24版	金子宏
	2021	有斐閣	租税判例百選第7版	中里実ほか編
	2023	有斐閣	租税法判例六法第6版	中里実ほか編
	備考	特になし		

参考書	適宜紹介する。
オフィスアワー	月曜日～水曜日、昼休み、研究室（居ない場合もある）。 メールアドレス：torikai.takashi〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）1頁～23頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**ガイダンス、現代国家と租税、租税の意義と種類、租税の根拠**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
2	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）24頁～76頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**税法の意義と範囲、税法の特色、税法学の学問的位置、戦前の租税制度、戦後の租税制度**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
3	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）77頁～122頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**租税法律主義、租税公平主義、自主財政主義、税法の法源と適用範囲**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）

4	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）123頁～152頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**税法の解釈と適用**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
5	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）153頁～190頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**租税実体法序説、納税義務者、税理士、課税物件、課税物件の帰属、課税標準、税率**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
6	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）886頁～897頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**納税義務の成立、納税義務の承継、納税義務の消滅**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
7	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）898頁～926頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**延滞税、利子税、加算税、納税者の債権**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
8	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）927頁～967頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**租税手続法の意義、租税行政組織、租税確定の方式、納税申告、青色申告**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
9	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）967頁～990頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**更正の請求、更正・決定、推計課税、賦課課税方式**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
10	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）990頁～1024頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**確定権の除籍期間、税務調査、租税の納付、源泉徴収**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
11	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）1024頁～1036頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**租税の徴収、徴収の繰上と納税猶予、担保および債権者代位権・取消権**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
12	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）1037頁～1092頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**滞納処分、租税債権の優先劣後、財産の差押・交付要求・参加差押、差押財産の換価、配当、滞納処分の緩和、強制執行・破産手続等との関係**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
13	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）1093頁～1109頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**租税争訟法総説、総額主義と争点主義、租税不服申立の種類と対象**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
14	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）1110頁～1142頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**再調査の請求、審査請求、租税訴訟**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
15	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）1143頁～1171頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**租税罰則法と租税犯則調査、通告処分**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）

科目名	税法特殊講義Ⅱ	担当者	阿部　徳幸	期間	後期	単位数	2

授業概要	修士論文作成のため、税法に関する代表的な判例を題材に、実践論的な税法の解釈・適用につき検討する。
授業目的・到達目標	修士論文の作成を最終目的とする。修士論文の作成には税法基礎理論の習得が必須項目である。その基礎理論が現実の裁判において、どのように解釈され、適用されているのかを追求求し理解し、それぞれの判例を各自、評釈できることを到達目標とする。 関連するDP・CP公法学専攻1.2.3.4.5.6.7.8
履修条件	税法特殊講義Ⅰの履修を条件とする。また、基本的な法律学、会計学の習得ができていることを前提とする。
授業方法	代表的な判例を題材にチューター方式により講義を進めていく。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	授業参加度、質問内容、理解度などにより評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2021年	有斐閣	『租税判例百選 第7版（別冊ジュリスト253号)』	中里 実他編
	2022年	中央経済社	『税法がわかる30話(第２版)』	阿部徳幸
	備考			

参考書	石村耕治編著『現代税法入門塾(第12版)』（清文社）、金子宏『租税法(第24版)』（弘文堂）、税務六法（法令・通達）は必須
オフィスアワー	月曜日・金曜日の午後　研究室にて　事前に連絡のこと。 abe.noriyuki17〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	対象判例に関する評釈の作成。（2時間以上）
	授業内容	**判例研究(1)** **最大判昭和63・3・27（民集39巻2号247頁）** **各自の判例評釈を基に、税法の解釈と適用について学習する。**
	事後学習	各自の評釈内容と講義内容の整理。（2時間以上）
2	事前学習	対象判例に関する評釈の作成。（2時間以上）
	授業内容	**判例研究(2)** **最一小判平成23・9・22（民集65巻6号2756頁）** **各自の判例評釈を基に、税法の解釈と適用について学習する。**
	事後学習	各自の評釈内容と講義内容の整理。（2時間以上）
3	事前学習	対象判例に関する評釈の作成。（2時間以上）
	授業内容	**判例研究(3)** **最二小判昭和33・3・28（民集12巻4号624頁）** **各自の判例評釈を基に、税法の解釈と適用について学習する。**
	事後学習	各自の評釈内容と講義内容の整理。（2時間以上）

4	事前学習	対象判例に関する評釈の作成。（2時間以上）
	授業内容	**判例研究(4)** **福岡地判昭和55・6・5（訟月26巻9号1572頁）** **各自の判例評釈を基に、税法の解釈と適用について学習する。**
	事後学習	各自の評釈内容と講義内容の整理。（2時間以上）
5	事前学習	対象判例に関する評釈の作成。（2時間以上）
	授業内容	**判例研究(5)** **最三小判平成22・3・2（民集64巻2号420頁）** **各自の判例評釈を基に、税法の解釈と適用について学習する。**
	事後学習	各自の評釈内容と講義内容の整理。（2時間以上）
6	事前学習	対象判例に関する評釈の作成。（2時間以上）
	授業内容	**判例研究(6)** **最三小判昭和62・10・30（訟月34巻4号853頁）** **各自の判例評釈を基に、税法の解釈と適用について学習する。**
	事後学習	各自の評釈内容と講義内容の整理。（2時間以上）
7	事前学習	対象判例に関する評釈の作成。（2時間以上）
	授業内容	**判例研究(7)** **東京高判平成11・6・21（判時1685号33頁）** **各自の判例評釈を基に、税法の解釈と適用について学習する。**
	事後学習	各自の評釈内容と講義内容の整理（2時間）
8	事前学習	対象判例に関する評釈の作成。（2時間以上）
	授業内容	**判例研究(8)** **最二小判平成13・7・13（訟月48巻7号1831頁）** **各自の判例評釈を基に、税法の解釈と適用について学習する。**
	事後学習	各自の評釈内容と講義内容の整理。（2時間以上）
9	事前学習	対象判例に関する評釈の作成。（2時間以上）
	授業内容	**判例研究(9)** **最三小判昭和46・11・9（民集25巻8号1120頁）** **各自の判例評釈を基に、税法の解釈と適用について学習する。**
	事後学習	各自の評釈内容と講義内容の整理。（2時間以上）
10	事前学習	対象判例に関する評釈の作成。（2時間以上）
	授業内容	**判例研究(10)** **最三小判平成22・7・6（民集64巻5号1277頁）** **各自の判例評釈を基に、税法の解釈と適用について学習する。**
	事後学習	各自の評釈内容と講義内容の整理。（2時間以上）
11	事前学習	対象判例に関する評釈の作成。（2時間以上）
	授業内容	**判例研究(11)** **最三小判平成27・3・10（刑集69巻2号434頁）** **各自の判例評釈を基に、税法の解釈と適用について学習する。**
	事後学習	各自の評釈内容と講義内容の整理。（2時間以上）
12	事前学習	対象判例に関する評釈の作成。（2時間以上）
	授業内容	**判例研究(12)** **最二小判平成20・9・12（訟月55巻7号2681頁）** **各自の判例評釈を基に、税法の解釈と適用について学習する。**
	事後学習	各自の評釈内容と講義内容の整理。（2時間以上）
13	事前学習	対象判例に関する評釈の作成。（2時間以上）
	授業内容	**判例研究(13)** **最三小決平成6・9・16（刑集48巻6号357頁）** **各自の判例評釈を基に、税法の解釈と適用について学習する。**
	事後学習	各自の評釈内容と講義内容の整理。（2時間以上）
14	事前学習	対象判例に関する評釈の作成。（2時間以上）
	授業内容	**判例研究(14)** **東京高判25・7・19 （訟月60巻5号1089頁）** **各自の判例評釈を基に、税法の解釈と適用について学習する。**
	事後学習	各自の評釈内容と講義内容の整理。（2時間以上）

15	事前学習	対象判例に関する評釈の作成。（2時間以上）
	授業内容	**判例研究(15)** **最一小判昭和33・5・29（民集12巻8号1254頁）** **各自の判例評釈を基に、税法の解釈と適用について学習する。**
	事後学習	各自の評釈内容と講義内容の整理。（2時間以上）

科目名	税法特殊講義Ⅱ	担当者	黒川　功	期間	後期	単位数	2

授業概要	国政の内容を規定し、国民生活のあらゆる局面に決定的影響を及ぼす税法は、現代法の中心領域に位置する。それゆえに、現代における真に生きたリーガルマインドを形成する上では不可欠の科目となる。本講座は、租税法律関係を理解し、納税者の権利を侵害から擁護しうるだけの税法学の学識と法的実践力の養成を目指す。
授業目的・到達目標	具体的な事件から的確に租税法律関係を読み解き、そこに含まれる法的問題の本質を理解し、事件の正しい法的解決の方途まで指し示せるだけの税法専門家としての力量を養成することを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻１，２，３，４，５，６，７，８
履修条件	基礎的な法律学、会計学の習得はできていることを前提とする。
授業方法	我国税法の特徴を考慮しながら、重要で実務上もよく問題となるテーマを中心に採り上げ、これを民主主義法学の立場から体系的、具体的に分析し、理解を進めていく。テキスト以外の教材を使う場合には、予めコピーを配布する。ありきたりの知識の伝授ではなく、課税当局との法的論争ができる程度の分析を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	
	平 常 評 価	100%	平常点。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2022年12月	勁草書房	税法各原論（第９版）	北野弘久著 黒川功補訂
	１９８１年１１月	岩波新書	納税者の権利	北野弘久
	備考	税法各原論（第8(9)版）を研究の基本書とする。		

参 考 書	北野弘久・谷山治夫編著『日本税制の総点検』（勁草書房）２００８年１０月。
オフィスアワー	金曜１４時４０分～１６時１０分、研究室。事前にアポイントメント(kuro-nin@ezweb.ne.jp)を取り、相談内容を知らせた上で訪問してください。

【授業計画】

回数	授　業　内　容	
1	事前学習	事前に配布された資料を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**所得税法（1）－所得分類**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
2	事前学習	事前に配布された資料を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**所得税法（2）－給与所得課税**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
3	事前学習	事前に配布された資料を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**所得税法（3）－所得・税額控除と所得税の計算**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）

4	事前学習	事前に配布された資料を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**法人税法（１）**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
5	事前学習	事前に配布された資料を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**法人税法（２）**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
6	事前学習	事前に配布された資料を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**消費税法（１）**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
7	事前学習	事前に配布された資料を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**消費税法（２）**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
8	事前学習	事前に配布された資料を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**相続・贈与税法（１）**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
9	事前学習	事前に配布された資料を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**相続・贈与税法（２）**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
10	事前学習	事前に配布された資料を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**租税手続法（１）**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
11	事前学習	事前に配布された資料を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**租税手続法（２）**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
12	事前学習	事前に配布された資料を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**租税争訟法（１）**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
13	事前学習	事前に配布された資料を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**租税争訟法（２）**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
14	事前学習	事前に配布された資料を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**租税処罰法（１）**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）
15	事前学習	事前に配布された資料を読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**租税処罰法（２）**
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（２時間）

科目名	税法特殊講義Ⅱ	担当者	鳥飼　貴司	期間	後期	単位数	2

授業概要	本講義では、いわゆる「税法各論」（金子宏『租税法』でいえば、第２編「租税実体法」第3章「課税要件各論」に相当する領域）を学修する。
授業目的・到達目標	金子宏『租税法』、租税判例百選、租税法判例六法や最新の裁判例を精読することにより、いわゆる「税法各論」の学説と裁判例に関する深い理解を得ることを目的とする。 租税に関する法的諸問題の解決するための税法学基礎理論の理解をテーマとする。 学生が、税法における基礎理論を理解し、法的思考に基づいた税法の諸課題に関する基礎的解決能力を修得できるようになることを目標とする。 関連するDP・CP公法学専攻1.2.3.4.5.6.7.8
履修条件	特になし。
授業方法	本授業は、文献講読により税法の解釈・適用方法を修得する。 テキストを読み進めながら解説を加えるとともに、受講者への質問及び回答、受講者からの質問及び回答等、双方向・多方向的授業を展開する予定である。 なお、毎回レポート（授業内容をまとめたもの）を課する。自分の言葉で授業をまとめることは、修士論文作成に有用である。メールを利用して翌週（具体的には授業の前日）までに提出すること。 レポートに対するフィードバックは、授業時間内に実施する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしてのか、レポートを締切までに提出できたのか、を基準に「到達目標」にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2021	弘文堂	租税法第24版	金子宏
	2021	有斐閣	租税判例百選第7版	中里実ほか編
	2023	有斐閣	租税法判例六法第6版	中里実ほか編
	備考	特になし。		

参考書	適宜紹介する。
オフィスアワー	月曜日～水曜日、昼休み、研究室（居ない場合もある）。 メールアドレス：torikai.takashi〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）191頁～204頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**ガイダンス、課税要件各論総説、所得税総説**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
2	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）205頁～240頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**所得税制度の基本的仕組、利子所得、配当所得**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
3	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）240頁～263頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**不動産所得、事業所得、給与所得、退職所得、山林所得**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）

4	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）263頁～304頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**譲渡所得**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
5	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）304頁～328頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**一時所得、雑所得、収入金額、必要経費、税額の計算**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
6	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）329頁～344頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**法人税総説**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
7	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）344頁～375頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**法人所得の意義と計算総説、収益および費用の年度帰属**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
8	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）375頁～401頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**費用収益対応の原則、益金の額の計算、損金の額の計算その１**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
9	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）401頁～434頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**損金の額の計算その２**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
10	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）434頁～465頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**損金の額の計算その３、法人税額の計算、法人税の申告**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
11	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）465頁～559頁の本文を読む（範囲が膨大なので眺めるだけで良い）。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**グループ法人税制、同族会社と所得課税**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
12	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）559頁～689頁の本文を読む（範囲が膨大なので眺めるだけで良い）。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**国際取引と所得課税、住民税および事業税**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
13	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）689頁～801頁の本文を読む（範囲が膨大なので眺めるだけで良い）。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**相続税および贈与税、財産の評価、事業承継税制、地価税、固定資産税**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
14	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）801頁～851頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**消費税、地方消費税**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）
15	事前学習	金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂）851頁～885頁の本文を読む。その中で現れて来た条文や裁判例にも目を通すと尚良い。（２時間）
	授業内容	**個別消費税、関税、流通税**
	事後学習	授業で扱った範囲を自分の言葉でポイントをまとめたレポートを作成して、期限までに提出する。（２時間）

科目名	国際法特殊講義Ⅰ	担当者	河合　利修	期間	前期	単位数	2

授業概要	国際法について、判例・事例をとおして研究する。
授業目的・到達目標	国際法について深い学識をもつことを目的とする。国際法の判例・事例について精通し、国際法の研究者を養成することを目標とする。 関連するDP・CP公法学専攻：１，２，３，４，６
履修条件	学部での国際法履修。
授業方法	国際法の判例・事例を受講生が調べ、報告する。どの判例・事例を調べるかは、受講生と話し合ったうえで、決める。 フィードバックは、各回、受講生の報告について行う。授業は対面で行う。

成績評価

種別	割合	評価方法
定 期 試 験	0%	
平 常 評 価	100%	50%をレポートでの評価、50%を参加度、ゼミへの参加、報告の内容を加味して評価する。

教科書

年	出版社	書名	著者名

備考	特になし。
参 考 書	授業中に指定する。
オフィスアワー	水曜日11時～12時研究室にて（事前にメールでアポイントメントを取ること：メールアドレスkawai.toshinobu@nihon-u.ac.jp）

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	各自、国際法に関する文献を図書館等で調べる。（2時間）
	授業内容	**前期授業説明**
	事後学習	授業の内容を復習する。　（2時間）
2	事前学習	国際法主体としての国家についての判例・事例について調べる。（2時間）
	授業内容	**判例・事例研究①：国際法主体としての国家について**
	事後学習	国際法主体としての国家についての判例・事例を復習する。（2時間）
3	事前学習	国際機構・個人の国際法主体性についての判例・事例について調べる。（2時間）
	授業内容	**判例・事例研究②：国際機構・個人の国際法主体性について**
	事後学習	国際機構・個人の国際法主体性についての判例・事例を復習する。（2時間）

4	事前学習	領土についての判例・事例について調べる。（2時間）
	授業内容	**判例・事例研究③：領土について**
	事後学習	領土についての判例・事例を復習する。（2時間）
5	事前学習	海洋法についての判例・事例について調べる。（2時間）
	授業内容	**判例・事例研究④：海洋法について**
	事後学習	海洋法についての判例・事例を復習する。（2時間）
6	事前学習	外国人の権利についての判例・事例について調べる。（2時間）
	授業内容	**判例・事例研究⑤：外国人の権利について**
	事後学習	外国人の権利についての判例・事例を復習する。（2時間）
7	事前学習	人権についての判例・事例について調べる。（2時間）
	授業内容	**判例・事例研究⑥：人権について**
	事後学習	人権についての判例・事例を復習する。（2時間）
8	事前学習	外交官・領事についての判例・事例について調べる。（2時間）
	授業内容	**判例・事例研究⑦：外交官・領事について**
	事後学習	外交官・領事についての判例・事例を復習する。（2時間）
9	事前学習	国家責任についての判例・事例について調べる。（2時間）
	授業内容	**判例・事例研究⑧：国家責任について**
	事後学習	国家責任についての判例・事例を復習する。（2時間）
10	事前学習	環境の保護についての判例・事例について調べる。（2時間）
	授業内容	**判例・事例研究⑨：環境の保護について**
	事後学習	環境の保護についての判例・事例を復習する。（2時間）
11	事前学習	非裁判手続きの事例と裁判手続きの具体的な判例について調べる。（2時間）
	授業内容	**判例・事例研究⑩：非裁判手続きと裁判手続きについて**
	事後学習	非裁判手続きの事例と裁判手続きの具体的な判例を復習する。（2時間）
12	事前学習	国際刑事裁判所の判例について調べる。（2時間）
	授業内容	**判例・事例研究⑪：国際刑事裁判所について**
	事後学習	国際刑事裁判所の判例を復習する。（2時間）
13	事前学習	武力行使についての判例・事例について調べる。（2時間）
	授業内容	**判例・事例研究⑫：武力行使について**
	事後学習	武力行使についての判例・事例を復習する。（2時間）
14	事前学習	国際人道法についての判例・事例について調べる。（2時間）
	授業内容	**判例・事例研究⑬：国際人道法について**
	事後学習	国際人道法についての判例・事例を復習する。（2時間）
15	事前学習	これまで研究した判例・事例をみなおす。（2時間）
	授業内容	**前期まとめ**
	事後学習	これまで研究した判例・を総復習する。（2時間）

科目名	国際法特殊講義Ⅱ	担当者	河合　利修	期間	後期	単位数	2

授業概要	国際法に関する英文論文を精読する。
授業目的・到達目標	国際法について深い学識をもつことを目的とする。英文論文を読みこなすことができる研究者を養成することを目標とする。 関連するDP・CP公法学専攻：１，２，３，４，６
履修条件	学部での国際法履修。
授業方法	国際法に関する英文論文を精読する。どの論文を読むかは、受講生と話し合ったうえで、決める。フィードバックは、各回、受講生の報告について行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	
	平 常 評 価	100%	50%をレポートでの評価、50%を参加度、ゼミへの参加、報告の内容を加味して評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし。		

参 考 書	授業中に指定する。
オフィスアワー	水曜日11時～12時研究室にて（事前にメールでアポイントメントを取ること：メールアドレスkawai.toshinobu@nihon-u.ac.jp）

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	国際法に関する英文論文について、調べておく。　(2時間)
	授業内容	**後期授業説明**
	事後学習	授業で読むことを決めた論文を、図書館・検索サイト等で各自見つける。(2時間)
2	事前学習	国際慣習法についての英文論文を事前に読んでおく。(2時間)
	授業内容	**英文論文精読：国際慣習法について**
	事後学習	国際慣習法についての英文論文の内容を復習する。(2時間)
3	事前学習	国家についての英文論文を事前に読んでおく。(2時間)
	授業内容	**英文論文精読：国家について**
	事後学習	国家についての英文論文の内容を復習する。(2時間)

4	事前学習	外交官・領事についての英文論文を事前に読んでおく。（2時間）
	授業内容	**英文論文精読：外交官・領事について**
	事後学習	外交官・領事についての英文論文の内容を復習する。（2時間）
5	事前学習	領土問題についての英文論文を事前に読んでおく。（2時間）
	授業内容	**英文論文精読：領土問題について**
	事後学習	領土問題についての英文論文の内容を復習する。（2時間）
6	事前学習	海洋法についての英文論文を事前に読んでおく。（2時間）
	授業内容	**英文論文精読：海洋法について**
	事後学習	海洋法についての英文論文の内容を復習する。（2時間）
7	事前学習	国際公域についての英文論文を事前に読んでおく。（2時間）
	授業内容	**英文論文精読：国際公域について**
	事後学習	国際公域についての英文論文の内容を復習する。（2時間）
8	事前学習	人権についての英文論文を事前に読んでおく。（2時間）
	授業内容	**英文論文精読：人権について**
	事後学習	人権についての英文論文の内容を復習する。（2時間）
9	事前学習	裁判手続きについての英文論文を事前に読んでおく。（2時間）
	授業内容	**英文論文精読：裁判手続きについて**
	事後学習	裁判手続きについての英文論文の内容を復習する。（2時間）
10	事前学習	自衛権についての英文論文を事前に読んでおく。（2時間）
	授業内容	**英文論文精読：自衛権について**
	事後学習	自衛権についての英文論文の内容を復習する。（2時間）
11	事前学習	集団安全保障についての英文論文を事前に読んでおく。（2時間）
	授業内容	**英文論文精読：集団安全保障について**
	事後学習	集団安全保障についての英文論文の内容を復習する。（2時間）
12	事前学習	国連平和維持活動についての英文論文を事前に読んでおく。（2時間）
	授業内容	**英文論文精読：国連平和維持活動について**
	事後学習	国連平和維持活動についての英文論文の内容を復習する。（2時間）
13	事前学習	武力行使についての英文論文を事前に読んでおく。（2時間）
	授業内容	**英文論文精読：武力行使について**
	事後学習	武力行使についての英文論文の内容を復習する。（2時間）
14	事前学習	国際人道法についての英文論文を事前に読んでおく。（2時間）
	授業内容	**英文論文精読：国際人道法について**
	事後学習	国際人道法についての英文論文の内容を復習する。（2時間）
15	事前学習	これまで読んだ英文論文を整理する。（2時間）
	授業内容	**後期まとめ**
	事後学習	これまで読んだ英文論文の内容を総復習する。（2時間）

科目名	刑法特殊講義 I	担当者	設楽　裕文	期間	前期	単位数	2

授業概要	刑法の基本問題につき、問答形式で学ぶ授業である。 遅刻・欠席をする場合や受講をやめる場合は、事前に、shitara.hirobumi@nihon-u.ac.jpにメールしてほしい。
授業目的・到達目標	刑法の基本問題について、検討・討論し、理解を深めることを目的とする。諸問題の理解を学術論文の形に構成できるようになることを目標とする。 関連するDP・CP公法学専攻１、２、３、５、６
履修条件	とくにない。 ただし、期末レポート（論文）をポータルサイトを通じて提出できない環境にある人は受講すべきではない。
授業方法	設問を用いた問答法（ソクラティック・メソッド）により進めることを基本とする。 設問は、教科書『刑法の目的と解釈』及び『刑法解釈論』を基にしたものである。 設問は、ポータルサイトを通じて配布する。 期末レポート（論文）の出題・提出はポータルサイトのレポート機能を用いておこなう。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	
	平 常 評 価	100%	期末レポート（論文）：85%、その他平常点（問答、討論の内容のほか、授業に取り組む姿勢・意欲により評価）：15%で評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2020年	八千代出版	刑法の目的と解釈［2刷］	設楽裕文
	2022年	八千代出版	刑法解釈論［改訂版］	設楽裕文
	備考	『刑法解釈論』の2023年改正に対応する補遺をポータルサイトを通じて配布する。		

参 考 書	授業の際に適宜紹介する。
オフィスアワー	授業終了後、授業講堂ないしその周辺において、授業に関係する事項について、おこなう（最大で60分）。 前掲のメールアドレスにメールして質問してもよい。

【授業計画】

回数	授　業　内　容	
1	事前学習	教科書に目を通す。（２時間）
	授業内容	**序ー授業方法説明、**
	事後学習	設問を検討し、次回の授業に備える。（２時間）
2	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**刑法の目的、刑法の目的と解釈のあり方**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）
3	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**明確性の原則**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）

4	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**実行行為の類型性と危険性**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）
5	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**早過ぎた構成要件実現、複数の個別行為と結果の発生**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）
6	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**間接正犯**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）
7	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**不真正不作為犯の作為義務**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）
8	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**因果関係**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）
9	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**35条による違法性阻却の基準**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）
10	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**正当防衛の趣旨と要件、複数の反撃行為と正当防衛、過剰防衛**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）
11	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**故意、過失、そして錯誤**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）
12	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**共謀共同正犯**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）
13	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**承継的共同正犯**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）
14	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**離脱による共同正犯関係の解消**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）
15	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**中立的行為による幇助**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）

科目名	刑法特殊講義Ⅰ	担当者	南部　篤	期間	前期	単位数	2

授業概要	刑法学上の重要テーマについて，犯罪論を中心に，深く掘り下げた検討を加える。また理論刑法学が直面する今日的課題の解明を試みる。解釈論のみならず，刑事政策・刑罰制度に関する立法論までを視野に入れたテーマ選択を行い，参加者各人の学問的関心の向けられる課題を共有しながらアクティブでクリエイティブなアプローチを展開していくことをめざす。
授業目的・到達目標	犯罪論，刑罰論に関する基本問題，また最新テーマについての深い理解を得るとともに，刑事判例の動向を探りながら判例をめぐる学説の動きに目を向け，実践的かつ理論的アプローチを通じて，参加者が自ら，自分の研究関心が捉えた対象と取り組んで刑法学の研究をすすめて行く応用能力涵養を目的とする。犯罪論領域の基本的かつ発展的諸テーマについての理解を獲得することに加えて，自らが設定した研究テーマに向って資料の収集・分析・検討・考察をすすめて行くスキルを身につけることが到達目標となる。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻１，２，３，５，６
履修条件	とくにないが，学部レベルの刑法総論，各論についての基礎的理解が必要であることはいうまでもない。そこで部分的にでもこの水準を満たさないことを自覚している者は自身で努力を尽くす必要がある。
授業方法	重要，最新の判例，また学術論文等からいくつかを選び出し，受講者による報告に基づく授業を試みる。

成績評価

種別	割合	評価方法
定期試験	0%	
平常評価	100%	報告および質疑内容：50%，授業時の質問・意見等発言内容と議論への参加度：30%，その他の要素（たとえば提出物など）：20%（試験は行わない。）

教科書

年	出版社	書名	著者名
		特定のテキストを指定することはしない。開講時にこの学期中使用する参考書籍等を紹介し，授業回ごとに資料を準備配布する。	

備考：六法は必携である。

参考書	『刑法判例百選Ⅰ』有斐閣，『刑法判例百選Ⅱ』同，『○○年度重要判例解説』同，ほか（入手する際は，開講時点で最新の刷，版のものをこころがけること）。
オフィスアワー	土曜日，12時10分から13時まで対応する。ただし，Ｅメール（開講時にアドレスを開示）による事前のアポイントメントを要する。面談場所は事前に伝達する。Ｅメールによる質問・相談も受付ける。授業内容以外で受付ける質問・相談事項は，刑事法学の研究一般について。

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	犯罪論，刑罰論，刑法各論について，体系書を読み返し，重要判例集等を読み返すなどして刑法学に関する基本的理解を確かなものにした上で初回授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	**この授業の目的，方法，使用する文献・資料，今学期におけるスケジュール等を示し，受講者・教員間で協議のうえ各授業回における報告担当者を決定する。**
	事後学習	授業参加に際し各自の学修計画を立て，次回授業時の担当教員宛への開示に備える。（2時間）
2	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**罪刑法定主義に関する重要判例の検討**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）
3	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**構成要件論の意義と因果関係をめぐる重要判例の検討**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）

4	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**違法論の意義と違法性阻却の原理総論**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）
5	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**正当防衛をめぐる判例の動向①**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）
6	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**正当防衛をめぐる判例の動向②**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）
7	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**正当防衛をめぐる判例の動向③**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）
8	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**故意論の意義と全体像**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）
9	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**錯誤論（事実の錯誤）に関する重要判例の検討**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）
10	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**錯誤論（法律の錯誤）に関する重要判例の検討**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）
11	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**犯罪の遂行過程と各段階の刑事規制，実行の着手に関する重要判例の検討**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）
12	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**共犯の諸問題と判例の動向①**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）
13	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**共犯の諸問題と判例の動向②**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）
14	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**共犯の諸問題と判例の動向③**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）
15	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**罪数と科刑処理に関する判例の検討**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）

科目名	刑法特殊講義Ⅰ	担当者	野村　和彦	期間	前期	単位数	2

授業概要	この授業では、山口厚『刑法総論（第三版）』をテキストに用い、山口刑法学の基礎理論を理解するとともに、その妥当性について批判的検討を行う。こうした研究を通じて、山口刑法学の意義について考えてみたい。
授業目的・到達目標	一般的にいえることであるが、ある論点をめぐる法律論をみていると、お互い、相手の学説を正しく理解せず、いわば相手を自分なりに決めつけて議論が行われることが少なくない。こうしたことが原因で議論がかみ合わず、不毛な議論と化すことが少なくない。相手の見解を正しく理解した上で、建徳な議論を展開する技術を身につけたい。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻１，２，３，５，６
履修条件	刑法に関心があり、能動的に学びたい人であることが望ましい。
授業方法	授業の初回に、講義担当者が予め定めた論点について、受講者に割り当てる。担当する論点について、調査および分析をし、レジュメを用意した上で、授業時間内に発表してもらう。その後、質疑応答ならびに議論を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	発表の内容および発表時の姿勢、他者の発表に対する姿勢を総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年	有斐閣	刑法総論（第三版）	山口厚
	備考			

参考書	講義の度に案内する。
オフィスアワー	適宜調整して、対面あるいはZOOMで行う。

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	本シラバスを読み、どのような学びを行うのかを予めイメージする。（２時間）
	授業内容	**講義の案内、および発表課題の担当を決める。**
	事後学習	担当する課題の調査を始める。（２時間）
2	事前学習	各自が担当する課題に対する研究を継続する。（２時間）
	授業内容	**研究発表の方法について説明する。**
	事後学習	研究発表のためにどのような点に留意し調査および分析するべきかを整理するとともに、担当課題について研究を開始する。（２時間）
3	事前学習	各自が担当する課題に対する研究を継続する。（２時間）
	授業内容	**講義担当者が自身の研究について報告する。これを模範あるいは反面教師として、研究発表および質疑応答はいかにするべきかを学ぶ。**
	事後学習	研究発表時に留意するべき点は何かを整理する。（２時間）

4	事前学習	各自が担当する課題に対する研究を継続するとともに、因果関係に関する山口説について予習する。（２時間）
	授業内容	**因果関係について山口説はどのようなことを主張しているか、またその理由は何か、さらにその妥当性について発表してもらう。**
	事後学習	因果関係に関する山口説の妥当性について、本報告をもとに各自が吟味する。（２時間）
5	事前学習	各自が担当する課題に対する研究を継続するとともに、不作為犯論に関する山口説について予習する。（２時間）
	授業内容	**不作為犯について山口説はどのような主張をしているか、またその理由は何か、さらにその妥当性について発表してもらう。**
	事後学習	不作為犯に関する山口説の妥当性について、本報告をもとに各自が吟味する。（２時間）
6	事前学習	各自が担当する課題に対する研究を継続するとともに、正当防衛論に関する山口説について予習する。（２時間）
	授業内容	**正当防衛について山口説はどのような主張を展開しているか、またその理由は何か、さらにその妥当性について発表してもらう。**
	事後学習	正当防衛論に関する山口説の妥当性について、本報告をもとに各自が吟味する。（２時間）
7	事前学習	各自が担当する課題に対する研究を継続するとともに、緊急避難論に関する山口説について予習する。（２時間）
	授業内容	**緊急避難について山口説はどのような主張を展開しているか、またその理由は何か、さらにその妥当性について発表してもらう。**
	事後学習	緊急避難論に関する山口説の妥当性について、本報告をもとに各自が吟味する。（２時間）
8	事前学習	各自が担当する課題に対する研究を継続するとともに、被害者の同意論に関する山口説について予習する。（２時間）
	授業内容	**被害者の同意について山口説はどのような主張を展開しているか、またその理由は何か、さらにその妥当性について発表してもらう。**
	事後学習	被害者の同意論に関する山口説の妥当性について、本報告をもとに各自が吟味する。（２時間）
9	事前学習	各自が担当する課題に対する研究を継続するとともに、事実の錯誤論に関する山口説について予習する。（２時間）
	授業内容	**事実の錯誤について山口説はどのようなことを主張しているか、またその理由は何か、さらにその妥当性について発表してもらう。**
	事後学習	事実の錯誤論に関する山口説の妥当性について、本報告をもとに各自が吟味する。（２時間）
10	事前学習	各自が担当する課題に対する研究を継続するとともに、過失犯論に関する山口説について予習する。（２時間）
	授業内容	**過失犯について山口説はどのようなことを主張しているか、またその理由は何か、さらにその妥当性について発表してもらう。**
	事後学習	過失犯論に関する山口説の妥当性について、本報告をもとに各自が吟味する。（２時間）
11	事前学習	各自が担当する課題に対する研究を継続するとともに、違法性の意識論に関する山口説について予習する。（２時間）
	授業内容	**違法性の意識について山口説はどのようなことを主張しているか、またその理由は何か、さらにその妥当性について発表してもらう。**
	事後学習	違法性の意識論に関する山口説の妥当性について、本報告をもとに各自が吟味する。（２時間）
12	事前学習	各自が担当する課題に対する研究を継続するとともに、原因において自由な行為論に関する山口説について予習する。（２時間）
	授業内容	**原因において自由な行為について山口説はどのようなことを主張しているか、またその理由は何か、さらにその妥当性について発表してもらう。**
	事後学習	原因において自由な行為論に関する山口説について、本報告をもとに各自が吟味する。（２時間）
13	事前学習	各自が担当する課題に対する研究を継続するとともに、未遂犯・不能犯論に関する山口説について予習する。（２時間）
	授業内容	**未遂犯と不能犯について山口説はどのようなことを主張しているか、またその理由は何か、さらにその妥当性について発表してもらう。**
	事後学習	未遂犯・不能犯論に関する山口説の妥当性について、本報告をもとに各自が吟味する。（２時間）
14	事前学習	各自が担当する課題に対する研究を継続するとともに、共犯の基礎理論に関する山口説について予習する。（２時間）
	授業内容	**共犯の基礎理論について山口説はどのようなことを主張しているか、またその理由は何か、さらにその妥当性について発表してもらう。**
	事後学習	共犯の基礎理論に関する山口説の妥当性について、本報告をもとに各自が吟味する。（２時間）
15	事前学習	これまで講義で取りあげた論点について、概観し復習する。（２時間）
	授業内容	**山口刑法学とはどのような学説なのかを考える。**
	事後学習	泰斗の見解を分析する方法論について、本講義を振り返り考察する。（２時間）

科目名	刑法特殊講義Ⅰ	担当者	南　由介	期間	前期	単位数	2

授業概要	本講義では、理論刑法学に関する文献を精読し、今日の刑法理論を学修する。
授業目的・到達目標	近時の理論刑法学に関する文献を精読し、批判的に検討することを通して、今日の理論刑法学の現状を把握し、刑法理論についての深い理解をえることを目的とする。 刑法理論に関し、学説を批判的に検討した上で、自己の見解を論理的に展開できるようになることを目標とする。 関連するDP・CP公法学専攻1,2,3,5,6
履修条件	特になし。
授業方法	あらかじめ決めておいた報告者が報告を行った後、受講者全員で議論を行う（履修者が少ない場合は、報告者をあらかじめ決めず、受講者全員が各自疑問に感じた点を摘示し、議論を行う形式とする）。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	報告の内容、議論への参加度、扱った題材の理解度から、総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし。		

参考書	必要に応じて、適宜紹介する。
オフィスアワー	月曜日16：20～17：50（事前にメールでアポイントメントを取ること）研究室9号館4階　minami.yusuke〇nihon-u.ac.jp（メール送信時は「〇」を「@」に）

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	受講にあたって、刑法学の復習をしておく。（２時間）
	授業内容	**オリエンテーション**
	事後学習	次回以降の授業に備え、刑法学の復習をする。（２時間）
2	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）
3	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）

4	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）
5	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）
6	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）
7	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）
8	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）
9	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）
10	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）
11	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）
12	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）
13	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）
14	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）
15	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）

科目名	刑法特殊講義Ⅱ	担当者	設楽　裕文	期間	後期	単位数	2

授業概要	刑法の基本問題につき、問答形式で学ぶ授業である。 遅刻・欠席をする場合や受講をやめる場合は、事前に、shitara.hirobumi@nihon-u.ac.jpにメールしてほしい。
授業目的・到達目標	刑法の基本問題について、検討・討論し、理解を深めることを目的とする。諸問題の理解を学術論文の形に構成できるようになることを目標とする。 関連するDP・CP公法学専攻１、２、３、５、６
履修条件	とくにない。 ただし、期末レポート（論文）をポータルサイトを通じて提出できない環境にある人は受講すべきではない。
授業方法	設問を用いた問答法（ソクラティック・メソッド）により進めることを基本とする。 設問は、教科書『刑法の目的と解釈』及び『刑法解釈論』を基にしたものである。 設問は、ポータルサイトを通じて配布する。 期末レポート（論文）の出題・提出はポータルサイトのレポート機能を用いておこなう。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	期末レポート（論文）：85%、その他平常点（問答、討論の内容のほか、授業に取り組む姿勢・意欲により評価）：15%で評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2020年	八千代出版	刑法の目的と解釈［2刷］	設楽裕文
	2022年	八千代出版	刑法解釈論［改訂版］	設楽裕文
	備考	『刑法解釈論』の2023年改正に対応する補遺をポータルサイトを通じて配布する。		

参考書	授業の際に適宜紹介する。
オフィスアワー	授業終了後、授業講堂ないしその周辺において、授業に関係する事項について、おこなう（最大で60分）。 前掲のメールアドレスにメールして質問してもよい。

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	教科書に目を通す。（２時間）
	授業内容	**序ー授業方法説明、**
	事後学習	設問を検討し、次回の授業に備える。（２時間）
2	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**胎児性傷害・致死**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）
3	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**殺人罪と自殺関与罪**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）

4	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**傷害罪の「傷害」**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）
5	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**名誉の保護**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）
6	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**財物と財産上の利益**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）
7	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**民法的不法と財産罪**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）
8	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**窃盗罪と不法領得の意思**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）
9	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**詐欺罪と財産上の損害**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）
10	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**244条1項と家庭裁判所により選任された後見人の横領**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）
11	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**取引の相手方と特別背任罪の共同正犯**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）
12	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**被害者に戻す行為と盗品関与罪**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）
13	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**文書の有形偽造**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）
14	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**103条の「罪を犯した者」と「隠避」**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）
15	事前学習	設問を検討する。（２時間）
	授業内容	**197条1項の「その職務に関し」**
	事後学習	授業の際の問答を基に解答を文章化する。（２時間）

科目名	刑法特殊講義Ⅱ	担当者	南部　篤	期間	後期	単位数	2

授業概要	刑法学上の重要テーマについて，犯罪論を中心に，深く掘り下げた検討を加える。また理論刑法学が直面する今日的課題の解明を試みる。解釈論のみならず，刑事政策・刑罰制度に関する立法論まで視野に入れたテーマ選択を行い，参加者各人の学問的関心の向けられる課題を共有しながらアクティブでクリエイティブなアプローチを展開していくことをめざす。
授業目的・到達目標	犯罪論，刑罰論に関する基本問題，また最新テーマについての深い理解を得るとともに，刑事判例の動向を探りながら判例をめぐる学説の動きに目を向け，実践的かつ理論的アプローチを通じて，参加者が自ら，自分の研究関心が捉えた対象と取り組んで刑法学の研究をすすめて行く応用能力涵養を目的とする。犯罪論領域の基本的かつ発展的諸テーマについての理解を獲得することに加えて，自らが設定した研究テーマに向って資料の収集・分析・検討・考察をすすめて行くスキルを身につけることが到達目標となる。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻１，２，３，５，６
履修条件	とくにないが，学部レベルの刑法総論，各論についての基礎的理解が必要であることはいうまでもない。そこで部分的にでもこの水準を満たさないことを自覚している者は自身で努力を尽くす必要がある。
授業方法	重要，最新の判例，また学術論文等からいくつかを選び出し，受講者による報告に基づく授業を試みる。

成績評価

種別	割合	評価方法
定期試験	0%	
平常評価	100%	報告および質疑内容：50%，授業時の質問・意見等発言内容と議論への参加度：30%，その他の要素（たとえば提出物など）：20%（試験は行わない。）

教科書

年	出版社	書名	著者名
		特定のテキストを指定することはしない。開講時にこの学期中使用する参考書籍等を紹介し，授業回ごとに資料を準備配布する。	

備考：六法は必携である。

参考書	『刑法判例百選Ⅰ』有斐閣，『刑法判例百選Ⅱ』同，『○○年度重要判例解説』同，ほか（入手する際は，開講時点で最新の刷，版のものをこころがけること）。
オフィスアワー	土曜日，12時10分から13時まで対応する。ただし，Ｅメール（開講時にアドレスを開示）による事前のアポイントメントを要する。面談場所は事前に伝達する。Ｅメールによる質問・相談も受付ける。授業内容以外で受付ける質問・相談事項は，刑事法学の研究一般について。

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	犯罪論，刑罰論，刑法各論について，体系書を読み返し，重要判例集等を読み返すなどして刑法学に関する基本的理解を確かなものにした上で初回授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	**この授業の目的，方法，使用する文献・資料，今学期におけるスケジュール等を示し，受講者・教員間で協議のうえ各授業回における報告担当者を決定する。**
	事後学習	授業参加に際し各自の学修計画を立て，次回授業時の担当教員宛への開示に備える。（2時間）
2	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**生命身体に対する罪の成否と被害者の承諾①（自殺関与と殺人に関する判例の検討）**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）
3	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**生命身体に対する罪の成否と被害者の承諾②（傷害罪と被害者の承諾に関する判例の検討）**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）

4	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**名誉の保護と刑法（名誉棄損罪と真実性の錯誤に関する判例の検討）**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）
5	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**不法領得の意思をめぐる判例の動向（窃盗および詐欺）**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）
6	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**事後強盗罪の問題点（判例・学説の検討）**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）
7	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**詐欺罪の課題（訴訟詐欺，クレジットカード詐欺をめぐる判例の検討）**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）
8	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**横領に関する判例の検討①（いわゆる「金銭所有権」について）**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）
9	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**横領に関する判例の検討②（横領後の横領をめぐる判例の動向の検討）**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）
10	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**不動産の二重処分と横領・背任に関する諸判例の検討**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）
11	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**放火罪の客体と建造物の一体性に関する判例の検討**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）
12	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**わいろ罪の体系と問題点および「職務に関し」の意義をめぐる判例の動向の検討**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）
13	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**文書偽造罪の諸問題①（コピーと文書偽造および作成名義人の承諾と同罪の成否等）**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）
14	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**文書偽造罪の諸問題②（コンピュータデータと文書の意義をめぐる判例と立法の動向）**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）
15	事前学習	予定されたテーマについて，報告担当者はレジュメ作成等その準備にあたり，他の参加者は関連文献，判例等を読み込み，疑問点および私見の要点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	**サイバーポルノの諸問題，判例と立法の検討**
	事後学習	報告内容についての検討，教員からの指摘，参加者間の質疑応答等をふまえ，さらに発展的検討へと進めるよう振り返り作業を行い，必要に応じて次回以降の質問メモ作成を行う。（2時間）

科目名	刑法特殊講義Ⅱ	担当者	野村　和彦	期間	後期	単位数	2

授業概要	山口厚先生の刑法学説について、正確に理解するとともに批判的検討を行う。前期に引き続き、後期は刑法各論に焦点を当てる。
授業目的・到達目標	建徳的な議論を展開するためには、相手の見解を正確に理解し、その長所と短所を見極める観察眼が必要である。このことを、山口刑法学を素材に、身につけていきたい。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻１，２，３，５，６
履修条件	刑法についてしっかり学びたい者の履修を希望する。
授業方法	授業の初回に、研究発表の課題を割り当てる。レジュメを作成してもらったうえで発表の臨み、質疑にも対応していただく。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	発表や質疑への姿勢、他者の発表時における質疑への姿勢、をふまえて評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2010	有斐閣	刑法各論（第2版）	山口厚
	備考			

参 考 書	講義の際にその都度指示する。
オフィスアワー	適宜調整して、対面あるいはZOOMにて行う。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	本シラバスを読み、どのような学びを行うのかを予めイメージする。（２時間）
	授業内容	**本講義の説明および課題の担当を決める。**
	事後学習	課題について調査研究を始める。（２時間）
2	事前学習	調査や検討、発表方法、質疑応答について、どのようにすればよいのか自分なりの考えをまとめる。（２時間）
	授業内容	**講義担当者の発表および質疑応答を通じて、調査や研究、発表方法、質疑応答のコツを、模範的にあるいは反面教師的に学ぶ。**
	事後学習	自分の課題発表に、授業で学んだことがどう生かせるか見通しを立ててみる。（２時間）
3	事前学習	第１編個人的法益に対する罪・第１章　生命に対する罪をあらかじめ読み、予習しておく。（２時間）
	授業内容	**第１編個人的法益に対する罪・第１章　生命に対する罪に関する山口説について、その特徴とその論拠、及びその妥当性について発表し、質疑応答してもらう。**
	事後学習	生命に対する罪に関する山口説の妥当性について、発表をもとに各自が吟味する。（２時間）

4	事前学習	第１編個人的法益に対する罪・第２章　身体に対する罪をあらかじめ読み、予習しておく。（２時間）
	授業内容	**第１編個人的法益に対する罪・第２章　身体に対する罪に関する山口説について、その特徴とその論拠、及びその妥当性について発表し、質疑応答してもらう。**
	事後学習	身体に対する罪に関する山口説の妥当性について、発表をもとに各自が吟味する。（２時間）
5	事前学習	第１編個人的法益に対する罪・第３章　自由に対する罪をあらかじめ読み、予習しておく。（２時間）
	授業内容	**第１編個人的法益に対する罪・第３章　自由に対する罪に関する山口説について、その特徴とその論拠、及びその妥当性について発表し、質疑応答してもらう。**
	事後学習	自由の罪に関する山口説の妥当性について、発表をもとに各自が吟味する。（２時間）
6	事前学習	第１編個人的法益に対する罪・第４章　人格的法益に対する罪をあらかじめ読み、予習しておく。（２時間）
	授業内容	**第１編個人的法益に対する罪・第４章　人格的法益に対する罪に関する山口説について、その特徴とその論拠、及びその妥当性について発表し、質疑応答してもらう。**
	事後学習	人格的法益に対する罪に関する山口説の妥当性について、発表をもとに各自が吟味する。（２時間）
7	事前学習	第１編個人的法益に対する罪・第５章　信用及び業務に対する罪をあらかじめ読み、予習しておく。（２時間）
	授業内容	**第１編個人的法益に対する罪・第５章　信用及び業務に対する罪に関する山口説について、その特徴とその論拠、及びその妥当性について発表し、質疑応答してもらう。**
	事後学習	信用および業務に対する罪に関する山口説の妥当性について、発表をもとに各自が吟味する。（２時間）
8	事前学習	第１編個人的法益に対する罪・第６章　財産に対する罪をあらかじめ読み、予習しておく。（２時間）
	授業内容	**第１編個人的法益に対する罪・第６章　財産に対する罪に関する山口説について、その特徴とその論拠、及びその妥当性について発表し、質疑応答してもらう。**
	事後学習	財産に対する罪に関する山口説の妥当性について、発表をもとに各自が吟味する。（２時間）
9	事前学習	第２編　社会的法益に対する罪・第１章　公共危険罪をあらかじめ読み、予習する。（２時間）
	授業内容	**第２編　社会的法益に対する罪・第１章　公共危険罪に関する山口説について、その特徴とその論拠、及びその妥当性について発表し、質疑応答してもらう。**
	事後学習	公共危険罪に関する山口説の妥当性について、発表をもとに各自が吟味する。（２時間）
10	事前学習	第２編　社会的法益に対する罪・第２章　取引等の安全に対する罪をあらかじめ読み、予習しておく。（２時間）
	授業内容	**第２編　社会的法益に対する罪・第２章　取引等の安全に対する罪に関する山口説について、その特徴とその論拠、及びその妥当性について発表し、質疑応答してもらう。**
	事後学習	取引等の安全に対する罪に関する山口説の妥当性について、発表をもとに各自が吟味する。（２時間）
11	事前学習	第２編　社会的法益に対する罪・第３章　風俗に対する罪をあらかじめ読み、予習する。（２時間）
	授業内容	**第２編　社会的法益に対する罪・第３章　風俗に対する罪に関する山口説について、その特徴とその論拠、及びその妥当性について発表し、質疑応答してもらう。**
	事後学習	風俗に対する罪に関する山口説の妥当性について、発表をもとに各自が吟味する。（２時間）
12	事前学習	第３編　国家的法益に対する罪・第１章　国家の存立に対する罪をあらかじめ読み、予習する。（２時間）
	授業内容	**第３編　国家的法益に対する罪・第１章　国家の存立に対する罪に関する山口説について、その特徴とその論拠、及びその妥当性について発表し、質疑応答してもらう。**
	事後学習	国家の存立に対する罪に関する山口説について、発表をもとに各自が吟味する。（２時間）
13	事前学習	第３編　国家的法益に対する罪・第２章　国交に関する罪をあらかじめ読み、予習する。（２時間）
	授業内容	**第３編　国家的法益に対する罪・第２章　国交に関する罪に関する山口説について、その特徴とその論拠、及びその妥当性について発表し、質疑応答してもらう。**
	事後学習	国交に関する罪に関する山口説の妥当性について、発表をもとに各自が吟味する。（２時間）
14	事前学習	第３編　国家的法益に対する罪・第３章　国家の作用に対する罪をあらかじめ読み、予習する。（２時間）
	授業内容	**第３編　国家的法益に対する罪・第３章　国家の作用に対する罪に関する山口説について、その特徴とその論拠、及びその妥当性について発表し、質疑応答してもらう。**
	事後学習	国家の作用に対する罪に関する山口説の妥当性について、発表をもとに各自が吟味する。（２時間）

15	事前学習	これまでの発表を振り返り、山口説の根底にある基本思想は何かを見極めてみる。（２時間）
	授業内容	**刑法各論における山口刑法学の基本姿勢について検討する。**
	事後学習	本講義で身につけた研究テクニックをどのように生かせるか各自が考える。（２時間）

科目名	刑法特殊講義Ⅱ	担当者	南　由介	期間	後期	単位数	2

授業概要	本講義では、理論刑法学に関する文献を精読し、今日の刑法理論を学修する。
授業目的・到達目標	近時の理論刑法学に関する文献を精読し、批判的に検討することを通して、今日の理論刑法学の現状を把握し、刑法理論についての深い理解をえることを目的とする。 刑法理論に関し、学説を批判的に検討した上で、自己の見解を論理的に展開できるようになることを目標とする。 関連するDP・CP公法学専攻1,2,3,5,6
履修条件	特になし。
授業方法	あらかじめ決めておいた報告者が報告を行った後、受講者全員で議論を行う（履修者が少ない場合は、報告者をあらかじめ決めず、受講者全員が各自疑問に感じた点を摘示し、議論を行う形式とする）。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	報告の内容、議論への参加度、扱った題材の理解度から、総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし。		

参考書	必要に応じて、適宜紹介する。
オフィスアワー	金曜日14：40～16：10（事前にメールでアポイントメントを取ること）研究室9号館4階　minami.yusuke〇nihon-u.ac.jp（メール送信時は、「〇」を「@」に）

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	受講にあたって、刑法学の復習をしておく。（２時間）
	授業内容	**オリエンテーション**
	事後学習	次回以降の授業に備え、刑法学の復習をする。（２時間）
2	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）
3	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）

4	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）
5	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）
6	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）
7	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）
8	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）
9	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）
10	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）
11	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）
12	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）
13	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）
14	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）
15	事前学習	報告の題材となる文献を精読し、問題点・疑問点を抽出する。（２時間）
	授業内容	**報告者の報告の後、議論を行う。**
	事後学習	扱った文献・授業での議論において生じた疑問を解消する。（２時間）

科目名	刑事訴訟法特殊講義Ⅰ	担当者	関　正晴	期間	前期	単位数	2

授業概要	裁判員制度の概要とその理論的問題点,諸外国における国民の司法参加制度,裁判員裁判と憲法問題,刑事弁護制度,接見交通権の内容と保障の趣旨・接見指定要件の解釈についての学説、犯罪被害者保護法の内容、犯罪被害者の刑事手続参加、捜査構造論と被疑者の取調受忍義務、取調べの可視化、余罪取調べの限界についての主要な学説、別件逮捕・勾留の概念、その問題点についての主要な学説等を検討し、そこでの問題点と解決方法を学修する。
授業目的・到達目標	[授業目的]刑事訴訟法が当面している課題を中心に検討し、理論上の重要問題について、院生の発表や院生との討論を通して研究を深める。司法制度改革の資料や刑事訴訟法改正の資料等にも検討を加える。刑事訴訟の基本構造と手続の流れを理解し、それらの内容を身につける。最近の実務の動向や立法の動向について考察し理解する。[到達目標]①刑事訴訟の基本構造と手続の流れを理解できる。②司法制度改革や刑事訴訟法改正の資料等を分析して、刑事裁判においてどのような問題が生じているかを説明できる。③最近の実務の動向について説明し自分の意見を述べられる。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻１，２，３，５
履修条件	特になし。
授業方法	院生のレポート等の発表や討論を中心に検討する授業を行って、課題等についての理解を深める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	授業時間中の課題や検討テーマに対する意見発表や質問の内容を基準に、到達目標に係る積極的な学修態度が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019年	弘文堂	Ｎｅｘｔ教科書シリーズ　刑事訴訟法[第２版]	関正晴編
	備考			

参考書	刑事訴訟法判例百選(第9版)、刑事訴訟法判例百選(第10版)、刑事訴訟法の争点(新版)、刑事訴訟法の争点(第3版)。 前の週の授業の時に、各検討課題ごとに参考文献を必要に応じて指示する。
オフィスアワー	授業後に授業講堂にて質問を受け付けます。質問内容によっては、授業終了後に、事前のアポイントをとってもらい相談の時間を設けます。

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	教科書の20頁から25頁を読み予習しておくこと(事前学修60分)。
	授業内容	**裁判員制度の概要とその理論的問題点（１）：司法制度改革で制度設計された裁判員制の概要と、諸外国の国民参加型の裁判制度である参新制度、陪審制度の沿革、特徴、運用において問題とされている事項等を分析し検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、各検討課題ごとに指定した参考文献や教科書の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと(事後学修180分)。
2	事前学習	教科書の20頁から25頁や、各検討課題ごとに指定しておいた教科書や参考文献の該当部分を読み予習をしておくこと(事前学修90分)。
	授業内容	**裁判員制度の概要とその理論的問題点（２）：司法制度改革で制度設計された裁判員制の概要と、諸外国の国民参加型の裁判制度である参新制度、陪審制度の沿革、特徴、運用において問題とされている事項等を分析し検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと(事後学修150分)。
3	事前学習	検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと(事前学修120分)。
	授業内容	**諸外国における国民の司法参加制度（１）：アメリカ、ドイツ等の欧米諸国における国民参加型の裁判制度の概要と特徴、問題点等を検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと(事後学修120分)。

4	事前学習	検討課題に応じて指定しておいたた参考文献を読み予習をしておくこと(事前学修120分)。
	授業内容	**諸外国における国民の司法参加制度（２）：アメリカ、ドイツ等の欧米諸国における国民参加型の裁判制度の概要と特徴、問題点等を検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと(事後学修120分)。
5	事前学習	検討課題に応じて指定した参考文献を読み予習をしておくこと(事前学修60分)。
	授業内容	**裁判員裁判と憲法問題（１）：裁判員裁判制度を立法する際して問題となった憲法上の問題点を検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと(事後学修180分)。
6	事前学習	検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと(事前学修60分)。
	授業内容	**裁判員裁判と憲法問題（２）：裁判員裁判制度を立法する際して問題となった憲法上の問題点を検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと(事後学修180分)。
7	事前学習	教科書の36頁から41頁,92頁から95頁を読み予習し、検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと(事前学修60分)。
	授業内容	**刑事弁護制度（１）：刑事弁護人制度の意義、弁護人依頼権の憲法上及び刑事訴訟法上の根拠、実質的で有効な弁護を受ける権利の内容、被疑者と被告人のそれぞれの国選弁護制度の内容について検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと(事後学修180分)。
8	事前学習	教科書の36頁から41頁,92頁から95頁を読み予習し、検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと(事前学修60分)。
	授業内容	**刑事弁護制度（２）：接見交通権の内容と保障の趣旨、憲法34条の弁護人依頼権との関係、接見指定要件の解釈についての学説、刑事訴訟法39条3項の合憲性についての最高裁大法廷判決を検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと(事後学修180分。
9	事前学習	教科書の42頁から48頁を読み予習し、検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと(事前学修90分)。。
	授業内容	**被害者の法的地位（１）：従来の被害者に対する刑事手続における取扱を検討し、犯罪被害者保護法によって新たに導入された制度の内容について条文に則して検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと(事後学修150分)。。
10	事前学習	教科書の42頁から48頁を読み予習し、検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくことと(事前学修90分)。
	授業内容	**被害者の法的地位（２）犯罪被害者の刑事手続参加等についての理論的問題を検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと事後学修150分)。
11	事前学習	検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと(事前学修90分)。。
	授業内容	**被疑者取調べをめぐる問題点と最近の立法の動向（１）：捜査構造論と身柄拘束中の被疑者の取調受忍義務の有無についての学説を検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと（事後学修150分)。
12	事前学習	検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと(事前学修90分）。
	授業内容	**被疑者取調べをめぐる問題点と最近の立法の動向（２）：現行法の被疑者取調の適法性を担保するための法的規制と諸制度を検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと（事後学修150分)。
13	事前学習	検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと(事前学修90分）。
	授業内容	**被疑者取調べをめぐる問題点と最近の立法の動向（3）：取調べの可視化をめぐる見解を検討し、最近導入され実施されている方策と制度を検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと（事後学修150分)。
14	事前学習	検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと(事前学修90分）。
	授業内容	**余罪取調と別件逮捕をめぐる問題点（１）余罪取調べの限界についての主要な見解を検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと（事後学修150分)。
15	事前学習	教科書の68頁から69頁を読み予習し、検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと(事前学修90分）。
	授業内容	**余罪取調と別件逮捕をめぐる問題点（２）：別件逮捕・勾留の概念、その問題点についての主要な見解を検討し、余罪取調べの限界についての問題との関係を検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと（事後学修150分)。

科目名	刑事訴訟法特殊講義Ⅱ	担当者	関　正晴	期間	後期	単位数	2

授業概要	検察審査会制度,検察審査会法の改正点,訴因と公訴事実の関係、訴因変更制度,公訴事実の同一性の判断基準,訴因変更命令の義務性、公判前整理手続の概説、公判前整理手続導入の際に問題となった事項に対する検討、伝聞証拠・供述証拠と伝聞法則の趣旨、伝聞法則の適用外と例外、違法収集証拠排除法則の諸問題、上訴制度総説、不利益変更禁止の原則、破棄判決の拘束力、控訴審の基本構造、事実取調べの範囲についての解釈論を修得し理解する。
授業目的・到達目標	[授業目的]刑事訴訟法が当面している課題を中心に検討し、理論上の重要問題について、院生の発表や院生との討論を通して研究を深める。司法制度改革や刑事訴訟法改正の資料等にも検討を加える。刑事訴訟法の基本構造と手続の流れを理解し、それらの内容を身につける。最近の実務の動向や立法の動向について考察し理解する。[到達目標]①刑事訴訟法の基本構造と手続の流れを理解できる。②司法制度改革や刑事訴訟法改正の資料等を分析して、刑事裁判においてどのような問題が生じているかを説明できる。③最近の実務の動向について説明し自分の意見を述べられる。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻１，２，３，５
履修条件	特になし。
授業方法	院生のレポート等の発表や討論を中心に検討する授業を行って、課題等についての理解を深める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業時間中の課題や検討テーマに対する意見発表や質問の内容を基準に、到達目標にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019年	弘文堂	Ｎｅｘｔシリーズ　刑事訴訟法[第2版]	関正晴編
	備考			

参 考 書	刑事訴訟法判例百選(第9版)、刑事訴訟法判例百選(第10版)、刑事訴訟法の争点(新版)、刑事訴訟法の争点(第3版版)。前の週の授業の時に、各検討課題ごとに必要に応じて指示する。
オフィスアワー	授業後に授業講堂にて質問を受け付けます。質問内容によっては、授業終了後に、事前のアポイントをとってもらい相談の時間を設けます。

【授業計画】

回数	授　業　内　容	
1	事前学習	教科書の27頁から31頁,116頁から120頁を読み予習し、検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと(事前学修60分)。
	授業内容	**検察審査会制度（1）：検察審査会制度の導入の経緯、改正前の検察審査会制度の内容と問題点を検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと(事後学修180分)。
2	事前学習	教科書の27頁から31頁,116頁から120頁を読み予習し、検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと(事前学修90分)。
	授業内容	**検察審査会制度（2）：検察審査会法の改正点、検察審査会の起訴相当の議決に法的拘束力を認めたことについての問題点、検察審査会の審理が適正に行われるために改正検察審査会法が導入した新制度を検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと(事後学修150分)。
3	事前学習	教科書の132頁から139頁を読み予習し、検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと(事前学修60分)。
	授業内容	**訴因制度をめぐる問題点（1）：訴因制度、訴因と公訴事実の関係、訴因の明示・特定の要請、判例の訴因が明示・特定されているか否かの基準と具体的事例について検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと(事後学修180分)。

4	事前学習	教科書の139頁から147頁を読み予習し、検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと(事前学修60分)。
	授業内容	**訴因制度をめぐる問題点（２）：訴因変更制度の意義、訴因の追加、撤回、狭義の変更、訴因変更の要否を判断する基準についての判例の立場と主要な学説の考え方について検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと(事後学修180分)。
5	事前学習	教科書の147頁から155頁を読み予習し、検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと(事前学修60分)。
	授業内容	**訴因制度をめぐる問題点（３）：公訴事実の同一性を判断する基準についての判例と主要な学説の考え方、訴因変更の時機的な限界について検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと(事後学修180分)。
6	事前学習	教科書の155頁から158頁を読み予習し、検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと(事前学修60分)。
	授業内容	**訴因制度をめぐる問題点（４）：裁判所は訴因変更を命じる義務を負うかについての判例の立場と主要な学説の考え方、訴因変更命令の効力について検討する。。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと(事後学修180分)。
7	事前学習	教科書の13頁,174頁から183頁を読み予習し、検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと(事前学修120分)。
	授業内容	**公判前整理手続（１）：従来の準備手続の概要、証拠開示を認めるか否かについての学説と最高裁判例の内容と集中審理を実現する上での問題点を検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと(事後学修120分)。
8	事前学習	教科書の13頁,174頁から183頁を読み予習し、検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと(事前学修120分)。
	授業内容	**公判前整理手続（２）:公判前準備手続の裁判裁判制度との関係での位置づけ、争点の確認と証拠の整理を行う判前準備手続の各制度の内容を検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと(事後学修120分)。
9	事前学習	教科書の13頁、174頁から183頁を読み予習し、検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと（事前学修120分)。
	授業内容	**公判前整理手続（３）：公判前整理手続を導入する際して問題となった事項に対する理論的検討をし、導入後に改正された条文等wo 検討を加える。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと事後学修120分)。
10	事前学習	教科書の221頁から226頁を読み予習し、検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと(事前学修60分)。
	授業内容	**伝聞法則について重要問題（１）：伝聞証拠の意義、供述証拠と伝聞法則の趣旨、伝聞法則と憲法の関係、伝聞法則の適用外等を検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと(事後学修180分)。
11	事前学習	教科書の227頁から234頁を読み予習し、検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと（事前学修120分)。
	授業内容	**伝聞法則について重要問題（２）：伝聞法則の例外を認める理由と例外を認める柱、伝聞法則の例外の各条文を検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと(事後学修120分)。
12	事前学習	教科書の234頁から237頁を読み予習し、検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと(事前学修60分)。
	授業内容	**伝聞法則について重要問題（３）：同意書面、合意書面、証明力を争うための証拠、写真・録音テープ等の証拠法上の取扱を検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと(事後学修180分)。
13	事前学習	教科書の238頁から241頁を読み予習し、検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと（事前学修120分)。
	授業内容	**違法収集証拠排除法則の諸問題：違法収集証拠排除法則の根拠、同法則についての学説の考え方と判例の立場、違法収集 証拠を排除するか否かの判断に際して考慮すべき要素、違法収集証拠に基づき発見された第二次的証拠を排除する基準を検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと(事後学修120分)。
14	事前学習	教科書の271頁から27857頁を読み予習し、検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと(事前学修60分)。
	授業内容	**上訴制度総説：上訴制度の意義と種類、上訴権、上訴の利益、不利益変更禁止の原則、破棄判決の拘束力を検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと(事後学修180分)。
15	事前学習	教科書の279頁から286頁を読み予習し、検討課題に応じて指定しておいた参考文献を読み予習をしておくこと事前学修120分)。
	授業内容	**控訴審の構造と事実の取調べ：控訴審の基本構造、審理手続、事実取調べの範囲、職権証拠取調べの運用問題等を検討する。**
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、再度、教科書や参考文献の該当部分を読んで授業内容を確認し理解しておくこと(事後学修120分)。

科目名	刑事政策特殊講義Ⅰ	担当者	尾田　清貴	期間	前期	単位数	2

授業概要	刑法・刑事訴訟法・精神保健福祉法などの一部改正を受けて、においても様々な改革や改善が行われている。この変化に対応するため、院生自ら問題意識を持って、現在の社会的課題解決に立ち向かえる力を養えるよう、各項目に関する基調報告に対する自由討議を中心に学修する。
授業目的・到達目標	【授業目的】個別具体的な刑事司法の各段階を追って、応報的司法と修復的司法や治療的司法等の新しい司法制度の考え方も踏まえて、欧米の資料も参考にしながら、考察を深めることにする。 【到達目標】刑事政策を巡る最近の諸外国の動向を踏まえ、個別事象に関する批判力と提言力を身に付けることを目指す。 関連するDP.CP（公法学専攻）1.2.3.5.7
履修条件	憲法、刑法、刑事訴訟法、刑事政策に関する基本的な知識を有していることが望ましい。アメリカ連邦司法省やイギリス内務省のデータベースを検索し、各テーマに関する資料を検討するのに必要な、ある程度の読解力が求められる。
授業方法	テーマ毎に主たる報告者を決め、基調報告を踏まえて討論を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	基調報告に対して討論を実施するので、発表資料の内容と的確性、報告の妥当性、他者の報告に対する適切な助言や検討能力を毎回評価することによって行う。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特に指定せず、その都度、事前に次の課題に関する基本的な文献や資料について指示、PDFファイルを配付する。 英文資料については、基礎的資料の所在については、情報提供する。		

参考書	特に指定せず。アメリカ連邦司法省司法研究所やイギリス内務省のデータベース等から、関連論文をダウンロードする。
オフィスアワー	メール（oda.kiyotaka@nihon-u.ac.jp」によって原則実施するが、月曜日の講義の後講堂が確保できれば、受講者と相談して方法等を決める。

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	テーマに関する項目について、各自が刑事政策の教科書などを読んで、理解しておくこと（120分）
	授業内容	**犯罪原因論の変遷（１） 犯罪＝素質＋環境 個人に着目した犯罪原因論の変遷について検討する。　現代の社会事象分析に有効な理論を抽出する**
	事後学習	現代の犯罪現象について、理論の当てはめをしてみることが望ましい。（120分）
2	事前学習	テーマに関する項目について、各自が刑事政策の教科書などを読んで、理解しておくこと、特に、事前抑止と事後抑止の関連性について調べておくこと（120分）
	授業内容	**犯罪原因論の変遷（２） 犯罪＝加害者（行為者）＋被害者（被害対象物）＋物理的環境 物理的環境要因の存否から犯罪原因を検討する。**
	事後学習	犯罪抑止の可能性について検討する（120分）
3	事前学習	刑事司法手続全般に、どの様な専門家・機関が関わるかについて調べてみる（120分）
	授業内容	**犯罪抑止の担い手（１） 専門家･機関に加えて、地方自治体の果たすべき役割と機能について、地域社会への再統合に向けた視点から検討する。**
	事後学習	横の連携について考え、地域包括支援センター等活用によるsafety　net を構築してみる（120分）

4	事前学習	事前予防と再犯防止について調べる（120分）
	授業内容	**犯罪抑止の担い手（２） 非専門家である一般人(ボランティア活動を含む)の役割と機能について、非収容・社会内処遇の拡大傾向を踏まえて検討する。**
	事後学習	専門家と非専門家の連携のあり方についてまとめる（120分）
5	事前学習	体感治安の悪化と自ら守ることの意味を考える。特に、警察・自治体のHPにおける犯罪情報・犯罪予防・被害者保護等に関する情報提供の利便性について確認しておくこと。（120分）
	授業内容	**三者連携のあり方 刑事司法機関、自治体、及び生活者の犯罪抑止における連携及び課題について検討する。**
	事後学習	望ましい三者連携のあり方を提言してみる（120分）
6	事前学習	犯罪白書で該当部分について調べる（120分）
	授業内容	**成人犯罪者の再犯抑止について検討する。特に、性犯罪等り累犯性の高い犯罪者に対する処遇の課題については、検討を深める**
	事後学習	累犯性犯罪者の再犯抑止について考える（120分）
7	事前学習	どんな種類があり、その目的は何かなどについて調べる（120分）
	授業内容	**猶予制度の現状、新たな取り組みと課題について検討する。**
	事後学習	猶予制度の課題と改善策についてまとめる（120分）
8	事前学習	応報的司法と修復的司法の差異について調べる（120分）
	授業内容	**応報的司法の現状と課題について検討し、課題解決のために修復的司法がどの様に関われるかについて検討する。**
	事後学習	択一的制度とするか相互補完的制度とするか、考えをまとめる（120分）
9	事前学習	治療的司法について調べる（120分）
	授業内容	**応報的司法では限界のある性犯罪・薬物事犯・精神病者の犯罪に対応するための治療的司法について検討する。 治療的司法を応報的司法とどの様に関係付けることが出来るのか検討する。**
	事後学習	精神医学の知見に基づく治療と刑罰の関係についてまとめる（120分）
10	事前学習	犯罪白書の該当箇所、刑事政策の教科書等で、現状理解を進めておく。また、諸外国の状況等についてもアムネスティー・インターナショナルのHP等を検索しておくことが望ましい（120分）
	授業内容	**死刑制度の是非について検討する。**
	事後学習	自らの考えをまとめる（120分）
11	事前学習	犯罪白書の該当箇所、刑事政策の教科書等で、現状理解を進めておく（120分）
	授業内容	**刑法改正により拘禁刑が導入されたことにより、自由刑の処遇内容に変化が生じており、その現状と課題について検討する。開放処遇や代替刑の検討も行う**
	事後学習	解決すべき課題とそれに対する解決策を提示する（120分）
12	事前学習	犯罪白書の該当箇所、刑事政策の教科書等で、現状理解を進めておく（120分）
	授業内容	**保護観察制度を中心とした社会内処遇の現状と課題について検討する。**
	事後学習	解決すべき課題とそれに対する解決策を提示する（120分）
13	事前学習	犯罪白書・警察白書等の該当箇所、刑事政策の教科書等で、現状理解を進めておく（120分）
	授業内容	**高齢者犯罪への対応について、更生緊急保護制度の効果的な運用も含め、検討する。**
	事後学習	解決すべき課題とそれに対する解決策を提示する（120分）
14	事前学習	警察白書・犯罪白書・被害者白書の該当箇所、警察庁・法務省・裁判所等のHP、刑事政策の教科書等で、現状理解を進めておく（120分）
	授業内容	**刑事司法手続における被害者の権利と保護の現状について検討する。**
	事後学習	改善策をまとめる（120分）
15	事前学習	警察庁・法務省・厚生労働省・日本弁護士連合会・裁判所等のHP、刑事政策の教科書等で、現状理解を進めておく（120分）
	授業内容	**措置入院・医療観察制度の現状と課題について、対象者の人権保護と治療的処遇との関係について検討する。**
	事後学習	一般人と精神障害者の治療を受ける権利を憲法上の権利(患者の自己決定権)として比較・検討した上で、改善策をまとめる（120分）

科目名	刑事政策特殊講義Ⅱ	担当者	尾田　清貴	期間	後期	単位数	2

授業概要	認知件数で刑法犯の半数を超える少年犯罪に対する司法手続の全ての段階について、少年法の課題についての理解が深められるよう、比較法的な視点も入れて議論を深めていく。 アメリカ、イギリス等の少年法制についても学ぶ機会を提供する。
授業目的・到達目標	【授業目的】少年犯罪に関する司法手続などを巡る課題について検討を加える。 【到達目標】基本的な現状理解にとどまらず、どうすれば課題克服が可能かについても提案・説明できるようにする。 関連するDP.CP（公法学専攻）1．2．3．5．7
履修条件	憲法、刑法、刑事訴訟法、少年法の基本的な知識を有していることが望ましい。 英米の少年法制に影響を受けていることから、英語文献を読むので、ある程度の読解力が求められる。
授業方法	テーマ毎に主たる報告者を決め、基調報告を踏まえて討論を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	基調報告に対して討論を実施するので、添付した資料の理解度や質疑応答の際の寄与度を毎回評価することによって行う。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特に指定せず、その都度、事前にGoogleclassroomで必要な資料を指示、またはPDFファイルを配信する。		

参考書	特に指定せず。アメリカ連邦司法省司法研究所のデータベース･イギリス内務省等から、関連論文をダウンロードする。
オフィスアワー	メール（oda.kiyotaka@nihon-u.ac.jp）で原則実施するが、月曜日の講義時間戦後に講堂が確保で切れは、履修者と相談して実施方法を決める。

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	少年警察の現状について、警察白書や警察学論集等に掲載された論文を調べる（120分）
	授業内容	**警察（制度）の現状と課題について（１） 健全育成と少年保護に果たす少年警察（健全育成課（係））の役割と機能について検討する。**
	事後学習	少年サポーセンターの機能についてまとめる（120分）
2	事前学習	少年警察の現状について、警察白書や警察学論集等に掲載された論文を調べる（120分）
	授業内容	**警察（制度）の現状と課題について（２） 少年事件に果たす少年警察(事件課（係）」の役割と機能について検討する。**
	事後学習	事件処理過程における適正手続の保障を巡る課題についてまとめる（120分）
3	事前学習	法務省・検察庁のHPでテーマに関する事項について調べる（120分）
	授業内容	**少年検察（制度）の現状と課題について（１） 検察（制度）の基本原則と少年司法に果たす役割と機能について検討する。**
	事後学習	検察（官）の役割と機能について整理する（120分）

4	事前学習	法務省・検察庁のHPでテーマに関する事項について調べる（120分）
	授業内容	**少年検察（制度）の現状と課題について（２） 刑事処分に移行した後の検察（官）の役割と機能について検討する。**
	事後学習	少年係検察官の役割についてまとめる。特に原則逆送事件に対する役割に留意が必要となる（120分）
5	事前学習	犯罪白書や法律雑誌等に掲載された論文により、該当箇所に関して調べる（120分）
	授業内容	**特定少年（18，19才）事案の少年司法手続における変容と課題について検討する。**
	事後学習	課題と対策についてまとめる（120分）
6	事前学習	裁判所のHPで、その構造と役割について調べる（120分）
	授業内容	**少年審判について、家庭裁判所の教育的機能について考察する。また、Parenting Orderと試験観察についても検討する**
	事後学習	課題と改善策についてまとめる（120分）
7	事前学習	裁判所のHPで、その構造と役割について調べる（120分）
	授業内容	**少年事件に関する刑事司法手続（裁判員裁判を含む）について検討する。**
	事後学習	原則逆送と刑事裁判を巡る課題と改善策についてまとめる（120分）
8	事前学習	裁判員裁判について、裁判所のHPで、その構造と役割について調べる（120分）
	授業内容	**少年事件における裁判員裁判(特定少年を含む)の是非について検討する。**
	事後学習	成人と少年により裁判員裁判にどの様な差異があるかまとめる（120分）
9	事前学習	犯罪白書・法務省のHPで該当箇所を事前に調べる（120分）
	授業内容	**少年矯正（少年院処遇と少年刑務所における刑罰）の現状と課題について検討する。**
	事後学習	少年院、少年刑務所における処遇実態についてまとめる（120分）
10	事前学習	犯罪白書・法務省のHPで該当箇所を事前に調べる（120分）
	授業内容	**保護観察制度の現状と課題について（１） 一号観察を巡る課題を中心に・特別遵守事項違反に対する保護処分の問題点についても検討する**
	事後学習	その課題と対策についてまとめる（120分）
11	事前学習	犯罪白書・法務省のHPで該当箇所を事前に調べる（120分）
	授業内容	**保護観察制度の現状と課題について（２） 仮退院(特定少年を含む)を巡る課題を中心に検討する。**
	事後学習	特別遵守事項の内容と実施上の課題と対策についてまとめる（120分）
12	事前学習	警察白書・犯罪白書等で現状について調べる（120分）
	授業内容	**薬物非行について、Drug Courtの導入の可否を含め，検討する。**
	事後学習	事前予防と再犯予防についてまとめる（120分）
13	事前学習	警察白書・犯罪白書等で、警察庁・法務省のHPで現状について調べる（120分）
	授業内容	**性非行の現状と課題について検討する。**
	事後学習	再犯防止の対策についてまとめる（120分）
14	事前学習	メーガン法についてアメリカ司法省のデータベースで調べる（120分）
	授業内容	**日本版メーガン法の制定に関する可能性について検討する。**
	事後学習	その是非についてまとめる（120分）
15	事前学習	社会奉仕命令（Social Service Order）について調べる（120分）
	授業内容	**社会奉仕命令の運用について検討する。 社会奉仕活動との差異についても検討する。**
	事後学習	どの段階で、どの様に活用できるかまとめる（120分）

科目名	裁判法特殊講義Ⅰ	担当者	オムニバス	期間	前期	単位数	2

授業概要	本講義では、日本の司法制度について、刑事司法と民事司法の両面から学修していく。受講者は事前に指定する課題に取り組み、研究報告を行い、受講者全員で議論することにより、理解を深める。
授業目的・到達目標	本講義では、日本の司法制度について、諸外国との比較も交えながら学修していく。刑事司法制度と民事司法制度の双方について、歴史的背景や裁判制度の特徴等を分析検討することにより、日本の司法制度の基礎的理解を深めることを目的とする。これらの学習を通して、刑事司法制度および民事司法制度を研究する上での知識の習得および分析力・思考力の養成を目標とする。【関連するDP・CP】公法学・私法学専攻1・3・4・6
履修条件	特になし。
授業方法	各自が割り当てられた課題について報告を行い、受講者全員で議論する方法で講義を進める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	報告内容・レポートにより基礎知識が身についているかを確認する。 講義時の発言や意見により積極的な学修態度が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			

参考書	
オフィスアワー	事前にメール連絡をして日時を予約すること。

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	日本における司法制度について自分なりに調査しておく。（2時間）
	授業内容	**ガイダンス①（本講義の概要・進め方について） 【小田　司】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
2	事前学習	日本における司法制度について自分なりに調査しておく。（2時間）
	授業内容	**ガイダンス②（日本における司法制度の概観） 【小田　司】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
3	事前学習	裁判制度の歴史を把握する。（2時間）
	授業内容	**裁判制度の成り立ち、および、その後の発展、民事裁判と刑事裁判が分かれていった過程を検討する。 【出雲　孝】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）

4	事前学習	我が国の近代以前、および、近代以降の裁判制度の概要を把握する。（2時間）
	授業内容	**我が国における近代以前（明治期以前）の裁判制度の形態、および、近代以降の裁判制度の発展、変遷を検討する。 【出雲　孝】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
5	事前学習	我が国の近代以前、および、近代以降の裁判制度の概要を把握する。（2時間）
	授業内容	**我が国における近代以前（明治期以前）の裁判制度の形態、および、近代以降の裁判制度の発展、変遷を検討する。 糾問主義と弾劾主義についても言及する。 【出雲　孝】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
6	事前学習	民事裁判と刑事裁判の特徴を把握する。（2時間）
	授業内容	**民事裁判と刑事裁判の目的の違い、民事裁判と刑事裁判における証明の程度の違い等を検討する。 【早乙女　宜宏】【佐々木　良行】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
7	事前学習	民事裁判と刑事裁判の特徴を把握する。（2時間）
	授業内容	**民事裁判と刑事裁判の目的の違い、民事裁判と刑事裁判における証明の程度の違い等を検討する。 【早乙女　宜宏】【佐々木　良行】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
8	事前学習	職権主義とは何か、当事者主義とは何か、概要を把握する。（2時間）
	授業内容	**職権主義の裁判の構造および当事者主義の裁判の構造の違いを把握し、問題点を分析、検討する。 【早乙女　宜宏】【佐々木　良行】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
9	事前学習	陪審制、参審制、裁判員制の各制度の概要を把握する。（2時間）
	授業内容	**国民が司法に参加する制度として、どのようなものがあるのか、各国の制度を分析し、考察するとともに、我が国が採用する裁判員制について、その特徴と問題点を検討する。 【柳瀬　昇】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
10	事前学習	陪審制、参審制、裁判員制の各制度の概要を把握する。（2時間）
	授業内容	**国民が司法に参加する制度として、どのようなものがあるのか、各国の制度を分析し、考察するとともに、我が国が採用する裁判員制について、その特徴と問題点を検討する。 【柳瀬　昇】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
11	事前学習	日本における裁判所の構造や種類等を把握する。（２時間）
	授業内容	**諸外国における裁判所の構造や専門裁判所の種類・役割等について調査・分析し、日本の裁判所のあり方について検討する。 【藤井　敏明】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
12	事前学習	日本における裁判所の構造や種類等を把握する。（２時間）
	授業内容	**諸外国における裁判所の構造や専門裁判所の種類・役割等について調査・分析し、日本の裁判所のあり方について検討する。 【村上　正敏】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
13	事前学習	日本における裁判手続のIT化に関する法改正までの経緯について把握する。（２時間）
	授業内容	**民事裁判を中心とする裁判手続のIT化実現による各手続の変容を学修し、諸外国の状況と比較しながら、今後の課題等について検討する。 【佐々木　良行】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
14	事前学習	これまでに扱った講義内容を復習する。（2時間）
	授業内容	**裁判法特殊講義Ⅰまとめ① 【小田　司】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）

15	事前学習	これまでに扱った講義内容を復習する。（2時間）
	授業内容	**裁判法特殊講義Ⅰまとめ②** **【小田　司】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）

科目名	裁判法特殊講義Ⅱ	担当者	オムニバス	期間	後期	単位数	2

授業概要	本講義では、日本における刑事司法手続、民事司法手続の具体的な手続について学修していく。受講者は事前に指定する課題に取り組み、研究報告を行い、受講者全員で議論することにより、理解を深める。
授業目的・到達目標	本講義では、前学期に学修した日本の司法制度の理解を前提として、日本における刑事司法制度と民事司法制度の具体的な手続きについてさらに学修する。それぞれの主要な制度や手続の流れについて検討することにより、日本の司法制度の基礎的理解を深めることを目的とする。これらの学習を通して、刑事司法制度および民事司法制度を研究する上での知識の習得および分析力・思考力の養成を目標とする。【関連するDP・CP】公法学・私法学専攻1・3・4・6
履修条件	裁判法特殊講義Ⅰの受講が望ましい。
授業方法	各自が割り当てられた課題について報告を行い、受講者全員で議論する方法で講義を進める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	報告内容・レポートにより基礎知識が身についているかを確認する。 講義時の発言や意見により積極的な学修態度が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			

参考書	
オフィスアワー	事前にメール連絡をして日時を予約すること。

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	前期の講義内容を復習しておく。（2時間）
	授業内容	**ガイダンス①（本講義の概要・進め方について） 【小田　司】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
2	事前学習	公判前整理手続きの概要を把握する。（2時間）
	授業内容	**公判前整理手続きの制度の趣旨、手続の流れを分析、考察し、その問題点を検討する。 【大島　隆明】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
3	事前学習	被害者参加制度について、概要を把握する。（2時間）
	授業内容	**被害者参加人として、刑事事件の手続きに参加する制度である被害者参加制度の仕組みを考察し、どのような問題点があるのか分析、検討する。 【早乙女　宜宏】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）

4	事前学習	裁判の公開の原則を確認し、証人の遮へい措置、ビデオリンク方式による証人尋問措置について、概要を把握する。（2時間）
	授業内容	**裁判の公開の意義を理解した上で、証人保護の観点から導入された、証人の遮へい措置やビデオリンク方式による証人尋問措置の仕組みを分析、考察し、その問題点を検討する。 【大島　隆明】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
5	事前学習	少年法の概要を把握する。（2時間）
	授業内容	**少年審判の通常手続について、少年警察・少年検察・家庭裁判所における非行少年の取扱を検討する。 【尾田　清貴】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
6	事前学習	少年法の概要を把握する。（2時間）
	授業内容	**刑事手続に移行した場合の成人手続との異同についてと、特定少年（18･19才）の手続について検討する。 【尾田　清貴】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
7	事前学習	調停や仲裁等のADRについて、その特徴等を把握する。（２時間）
	授業内容	**民事裁判手続におけるADRの役割を学修し、調停・仲裁等の問題点等について検討する。 【坂本　力也】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
8	事前学習	諸外国における調停や仲裁等のADRについて、自分なりに調査する。（２時間）
	授業内容	**諸外国におけるADRの役割を学修し、調停・仲裁等の問題点等について日本の状況と比較・検討する。 【坂本　力也】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
9	事前学習	民事保全手続の概要や特徴、手続きの流れについて把握する。（２時間）
	授業内容	**民事保全制度の役割を学修し、民事訴訟手続や民事執行手続との関係等について検討する。 【小田　司】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
10	事前学習	民事訴訟手続の概要や特徴、手続きの流れについて把握する。（２時間）
	授業内容	**民事訴訟手続の流れや原則・特徴を学修し、重要論点等について分析検討する。 【小田　司】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
11	事前学習	民事訴訟手続の概要や特徴、手続きの流れについて把握する。（２時間）
	授業内容	**前回に続き、民事訴訟手続の流れや原則・特徴を学修し、重要論点等について分析検討する。 【小田　司】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
12	事前学習	民事執行手続の概要や特徴、手続きの流れについて把握する。（２時間）
	授業内容	**民事執行制度の役割を学修し、民事保全手続や民事訴訟手続との関係等について検討する。 【小田　司】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
13	事前学習	破産・民事再生・会社更生手続の概要や特徴、手続きの流れについて把握する。（２時間）
	授業内容	**倒産処理手続の社会における必要性を学修し、各手続の相違点や倒産実体法との関係について検討する。 【古里　健治】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
14	事前学習	知的財産訴訟や知的財産裁判所の役割について、自分なりに調査する。（2時間）
	授業内容	**知財訴訟の特徴や手続きの流れ、知的財産裁判所の役割について、諸外国と比較しながら把握する。 【大須賀　滋】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）
15	事前学習	これまでに扱った講義内容を復習する。（2時間）
	授業内容	**裁判法特殊講義Ⅱまとめ 【小田　司】**
	事後学習	授業で扱った内容を復習し、理解を深める。（2時間）

科目名	法哲学特殊講義Ⅰ	担当者	松島　雪江	期間	前期	単位数	2

授業概要	Hypatia, Vol.17, No.3, Feminism and Disabilityの論考を輪読しながら、ジェンダーの視点や法と正義について学修する。
授業目的・到達目標	課題図書の輪読を通じて、国家が法を通じて個人にどうかかわっているのか、その様々な視点を批判的に考察することを目的とする。 ジェンダーの視点を身に着け、国家と個人とのかかわりについて理解し議論できるようにすることを目標とする。 関連するDP・CP 1,2,3,4,6,8
履修条件	特になし
授業方法	課題図書を読み、担当者による報告に基づいて議論を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	輪読担当箇所の調査、発表、並びに全体への議論状況を基準に、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2022年	Cambridge University	Hypatia, Vol.17, No.3, Feminism and Disability（コピーの上配布します）	Eva Kittay他
	備考	履修者の理解と関心により、書籍を変更する可能性がある		

参考書	Eva Feder Kittay, Lover's Labor, Routledge, 2019.
オフィスアワー	火曜12:20～12:50 事前にメールで連絡のこと。matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	輪読文献の監訳者解説を読み、論点を押さえておく。分からない語は抜き出し、調べておく。（3時間）
	授業内容	**『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』により、何が議論の対象となり得るかを検討する。輪読の分担を決める。**
	事後学習	キティが批判する「伝統的な正義論」について調べておく。（1時間）
2	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**序章：逃げていく平等について輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）
3	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**序章：フェミニストによる平等批判について輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）

4	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**序章：女性はそれでも平等を望むべきか？について輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）
5	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**第1部1章依存と平等の関係、「お母さんの子どもである」ということについて輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）
6	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**第1部1章依存と平等の関係、人間の条件としての依存について輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）
7	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**第1部第2章脆弱性と依存関係の道徳、依存労働者の透明な自己について輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）
8	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**第1部第2章脆弱性と依存関係の道徳、依存労働者の道徳的義務とケアの倫理について輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）
9	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**第1部第2章脆弱性と依存関係の道徳、依存労働者に対する道徳的義務について輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）
10	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**第2部第1章政治的リベラリズムと人間の依存、平等論の妥当性基準としての依存について輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）
11	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**第2部第1章政治的リベラリズムと人間の依存、平等の役割と前提について輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）
12	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**第2部第1章政治的リベラリズムと人間の依存、ロールズの議論の概要ついて輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）
13	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**第2部第2章平等の前提、秩序だった社会のための正義の環境について輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）
14	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**第2部第2章平等の前提、「すべての市民は十分に協同しうる構成員」という理念化について輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）
15	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**第2部第3章平等の前提、自由な人格とは「正当な要求を生み出す者」であるについて輪読を行う。前期の輪読内容に基づき、ケアの正義論について相互に検討し議論を行う。**
	事後学習	これまでの論点を挙げ、それに対してどのように考えられるかを文章化する。（2時間）

科目名	法哲学特殊講義Ⅱ	担当者	松島　雪江	期間	後期	単位数	2

授業概要	Hypatia, Vol.17, No.3, Feminism and Disabilityの論考を輪読しながら、ジェンダーの視点や法と正義について学修する。
授業目的・到達目標	課題図書の輪読を通じて、国家が法を通じて個人にどうかかわっているのか、その様々な視点を批判的に考察することを目的とする。 ジェンダーの視点を身に着け、国家と個人とのかかわりについて理解し議論できるようにすることを目標とする。 関連するDP・CP 1,2,3,4,6,8
履修条件	特になし
授業方法	課題図書を読み、担当者による報告に基づいて議論を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	輪読担当箇所の調査、発表、並びに全体への議論状況を基準に、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2022年	Cambridge University	Hypatia, Vol.17, No.3, Feminism and Disability（コピーの上配布します）	Eva Kittay他
	備考	履修者の理解と関心により、書籍を変更する可能性がある		

参考書	Eva Feder Kittay, Lover's Labor, Routledge, 2019.
オフィスアワー	火曜12:20～12:50 事前にメールで連絡のこと。matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	輪読文献の監訳者解説を読み、論点を押さえておく。分からない語は抜き出し、調べておく。（3時間）
	授業内容	**『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』により、何が議論の対象となり得るかを検討する。輪読の分担を決める。**
	事後学習	「伝統的な正義論」と「ケアの正義論」の異動について整理しておく（1時間）
2	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**第2部第4章社会的協同の恩恵と負担、道徳的人格が持つ二つの能力と基本財のリストについて輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）
3	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**第2部第4章社会的協同の恩恵と負担、社会的協同という公共的構想について輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）

4	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**第2部第4章社会的協同の恩恵と負担、結論－正義の原理と依存への関心ついて輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）
5	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**第3部皆だれかお母さんの子どもである、について輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）
6	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**第3部第5章政策とケアの公的倫理、福祉改悪について輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）
7	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**第3部第5章政策とケアの公的倫理、福祉の正当化について輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）
8	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**第3部第5章政策とケアの公的倫理、育児介護休業法について輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）
9	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**第3部第5章政策とケアの公的倫理、真の福祉改革－ドゥーリアに基づく福祉という展望について輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）
10	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**第7章違いのある子どもへの母的思考、生命を保護する愛について輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）
11	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**第7章違いのある子どもへの母的思考、受容のための社会化について輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）
12	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**第7章違いのある子どもへの母的思考、成長を促すについて輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）
13	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**第7章違いのある子どもへの母的思考、障碍のケアと社会正義について輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）
14	事前学習	授業で取り上げる該当箇所を読んでおく。分からない語については調べておく。担当者は内容の要約をA41枚程度のレジュメにまとめておく。（３時間）
	授業内容	**第7章違いのある子どもへの母的思考、理論家のための教えについて輪読を行う。担当者の報告に基づき、議論を行う。**
	事後学習	授業内で取り上げた論点について、各自簡単なエッセイをまとめておく。（1時間）
15	事前学習	これまでの内容を振り返り、論点を押さえておく。ケアの正義論について議論すべき個所を挙げておく。（2時間）
	授業内容	**これまでの議論を踏まえ、ケアとは何であるのか、従来の正義論と何が異なるのか、ケアを法に組み込むとはどういうことかについて討論する。**
	事後学習	これまでの論点を挙げ、それに対してどのように考えられるかを文章化する。（2時間）

科目名	法史学特殊講義 I	担当者	出雲 孝	期間	前期	単位数	2

授業概要	近代ドイツの著名な法学者であるルドルフ・フォン・イェーリングの著作を輪読する。
授業目的・到達目標	この講義の目的は、学生が法の歴史を学ぶことにより、本学大学院のカリキュラム・ポリシー①②④⑦⑧に照らして、豊かな教養・知識にもとづく高い倫理観を涵養し、法の歴史と世界の現状とを理解しながら解決すべき問題を発見し、他の分野と協働することで問題意識を深めることのできる人材の育成にある。具体的な到達目標として、ルドルフ・フォン・イェーリングの著作を輪読し、そこに見出される法的論点の歴史的位置付けを理解し、その現代的意義を把握することで現実社会へと応用するスキルを身につけることにある。関連するDP・CPは公法学専攻1,2,4,7,8である。
履修条件	ドイツ語の基礎的な文法知識があるとよい（必須ではない）
授業方法	各トピックについて担当者を決め、その担当者が準備したレジュメおよび報告を中心に議論を行なう。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	
	平 常 評 価	100%	担当時のレジュメ、報告および平時の議論への参加を総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書は使用しない		

参 考 書	受講希望者と相談の上、決定する。
オフィスアワー	月曜日13:30-15:00（Zoomで行うことも考えられるので、事前にizumo.takashi@nihon-u.ac.jpへ連絡してください）

【授業計画】

回数		授 業 内 容
1	事前学習	指定された文献について基本的な情報を調べる。（120分）
	授業内容	**指定されたテキストにつき、履修者の希望を勘案した上で、輪読の割り当てを行なう。**
	事後学習	自分が担当した箇所についてサーベイする。（120分）
2	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）
3	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）

4	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）
5	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）
6	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）
7	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）
8	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）
9	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）
10	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）
11	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）
12	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）
13	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）
14	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）
15	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）

科目名	法史学特殊講義Ⅱ	担当者	出雲 孝	期間	後期	単位数	2

授業概要	近代ドイツの著名な法学者であるルドルフ・フォン・イェーリングの著作を輪読する。
授業目的・到達目標	この講義の目的は、学生が法の歴史を学ぶことにより、本学大学院のカリキュラム・ポリシー①②④⑦⑧に照らして、豊かな教養・知識にもとづく高い倫理観を涵養し、法の歴史と世界の現状とを理解しながら解決すべき問題を発見し、他の分野と協働することで問題意識を深めることのできる人材の育成にある。具体的な到達目標として、ルドルフ・フォン・イェーリングの著作を輪読し、そこに見出される法的論点の歴史的位置付けを理解し、その現代的意義を把握することで現実社会へと応用するスキルを身につけることにある。関連するDP・CPは公法学専攻1,2,4,7,8である。
履修条件	ドイツ語の基礎的な文法知識があるとよい（必須ではない）
授業方法	各トピックについて担当者を決め、その担当者が準備したレジュメおよび報告を中心に議論を行なう。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	担当時のレジュメ、報告および平時の議論への参加を総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書は使用しない		

参考書	受講希望者と相談の上、決定する。
オフィスアワー	月曜日13:30-15:00（Zoomで行うことも考えられるので、事前にizumo.takashi@nihon-u.ac.jpへ連絡してください）

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	指定された文献について基本的な情報を調べる。（120分）
	授業内容	**指定されたテキストにつき、履修者の希望を勘案した上で、輪読の割り当てを行なう。**
	事後学習	自分が担当した箇所についてサーベイする。（120分）
2	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）
3	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）

4	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）
5	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）
6	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）
7	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）
8	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）
9	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）
10	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）
11	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）
12	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）
13	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）
14	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）
15	事前学習	指定された箇所をドイツ語原文および日本語訳で読む。担当者はA3で1枚程度のレジュメを切る。（120分）
	授業内容	**担当者がレジュメで発表し、それについて議論する。**
	事後学習	授業内での議論を整理し、まとめる。（120分）

科目名	英米法特殊講義Ⅰ	担当者	坂本　力也	期間	前期	単位数	2

授業概要	本講義では、ニューヨーク州弁護士（アメリカ）及び外国法事務弁護士（日本）として、英米法を準拠法とした国際契約に関わった経験を引きつつ、コモンローの基礎となるアメリカ契約法に基づく契約の成立要件と抗弁について判例と事案をとおして説明できる能力を養成する。
授業目的・到達目標	・大陸法との比較においてアメリカ契約法の特徴を説明することができるようになる。 ・英米法系の法域に所属する当事者と契約の交渉をする際に留意すべき事項について法的問題点を挙げて説明できるようになる。 ・英米法の専門用語を正確に理解し法的争点と法理を説明する際に効果的に使用できるようになる。 ・英米法特有のリーガルマインドを説明できるようになる。 関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，２，３，４，６
履修条件	授業での使用言語は日本語を基本とするが、受講者は講義ごとに課される英文資料を予習したうえで講義にのぞみ、日英両言語でなされる質疑応答に積極的に参加することを求められる。
授業方法	講義形式ですすめていくが、事例と判例についてはディスカッション形式ですすめていく。期末レポートのフィードバックは提出日に課題の出題趣旨と評価ポイントの解説をすることで行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	なし
	平 常 評 価	100%	授業での発言（30%）と期末レポートの内容（70%）を総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	1969	West Publishing Co.	Contracts	Chester H. Smith
	備考	講義中に資料を配布する。		

参 考 書	樋口範雄著『アメリカ契約法第2版』（弘文堂、2008年）、『英米判例百選第3版』（有斐閣、1996年）、 『アメリカ法判例百選』（有斐閣、2012年）、『英米法辞典』（東京大学出版会、1991年）
オフィスアワー	日時：水曜日12:30-13:00 場所：9号館1階ロビー 備考：休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	大陸法系と英米法系の特徴について調べ、自分なりの見解と疑問点をまとめてくる。（2時間）
	授業内容	**英米契約法総論（１）** **アメリカ契約法の法源には、主に判例法（common law）と制定法（statutory law）がある。これらの法源の相互関係を説明できるようになる。また、法律上の契約の「定義」と「成立要件」について説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）
2	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**英米契約法総論（２）** **アメリカにおける物品売買を対象とした統一商法典（UCC）第二編のコモンローとの関係を説明することができるようになる。また、コモンローとエクイティーについてその相互関係を説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）
3	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**契約の成立要件：相互の合意の一致：申込（offer）（1）** **申込の「定義」と「要件」について事例・判例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）

4	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**契約の成立要件：相互の合意の一致：申込（offer）（2） 「申込撤回自由の原則」や「オプション契約」など申込に関する法的争点と法理を判例と事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）
5	事前学習	講義で配布した教科書の資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**契約の成立要件：相互の合意の一致：承諾（acceptance）（1） 承諾の「定義」と「要件」について事例・判例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）
6	事前学習	講義で配布した教科書の資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**契約の成立要件：相互の合意の一致：承諾（acceptance）（2） 「ミラーイメージルール」や「メールボックスルール」といった承諾に関する法的争点と法理を説明できるようになる。物品売買に関しては「書式の戦い」に関する法的争点と法理を説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）
7	事前学習	講義で配布した教科書の資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**契約の成立要件：約因（consideration）（1） 約因は、英米契約法に特有の契約成立要件の一つであり、日本には存在しない法理である。約因に関する法的争点と法理について判例と事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）
8	事前学習	講義で配布した教科書の資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**契約の成立要件：約因（consideration）（２） 前週につづき、約因に関する法的争点と法理について判例と事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）
9	事前学習	講義で配布した教科書の資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**契約の成立要件：約因の代替（substitutes for consideration）―約束的禁反言（promissory estoppel） 約因が存在しない場合にも契約の成立が認められる場合を判例と事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）
10	事前学習	講義で配布した教科書の資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**契約の成立に対する抗弁（1） 　契約の成立に対する抗弁として認められてきた契約締結能力（capacity）の欠如、違法性（illegality）、強迫（duress）とかかる抗弁の結果として契約が無効（void）とされる場合と抗弁を主張しうる当事者によって取消しうべき（voidable）契約とされる場合について、判例と事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）
11	事前学習	講義で配布した教科書の資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**契約の成立に対する抗弁（2） 　錯誤（mistake）、詐欺（fraud）、非良心性（unconscionability）の抗弁が存在するときも、かかる抗弁の結果として契約が無効（void）とされる場合と抗弁を主張しうる当事者によって取消しうべき（voidable）契約とされる場合がある。これらの場合について判例と事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）
12	事前学習	講義で配布した教科書の資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**契約の成立に対する抗弁（3） 　詐欺防止法（Statute of Frauds）は17世紀に英国の議会を通過して成立した法律である。同法は一定の種類の契約が書面でなされることを要求し書面がなければ裁判所は契約の内容を強制しないものとする。同法はアメリカに受け継がれ発展してきた。判例と事例をとおして同法の対象となる契約の種類を整理し、関連する法的争点と法理について説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）
13	事前学習	講義で配布した教科書の資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**契約の成立に対する抗弁（4） 前週から続き、詐欺防止法に関する判例と事例をとおして、同法に関連する法的争点と法理について説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）
14	事前学習	講義で配布した教科書の資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**契約の成立に対する抗弁（5） 　詐欺防止法の対象となる契約でも部分履行（part performance）の法理や禁反言（estoppel）の法理により裁判所で強制されうる場合があることについて判例と事例をとおして説明できるようになる。また、口頭（文書）証拠排除法則(parol evidence rule)についても判例と事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）

15	事前学習	事前に課したレポートを作成し提出に備える。（3.5時間）
	授業内容	**レポートの提出と課題の出題趣旨と評価ポイントの解説を行う。**
	事後学習	出題趣旨と評価ポイントを踏まえ自らのパフォーマンスを分析する。（0.5時間）

科目名	英米法特殊講義Ⅱ	担当者	坂本　力也	期間	後期	単位数	2

授業概要	イギリス法を継受し豊富な判例の蓄積をとおして形成されてきたアメリカ不法行為法を判例・事例をとおして学んでいく。
授業目的・到達目標	・アメリカの民事裁判手続の流れを説明できるようになる。 ・アメリカの不法行為法の類型と各不法行為の構成要件及び抗弁について説明できるようになる。 ・英米法の専門用語を正確に理解したうえで上述の説明の中で使用できるようになる。 ・英米法特有のリーガルマインドを説明できるようになる。 関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，２，３，４，６
履修条件	授業での使用言語は日本語を基本とするが、受講者は講義ごとに課される英文資料を予習したうえで講義にのぞみ、日英両言語でなされる質疑応答に積極的に参加する姿勢を求められる。
授業方法	講義形式ですすめていくが、事例と判例についてはディスカッション形式ですすめていく。期末レポートのフィードバックはその提出日に課題の出題趣旨と評価ポイントの解説をとおして行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	なし
	平 常 評 価	100%	授業での発言（30%）と期末レポートの内容（70%）を総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書は講義中にレジュメ・資料を配布する。教科書は使用しない。		

参 考 書	『英米判例百選第3版』（有斐閣、1996年）、『アメリカ法判例百選』（有斐閣、2012年）、『英米法辞典』（東京大学出版会、1991年）
オフィスアワー	日時: 水曜日12:30-13:00 場所: 9号館1階ロビー 備考: 休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	大陸法系と英米法系の法制度の特徴について調べ、自分なりの見解と疑問点をまとめてくる。(2時間)
	授業内容	英米不法行為法を「故意による不法行為（intentional torts）」、「過失による不法行為（negligence）」、及び「厳格責任（strict liability）」に分け説明できるようになる。アメリカの民事裁判手続の流れを説明できるようになる。
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
2	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	アメリカ不法行為法に基づく救済方法（損害賠償・差止命令等）と救済の対象となる損害の類型（懲罰的賠償等）について判例・事例をとおして説明できるようになる。
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
3	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	「故意による不法行為」の類型を整理し、各不法行為の成立要件及び抗弁とそれらに関連する法的争点と法理を判例・事例をとおして説明できるようになる。
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)

4	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	**前週から続き、「故意による不法行為」の類型を整理し、各不法行為の成立要件及び抗弁とそれらに関連する法的争点と法理を判例・事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
5	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	**「過失による不法行為」の成立要件及び抗弁とそれらに関連する法的争点と法理を判例・事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
6	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	**前週から続き、「過失による不法行為」の成立要件及び抗弁とそれらに関連する法的争点と法理を判例・事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
7	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	**前週から続き、「過失による不法行為」の成立要件及び抗弁とそれらに関連する法的争点と法理を判例・事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
8	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	**前週から続き、「過失による不法行為」の成立要件及び抗弁とそれらに関連する法的争点と法理を判例・事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
9	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	**「厳格責任」の対象となる不法行為の類型について説明できるようになる。アメリカにおける「厳格責任」としての「製造物責任（products liability）」の形成過程を判例の流れから説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
10	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	**「厳格責任」の対象となる各不法行為の構成要件と抗弁とそれらに関する法的争点と法理を判例・事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
11	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	**「名誉毀損（defamation）」の成立要件及び抗弁とそれらに関連する法的争点と法理について判例・事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
12	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	**前週から続き、「名誉毀損（defamation）」の成立要件及び抗弁とそれらに関連する法的争点と法理について判例・事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
13	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	**「プライバシーの侵害（invasion of privacy）」の対象となる不法行為の類型を説明できるようになる。「プライバシーの侵害（invasion of privacy）」の対象となる各不法行為の成立要件及び抗弁とそれらに関連する法的争点と法理について判例・事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
14	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	**前週から続き、「プライバシーの侵害（invasion of privacy）」の対象となる各不法行為の成立要件及び抗弁とそれらに関連する法的争点と法理について判例・事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
15	事前学習	事前に課されたレポート課題についてレポートを作成し提出に備える。(3.5時間)
	授業内容	**レポート提出と課題の出題趣旨と評価ポイントの解説を行う。**
	事後学習	出題趣旨と評価ポイントを踏まえ自らのパフォーマンスを評価する。(0.5時間)

科目名	独法特殊講義Ⅰ	担当者	玉蟲　由樹	期間	前期	単位数	2

授業概要	本講義では，ドイツ連邦憲法裁判所の活動を手がかりに，ドイツの憲法理論の構築と変遷とを学修する。
授業目的・到達目標	ドイツ連邦憲法裁判所の過去の重要判例や最新の判例を精読することにより，ドイツの憲法裁判制度およびそこでの審査手法に関する深い理解を得ることを目的とする。 本講義では，主に1993年までの判例を取り上げる。連邦憲法裁判所が判例のなかでいかなる審査手法・判例法理を展開してきたかを理解し，説明できるようになることを目標とし，比較法的視点から日本法への示唆を得られるようにする。 関連するDP・CP　公法学専攻1，2，3，6
履修条件	連邦憲法裁判所の原語判決文を読める程度のドイツ語の読解能力を有していること。
授業方法	資料にもとづき受講者による報告・議論を中心に行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	報告・発言のクオリティおよび積極性を評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし		

参 考 書	ドイツ憲法判例研究会編『ドイツの憲法判例Ⅰ～Ⅳ』（信山社），工藤・畑尻編『ドイツの憲法裁判（第2版）』（中央大学出版部），鈴木・三宅編『ガイドブック　ドイツの憲法判例』（信山社）
オフィスアワー	月曜13：00～14：30 金曜13：00～14：30 研究室にて 事前にメール（tamamushi.yuki@nihon-u.ac.jp）等で連絡をすること。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスをよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	配布資料によく目を通しておくこと。（２時間）
2	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**ドイツの憲法裁判概論**
	事後学習	連邦憲法裁判所の組織・権限・手続について復習しておくこと。（２時間）
3	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所成立期（1951～55）の判例（1）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）

4	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所成立期の判例（2）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
5	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所成立期の判例（3）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
6	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所定着期（1956～1969）の判例（1）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
7	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所定着期の判例（2）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
8	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所定着期の判例（3）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
9	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所転換期（1970～1978）の判例（1）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
10	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所転換期の判例（2）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
11	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所転換期の判例（3）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
12	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所転換期の判例（4）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
13	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所安定期（1979～1993）の判例（1）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
14	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所安定期の判例（2）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
15	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所安定期の判例（3）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）

科目名	独法特殊講義Ⅱ	担当者	玉蟲　由樹	期間	後期	単位数	2

授業概要	本講義では，ドイツ連邦憲法裁判所の活動を手がかりに，ドイツの憲法理論の構築と変遷とを学修する。
授業目的・到達目標	ドイツ連邦憲法裁判所の過去の重要判例や最新の判例を精読することにより，ドイツの憲法裁判制度およびそこでの審査手法に関する深い理解を得ることを目的とする。 本講義では，主に1994年以降の判例を取り上げる。連邦憲法裁判所が判例のなかでいかなる審査手法・判例法理を展開してきたかを理解し，説明できるようになることを目標とし，比較法的視点から日本法への示唆を得られるようにする。 関連するDP・CP 公法学専攻1，2，3，6
履修条件	連邦憲法裁判所の原語判決文を読める程度のドイツ語の読解能力を有していること。
授業方法	資料にもとづき受講者による報告・議論を中心に行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	報告・発言のクオリティおよび積極性を評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし		

参 考 書	ドイツ憲法判例研究会編『ドイツの憲法判例Ⅰ～Ⅳ』（信山社），工藤・畑尻編『ドイツの憲法裁判（第2版）』（中央大学出版部），鈴木・三宅編『ガイドブック　ドイツの憲法判例』（信山社）
オフィスアワー	月曜13：00～14：30 金曜13：00～14：30 研究室にて 事前にメール（tamamushi.yuki@nihon-u.ac.jp）等で連絡をすること。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**「危機の時代」（1994～1996）の判例（1）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
2	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**「危機の時代」の判例（2）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
3	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**「危機の時代」の判例（3）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）

4	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**「危機の時代」の判例（4）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
5	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**2000年以降の判例（1）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
6	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**2000年以降の判例（2）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
7	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**2000年以降の判例（3）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
8	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**2000年以降の判例（4）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
9	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**2000年以降の判例（5）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
10	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**2000年以降の判例（6）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
11	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**まとめ（1）法と政治**
	事後学習	連邦憲法裁判所の活動と権力分立との関係性について復習しておくこと。（２時間）
12	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**まとめ（2）審査手法**
	事後学習	連邦憲法裁判所が展開してきた審査手法について整理・復習しておくこと。（２時間）
13	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**まとめ（3）審査基準**
	事後学習	審査基準について復習しておくこと。（２時間）
14	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**まとめ（4）連邦憲法裁判所批判**
	事後学習	近時の連邦憲法裁判所批判の特色について復習しておくこと。（２時間）
15	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**まとめ（5）連邦憲法裁判所とEU**
	事後学習	EUの活動に対する連邦憲法裁判所のスタンスを整理・復習しておくこと。（２時間）

科目名	仏法特殊講義Ⅰ	担当者	神尾　真知子	期間	前期	単位数	2

授業概要	フランス法に関する日本語で書かれた概説書を講読し、フランス法はどのように現行のフランス法に形成されたのか、現行フランス法の基本構造はどのようになっているのかを学習する。
授業目的・到達目標	院生が、フランス法の歴史的形成及び現行フランス法の基本構造を理解し、説明できるようにする。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，２，６
履修条件	院生が、自分の研究テーマに関して、フランス法を比較法として研究することをめざすこと。
授業方法	フランス法に関する日本語文献を輪読し、双方向的な講義とする。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	講義への積極的参加などにより総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	２０２１年度	三省堂	『フランス法（第5版）』	滝沢正
	備考			

参 考 書	中村紘一郎他監訳『フランス法律用語辞典（第３版）』三省堂、山口俊夫『概説フランス法上下』東京大学出版会
オフィスアワー	水曜日12時30分～13時（事前にメールでアポイントを取ること） 適宜場所を指定する。　kamio.machiko〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、フランス法を学ぶ意義について考える。教科書第2部第3編第3章「法資料の手引」を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**オリエンテーション－授業スケジュール、成績評価の方法、フランス法の学び方、文献検索方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。**
	事後学習	フランス法の学び方及び文献検索方法を確認する。（2時間）
2	事前学習	担当部分を予習し、ガリア・ローマ期のフランス法の国家体制と裁判制度の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（１）－ガリア・ローマ期のフランス法（国家体制と裁判制度）**
	事後学習	ガリア・ローマ期の国家体制と裁判制度はどのようなものだったのか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
3	事前学習	担当部分を予習し、ガリア・ローマ期のフランス法の法源を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（２）－ガリア・ローマ期のフランス法（法源）**
	事後学習	ガリア・ローマ期のフランス法の法源はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）

4	事前学習	担当部分を予習し、フランク王国期の国家体制と裁判制度の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（３）ーフランク王国期のフランス法（国家体制と裁判制度）**
	事後学習	フランク王国期の国家体制と裁判制度はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
5	事前学習	担当部分を予習し、フランク王国期のフランス法の法源を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（４）ーフランク王国期のフランス法（法源）**
	事後学習	フランク王国期のフランス法の法源はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
6	事前学習	担当部分を予習し、中世封建制度期の国家体制と裁判制度を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（５）ー中世封建制度期のフランス法（国家体制と裁判制度）**
	事後学習	中世封建制度期の国家体制と裁判制度はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
7	事前学習	担当部分を予習し、中世封建制度期のフランス法の法源を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（６）ー中世封建制度期のフランス法（法源）**
	事後学習	中世封建制度期のフランス法の法源はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
8	事前学習	担当部分を予習し、近世絶対王政期の国家体制と裁判制度の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（７）ー近世絶対王政期のフランス法（国家体制と裁判制度）**
	事後学習	近世絶対王政期の国家体制と裁判制度はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
9	事前学習	担当部分を予習し、近世絶対王政期のフランス法の法源を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（８）ー近世絶対王政期のフランス法（法源）**
	事後学習	近世絶対王政期のフランス法の法源はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
10	事前学習	担当部分を予習し、革命高揚期の国家体制と裁判制度の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（９）ー革命高揚期のフランス法（国家体制と裁判制度）**
	事後学習	革命高揚期の国家体制と裁判制度はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
11	事前学習	担当部分を予習し、革命高揚期のフランス法の法源を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（１０）ー革命高揚期のフランス法（法源）**
	事後学習	革命高揚期のフランス法の法源はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
12	事前学習	担当部分を予習し、革命終息期の国家体制と裁判制度の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（１１）ー革命終息期のフランス法（国家体制と裁判制度）**
	事後学習	革命高揚期の国家体制と裁判制度はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
13	事前学習	担当部分を予習し、革命高終息期のフランス法の法源を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（１２）ー革命終息期のフランス法（法源）**
	事後学習	革命終息期のフランス法の法源はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
14	事前学習	担当部分を予習し、旧体制復活期の国家体制と裁判制度の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（１３）ー旧体制復活期のフランス法（国家体制と裁判制度）**
	事後学習	旧体制復活期の国家体制と裁判制度はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
15	事前学習	担当部分を予習し、旧体制復活期のフランス法の法源の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（１４）ー旧体制復活期のフランス法（法源）**
	事後学習	旧体制復活期のフランス法の法源はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）

科目名	仏法特殊講義Ⅱ	担当者	神尾　真知子	期間	後期	単位数	2

授業概要	フランス法に関する日本語で書かれた概説書を講読し、フランス法はどのように現行のフランス法に形成されたのか、現行フランス法の基本構造はどのようになっているのかを学習する。			
授業目的・到達目標	院生が、フランス法の歴史的形成及び現行フランス法の基本構造を理解し、説明できるようにする。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，２，６			
履修条件	院生が、自分の研究テーマに関して、フランス法を比較法として研究することをめざすこと。			
授業方法	フランス法に関する日本語文献を輪読し、双方向的な講義とする。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験			
	平 常 評 価	100%	講義への積極的参加などにより総合的に評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	２０２１年度	三省堂	『フランス法（第5版）』	滝沢正
	備考			
参 考 書	中村紘一郎他監訳『フランス法律用語辞典（第３版）』三省堂、山口俊夫『概説フランス法上下』東京大学出版会			
オフィスアワー	水曜日12時30分～13時（事前にメールでアポイントを取ること） 適宜場所を指定する。　kamio.machiko〇nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授　業　内　容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、フランス法を学ぶ意義について考える。教科書第2部第3編第3章「法資料の手引」を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**オリエンテーション一授業スケジュール、成績評価の方法、フランス法の学び方、文献検索方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。**
	事後学習	フランス法の学び方及び文献検索方法を確認する。（2時間）
2	事前学習	担当部分を予習し、共和国確立期のフランス法の国家体制と裁判制度の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（１）一共和国確立期のフランス法（国家体制と裁判制度）**
	事後学習	共和国確立期の国家体制と裁判制度はどのようなものだったのか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
3	事前学習	担当部分を予習し、共和国確立期のフランス法の法源を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（２）一共和国確立期のフランス法（法源）**
	事後学習	共和国確立期のフランス法の法源はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）

4	事前学習	担当部分を予習し、フランスの大統領と政府の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（３）ー統治機構（大統領と政府）**
	事後学習	大統領と政府はどのような特色を持っているのか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
5	事前学習	担当部分を予習し、フランスの国会と憲法上の諮問機関の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（４）ー統治機構（国会と憲法上の諮問機関）**
	事後学習	国会と憲法上の諮問機関はどのような特色を持っているのか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
6	事前学習	担当部分を予習し、国家行政組織と分権団体の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（５）ー行政組織（国家行政組織と分権団体）**
	事後学習	国家行政組織と分権団体はどのような特色を持っているのか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
7	事前学習	担当部分を予習し、公務員制度と公物制度の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（６）ー行政組織（公務員制度と公物制度）**
	事後学習	公務員制度と公物制度はどのような特色を持っているのか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
8	事前学習	担当部分を予習し、旧植民地と近隣諸国との関係の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（７）ー対外関係（旧植民地と近隣諸国との関係）**
	事後学習	旧植民地と近隣諸国との関係はどのような特色を持っているのか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
9	事前学習	担当部分を予習し、司法裁判所と行政裁判所を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（８）ー裁判所（司法裁判所と行政裁判所）**
	事後学習	司法裁判所と行政裁判所はどのような特色を持っているのか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
10	事前学習	担当部分を予習し、特殊な裁判所を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（９）ー裁判所（特殊な裁判所）**
	事後学習	特殊な裁判所はどのような特色を持っているのか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
11	事前学習	担当部分を予習し、法律家の養成と職業的法律家を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（１０）ー法律家（法律家の養成と職業的法律家）**
	事後学習	法律家の養成と職業的法律家についての理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
12	事前学習	担当部分を予習し、社会生活と法を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（１１）ー法律家（社会生活と法）**
	事後学習	社会生活と法について理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
13	事前学習	担当部分を予習し、法源の種類を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（１２）ー法源（法源の種類）**
	事後学習	法源の種類について理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
14	事前学習	担当部分を予習し、各法分野の法源を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（１３）ー法源（各法分野の法源）**
	事後学習	各法分野の法源について理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
15	事前学習	これまで学んできたフランス法全体を振り返り、その特色を確認する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（１４）ーフランス法学習内容の振り返り**
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。（2時間）

科目名	外国公法特殊講義 I	担当者	庄司　克宏	期間	前期	単位数	2

授業概要	EU 法において中核となるのは（イ）EU 法の憲法的側面（EU 法の直接効果，国内法に対する優越性、基本的人権の保護など）および（ロ）域内市場法（物・人・サービス・資本の自由移動および競争法）である。本授業ではEU憲法という視点から、EUトランスナショナル･ガバナンスの法理論的検討を行う。
授業目的・到達目標	EU法のインプリケーションを各履修者の専攻分野にフィードバックし、各自の研究に応用できるようにすること。 関連するDP･CP公法学専攻1，2，3，4，5，6，8
履修条件	とくになし。
授業方法	指定する英文専門書を受講者のペースに合わせて輪読する。PDFで配布する。また、内容に関する概要（日本語）を事前に配布する。受講者による報告・議論を中心に行う。

成績評価

種別	割合	評価方法
定 期 試 験		
平 常 評 価	100%	プレゼンおよびレポート（報告レジュメ）60%、平常点（授業への参加度など）15%、学期末提出の最終コメント（ワードA4用紙1枚に1600～2000字程度）15%による。

教科書

年	出版社	書名	著者名
2022年	Oxford University Press	Jurisprudence of Constitutional Conflict in European Union (EU憲法抵触法理論)	Ana Bobić
2013年	岩波書店	新EU法基礎篇	庄司克宏

備考

参 考 書	庄司克宏著『新EU法政策篇』岩波書店、2014年
オフィスアワー	授業の前後に、質問、相談を受け付ける。（連絡用メールアドレス shoji.katsuhiro11@nihon-u.ac.jp ）

【授業計画】

回数		授 業 内 容
1	事前学習	『新EU法基礎篇』の序章、第1～3章を通読する。120分
	授業内容	**EU憲法の基礎について学習する。**
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
2	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	**PART I - THEORISING CONSTITUTIONAL CONFLICT(憲法抵触の理論化) 1:Introduction (序)**
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
3	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	**PART I - THEORISING CONSTITUTIONAL CONFLICT(憲法抵触の理論化) 2:Theoretical framework: Constitutional pluralism (理論的枠組み―立憲的多元主義)**
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分

4	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	PART I - THEORISING CONSTITUTIONAL CONFLICT(憲法抵触の理論化) 3:Constitutional pluralism as a descriptive theory（記述的理論としての立憲的多元主義）
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
5	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	PART I - THEORISING CONSTITUTIONAL CONFLICT(憲法抵触の理論化) 4:Constitutional pluralism as a normative theory（規範的理論としての立憲的多元主義）
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
6	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	PART II - THE JURISPRUDENCE（法理論） 5:Ultra vires review（権限踰越審査）　前半
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
7	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	PART II - THE JURISPRUDENCE 5:Ultra vires review（権限踰越審査）　後半
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
8	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	PART II - THE JURISPRUDENCE（法理論） 6:Identity review（アイデンティティ審査）　前半
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
9	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	PART II - THE JURISPRUDENCE（法理論） 6:Identity review（アイデンティティ審査）　後半
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
10	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	PART II - THE JURISPRUDENCE（法理論） 7:Fundamental rights review（基本権審査）　1／3
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
11	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	PART II - THE JURISPRUDENCE（法理論） 7:Fundamental rights review（基本権審査）　2／3
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
12	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	PART II - THE JURISPRUDENCE（法理論） 7:Fundamental rights review（基本権審査）　3／3
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
13	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	PART III - CONCLUSIONS（結論） 8:Judicial triangles across case studies（判例研究全般における司法的三角関係）
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
14	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	PART III - CONCLUSIONS（結論） 9:Three lessons and a warning（3つの教訓と警告）
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
15	事前学習	指定図書各章の要点を確認する。120分
	授業内容	総括とディスカッション
	事後学習	指定図書各章の要点を再確認する。120分

科目名	外国公法特殊講義Ⅱ	担当者	庄司　克宏	期間	後期	単位数	2

授業概要	EU 法において中核となるのは（イ）EU 法の憲法的側面（EU 法の直接効果，国内法に対する優越性、基本的人権の保護など）および（ロ）域内市場法（物・人・サービス・資本の自由移動および競争法）である。本授業ではEU憲法という視点から、EUトランスナショナル･ガバナンスの法理論的検討を行う。
授業目的・到達目標	EU法のインプリケーションを各履修者の専攻分野にフィードバックし、各自の研究に応用できるようにすること。 関連するDP･CP公法学専攻1，2，3，4，5，6，8
履修条件	とくになし。
授業方法	指定する英文専門書を受講者のペースに合わせて輪読する。PDFで配布する。また、事前に内容の概要（日本語）を配布する。受講者による報告・議論を中心に行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	プレゼンおよびレポート（報告レジュメ）60%、平常点（授業への参加度など）15%、学期末提出の最終コメント（ワードA4用紙1枚に1600～2000字程度）15%による。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2022年	Hart	Judicial Authority in EU Internal Market Law（EU域内市場法における司法権―権能と権限のバランスに対する含意）	Vilija Velyvyte
	2013年	岩波書店	新EU法基礎篇	庄司克宏
	備考			

参 考 書	庄司克宏著『新EU法政策篇』岩波書店、2014年 庄司克宏著『はじめてのEU法　第2版』有斐閣、2023年
オフィスアワー	授業の前後に、質問、相談を受け付ける。（連絡用メールアドレス shoji.katsuhiro11@nihon-u.ac.jp ）

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	『新EU法基礎篇』の第4，6，7章を通読する。120分
	授業内容	**EU憲法理論について学習する。**
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
2	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	**Introduction（序文）、Context and Aims（背景と目的）、Methodological Approach（方法論的アプローチ）、Contribution（貢献）、Structure（構造）**
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
3	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	**1. An Unfree Court: Constitutional Constraints on the Exercise of EU Judicial Authority（不自由な裁判所）、I. Structural Constraints: The Allocation of Competences and Powers in the EU（構造的制約）、II. Substantive Constraints: The EU's Constitutional Value Framework（実体的制約）、III. Justification for Constraining the Court（裁判所を制約することに対する正当化）、IV. Conclusion（結論）**
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分

4	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	2. Free Movement Case Law in Light of the Principle of Conferral（個別授権原則に照らした自由移動判例法） I. The Principle of Conferral in Application to EU Judiciary（EU司法に適用される個別授権原則） II. Healthcare（医療） III. Education（教育）
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
5	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	2. Free Movement Case Law in Light of the Principle of Conferral（個別授権原則に照らした自由移動判例法） V. Gambling（ギャンブル） VI. The Implications of the Case Law for the Principle of Conferral（個別授権原則に対する判例法の含意） VII. Conclusion（結論）
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
6	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	3. Free Movement Case Law in Light of the Principles of Subsidiarity and Proportionality（補完性原則と比例性原則に照らした自由移動判例法） I. The Principles of Subsidiarity and Proportionality, and their Application to the EU Judiciary（補完性原則と比例性原則、及びEU司法への適用） II. Healthcare（医療）
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
7	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	3. Free Movement Case Law in Light of the Principles of Subsidiarity and Proportionality（補完性原則と比例性原則に照らした自由移動判例法） III. Education（教育） IV. Collective Labour Law（集団的労働法）
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
8	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	3. Free Movement Case Law in Light of the Principles of Subsidiarity and Proportionality（補完性原則と比例性原則に照らした自由移動判例法）、V. Gambling（ギャンブル）、VI. The Implications of the Case Law for the Principles of Subsidiarity and Proportionality（（補完性原則と比例性原則に対する判例法の含意）、VII. Conclusion（結論）
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
9	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	4. The Horizontal Balance of Powers: The Implications of Free Movement Case Law for the Principle of Institutional Balance（水平的権限バランス―機関間均衡原則に対する自由移動判例法の含意） I. The Principle of Institutional Balance in Application to the Court（EU司法裁判所に適用される機関間均衡原則） II. The Process of Judicial Lawmaking: Quasi-Legislative Judgments（司法的立法過程―準立法的判決）
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
10	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	4. The Horizontal Balance of Powers: The Implications of Free Movement Case Law for the Principle of Institutional Balance（水平的権限バランス）、III. The Legislative Process: Political Constitutional Constraints and the 'Judicial Trap'（立法過程―政治的な立憲的制約と「司法の罠」）、IV. Model of Interaction No 1: The Court Predetermines the Content of Legislation（相互作用モデル1―裁判所が立法内容
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
11	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	4. The Horizontal Balance of Powers: The Implications of Free Movement Case Law for the Principle of Institutional Balance（水平的権限バランス）、V. Model of Interaction No 2: The Court Pre-empts Novel Legislative Solutions（相互作用モデル2―裁判所が新たな立法的解決を阻止する）、VI. Model of Interaction No 3: The Court Prevents Legislative Overturn（相互作用モデル3―裁判所が立法による判決破棄を妨げる）、
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
12	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	5. Rebalancing the Court, Rebalancing the EU（裁判所の再均衡化、EUの再均衡化） I. The Conceptual and Legal Basis for a Relaxed Judicial Review（司法審査の緩和のための概念的及び法的基礎） II. The Margin of Appreciation（評価の余地）
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
13	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	5. Rebalancing the Court, Rebalancing the EU（裁判所の再均衡化、EUの再均衡化） III. Fair Balance（公正な均衡） IV. Exemption（適用除外） V. Conclusion（結論）
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分

14	事前学習	指定図書の該当箇所を通読する。120分
	授業内容	Conclusion（**結論**） Argument（**議論**） Future Research（**今後の研究**） Significance（**意義**）
	事後学習	授業内容について概要を作成する。120分
15	事前学習	指定図書各章の要点を確認する。120分
	授業内容	**総括とディスカッション**
	事後学習	指定図書各章の要点を再確認する。120分

科目名	法律学原書研究Ⅰ（英）	担当者	加藤　浩	期間	前期	単位数	1

授業概要	国際連合（UN）が発行する刊行物（原書）を題材として、知的財産法を中心に、法律分野の英語表現について学修するとともに、国際的な視点から法律に関する原書の読み方について学修する。
授業目的・到達目標	（１）知的財産法を中心に、法律分野における英語表現について習得し、法律に関する原書を読むことができる。 （２）国際的な視点から法律の知識を深めることにより、英語で法務を行えるようになることができる。 関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，２，４
履修条件	特になし。
授業方法	講義形式とする。（必要に応じて、双方向型の授業形式も採用する。）毎回、英語辞書を持参のこと。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	授業内試験、授業への参加度によって評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない。毎回、講義プリントを配布する。		

参考書	必要に応じ紹介する。（例えば、国際連合（世界知的所有権機関）が発行する「WIPO Journal」など）
オフィスアワー	水曜日５時限目に設定する。（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） オフィス 研究室（本館６階　１６１０号室）メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。また、知的財産法の全体像について考えておく。（２時間）
	授業内容	**授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、法律学原書研究Ⅰの学習方法や 研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（２時間）
2	事前学習	【Patent Case①：Patent that Changed an Industry】 Patent Case①について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Patent Case①：Patent that Changed an Industry】 Patent Case①を題材として、特許法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Patent Case①について復習し、特許法の英語表現について整理する。（２時間）
3	事前学習	【Patent Case②：Patent Troll】 Patent Case②について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Patent Case②：Patent Troll】 Patent Case②を題材として、特許法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Patent Case②について復習し、特許法の英語表現について整理する。（２時間）

4	事前学習	【Patent Case③：Compulsory License】 Patent Case③について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Patent Case③：Compulsory License】** **Patent Case③を題材として、特許法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Patent Case③について復習し、特許法の英語表現について整理する。（２時間）
5	事前学習	【Patent Case④：Robot Creator】 Patent Case④について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Patent Case④：Robot Creator】** **Patent Case④を題材として、特許法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Patent Case④について復習し、特許法の英語表現について整理する。（２時間）
6	事前学習	【Patent Case⑤：WIPO Green】 Patent Case⑤について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Patent Case⑤：WIPO Green】** **Patent Case⑤を題材として、特許法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Patent Case⑤について復習し、特許法の英語表現について整理する。（２時間）
7	事前学習	【Patent Case⑥：WIPO Re:Search】 Patent Case⑥について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Patent Case⑥：WIPO Re:Search】** **Patent Case⑥を題材として、特許法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Patent Case⑥について復習し、「WIPO Re:Search」の論点について、自分なりの説明をまとめる。（２時間）
8	事前学習	授業内試験を行うので、テスト範囲を復習しておくこと。具体的には、Patent Case①～⑥について、講義プリント、講義ノートを読んで十分に理解しておく。（２時間）
	授業内容	**【授業内試験】** **Patent Case①～⑥について、授業内試験を行う。**
	事後学習	授業内試験の結果に基づいて、テスト範囲をさらに復習しておくこと。具体的には、Patent Case①～⑥について、講義プリント、講義ノートを読んで理解を深める。（２時間）
9	事前学習	【Design Case①：IP and Development】 Design Case①について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Design Case①：IP and Development】** **Design Case①を題材として、意匠法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Design Case①について復習し、意匠法の英語表現について整理する。（２時間）
10	事前学習	【Design Case②：Green Design】 Design Case②について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Design Case②：Green Design】** **Design Case②を題材として、意匠法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Design Case②について復習し、意匠法の英語表現について整理する。（２時間）
11	事前学習	【Design Case③：Universal Design】 Design Case③について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Design Case③：Universal Design】** **Design Case③を題材として、意匠法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Design Case③について復習し、意匠法の英語表現について整理する。（２時間）
12	事前学習	【Design Case④：Faschion Design】 Design Case④について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Design Case④：Faschion Design】** **Design Case④を題材として、意匠法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Design Case④について復習し、意匠法の英語表現について整理する。（２時間）
13	事前学習	【Design Case⑤：Filipino Design】 Design Case⑤について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Design Case⑤：Filipino Design】** **Design Case⑤を題材として、意匠法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Design Case⑤について復習し、意匠法の英語表現について整理する。（２時間）
14	事前学習	【Design Case⑥：Using Intellectual Properties as a Dialogue for Success】 Design Case⑥について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Design Case⑥：Using Intellectual Properties as a Dialogue for Success】** **Design Case⑥を題材として、意匠法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Design Case⑥について復習し、意匠法の英語表現について整理する。（２時間）
15	事前学習	授業内試験を行うので、テスト範囲を復習しておくこと。具体的には、Design Case①～⑥について、講義プリント、講義ノートを読んで十分に理解しておく。（２時間）
	授業内容	**【授業内試験】** **Design Case①～⑥について、授業内試験を行う。**
	事後学習	授業内試験の結果に基づいて、テスト範囲をさらに復習しておくこと。具体的には、Design Case①～⑥について、講義プリント、講義ノートを読んで理解を深める。（２時間）

科目名	法律学原書研究Ⅰ（英）	担当者	坂本　力也	期間	前期	単位数	1

授業概要	アメリカの裁判制度についての原書（American Courts, Fourth Ed. Daniel John Meador & Gregory Mitchell）を輪読する。
授業目的・到達目標	英語の原書を通じてアメリカの裁判制度を理解することを目的とする。アメリカの連邦制度がもたらす州裁判所と連邦裁判所の構造や両者の関係を学ぶことによって、アメリカ特有の裁判システムの理解を深める。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，２，４
履修条件	原書の輪読を中心とする講義であるので、アメリカの司法制度を原書で熟読することに関心があり、積極的に授業へ参加する方を希望します。
授業方法	アサイメントに従って輪読を行う。担当教員がコメントを加えながらアメリカの裁判制度について詳しく説明を加えてゆく。

成績評価

種別	割合	評価方法
定 期 試 験		
平 常 評 価	100%	輪読の内容、授業への積極的参加により評価します。

教科書

年	出版社	書名	著者名
2020	West	American Courts　Fourth.Ed.	Meador & Mitchell

備考

参 考 書	Outline of the U.S Legal System, US Department of State 『英米法辞典』東京大学出版会（1991）
オフィスアワー	日時: 水曜日12:30-13:00 場所: 9号館1階ロビー 備考: 休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	アメリカの司法制度について特徴を調べてくる（２時間）
	授業内容	Introduction to US. Legal System
	事後学習	アメリカの司法制度についての概観を復習する（２時間）
2	事前学習	テキストの1頁から4頁まで読了する（２時間）
	授業内容	Introductory Overview of American Courts（１）
	事後学習	アメリカにおける州と連邦の裁判所の関係について復習する（２時間）
3	事前学習	テキストの5頁から9頁を読了する（２時間）
	授業内容	Introductory Overview of American Courts（２）
	事後学習	アメリカの民事裁判と州の裁判所をめぐる1960年以降の動きについて復習する（２時間）

4	事前学習	テキストの11頁から14頁を読了する（２時間）
	授業内容	The State Courts (Trial Court)
	事後学習	各州の第一審裁判所について復習する（２時間）
5	事前学習	テキストの14頁から18頁まで読了すること（２時間）
	授業内容	The State Courts (Appellate Courts)
	事後学習	各州の上訴裁判所について復習する（２時間）
6	事前学習	テキストの18頁から22頁まで読了する（２時間）
	授業内容	The State Courts(The Business of the State Courts)
	事後学習	州裁判所の果たす役割について復習する（２時間）
7	事前学習	テキストの23頁から27頁まで読了する（２時間）
	授業内容	The Federal Courts (District Courts and Courts of Appeals)
	事後学習	連邦第一審裁判所と連邦中間上訴裁判所について復習する（２時間）
8	事前学習	テキストの27頁から31頁まで読了する（２時間）
	授業内容	The Federal Courts　(Supreme Court and Other Federal Courts)
	事後学習	連邦最高裁とそのほかの連邦の裁判所について復習する（２時間）
9	事前学習	テキストの31頁から36頁まで読了する（２時間）
	授業内容	The Business of Federal Courts; Federal and State Courts Compared
	事後学習	連邦と州の裁判所の比較について復習する（２時間）
10	事前学習	テキストの37頁から43頁を読了する（２時間）
	授業内容	Multiple Sovereignties:State-Federal and Multi-State
	事後学習	州法と連邦法の関係と裁判における法の適用について復習する（２時間）
11	事前学習	テキストの43頁から49頁まで読了する（２時間）
	授業内容	Coexisting　State and Federal Trial Courts
	事後学習	連邦と州の第一審裁判所の共存状況について復習する（２時間）
12	事前学習	教科書の49頁から52頁まで読了する（２時間）
	授業内容	Complex Litigation
	事後学習	複雑な事案における州と連邦の裁判所の関係について復習する（２時間）
13	事前学習	テキストの53頁から60頁まで読了する（２時間）
	授業内容	Dramatis Personae and Judges
	事後学習	アメリカの裁判官について復習する（２時間）
14	事前学習	テキストの63頁から69頁まで読了する（２時間）
	授業内容	Law Clerks　and Staff Attorneys; Other Judicial Adjuncts; Administrative and Clerical Staffs; and Supporting Organizations
	事後学習	裁判官以外の裁判所において裁判官を支援するスタッフについて復習する（２時間）
15	事前学習	テキストの69頁から75頁までを読了する（２時間）
	授業内容	Lawyers
	事後学習	アメリカの弁護士について復習する（２時間）

科目名	法律学原書研究Ⅰ（英）	担当者	高畑　英一郎	期間	前期	単位数	1

授業概要	この講座は、主にアメリカ連邦最高裁の判決文を輪読することを通じて、アメリカにおける権利保障の実態を研究するものである。
授業目的・到達目標	判決文の講読を通じて、連邦最高裁判決のスタイル、法理論、法の事実への適用のあり様に触れ、法律用語や法原則の英専門用語と判例検索術を身に着け、ラテン熟語も含めた英米法律文書を読む基礎能力を修練することを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，２，４
履修条件	特になし。
授業方法	事前に割当て部分を指定することにより、受講者全員で輪読を行う。担当教員がコメントを加えながら法の一般的内容について詳しく説明する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	割り当て部分の翻訳内容と授業への積極的参加によって評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			

参 考 書	田中英夫『英米法辞典』（東京大学出版会）、小山貞夫『英米法律語辞典』（研究社）ほか。
オフィスアワー	月曜18:00～19:00、研究室（９号館９３０３）にて行います。 メールでの相談は（takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp）に送信してください。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	事前にシラバスを読んでくる。（2時間）
	授業内容	**ガイダンス、文献資料の配布、講義の目的・進め方の説明。**
	事後学習	指摘されたテキストを読み、用語や文法事項の確認をしておく。（2時間）
2	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	District of Columbia v. Heller (a)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の内容と限界についての理解を深める。（2時間）
3	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	District of Columbia v. Heller (b)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の内容と限界についての理解を深める。（2時間）

4	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	District of Columbia v. Heller (c)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の内容と限界についての理解を深める。（2時間）
5	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	District of Columbia v. Heller (d)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の内容と限界についての理解を深める。（2時間）
6	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	District of Columbia v. Heller (e)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の内容と限界についての理解を深める。（2時間）
7	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	District of Columbia v. Heller (f)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の内容と限界についての理解を深める。（2時間）
8	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	District of Columbia v. Heller (c)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の内容と限界についての理解を深める。（2時間）
9	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	NYSRPA v. Bruen (a)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の拡張判断についての理解を深める。（2時間）
10	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	NYSRPA v. Bruen (b)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の拡張判断についての理解を深める。（2時間）
11	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	NYSRPA v. Bruen (c)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の拡張判断についての理解を深める。（2時間）
12	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	NYSRPA v. Bruen (d)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の拡張判断についての理解を深める。（2時間）
13	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	NYSRPA v. Bruen (e)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の拡張判断についての理解を深める。（2時間）
14	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	NYSRPA v. Bruen (f)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の拡張判断についての理解を深める。（2時間）
15	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	NYSRPA v. Bruen (g)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の拡張判断についての理解を深める。（2時間）

科目名	法律学原書研究Ⅱ（英）	担当者	加藤　浩	期間	後期	単位数	1

授業概要	国際連合（UN）が発行する刊行物（原書）を題材として、知的財産法を中心に、法律分野の英語表現について学修するとともに、国際的な視点から法律に関する原書の読み方について学修する。
授業目的・到達目標	（1）知的財産法を中心に、法律分野における英語表現について習得し、法律に関する原書を読むことができる。 （2）国際的な視点から法律の知識を深めることにより、英語で法務を行えるようになることができる。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，２，４
履修条件	特になし。
授業方法	講義形式とする。（必要に応じて、双方向型の授業形式も採用する。）毎回、英語辞書を持参のこと。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	
	平 常 評 価	100%	授業内試験、授業への参加度によって評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない。毎回、講義プリントを配布する。		

参 考 書	必要に応じ紹介する。（例えば、国際連合（世界知的所有権機関）が発行する「WIPO Journal」など）
オフィスアワー	水曜日５時限目に設定する。（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） オフィス 研究室（本館６階　１６１０号室）メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。また、知的財産法の全体像について考えておく。（２時間）
	授業内容	**授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、法律学原書研究Ⅱの学習方法や 研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（２時間）
2	事前学習	【Trademark Case①：Trademark Graveyard(1)】 Trademark Case①について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Trademark Case①：Trademark Graveyard(1)】 Trademark Case①を題材として、商標法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Trademark Case①について復習し、商標法の英語表現について整理する。（２時間）
3	事前学習	【Trademark Case②：Trademark Graveyard(2)】 Trademark Case②について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Trademark Case②：Trademark Graveyard(2)】 Trademark Case②を題材として、商標法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Trademark Case②について復習し、商標法の英語表現について整理する。（２時間）

4	事前学習	【Trademark Case③：Zombie Brand】 Trademark Case③について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Trademark Case③：Zombie Brand】** **Trademark Case③を題材として、商標法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Trademark Case③について復習し、商標法の英語表現について整理する。（２時間）
5	事前学習	【Trademark Case④：Geographical Indications - From Darjeeling to Doha(1)】 Trademark Case④について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Trademark Case④：Geographical Indications - From Darjeeling to Doha(1)】** **Trademark Case④を題材として、商標法の英語表現について講義する。** **。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Trademark Case④について復習し、商標法の英語表現について整理する。（２時間）
6	事前学習	【Trademark Case⑤：Geographical Indications - From Darjeeling to Doha(2)】 Trademark Case⑤について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Trademark Case⑤：Geographical Indications - From Darjeeling to Doha(2)】** **Trademark Case⑤を題材として、商標法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Trademark Case⑤について復習し、商標法の英語表現について整理する。（２時間）
7	事前学習	【Trademark Case⑥：Trademarks in Metaverse】 Trademark Case⑥について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Trademark Case⑥：Trademarks in Metaverse】** **Trademark Case⑥を題材として、商標法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Trademark Case⑥について復習し、商標法の英語表現について整理する。（２時間）
8	事前学習	授業内試験を行うので、テスト範囲を復習しておくこと。具体的には、Trademark Case①～⑥について、講義プリント、講義ノートを読んで十分に理解しておく。（２時間）
	授業内容	**【授業内試験】** **Trademark Case①～⑥について、授業内試験を行う。**
	事後学習	授業内試験の結果に基づいて、テスト範囲をさらに復習しておくこと。具体的には、Trademark Case①～⑥について、講義プリント、講義ノートを読んで理解を深める。（２時間）
9	事前学習	【Copyright Case①：Manga Phenomenon】 Copyright Case①について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Copyright Case①：Manga Phenomenon】** **Copyright Case①を題材として、著作権法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Copyright Case①について復習し、著作権法の英語表現について整理する。（２時間）
10	事前学習	【Copyright Case②：Google Book Settlement】 Copyright Case②について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Copyright Case②：Google Book Settlement】** **Copyright Case②を題材として、著作権法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Copyright Case②について復習し、著作権法の英語表現について整理する。（２時間）
11	事前学習	【Copyright Case③：Artificial Intelligence (AI) and Copyrught】 Copyright Case③について、事前に講義プリントを読んで、「Google Books Case」の観点から、Copyright Case④の論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Copyright Case③：Artificial Intelligence (AI) and Copyrught】** **Copyright Case③を題材として、著作権法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Copyright Case③について復習し、著作権法の英語表現について整理する。（２時間）
12	事前学習	【Copyright Case④：Monkey Selfie and Copyright】 Copyright Case④について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Copyright Case④：Monkey Selfie and Copyright】** **Copyright Case④を題材として、著作権法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Copyright Case④について復習し、著作権法の英語表現について整理する。（２時間）
13	事前学習	【Copyright Case⑤：Copyright in the Digital Age】 Copyright Case⑤について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Copyright Case⑤：Copyright in the Digital Age】** **Copyright Case⑤を題材として、著作権法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Copyright Case⑤について復習し、著作権法の英語表現について整理する。（２時間）
14	事前学習	【Copyright Case⑥：NFT and Copyright】 Copyright Case⑥について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Copyright Case⑥：NFT and Copyright】** **Copyright Case⑥を題材として、著作権法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Copyright Case⑥について復習し、著作権法の英語表現について整理する。（２時間）
15	事前学習	授業内試験を行うので、テスト範囲を復習しておくこと。具体的には、Copyright Case①～⑥について、講義プリント、講義ノートを読んで十分に理解しておく。（２時間）
	授業内容	**【授業内試験】** **Copyright Case①～⑥について、授業内試験を行う。**
	事後学習	授業内試験の結果に基づいて、テスト範囲をさらに復習しておくこと。具体的には、Copyright Case①～⑥について、講義プリント、講義ノートを読んで理解を深める。（２時間）

科目名	法律学原書研究Ⅱ(英)	担当者	坂本　力也	期間	後期	単位数	1

授業概要	アメリカ法を解説した英語のテキストを利用して、アメリカ法の特徴を学んでゆく。ドイツ、フランスあるいは日本などにおける大陸法と対比されるアメリカやイギリスのコモンロー制度であるが、アメリカとイギリスでは大きく異なる。この講義ではアメリカ法に焦点を当て、その特徴となる点を取り上げて学んでゆく。
授業目的・到達目標	American Law-In a Global Context the Basics-をテキストにして、大陸法とコモンローの大きな違いを理解すると同時に、コモンロー法制におけるアメリカ法の特徴を理解すること目的とする。イギリス法と対比したアメリカ法の特徴を理解することが目標である。 関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，２，４
履修条件	アメリカ法に関心を有する方の参加を歓迎する。原書を使って授業を進めて行くので、積極的に授業に参加されることを希望する。
授業方法	授業中にトピックごとにテキストを輪読し、その後担当講師がコメントを付しながら内容について詳しく説明する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	輪読の内容、授業への積極的参加により評価します。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2005	Oxford University Press	American law In a Global Context, The basics	Fletcher and Sheppard
	備考			

参 考 書	田中英夫「英米法総論」（上）（下）　東大出版会 必要に応じて参考資料等を配布する。
オフィスアワー	日時: 水曜日12:30-13:00 場所: 9号館1階ロビー 備考: 休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	大陸法とコモンローについて調べてくること（２時間）
	授業内容	Intoroduction
	事後学習	アメリカ法を特徴づけるいくつかの要素について復習する（２時間）
2	事前学習	テキストの15頁から21頁を読了する（２時間）
	授業内容	The Common Law
	事後学習	コモンローとは何かを復習する（２時間）
3	事前学習	Scott v. Shepherd, 3 Blackstone's Report 892,96 Eng.Rep. 525(1773)を読了する　（２時間）
	授業内容	Case Study
	事後学習	スコット対シェファード事件を通してコモンローとは何かを復習する（２時間）

4	事前学習	テキスト29頁から36頁を読了する（２時間）
	授業内容	The Civil Law
	事後学習	大陸法の概要や判例法について復習する（２時間）
5	事前学習	テキスト37頁から43頁までを読了する（２時間）
	授業内容	Scholarly Authprity
	事後学習	大陸法において学術的な権威がどのような意味を有しているのか復習する（２時間）
6	事前学習	テキスト43頁から49頁を読了する（２時間）
	授業内容	Civil Law Case Study
	事後学習	ドイツの判決文の特徴を復習する （２時間）
7	事前学習	テキストの54頁から59頁までを読了する（２時間）
	授業内容	The Language of Law（１）
	事後学習	コモンローと大陸法におけるいくつかの法律用語についてを復習する（２時間）
8	事前学習	テキストの59頁から63頁までを読了する（２時間）
	授業内容	The Language of Law (2)
	事後学習	Due Process と Fairness について復習する（２時間）
9	事前学習	テキストの440頁から444頁まで読了する（２時間）
	授業内容	Foundation of Tort Law
	事後学習	不法行為法の基礎について復習する（２時間）
10	事前学習	Vincent v. lake Erie Transportation Company, 109 Minn. 436 を読了する（２時間）
	授業内容	Case Study
	事後学習	ビンセント対レークエリー輸送会社事件に見るアメリカ不法行為法の基礎を復習する（２時間）
11	事前学習	BMW of North American,Inc. v. Ira Gore, Jr. 117 U.S. 599を読了する （２時間）
	授業内容	Case Study
	事後学習	北米BMW対アイラ・ゴア事件を通してアメリカの懲罰的損害賠償について復習する（２時間）
12	事前学習	テキスト502頁から508頁を読了する（２時間）
	授業内容	The American Civil Trial in Outline（１）
	事後学習	アメリカの民事訴訟における最初の手続きについて復習する（２時間）
13	事前学習	テキストの509頁から514頁を読了する（２時間）
	授業内容	The American Civil Trial in Outline（２）
	事後学習	アメリカの民事訴訟における陪審員選任までの裁判上の手続きを復習する（２時間）
14	事前学習	テキストの515頁から519頁までを読了する（２時間）
	授業内容	The American Civil Trial in Outline (3)
	事後学習	アメリカの民事訴訟における判決までの一連の手続きの復習をする（２時間）
15	事前学習	テキストの520頁から524頁までを読了する（２時間）
	授業内容	The American Civil Trial in Outline（４） and Review
	事後学習	上訴や判決の執行などの手続きの復習をする。全体の復習をする（２時間）

科目名	法律学原書研究Ⅱ（英）	担当者	高畑　英一郎	期間	後期	単位数	1

授業概要	この講義では、前学期で輪読したアメリカ連邦最高裁判決について、関連する報道や論文を題材に英語で議論を行う。
授業目的・到達目標	英語を用いたディスカッションを実施することにより、英語の発話能力、弁論能力を養うとともに、英語を通した論理構成能力、法的論証能力を磨くことを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１～６，８
履修条件	法律学原書研究Ⅰ（英）を履修済であることが望ましい。
授業方法	報告担当者が報道記事や論文の内容を紹介し、それについて参加者全員で議論する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	講義での報告と議論への積極的参加によって評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			

参考書	田中英夫『英米法辞典』（東京大学出版会）、小山貞夫『英米法律語辞典』（研究社）ほか。
オフィスアワー	月曜18:00～19:00、研究室（９号館９３０３）にて行います。 メールでの相談は（takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp）に送信してください。

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	事前にシラバスを読んでくる。（2時間）
	授業内容	**ガイダンス、講義の目的・進め方の説明。**
	事後学習	前期に輪読した判決の内容の確認をしておく。（2時間）
2	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）
3	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）

4	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）
5	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）
6	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）
7	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）
8	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）
9	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）
10	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）
11	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）
12	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）
13	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）
14	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）
15	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）

科目名	法律学原書研究Ⅰ（独）	担当者	益井　公司	期間	前期	単位数	1

授業概要	学生にドイツの法文献を読んできてもらい、訳語を訂正したり、文法的な説明をするだけでなく、その内容についても検討する形で学修を進める。何を読んでいくかについては学生の希望を聞くが、ない場合にはコーイングの文献を読んでいくことにしたい。
授業目的・到達目標	ドイツの法文献を正確に読める能力を養成することを目的とする。それにより、ドイツの文献の内容を正確に理解し、表現できるようになることを到達目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，２，４
履修条件	ドイツ語を履修していることが望ましい。
授業方法	学生各自にドイツ語文献を渡し、それに訳語を作ってきてもらい、他の学生とその訳を基に議論をする形で進める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業おける訳語の出来や内容の理解度を総合評価して決める。

教科書	年	出版社	書名	著者名
		C.H.Beck	Epochen der Rechtsgeschichte in Deutschland	Helmut Coing
	備考			

参 考 書	講義の初めに指示する。
オフィスアワー	木曜日の昼休み、授業講堂を予定している。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを読み、準備をする。（30分）図書館でどのようなドイツ法律用語辞典があるか見ておくこと。
	授業内容	**ドイツ法に関する基本的な説明をする（その１）。**
	事後学習	外国法の調べかたのドイツ法の部分をもう一度読んでおくこと。６０分の復習をすること（以下各授業の終わりには６０分の復習をすること）。
2	事前学習	前回に配ったプリントを読んでおくこと。６０分の予習をすること（以下各授業の初めに６０分の予習をすること）
	授業内容	**ドイツ法に関する基本的な説明をする（その２）。外国法の調べ方（ドイツ）を説明する。**
	事後学習	授業で配ったプリントをよく読むこと。
3	事前学習	Moderne Aufgabe und Tendenzenの部分を読んでくること（各人の担当部分を割り当てる）
	授業内容	**113頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。

4	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**114頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
5	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**１１４頁の３から１１５頁の半ばまでを読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
6	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**１１５頁の終わりまで読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
7	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**１１６頁の４の前までを読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
8	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**１１６頁の４から１１７頁１段落目までを読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
9	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**１１７頁の終わりまでを読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
10	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと
	授業内容	**106頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
11	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**１１８頁の５の前までをを読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
12	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**１１８頁の５から１１９頁の半ばまでを読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
13	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**１１９頁の続きから１２０頁の１段落目の終わりまでをを読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
14	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**１２０頁を終わりまでを読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
15	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**１２１頁から１２１頁を読む。これまで読んできた部分に関する質問を受け付けるとともに、内容の理解を確かめる。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。

科目名	法律学原書研究Ⅱ(独)	担当者	益井　公司	期間	後期	単位数	1

授業概要	学生にドイツの法文献を読んできてもらい、訳語を訂正したり、文法的な説明をするだけでなく、その内容についても検討する形で授業を進める。何を読んでいくかについては学生の希望を聞くが、ない場合にはのエンメリの文献を読んでいくことにしたい。
授業目的・到達目標	ドイツの法文献を正確に読める能力を養成することを目的とする。それにより、ドイツの文献の内容を正確に理解し、表現できるようになることを到達目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，２，４
履修条件	ドイツ語を履修していることが望ましい。
授業方法	学生各自にドイツ語文献を渡し、それに訳語を作ってきてもらい、他の学生とその訳を基に議論をする形で進める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業おける訳語の出来や内容の理解度を総合評価して決める。

教科書	年	出版社	書名	著者名
		C.H.Beck	Das Recht der Leistungsstoerungen	Volker Emmerich
	備考			

参 考 書	講義の初めに指示する。
オフィスアワー	木曜日の昼休み.授業講堂を予定している。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを読み、準備をする。（30分）
	授業内容	**ドイツ法に関する基本的な説明をする（その１）。**
	事後学習	外国法の調べかたのドイツ法の部分をもう一度読んでおくこと。６０分の復習をすること（以下各授業の終わりには６０分の復習をすること）。
2	事前学習	前回に配ったプリントを読んでおきくこと。６０分の予習をすること（以下各授業の初めに６０分の予習をすること）
	授業内容	**ドイツ法に関する基本的な説明をする（その２）。外国法の調べ方（ドイツ）を説明する。**
	事後学習	授業で配ったプリントをよく読むこと。
3	事前学習	Glaebigerverzugの部分の538頁を読んでくること（各人の担当部分を割り当てる）
	授業内容	**359頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。

4	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**360頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
5	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**361頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
6	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**362頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
7	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**363頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
8	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**364項を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
9	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**365頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
10	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと
	授業内容	**366頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
11	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**367頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
12	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**368頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
13	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**369頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
14	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**370頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
15	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**これまでの授業のまとめをする。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。

科目名	法律学原書研究Ⅰ（仏）	担当者	神尾真知子	期間	前期	単位数	1

授業概要	フランス語で記載された法律学に関する文献を読み、理解する。フランス語表現の基礎的理解と情報収集の方法を習得する。
授業目的・到達目標	院生が、自分の専門のフランス語文献を、内容も含めて理解し説明できるようになることを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，２，４
履修条件	院生が、フランス法を比較法として研究することをめざすこと。
授業方法	フランス語の文献を受講者が読み、日本語訳を行い、フランスの社会と法を理解する。双方向的な講義とする。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業参加度と講義への積極的参加などにより総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	テキストについては、受講生と相談の上、決定する。		

参 考 書	中村紘一他監訳『フランス法律用語辞典（第3版）』三省堂、滝沢正『フランス法（第4版）』三省堂、山口俊夫『概説フランス法上下』東京大学出版会
オフィスアワー	水曜日12時30分～13時（事前にメールでアポイントを取ること） 適宜場所を指定する。　kamio.machiko〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数	授　業　内　容	
1	事前学習	フランス法を学ぶ意義について考える。（３０分）
	授業内容	**オリエンテーション　フランス法の学び方、文献検索方法**
	事後学習	フランス法の学び方及び文献検索方法を確認する。（３０分）
2	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（１）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）
3	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（２）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）

4	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（３）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）
5	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（４）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）
6	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（５）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）
7	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（６）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）
8	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（７）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）
9	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（８）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）
10	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（９）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。
11	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（１０）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）
12	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（１１）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）
13	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**地方自治体に関する文献を読む（１２）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）
14	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（１３）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）
15	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（１４）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）

科目名	法律学原書研究Ⅱ（仏）	担当者	神尾真知子	期間	後期	単位数	1

授業概要	フランス語で記載された法律学に関する文献を読み、理解する。フランス語表現の基礎的理解と情報収集の方法を習得する。
授業目的・到達目標	院生が、自分の専門のフランス語文献を、内容を含めて理解し説明できるようになることを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，２，４
履修条件	院生が、フランス法を比較法として研究することをめざすこと。
授業方法	フランス法の文献を受講者が読み、日本語訳を行い、フランス法を理解する。双方向的な講義とする。面接授業をベースに、オンライン会議システム「zoom」による受講希望者がいる場合は、zoomを併用した授業を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業参加度、報告などを考慮し評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	テキストは、講義時に受講者と相談する。		

参 考 書	中村紘一他監訳『フランス法律用語辞典（第3版）』三省堂、滝沢正『フランス法（第4版）』三省堂、山口俊夫『概説フランス法上下』東京大学出版会
オフィスアワー	月曜日12時30分～13時（事前にメールでアポイントを取ること） 適宜場所を指定する。　kamio.machiko〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	自分の専攻のフランス法講読候補文献を用意し、講義時に持参する。（３０分）
	授業内容	**オリエンテーション：フランス法の学び方、情報検索の方法等を説明する。**
	事後学習	フランス法の基本的な知識を確認する。（３０分）
2	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む(1)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
3	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む(2)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）

4	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む(3)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
5	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む4)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
6	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む(5)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
7	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む(6)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
8	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む(7)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
9	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む(8)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
10	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む(9)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
11	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む(10)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
12	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む(11)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
13	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む(12)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
14	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む(13)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
15	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む（１４）**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）

科目名	専門演習(憲法)	担当者	池田　実	期間	通年	単位数	4

授業概要	演習を通じて修士論文の作成に向けた研究指導を行う。
授業目的・到達目標	学術論文の技法を修得し、修士論文を執筆する能力を養成することを目的とする。研究テーマを適切に設定し、関連する文献・資料の収集および分析をふまえ、学術論文のルールに則って修士論文を執筆できるようになることを目標とする。 DP・CP公法学専攻,3,4,5,8
履修条件	特になし。
授業方法	学生の研究発表に対する講評および提出された原稿に対する添削指導を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	実施しない。
	平 常 評 価	100%	研究発表と原稿の内容を総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			

参 考 書	授業中に適宜指示する。
オフィスアワー	金曜日12:10-13:00 研究室（4号館5階454研究室）　メールアドレス：ikeda.minoru61@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	学部での研究歴や現在の問題関心等を整理しておく。（3時間以上）
	授業内容	**授業案内・導入**
	事後学習	講義を振り返り、修士課程における学修のポイントを確認しておく。（1時間）
2～4	事前学習	関心のある問題・分野についてレポートを用意する。（3時間以上）
	授業内容	**関心のある研究分野・問題意識の発表**
	事後学習	教員から受けた指導や他の履修者のコメントを振り返り、発表したレポートの内容を再検討し、修正を加える。（1時間）
5～12	事前学習	修士論文のテーマと内容についてのレポートを用意する。（3時間以上）
	授業内容	**修士論文テーマ・内容の選定に関する発表**
	事後学習	教員から受けた指導や他の履修者のコメントを振り返り、発表したレポートの内容を再検討し、修正を加える。（1時間）

13～20	事前学習	修士論文の内容につながる専門的な研究発表のレポートを用意する。（3時間以上）
	授業内容	**修士論文の内容につながる専門的な研究発表に対する講評**
	事後学習	教員から受けた指導や他の履修者のコメントを振り返り、発表したレポートの内容を再検討し、修正を加える。（1時間）
21～30	事前学習	修士論文の内容につながる専門的な研究発表のレポートを用意する。（3時間以上）
	授業内容	**修士論文の内容につながる専門的な研究発表に対する講評**
	事後学習	教員から受けた指導や他の履修者のコメントを振り返り、発表したレポートの内容を再検討し、修正を加える。（1時間）
31～34	事前学習	所定の期日までに、修士論文の部分原稿を教員に提出する。（3時間以上）
	授業内容	**修士論文の部分原稿に対する添削指導**
	事後学習	教員から受けた添削指導に基づいて、部分原稿の内容を再検討し、修正を加える。（1時間）
35～41	事前学習	所定の期日までに、修士論文の部分原稿を教員に提出する。（3時間以上）
	授業内容	**修士論文の部分原稿に対する添削指導**
	事後学習	教員から受けた添削指導に基づいて、部分原稿の内容を再検討し、修正を加える。（1時間）
42～45	事前学習	所定の期日までに、修士論文の部分原稿を教員に提出する。（3時間以上）
	授業内容	**修士論文の部分原稿に対する添削指導**
	事後学習	教員から受けた添削指導に基づいて、部分原稿の内容を再検討し、修正を加える。（1時間）
46～54	事前学習	所定の期日までに、修士論文の部分原稿を教員に提出する。（3時間以上）
	授業内容	**修士論文の部分原稿に対する添削指導**
	事後学習	教員から受けた添削指導に基づいて、部分原稿の内容を再検討し、修正を加える。（1時間）
55～58	事前学習	所定の期日までに、修士論文の部分原稿を教員に提出する。（3時間以上）
	授業内容	**修士論文の部分原稿に対する添削指導**
	事後学習	教員から受けた添削指導に基づいて、部分原稿の内容を再検討し、修正を加える。（1時間）
59～60	事前学習	所定の期日までに、修士論文の完成原稿を教員に提出する。（3時間以上）
	授業内容	**修士論文の完成稿に対する最終的な添削指導**
	事後学習	教員から受けた添削指導に基づいて、修士論文を完成させる。（3時間以上）

科目名	専門演習(憲法)	担当者	柳瀬　昇	期間	通年	単位数	4

授業概要	修士論文の完成に向けて、受講者の研究テーマに関する基礎的な文献を講読するとともに、修士論文の原稿の検討を行う。
授業目的・到達目標	学術論文の技法を修得し、修士論文を執筆する能力を養成することを目的とする。研究テーマを適切に設定し、関連する文献や資料等を収集し、詳細に分析・検討をしたうえで、修士論文を完成させることを目標とする。 関連するDP・CP公法学専攻3,4,5,8
履修条件	この科目の授業担当者を指導教授とする学生のみが履修することができる。
授業方法	毎回、研究の進捗状況を点検するとともに、よりよい修士論文を作成するために議論を行う。1年次は、受講者の研究テーマに関する基礎的な文献の講読を行い、2年次は、受講者の修士論文の原稿の検討を行う。 専門演習のシラバスは入学した学生に応じて個別に作成するので、以下の教科書、参考書、授業内容等は、2024年度入学予定者のためのものである。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	研究テーマを適切に設定し、関連する文献や資料等を収集し、詳細な分析・検討をしたうえで、修士論文の執筆する能力を修得しているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	共通	新世社	『憲法』	柳瀬昇
	2024-2025年度受講者	有斐閣	『現代中国法入門 第9版』	髙見澤磨ほか
	備考	その他の参考書については、各回の演習において説明する。		

参 考 書	柳瀬昇『裁判員制度の立法学』（日本評論社、2009年） 孔暁キン『中国人民陪審員制度研究』（日本評論社、2016年）
オフィスアワー	授業期間中の金曜日（12時20分～12時50分）に研究室（本館8階1810号室）で対応する。電子メール（yanase.noboru@nihon-u.ac.jp）で連絡をとることもできる。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	入学試験時に提出した研究テーマを自分で改めて検討するとともに、修士課程における具体的な研究計画の案を策定する（120分程度）。
	授業内容	**授業担当者とともに、入学試験時に提出した研究テーマを改めて検討するとともに、修士課程における具体的な研究計画を策定する。**
	事後学習	授業担当者との議論を踏まえて、改めて研究テーマを吟味し、修士論文の具体的な執筆計画を策定する（120分程度）。
2～4	事前学習	自分の研究にとってどのような文献が必要となるのかをあらかじめ考えておき、可能であれば、具体的に列挙しておく。第3回以降は、文献を収集し、理解しておく（各120分程度）。
	授業内容	**法律学の図書・論文・判例の検索方法を学び、実践する。**
	事後学習	授業で修得した検索方法を実践し、自分の研究にとって必要な文献を収集しておく（各120分程度）。
5～12	事前学習	髙見澤磨ほか『現代中国法入門 第9版』（有斐閣、2022年）、王雲海ほか編『よくわかる中国法』（ミネルヴァ書房、2021年）などの指定されたページをあらかじめ読んでおき、その要点をまとめて、概説できるようにしておく（各120分程度）。
	授業内容	**中国の法制度の概要を日本語で学ぶ（①意義・歴史（高見澤ほか1～2章、王ほか序章・XII章）、②憲法（高見澤ほか3章、王ほかI章）、③行政法（高見澤ほか4章、王ほかII章）、④刑法・刑事訴訟法（高見澤ほか9章、王ほかIX章）、⑤司法制度論（高見澤ほか10～11章、王ほかXI章）、⑥その他）。**
	事後学習	授業担当者との議論を踏まえて、中国の法制度の概要の理解の定着をはかる（各120分程度）。

13〜20	事前学習	「司法制度改革審議会意見書」（2001年）、柳瀬昇『裁判員制度の立法学』（日本評論社、2009年）、池田修ほか『解説 裁判員法―立法の経緯と課題 第3版』（弘文堂、2016年）などの指定されたページをあらかじめ読んでおき、その要点をまとめて、概説できるようにしておく（各120分程度）。
	授業内容	**日本の先般の司法制度改革審議会における司法制度改革の各論点を整理したうえで、国民の司法参加の導入過程を概観する。そして、日本の裁判員制度の意義や特徴を、諸外国の国民の司法参加の制度と対比しながら検討する。**
	事後学習	授業担当者との議論を踏まえて、日本の裁判員制度の理解の定着をはかる（各120分程度）。
21〜30	事前学習	日本の裁判員制度に関する文献（上掲）に加えて、後藤昭編『東アジアにおける市民の刑事司法参加』（国際書院、2011年）、孔暁キン『中国人民陪審員制度研究』（日本評論社、2016年）などの指定されたページをあらかじめ読んでおき、その要点をまとめて、概説できるようにしておく（各120分程度）。
	授業内容	**中国における国民の司法参加の制度について書かれた日本語の文献を読んだうえで、中国の国民の司法参加の制度の意義や特徴を、日本の国民の司法参加の制度と対比しながら検討する。**
	事後学習	授業担当者との議論を踏まえて、中国の国民の司法参加の制度の理解の定着をはかる（各120分程度）。
31〜34	事前学習	1年次の学習を踏まえて、修士論文の具体的な構成（章立て）とその概要を自分で検討しておく（各120分程度）。
	授業内容	**修士論文の構成を検討したうえで、具体的にどの章から順に執筆していくか（必ずしも第1章から順に書き進めなければならないわけではない）、より詳細な執筆計画を策定する。**
	事後学習	修士論文の構成に沿って必要な文献を配列し、それらを精読し、可能であれば、取り組みやすいところから順に執筆に着手する（各120分程度）。
35〜41	事前学習	修士論文の構成要素（執筆に取り組んだ1つ目の章）の原稿を、授業の前日の指定された時間までに電子メールで提出する（各120分以上）。
	授業内容	**提出された修士論文の原稿について、授業担当者とともに検討を行う。**
	事後学習	授業担当者との議論を踏まえて、原稿について再検討する（各120分以上）。
42〜45	事前学習	修士論文の構成要素（執筆に取り組んだ2つ目の章）の原稿を、授業の前日の指定された時間までに電子メールで提出する（各120分以上）。
	授業内容	**提出された修士論文の原稿について、授業担当者とともに検討を行う。**
	事後学習	授業担当者との議論を踏まえて、原稿について再検討する（各120分以上）。
46〜54	事前学習	修士論文の構成要素（執筆に取り組んだ3つ目の章）の原稿を、授業の前日の指定された時間までに電子メールで提出する（各120分以上）。
	授業内容	**提出された修士論文の原稿について、授業担当者とともに検討を行う。**
	事後学習	授業担当者との議論を踏まえて、原稿について再検討する（各120分以上）。
55〜58	事前学習	修士論文の構成要素（執筆に取り組んだ4つ目の章）の原稿を、授業の前日の指定された時間までに電子メールで提出する（各120分以上）。
	授業内容	**提出された修士論文の原稿について、授業担当者とともに検討を行う。**
	事後学習	授業担当者との議論を踏まえて、原稿について再検討する（各120分以上）。
59〜60	事前学習	修士論文の全体の構成を踏まえて、論文の推敲を重ねるとともに、その研究の意義と概要を整理する（各120分以上）。
	授業内容	**提出された修士論文の原稿について、授業担当者とともに検討を行う。また、研究の意義と概要について総括する。**
	事後学習	授業担当者との議論を踏まえて、原稿について再検討するとともに、最終試験に向けて準備をしておく（各120分以上）。

科目名	専門演習(行政法)	担当者	小澤　久仁男	期間	通年	単位数	4

授業概要	本講座は、受講生の修士論文の完成に向けて、当該研究テーマに関して研究指導および論文指導を行うものとなります。
授業目的・到達目標	学術論文の技法を修得し、修士論文を執筆する能力を養うことを最終目標とします。その目標を達成するべく、行政法の基礎知識だけではなく、法学一般の基礎知識、さらには文献収集ができるようになることも段階的な目標となります。 DP・CP　3，4，5，8
履修条件	特にありません。
授業方法	対面授業によって、文献を一緒に精読をすることや、受講生が作成したレジュメ・原稿をもとに議論や添削をしていきたいと考えています。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	研究報告及び原稿の内容について総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	受講生と相談しつつ、適宜、用意をしたいと考えています。		

参 考 書	適宜、紹介いたします。
オフィスアワー	随時受け付けます。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	興味・関心のある研究分野やテーマについての問題意識等を整理してください。（2時間）
	授業内容	**年間授業計画の説明を行います。**
	事後学習	年間授業計画を整理し、今後の展望を考えてください。（2時間）
2～4	事前学習	興味・関心のあるテーマや問題について複数、準備してください。（各2時間）
	授業内容	**興味・関心のあるテーマや問題について各回報告を行ってください。**
	事後学習	教員からの指導を振り返り、報告した内容を再検討し、修士論文執筆のテーマにするかどうか検討をしてください。（各2時間）
5～12	事前学習	第2回目～第4回目をもとに、修士論文のテーマの確定および、関連文献を収集してください。（各2時間）
	授業内容	**当該修士論文のテーマをもとに、報告を行ってください。**
	事後学習	教員からの指導を振り返り、報告した内容を再検討し、修正を加えてください。（2時間）

13～20	事前学習	修士論文のテーマをもとに、関連文献の収集をし、当該文献を精読するようにしてください。（各2時間）
	授業内容	**修士論文のテーマに関する研究報告、質疑応答、指導を行います。**
	事後学習	教員からの指導を振り返り、報告した内容を再検討し、修正を加える。（各2時間）
21～30	事前学習	修士論文のテーマに関する研究報告のレポートを準備してください。（各2時間）
	授業内容	**修士論文のテーマに関する研究報告、質疑応答、指導を行います。**
	事後学習	教員からの指導を振り返り、報告した内容を再検討し、修正を加えてください。（各2時間）
31～34	事前学習	修士論文のテーマに関する研究報告の詳細なレポートを準備してください。（各2時間）
	授業内容	**修士論文のテーマに関する研究報告、質疑応答、指導を行います。**
	事後学習	教員からの指導を振り返り、報告した内容を再検討し、修正を加えてください。（各2時間）
35～41	事前学習	修士論文の部分原稿を準備してください。（各2時間）
	授業内容	**修士論文の部分原稿に関する指導を行います。**
	事後学習	教員からの指導を振り返り、部分原稿の内容を再検討し、修正を加えてください。（各2時間）
42～45	事前学習	修士論文の部分原稿を準備してください。（各2時間）
	授業内容	**修士論文の部分原稿に関する指導を行います。**
	事後学習	教員からの指導を振り返り、部分原稿の内容を再検討し、修正を加えてください。（各2時間）
46～54	事前学習	修士論文の部分原稿を準備してください。（各2時間）
	授業内容	**修士論文の部分原稿に関する指導を行います。**
	事後学習	教員からの指導を振り返り、部分原稿の内容を再検討し、修正を加えてください。（各2時間）
55～58	事前学習	修士論文の部分原稿を準備してください。（各2時間）
	授業内容	**修士論文の部分原稿に関する指導を行います。**
	事後学習	教員からの指導を振り返り、部分原稿の内容を再検討し、修正を加えてください。（各2時間）
59～60	事前学習	修士論文の完成原稿を用意してください。（各2時間）
	授業内容	**修士論文の完成に向けて、最終的な指導を行います。**
	事後学習	教員からの指導に基づいて、修士論文を完成させてください。（各3時間）

科目名	専門演習(行政法)	担当者	西原　雄二	期間	通年	単位数	4

授業概要	修士論文の完成に向けて、当該研究テーマに関する論文指導を行う。
授業目的・到達目標	学術論文の技法を修得し、修士論文を執筆する能力を養成することを目的とする。研究テーマを適切に設定し、関連する文献や資料等を収集し、詳細な分析・検討をしたうえで、修士論文を執筆できるようになることを目標とする。 関連するDP・CP　3，4，5，8
履修条件	特になし。
授業方法	院生の研究報告に対してコメントを加え、執筆の原稿に対して添削指導を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	実施しない。
	平 常 評 価	100%	研究報告及び原稿の内容について総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特に使用しない。		

参 考 書	授業中に適宜、紹介する。
オフィスアワー	火曜日12:00－13:00、研究室（9号館1階：9102号室）にて質問を受け付ける。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	興味・関心のある研究分野やテーマについての問題意識等を整理する。（2時間）
	授業内容	**年間授業計画の説明及び参考図書の解説を行う。**
	事後学習	修士課程における学修のポイントを確認する。（2時間）
2～4	事前学習	興味・関心のあるテーマや問題についてレポートを準備する。
	授業内容	**興味・関心のあるテーマや問題についての報告を行う。**
	事後学習	教員からの指導を振り返り、報告した内容を再検討し、修正を加える。
5～12	事前学習	修士論文のテーマと概要に関するレポートを準備する。（2時間）
	授業内容	**修士論文のテーマの設定に関する報告を行う。**
	事後学習	教員からの指導を振り返り、報告した内容を再検討し、修正を加える。（2時間）

13～20	事前学習	修士論文のテーマに関する研究報告のレポートを準備する。（2時間）
	授業内容	**修士論文のテーマに関する研究報告、質疑応答、指導を行う。**
	事後学習	教員からの指導を振り返り、報告した内容を再検討し、修正を加える。（2時間）
21～30	事前学習	修士論文のテーマに関する研究報告のレポートを準備する。（2時間）
	授業内容	**修士論文のテーマに関する研究報告、質疑応答、指導を行う。**
	事後学習	教員からの指導を振り返り、報告した内容を再検討し、修正を加える。（2時間）
31～34	事前学習	修士論文のテーマに関する研究報告の詳細なレポートを準備する。（2時間）
	授業内容	**修士論文のテーマに関する研究報告、質疑応答、指導を行う。**
	事後学習	教員からの指導を振り返り、報告した内容を再検討し、修正を加える。（2時間）
35～41	事前学習	修士論文の部分原稿を準備する。（2時間）
	授業内容	**修士論文の部分原稿に関する指導を行う。**
	事後学習	教員からの指導を振り返り、部分原稿の内容を再検討し、修正を加える。（2時間）
42～45	事前学習	修士論文の部分原稿を準備する。（2時間）
	授業内容	**修士論文の部分原稿に関する指導を行う。**
	事後学習	教員からの指導を振り返り、部分原稿の内容を再検討し、修正を加える。（2時間）
46～54	事前学習	修士論文の部分原稿を準備する。（2時間）
	授業内容	**修士論文の部分原稿に関して、詳細な指導を行う。**
	事後学習	教員からの指導を振り返り、部分原稿の内容を再検討し、修正を加える。（2時間）
55～58	事前学習	修士論文の部分原稿を準備する。（2時間）
	授業内容	**修士論文の部分原稿に関して、詳細な指導を行う。**
	事後学習	教員からの指導を振り返り、部分原稿の内容を再検討し、修正を加える。（2時間）
59～60	事前学習	修士論文の完成原稿を用意する。（2時間）
	授業内容	**修士論文の完成に向けて、最終的な指導を行う。**
	事後学習	教員からの指導に基づいて、修士論文を完成させる。（3時間）

科目名	専門演習(税法)	担当者	阿部　徳幸	期間	通年	単位数	4

授業概要	大学院生として修士論文を完成させるための能力を養う。そのため現行の租税制度の問題点を人権論の視点から研究し、税法理論、税を取り巻く社会現象に対する理解を深める。
授業目的・到達目標	修士論文の完成を目的とする。そのために、税法に関する基礎理論はもちろんのこと、その応用知識の習得とこれらを文章として表現できることを目標とする。 関連するDP・CP公法学専攻3.4.5.8
履修条件	税法特殊講義Ⅰ・Ⅱの履修を条件とする。また、基本的な法律学、会計学の習得ができていることを前提とする。
授業方法	チューター方式により講義を進めていく。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	授業参加度、質問内容、理解度などにより評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			

参考書	阿部徳幸『税法がわかる30話(第２版)』(中央経済社)、石村耕治編著『現代税法入門塾(第12版)』（清文社）、金子宏『租税法(第24版)』（弘文堂）、税務六法（法令・通達）は必須
オフィスアワー	月曜日・金曜日の午後　研究室にて　事前に連絡のこと。 abe.noriyuki17〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
	授業内容	**租税法律主義・応能負担原則** **最近の判例等による租税法律主義と応能負担原則について問題点の検討**
	事後学習	授業内容を踏まえたうえでの該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
2～4	事前学習	該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
	授業内容	**所得税法（1）** **最近の判例等による所得税法について問題点の検討**
	事後学習	授業内容を踏まえたうえでの該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
5～12	事前学習	該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
	授業内容	**所得税法（2）** **最近の判例等による所得税法について問題点の検討**
	事後学習	授業内容を踏まえたうえでの該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）

13～20	事前学習	該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
	授業内容	**法人税法** **最近の判例等による法人税法について問題点の検討**
	事後学習	授業内容を踏まえたうえでの該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
21～30	事前学習	該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
	授業内容	**最近の判例等による相続税法について問題点の検討**
	事後学習	授業内容を踏まえたうえでの該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
31～34	事前学習	該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
	授業内容	**最近の判例等による消費税法について問題点の検討**
	事後学習	授業内容を踏まえたうえでの該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
35～41	事前学習	該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
	授業内容	**地方税法** **最近の判例等による地方税法について問題点の検討**
	事後学習	授業内容を踏まえたうえでの該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
42～45	事前学習	該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
	授業内容	**租税手続法** **最近の判例等による租税手続法について問題点の検討**
	事後学習	授業内容を踏まえたうえでの該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
46～54	事前学習	該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
	授業内容	**租税争訟法** **最近の判例等による租税手続法について問題点の検討**
	事後学習	授業内容を踏まえたうえでの該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
55～58	事前学習	該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
	授業内容	**租税処罰法** **最近の判例等による処罰法について問題点の検討**
	事後学習	授業内容を踏まえたうえでの該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
59～60	事前学習	該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
	授業内容	**近年の税の使途・税制改正の動向についての検討**
	事後学習	授業内容を踏まえたうえでの該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）

科目名	専門演習(税法)	担当者	黒川　功	期間	通年	単位数	4

授業概要	受講者が自ら興味を持った税法事例を解析・整理し、まとめて順番に報告し、全員で検討を加えます。ケースメソッドは、法的思考力、リーガルマインド、法実践力を涵養する上で極めて重要であり、かつ修士論文のアイディアの獲得にもつながるなど有用性も極めて高いものです。自分の担当時は勿論、他のメンバーの報告時にも全力で参加することによって最大の効果を発揮します。月に1回外部の税法専門家・研究者を招いて研究会を行います。
授業目的・到達目標	現代法の中心領域に位置し、国政の中身を規定しながら国民生活・権利状況のあらゆる部面に決定的影響を及ぼす税法は、現代における現実的なリーガルマインドの形成を目指す上では不可欠の科目となります。本講座は、これを民主主義税法学の立場から体系的、具体的に解析することにより、税法理論、税法現象に対する理解と税法実践能力を効率的に高めていくことを目的とします。難解といわれる個別の租税事件からその法的問題を抽出し、体系的で説得的な法実践理論を展開できるだけの実力の養成を目指します。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻３，４，５，８
履修条件	根本法である憲法や、税法適用の前提となる市民法生活を規定する民法等に対する基本的な理解が不可欠になります。法学の基礎教育を受けていない受講者は、学部の授業にも出る等、１年目に追いついておく必要があります。
授業方法	受講者による基調報告とこれに対する質疑応答を行った上で、税法理論と租税現象を体系的に理解するための解説をします。授業計画に示されている可能な代表的テーマの例示は報告者の自由なテーマ選定を妨げるものではありません。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	平常点（報告と授業参加内容）で評価するので特に試験は行わない。
	平 常 評 価	100%	出席と質疑等授業への参加内容を毎回評価し、その累積点により評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2022年12月	勁草書房	税法学原論（第9版）	北野弘久著 黒川功補訂
	１９８１年 １１月	岩波新書	納税者の権利	北野弘久
	備考	税法学原論を研究の基本書とする。		

参 考 書	北野弘久他編『日本税制の総点検』（勁草書房）。その他、随時指定する。
オフィスアワー	金曜１４時４０分～１６時１０分、研究室。事前にアポイントメント(kuro-nin@ezweb.ne.jp)を取り、相談内容を知らせた上で訪問してください。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	法学部以外の出身者は、できるだけ法学の素養をつけておくことが望ましいでしょう。（２時間）
	授業内容	**年間講義計画・成績評価の方法・参考文献紹介、租税制度の意義、税法体系、租税法律関係**
	事後学習	問題点を自分なりに理解し、法理論として整合的な理解・説明ができるように努めることが肝要です。（２時間）
2～4	事前学習	報告者が1週間前にメールする資料に目を通す等して、問題の概略と論点を理解しておくことが効果的な学習の要点です。（２時間）
	授業内容	**税法の指導法原則** **租税法律主義の原則** **応能負担原則**
	事後学習	問題点を自分なりに理解し、法理論として整合的な理解・説明ができるように努めることが肝要です。（２時間）
5～12	事前学習	報告者が1週間前にメールする資料に目を通す等して、問題の概略と論点を理解しておくことが効果的な学習の要点です。（２時間）
	授業内容	**所得税法（１）**
	事後学習	問題点を自分なりに理解し、法理論として整合的な理解・説明ができるように努めることが肝要です。（２時間）

13～20	事前学習	報告者が1週間前にメールする資料に目を通す等して、問題の概略と論点を理解しておくことが効果的な学習の要点です。（２時間）
	授業内容	**所得税法（２）**
	事後学習	問題点を自分なりに理解し、法理論として整合的な理解・説明ができるように努めることが肝要です。（２時間）
21～30	事前学習	報告者が1週間前にメールする資料に目を通す等して、問題の概略と論点を理解しておくことが効果的な学習の要点です。（２時間）
	授業内容	**法人税法**
	事後学習	問題点を自分なりに理解し、法理論として整合的な理解・説明ができるように努めることが肝要です。（２時間）
31～34	事前学習	報告者が1週間前にメールする資料に目を通す等して、問題の概略と論点を理解しておくことが効果的な学習の要点です。（２時間）
	授業内容	**消費税法**
	事後学習	問題点を自分なりに理解し、法理論として整合的な理解・説明ができるように努めることが肝要です。（２時間）
35～41	事前学習	報告者が1週間前にメールする資料に目を通す等して、問題の概略と論点を理解しておくことが効果的な学習の要点です。（２時間）
	授業内容	**相続・贈与税法**
	事後学習	問題点を自分なりに理解し、法理論として整合的な理解・説明ができるように努めることが肝要です。（２時間）
42～45	事前学習	報告者が1週間前にメールする資料に目を通す等して、問題の概略と論点を理解しておくことが効果的な学習の要点です。（２時間）
	授業内容	**租税手続法**
	事後学習	問題点を自分なりに理解し、法理論として整合的な理解・説明ができるように努めることが肝要です。（２時間）
46～54	事前学習	報告者が1週間前にメールする資料に目を通す等して、問題の概略と論点を理解しておくことが効果的な学習の要点です。（２時間）
	授業内容	**租税争訟法**
	事後学習	問題点を自分なりに理解し、法理論として整合的な理解・説明ができるように努めることが肝要です。（２時間）
55～58	事前学習	報告者が1週間前にメールする資料に目を通す等して、問題の概略と論点を理解しておくことが効果的な学習の要点です。（２時間）
	授業内容	**租税処罰法**
	事後学習	問題点を自分なりに理解し、法理論として整合的な理解・説明ができるように努めることが肝要です。（２時間）
59～60	事前学習	報告者が1週間前にメールする資料に目を通す等して、問題の概略と論点を理解しておくことが効果的な学習の要点です。（２時間）
	授業内容	**租税特別措置** **税法改正の動向**
	事後学習	問題点を自分なりに理解し、法理論として整合的な理解・説明ができるように努めることが肝要です。（２時間）

科目名	専門演習(税法)	担当者	鳥飼　貴司	期間	通年	単位数	4

授業概要	大学院生として修士論文を完成させるための能力を養う。現行税法の問題点を憲法論の視点から研究し、税法理論、税を取り巻く社会現象に対する理解を深める。
授業目的・到達目標	修士論文の完成を目的とする。税法学の基礎理論はもちろんのこと、その応用知識の習得と法律論文が執筆できることを目標とする。 関連するDP・CP公法学専攻3.4.5.8
履修条件	税法特殊講義Ⅰ・Ⅱの履修を条件とする。また、基本的な法律学、会計学の習得ができていることを前提とする。
授業方法	「演習」なので、受講者による論文作成状況報告で授業を進める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業参加度、質問内容、理解度などにより評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			

参 考 書	北野弘久（黒川功補訂）『税法学原論（第9版）』（勁草書房）、金子宏『租税法(第24版)』（弘文堂）、税務六法、租税判例百選など。
オフィスアワー	月曜日～水曜日の昼休み（休暇中を除く。事前にメールでアポを取る）研究室（9号館5階9503研究室）torikai.takashi◎nihon-u.ac.jp（◎を@にする。）

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	様々な「論文の書き方」と題する書物を読んで、修士論文執筆とは何をすることなのかについての検討。（2時間以上）
	授業内容	**ガイダンス・修士論文のテーマ決め**
	事後学習	授業内容を踏まえたうえでの該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
2～4	事前学習	該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
	授業内容	**修士論文のテーマ決め** **設定した修士論文のテーマを具体的に報告する。** **修士論文の進捗状況報告**
	事後学習	授業内容を踏まえたうえでの該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
5～12	事前学習	該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
	授業内容	**修士論文の進捗状況報告**
	事後学習	授業内容を踏まえたうえでの該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）

13～20	事前学習	該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
	授業内容	**修士論文の進捗状況報告**
	事後学習	授業内容を踏まえたうえでの該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
21～30	事前学習	該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
	授業内容	**修士論文の進捗状況報告**
	事後学習	授業内容を踏まえたうえでの該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
31～34	事前学習	該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
	授業内容	**修士論文の進捗状況報告**
	事後学習	授業内容を踏まえたうえでの該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
35～41	事前学習	該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
	授業内容	**修士論文の進捗状況報告**
	事後学習	授業内容を踏まえたうえでの該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
42～45	事前学習	該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
	授業内容	**修士論文の進捗状況報告**
	事後学習	授業内容を踏まえたうえでの該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
46～54	事前学習	該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
	授業内容	**修士論文の進捗状況報告**
	事後学習	授業内容を踏まえたうえでの該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
55～58	事前学習	該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
	授業内容	**修士論文の進捗状況報告**
	事後学習	授業内容を踏まえたうえでの該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
59～60	事前学習	該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）
	授業内容	**修士論文の進捗状況報告**
	事後学習	授業内容を踏まえたうえでの該当項目についての文献、判例の検討。（2時間以上）

科目名	労働法特殊講義Ⅰ	担当者	新谷　眞人	期間	前期	単位数	2

授業概要	労働法は、社会経済状況と密接に結び付いた法領域である。近年も、働き方改革など世間の注目を集めている。授業では、それらの社会問題が、現行法でどのように基礎づけられているかに着目して研究を進めていきたい。
授業目的・到達目標	労働契約法、労働基準法、労働組合法の基礎知識を養成することを目的とする。 働き方改革の最新動向を説明できることを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，６
履修条件	労働問題，労働裁判に関心のある者。
授業方法	テキストに即して，各自が順番に報告する。報告は、テキスト本文だけでなく、各自が研究して、法的考え方と自分の見解をレジュメにまとめて発表する。その後全員で質疑討論を行う。なお、教員から新聞記事等の資料を配付することがある。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業参加度、報告の内容等を総合評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	令和５年度	法律文化社	労働法の基本・第２版	本久洋一・小宮文人編
	備考			

参 考 書	菅野和夫『労働法・第12版』弘文堂（2024年２月改訂版刊行予定） 『労働判例百選・第10版』別冊ジュリスト（有斐閣）
オフィスアワー	随時メールで対応いたします。　araya.masato@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを読み、準備をする（2時間）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	授業の復習（2時間）
2	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**労働法とは何か**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
3	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**労働者の法的地位**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）

4	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**労働者とは誰か**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
5	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**使用者とは誰か**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
6	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**労働法とマルチチュード(1)**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
7	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**労働法とマルチチュード(2)**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
8	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**労働契約の締結**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
9	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**労働契約の内容決定**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
10	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**労働契約上の権利義務**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
11	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**いわゆる労働憲章**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
12	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**人事異動**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
13	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**労働協約による労働条件の変更**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
14	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**就業規則による労働条件の変更**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業の復習（2時間）
	授業内容	**前期のまとめ**
	事後学習	前期の学修内容を再確認する。（2時間）

科目名	労働法特殊講義Ⅰ	担当者	大山　盛義	期間	前期	単位数	2

授業概要	労働法判例を通じて現代の日本社会における労働問題を考える。労働法特殊講義Ⅱでは集団的労働関係の権利義務について学修し、学生が自らの権利義務を理解する労働者となることを目的とする
授業目的・到達目標	学生が、個別的労働法分野についての法制度および裁判例などを通して現代日本における雇用・労働問題を理解し、雇用・労働に関する法律及び判例について基本的な知識を獲得するとともに、課題を発見し解決に向けた思考を養い、現代社会における法の役割を理解し、説明することができる力を養成することを目的とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，６
履修条件	学部の講義である、労働法Ⅰおよび労働法Ⅱ（ないし「労働法」）を履修済みであることが望ましい。2022年度六法必携。
授業方法	演習形式で行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	法的思考方法、判決文の読み方が身についてるか、判決に対して自らの意見を論理的に展開できるか等を総合的に考慮して判断する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2020年度	弘文堂	Next 教科書シリーズ労働法〔第2版〕	新谷眞人編
	備考			

参考書	ジュリスト『労働判例百選第10版』有斐閣、ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年）有斐閣。その他、講義において適宜案内する。
オフィスアワー	火曜日3時限研究室にて（メールでアポイントメントをとること）。

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと（２時間）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	指定論文・判例を読む（２時間）
2	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働組合**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
3	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**争議行為**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）

4	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**組合活動**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
5	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**不当労働行為（１）**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
6	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**不当労働行為（２）**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
7	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働協約**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
8	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働災害（１）**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
9	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働災害（２）**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
10	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働時間（１）**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
11	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働時間（２）**
	事後学習	指定論文・判例を読む（２時間）
12	事前学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
	授業内容	**労働者の人格権・平等取扱い**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
13	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働者概念**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
14	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**使用者概念**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
15	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**復習**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）

科目名	労働法特殊講義Ⅱ	担当者	新谷　眞人	期間	後期	単位数	2

授業概要	労働法は、社会経済状況と密接に結び付いた法領域である。近年も、働き方改革など世間の注目を集めている。授業では、それらの社会問題が、現行法でどのように基礎づけられているかに着目して研究を進めていきたい。
授業目的・到達目標	労働契約法、労働基準法、労働組合法の基礎知識を養成することを目的とする。 働き方改革の最新動向を説明でことを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，６
履修条件	労働問題、労働裁判に関心のある者。
授業方法	テキストで取り上げられている論点について、各自が順番に報告する。報告は，テキスト本文だけでなく、そこに示されている参考文献及び判例に目を通したうえで、法的考え方と自分の見解をレジュメにまとめて発表する。その後全員で質疑討論を行う。なお、教員から新聞記事等の資料を配付することがある。

成績評価

種別	割合	評価方法
定 期 試 験		
平 常 評 価	100%	授業参加度、報告の内容等を総合評価する。

教科書

年	出版社	書名	著者名
令和５年度	法律文化社	労働法の基本・第２版	本久洋一・小宮文人編

備考

参 考 書	菅野和夫『労働法・第12版』弘文堂（2024年２月改訂版刊行予定） 『労働判例百選・第10版』別冊ジュリスト（有斐閣）
オフィスアワー	随時メールで対応いたします。　araya.masato@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを読み、準備をする。（2時間）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	授業の復習をする。（2時間）
2	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**解雇、有期労働契約の雇い止め**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
3	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**退職の意思表示、定年制**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）

4	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**賃金支払いの４原則**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
5	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**最低賃金**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
6	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**労働時間の概念**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
7	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**時間外労働の規制**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
8	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**変形労働時間制**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
9	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**休憩・休日・年次有給休暇**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
10	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**就業規則による労働条件の変更**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
11	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**労働災害の補償**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
12	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**業務災害の認定**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
13	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**団結権保障と労働組合**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
14	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**不当労働行為制度**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
15	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**団体交渉と労働協約**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）

科目名	労働法特殊講義Ⅱ	担当者	大山　盛義	期間	後期	単位数	2

授業概要	労働法判例を通じて現代の日本社会における労働問題を考える。労働法特殊講義Ⅱでは集団的労働関係の権利義務について学修し、学生が自らの権利義務を理解する労働者となることを目的とする
授業目的・到達目標	学生が、個別的労働法分野についての法制度および裁判例などを通して現代日本における雇用・労働問題を理解し、雇用・労働に関する法律及び判例について基本的な知識を獲得するとともに、課題を発見し解決に向けた思考を養い、現代社会における法の役割を理解し、説明することができる力を養成することを目的とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，６
履修条件	学部の講義である、労働法Ⅰおよび労働法Ⅱ（ないし「労働法」）を履修済みであることが望ましい。2022年度の六法を必携すること。
授業方法	演習形式で行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	法的思考方法、判決文の読み方が身についてるか、判決に対して自らの意見を論理的に展開できるか等を総合的に考慮して判断する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2020年度	弘文堂	Next 教科書シリーズ労働法〔第2版〕	新谷眞人編
	備考			

参考書	ジュリスト『労働判例百選第10版』有斐閣。その他、講義において適宜案内する。
オフィスアワー	火曜日4時限研究室にて（メールでアポイントメントをとること）。

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと（２時間）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	指定論文・判例を読む（２時間）
2	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働組合**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
3	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**争議行為**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）

4	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**組合活動**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
5	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**不当労働行為（１）**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
6	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**不当労働行為（２）**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
7	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働協約**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
8	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働災害（１）**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
9	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働災害（２）**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
10	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働時間（１）**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
11	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働時間（２）**
	事後学習	指定論文・判例を読む（２時間）
12	事前学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
	授業内容	**労働者の人格権・平等取扱い**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
13	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働者概念**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
14	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**使用者概念**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
15	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**復習**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）

科目名	社会保障法特殊講義Ⅰ	担当者	神尾真知子	期間	前期	単位数	2

授業概要	総論として、社会保障法の歴史、法理、法体系について学び、各論として、社会保障法特殊講義Ⅰでは、社会保険を中心に取り上げて、代表的な判例を研究する。社会保障法特殊講義Ⅱでは、社会福祉サービス、公的扶助、社会手当を中心に取り上げて、代表的は判例を研究する。ⅠとⅡの両方を履修して、社会保障法全体を理解することができる。
授業目的・到達目標	院生が、社会保障法の理念を理解し、社会保障法全体の体系を把握できるようにする。その上で、社会保険上のさまざまな論点に関する判例を学ぶことによって、社会保障法の法解釈力を身につけることを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，３，６
履修条件	社会保障法特殊講義Ⅰおよび社会保障法特殊講義Ⅱの両方を履修して、社会保障法の全体を理解してほしい。
授業方法	社会保障法の体系書を輪読する。重要判例を取り上げて、法解釈を検討し、受講生が報告する形式で進める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	講義の参加度、講義における報告、発言、レポートなどで総合評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	２０２２年	法律文化社	原理で学ぶ社会保障法	神尾・増田・山田 若尾・金川・衣笠
	備考			

参考書	社会保障法学会編『講座社会保障法』（全６巻）法律文化社、社会保障法学会編『新・講座　社会保障法』有斐閣 神尾真知子・古橋エツ子編著『社会保障』（NEXT教科書シリーズ）弘文堂
オフィスアワー	水曜日12時30分～13時（事前にメールでアポイントを取ること） 適宜場所を指定する。　kamio.machiko〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書の目次を読んで、講義全体を概観する。　（２時間）
	授業内容	**授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、社会保障法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（２時間）
2	事前学習	社会保障法の定義、体系、法源について考察する。（２時間）
	授業内容	**社会保障法の定義、体系、法源**
	事後学習	講義ノートを確認し、社会保障法の定義、体系、法源の理解を確認し、説明できるようにする。（２時間）
3	事前学習	社会保障法の理念と憲法について考察する。（２時間）
	授業内容	**社会保障法の理念と憲法**
	事後学習	講義ノートを確認し、社会保障法の理念と憲法の理解を確認し、説明できるようにする。（２時間）

4	事前学習	社会保障給付の権利、社会保障の歴史と社会保障法学の展開、社会保障法の全体像について考察する。（２時間）
	授業内容	**社会保障給付の権利、社会保障の歴史と社会保障法学の展開、社会保障法の全体像**
	事後学習	社会保障給付の権利、社会保障の歴史と社会保障法学の展開、社会保障法の全体像の確認し、説明できるようにする。（２時間）
5	事前学習	社会保障法の全体像、社会保障の具体的手段・管理運営の組織・財源について考察する。（２時間）
	授業内容	**社会保障法の全体像、社会保障の具体的手段・管理運営の組織・財源**
	事後学習	社会保障法の全体像、社会保障の具体的手段・管理運営の組織・財源を理解し、説明できるようにする。（２時間）
6	事前学習	年金保険の社会保険としての仕組みについて考察する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―年金保険①ー社会保険としての仕組み**
	事後学習	年金保険の社会保険としての仕組みを確認し、説明できるようにする。（２時間）
7	事前学習	年金保険の給付の仕組みについて考察する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―年金保険②ー給付**
	事後学習	年金保険の給付の仕組みにはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。（２時間）
8	事前学習	年金保険に関連する判決文をよく読み、事実の概要と判旨をまとめたレポートを作成する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―年金保険③ー判例**
	事後学習	年金保険関連判決の事実を確認した上で、判旨を理解し、説明できるようにする。（２時間）
9	事前学習	医療保険の社会保険としての仕組みについて考察する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―医療保険①ー社会保険としての仕組み**
	事後学習	医療保険の社会保険としての仕組みを理解し、説明できるようにする。（２時間）
10	事前学習	医療保険の給付の仕組みについて考察する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―医療保険②ー給付**
	事後学習	医療保険の給付の仕組みにはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。（２時間）
11	事前学習	医療保険に関連する判決文をよく読み、事実の概要と判旨をまとめたレポートを作成する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―医療保険③-判例**
	事後学習	医療保険に関連する判決の事実を確認した上で、判旨を理解し、説明できるようにする。（２時間）
12	事前学習	労災保険の社会保険としての仕組みについて考察する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―労災保険①ー社会保険としての仕組み**
	事後学習	労災保険の社会保険としての仕組みを理解し、説明できるようにする。（２時間）
13	事前学習	労災保険の給付の仕組みについて考察する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―労災保険②ー給付**
	事後学習	労災保険の給付の仕組みにはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。（２時間）
14	事前学習	労災保険に関連する判決文をよく読み、事実の概要と判旨をまとめたレポートを作成する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―労災保険③ー判例**
	事後学習	労災保険に関連する判決の事実を確認した上で、判旨を理解し、説明できるようにする。（２時間）
15	事前学習	前学期に学習した内容を確認する。（２時間）
	授業内容	**講義のまとめ**
	事後学習	前学期の学習内容の理解を深める。（２時間）

科目名	社会保障法特殊講義Ⅰ	担当者	橋爪　幸代	期間	前期	単位数	2

授業概要	総論として、社会保障法の歴史、法理、法体系について学び、各論として、社会保障法特殊講義Ⅰでは、社会保険を中心に取り上げて、代表的な判例を学修する。
授業目的・到達目標	社会保障法の理念を理解し、社会保障法全体の体系を把握できるようにする。その上で、社会保険上のさまざまな論点に関する判例を学ぶことによって、社会保障法の法解釈力を身につける。 本講義で学んだことを説明し、社会保障法上の課題について私見を述べることができるようになることを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，３，６
履修条件	社会保障法制度全体を理解するために、社会保障法特殊講義Ⅰおよび社会保障法特殊講義Ⅱの両方を履修すること。
授業方法	社会保障法の体系を理解するために、社会保障法の体系書を基に法制度について理解した上で、関連判例を取り上げて、法解釈を検討する。受講生が報告する形式で進める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	講義の参加度、講義における報告、発言、レポートなどで総合評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2024年度	不磨書房	トピック社会保障法18版	本沢巳代子・新田秀樹編著
	2016年度	有斐閣	社会保障判例百選（第５版）	岩村正彦編
	備考			

参 考 書	社会保障法学会編『講座社会保障法』（全6巻）法律文化社、『新・講座　社会保障法』（全3巻）法律文化社 その他、受講生の関心に応じて、適宜紹介する。
オフィスアワー	火曜日14時40分～16時　研究室にて（事前にメールにてアポイントをとること）hashidume.sachiyo@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書の目次を読んで、講義全体を概観する。　（２時間）
	授業内容	**授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、社会保障法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（２時間）
2	事前学習	社会保障はどのような歴史をたどってきたのか、法理念、法体系、法源は何かについて考察する。（２時間）
	授業内容	**社会保障法の歴史、法理念、法体系、法源**
	事後学習	講義ノートを確認し、社会保障法の歴法、法理念、法体系、法源の理解を確認し、説明できるようにする。（２時間）
3	事前学習	医療保険の社会保険としての仕組みを理解する。（２時間）
	授業内容	**社会保険-医療保険①ー社会保険としての仕組み**
	事後学習	医療保険の社会保険としての仕組みを確認し、説明できるようにする。（２時間）

4	事前学習	医療保険の給付の仕組みを理解する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―医療保険②―給付**
	事後学習	医療保険の給付にはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。（２時間）
5	事前学習	医療保険に関連する判決文をよく読み、事実の概要と判旨をまとめたレポートを作成する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―医療保険③―判例**
	事後学習	医療関連判決の事実を確認した上で、判旨を理解し、説明できるようにする。（２時間）
6	事前学習	労災保険の社会保険としての仕組みを理解する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―労災保険①―社会保険としての仕組み**
	事後学習	労災保険の社会保険としての仕組みを理解し、説明できるようにする。（２時間）
7	事前学習	労災保険の給付の仕組みを理解する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―労災保険②―給付**
	事後学習	労災保険の給付の仕組みにはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。（２時間）
8	事前学習	労災保険に関連する判決文をよく読み、事実の概要と判旨をまとめたレポートを作成する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―労災保険③―判例**
	事後学習	労災保険に関連する判決の事実を確認した上で、判旨を理解し、説明できるようにする。（２時間）
9	事前学習	雇用保険の社会保険としての仕組みを理解する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―雇用保険①―社会保険としての仕組み**
	事後学習	雇用保険の社会保険としての仕組みを理解し、説明できるようにする。（２時間）
10	事前学習	雇用保険の給付の仕組みを理解する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―雇用保険②―給付**
	事後学習	雇用保険の給付の仕組みにはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。（２時間）
11	事前学習	雇用保険に関連する判決文をよく読み、事実の概要と判旨をまとめたレポートを作成する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―雇用保険③―判例**
	事後学習	雇用保険に関連する判決の事実を確認した上で、判旨を理解し、説明できるようにする。（２時間）
12	事前学習	年金保険の社会保険としての仕組みを理解する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―年金保険①―社会保険としての仕組み**
	事後学習	年金保険の社会保険としての仕組みを理解し、説明できるようにする。（２時間）
13	事前学習	年金保険の給付の仕組みを理解する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―年金保険②―給付**
	事後学習	年金保険の給付の仕組みにはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。（２時間）
14	事前学習	年金保険に関連する判決文をよく読み、事実の概要と判旨をまとめたレポートを作成する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―年金保険③-判例**
	事後学習	年金保険に関連する判決の事実を確認した上で、判旨を理解し、説明できるようにする。（２時間）
15	事前学習	前学期に学習した内容を確認する。（２時間）
	授業内容	**講義のまとめ**
	事後学習	前学期の学習内容の理解を深める。（２時間）

科目名	社会保障法特殊講義Ⅱ	担当者	神尾真知子	期間	後期	単位数	2

授業概要	社会保障法特殊講義Ⅱは、社会福祉サービス、公的扶助、社会手当を中心に取り上げて、代表的な判例を研究する。
授業目的・到達目標	院生が、社会福祉サービス、公的扶助、社会手当について法制度を理解し、法的論点を検討する力を身につける。代表的な判例を研究し、社会保障法の法解釈力を身につけることを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，３，８
履修条件	社会保障法特殊講義Ⅰを履修していること。講義は、社会保障法特殊講義Ⅰを履修していることを前提に行う。
授業方法	社会保障法の体系書を輪読する。重要判例を取り上げて、法解釈を検討し、受講生が報告する形式で進める。

成績評価

種別	割合	評価方法
定期試験	0%	
平常評価	100%	講義の参加度、講義における報告、発言、判例レポートなどで総合評価する。

教科書

年	出版社	書名	著者名
２０２２年	法律文化社	原理で学ぶ社会保障法	神尾・増田・山田 若尾・金川・衣笠

備考

参考書	社会保障法学会編『講座社会保障法』（全６巻）法律文化社、社会保障法学会編『新・講座　社会保障法』有斐閣 神尾真知子・古橋エツ子編著『社会保障』（NEXT教科書シリーズ）弘文堂
オフィスアワー	水曜日12時30分～13時（事前にメールでアポイントを取ること） 適宜場所を指定する。　kamio.machiko〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	雇用保険の社会保険としての仕組みと給付を理解する。　(2時間)
	授業内容	**社会保険－雇用保険①ー社会保険としての仕組みと給付**
	事後学習	講義ノートを確認し、雇用保険の社会保険としての仕組みと給付を確認し、説明できるようにする。(2時間)
2	事前学習	雇用保険関連判例をよく読み、事実の概要と判旨を確認し、レポートを作成する。(2時間)
	授業内容	**社会保険－雇用保険②ー判例**
	事後学習	講義ノートを確認し、雇用保険関連判例の判旨を理解し、説明できるようにする。(2時間)
3	事前学習	介護保険の社会保険としての仕組みを確認する。(2時間)
	授業内容	**社会保険ー介護保険①－社会保険としての仕組み**
	事後学習	講義ノートを確認し、介護保険はどのような仕組みなのかを理解し、説明できるようにする。(2時間)

4	事前学習	介護保険の給付の仕組みを理解する（2時間）
	授業内容	**社会保険ー介護保険②ー社会保険としての給付**
	事後学習	介護保険の給付にはどのようなものがあるのかを理解し、説明できるようにする。（2時間）
5	事前学習	介護保険関連判例をよく読み、事実の概要を判旨を確認し、レポートを作成する。（2時間）
	授業内容	**社会保険ー介護保険③－判例**
	事後学習	講義ノートを確認し、介護保険関連判例の事実と判旨を理解し、説明できるようにする。（2時間）
6	事前学習	障がい者福祉サービスはどのような仕組みなのかを理解する。（2時間）
	授業内容	**社会福祉サービスー障がい者福祉サービス①ー仕組み**
	事後学習	講義ノートを確認し、障がい者福祉サービスの仕組みを理解し、説明できるようにする。（2時間）
7	事前学習	障がい者福祉サービス関連判例をよく読み、事実と判旨を確認し、レレポートを作成する。（2時間）
	授業内容	**社会福祉サービスー障がい者福祉サービス②－判例**
	事後学習	講義ノートを確認し、障がい者福祉サービス関連判例の判旨を理解し、説明できるようにする。（2時間）
8	事前学習	社会手当とは何か、児童手当の仕組みを確認する。（2時間）
	授業内容	**社会手当ー児童手当①－仕組み**
	事後学習	講義ノートを確認し、児童手当の仕組みを理解し、説明できるようにする。（2時間）
9	事前学習	児童扶養手当の仕組みを確認する。（2時間）
	授業内容	**社会手当ー児童扶養手当①ー仕組み**
	事後学習	講義ノートを確認し、児童扶養手当の仕組みを理解し、説明できるようにする。（2時間）
10	事前学習	児童扶養手当関連判例をよく読み、事実と判旨を確認し、レポートを作成する。（2時間）
	授業内容	**社会手当—児童扶養手当②－判例**
	事後学習	講義ノートを確認し、児童扶養手当関連判例の判旨を理解し、説明できるようにする。（2時間）
11	事前学習	公的扶助とは何か、生活保護の仕組みを確認する。（2時間）
	授業内容	**公的扶助—生活保護①－仕組み**
	事後学習	講義ノートを確認し、生活保護はどのような手続きによって給付されるのかを理解し、説明できるようにする。（2時間）
12	事前学習	生活保護の支給要件を確認する。（2時間）
	授業内容	**公的扶助ー生活保護②－保護の補足性の原則**
	事後学習	講義ノートを確認し、保護の補足性の原則とは何かを理解し、説明できるようにする。（2時間）
13	事前学習	生活保護関連判例をよく読み、事実と判旨を確認し、レポートを作成する。（2時間）
	授業内容	**公的扶助ー生活保護③－判例**
	事後学習	講義ノートを確認し、生活保護関連判例を理解し、説明できるようにする。（2時間）
14	事前学習	外国人に対する社会保障の適用を確認する。（2時間）
	授業内容	**外国人と社会保障①-生存権と社会保障法**
	事後学習	講義ノートを確認し、外国人にはどのような社会保障立法が適用されるのかを理解し、説明できるようにする。（2時間）
15	事前学習	外国人と社会保障関連判例をよく読み、事実と判旨を確認し、レポートを作成する。（2時間）
	授業内容	**外国人と社会保障②－判例**
	事後学習	講義ノートを確認し、外国人と社会保障関連判例の判旨を理解し、説明できるようにする。（2時間）

科目名	社会保障法特殊講義Ⅱ	担当者	橋爪　幸代	期間	後期	単位数	2

授業概要	各論として、社会福祉サービス、公的扶助を中心に取り上げて、代表的な判例を学修する。
授業目的・到達目標	社会福祉サービス、公的扶助、社会手当を取り上げ、法的論点を検討する。代表的な判例を研究する。社会保障法の法解釈力を身につけ、私見が述べられるようにする。各制度について説明できるようにするとともに、各制度における課題について私見が述べられるようにする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，３，６
履修条件	社会保障法制度全体を理解するために、社会保障法特殊講義Ⅰおよび社会保障法特殊講義Ⅱの両方を履修すること。
授業方法	社会保障法の体系を理解するために、社会保障法の体系書を基に法制度について理解した上で、関連判例を取り上げて、法解釈を検討する。受講生が報告する形式で進める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	講義の参加度、講義における報告、発言、レポートなどで総合評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2024年度	不磨書房	トピック社会保障法第18版	本沢巳代子・新田秀樹編著
	2016年度	有斐閣	社会保障判例百選（第５版）	岩村正彦編
	備考			

参 考 書	社会保障法学会編『講座社会保障法』（全6巻）法律文化社、『新・講座　社会保障法』（全3巻）法律文化社 その他、受講生の関心に応じて、適宜紹介する。
オフィスアワー	火曜日14時00分～16時　研究室にて（事前にメールにてアポイントをとること）hashidume.sachiyo@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書の目次を読んで、講義全体を概観する。　（２時間）
	授業内容	**授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、社会保障法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（２時間）
2	事前学習	社会福祉サービスはどのような歴史をたどってきたのかについて考察する。（２時間）
	授業内容	**社会福祉サービス制度の全体像**
	事後学習	講義ノートを確認し、社会福祉サービスの歴史、法理念、法体系、法源の理解を確認し、説明できるようにする。（２時間）
3	事前学習	児童福祉制度の仕組みを調べる。（２時間）
	授業内容	**社会福祉-児童①ー児童福祉サービスの仕組み**
	事後学習	児童福祉サービスの仕組みを確認し、説明できるようにする。（２時間）

4	事前学習	児童福祉サービスの給付の仕組みを調べる。（２時間）
	授業内容	**社会福祉―児童②ー給付**
	事後学習	児童福祉サービスの給付にはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。（２時間）
5	事前学習	児童福祉に関連する判決文をよく読み、事実の概要と判旨をまとめたレポートを作成する。（２時間）
	授業内容	**社会福祉―児童③ー判例**
	事後学習	児童福祉に関連する判決の事実を確認した上で、判旨を理解し、説明できるようにする。（２時間）
6	事前学習	障害者福祉制度の仕組みを調べる。（２時間）
	授業内容	**社会福祉―障害者①ー障害者福祉制度の仕組み**
	事後学習	障害者福祉制度の仕組みを理解し、説明できるようにする。（２時間）
7	事前学習	障害者福祉制度の給付の仕組みを調べる。（２時間）
	授業内容	**社会福祉―障害者②ー給付**
	事後学習	障害者福祉制度の給付の仕組みにはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。（２時間）
8	事前学習	障害者福祉に関連する判決文をよく読み、事実の概要と判旨をまとめたレポートを作成する。（２時間）
	授業内容	**社会福祉―障害者③ー判例**
	事後学習	障害者福祉に関連する判決の事実を確認した上で、判旨を理解し、説明できるようにする。（２時間）
9	事前学習	介護保険の仕組みを調べる。（２時間）
	授業内容	**社会福祉―高齢者①ー介護保険としての仕組み**
	事後学習	介護保険の仕組みを理解し、説明できるようにする。（２時間）
10	事前学習	介護保険の給付の仕組みを調べる。（２時間）
	授業内容	**社会福祉―高齢者②ー給付**
	事後学習	介護保険の給付の仕組みにはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。（２時間）
11	事前学習	介護保険に関連する判決文をよく読み、事実の概要と判旨をまとめたレポートを作成する。（２時間）
	授業内容	**社会福祉―高齢者③ー判例**
	事後学習	介護保険に関連する判決の事実を確認した上で、判旨を理解し、説明できるようにする。（２時間）
12	事前学習	生活保護制度の仕組みを調べる。（２時間）
	授業内容	**生活保護①ー仕組み**
	事後学習	生活保護制度の仕組みを理解し、説明できるようにする。（２時間）
13	事前学習	生活保護の給付の仕組みを調べる。（２時間）
	授業内容	**生活保護②ー給付**
	事後学習	生活保護の給付の仕組みにはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。（２時間）
14	事前学習	生活保護に関連する判決文をよく読み、事実の概要と判旨をまとめたレポートを作成する。（２時間）
	授業内容	**生活保護③-判例**
	事後学習	生活保護に関連する判決の事実を確認した上で、判旨を理解し、説明できるようにする。（２時間）
15	事前学習	後学期に学習した内容を確認する。（２時間）
	授業内容	**講義のまとめ**
	事後学習	後学期の学習内容の理解を深める。（２時間）

法学研究科

私法学専攻

科目名	独法特殊講義Ⅰ	担当者	玉蟲　由樹	期間	前期	単位数	2

授業概要	本講義では，ドイツ連邦憲法裁判所の活動を手がかりに，ドイツの憲法理論の構築と変遷とを学修する。
授業目的・到達目標	ドイツ連邦憲法裁判所の過去の重要判例や最新の判例を精読することにより，ドイツの憲法裁判制度およびそこでの審査手法に関する深い理解を得ることを目的とする。 本講義では，主に1993年までの判例を取り上げる。連邦憲法裁判所が判例のなかでいかなる審査手法・判例法理を展開してきたかを理解し，説明できるようになることを目標とし，比較法的視点から日本法への示唆を得られるようにする。 関連するDP・CP　公法学専攻1，2，3，6
履修条件	連邦憲法裁判所の原語判決文を読める程度のドイツ語の読解能力を有していること。
授業方法	資料にもとづき受講者による報告・議論を中心に行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	報告・発言のクオリティおよび積極性を評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし		

参考書	ドイツ憲法判例研究会編『ドイツの憲法判例Ⅰ～Ⅳ』（信山社），工藤・畑尻編『ドイツの憲法裁判（第2版）』（中央大学出版部），鈴木・三宅編『ガイドブック　ドイツの憲法判例』（信山社）
オフィスアワー	月曜13：00～14：30 金曜13：00～14：30 研究室にて 事前にメール（tamamushi.yuki@nihon-u.ac.jp）等で連絡をすること。

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスをよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	配布資料によく目を通しておくこと。（２時間）
2	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**ドイツの憲法裁判概論**
	事後学習	連邦憲法裁判所の組織・権限・手続について復習しておくこと。（２時間）
3	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所成立期（1951～55）の判例（1）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）

4	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所成立期の判例（2）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
5	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所成立期の判例（3）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
6	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所定着期（1956～1969）の判例（1）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
7	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所定着期の判例（2）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
8	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所定着期の判例（3）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
9	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所転換期（1970～1978）の判例（1）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
10	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所転換期の判例（2）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
11	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所転換期の判例（3）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
12	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所転換期の判例（4）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
13	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所安定期（1979～1993）の判例（1）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
14	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所安定期の判例（2）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
15	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**連邦憲法裁判所安定期の判例（3）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）

科目名	独法特殊講義Ⅱ	担当者	玉蟲　由樹	期間	後期	単位数	2

授業概要	本講義では，ドイツ連邦憲法裁判所の活動を手がかりに，ドイツの憲法理論の構築と変遷とを学修する。
授業目的・到達目標	ドイツ連邦憲法裁判所の過去の重要判例や最新の判例を精読することにより，ドイツの憲法裁判制度およびそこでの審査手法に関する深い理解を得ることを目的とする。 本講義では，主に1994年以降の判例を取り上げる。連邦憲法裁判所が判例のなかでいかなる審査手法・判例法理を展開してきたかを理解し，説明できるようになることを目標とし，比較法的視点から日本法への示唆を得られるようにする。 関連するDP・CP 公法学専攻1，2，3，6
履修条件	連邦憲法裁判所の原語判決文を読める程度のドイツ語の読解能力を有していること。
授業方法	資料にもとづき受講者による報告・議論を中心に行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	報告・発言のクオリティおよび積極性を評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし		

参 考 書	ドイツ憲法判例研究会編『ドイツの憲法判例Ⅰ～Ⅳ』（信山社），工藤・畑尻編『ドイツの憲法裁判（第2版）』（中央大学出版部），鈴木・三宅編『ガイドブック　ドイツの憲法判例』（信山社）
オフィスアワー	月曜13：00～14：30 金曜13：00～14：30 研究室にて 事前にメール（tamamushi.yuki@nihon-u.ac.jp）等で連絡をすること。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**「危機の時代」（1994～1996）の判例（1）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
2	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**「危機の時代」の判例（2）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
3	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**「危機の時代」の判例（3）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）

4	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**「危機の時代」の判例（4）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
5	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**2000年以降の判例（1）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
6	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**2000年以降の判例（2）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
7	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**2000年以降の判例（3）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
8	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**2000年以降の判例（4）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
9	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**2000年以降の判例（5）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
10	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**2000年以降の判例（6）**
	事後学習	取り上げた判例について復習しておくこと。（２時間）
11	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**まとめ（1）法と政治**
	事後学習	連邦憲法裁判所の活動と権力分立との関係性について復習しておくこと。（２時間）
12	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**まとめ（2）審査手法**
	事後学習	連邦憲法裁判所が展開してきた審査手法について整理・復習しておくこと。（２時間）
13	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**まとめ（3）審査基準**
	事後学習	審査基準について復習しておくこと。（２時間）
14	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**まとめ（4）連邦憲法裁判所批判**
	事後学習	近時の連邦憲法裁判所批判の特色について復習しておくこと。（２時間）
15	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（２時間）
	授業内容	**まとめ（5）連邦憲法裁判所とEU**
	事後学習	EUの活動に対する連邦憲法裁判所のスタンスを整理・復習しておくこと。（２時間）

科目名	民法特殊講義Ⅰ	担当者	大杉　麻美	期間	前期	単位数	2

授業概要	わが国における家族法は、わが国特有の歴史や社会背景を踏まえたうえで制定されている。最近では様々な家族の形を法律として規定すべきかについて議論されているが、このような問題を考えるためには、家族法分野での議論や判例の動向をも理解する必要がある。本講義では、民法「第4編親族」「第5編相続」にかかる演習問題を活用しつつ、家族の抱える様々な問題点につき理解を深めていく。
授業目的・到達目標	家族法に関するテーマに関する論文や判例を読むことで、様々な家族問題に対する理解を深めることを目的とする。 (1)家族法の制定経緯について学び、戦前と戦後の家族法の違いについて説明することができる。 (2)論文を輪読することで、家族法に対する考え方を理解し、自らのテーマとして考える。 (3)判例を読むことで、社会に具体的に生起する問題を理解し、具体的な解決策を考えることができる。 関連するDP・CP私法学専攻1，3，6，7
履修条件	法学部において、親族法・相続法の講義を履修していることが望ましい。
授業方法	発表担当者は事前にレジュメを作成し発表する。他の受講生も質疑応答等の講義に参加すること。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	講義への参加状況、発表の内容等を考慮し、総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2022	株式会社商事法務	『Law Practice 民法Ⅲ【親族・相続編】［第2版］』	棚村政行・水野紀子・潮見佳男編
	備考			

参考書	詳細については、開講時に指示をする。また、講義中に必要に応じて指示をする。
オフィスアワー	火曜日12:10-13:00　研究室(4号館3階431研究室)。 教員への連絡用メールアドレス：osugi.mami〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	教科書の目次とはしがきを読んで、家族法の全体像について把握しておく。(2時間)
	授業内容	**家族法の歴史、考え方、全体像について解説する。また講義の受け方についても解説する。**
	事後学習	家族法の歴史についてまとめ、現行家族法との違いについてまとめておく。(2時間)
2	事前学習	「①戸籍・氏名、②家事事件の手続き」を読んで、家庭裁判所の役割についてまとめておく。(2時間)
	授業内容	**戸籍・氏名(夫婦別氏制度)。家事事件手続法について解説する。**
	事後学習	夫婦別氏制度について調べ、自らの意見を述べられるようにまとめておく。(2時間)
3	事前学習	「③婚姻意思、④婚姻障害事由と取消し」を読んで、婚姻の効果についてまとめておく。(2時間)
	授業内容	**婚姻意思、婚姻取消、婚姻無効、婚姻障害事由について解説する。**
	事後学習	婚姻取消と婚姻無効の違いについてまとめるとともに、自らの意見を述べられるようにまとめておく。(2時間)

4	事前学習	「⑤貞操義務・不貞行為」を読んで、夫婦関係のあり方についてまとめておく。(2時間)
	授業内容	**婚姻の効果、貞操義務、不貞行為について解説する。**
	事後学習	婚姻の効果、夫婦関係のあり方について、自らの意見を述べられるように考えておく。(2時間)
5	事前学習	「⑥婚姻費用、⑦日常家事債務の連帯責任と表見代理、」を読んで、夫婦の財産関係に関する法律問題についてまとめておく。(2時間)
	授業内容	**夫婦の財産関係と日常家事債務の連帯責任、夫婦の法律関係の基本としての同居・協力・扶助の各義務、夫婦財産制、日常家事債務の連帯責任について解説する。**
	事後学習	「夫婦の財産関係に関する法律問題」について教科書をまとめるとともに、自らの意見を述べられるように考えておく。(2時間)。(2時間)
6	事前学習	「⑨離婚の成立①一離婚の意思、⑩離婚の成立②一有責配偶者からの離婚請求」を読んで、自らの意見を述べられるようにまとめておく。(2時間)
	授業内容	**「法律婚をする意味、離婚原因(破綻主義)、有責配偶者からの離婚請求、離婚の方式について解説する。**
	事後学習	「離婚原因と有責配偶者からの離婚請求」について教科書をまとめるとともに、自らの意見を述べられるように考えておく。(2時間)
7	事前学習	「⑪財産分与と離婚慰謝料」を読んで、離婚時における財産分与の実態について調べておく。(2時間)
	授業内容	**婚姻中に取得された財産の帰属、慰謝料請求、過去の婚姻費用分担金の清算、財産分与について解説する。**
	事後学習	「婚姻中の財産の帰属と慰謝料請求」について教科書をまとめるとともに、自らの意見を述べられるように考えておく。(2時間)
8	事前学習	「⑫離婚と子の監護一面会交流・養育費、⑬子の引渡請求」を読んで、離婚後の親子関係のあり方についてまとめておく。(2時間)
	授業内容	**面会交流、別居中の父母間の子の奪い合い、親権者変更について解説する。**
	事後学習	「面会交流」について教科書をまとめるとともに、自らの意見を述べられるようにまとめておく。(2時間)
9	事前学習	「⑭婚姻外関係の不当破棄、⑮内縁準婚理論」を読んで、婚姻外関係のあり方についてまとめておく。(2時間)
	授業内容	**内縁の意義と要件、内縁関係の解消、内縁カップルの子の法的地位と親権の帰属、重婚的内縁、法律婚復活のための重婚的内縁関係の解消について解説する。**
	事後学習	「内縁の法律問題」について教科書をまとめるとともに、自らの意見を述べられるように考えておく。(2時間)
10	事前学習	「⑯嫡出推定、⑰親子関係存否確認請求訴訟」を読んで、親子関係の確定について調べておく。(2時間)
	授業内容	**嫡出推定・嫡出否認制度と推定の及ばない子、任意認知とその無効・取消、離婚後300日問題について解説する。**
	事後学習	「親子関係の法律問題」について教科書をまとめるとともに、自らの意見を述べられるように考えておく。(2時間)
11	事前学習	「⑱生殖補助医療と親子関係、⑲認知」を読んで、親子関係のあり方についてまとめておく。(2時間)
	授業内容	**非嫡出(婚外)母子関係の成立、代理懐胎によって生まれた子の法的地位について解説する。**
	事後学習	「生殖補助医療の法律問題」について教科書をまとめるとともに、自らの意見を述べられるように考えておく。(2時間)。
12	事前学習	「⑳普通養子・㉑特別養子」を読んで、養子のあり方についてまとめておく。(2時間)
	授業内容	**縁組意思、表見代諾権者による縁組の効力、特別養子・未成年普通養子・継子について解説する。**
	事後学習	「縁組意思・縁組の効力等」について教科書をまとめるとともに、自らの意見を述べられるように考えておく。(2時間)
13	事前学習	「㉒利益相反行為・親権濫用、㉔親権喪失停止・未成年後見」を読んで、親権のあり方についてまとめておく。(2時間)
	授業内容	**親権制限(親権喪失・親権停止・管理権喪失)、父母以外の者による監護者指定の申立、未成年後見制度、児童相談所による児童虐待防止対応について解説する。**
	事後学習	「親権制限」について教科書をまとめるとともに、自らの意見を述べられるように考えておく。(2時間)
14	事前学習	「㉓成年後見、㉕私的扶養と公的扶助」を読んで、高齢者扶養のあり方についてまとめておく。(2時間)
	授業内容	**扶養義務者による扶養、過去の扶養料、扶養以外の支援について解説する。**
	事後学習	「扶養の権利義務関係にかかる法律問題」について教科書をまとめるとともに、自らの意見を述べられるように考えておく。(2時間)
15	事前学習	これまで講義で扱った内容についてノートを整理し、分からなかったところを書き出しておく。(2時間)
	授業内容	**親族法の講義の振り返り、残された課題の解説を行う。質疑応答も受け付けます。**
	事後学習	これまでの講義内容を整理し、現代的課題について自らの考えをまとめておく。(2時間)

科目名	民法特殊講義Ⅰ	担当者	加藤　雅之	期間	前期	単位数	2

授業概要	外国語（英語またはフランス語）で書かれた文献の購読を通じて，民法（財産法）の論点について比較法的考察を行う。対象とする文献は受講生と相談の上で決定する。
授業目的・到達目標	民法の主要論点についての問題発見および解決能力の育成を目的とし（1）民法の基本的論点について問題の所在を明快に説明することができること，（2）論点に関する重要判例および学説についてその意義や対立点を説明することができること，および（3）資料を分析した上で私見を論理的に示すことができることを目標とする。 関連するＤＰ・ＣＰ　私法学専攻１、３、６、７
履修条件	民法（財産法）全般について基本的事項を理解していること，および英語またはフランス語について基本的な語学力を有していること。
授業方法	文献講読，報告および質疑応答等によって授業を進める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	文献購読への参画度，質疑応答およびレポート提出等の取り組みを総合評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし。		

参 考 書	授業の際に指示する。
オフィスアワー	水曜日　１２：００～１３：００（授業期間中。事前にメールでアポイントを取ること） 研究室（４号館４２３号室）　メールアドレス：kato.masayuki〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	民法全般について知識を整理しておくこと。（２時間）
	授業内容	**ガイダンス　購読する文献を決定する**
	事後学習	関心のある論点を選び、参考文献を調べておくこと。（２時間）
2	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）
3	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）

4	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）
5	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）
6	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）
7	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）
8	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）
9	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）
10	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）
11	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）
12	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）
13	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）
14	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）
15	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）

科目名	民法特殊講義Ⅰ	担当者	清水　恵介	期間	前期	単位数	2

授業概要	民法の解釈に関する判例を毎回採り上げ，問題の所在や他の判例・学説の動向を踏まえた評釈を行う。採り上げる判例は，授業参加者の意見や最新の裁判例を参考にしながら，随時適切なものを選択する。
授業目的・到達目標	【授業目的】学説の到達点を踏まえて判例を批判的に分析する能力を養成することを目的とする。 【到達目標】判例とその事案を論理的かつ批判的に分析し，学説や他の評釈を適切に整理しつつも，独自の視点からの見解を定立できるようになることを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，３，６，７
履修条件	学部で民法の講義を一通り受けたことなどにより，民法の基本的知識を既に備えていること。
授業方法	学生による事前の予習を前提に，質疑応答形式で行う。 取り扱う判例は，受講生の意向を聞いた上で決定する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	授業中の質疑応答内容や授業参加度によって評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし。		

参考書	授業内で適宜教示する。
オフィスアワー	当該授業に関する質問を，授業期間中の水曜日12時10分～13時に研究室で受け付ける。ただし，オフィスアワーを利用した質問を希望する学生は，ガイダンスの際に教示するメールアドレス宛てに，質問の概要及び希望日を事前に通知し，希望者の競合等により対応不能である旨の回答がない場合であることを条件とする。

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを事前に読み，履修条件に該当するように準備する。（２時間）
	授業内容	**オリエンテーション**
	事後学習	授業で指定した参考書を購入するなどして，次回以降の授業に備える。（２時間）
2	事前学習	参考書の該当箇所や配布される資料を事前に読む。（２時間）
	授業内容	**判例評釈の手法（１）**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）
3	事前学習	参考書の該当箇所や配布される資料を事前に読む。（２時間）
	授業内容	**判例評釈の手法（２）**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）

4	事前学習	参考書の該当箇所や配布される資料を事前に読む。（２時間）
	授業内容	**判例評釈の手法（３）**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）
5	事前学習	参考書の該当箇所や配布される資料を事前に読む。（２時間）
	授業内容	**民法の判例（１）**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）
6	事前学習	参考書の該当箇所や配布される資料を事前に読む。（２時間）
	授業内容	**民法の判例（２）**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）
7	事前学習	参考書の該当箇所や配布される資料を事前に読む。（２時間）
	授業内容	**民法の判例（３）**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）
8	事前学習	参考書の該当箇所や配布される資料を事前に読む。（２時間）
	授業内容	**民法の判例（４）**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）
9	事前学習	参考書の該当箇所や配布される資料を事前に読む。（２時間）
	授業内容	**民法の判例（５）**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）
10	事前学習	参考書の該当箇所や配布される資料を事前に読む。（２時間）
	授業内容	**民法の判例（６）**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）
11	事前学習	参考書の該当箇所や配布される資料を事前に読む。（２時間）
	授業内容	**民法の判例（７）**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）
12	事前学習	参考書の該当箇所や配布される資料を事前に読む。（２時間）
	授業内容	**民法の判例（８）**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）
13	事前学習	参考書の該当箇所や配布される資料を事前に読む。（２時間）
	授業内容	**民法の判例（９）**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）
14	事前学習	参考書やこれまでに配布された資料を通読する。（２時間）
	授業内容	**まとめ**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）
15	事前学習	事前に指示された条件に従ってレポートの書面を作成する。（２時間）
	授業内容	**レポート**
	事後学習	授業で指摘された事項を参考書等で確認し，レポート書面を修正する。（２時間）

科目名	民法特殊講義Ⅰ	担当者	長谷川　貞之	期間	前期	単位数	2

授業概要	本講座では、契約の仕組みを理解し、契約の多角化の問題を研究する。現代社会における基本的な法律関係は二当事者間の契約関係から多数当事者間の契約関係に移行しつつあるが、民法典には多数当事者間の法律関係を規律するものとして代理・保証・第三者のためにする契約が用意されているにすぎない。本講座では、契約の多角化の中核となる「第三者のためにする契約」と「契約上の地位の譲渡（契約譲渡）」を取り上げ、契約多角化の理論を学ぶ。
授業目的・到達目標	現代社会で用いられる様々な契約関係にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、契約の多角化の基礎理論を修得し、第三者のためにする契約や契約上の地位の譲渡（契約譲渡）などについて、受講生が説明できることを目標とする。 関連するDP・CP1、3、6、7
履修条件	法学部における民法科目、とりわけ契約を中心とした財産法領域の科目について、一通りの学習および基礎的理解ができていること。
授業方法	授業計画に即しながら、講義形式で授業を進める。適宜、ソクラテス・メソッドを用いる。外国法文献などの購読も行う。考える授業が本講義のモットーである。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	授業態度、課題の取組み、予習・復習の内容などを考慮し、総合的に評価する。授業内レポート、リサーチ・ペーパーの作成を課すことがある。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	２０１２	日本評論社	多角的法律関係の研究	椿寿夫・中舎寛樹（編）
	２０１７	商事法務	三角・多角取引と民法法理の深化	椿寿夫（編）
	備考	上記のほか、授業で使用する個別論文等については、その都度、紹介する。		

参考書	内田貴=門口正人（編集代表）『講座：現代の契約法　各論１・２・３』（青林書院、2019年） 椿寿夫（編）『《契約の終了》を開拓する』（商事法務、2023年）
オフィスアワー	水曜日・12時30分～50分、授業教室。事前にアポイントを取ること。 連絡用メールアドレス：hasegawa.sadayuki@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	民法の全体構造を体系的に理解するとともに、民法典が規律する規範構造とそれを支える基本原理を事前に学習する。併せて、ドイツ民法やフランス民法についても、理解を深める。（２時間）
	授業内容	**ガイダンスⅠ／本講義の意義・目的** **民法の基本原理** **民法典と比較民法（ドイツ、フランスなど）**
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）
2	事前学習	教科書および参考書を熟読し、多角的法律関係の意義と既存の法体系について調べる。（２時間）
	授業内容	**総論（その１）：民法における多角的法律関係――多角的法律関係の意義と既存の法体系**
	事後学習	教科書・参考書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）
3	事前学習	教科書および参考書を熟読し、多角的法律関係の現状と特別法について調べる。（２時間）
	授業内容	**総論（その２）：民法における多角的法律関係と契約の多角化――多角的法律関係の捉え方：民法と特別法**
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）

4	事前学習	教科書および参考書を熟読し、「第三者のためにする契約」と多角的法律関係との関係について調べる。（２時間）
	授業内容	**第三者のためにする契約（その１）：法典編纂から見た「第三者のためにする契約」の意義**
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）
5	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、第三者のためにする契約の多角的法律関係について調べておく。（２時間）
	授業内容	**第三者のためにする契約（その２）：比較法の視点から見た「第三者のためにする契約」**
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）
6	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、第三者のためにする契約の多角的法律関係について調べておく。（２時間）
	授業内容	**第三者のためにする契約（その３）：現代法における「第三者のためにする契約」の展開**
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）
7	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、第三者のためにする契約の多角的法律関係について調べておく。（２時間）
	授業内容	**第三者のためにする契約（その４）；「第三者のためにする契約」の深化と取引法理**
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）
8	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、第三者のためにする契約の多角的法律関係について調べておく。（２時間）
	授業内容	**第三者のためにする契約（その５）：「第三者のためにする契約」と近時の債権法改正**
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）
9	事前学習	これまでの授業内容を教科書・参考書および配布プリントを参考にまとめ、整理する。 「課題と質問」を整理する。（２時間）
	授業内容	**小括／整理＆まとめ**
	事後学習	「課題と質問」に取り組む。 リサーチペーパーの主題設定と基本文献の収集など。（２時間）
10	事前学習	教科書および参考書を熟読し、「契約上の地位の移転（契約譲渡）」の意義について調べる。（２時間）
	授業内容	**契約上の地位の移転（契約譲渡）（その１）：契約上の地位の移転（契約譲渡）と民法典**
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）
11	事前学習	教科書および参考書を熟読し、「契約上の地位の移転（契約譲渡）」と近時の債権法改正について調べる。（２時間）
	授業内容	**契約上の地位の移転（契約譲渡）（その２）：契約上の地位の移転（契約譲渡）と近時の債権法改正**
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）
12	事前学習	教科書および参考書を熟読し、「契約上の地位の移転（契約譲渡）」と近時の裁判例について調べる。（２時間）
	授業内容	**契約上の地位の移転（契約譲渡）（その３）：契約上の地位の移転（契約譲渡）と裁判例**
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）
13	事前学習	教科書および参考書を熟読し、「契約上の地位の移転（契約譲渡）」の有用性と限界について調べる。（２時間）
	授業内容	**契約上の地位の移転（契約譲渡）（その４）：契約上の地位の移転（契約譲渡）の有用性と限界**
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）
14	事前学習	教科書および参考書を熟読し、「契約上の地位の移転（契約譲渡）と契約・取引の多角化の要素について調べる。（２時間）
	授業内容	**契約上の地位の移転（契約譲渡）（その５）：契約上の地位の移転（契約譲渡）」と契約・取引の多角化の要素――多元的な契約理論への転換の可能性**
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）
15	事前学習	これまでの授業内容を教科書・参考書および配布プリントを参考にまとめ、整理する。 「課題と質問」を整理する。（２時間）
	授業内容	**総括／質疑応答＆まとめ**
	事後学習	リサーチペーパーの主題設定と基本文献の収集など。（２時間） レポートを課した場合は、後日、添削して返却する。

科目名	民法特殊講義Ⅰ	担当者	藤村　和夫	期間	前期	単位数	2

授業概要	不法行為における過失論と損害論を中心に、不法行為法について学修する。
授業目的・到達目標	不法行為における過失論と損害論についての基礎理論の修得を目的とし、具体的な事例（判例）に基づいて内容を説明できることを目標とする。 関連するDP・CP私法学専攻1，3，6，7
履修条件	不法行為法の基礎を理解していること。
授業方法	判例、裁判例による受講生の報告に基づく解説と講義をするが、受講生との間の質疑、応答（アクティブラーニング）が中心となる。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業における議論に参加した内容をみて評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2020年	信山社	不法行為法	藤村和夫
	備考	特になし		

参 考 書	必要があれば、授業中に示す。
オフィスアワー	水曜日13時～14時（事前にメールでアポイントメントを取ること） メールアドレス：fujimura.kazuo○nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	教科書３頁～１８頁を読んでおく（以下、同様に教科書の該当頁を示す）（2時間）
	授業内容	**不法行為の意義、機能等**
	事後学習	不法行為のおよその意義、機能等を把握する（2時間）
2	事前学習	１９頁～３８頁（2時間）
	授業内容	**過失責任と無過失責任等**
	事後学習	民法上の責任にはどのようなものがあるかを確認する（2時間）
3	事前学習	３９頁～４６頁（2時間）
	授業内容	**被害者救済制度等**
	事後学習	被害者を救済する制度にはどのようなものがあるかをを理解する（2時間）

4	事前学習	４７頁～５３頁（2時間）
	授業内容	**不法行為の一般的成立要件**
	事後学習	故意の意義等（2時間）
5	事前学習	５４頁～６４頁（2時間）
	授業内容	**過失の意義等（１）**
	事後学習	過失とは何かを理解する（2時間）
6	事前学習	５４頁～６４頁（2時間）
	授業内容	**過失の意義等（２）**
	事後学習	過失とは何かを理解する（2時間）
7	事前学習	６５～６８頁（2時間）
	授業内容	**過失の立証責任**
	事後学習	過失の立証責任について理解する（2時間）
8	事前学習	６９頁～７５頁（2時間）
	授業内容	**権利侵害（１）**
	事後学習	権利侵害と違法性の関係について理解する（2時間）
9	事前学習	７６頁～８６頁（2時間）
	授業内容	**権利侵害（２）**
	事後学習	権利侵害認定の判断枠組みについて理解する（2時間）
10	事前学習	８７頁～１１７頁（2時間）
	授業内容	**権利侵害（３）**
	事後学習	被侵害権利の態様について理解する（１）（2時間）
11	事前学習	１１７頁～１４２頁（2時間）
	授業内容	**権利侵害（４）**
	事後学習	被侵害権利の態様について理解する（２）（2時間）
12	事前学習	１４３頁～１５２頁（2時間）
	授業内容	**権利侵害（５）**
	事後学習	違法性の阻却について理解する（2時間）
13	事前学習	１５３頁～１５６頁（2時間）
	授業内容	**損害**
	事後学習	損害の意義を理解する（2時間）
14	事前学習	１５７頁～１６２頁（2時間）
	授業内容	**因果関係（１）**
	事後学習	因果関係の意義について理解する（2時間）
15	事前学習	１６３頁～１６９頁（2時間）
	授業内容	**因果関係（２）**
	事後学習	立証責任についての理解を深める（2時間）

科目名	民法特殊講義Ⅱ	担当者	大杉　麻美	期間	後期	単位数	2

授業概要	わが国における家族法は、わが国特有の歴史や社会背景を踏まえたうえで制定されている。最近では様々な家族の形を法律として規定すべきかについて議論されているが、このような問題を考えるためには、家族法分野での議論や判例の動向をも理解する必要がある。本講義では、民法「第4編親族」「第5編相続」にかかる演習問題を活用しつつ、家族の抱える様々な問題点につき理解を深めていく。
授業目的・到達目標	家族法に関するテーマに関する論文や判例を読むことで、様々な家族問題に対する理解を深めることを目的とする。 (1)家族法の制定経緯について学び、戦前と戦後の家族法の違いについて説明することができる。 (2)論文を輪読することで、家族法に対する考え方を理解し、自らのテーマとして考える。 (3)判例を読むことで、社会に具体的に生起する問題を理解し、具体的な解決策を考えることができる。 関連するDP・CP私法学専攻1，3，6，7
履修条件	法学部において、親族法・相続法の講義を履修していることが望ましい。
授業方法	発表担当者は事前にレジュメを作成し発表する。他の受講生も質疑応答等の講義に参加すること。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	講義への参加状況、発表の内容等を考慮し、総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2022	株式会社商事法務	『Law Practice 民法Ⅲ【親族・相続編】［第2版］』	棚村政行・水野紀子・潮見佳男編
	備考			

参考書	詳細については、開講時に指示をする。また、講義中に必要に応じて指示をする。
オフィスアワー	火曜日12:10-13:00　研究室(4号館3階431研究室)。 教員への連絡用メールアドレス：osugi.mami〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	「㉖共同相続人に対する相続回復請求権」を事前に読み、相続の根拠と相続権についてまとめておく。(2時間)
	授業内容	**相続の根拠、相続の歴史、相続権について解説する。**
	事後学習	「相続の根拠」について教科書をまとめるとともに、自らの意見を述べられるように考えておく。(2時間)
2	事前学習	「㉗遺体・遺骨の承継、㉘相続欠格・廃除」を読んで、相続の欠格・廃除に関する法律問題について改正前と改正後の違いについてまとめておく。(2時間)
	授業内容	**遺体・遺骨の承継と所有権、相続欠格と廃除について解説する。**
	事後学習	「相続の欠格と廃除」について教科書をまとめるとともに、自らの意見を述べられるように考えておく。(2時間)。(2時間)
3	事前学習	「㉙再転相続、㉚相続財産分離」を読み、再転相続についてまとめておく。(2時間)
	授業内容	**再転相続、相続財産の分離について解説する。**
	事後学習	「再転相続」について教科書をまとめるとともに、自らの意見を述べられるように考えておく。(2時間)

4	事前学習	「㉛相続と登記①　登記申請義務、相続と登記②　相続分指定の場合と」を読み、相続と登記についてまとめておく。(2時間)
	授業内容	**相続と登記について解説する。**
	事後学習	「相続と登記」について教科書をまとめるとともに、自らの意見を述べられるように考えておく。(2時間)
5	事前学習	「㉝金銭債権の相続ー預貯金債権の場合、㉟保証債務の相続」を読み、相続における利益調整の仕組みについてまとめておく。(2時間)
	授業内容	**相続財産の法的性質、相続のあり方について解説する。**
	事後学習	「相続財産の承継」について教科書をまとめるとともに、自らの意見を述べられるように考えておく。(2時間)
6	事前学習	「㊱死亡保険金請求権と相続、㊲寄与分と遺留分」を読んで、相続財産の法的性質についてまとめておく。(2時間)
	授業内容	**相続財産の承継、寄与分の考え方に関する基本的な考え方について解説する。**
	事後学習	「特別受益と寄与分」について教科書をまとめるとともに、自らの意見を述べられるように考えておく。(2時間)
7	事前学習	「㊳遺産確認の訴え、㊴共有物分割手続きと遺産分割手続き」を読んで、相続財産の法律問題についてまとめておく。(2時間)
	授業内容	**相続財産の承継、相続人による「共有」について解説する。**
	事後学習	「相続財産の共有」について教科書をまとめるとともに、自らの意見を述べられるように考えておく。(2時間)
8	事前学習	「㊵遺産分割における代償財産・果実、㊶遺産分割協議と解除」を読んで、遺産分割についてまとめておく。(2時間)
	授業内容	**遺産分割の性質・方法、遺産分割の考え方について解説する。**
	事後学習	「遺産分割」について教科書をまとめるとともに、自らの意見を述べられるように考えておく。(2時間)
9	事前学習	「㊷相続人の不存在、㊸土地所有権の国家による承継(いわゆる土地所有権の放棄)」を読んでまとめておく。(2時間)
	授業内容	**相続人の不存在、国庫への帰属、その他空き家関連法制について解説する。**
	事後学習	「土地等の国庫帰属」について教科書をまとめるとともに、自らの意見を述べられるように考えておく。(2時間)
10	事前学習	「㊹高齢者の自筆証書遺言、㊺遺言の解釈ー後継ぎ遺贈」を読んで、高齢者の遺言のあり方についてまとめておく。(2時間)
	授業内容	**自筆証書遺言などの遺言の諸形態、遺言の解釈について解説する。**
	事後学習	「高齢者の遺言」について教科書をまとめるとともに、自らの意見を述べられるように考えておく。(2時間)
11	事前学習	「㊻遺贈・特定財産承継遺言と代襲、㊼遺言執行者の地位と権限ー特定財産承継遺言・第三者遺贈の場合」についてまとめるとともに、特定財産承継についてまとめておく。(2時間)
	授業内容	**特定財産承継遺言に関する判例、遺言執行者について解説する。**
	事後学習	「特定財産承継遺言にかかる法律問題」について教科書をまとめるとともに、自らの意見を述べられるように考えておく。(2時間)
12	事前学習	「㊽遺贈・死因贈与の撤回、㊾配偶者居住権・配偶者短期居住権」を読んで、配偶者の死後のすまいのあり方についてまとめておく。(2時間)
	授業内容	**遺贈と死因贈与に関する判例、配偶者居住権の改正経緯等について解説する。**
	事後学習	講義中に解説された内容をノートにまとめ、自らの意見を述べられるように考えておく。(2時間)
13	事前学習	「50　遺留分における基礎財産の算定、51　共同相続人に対する遺留分侵害額請求」を読んで、遺留分にかかる法律問題についてまとめておく。(2時間)
	授業内容	**相続分の指定と債務の相続、遺留分侵害額請求の前提となる遺留分侵害額の算定、遺留分を侵害する相続分の指定と遺留分の保護、相続人以外の者に対する包括遺贈と遺留分侵害について、改正前と改正後の違いも含めて解説する。**
	事後学習	講義中で解説された内容をノートにまとめて、分からなかったところを書き出しておく。(2時間)
14	事前学習	「52　信託と相続」を読んで、家族と信託との関係についてまとめておく。(2時間)
	授業内容	**家族信託等、相続財産と信託の関係について解説する。**
	事後学習	講義中で解説された内容をノートにまとめて、分からなかったところを書き出しておく。(2時間)
15	事前学習	これまで講義で扱った内容についてノートを整理し、分からなかったところを書き出しておく。(2時間)
	授業内容	**相続法の講義の振り返り、残された課題の解説を行う。質疑応答も受け付けます。**
	事後学習	これまでの講義内容を整理し、現代的課題について自らの考えをまとめておく。(2時間)

科目名	民法特殊講義Ⅱ	担当者	加藤　雅之	期間	後期	単位数	2

授業概要	外国語（英語またはフランス語）で書かれた文献の購読を通じて，民法（財産法）の論点について比較法的考察を行う。対象とする文献は受講生と相談の上で決定する。
授業目的・到達目標	民法の主要論点についての問題発見および解決能力の育成を目的とし（1）民法の基本的論点について問題の所在を明快に説明することができること，（2）論点に関する重要判例および学説についてその意義や対立点を説明することができること，および（3）資料を分析した上で私見を論理的に示すことができることを目標とする。 関連するＤＰ・ＣＰ　私法学専攻１、３、６、７
履修条件	民法（財産法）全般について基本的事項を理解していること，および英語またはフランス語について基本的な語学力を有していること。民法特殊講義Ⅰ（前学期開講）を履修していることが望ましい。
授業方法	文献講読，報告および質疑応答等によって授業を進める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	文献購読への参画度，質疑応答およびレポート提出等の取り組みを総合評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし。		

参考書	授業の際に指示する。
オフィスアワー	水曜日　１２：００～１３：００（授業期間中。事前にメールでアポイントを取ること） 研究室（４号館４２３号室）　メールアドレス：kato.masayuki〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	民法全般について知識を整理しておくこと。（２時間）
	授業内容	**ガイダンス　購読する文献を決定する**
	事後学習	関心のある論点を選び、参考文献を調べておくこと。（２時間）
2	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）
3	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）

4	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）
5	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）
6	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）
7	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）
8	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）
9	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）
10	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）
11	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）
12	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）
13	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）
14	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）
15	事前学習	該当箇所を読み，日本語で説明できるように準備する。（２時間）
	授業内容	**文献購読：原文を音読した上で，日本語訳をし，内容上の問題点を検討する。**
	事後学習	内容に関する理解を深める。（２時間）

科目名	民法特殊講義Ⅱ	担当者	清水　恵介	期間	後期	単位数	2

授業概要	同じ担当者による民法特殊講義Ⅰに引き続き，民法の解釈に関する判例を毎回採り上げ，問題の所在や他の判例・学説の動向を踏まえた評釈を行う。採り上げる判例は，授業参加者の意見や最新の裁判例を参考にしながら，随時適切なものを選択する。
授業目的・到達目標	【授業目的】学説の到達点を踏まえて判例を批判的に分析する能力を養成することを目的とする。 【到達目標】判例とその事案を論理的かつ批判的に分析し，学説や他の評釈を適切に整理しつつも，独自の視点からの見解を定立できるようになることを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻３，６，７
履修条件	民法特殊講義Ⅰ等により，判例評釈の手法を既に理解していること。
授業方法	学生による事前の予習を前提に，質疑応答形式で行う。 取り扱う判例は，受講生の意向を聞いた上で決定する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	
	平 常 評 価	100%	授業中の質疑応答内容や授業参加度によって評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし。		

参 考 書	授業内で適宜教示する。
オフィスアワー	当該授業に関する質問を，授業期間中の水曜日12時10分～13時に研究室で受け付ける。ただし，オフィスアワーを利用した質問を希望する学生は，ガイダンスの際に教示するメールアドレス宛てに，質問の概要及び希望日を事前に通知し，希望者の競合等により対応不能である旨の回答がない場合であることを条件とする。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを事前に読み，履修条件に該当するように準備する。（２時間）
	授業内容	**オリエンテーション**
	事後学習	授業で指定した参考書を購入するなどして，次回以降の授業に備える。（２時間）
2	事前学習	参考書の該当箇所や配布された資料を事前に読む。（２時間）
	授業内容	**民法の判例（１）**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）
3	事前学習	参考書の該当箇所や配布された資料を事前に読む。（２時間）
	授業内容	**民法の判例（２）**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）

4	事前学習	参考書の該当箇所や配布された資料を事前に読む。（２時間）
	授業内容	**民法の判例（３）**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）
5	事前学習	参考書の該当箇所や配布された資料を事前に読む。（２時間）
	授業内容	**民法の判例（４）**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）
6	事前学習	参考書の該当箇所や配布された資料を事前に読む。（２時間）
	授業内容	**民法の判例（５）**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）
7	事前学習	参考書の該当箇所や配布された資料を事前に読む。（２時間）
	授業内容	**民法の判例（６）**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）
8	事前学習	参考書の該当箇所や配布された資料を事前に読む。（２時間）
	授業内容	**民法の判例（７）**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）
9	事前学習	参考書の該当箇所や配布された資料を事前に読む。（２時間）
	授業内容	**民法の判例（８）**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）
10	事前学習	参考書の該当箇所や配布された資料を事前に読む。（２時間）
	授業内容	**民法の判例（９）**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）
11	事前学習	参考書の該当箇所や配布された資料を事前に読む。（２時間）
	授業内容	**民法の判例（１０）**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）
12	事前学習	参考書の該当箇所や配布された資料を事前に読む。（２時間）
	授業内容	**民法の判例（１１）**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）
13	事前学習	参考書の該当箇所や配布された資料を事前に読む。（２時間）
	授業内容	**民法の判例（１２）**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）
14	事前学習	参考書やこれまでに配布された資料を通読する。（２時間）
	授業内容	**まとめ**
	事後学習	授業でわからなかった箇所を参考書等で確認する。（２時間）
15	事前学習	事前に指示された条件に従ってレポートの書面を作成する。（２時間）
	授業内容	**レポート**
	事後学習	授業で指摘された事項を参考書等で確認し，レポート書面を修正する。（２時間）

科目名	民法特殊講義Ⅱ	担当者	長谷川　貞之	期間	後期	単位数	2

授業概要	本講座では、民法特殊講義Ⅰに続き、二当事者間契約から多角的契約関係に移行する現代社会を踏まえ、契約の多角的法律関係の問題を取り上げる。民法特殊講義Ⅰで取り上げなかった私法領域のうち、信託・保険・保証など契約の多角的法律関係について、深く掘り下げて研究する。
授業目的・到達目標	現代社会で用いられる様々な契約関係にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、契約の多角化の基礎理論を修得し、信託の基本構造やその特質、他人のためにする生命保険契約の仕組み、保証契約の多様性などについて、多角的契約関係という観点から受講生が説明できることを目標とする。 関連するDP・CP3，6，7
履修条件	法学部における民法科目、とりわけ契約を中心とした財産法領域の科目について、一通りの学習および基礎的理解ができていること。民法特殊講義Ⅰを履修していること。
授業方法	授業計画に即しながら、講義形式で授業を進めて行く。適宜、ソクラテス・メソッドを用いる。比較法視点に立脚した外国法文献なども購読する、考える授業が本講義のモットーである。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	授業態度、課題の取組み、予習・復習の程度などを考慮し、総合的に評価する。授業内レポートを課すことがある。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	２０１２年	日本評論社	多角的法律関係の研究	椿寿夫・中舎寛樹（編）
	２０１７年	商事法務	三角・多角取引と民法法理の深化	椿寿夫（編）
	備考	上記のほか、授業で使用する個別論文等については、その都度、紹介する。		

参考書	内田貴=門口正人（編集代表）『講座：現代の契約法　各論１・２・３』（青林書院、2019年） 椿寿夫（編）『《契約の終了》を開拓する』（商事法務、2023年）
オフィスアワー	水曜日・12時30分～50分、授業教室。事前にアポイントを取ること。 連絡用メールアドレス：hasegawa.sadayuki@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	民法の全体構造を体系的に理解するとともに、民法典の規範構造とそれを支える基本原理を事前に学習しておく。併せて、ドイツ民法やフランス民法などの民法典についても、比較法の視点から、理解を深める。（２時間）
	授業内容	**ガイダンス／本講義の意義・目的** **・講義Ⅰの確認と整理** **・民法典と比較民法（ドイツ、フランスなど）――外国法を学ぶ意義**
	事後学習	教科書・参考書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）
2	事前学習	教科書および参考書を熟読し、「多角的法律関係の意義と民法を中心とした法体系」について調べる。（２時間）
	授業内容	**総論（その１）：多角的法律関係の意義と既存の法体系、多角的法律関係の基礎理論**
	事後学習	教科書・参考書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）
3	事前学習	教科書および参考書を熟読し、民法とその他の法律との関係を整理し、「民法と特別法に関する多角的法律関係」について調べる。（２時間）
	授業内容	**総論（その２）：民法・特別法と多角的法律関係――多角的法律関係の捉え方**
	事後学習	教科書・参考書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）

4	事前学習	教科書および参考書を熟読し、「信託の基本構造」を、多角的法律関係の観点から調べる。（２時間）
	授業内容	**信託（その１）：「信託」の基本構造と多角的法律関係**
	事後学習	教科書・参考書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）
5	事前学習	教科書・参考書を熟読し、信託法・信託業法を中心とした「信託の多角的法律関係」について調べる。（２時間）
	授業内容	**信託（その２）：信託の多角的法律関係――信託法・信託業法の規定を中心に**
	事後学習	教科書・参考書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）
6	事前学習	教科書および参考書を読み、「信託の国際化と多角的法律関係」について調べる。（２時間）
	授業内容	**信託（その３）：信託の国際化と多角的法律関係**
	事後学習	教科書・参考書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）
7	事前学習	これまでの授業内容を、教科書および配布プリントを参考にまとめ、整理する。 「課題と質問」を整理する。（２時間）
	授業内容	**小括／整理＆まとめ**
	事後学習	「課題と質問」に取り組む。 リサーチペーパーの主題設定と基本文献の収集など。（２時間）
8	事前学習	教科書および参考書を熟読し、「保証の基本構造」を、多角的法律関係の観点から調べる。（２時間）
	授業内容	**保証（その１）：保証の基本構造と多角的法律関係**
	事後学習	教科書・参考書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）
9	事前学習	教科書および参考書を熟読し、「保証の多角的法律関係と近時の債権法改正」との関係を調べる。（２時間）
	授業内容	**保証（その２）：保証の多角的法律関係と近時の債権法改正**
	事後学習	教科書・参考書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）
10	事前学習	教科書および参考書を熟読し、「保険の基本構造」を、多角的法律関係の観点から調べる。（２時間）
	授業内容	**保険（その１）：保険の基本構造と多角的法律関係――第三者のためにする契約との関係を中心に**
	事後学習	教科書・参考書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）。
11	事前学習	教科書および参考書を熟読し、「他人のためにする生命保険契約と多角的法律関係」について調べる。（２時間）
	授業内容	**保険（その２）：他人のためにする生命保険契約と多角的法律関係**
	事後学習	教科書・参考書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）
12	事前学習	教科書および教科書を熟読し、「フランチャイズ契約の基本構造」を、多角的法律関係の観点から調べる。（２時間）
	授業内容	**フランチャイズ契約（その１）：フランチャイズ契約の基本構造と多角的法律関係**
	事後学習	教科書・参考書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）
13	事前学習	教科書および参考書を熟読し、「フランチャイズ契約の多角的法律関係と裁判例」について調べる。（２時間）
	授業内容	**フランチャイズ契約（その２）：フランチャイズ契約の多角的法律関係と裁判例**
	事後学習	教科書・参考書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）
14	事前学習	教科書および教科書を読み、「三角・多角取引と民法法理の深化」について調べる。（２時間）
	授業内容	**三角・多角取引と民法法理の深化**
	事後学習	教科書・参考書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）
15	事前学習	これまでの授業内容を、教科書および配布プリントを参考にまとめ、整理する。 「課題と質問」を整理する。（２時間）
	授業内容	**総括／質疑応答＆まとめ**
	事後学習	リサーチペーパーの主題設定と基本文献の収集など。（２時間） レポートを課した場合は添削して返却する。

科目名	民法特殊講義Ⅱ	担当者	藤村　和夫	期間	後期	単位数	2

授業概要	不法行為における過失論と損害論を中心に、不法行為について学修する。
授業目的・到達目標	不法行為における過失論と損害論の基礎理論を習得し、具体的な事例（判例）に基づいて説明できるようになることを目標とする。 関連するDP・CP私法学専攻3，6，7
履修条件	不法行為法の基礎を理解していること。
授業方法	判例、裁判例による受講生の報告に基づく解説と講義をするが、受講生との間の質疑、応答（アクティブラーニング）が中心となる。

成績評価

種別	割合	評価方法
定 期 試 験		
平 常 評 価	100%	授業における議論に参加した内容をみて評価する。

教科書

年	出版社	書名	著者名
２０２０年	信山社	不法行為法	藤村和夫

備考	

参 考 書	必要があれば、授業中に示す。
オフィスアワー	水曜日13時～14時（事前にメールでアポイントメントを取ること） メールアドレス：fujimura.kazuo○nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	１７０頁～１７７頁（2時間）
	授業内容	**責任能力**
	事後学習	責任能力制度について理解する（2時間）
2	事前学習	１７８頁～１８６頁（2時間）
	授業内容	**責任無能力者の責任**
	事後学習	責任無能力者の責任について理解する（2時間）
3	事前学習	１８７頁～１９３頁（2時間）
	授業内容	**不法行為の一般的効果（１）**
	事後学習	被害者救済のための手段について理解する（2時間）

4	事前学習	１９４頁～２０９頁（2時間）
	授業内容	**不法行為の一般的効果（２）**
	事後学習	差止について理解する（2時間）
5	事前学習	２１０頁～２１６頁（2時間）
	授業内容	**損害賠償請求権者等**
	事後学習	損害賠償請求権者について理解する（2時間）
6	事前学習	２１７頁～２２７頁（2時間）
	授業内容	**損害の範囲（1）**
	事後学習	損害概念の把握に努める（2時間）
7	事前学習	２２８頁～２４０頁（2時間）
	授業内容	**損害の範囲（2）**
	事後学習	相当因果関係説について理解する（2時間）
8	事前学習	２４１頁～２７９頁（2時間）
	授業内容	**損害の算定（１）**
	事後学習	損害の種類等について理解する（2時間）
9	事前学習	２４１頁～２７９頁（2時間）
	授業内容	**損害の算定（２）**
	事後学習	休業損害等について理解する（2時間）
10	事前学習	２８０頁～２９７頁（2時間）
	授業内容	**慰謝料（１）**
	事後学習	慰謝料の基礎について理解する（2時間）
11	事前学習	２８０頁～２９７頁（2時間）
	授業内容	**慰謝料（２）**
	事後学習	慰謝料について理解する（2時間）
12	事前学習	２９８頁～２９９頁（2時間）
	授業内容	**物件損害**
	事後学習	物件損害について理解する（2時間）
13	事前学習	３００頁～３０８頁（2時間）
	授業内容	**弁護士費用等**
	事後学習	弁護士費用等について理解する（2時間）
14	事前学習	３０９頁～３２８頁（2時間）
	授業内容	**損害賠償額算定の調整**
	事後学習	損益相殺について理解する（2時間）
15	事前学習	３２９頁～３３４９頁（2時間）
	授業内容	**過失相殺**
	事後学習	過失相殺の意義等について理解する（2時間）

科目名	商法特殊講義Ⅰ	担当者	大久保　拓也	期間	前期	単位数	2

授業概要	現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識は社会生活において必ず身に付けておくべきである。経済社会で重要な役割を担う会社について規律する会社法は、平成17(2005)年に全面改正され、平成26(2014)年・令和元(2019)年に重要な改正がなされた。同法が規律する会社は経済の主たる担い手であり、会社の活動は社会に与える影響が大きい。授業では、会社に関する法規制に関する法知識を身に付ける者を育成する。
授業目的・到達目標	会社法に関する近時の論点の分析や裁判例の検討を通じて、会社法制に関する理解を深めることを目的とする。受講生の希望に応じ、外国法法制の分析を行うために原書の講読を行うことにより、外国法制について説明できる能力を養う。会社法に関する近時の論点の分析や裁判例の検討を通じ、そこで示された問題点を説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。関連するDP・CPの番号1、2、3
履修条件	商法（会社法）に関する知識と、民法（特に財産法分野）に関する基礎知識があることを求める。
授業方法	会社法の主要論点を演習形式で検討し、適切な解答を導き出せるようにする。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0％	
	平常評価	100%	受講者に割り当てられた課題に関する報告・授業への参加度等の平常の講義への取り組みをもとに総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	受講者の興味関心を考慮しつつテキストを決める予定である。		

参考書	随時提示する。さしあたり神作裕之ほか編『会社法判例百選（第4版）』（有斐閣、2021年）
オフィスアワー	事前にメールでアポイントメントをとること オフィス 研究室（9号館2階9204）ohkubo.takuya@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを確認すると共に、各自のもつ会社法の教科書を読み、講義全体を概観する。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**ガイダンス。授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。 詳細は、受講生と相談の上決定する。下記は一例であり、授業内容は変更する場合がある。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
2	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の商事裁判例の検討① 事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
3	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の商事裁判例の検討② 事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）

4	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の商事裁判例の検討③** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
5	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の商事裁判例の検討④** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
6	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の商事裁判例の検討⑤** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
7	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の商事裁判例の検討⑥** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
8	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討①** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
9	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討②** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
10	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討③事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
11	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討④** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
12	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討⑤** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
13	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討⑥** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
14	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討⑦** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。
15	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討⑧** **講義のまとめと復習** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）

科目名	商法特殊講義Ⅰ	担当者	小野寺　千世	期間	前期	単位数	2

授業概要	本講義では、会社法の領域に関する近時の裁判例および論文に関する考察をとおして、わが国の会社法の問題点を把握し、その問題点に関する検討を行う。 可能な範囲で、外国法にふれる。			
授業目的・到達目標	近時の会社法制における主要論点に関する裁判例および学説の整理、考察をとおして、会社法の基礎的知識を修得することを目的とする。 到達目標は、会社法が目指す方向性を理解、説明することができ、自身の意見をもって議論することができること、会社法学的観点から、学説の整理、近時の裁判例の検討を踏まえ、論理的・批判的推論を行うことができることである。 関連するDP･CP私法学専攻1､2､3			
履修条件	会社法、商法分野の基礎的知識を習得していることが望ましい。			
授業方法	受講者の報告を中心にして進めるが、適宜、解説を加える。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	受講者に割り当てられた課題に関する報告・講義への参加の度合いをもとに、「到達目標」にかかる基礎的知識が身についているかを評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特に指定しない。		
参考書	随時、指示をする。			
オフィスアワー	火曜日１２：２０～１３：００研究室にて（事前にメールでアポイントメントをとること。） 研究室（９号館３階　９３０８号室）　メールアドレス：onodera.chise○nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	会社法に関して、興味を持っている論点を整理しておくこと。（120分）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	会社法に関する主要論点を整理するとともに、それらに関する判例、裁判例を抽出しておくこと。（120分）
2	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も資料に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**近時の会社法制における主要論点の整理①：株式会社の設立**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておく。（120分）
3	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も資料に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**近時の会社法制における主要論点の整理②：設立無効**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）

4	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も資料に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**近時の会社法制における主要論点の整理③：株式の内容**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）
5	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も資料に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**近時の会社法制における主要論点の整理④：株式の譲渡**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）
6	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も資料に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**近時の会社法制における主要論点の整理⑤：新株予約権**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）
7	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も資料に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**近時の会社法制における主要論点の整理⑥：株主の権利**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）
8	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も当該判例・裁判例に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**近時の会社法制における主要論点の整理⑦：株主総会の招集**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）
9	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も当該判例・裁判例に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**近時の会社法制における主要論点の整理⑧：株主総会決議**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）
10	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も当該判例・裁判例に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**近時の会社法制における主要論点の整理⑨：株主総会決議の瑕疵**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）
11	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も当該判例・裁判例に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**近時の会社法制における主要論点の整理⑩：取締役、取締役会**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）
12	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も当該判例・裁判例に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**近時の会社法制における主要論点の整理⑪：監査役、監査役会**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）
13	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も当該判例・裁判例に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**近時の会社法制における主要論点の整理⑫：監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）
14	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も当該判例・裁判例に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**最新商事裁判例の検討① 東京高裁令和３年９月２８日判決判例時報２５３９号６６頁**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）
15	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も当該判例・裁判例に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**商事裁判例の検討② 福岡高裁宮崎支部令和４年７月６日判決金融・商事判例１６５７号３５頁**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）

科目名	商法特殊講義Ⅰ	担当者	菅原　貴与志	期間	前期	単位数	2

授業概要	現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識は社会生活において必ず身に付けておくべきである。経済社会で重要な役割を担う会社について規律する会社法は、平成17(2005)年に全面改正され、平成26(2014)年・令和元(2019)年に重要な改正がなされた。同法が規律する会社は経済の主たる担い手であり、会社の活動は社会に与える影響が大きい。授業では、会社に関する法規制に関する法知識を身に付ける者を育成する。
授業目的・到達目標	会社法に関する近時の論点の分析や裁判例の検討を通じて、会社法制に関する理解を深めることを目的とする。受講生の希望に応じ、外国法法制の分析を行うために原書の講読を行うことにより、外国法制について説明できる能力を養う。会社法に関する近時の論点の分析や裁判例の検討を通じ、そこで示された問題点を説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。関連するDP・CPの番号1、2、3
履修条件	商法（会社法）に関する知識と、民法（特に財産法分野）に関する基礎知識があることを求める。
授業方法	会社法の主要論点を演習形式で検討し、適切な解答を導き出せるようにする。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0％	
	平常評価	100%	受講者に割り当てられた課題に関する報告・授業への参加度等の平常の講義への取り組みをもとに総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	受講者の興味関心を考慮しつつテキストを決める予定である。		

参考書	随時提示する。さしあたり神作裕之ほか編『会社法判例百選（第4版）』（有斐閣、2021年）
オフィスアワー	事前にメールでアポイントメントをとること

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを確認すると共に、各自のもつ会社法の教科書を読み、講義全体を概観する。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**ガイダンス。授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。 詳細は、受講生と相談の上決定する。下記は一例であり、授業内容は変更する場合がある。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
2	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の商事裁判例の検討① 事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
3	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の商事裁判例の検討② 事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）

4	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の商事裁判例の検討③** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
5	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の商事裁判例の検討④** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
6	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の商事裁判例の検討⑤** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
7	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の商事裁判例の検討⑥** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
8	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討①** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
9	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討②** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
10	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討③事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
11	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討④** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
12	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討⑤** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
13	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討⑥** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
14	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討⑦** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。
15	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討⑧** **講義のまとめと復習** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）

科目名	商法特殊講義Ⅰ	担当者	宮﨑　裕介	期間	前期	単位数	2

授業概要	商法・会社法に関連する論文を講読し、論文の作成準備のために必要な法学の専門知識と研究手法について演習の形式をとって指導を行う。 必要に応じて、金融商品取引法、信託法、海商法、民法等の論文も文献講読をするので、商法・会社法以外の分野の参加者も歓迎する。
授業目的・到達目標	論文の作成準備のために必要な法学の専門知識と研究手法を修得し、研究課題の設定方法、先行研究を収集及び整理する能力及び論理的に論文を構成する能力を涵養する。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，２，３
履修条件	商法・会社法に関する基礎的な知識を有していることが前提となるが、特段、履修条件を付すものではない。
授業方法	基本的には、参加者による演習形式によって行う。具体的には、指定された論文集等の中から、参加者の研究テーマ(あるいは興味のある分野）に関連する論文を選び、レジュメを作成して報告し、参加者全員でディスカッションを行う。 テーマに応じてゲスト・スピーカーを呼ぶ。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業への準備・授業中の対応などをベースに、到達目標に関わる積極的な学修態度を踏まえて評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。講義資料は担当者が配布する。		

参 考 書	特定の書籍は指定しない。
オフィスアワー	決定したら連絡する。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**ガイダンス（発表の割当て等を決める）**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
2	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
3	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分

4	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
5	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
6	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
7	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
8	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
9	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
10	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
11	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
12	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
13	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
14	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
15	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分

科目名	商法特殊講義Ⅱ	担当者	大久保　拓也	期間	後期	単位数	2

授業概要	現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識は社会生活において必ず身に付けておくべきである。経済社会で重要な役割を担う会社について規律する会社法は、平成17(2005)年に全面改正され、平成26(2014)年・令和元(2019)年に重要な改正がなされた。同法が規律する会社は経済の主たる担い手であり、会社の活動は社会に与える影響が大きい。授業では、会社に関する法規制に関する法知識を身に付ける者を育成する。
授業目的・到達目標	会社法に関する近時の論点の分析や裁判例の検討を通じて、会社法制に関する理解を深めることを目的とする。受講生の希望に応じ、外国法法制の分析を行うために原書の講読を行うことにより、外国法制について説明できる能力を養う。会社法に関する近時の論点の分析や裁判例の検討を通じ、そこで示された問題点を説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。関連するDP・CPの番号3、6、7
履修条件	商法（会社法）に関する知識と、民法（特に財産法分野）に関する基礎知識があることを求める。
授業方法	会社法の主要論点を演習形式で検討し、適切な解答を導き出せるようにする。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0％	
	平常評価	100%	受講者に割り当てられた課題に関する報告・授業への参加度等の平常の講義への取り組みをもとに総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	受講者の興味関心を考慮しつつテキストを決める予定である。		

参考書	随時提示する。さしあたり神作裕之ほか編『会社法判例百選（第4版）』（有斐閣、2021年）
オフィスアワー	事前にメールでアポイントメントをとること オフィス 研究室（9号館2階9204）ohkubo.takuya@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを確認すると共に、各自のもつ会社法の教科書を読み、講義全体を概観する。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**ガイダンス。授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。 詳細は、受講生と相談の上決定する。下記は一例であり、授業内容は変更する場合がある。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
2	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の商事裁判例の検討① 事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
3	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の商事裁判例の検討② 事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）

4	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の商事裁判例の検討③** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
5	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の商事裁判例の検討④** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
6	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の商事裁判例の検討⑤** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
7	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の商事裁判例の検討⑥** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
8	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討①** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
9	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討②** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
10	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討③事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
11	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討④** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
12	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討⑤** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
13	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討⑥** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
14	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討⑦** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。
15	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討⑧** **講義のまとめと復習** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）

科目名	商法特殊講義Ⅱ	担当者	小野寺　千世	期間	後期	単位数	2

授業概要	本講義では、会社法の領域に関する近時の裁判例および論文に関する考察をとおして、わが国の会社法の問題点を把握し、その問題点に関する検討を行う。 可能な範囲で、外国法にふれる。
授業目的・到達目標	経済社会において生かせる会社法の知識を修得し、研究者・高度職業専門家としての能力を備えることを目的とする。 到達目標は、商法・会社法学的観点から、学説の整理、近時の裁判例の検討を踏まえ、論理的・批判的推論を行うことができること、プレゼンテーションや研究報告の機会をとおして、自らの考えを的確に伝えることができること、人的ネットワークを構築し、その中で協働するとともに、切磋琢磨することができることである。 関連するCP・DP私法学専攻3,6,7
履修条件	会社法、商法分野の基礎的知識を習得していることが望ましい。
授業方法	受講者の報告を中心にして進めるが、適宜、解説を加える。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	受講者に割り当てられた課題に関する報告・講義への参加の度合いをもとに、「到達目標」にかかる能力が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特に指定しない。		

参考書	随時、指示をする。
オフィスアワー	火曜日１２：２０～１３：００研究室にて（事前にメールでアポイントメントをとること。） 研究室（９号館３階　９３０８号室）　メールアドレス：onodera.chise@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	会社法に関して、興味を持っている論点を整理しておくこと。（120分）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	会社法に関する主要論点を整理するとともに、それらに関する判例、裁判例を抽出しておくこと。（120分）
2	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も資料に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**近時の会社法制における主要論点の整理①：計算書類の作成、監査**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておく。（120分）
3	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も資料に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**近時の会社法制における主要論点の整理②：監査役監査**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）

4	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も資料に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**近時の会社法制における主要論点の整理③：監査等委員、監査委員会、会計監査人**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）
5	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も資料に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**近時の会社法制における主要論点の整理④：会計帳簿の作成**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）
6	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も資料に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**近時の会社法制における主要論点の整理⑤：資本金、準備金、剰余金**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）
7	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も資料に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**近時の会社法制における主要論点の整理⑥：解散、清算**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）
8	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も当該判例・裁判例に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**近時の会社法制における主要論点の整理⑦：持分会社**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）
9	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も当該判例・裁判例に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**近時の会社法制における主要論点の整理⑧：社債の発行**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）
10	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も当該判例・裁判例に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**近時の会社法制における主要論点の整理⑨：組織変更、事業譲渡**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）
11	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も当該判例・裁判例に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**近時の会社法制における主要論点の整理⑩：組織再編　合併**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）
12	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も当該判例・裁判例に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**近時の会社法制における主要論点の整理⑪：組織再編　会社分割**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）
13	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も当該判例・裁判例に目を通してくること。（120分）
	授業内容	**近時の会社法制における主要論点の整理⑫：組織再編　株式交換、株式移転**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）
14	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も当該判例・裁判例に目を通してくること。（150分）
	授業内容	**最新商事裁判例の検討 令和４～５年裁判例より**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）
15	事前学習	担当者は報告の準備、その他の受講者も当該判例・裁判例に目を通してくること。（150分）
	授業内容	**まとめ**
	事後学習	授業での議論を整理し、わからない点を調べておくこと。（120分）

科目名	商法特殊講義Ⅱ	担当者	菅原　貴与志	期間	後期	単位数	2

授業概要	現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識は社会生活において必ず身に付けておくべきである。経済社会で重要な役割を担う会社について規律する会社法は、平成17(2005)年に全面改正され、平成26(2014)年・令和元(2019)年に重要な改正がなされた。同法が規律する会社は経済の主たる担い手であり、会社の活動は社会に与える影響が大きい。授業では、会社に関する法規制に関する法知識を身に付ける者を育成する。
授業目的・到達目標	会社法に関する近時の論点の分析や裁判例の検討を通じて、会社法制に関する理解を深めることを目的とする。受講生の希望に応じ、外国法法制の分析を行うために原書の講読を行うことにより、外国法制について説明できる能力を養う。会社法に関する近時の論点の分析や裁判例の検討を通じ、そこで示された問題点を説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。関連するDP・CPの番号3、6、7
履修条件	商法（会社法）に関する知識と、民法（特に財産法分野）に関する基礎知識があることを求める。
授業方法	会社法の主要論点を演習形式で検討し、適切な解答を導き出せるようにする。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0％	
	平常評価	100%	受講者に割り当てられた課題に関する報告・授業への参加度等の平常の講義への取り組みをもとに総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	受講者の興味関心を考慮しつつテキストを決める予定である。		

参考書	随時提示する。さしあたり神作裕之ほか編『会社法判例百選（第4版）』（有斐閣、2021年）
オフィスアワー	事前にメールでアポイントメントをとること

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを確認すると共に、各自のもつ会社法の教科書を読み、講義全体を概観する。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**ガイダンス。授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。 詳細は、受講生と相談の上決定する。下記は一例であり、授業内容は変更する場合がある。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
2	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の商事裁判例の検討① 事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
3	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の商事裁判例の検討② 事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）

4	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の商事裁判例の検討③** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
5	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の商事裁判例の検討④** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
6	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の商事裁判例の検討⑤** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
7	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の商事裁判例の検討⑥** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
8	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討①** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
9	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討②** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
10	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討③事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
11	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討④** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
12	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討⑤** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
13	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討⑥** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）
14	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討⑦** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）授業で取り扱われた資料の該当部分を復習する。
15	事前学習	割り当てられた課題の予習をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**近時の会社法制の主要論点の検討⑧** **講義のまとめと復習** **事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、要点を適切にまとめることができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。（2時間）

科目名	商法特殊講義Ⅱ	担当者	宮﨑　裕介	期間	後期	単位数	2

授業概要	商法(受講生の希望によっては私法学全般）に関連する論文を購読し、論文の作成準備のために必要な法学の専門知識と研究手法について演習の形式をとって指導を行う。 必要に応じて、金融商品取引法、信託法、海商法、民法等の論文も文献講読をするので、商法・会社法以外の分野の参加者も歓迎する。
授業目的・到達目標	論文の作成準備のために必要な法学の専門知識と研究手法を修得し、研究課題の設定方法、先行研究を収集及び整理する能力及び論理的に論文を構成する能力を涵養する。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，２，３
履修条件	商法・会社法に関する基礎的な知識を有していることが前提となるが、特段、履修条件を付すものではない。
授業方法	基本的には、参加者による演習形式によって行う。具体的には、指定された論文集等の中から、参加者の研究テーマ(あるいは興味のある分野）に関連する論文を選び、レジュメを作成して報告し、参加者全員でディスカッションを行う。 テーマに応じてゲスト・スピーカーを呼ぶ。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業への準備・授業中の対応などをベースに、到達目標に関わる積極的な学修態度を踏まえて評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。講義資料は担当者が配布する。		

参 考 書	特定の書籍は指定しない。
オフィスアワー	決定したら連絡する。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**ガイダンス（発表の割当て等を決める）**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
2	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
3	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分

4	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
5	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
6	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
7	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
8	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
9	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
10	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
11	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
12	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
13	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
14	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分
15	事前学習	講義で用いる資料について、図書館などでその内容を確認して、自分が興味を持っている論攷・分野を確認する。120分
	授業内容	**指定された論文について、内容あるいは構成について参加者から報告して貰い、参加者全員でディスカッションを行う。**
	事後学習	自分が選択した論攷を読み進め、発表への準備を行う。他の参加者の発表文については、予習をする。120分

科目名	民事訴訟法特殊講義Ⅰ	担当者	小田　司	期間	前期	単位数	2

授業概要	この講義では、ＡＤＲ、裁判管轄、当事者の確定、当事者適格（訴訟担当）、訴えの利益、重複起訴の禁止、裁判上の自白、証明責任、文書提出命令など、判決手続における重要事項について研究報告を行い、受講者全員で討議することにより、民事訴訟の重要事項を学修する。
授業目的・到達目標	この講義では、民事訴訟の基本構造と基本理論を理解した上で、その主要な論点について検討することにより、民事訴訟について研究する上での分析力・思考力を修得する。特に訴えの提起から訴訟の審理に至るまでの過程をこの講義のテーマとし、その基礎的知識を身につける。民事訴訟などを研究する上での分析力・思考力を養い、さらに具体的事例の検討を通じて、個々の紛争事例を法的に正しく処理することができるようになることを目標とする。 関連するDP・CP私法学専攻1,3,4,6
履修条件	講義内において各自に割り当てた課題について、毎回必ず準備してくること。
授業方法	講義項目ごとに各自に課題を割り当て、各自が割り当てられた課題について報告を行い、それについて受講者全員が討議するという方法で講義を進める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	各自に割り当てた課題についての報告を７０％、講義時の発言及び討議の状況を３０％とし、これらを総合して評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特定の教科書は、使用しません。		

参考書	高橋宏志『重点講義民事訴訟法(上)(下)』（有斐閣）、高田裕成・畑瑞穂・垣内秀介編『民事訴訟法判例百選〔第６版〕』（有斐閣）など
オフィスアワー	月曜１２：１０～１３：００ 研究室（９号館９３２０） 授業内容の他、法科大学院進学、海外留学（ヨーロッパ諸国）などについて メールアドレス：oda.tsukasa@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを確認すると共に、講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**民事訴訟と裁判外紛争処理（ＡＤＲ）の比較検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
2	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**宗教法人の内部紛争などに関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
3	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**国内裁判管轄及び国際裁判管轄に関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）

4	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**氏名冒用訴訟、死者名義訴訟に関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
5	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**法人でない団体の当事者能力、紛争管理権などに関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
6	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**訴訟能力に関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
7	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**法定訴訟担当、任意的訴訟担当に関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
8	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**給付・確認・形成の訴えに関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
9	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**訴訟要件、重複起訴の禁止などに関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
10	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**処分権主義、弁論主義などの審理の基本原則に関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
11	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**攻撃防御方法の提出、主要事実と間接事実に関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
12	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**裁判上の自白、釈明権・釈明処分などに関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
13	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**証明責任の分配と証明負担の軽減などに関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
14	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**文書提出命令、証言拒絶権、証拠保全などに関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
15	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**訴えの取り下げ、訴訟上の和解に関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）

科目名	民事訴訟法特殊講義Ⅱ	担当者	小田　司	期間	後期	単位数	2

授業概要	この講義では、既判力の時的限界、既判力の客観的範囲・主観的範囲、訴えの変更、反訴、共同訴訟、訴訟参加、訴訟承継、不服申立手続（控訴、上告、再審など）、金銭執行、非金銭執行、担保権の実行、民事保全など、判決手続及び民事執行手続における重要事項について研究報告を行い、受講者全員で討議することにより民事訴訟及び民事執行の重要事項を学修する。
授業目的・到達目標	この講義では、民事訴訟及び民事執行の基本構造と基本理論を理解した上で、その主要な論点について検討することにより、民事訴訟及び民事執行について研究する上での分析力・思考力を修得する。特に判決による訴訟の終了、多数当事者訴訟、勝訴した際の権利実現の方法などをこの講義のテーマとし、その基礎的知識を身につける。民事訴訟及び民事執行などを研究する上での分析力・思考力を養い、さらに具体的事例の検討を通じて、個々の紛争事例を法的に正しく処理することができるようになることを目標とする。 関連するDP・CP私法学専攻1,2,3,4,6
履修条件	講義内において各自に割り当てた課題について、毎回必ず準備してくること。
授業方法	講義項目ごとに各自に課題を割り当て、各自が割り当てられた課題について報告を行い、それについて受講者全員が討議するという方法で講義を進める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	各自に割り当てた課題についての報告を７０％、講義時の発言及び討議の状況を３０％とし、これらを総合して評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特定の教科書は、使用しません。		

参考書	高田裕成・畑瑞穂・垣内秀介編『民事訴訟法判例百選〔第６版〕』（有斐閣）、上原敏夫・長谷部由起子・山本和彦編『民事執行・保全判例百選〔第２版〕』（有斐閣）など
オフィスアワー	月曜１２：１０～１３：００ 研究室（９号館９３２０） 授業内容の他、法科大学院進学、海外留学（ヨーロッパ諸国）などについて メールアドレス：oda.tsukasa@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを確認すると共に、講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**既判力の時的限界に関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
2	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**既判力の主観的範囲に関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
3	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**既判力の客観的範囲に関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）

4	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**訴えの併合・変更、反訴などに関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
5	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**共同訴訟に関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
6	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**訴訟参加、訴訟承継に関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
7	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**控訴・上告・抗告・再審に関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
8	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**少額訴訟手続、督促手続に関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
9	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**執行当事者、債務名義、執行文などに関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
10	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**請求異議訴訟、第三者異議訴訟に関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
11	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**不動産・動産・債権に対する強制執行に関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
12	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**非金銭執行に関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
13	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**不動産・動産・債権についての担保権の実行に関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
14	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**財産開示手続に関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）
15	事前学習	講義中に割り当てられた課題について、レジュメを作成すること。（２時間）
	授業内容	**保全命令手続、保全執行手続に関する問題の検討**
	事後学習	講義中に報告した課題については、講義における議論をふまえてレポートを作成すること。（２時間）

科目名	国際私法特殊講義 I	担当者	織田　有基子	期間	前期	単位数	2

授業概要	現在の我々の生活は、世界中の国々と様々に関わり合いながら成立している。その反面、国境を越えた法的なトラブルも少なくない。たとえば、国際契約や国際結婚をめぐる紛争のうち、日本の裁判所が引き受けるのはどのような場合か。また、外国の裁判所で下された判決は、日本ではどのように取り扱われるのか。本授業では、国際民事手続法上の問題を中心に学ぶ。
授業目的・到達目標	授業目的　国際私法（広義）の基礎知識及び思考方法の修得 到達目標　国際民事手続法に関する正確な知識を用いて、渉外的な法的紛争における解決の道筋を適切に見出すことができる。 関連するDP・CP私法学専攻1,2,6
履修条件	民法（家族法も含む）および民事訴訟法を履修済みであり、かつ、積極的な質疑応答及び課題報告が可能であること。
授業方法	講義ならびに質疑応答を中心とした授業を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業の準備状況、質疑応答、課題の解答内容などを総合的に勘案し、「到達目標」にかかわる基礎知識および能力が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	有斐閣	国際私法入門第８版	澤木敬郎＝道垣内正人
	備考			

参 考 書	嶋拓哉、高杉直編「国際民事手続法」（勁草書房、2022年） その他、必要に応じ、授業の中で指示または紹介する。
オフィスアワー	原則として、授業終了後に講堂にて実施する。なお、質問は、oda.yukiko〇nihon-u.ac.jp宛てメールでも受け付ける。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（１時間）
	授業内容	**国際私法（広義）の概要（教科書１～14頁）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（１時間）
2	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**課題の検討 裁判権免除（教科書257～268頁）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（２時間）
3	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**財産関係事件の国際裁判管轄権（１）（教科書268～289頁、参考書）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（２時間）

4	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**課題の検討** **財産関係事件の国際裁判管轄権（２）（教科書289～307頁、参考書）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（２時間）
5	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**課題の検討** **財産関係事件の国際裁判管轄権（３）（教科書307～313頁、参考書）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（２時間）
6	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**課題の検討** **人事・家事事件の国際裁判管轄権（１）（教科書313～325頁、参考書）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（２時間）
7	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**課題の検討** **人事・家事事件の国際裁判管轄権（２）（教科書325～334頁、参考書）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（２時間）
8	事前学習	前回までの授業およびその後の考察における疑問点をまとめておくこと（３時間）
	授業内容	**課題の検討** **国際裁判管轄権（財産関係事件、人事・家事事件）についての復習**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（２時間）
9	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**課題の検討** **外国判決等の承認・執行、国際的訴訟競合（教科書343～358頁、参考書）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（２時間）
10	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**課題の検討** **訴訟手続上の諸問題（教科書334頁～342頁、参考書）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（２時間）
11	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**課題の検討** **国際商事仲裁（１）（教科書361～371頁）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（２時間）
12	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**課題の検討** **国際商事仲裁（２）（教科書371～376頁）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（２時間）
13	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**課題の検討** **国際商事仲裁（３）（教科書377～385頁）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（２時間）
14	事前学習	予め指示するテーマ（国際民事手続に関するもの）について調べ、その概要をまとめておくこと（４時間）
	授業内容	**課題の検討** **テーマに関する検討**
	事後学習	授業中に解消できなかった疑問点について、さらに検討しておくこと（１時間）
15	事前学習	前回までの授業およびその後の考察における疑問点をまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**本授業全体についての総復習**
	事後学習	これまでの授業内容を復習し、疑問点の解消に努めること。（２時間）

科目名	国際私法特殊講義Ⅱ	担当者	織田　有基子	期間	後期	単位数	2

授業概要	現在の我々の生活は、世界中の国々と様々に関わり合いながら成立している。その反面、国境を越えた法的なトラブルも少なくない。たとえば、日本のＡ社と甲国のＢ社との間で締結された契約や、日本に居住する乙国人Ｃ男と丙国人Ｄ女との婚姻に関して紛争が生じた場合、その紛争はいずれの国の法律に基づいて解決されるべきか。本授業では、国際私法（狭義）の基本的考え方について学ぶ。
授業目的・到達目標	授業目的　国際私法（狭義）の基礎知識及び思考方法の修得 到達目標　準拠法決定に関する正確な知識を用いて、渉外的な法的紛争における解決の道筋を適切に見出すことができる。 関連するDP・CP私法学専攻2,3,7
履修条件	国際私法特殊講義Ⅰを履修済み、またはそれと同等以上の知見を有し、かつ、積極的な質疑応答及び課題報告が可能であること。
授業方法	講義ならびに質疑応答を中心とした授業を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	授業の準備状況、質疑応答、課題解答の内容などを総合的に勘案し、到達目標にかかわる基礎知識および能力が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2024年	有斐閣	国際私法入門第９版	澤木敬郎＝道垣内正人
	備考			

参考書	必要に応じ、授業の中で指示または紹介する。
オフィスアワー	原則として、授業終了後に講堂にて実施する。なお、質問は、oda.yukiko@〇ihon-u.ac.jp宛てメールでも受け付ける。

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（１時間）
	授業内容	**国際私法の概要（教科書１～14頁）、国際私法規定の構造（教科書15～18頁）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（１時間）
2	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**課題の検討 法律関係の性質決定（教科書18～28頁）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（２時間）
3	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**課題の検討 連結点の確定（教科書28～35頁）、家族関係の連結点（教科書73～87頁）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（２時間）

4	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**課題の検討** **準拠法の特定（教科書36～50頁）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（２時間）
5	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**課題の検討** **準拠法の適用（教科書51～62頁）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（２時間）
6	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（３時間）
	授業内容	**課題の検討** **準拠法決定規則の復習、国際私法理論の歴史（教科書63～71頁）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（３時間）
7	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**課題の検討** **家族関係の準拠法（１）婚姻・離婚（教科書87～109頁）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（２時間）
8	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**課題の検討** **家族関係の準拠法（２）親子関係（教科書109～123頁）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（２時間）
9	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**課題の検討** **家族関係の準拠法（３）親族関係についての法律行為の方式、扶養、相続、遺言、戸籍（教科書124～146頁）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（２時間）
10	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**課題の検討** **国際取引主体に関する準拠法（教科書147～172頁）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（２時間）
11	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**課題の検討** **契約の準拠法（１）（教科書172～199頁）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（２時間）
12	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**課題の検討** **契約の準拠法（２）（教科書199～213頁）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（２時間）
13	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**課題の検討** **不法行為の準拠法（１）（教科書216～229頁）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（２時間）
14	事前学習	教科書の該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**課題の検討** **不法行為の準拠法（２）（教科書229～236頁）**
	事後学習	復習用の課題について検討しておくこと（次回の授業時に報告）（２時間）
15	事前学習	前回までの授業およびその後の考察における疑問点をまとめておくこと（３時間）
	授業内容	**課題の検討** **総復習**
	事後学習	これまでの授業内容を復習し、疑問点の解消に努めること。（１時間）

科目名	国際私法特殊講義Ⅱ（知財）	担当者	中村　進	期間	後期	単位数	2

授業概要	前半は、国際私法の基礎理念について学習するとともに、知的財産関係を中心とする財産関係に関する国際私法上の諸問題についても事例を通じて学習する。後半においては、個別的な事例研究を通じて、国際裁判管轄に関する規定を含めた国際私法上の規定の実際上の適用プロセスとその際の問題点について学習する。
授業目的・到達目標	知的財産に関する国際的な契約や不法行為といった国境を越えた私的法律関係から発生する問題の解決の際に適用される法を選択する法が国際私法である。国際私法の機能、及びその主法源である「法の適用に関する通則法」（以下、通則法）の規定内容を学習することを目的とする。また同時に、知的財産関係の国際民事手続法上の問題についても学習する。 知的財産関係に関する諸問題が、国際私法上どの様に扱われているかに関する知識、及び過去の事例についての知見を得た専門性豊かな研究者又は高度専門職人を養成することを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻２，３，７
履修条件	特に絶対的な履修条件とはしないが、民法、特許法・著作権法についての基礎的な知識があることが望ましい。
授業方法	講義形式の授業と事例研究を中心に行う。講義においては、一層の理解を図るため、関係資料を適宜配布し、受講者との質疑応答を交えることもある。なお、六法を必ず持参すること。

成績評価

種別	割合	評価方法
定 期 試 験		
平 常 評 価	100%	事例研究報告、及び研究報告における質疑応答への参加などを総合的に評価する。

教科書

年	出版社	書名	著者名
2020	有斐閣	『国際関係法入門～国際私法・国際民事手続法・国際取引法（第４版補訂）』	松岡博編

備考	

参 考 書	『国際知的財産法』木棚照一著（日本評論社）、『国際私法判例百選［新法対応補正版］』（別冊ジュリスト、有斐閣）授業の際、資料を配布するので、それも併せて参考書とする。
オフィスアワー	講義の前後又はメール（nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp）で対応する。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	国際私法がどの様な役割を果たしている法律であるかについて調べ、それのノートにまとめ授業の準備をする。（２時間）
	授業内容	**【ガイダンス】** **授業の計画とその進め方について説明し、それによって授業の準備を行えるようにする。また、国際私法の必要性と知的財産権との関係について学修し、受講生が説明できるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認して、国際私法とは何か、またそれが知的財産権とどの様に結びついているかについて自分なりの説明を整理ノートまとめる。（２時間）
2	事前学習	教科書第１章の「国際関係私法の学び方」を読み、国際私法・国際民事手続法・国際取引法についての大枠と、それらと知的財産権との関係について考察し、ノートにまとめ授業の準備をする。（２時間）
	授業内容	**【国際私法等の基礎的観念と知的財産】** **国際私法・国際民事手続法・国際取引法がどの様な役割を有する法分野であり、知的財産法とどの様に結びついているのかについて学修し、説明できるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認して、国際私法・国際民事手続法・国際取引法の各法システムとその知的財産権との関係性について自分なりの説明を整理ノートにまとめる。（２時間）
3	事前学習	教科書第２章の「法選択規則」を読み、法選択規則である国際私法の目的とその実現方法の大枠を考察し、ノートにまとめ授業の準備をする。（２時間）
	授業内容	**【国際私法総論(1)：法選択規則と知的財産】** **知的財産関係を含む国際的な私的紛争に適用される法（＝準拠法）を選択する規則である「国際私法」の目的とその実現方法について学修し、説明できるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認して、知的財産権に関する問題を素材にして法選択規則としての国際私法の役割と規律方法について自分なりの説明を整理ノートにまとめる。（２時間）

4	事前学習	教科書第３章の「準拠法の決定」・第４章の「外国法の適用」第１節を読み、準拠法の決定プロセスと外国法の適用プロセスの大枠を考察し、ノートにまとめ授業の準備をする。（２時間）
	授業内容	**【国際私法総論(2)：準拠法の指定と外国法の適用】** **準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する問題のうちの、法律関係の性質定、連結点、不統一法国、及び外国法指定の意味について、知的財産を素材に学修し、説明できるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認して、準拠法の決定と外国法の適用のプロセスにおいて発生する諸問題、特に法律関係の性質決定、連結点、不統一法国法の指定について自分なりの説明を整理ノートにまとめる。（２時間）
5	事前学習	教科書第４章の「外国法の適用」第２節を読み、国際私法固有の問題である「公序」、「先決問題」及び「適応問題」についての大枠を考察し、ノートにまとめ授業の準備をする。（２時間）
	授業内容	**【国際私法総論(3)：公序・先決問題と知的財産】** **準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する問題のうち、公序、先決問題、適応問題について、知的財産との関係を中心に学修し、説明できるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認して、準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する諸問題、特に先決問題、適応問題ついて自分なりの説明を整理ノートにまとめる。（２時間）
6	事前学習	教科書第５章の「人・法人」を読み、自然人・法人に関する通則法上の規定の大枠を考察し、ノートにまとめ授業の準備をする。（２時間）
	授業内容	**【国際私法各論(1)：自然人・法人】** **自然人・法人に関する諸問題についての通則法の規定を中心に学修し、説明できるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認して、自然人と法人に関する諸問題についての通則法上の規定について自分なりの説明を整理ノートにまとめる。（２時間）
7	事前学習	教科書第６章の「契約」を読み、契約債権に関する通則法上の規定の大枠を考察し、ノートにまとめ授業の準備をする。（２時間）
	授業内容	**【国際私法各論(2)：契約と知的財産譲渡契約・ライセンス契約】** **契約に関する通則法の規定を中心に学修し、説明できるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認して、契約に関する通則法の規定について、特に知的財産契約を中心に自分なりの説明を整理ノートにまとめる。（２時間）
8	事前学習	教科書第７章の「不法行為・事務管理・不当利得」を読み、法定債権に関する通則法上の規定の大枠を考察し、ノートにまとめ授業の準備をする。また、前回の授業で配布された知的財産の契約紛争についての国際私法に関する事例研究をまとめる。（２時間）
	授業内容	**【国際私法各論(3)：不法行為と知的財産権侵害】** **不法行為・事務管理・不当利得に関する通則法上の規定を中心に学修し、説明できるようにする。また、知的財産譲渡契約とライセンス契約についての国際私法に関する事例研究を行う。**
	事後学習	講義ノートを確認して、不法行為に関する通則法上の規定について、特に知的財産に関する不法行為を中心に自分なりの説明を整理ノートにまとめる。（２時間）
9	事前学習	教科書第８章の「債権債務関係」を読み、債権債務関係に関する通則法上の規定の大枠を考察し、ノートにまとめ授業の準備をする。また、前回の授業で配布された知的財産の不法行為についての国際私法に関する事例研究をまとめる。（２時間）
	授業内容	**【国際私法各論(4)：債権債務関係と知的財産権】** **金銭債権、債権の対外的効力、債権の消滅、債権譲渡、法定代位及び債権質に関する通則法上の規定を中心に学修し、説明できるようにする。また、知的財産の不法行為についての国際私法に関する事例研究を行う。**
	事後学習	講義ノートを確認して、債権債務関係に関する通則法の規定について、自分なりの説明を整理ノートにまとめる。（２時間）
10	事前学習	教科書第９章の「物権・知的財産権」を読み、知的財産権を含む物権に関する通則法上の規定の大枠を考察し、ノートにまとめ授業の準備をする。（２時間）
	授業内容	**【国際私法各論(5)：物権・知的財産】** **物権・知的財産に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修し、説明できるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認して、通則法上の物権・知的財産に関する規定について、自分なりの説明を整理ノートにまとめる。（２時間）
11	事前学習	教科書第10章の「家族法の基本原則」、第11章の「婚姻・離婚」、第12章の「親子」、第13章の「親族関係の諸問題」、第14章の「相続・遺言」を読み、通則法上の規定の大枠を考察し、ノートにまとめ授業の準備をする。また、前回の授業で配布された知的財産についての国際私法に関する事例研究をまとめる。（２時間）
	授業内容	**【国際私法各論(6)：その他】** **知的財産との関わりを有する夫婦財産制、相続等に関する通則法上の規定を中心に学修し、説明できるようにする。また、知的財産についての国際私法に関する事例研究を行う。**
	事後学習	講義ノートを確認して、通則法の夫婦財産制・相続に関する規定について、自分なりの説明を整理ノートにまとめる。（２時間）
12	事前学習	教科書第15章の「国際裁判管轄」、第16章の「当事者・送達・証拠調べ」を読み、国際裁判管轄と当事者能力・訴訟能力に関する民事訴訟法上の規定の大枠を考察し、ノートにまとめ授業の準備をする。（２時間）
	授業内容	**【国際民事訴訟法(1)：知的財産紛争と国際裁判管轄】** **国際裁判管轄とは何か、どの様な基礎的観念に基づいて民事訴訟法上の規定が置かれているかについて、また、国際的な紛争における当事者能力・訴訟能力の判断について学修し、説明できるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認して、国際裁判管轄とは何か、またどの様な基礎的観念に基づいているかについて、国際的な知的財産関係の紛争を念頭に、自分なりの説明を整理ノートにまとめる。（２時間）
13	事前学習	教科書第17章の「外国判決の承認・執行」を読み、外国判決の承認・執行に関する法システムの大枠を考察し、ノートにまとめ授業の準備をする。また、前回の授業で配布された知的財産についての国際裁判管轄に関する事例研究をまとめる。（２時間）
	授業内容	**【国際民事訴訟法(2)：知的財産紛争と外国判決の承認・執行】** **外国判決の承認・執行に関する法システムについて学修し、説明ができるようにする。また、知的財産についての国際裁判管轄に関する事例研究を行う。**
	事後学習	講義ノートを確認して、特に知的財産紛争を念頭に外国判決の承認・執行に関する法システムについて自分なりの説明を整理ノートにまとめる。（２時間）
14	事前学習	教科書第19章の「仲裁」を読み、国際商事仲裁の法システムについての大枠を考察し、ノートにまとめ授業の準備をする。（２時間）
	授業内容	**【国際民事訴訟法(3)：知的財産紛争と国際商事仲裁】** **知的財産紛争を念頭に国際商事仲裁の法システムについて学修し、説明ができるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認して、国際商事仲裁のシステムを理解し、その果たす役割について自分なりの説明を整理ノートにまとめる。（２時間）

15	事前学習	これまでの授業全体の内容を教科書と講義ノートで見直し、質問事項の有無を確認する。また、前回の授業で配布された知的財産についての国際私法に関する事例研究をまとめる。（２時間）
	授業内容	**【事例研究・質疑応答】 授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。また、知的財産についての国際私法に関する事例研究を行う。**
	事後学習	講義ノートと整理ノートを通じて授業全体の内容の見直しを行う。（２時間）

科目名	国際取引法特殊講義Ⅰ	担当者	藤川　信夫	期間	前期	単位数	2

授業概要	国際取引に関する法制度について最新の理論と実務を取り上げ、初学者を念頭に基礎から分かり易く解説する。国際売買契約、国際的資金決済、国際販売代理店契約、国際製造物責任、国際的M&A（企業買収）、敵対的買収と防衛策、国際合弁契約、国際投資、準拠法と裁判管轄、国際仲裁・調停の他、経済安全保障・経済制裁、ビジネスと人権保護等最新の動向も広範に採り上げ、米国、EU、中国・アジア等比較法的に学習する。判例演習、国際法務等も扱う。
授業目的・到達目標	グローバル企業を巡る国際取引法の理論と実務について基礎から広範囲・網羅的に修得することを目的とする。国際ビジネス関連の法制度の学習は実務に直結し、重要である。国際契約に係る貿易条件ではインコタームズ２０２０、ウィーン統一売買条約、国際資金決済では海上運送状や荷為替信用状、国際的M＆A（企業買収）、合弁契約、敵対的買収防衛策、国際金融取引分野も採り上げる。国際紛争解決では、国際私法に関する準拠法と裁判管轄の他、国際仲裁、国際調停が重要性を増している。近年はコロナ禍の他、米国・中国の経済対立、ウクライナ紛争等から、経済安全保障・経済制裁、サプライチェーンのビジネスと人権問題に関するリスクマネジメントが企業実務の大きな問題となっており、受講生が将来、修了後・就職後おいて役に立つ最新の専門・理論的、及び実務的内容を基礎から身につけることを目標とする。米国法判例演習などを通じて、受講生の実践的対応力等を向上させていきたい。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻1,2,4,7
履修条件	特にない。学部時代の関連科目履修を前提としない。国際ビジネス関連科目を勉強したことがない、全く新しく学習を始める他分野の出身者も歓迎する。積極的に関心を持ってぜひ参加されたい。また後期からの受講生も歓迎する。
授業方法	政府系銀行の長年の勤務経験と調査・審査、融資・財務ノウハウを生かし、実践的講義を行う。授業資料はこちらが全て、用意する。全くの初学者にも分かり易い授業を行う。パソコンなどを活用したい。インコタームズ２０２０など国際売買契約を主に国際契約、国際的M&A、準拠法と裁判管轄、国際仲裁など紛争解決などのほか、経済安全保障やビジネスと人権などグローバル企業の直面する現代的課題も含め、国際ビジネス法を多面的、比較法的に採り上げる。米国法など判例演習も行い、完全対面授業の良さを生かして、受講生の皆様と一緒に授業を進めたい。金融ビジネス関連の法知識は重要であり、是非受講生の将来に向けて役立てていただきたい。できるだけ多くの受講生に、積極的に受講してほしい。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	授業内評価による。期末定期試験は行わない。授業への積極的な取り組み、議論への参加・発表などを合わせて総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	レジメ配布など。		

参考書	基本的に、毎回資料を配布したい。参考書などについては、講義の中で適宜指示する。購入する必要はない。
オフィスアワー	授業の質問のほか、就職、進路相談に積極的に応じます。メガバンク・地方銀行・信用金庫、証券・保険など金融業界のほか、メーカー・商社などグローバル企業の国際業務部門、法務・コーポレート部門の希望者は、ぜひ気楽にご相談下さい。政府系銀行勤務時代に培った各企業や金融業界の人脈、ノウハウを活用し、できるだけ受講生の相談に応じます。授業の前後に直接話に来て下さい。予約不要。fujikawa.nobuo@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、国際取引について講義全体を概観する。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	**国際取引法概説：　国際取引法の枠組みと規律、国際私法・公法領域との関係、統一私法、米国通商法、WTOなど関連法分野、企業の海外進出形態、為替取引、経済連携協定（TPP、EPA）など 授業のテーマ・内容、スケジュール、成績評価方法、参考文献紹介を含めて、学習・方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	国際製造物責任訴訟について、考察する。（3時間）
	授業内容	**国際製造物責任訴訟：　製造物責任（PL）法制の世界的動向、ＰＬ責任と米国の厳格責任主義、PL法制の特徴と比較法的考察、国際的制度調和、判例学習など**
	事後学習	講義ノートを確認して、国際製造物責任訴訟について、内容を復習する。（3時間）
3	事前学習	国際売買契約の概要について、考察する。（3時間）
	授業内容	**国際売買契約の概要（１）：　国際契約の種類・特徴、契約の成立、書式の闘い、国際売買契約の概要など**
	事後学習	講義ノートを確認して、国際売買契約の概要について、内容を復習する。（3時間）

4	事前学習	国際売買契約の具体的条項例について、考察する。（2時間）
	授業内容	**国際売買契約の概要（２）：　貿易条件の概要と具体的条項例、引渡条件（FOB、CIFなど）、インコタームズ２０２０の内容と実務、危険の移転など**
	事後学習	講義ノートを確認して、国際売買契約の具体的条項例などについて、内容を復習する。（2時間）
5	事前学習	国際資金決済について、考察する。（2時間）
	授業内容	**国際売買契約の概要（３）：　国際資金決済として、支払条件と具体的条項例、、荷為替信用状とリスクマジメント、スタンドバイ信用状、サレンダードB/L、信用状の危機、電子商取引、ブロックチェーン技術と国際送金など**
	事後学習	講義ノートを確認して、国際資金決済について、最近の新しい動向も含めて内容を復習する。（2時間）
6	事前学習	品質保証と瑕疵担保責任について、売主・買主の義務、危険の移転などを考察する。（2時間）
	授業内容	**国際売買契約の概要（４）：具体的条項例について、品質保証と瑕疵担保責任・契約不適合責任など**
	事後学習	講義ノートを確認して、品質保証と瑕疵担保責任などについて、さらに内容を復習する。（2時間）
7	事前学習	不可抗力条項とコロナ禍の実務対応などについて、考察する。（2時間）
	授業内容	**国際売買契約の概要（５）：　コロナ禍と不可抗力条項、表明保証責任とコベナンツ（誓約）条項、契約解除・効果、損害賠償、引渡遅延・信用状開設遅延と具体的条項例など**
	事後学習	講義ノートを確認して、不可抗力条項とコロナ禍の実務対応など条約について、さらに内容を復習する。（2時間）
8	事前学習	裁判管轄、準拠法、仲裁などについて、概要を考察する。（2時間）
	授業内容	**国際売買契約の概要（６）：裁判管轄、準拠法、仲裁・調停合意と具体的条項など**
	事後学習	講義ノートを確認して、裁判管轄、準拠法、仲裁などの概要を復習する。（2時間）
9	事前学習	ウィーン統一売買条約と企業実務について、考察する。（2時間）
	授業内容	**国際売買契約の概要（７）：　ウィーン統一売買条約と企業の対応、適用範囲および総則、契約の成立、適用排除、物品の売買、売主・買主の義務、危険の移転、損害賠償、解除、最終規定など**
	事後学習	講義ノートを確認して、ウィーン統一売買条約と企業実務を復習する。（2時間）
10	事前学習	国際運送・保険契約について、考察する。（2時間）
	授業内容	**国際運送・保険契約：　運送契約と国際統一規則の試み、船荷証券の法定記載事項、傭船契約、海上保険、輸出（貿易）保険（再保険、履行担保制度）、保険代位と準拠法など**
	事後学習	講義ノートを確認して、国際運送・保険契約などについて復習する。（2時間）
11	事前学習	国際販売代理店契約について、考察する。（2時間）
	授業内容	**国際販売代理店契約：AgentとDistributer、排他的・独占的条項、競業制限、最低購入義務、契約解除・効果ほか具体的条項例、代理店保護法と独占禁止法など**
	事後学習	講義ノートを確認して、国際販売代理店契約について復習する。（2時間）
12	事前学習	国際合弁契約について、考察する。（1時間）
	授業内容	**国際合弁契約（１）：　株主間契約及びジョイントベンチャー契約、株主総会と取締役会の機能と権限分配など運営管理、譲渡制限、徹底条項、準拠法ほか具体的条項例など、**
	事後学習	講義ノートを確認して、国際合弁契約などについて復習する。（1時間）
13	事前学習	国際合弁契約の新しい実務上の課題について、考察する。（2時間）
	授業内容	**国際合弁契約（２）：　海外Ｍ＆Ａにおけるジョイントベンチャー契約とEXITの留意点、コロナ禍の実務上の対応など**
	事後学習	講義ノートを確認して、国際合弁契約の新しい実務上の課題などについて復習する。（2時間）
14	事前学習	国際ライセンス契約、国際秘密保持契約、国際共同開発契約について、考察する。（2時間）
	授業内容	**国際ライセンス契約、国際秘密保持契約、国際共同開発契約：　契約の意義と概要、製造技術援助ライセンス、ソフトウエア・ライセンス、非拘束・非許諾、義務違反（差止請求、損害賠償額予定）、業務・費用の分担、第三者への業務委託、成果物の帰属・利用など**
	事後学習	講義ノートを確認して、国際ライセンス契約、国際秘密保持契約、国際共同開発契約などについて復習する。（2時間）
15	事前学習	最初からの講義ノートを見直し、前期の国際取引法全体の体系を考察する。（1時間）
	授業内容	**国際取引法の総論について、前期の総まとめを行い、体系的な学習を行う。**
	事後学習	国際取引法の総論について、今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。（1時間）

科目名	国際取引法特殊講義Ⅰ（知財）	担当者	坂本　力也	期間	前期	単位数	2

授業概要	国内法のみならず外国法や条約をふまえた国際的な法的枠組において知的財産権侵害に関する紛争の解決手段について体系的な知識を身につける。
授業目的・到達目標	本科目では、世界全体を知財ビジネスの一枚岩のマーケットとしてとらえ、知的財産権保護に影響を与える法的枠組みと法的問題点について理解することを目的とし、国際ライセンス契約を締結し知的財産権の国際的な活用と保護を法的に実現できる範囲とその限界、また、知的財産権侵害紛争を解決する手段としての裁判と裁判外紛争解決手段(ADR)の法的枠組とその問題点について、英米法法域における原文（英語）の法律専門用語を正確に理解し、日本語で説明できる能力を養成することを到達目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，２，４，７
履修条件	原文（英語）の資料を予習してきたうえで検討するセッションもあるので、しっかりと予習の時間を取って講義にのぞめることが履修条件である。
授業方法	受講生の人数にもよるが可能な限りディスカッション形式で授業をすすめる。レポート課題のフィードバックはその提出日に課題の出題趣旨と評価ポイントを解説することで行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	
	平 常 評 価	100%	授業内での発言（２０%）とレポート（８０%）を総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	講義中に資料（日本語・英語でのレジュメ、裁判例・判例またはその要約等）を配布する。教科書は使用しない。		

参 考 書	授業中に適宜紹介する。
オフィスアワー	日時: 水曜日12:30-13:00 場所: 9号館1階ロビー 備考: 休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。

【授業計画】

回数	授　業　内　容	
1	事前学習	知的財産ビジネスに関する新聞記事をひとつとりあげ知的財産ビジネスと通常のビジネスの相違点について自分の考えをまとめてくる。(2時間)
	授業内容	**テーマ：知的財産ビジネス** **国際的譲渡と直接投資に関する知的財産権侵害のリスクについて配布資料を学修し理解し説明できるようにする。**
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
2	事前学習	配布した資料を読んでくる。(2時間)
	授業内容	**テーマ：知的財産権の国際ライセンス契約（１）** **国際ライセンス契約の基本的条項について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。**
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
3	事前学習	配布した資料を読んでくる。(2時間)
	授業内容	**テーマ：知的財産権の国際ライセンス契約（２）** **国際ライセンス契約のボイラープレート条項について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。**
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)

4	事前学習	配布した資料を読んでくる。(2時間)
	授業内容	**テーマ：知的財産権の国際ライセンス契約（３）** **国際ライセンス契約の管轄合意条項について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。** **判例研究：アップル島野製作所訴訟その他**
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
5	事前学習	配布した資料を読んでくる。(2時間)
	授業内容	**テーマ：知的財産権の国際的保護手段：国際訴訟（１）** **アメリカの裁判所における外国法人に対する裁判管轄権の拡大・縮小について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。**
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
6	事前学習	配布した資料を読んでくる。(2時間)
	授業内容	**テーマ：知的財産権の国際的保護手段：国際訴訟（２）** **日本におけるアメリカの裁判所の判決の承認と執行について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。**
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
7	事前学習	配布した資料を読んでくる。(2時間)
	授業内容	**テーマ：知的財産権の国際的保護手段：国際仲裁（１）** **国際仲裁の法的枠組と役割について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。**
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
8	事前学習	配布した資料を読んでくる。(2時間)
	授業内容	**テーマ：知的財産権の国際的保護手段：国際仲裁（２）** **大陸法系法域と英米法系法域における仲裁へのアプローチの相違について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。**
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
9	事前学習	配布した資料を読んでくる。(2時間)
	授業内容	**テーマ：知的財産権の国際的保護手段：国際仲裁（３）** **2018年9月に開設された東京国際知的財産紛争解決センターの役割について配布資料を学修し理解し説明できるようにすると同時にその展望について自らの意見を述べることができるようにする。**
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
10	事前学習	配布した資料を読んでくる。(2時間)
	授業内容	**テーマ：知的財産権の国際的保護手段：　国際仲裁（４）** **日本における国際仲裁の活性化について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。**
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
11	事前学習	配布した資料を読んでくる。(2時間)
	授業内容	**テーマ：知的財産権の国際的保護手段：国際調停（１）** **国際調停による知的財産紛争解決の可能性について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。**
	事後学習	講義で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
12	事前学習	配布した資料を読んでくる。(2時間)
	授業内容	**テーマ：知的財産権の国際的保護手段：国際調停（２）** **大陸法系法域と英米法系法域における調停へのアプローチの相違とそれが知的財産紛争の解決に与えるインパクトについて配布資料を学修し理解し説明できるようにする。**
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
13	事前学習	配布した資料を読んでくる。(2時間)
	授業内容	**テーマ：知的財産権の国際的保護手段：国際調停（３）** **調停と仲裁の組み合わせたハイブリッドプロセスたとそれが知的財産紛争の解決に与えるインパクトについて配布資料を学修し理解し説明できるようにする。**
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
14	事前学習	配布した資料を読んでくる。(2時間)
	授業内容	**テーマ：知的財産権の国際的保護手段：国際調停（４）** **2019年8月の署名を待つシンガポール調停条約（Singapore Mediation Convention）について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。**
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)

15	事前学習	課題として課していたレポートを作成し提出に備える。(3.5時間)
	授業内容	**レポートの提出と出題趣旨と評価ポイントの解説を行う。**
	事後学習	出題趣旨と評価ポイントを踏まえ自らのパフォーマンスを確認する。 (0.5時間)

科目名	国際取引法特殊講義Ⅱ	担当者	藤川　信夫	期間	後期	単位数	2

授業概要	国際取引に関する法制度について最新の理論と実務を取り上げ、初学者を念頭に基礎から分かり易く解説する。国際売買契約、国際的資金決済、国際販売代理店契約、国際製造物責任、国際的M&A（企業買収）、敵対的買収と防衛策、国際合弁契約、国際投資、準拠法と裁判管轄、国際仲裁・調停の他、経済安全保障・経済制裁、ビジネスと人権保護等最新の動向も広範に採り上げ、米国、EU、中国・アジア等比較法的に学習する。判例演習、国際法務等も扱う。
授業目的・到達目標	グローバル企業を巡る国際取引法の理論と実務について基礎から広範囲・網羅的に修得することを目的とする。国際ビジネス関連の法制度の学習は実務に直結し、重要である。国際契約に係る貿易条件ではインコタームズ２０２０、ウィーン統一売買条約、国際資金決済では海上運送状や荷為替信用状、国際的M＆A（企業買収）、合弁契約、敵対的買収防衛策、国際金融取引分野も採り上げる。国際紛争解決では、国際私法に関する準拠法と裁判管轄の他、国際仲裁、国際調停が重要性を増している。近年はコロナ禍の他、米国・中国の経済対立、ウクライナ紛争等から、経済安全保障・経済制裁、サプライチェーンのビジネスと人権問題に関するリスクマネジメントが企業実務の大きな問題となっており、受講生が将来、修了後・就職後おいて役に立つ最新の専門・理論的、及び実務的内容を基礎から身につけることを目標とする。米国法判例演習などを通じて、受講生の実践的対応力等を向上させていきたい。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻1,2,4,7
履修条件	特にない。学部時代の関連科目履修を前提としない。国際ビジネス関連科目を勉強したことがない、全く新しく学習を始める他分野の出身者も歓迎する。積極的に関心を持ってぜひ参加されたい。また後期からの受講生も歓迎する。
授業方法	政府系銀行の長年の勤務経験と調査・審査、融資・財務ノウハウを生かし、実践的講義を行う。授業資料はこちらが全て、用意する。全くの初学者にも分かり易い授業を行う。パソコンなどを活用したい。インコタームズ２０２０など国際売買契約を主に国際契約、国際的M&A、準拠法と裁判管轄、国際仲裁など紛争解決などのほか、経済安全保障やビジネスと人権などグローバル企業の直面する現代的課題も含め、国際ビジネス法を多面的、比較法的に採り上げる。米国法など判例演習も行い、完全対面授業の良さを生かして、受講生の皆様と一緒に授業を進めたい。金融ビジネス関連の法知識は重要であり、是非受講生の将来に向けて役立てていただきたい。できるだけ多くの受講生に、積極的に受講してほしい。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	授業内評価による。期末定期試験は行わない。授業への積極的な取り組み、議論への参加・発表などを合わせて総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	レジメ配布など。		

参考書	基本的に、毎回資料を配布したい。参考書などについては、講義の中で適宜指示する。購入する必要はない。
オフィスアワー	授業の質問のほか、就職、進路相談に積極的に応じます。メガバンク・地方銀行・信用金庫、証券・保険など金融業界のほか、メーカー・商社などグローバル企業の国際業務部門、法務・コーポレート部門の希望者は、ぜひ気楽にご相談下さい。政府系銀行勤務時代に培った各企業や金融業界の人脈、ノウハウを活用し、できるだけ受講生の相談に応じます。授業の前後に直接話に来て下さい。予約不要。fujikawa.nobuo@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、国際取引について講義全体を概観する。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	**国際取引法の新しい課題とテーマの概要：後期の授業のテーマ、内容、スケジュール、成績評価方法、参考文献紹介を含めて、国際取引法の学習方法、研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	国際的M&A(企業買収)の実際、実務について、幅広く海外・国内の全般にわたって最新動向まで、考察する。（3時間）
	授業内容	**国際的M&A(企業買収)（１）：　敵対的企業買収と友好的企業買収、企業買収の目的、実務、買収方式、デューデリジェンス（Due Diligence、投資価値やリスクなど詳細調査）、企業評価（キャッシュフロー法など）、買収資金の調達、買収企業の運営（PAM）など**
	事後学習	講義ノートを確認して、国際的M&A(企業買収)の実際、実務について復習する。（3時間）
3	事前学習	国際的企業買収契約の概要、具体的条項例について、理論的な考察を図る。（2時間）
	授業内容	**国際的M&A(企業買収)（２）：　国際的企業買収契約の概要、資産特定と譲渡合意・引渡し、売買価格・支払い、負債承継、競業避止義務ほか具体的条項例など**
	事後学習	講義ノートを確認して、国際的企業買収契約の概要、具体的条項例など面について復習する。（2時間）

4	事前学習	敵対的企業買収、防衛策に関して、考察する。（3時間）
	授業内容	**国際的M&A(企業買収)（３）：　敵対的企業買収、防衛策の具体例としてライツプラン（ポイズンピル・毒薬条項）、黄金株、複数議決権株式、ホワイトナイトなど、**
	事後学習	講義ノートを確認して、敵対的企業買収、防衛策などについて復習する。（3時間）
5	事前学習	敵対的企業買収について、米国、ＥＵに関して、考察する。（3時間）
	授業内容	**国際的M&A(企業買収)（３）：　敵対的企業買収について、米国、ＥＵ、英国のＴＯＢ（株式公開買付）ルールの概要、経営判断原則、ユノカル判決、レブロン判決ほか米国の判例法理など**
	事後学習	講義ノートを確認して、敵対的企業買収について、米国、ＥＵに関して復習する。（3時間）
6	事前学習	日米欧における買収防衛策の新動向に関して、考察する。（2時間）
	授業内容	**国際的M&A(企業買収)（４）：　日米欧における買収防衛策の事例研究、英国ボーダフォンによる独マンネスマンの敵対的買収、ブルドックソース事件、買収防衛策指針、企業価値指針（経産省・法務省）など**
	事後学習	講義ノートを確認して、日米欧における買収防衛策の新動向に関して復習する。（2時間）
7	事前学習	我が国の今後の新しい企業買収における行動指針などについて、考察する。（2時間）
	授業内容	**国際的M&A(企業買収)（５）：　企業買収における行動指針（2023年経済産業省）と公正なM&A指針（2019年）、マーケットチェック、MOM(Majority of Minority)、特別委員会と望ましい買収提案を巡る取締役会の行動規範、カーティス・ミルハウプト教授（スタンフォード大学）の提案（2023年）など**
	事後学習	講義ノートを確認して、我が国の新しい企業買収における行動指針などに関して復習する。（2時間）
8	事前学習	コロナ禍における国際取引の変容とサステナブルな企業実務対応について、考察を深める。（1時間）
	授業内容	**コロナ禍、サステナブルに関するリスク環境・国際取引の変容と契約実務の新たな対応**
	事後学習	講義ノートを確認して、コロナ禍における国際取引の変容とサステナブルな企業実務対応に関して復習を深める。（1時間）
9	事前学習	国際紛争処理制度について、概要を考察する。（2時間）
	授業内容	**国際取引と紛争処理、国際仲裁など（１）：国際紛争処理制度の概要、国際民事訴訟と準拠法・裁判管轄、外国判決の承認・執行、インターネットによる裁判管轄など**
	事後学習	講義ノートを確認して、国際紛争処理制度に関して復習を行う。（2時間）
10	事前学習	国際仲裁と国際調停について、考察する。（2時間）
	授業内容	**国際取引と紛争処理、国際仲裁など（２）：　国際仲裁と国際調停の概要とメリット、ハイブリッド手続き、ニューヨーク条約・シンガポール条約、ADR（裁判外紛争処理制度）など**
	事後学習	講義ノートを確認して、国際仲裁と国際調停に関してさらに深く復習を行う。（2時間）
11	事前学習	国際仲裁の実務上の留意点などについて、考察する。（1時間）
	授業内容	**国際取引と紛争処理、国際仲裁など（３）：　国際仲裁・調停の実務上の留意点、訴訟と国際仲裁の選択、バーチャルヒヤリング、不可抗力条項とウィーン売買条約の不安の抗弁権の活用・準拠法条項の適用排除の適否、国際仲裁の活性化（法務省）など**
	事後学習	講義ノートを確認して、国際仲裁の実務上の留意点などに関してさらに深く復習を行う。（1時間）
12	事前学習	国際投資法、国際倒産法について、考察する。（2時間）
	授業内容	**国際投資法と国際倒産法：　国際投資と投資協定・仲裁、米国連邦破産法11条(Chapter11)と再生ファイナンス、他国の倒産手続きの内国効力など**
	事後学習	講義ノートを確認して、国際投資法と国際倒産法などに関して復習を行う。（2時間）
13	事前学習	経済安全保障と経済制裁、ビジネスと人権について、考察する。（2時間）
	授業内容	**経済安全保障と経済制裁（１）：　米国・中国の経済対立、ウクライナ紛争に関する経済安全保障・経済制裁、米国と中国の輸出管理規制、域外適用、ビジネスと人権デューディリジェンスにかかるサプライチェーンのリスクマネジメントなど**
	事後学習	講義ノートを確認して、経済安全保障と経済制裁、ビジネスと人権などについて復習する。（2時間）
14	事前学習	経済安全保障、投資国からの撤退などに関する法的、実務対応について、考察する。（2時間）
	授業内容	**経済安全保障と経済制裁（２）：　資産の収用・補償と国際投資法、経済安全保障・経済制裁に関わる合弁事業等の撤退局面と訴訟又は国際仲裁の選択など**
	事後学習	講義ノートを確認して、経済安全保障などに関する実務対応について法制度を復習する。（2時間）
15	事前学習	国際不正コンプライアンス、マネロン・テロ資金供与対策を学び、最初からの講義ノートを見直し、国際取引法全体の体系を考察する。（1時間）
	授業内容	**国際不正コンプライアンスとマネロン・テロ資金供与対策：　米国FCPA（海外腐敗行為防止法）、OFAC（財務省外国資産管理局）、BIS（商務省産業安全保障局）の規制など**
	事後学習	国際取引法の講義全体について、今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。（1時間）

科目名	特許･実用新案法特殊講義ＩＡ	担当者	三村　淳一	期間	前期	単位数	2

授業概要	知的財産法（とりわけ，産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特に、出願から権利化までの一連の手続き及び制度に関し、基礎的な内容について学ぶ。また、保護対象が類似なものである実用新案制度とはどこが異なるのか、区分ごとに理解する。特許出願書類（願書・クレーム・明細書・要約書）の基礎的な事項は、記載できるようになる。また、IPDLの基本的な操作も行う。
授業目的・到達目標	特許法における特許取得要件及び特許取得手続きに関する知識の習得を目的とし、受講生は、どのようなものが法上の発明であるか、どのような発明が特許となりうるのか説明でき、最終的には、自己で特許出願できることを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，４，６
履修条件	特になし
授業方法	講義を基本とするが、一部、授業内にて、出願書類を作成するといった実践的な内容も取り入れた講義とする。尚、講義は双方向で行い、講義内容の理解を深める。学期末試験のフィードバックは試験終了後に、1時間程度行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	70%	合格／不合格の判定は絶対評価により、90点以上(S)、80点以上(A)、70点以上(B)、60点以上(C)は、それぞれ5:25:40:30を目安とする相対評価
	平 常 評 価	30%	出席率が70%に満たない者は不合格とし、レポートや受講態度を積極的に評価

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2023	弘文堂	特許法　第5版	中山信弘
	備考			

参 考 書	①高林龍『標準　特許法　第８版』（有斐閣2023） ②特許庁編『産業財産権法　逐条解説』「第22版」（発明協会 2022）※特許庁WEBでDL可
オフィスアワー	火曜日の12:10-1:00に、９号館（9408）研究室にて対応する。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	教科書該当箇所を事前に読んでおく。知的財産権にほはどの様な法律があるのか理解し、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**総説（１）：知的財産権法の概要及び現状**
	事後学習	今まで自己が考えてきた無体財産はどの様な法律で守られているのか認識し、ノートに書き出しておく。また、知財の現状を理解し、今後、日本はどの様な方向に進むべきか考え、ノートに書き出しておく。尚、以下、特に重要な部分については特記しているが、基本的には、参考書①②にて対応する講義主題を確認し、ノートに書き出しておく。(2時間)
2	事前学習	参考書②第1条の条文及び解説を事前に読んでおき、ノートに書き出しておく。なぜ特許法が制定されたのか理解し、ノートに列記する。特許法が無かった場合の世界を想像する。また、工業所有権情報・研修館『産業財産権標準テキスト　特許編』「第8版」P141-142を事前に読んでおき、特許成立までの流れの概略を理解し、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**総説（２）：特許法の目的及び特許権成立までの概略**
	事後学習	特許法１条の各用語の意味を再確認する。特許成立までの流れにおいて、各段階での手続きの内容を参考書①②で確認し、ノートに書き出しておく。(2時間)
3	事前学習	教科書該当箇所を事前に読んでおく。一般的に使用されている「発明」と特許法で規定する「発明」の意味の相違を理解し、ノートに列記する。特許成立に必要である「産業上の利用性」を理解し、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**特許要件（１）：客体要件（発明、産業上の利用性）**
	事後学習	授業内で、特定の分野において、特許庁に出願されているアイデアが、法上の発明にあたるか否かをレポートする宿題を実施する。(2時間)

4	事前学習	教科書該当箇所を事前に読んでおく。新規であるとどういう状況をいうのか理解し、ノートに列記する。また、新しい発明をしても、従来のものから容易に発明できるものは特許とはならないという進歩性の判断基準を理解し、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**特許要件（２）：客体要件（新規性、進歩性）**
	事後学習	新しさの時間的・地域的基準や公然の意味など、参考書①②で確認し、ノートに書き出しておく。(2時間)
5	事前学習	教科書該当箇所を事前に読んでおき、ノートに列記する。新規ではない状態となっても一定条件のもと、新規性を失わない場合はどの様な場合であるか、理解をし、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**特許要件（３）：新規性喪失の例外**
	事後学習	通常、新規性を喪失した発明は特許化が不可能であることは、研究者は知っているはずであるが、どの様な場合に、この規定の適用を受けることになるのか、考え、ノートに書き出しておく。(2時間)
6	事前学習	教科書該当箇所を事前に読んでおき、ノートに列記する。上記の要件を満足しても、特許化すべきではない発明がある。どの様な発明が、特許化すべきではないのか、またその理由は何であるか、学習しておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**特許要件（４）：客体要件（不特許事由）**
	事後学習	授業で取り上げていない事例なども、自己で考えて、結論を導き、ノートに書き出しておく。(2時間)
7	事前学習	教科書該当箇所及び参考書①該当箇所を事前に読んでおく。先願主義とは何かを理解し、ノートに列記する。同一の発明が同日に時間を異にして出願された場合の取り扱いが、異日出願の場合と異なる点を十分に理解し、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**特許要件（５）：先願主義**
	事後学習	先願主義と先発明主義に比べ、日本が採用する先願主義には、どの様な利点があるか考え、ノートに列記する。また、先発明主義を採用していた国の制度を参考書①②で確認し、ノートに列記する。(2時間)
8	事前学習	教科書該当箇所を事前に読んでおき、ノートに列記する。理解が難しい規定であるため、参考書①該当箇所も事前に読んでおき、規定の内容を理解し、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**特許要件（６）：拡大された先願範囲の地位**
	事後学習	本規定の条文である29条の2について、授業後の再度読み返し、規定の内容と条文の文言を確認し、ノートに書き出しておく。(2時間)
9	事前学習	教科書該当箇所を事前に読んでおき、ノートに列記する。出願書類にはどの様な記載をすべきであると法が規定しえいるか理解する。また、１つの出願で権利の請求が行える発明の範囲について事前に学んでおき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**出願・審査手続（１）：出願書類・明細書及び請求項の記載要件／発明の単一性**
	事後学習	物の発明と方法の発明では、その記載方法や記載すべき内容も異なる点を参考書①②で確認し、ノートに書き出しておく。(2時間)
10	事前学習	教科書該当箇所を事前に読んでおき、ノートに列記する。外国において特許を取得する理由や取得するための手続きについて理解し、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**出願・審査手続（２）：優先権（パリ条約による優先権・パリ条約の例による優先権、国内優先権）**
	事後学習	優先権の種類や利用場面を考えし、ノートに書き出しておく。この講義はパリ条約４条に基づく国内法であるため、パリ条約４条を読み理解を深めるとともに、参考書①の該当箇所も読んでおき、ノートに書き出しておく。(2時間)
11	事前学習	参考書③該当箇所を思い出しながら、教科書該当箇所を事前に読んでおき、ノートに列記する。手続きの補正とは何か、何故、その様な補正を行うのかについて十分理解し、そのような補正が何時、どの様な範囲で行うことができるのかを学び、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**出願・審査手続（３）：補正**
	事後学習	補正は、その補正時期により、制限事項が異なることを参考書①②で確認し、ノートに書き出しておく。(2時間)
12	事前学習	教科書該当箇所を事前に読んでおき、ノートに列記する。出願分割や変更は、どの様な制度であるか、なぜ認められているのか、どのような状況での利用となるのか、理解し、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**出願・審査手続（４）：出願分割及び出願変更**
	事後学習	出願分割は、パリ条約でも同盟国民に認められている権利であり、パリ条約４条Fについても、読んで確認し、ノートに書き出しておく。(2時間)
13	事前学習	参考書①②内の36条の2及びその解説を事前に読んでおき、ノートに列記する。日本語に加え一部の言語にて、日本では特許出願が可能であることを理解した上で、外国語出願した出願人がその後取るべき手続やその内容を理解し、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**出願・審査手続（５）：外国語書面出願**
	事後学習	外国語書面出願の場合、翻訳ミスがった場合の訂正は、通常の手続補正書では行わない、補正の範囲は翻訳の範囲など、通常の日本語出願とは大きく異なる点があるので、何が異なるのか、どの様に異なるのか理解し、ノートに書き出しておく。(2時間)
14	事前学習	教科書該当箇所を事前に読んでおき、ノートに列記する。出願公開の要件及び補償金請求権の要件及び内容を理解し、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**出願・審査手続（７）：特許庁の行為１（出願公開及び補償金請求権）**
	事後学習	参考書①の該当箇所にて講義内容を確認し、ノートに書き出しておく。(2時間)

15	事前学習	教科書該当箇所を事前に読んでおき、ノートに列記する。拒絶理由通知を受けた出願人の対応手法を理解し、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**出願・審査手続（８）：特許庁の行為２（拒絶理由通知、査定と登録）**
	事後学習	参考書①②の該当箇所にて講義内容を確認し、ノートに書き出しておく。(2時間)

科目名	特許･実用新案法特殊講義ＩＢ	担当者	三村　淳一	期間	後期	単位数	2

授業概要	知的財産法（とりわけ，産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特許権の効力、特許侵害、損害賠償制度、各種実施権制度、及び審判制度の基本的な構造・体系，さらには実用新案法についての基本的な構造・体系，両法を併存させている理由，両法の比較，さらには実用新案制度の特異な制度について基礎的な理解を深め、両法の現状を的確に理解・認識する。
授業目的・到達目標	特許権の効力に関する知識、従って、特許権者は取得する具体的な権利の内容の習得を目的とし、受講生は、特許者は、無断で他人の特許を実施した場合にどのような権利を行使できるのか、また、どのような場合に特許権の行使が制限されるのか説明でき、最終的には、特許権及び実用新案権を行使することができる人材を養成することを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，４，６
履修条件	特許・実用新案法特殊講義ＩAを受講していることが好ましい。
授業方法	パワーポイントを使用した講義を基本とする。尚、一方通行ではなく、双方向の講義を行い、講義内容の理解を深める。学期末試験のフィードバックは試験終了後に、1時間程度行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	70%	合格／不合格の判定は絶対評価により、90点以上(S)、80点以上(A)、70点以上(B)、60点以上(C)は、それぞれ5:25:40:30を目安とする相対評価
	平 常 評 価	30%	出席率が70%に満たない者は不合格とし、レポートや受講態度を積極的に評価

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	弘文堂	特許法　第５版	中山信弘
	備考			

参 考 書	①高林龍『標準　特許法　第8版』（有斐閣2023） ②特許庁編『産業財産権法　逐条解説』「第22版」（発明協会 2022）　※特許庁WEBでDL可
オフィスアワー	火曜日の12:10-1:00に、９号館（9408）研究室にて対応する。

【授業計画】

回数	授　業　内　容	
1	事前学習	教科書該当箇所を事前に読んでおく。特に、発生，権利の性質（公権的・私権的），権利付与の背景，権利の内容（発生・消滅・権利主体・権利客体・主体の変動・客体の変動について事前に勉強しノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**特許を受ける権利：権利対象、権利侵害に対する救済、権利の利用**
	事後学習	参考書①&②の該当箇所を読んでフォローアップし、ノートに書き出しておく。共有に係る場合の特則や訴訟提起の場合の単独性について教科書を利用し理解し、ノートに書き出しておく。（2時間）
2	事前学習	教科書該当箇所を事前に読んでおく。現行法下での権利の原始的帰属や使用者の権利を理解しノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**職務発明**
	事後学習	参考書の該当箇所を読んでフォローアップし、ノートに書き出しておく。旧法との比較を行い、改正点を整理するとともに、改正法の課題を考え、ノートに書き出しておく。。また、平成27年特許法改正等説明会テキストや改正特許法第35条第6項の指針案の概要を利用し、講義をフォローアップし、ノートに書き出しておく。（2時間）
3	事前学習	教科書該当箇所を事前に読んでおく。特に特許権者はどの様なことを独占排他的に行えるのか理解しノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**特許の効力（１）：効力範囲**
	事後学習	参考書の該当箇所を読んでフォローアップし、ノートに書き出しておく。特に、消尽説を教科書や参考書等を利用し理解し、ノートに書き出しておく。（2時間）

4	事前学習	教科書該当箇所（効力制限）、教科書該当箇所（間接侵害）を事前に読んでおく。特に、積極的及び消極的効力が発生する状況を学習する。また、侵害の基本を理解した上で、間接侵害の定義及び規定趣旨を理解した上で、専用品と汎用品に分けて，物と方法の発明の間接侵害の内容を事前学習しノートに列記する（2時間）
	授業内容	**特許の効力（２）：効力の制限、拡張的効力**
	事後学習	参考書①②の該当箇所を読んでフォローアップし、ノートに書き出しておく。「グアニジノ安息香酸誘導体III上告審」　平成10（受）153を読み、69条1項の理解を深め、ノートに書き出しておく。（2時間）
5	事前学習	教科書該当箇所を事前に読んでおく。特許が延長される場合について理解しノートに列記する（2時間）
	授業内容	**特許の存続期間**
	事後学習	参考書①の該当箇所を読んでフォローアップし、ノートに書き出しておく。「パシーフカプセル事件」（最高裁判所第１小法廷平成21年(行ヒ)第326号　平成23年4月28日）を読み、講義の理解を深め、ノートに書き出しておく。（2時間）
6	事前学習	教科書該当箇所を事前に読んでおく。特許侵害はどの様に判断されるのか理解する。また、均等論の意義、及びその及び範囲の限界を事前に学習しノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**特許権侵害（１）：成立要件（技術的範囲の判断、均等論）**
	事後学習	参考書①の該当箇所を読んでフォローアップすし、ノートに書き出しておく。「ボールスプライン軸受」　平成6(オ)1083　を読み、均等の５要件の意味を理解し、ノートに書き出しておく。（2時間）
7	事前学習	教科書該当箇所を事前に読んでおく。損害賠償にかかる特別規程の内容を理解しノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**特許権侵害（２）：民事的救済（差止請求権、損害賠償請求権）**
	事後学習	2020年10月に賠償額の計算方法が改正（施行)されたので、参考書等を用い改正法を読んでフォローアップし、ノートに書き出しておく。講義にて簡単な事例問題を提示するので、各自賠償額を計算し、ノートに書き出しておく。（2時間）
8	事前学習	教科書該当箇所を事前に読んでおく。専用と通常の相違点を理解しノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**権利の変動（１）：専用実施権／許諾による通常実施権**
	事後学習	参考書①の該当箇所を読んでフォローアップし、ノートに書き出しておく。企業間の実施契約を非独占的なものであるため、この契約をする上で必要なる要素を考え、ノートに書き出しておく。（2時間）
9	事前学習	教科書該当箇所を事前に読んでおく。各実施権の内容を理解しノートに列記する。特に裁定の場合、実施権種類により判断主体が異なる点、その理由を含めて理解しノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**権利の変動（２）：　法定通常実施権及び裁定通常実施権常実施権**
	事後学習	参考書①の該当箇所を読んでフォローアップし、ノートに書き出しておく。国家間で問題となっている国家による強制実施権について考え、ノートに書き出しておく。（2時間）
10	事前学習	教科書該当箇所（移転）、教科書該当箇所を事前に読んでおく。特に仮実施権については、それらの制度趣旨，権利の内容，権利主体及び権利客体，発生，登録，効力，変更，消滅について事前に学習しノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**権利の変動（３）：権利の移転／仮専用実施権及び仮通常実施権**
	事後学習	参考書①の該当箇所を読んでフォローアップし、ノートに書き出しておく。仮実施権と実施権の相違、特許権成立後の仮実施権の取り扱いについて理解し、ノートに書き出しておく。（2時間）
11	事前学習	教科書該当箇所を事前に読んでおく。審判手続きは、各種審判に共通する部分が多い。まず、本講義でおこなわれる一般的な審判の流れや共通する手続き、特定の審判にのみ用いられる手続きなどを理解しノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**審判（１）：審判手続**
	事後学習	参考書①の該当箇所をを読んでフォローアップし、ノートに書き出しておく。特許庁：「審判制度の概要と運用」を読んで、講義内容をフォローアップし、ノートに書き出しておく。 https://www.jpo.go.jp/torikumi/ibento/text/pdf/h29_jitsumusya_txt/23.pdf（2時間）
12	事前学習	教科書該当箇所を事前に読んでおく。拒絶査定不服審判請求時に補正を行う場合と行わない場合で、審判手続きに差異が生じる点を理解しノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**審判（２）：拒絶査定不服審判／前置審査**
	事後学習	参考書①の該当箇所を読んでフォローアップし、ノートに書き出しておく。特許庁：「審判制度の概要と運用」を読んで、講義内容をフォローアップし、ノートに書き出しておく。 https://www.jpo.go.jp/torikumi/ibento/text/pdf/h29_jitsumusya_txt/23.pdf（2時間）
13	事前学習	教科書該当箇所を事前に読んでおく。類似手続きである訂正審判と訂正請求の相違を理解しノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**審判（３）：特許無効審判・訂正審判・延長登録無効の審判**
	事後学習	参考書①の該当箇所を読んでフォローアップし、ノートに書き出しておく。特許庁：「審判制度の概要と運用」を読んで、講義内容をフォローアップし、ノートに書き出しておく。 https://www.jpo.go.jp/torikumi/ibento/text/pdf/h29_jitsumusya_txt/23.pdf（2時間）
14	事前学習	教科書該当箇所（異議）及び該当箇所（訴訟）を事前に読んでおく。異議制度と無効審判の相違を理解しノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**訴訟：異議申立制度及び審決取消訴訟・その他の訴訟**
	事後学習	参考書①の該当箇所を読んでフォローアップし、ノートに書き出しておく。審決取消訴訟は、査定系と当事者系があるが、請求主体が異なると考えられているため、その点を特に参考書①を利用して理解を深め、ノートに書き出しておく。（2時間）

15	事前学習	参考書該当箇所を事前に読んでおく。特に、権利行使に必要である技術評価書はどの様なものであるか理解しノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**実用新案登録制度**
	事後学習	特許制度との相違を理解し、ノートに書き出しておく。（2時間）

科目名	特許･実用新案法特殊講義ⅡA	担当者	加藤　浩	期間	前期	単位数	2

授業概要	特許法・実用新案法に関して学修する。具体的には、特許法・実用新案法に関する裁判事例について解説し、判例の立場と学説の立場について検討する。
授業目的・到達目標	（1）特許法・実用新案法における重要な裁判例に関して，判例研究を通して，その基本的な考え方を説明することができる。 （2）判例を通じて、特許法・実用新案法の各種規定がどのように司法で解釈されているか理解し、司法での解釈を実践（ライセンス交渉や侵害訴訟など）できるようになる。 関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻３，４，７
履修条件	特になし。
授業方法	講義形式の授業を行う。適宜レジュメも配布。知的財産を巡る最新の話題・実例も適宜、提供する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	70%	定期試験70％：合格／不合格の判定は絶対評価により、90点以上(S)、80点以上(A)、70点以上(B)、60点以上(C)は、それぞれ5:25:40:30を目安とする相対評価
	平常評価	30%	平常評価30％：出席率が70%に満たない者は不合格とし、受講態度や授業への参加意欲を積極的に評価

教科書	年	出版社	書名	著者名
	２０１２年	有斐閣	特許判例百選（第４版）	中山信弘
	２０１９年	有斐閣	特許判例百選（第５版）	小泉直樹・田村善之
	備考	毎回、裁判事例に関するレジュメを配布する。		

参考書	中山信弘「特許法（第４版）」弘文堂、茶園成樹「特許法（第２版）」有斐閣
オフィスアワー	水曜日５時限目に設定する。（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館６階　１６１０号室）メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。また、知的財産法の全体像について考えておく。（２時間）
	授業内容	**【特許法の目的】（特許法１条） 特許法の目的（特許法１条）について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、特許法の目的（特許法１条）について検討する。（２時間）
2	事前学習	事前に講義プリントを読んで、特許の保護対象（特許法２条１項）について復習しておくこと。（２時間）
	授業内容	**【発明（１）】保護対象（特許法２条１項） 特許法上の発明（特許法２条１項）について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、特許の保護対象（特許法２条１項）について復習しておくこと。（２時間）
3	事前学習	事前に講義プリントを読んで、特許の保護対象（特許法２条１項）について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【発明（２）】保護対象（特許法２条１項） 特許法上の発明（特許法２条１項）について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、特許の保護対象（特許法２条１項）について復習しておくこと。（２時間）

4	事前学習	事前に講義プリントを読んで、産業上の利用可能性（特許法２９条１項柱書）について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【特許の要件（１）】産業上の利用可能性（特許法２９条１項柱書） 産業上の利用可能性（特許法２９条１項柱書）について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、産業上の利用可能性（特許法２９条１項柱書）について復習しておくこと。（２時間）
5	事前学習	事前に講義プリントを読んで、新規性（公知）（特許法２９条１項１号）について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【特許の要件（２）】新規性／公知（特許法２９条１項１号） 新規性（公知）について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、新規性（公知）（特許法２９条１項１号）について復習しておくこと。（２時間）
6	事前学習	事前に講義プリントを読んで、新規性（公用）（特許法２９条１項２号）について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【特許の要件（３）】新規性／公用（特許法２９条１項２号） 新規性（公用）について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、新規性（公用）（特許法２９条１項２号）について復習しておくこと。（２時間）
7	事前学習	事前に講義プリントを読んで、新規性（文献公知・ネット公知）（特許法２９条１項３号）について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【特許の要件（４）】新規性／文献公知・ネット公知（特許法２９条１項３号） 新規性（文献公知・ネット公知）について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、新規性（文献公知・ネット公知）（特許法２９条１項３号）について復習しておくこと。（２時間）
8	事前学習	事前に講義プリントを読んで、新規性喪失の例外（特許法３０条）について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【特許の要件（５）】新規性喪失の例外（特許法３０条） 記載要件について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、新規性喪失の例外（特許法３０条）について復習しておくこと。（２時間）
9	事前学習	事前に講義プリントを読んで、進歩性（特許法２９条２項）について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【特許の要件（６）】進歩性（特許法２９条２項） 進歩性（特許法２９条２項）について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、進歩性（特許法２９条２項）について復習しておくこと。（２時間）
10	事前学習	事前に講義プリントを読んで、不特許事由（特許法３２条）について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【特許の要件（７）】不特許事由（特許法３２条） 不特許事由（特許法３２条）について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、不特許事由（特許法３２条）について復習しておくこと。（２時間）
11	事前学習	事前に講義プリントを読んで、記載要件（特許法３６条）について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【特許の要件（８）】記載要件（特許法３６条） 記載要件（特許法３６条）について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、記載要件（特許法３６条）について復習しておくこと。（２時間）
12	事前学習	事前に講義プリントを読んで、発明者適格（特許法２９条１項柱書）について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【権利の主体（１）】発明者適格 発明者適格について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、発明者適格について復習しておくこと。（２時間）
13	事前学習	事前に講義プリントを読んで、出願人適格について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【権利の主体（２）】出願人適格 出願人適格について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、出願人適格について復習しておくこと。（２時間）
14	事前学習	事前に講義プリントを読んで、職務発明制度（特許法３５条）について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【権利の主体（３）】職務発明制度（１） 職務発明制度（特許法３５条）について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、職務発明制度（特許法３５条）について復習しておくこと。（２時間）
15	事前学習	事前に講義プリントを読んで、職務発明制度（特許法３５条）について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【権利の主体（４）】職務発明制度（２） 職務発明制度（特許法３５条）について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、職務発明制度（特許法３５条）について復習しておくこと。（２時間）

科目名	特許･実用新案法特殊講義ⅡＢ	担当者	加藤　浩	期間	後期	単位数	2

授業概要	特許法・実用新案法に関する講義を行う。具体的には、特許法・実用新案法に関する裁判事例について解説し、判例の立場と学説の立場について検討する。
授業目的・到達目標	（1）特許法・実用新案法における重要な裁判例に関して，判例研究を通して，その基本的な考え方を説明することができる。 （2）判例を通じて、特許法・実用新案法の各種規定がどのように司法で解釈されているか理解し、司法での解釈を実践（ライセンス交渉や侵害訴訟など）できるようになる。 関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻３，４，７
履修条件	特になし。
授業方法	講義形式の授業を行う。適宜レジュメも配布。知的財産を巡る最新の話題・実例も適宜、提供する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	70%	定期試験70％：合格／不合格の判定は絶対評価により、90点以上(S)、80点以上(A)、70点以上(B)、60点以上(C)は、それぞれ5:25:40:30を目安とする相対評価
	平常評価	30%	平常評価30％：出席率が70%に満たない者は不合格とし、受講態度や授業への参加意欲を積極的に評価

教科書	年	出版社	書名	著者名
	２０１２年	有斐閣	特許判例百選（第４版）	中山信弘
	２０１９年	有斐閣	特許判例百選（第５版）	小泉直樹・田村善之
	備考	毎回、裁判事例に関するレジュメを配布する。		

参考書	中山信弘「特許法（第４版）」弘文堂、茶園成樹「特許法（第２版）」有斐閣
オフィスアワー	水曜日５時限目に設定する。（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館６階　１６１０号室）メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。また、知的財産法の全体像について考えておく。（２時間）
	授業内容	**【特許権の効力（１）】 特許法における特許権の効力（１）について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（２時間）
2	事前学習	事前に講義プリントを読んで、特許権の効力（２）について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【特許権の効力（２）】 特許法における特許権の効力（２）について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、特許権の効力（２）について復習しておくこと。（２時間）
3	事前学習	事前に講義プリントを読んで、特許権の効力（３）について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【特許権の効力（３）】 特許法における特許権の効力（３）について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、特許権の効力（３）について復習しておくこと。（２時間）

4	事前学習	事前に講義プリントを読んで、特許権の利用について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【特許権の利用】 特許権の利用について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、特許権の利用について復習しておくこと。（２時間）
5	事前学習	事前に講義プリントを読んで、文言侵害・クレーム解釈（１）について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【文言侵害・クレーム解釈（１）】 文言侵害・クレーム解釈（１）について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、文言侵害・クレーム解釈（１）について復習しておくこと。（２時間）
6	事前学習	事前に講義プリントを読んで、文言侵害・クレーム解釈（２）について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【文言侵害・クレーム解釈（２）】 文言侵害・クレーム解釈（２）について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、文言侵害・クレーム解釈（２）について復習しておくこと。（２時間）
7	事前学習	事前に講義プリントを読んで、文言侵害・クレーム解釈（３）について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【文言侵害・クレーム解釈（３）】 文言侵害・クレーム解釈（３）について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、文言侵害・クレーム解釈（３）について復習しておくこと。（２時間）
8	事前学習	事前に講義プリントを読んで、均等侵害（１）について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【均等侵害（１）】 均等侵害（１）について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、均等侵害（１）について復習しておくこと。（２時間）
9	事前学習	事前に講義プリントを読んで、均等侵害（２）について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【均等侵害（２）】 均等侵害（２）について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、均等侵害（２）について復習しておくこと。（２時間）
10	事前学習	事前に講義プリントを読んで、間接侵害・一部侵害（１）について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【間接侵害・一部侵害（１）】 間接侵害・一部侵害（１）について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、間接侵害・一部侵害（１）について復習しておくこと。（２時間）
11	事前学習	事前に講義プリントを読んで、間接侵害・一部侵害（２）について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【間接侵害・一部侵害（２）】 間接侵害・一部侵害（２）について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、間接侵害・一部侵害（２）について復習しておくこと。（２時間）
12	事前学習	事前に講義プリントを読んで、特許権侵害の抗弁事由（１）について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【特許権侵害の抗弁事由（１）】 特許権侵害の抗弁事由（１）について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、特許権侵害の抗弁事由（１）について復習しておくこと。（２時間）
13	事前学習	事前に講義プリントを読んで、特許権侵害の抗弁事由（２）について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【特許権侵害の抗弁事由（２）】 特許権侵害の抗弁事由（２）について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、特許権侵害の抗弁事由（２）について復習しておくこと。（２時間）
14	事前学習	事前に講義プリントを読んで、特許権侵害の救済手段について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【特許権侵害の救済手段】 特許権侵害の救済手段について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、特許権侵害の救済手段について復習しておくこと。（２時間）
15	事前学習	事前に講義プリントを読んで、実用新案権侵害の救済手段について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**【実用新案権侵害の救済手段】 実用新案権侵害の救済手段について学習し、関連する裁判事例について理解し、判例の立場について考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、実用新案権侵害の救済手段について復習しておくこと。（２時間）

科目名	意匠法特殊講義Ⅰ	担当者	竹内　敏夫	期間	前期	単位数	2

授業概要	意匠特有の制度を中心に、意匠の登録要件、審査手続きを中心に講義を行い、各論点についてはディスカッションを行う。			
授業目的・到達目標	意匠制度の基礎的な理解を目指し、意匠独特な制度についてその内容を説明できるようになる。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，４，６			
履修条件	特になし。			
授業方法	講義及びディスカッション			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験	0%		
	平 常 評 価	100%	(70%)授業内試験により評価する。状況により期末レポートに替える場合もある。／(30%)授業での質問への答え等によって評価する。５回以上の欠席は単位を認めない。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2020年	有斐閣	意匠法（第２版）	茶園成樹
	備考			
参 考 書	特許庁編「工業所有権法逐条解説」（発明協会） 特許庁・意匠審査基準，審議会資料（特許庁ホームページ）			
オフィスアワー	金曜日　12時10分～13時　教員研究室（1812）takeuchi.toshio@nihon-u.ac.jp　事前に要連絡			

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	意匠権の意義（意匠法の目的）について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠権の意義（意匠法の目的）について**
	事後学習	意匠権の意義（意匠法の目的）について整理する。（２時間）
2	事前学習	意匠権の意義と目的（意匠の利用，創作の奨励）について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠権の意義と目的（意匠の利用，創作の奨励）**
	事後学習	意匠権の意義と目的（意匠の利用，創作の奨励）について整理する。（２時間）
3	事前学習	意匠の種類（意匠自体の種類，制度上の種類）について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠の種類（意匠自体の種類，制度上の種類）について**
	事後学習	意匠の種類（意匠自体の種類，制度上の種類）について整理する。（２時間）

4	事前学習	意匠権の種類（分割意匠，変更意匠等）について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠権の種類（分割意匠，変更意匠等）の意匠について**
	事後学習	意匠権の種類（分割意匠，変更意匠等）の意匠について整理する。（２時間）
5	事前学習	意匠権の種類（職務創作，美術工芸品）について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠権の種類（職務創作，美術工芸品）について**
	事後学習	意匠権の種類（職務創作，美術工芸品）についてについて整理する。（２時間）
6	事前学習	意匠権の主体（創作者，承継人，共同）について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠権の主体（創作者，承継人，共同）について**
	事後学習	意匠権の主体（創作者，承継人，共同）について整理する。（２時間）
7	事前学習	意匠権の主体（手続能力，代理人）について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠権の主体（手続能力，代理人）について**
	事後学習	意匠権の主体（手続能力，代理人）について整理する。（２時間）
8	事前学習	意匠権の客体（成立要件，登録要件）について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠権の客体（成立要件，登録要件）について**
	事後学習	意匠権の客体（成立要件，登録要件）について整理する。（２時間）
9	事前学習	意匠権の客体（不登録事由）について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠権の客体（不登録事由）について**
	事後学習	意匠権の客体（不登録事由）について整理する。（２時間）
10	事前学習	意匠権の客体（優先権，グレースピリオド）について調べてくる、（２時間）
	授業内容	**意匠権の客体（優先権，グレースピリオド）について**
	事後学習	意匠権の客体（優先権，グレースピリオド）について整理する。（２時間）
11	事前学習	意匠審査基準について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠審査基準について**
	事後学習	意意匠審査基準について整理する。（２時間）
12	事前学習	意匠の登録手続について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠の登録手続について**
	事後学習	意匠の登録手続について整理する。（２時間）
13	事前学習	意匠登録出願における方式審査について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠登録出願における方式審査について**
	事後学習	意匠登録出願における方式審査について整理する。（２時間）
14	事前学習	意匠登録手続における実体審査について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠登録手続における実体審査について**
	事後学習	意匠登録手続における実体審査について整理する。（２時間）
15	事前学習	意匠の類否について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠の類否について**
	事後学習	意匠の類否について整理する。（２時間）

科目名	意匠法特殊講義Ⅱ	担当者	竹内　敏夫	期間	後期	単位数	2

授業概要	意匠法特有の意匠について、意匠権の内容を中心に講義を行い、各論点についてはディスカッションを行う。			
授業目的・到達目標	意匠制度の基礎的な理解を目指し、意匠独特な意匠の意匠権についてその内容を説明できるようになる。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，４，６			
履修条件	特になし。			
授業方法	講義及びディスカッション			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験	0%		
	平 常 評 価	100%	(70%)授業内試験により評価する。状況により期末レポートに替える場合もある。／(30%)授業での質問への答え等によって評価する。５回以上の欠席は単位を認めない。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2020年	有斐閣	意匠法第２版	茶園成樹
	備考			
参 考 書	特許庁編「工業所有権法逐条解説」（発明協会） 特許庁・意匠審査基準，審議会資料（特許庁ホームページ）			
オフィスアワー	金曜日　12時10分～13時　教員研究室（1812）takeuchi.toshio@nihon-u.ac.jp　事前に要連絡			

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	意匠権の効力（効力の範囲）について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠権の効力（効力の範囲）について**
	事後学習	意匠権の効力（効力の範囲）についてについて整理する。（２時間）
2	事前学習	意匠権の効力（効力の限界）について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠権の効力（効力の限界）について**
	事後学習	意匠権の効力（効力の限界）について整理する。（２時間）
3	事前学習	意匠権の効力（地理的限界，時間的限界）について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠権の効力（地理的限界，時間的限界）について**
	事後学習	意匠権の効力（地理的限界，時間的限界）について整理する。（２時間）

4	事前学習	意匠権の意義（意匠に関する条約）について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠権の意義（意匠に関する条約）について**
	事後学習	意匠権の意義（意匠に関する条約）について整理する。（２時間）
5	事前学習	意匠権の効力と不正競争防止法の形態模倣との関係，関税法による輸出入禁制について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠権の効力と不正競争防止法の形態模倣との関係，関税法による輸出入禁制について**
	事後学習	意匠権の効力と不正競争防止法の形態模倣との関係，関税法による輸出入禁制についてについて整理する。（２時間）
6	事前学習	意匠権の権利変動について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠権の権利変動について**
	事後学習	意匠権の権利変動について整理する。（２時間）
7	事前学習	意匠登録を受ける権利の権利変動と消滅について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠登録を受ける権利の権利変動と消滅について**
	事後学習	意匠登録を受ける権利の権利変動と消滅について整理する。（２時間）
8	事前学習	意匠権の効力（積極的効力「実施，許諾」）について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠権の効力（積極的効力「実施，許諾」）について**
	事後学習	意匠権の効力（積極的効力「実施，許諾」）について整理する。（２時間）
9	事前学習	意匠権の効力（消極的効力「差止請求」）について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠権の効力（消極的効力「差止請求」）について**
	事後学習	意匠権の効力（消極的効力「差止請求」）について整理する。（２時間）
10	事前学習	意匠権の効力（消極的効力「損害賠償請求」等）について調べてくる、（２時間）
	授業内容	**意匠権の効力（消極的効力「損害賠償請求」等）について**
	事後学習	意匠権の効力（消極的効力「損害賠償請求」等）について整理する。（２時間）
11	事前学習	審判，再審，判定，裁定について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**審判，再審，判定，裁定について**
	事後学習	審判，再審，判定，裁定について整理する。（２時間）
12	事前学習	審決取消訴訟について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**審決取消訴訟について**
	事後学習	審決取消訴訟について整理する。（２時間）
13	事前学習	立体商標と意匠の関係について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**立体商標と意匠の関係について**
	事後学習	立体商標と意匠の関係について整理する。（２時間）
14	事前学習	意匠権侵害がなされた場合，意匠権者がとりうる手段について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠権侵害がなされた場合，意匠権者がとりうる手段について**
	事後学習	意匠権侵害がなされた場合，意匠権者がとりうる手段について整理する。（２時間）
15	事前学習	意匠と意匠の抵触について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**意匠と意匠の抵触について**
	事後学習	意匠と意匠の抵触について整理する。（２時間）

科目名	商標法特殊講義Ⅰ	担当者	小川　宗一	期間	前期	単位数	2

授業概要	ブランド（企業や商品･役務のイメージの総体）の魅力の大きさが企業間の競争力の重要な要素となってきている中で、そのブランドイメージを伝達するための需要なツールとなる「商標」及び、その商標を保護するための「商標登録制度」の概要、基本的体系・仕組み（とりわけ「商標権の取得（登録要件、手続）」）についての理論と実務を学修する。 なお、本科目は、弁理士試験短答式一部科目免除対象科目である。
授業目的・到達目標	「商標登録制度」の概要、基本的体系・仕組み（とりわけ「商標権の取得（登録要件、手続）」）についての理論と実務を、具体的な事案に適用した裁判例・審決例を参考にしつつ、さらには海外法制との比較もしながら修得し、具体的事案の分析能力や紛争解決能力の取得を目的とする。 企業の経営戦略におけるブランド戦略の重要性や、商標登録制度に関する理論と実務について、学生が深く理解をし、説明や議論ができ、的確な事例の分析や事案解決ができるようになることを目標とする。関連するDP･CP私法学専攻1,4,6
履修条件	「商標法特殊講義Ⅱ」（商標権の効力及びこれを巡る争訟等）も履修することが望ましい。
授業方法	講義形式。教科書の他に最新の話題・実例も適宜教材とし、学生の積極的な授業への貢献を求めるインタラクティブの方式を取り入れる。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	授業内での質問･意見表明及び授業内試験により、[到達目標]にかかわる知識･能力の修得度を評価。S･A･B･Cは、5:25:40:30を目安とする相対評価。出席率70%未満は不合格。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	有斐閣	商標法（2版）	茶園成樹編
	備考			

参考書	必要に応じ紹介する。
オフィスアワー	本授業終了後　授業講堂 【授業内容以外で受け付ける質問･相談について】弁理士試験対策、特許庁商標審査官について 【学生との連絡用メールアドレス】ogawa.soichi〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、授業の概要や目的を理解し、講義全体を概観する。（1時間）
	授業内容	**授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、教科書の紹介を含めて商標法の学習方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。 知的財産法体系における商標法の位置づけ、商品・役務との関係における商標の必要性について学習する。**
	事後学習	授業内容を記したノート及び配布資料等を確認して、今後の授業内容についての理解を深めた上で、自分の学習計画と他の履修科目との関係を検討し、履修の有無を決定する。（1時間）
2	事前学習	教科書の第１章を読み、商標制度は何を保護すべきなのかについて考えてくる。（2時間）
	授業内容	**商標の社会的・経済的機能、商標登録制度の必要性を、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）
3	事前学習	教科書の第２章を読み、商標制度の保護対象について考えてくる。（2時間）
	授業内容	**商標法上の「商標」、「商品・役務」の考え方についてを、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）

4	事前学習	教科書の第１章第3節2、第5章第2節１、第5章第1節2を読み、商標制度の基本理念にはどのようなものがあるのかについて考えてくる。（2時間）
	授業内容	**商標登録制度の基本理念である「登録主義」「審査主義」「先願主義」等を、その対立する理念と比較しながら、そのメリット・デメリットを、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）
5	事前学習	教科書の第３章第2節、5章2節（P110）、1章5節（P14～15）を読み、誰が商標登録を受けられるのかについて考えてくる。（2時間）
	授業内容	**商標登録を受けるための主体的要件としての「使用の意思の存在」「権利能力」について、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）
6	事前学習	教科書の第３章第３節１，２を読み、商標登録を受けることができるのはどのような商標なのかについて考えてくる。（2時間）
	授業内容	**商標登録要件（自他商品・役務識別力(3条1項)）について、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）
7	事前学習	教科書の第３章第３節３を読み、「自他商品・役務識別力(3条1項)」の例外について考えてくる。（2時間）
	授業内容	**商標登録要件に関する「使用による自他商品・役務識別力(3条2項)）について、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）
8	事前学習	教科書の第３章第４節を読み、公益上、私益上の観点から「登録を受けることができない商標」（4条1項1号～7号）について考えてくる。（2時間）
	授業内容	**〔商標不登録事由（１）〕4条1項1号～7号に掲げられている商標について、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）
9	事前学習	教科書の第３章第４節を読み、公益上、私益上の観点から「登録を受けることができない商標」（4条1項8号～15号）について考えてくる。（2時間）
	授業内容	**〔商標不登録事由（２）〕4条1項8号～15号に掲げられている商標について、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）
10	事前学習	教科書の第３章第４節を読み、公益上、私益上の観点から「登録を受けることができない商標」（4条1項16号～19号）について考えてくる。（2時間）
	授業内容	**〔商標不登録事由（３）〕4条1項16号～19号に掲げられている商標について、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）
11	事前学習	教科書の第５章第１節３を読み、商標登録出願上の原則・要件にはどのようなものがあるかについて考えてくる。（2時間）
	授業内容	**一商標一出願(6条)を始めとする商標登録出願の要件について、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）
12	事前学習	教科書の第４章第２節を読み、商標法上の基本概念である「商標の類似」とは何かについて考えてくる。（2時間）
	授業内容	**「商標の類似」の意義、類否判断基準について、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）
13	事前学習	教科書の第４章第３節を読み、商標法上の基本概念である「商品の類似」「役務の類似」とは何かについて考えてくる。（2時間）
	授業内容	**「商品の類似」「役務の類似」の意義、類否判断基準について、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）
14	事前学習	教科書の第５章、第６章３節を読み、どのような手続によって、商標登録を受けることができるのかについて考えてくる。（2時間）
	授業内容	**商標登録出願から処分確定までの手続（出願、審査、補正、出願公開、拒絶査定不服審判等）について、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）
15	事前学習	教科書及び講義ノートを確認し、これまでの授業で修得した知識を整理・確認する。（4時間）
	授業内容	**授業内で試験（60分）を実施する。試験終了後には、試験問題の「解説」を行う。**
	事後学習	講義ノート（試験問題及び解説）を確認し、知識・思考の再確認・再整理をし、理解を深める。（2時間）

科目名	商標法特殊講義Ⅱ	担当者	小川　宗一	期間	後期	単位数	2

授業概要	ブランド（企業や商品･サービスのイメージの総体）の魅力の大きさが企業間の競争力の重要な要素となってきている中で、そのブランドイメージを伝達するための需要なツールとなる「商標」及び、その商標を保護するための「商標登録制度」の概要、基本的体系・仕組み（とりわけ「商標権の効力及びこれを巡る争訟等」）についての理論と実務を学修する。 なお、本科目は、弁理士試験短答式一部科目免除対象科目である。
授業目的・到達目標	「商標登録制度」の概要、基本的体系・仕組み（とりわけ「商標権の効力及びこれを巡る争訟等」）についての理論と実務を、具体的な事案に適用した裁判例・審決例を参考にしつつ、さらには海外法制との比較もしながら修得し、具体的事案の分析能力や紛争解決能力の取得を目的とする。 企業の経営戦略におけるブランド戦略の重要性や、商標登録制度に関する理論と実務について、学生が深く理解をし、説明や議論ができ、的確な事例の分析や事案解決ができるようになることを目標とする。関連するDP･CP私法学専攻1,4,6
履修条件	「商標法特殊講義Ⅰ」〔商標権の取得（登録要件、手続）〕の履修後であることが望ましい。
授業方法	講義形式。教科書の他に最新の話題・実例も適宜教材とし、学生の積極的な授業への貢献を求めるインタラクティブの方式を取り入れる。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	授業内での質問･意見表明及び授業内試験により、[到達目標]にかかわる知識･能力の修得度を評価。S･A･B･Cは、5:25:40:30を目安とする相対評価。出席率70%未満は不合格。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	有斐閣	商標法（2版）	茶園成樹編
	備考			

参考書	必要に応じ紹介する。
オフィスアワー	本授業終了後　授業講堂 【授業内容以外で受け付ける質問･相談について】弁理士試験対策、特許庁商標審査官について 【学生との連絡用メールアドレス】ogawa.soichi〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、授業の概要や目的を理解し、講義全体を概観する。（1時間）
	授業内容	**授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、教科書の紹介を含めて商標法の学習方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。 商標法特殊講義Ⅰの授業内容の確認（質疑応答を含む）をする。**
	事後学習	授業内容を記したノート及び配布資料等を確認して、今後の授業内容についての理解を深めた上で、自分の学習計画と他の履修科目との関係を検討し、履修の有無を決定する。（1時間）
2	事前学習	教科書の第5章第6節、第7節を読み、商標登録前はどのように保護されているのかについて考えてくる。（2時間）
	授業内容	**「商標登録出願により生じた権利」及び「金銭的請求権」について、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）
3	事前学習	教科書の第8章、及び第12章第1節～第4節を読み、商標権の変動・利用に関して、法上はどのように取り扱われているのかについて考えてくる。（2時間）
	授業内容	**商標権（発生、効力、移転、分割、消滅、存続期間更新等）について、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）

4	事前学習	教科書の第12章第5節を読み、商標権の利用（ライセンス等）に関して、法上はどのように取り扱われているのかについて考えてくる。（2時間）
	授業内容	**ライセンス（専用使用権、通常使用権）、及び法定の使用をする権利について、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）
5	事前学習	教科書の第8章第2節、第9章、及び2章4節を読み、商標権の効力、及び商標権の侵害とは何かについて考えてくる。（2時間）
	授業内容	**「商標権の本来的効力〔使用権（25条）、禁止権（37条1号）〕」及び「商標権の侵害」について、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）
6	事前学習	教科書の第10章第1節～第4節を読み、商標権侵害であるとの主張に対する抗弁にはどのようなものがあるかについて考えてくる。（2時間）
	授業内容	**〔商標権の権利行使に対する抗弁（１）〕先使用による商標の使用をする権利の抗弁、26条の抗弁、無効の抗弁、商標的使用論に基づく抗弁等について、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）
7	事前学習	教科書の第10章第5節～第7節を読み、商標権侵害であるとの主張に対する抗弁にはどのようなものがあるかについて考えてくる。（2時間）
	授業内容	**〔商標権の権利行使に対する抗弁（２）〕商標機能論に基づく抗弁、並行輸入の抗弁、無効の抗弁、権利濫用の抗弁等について、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）
8	事前学習	教科書の第11章を読み、商標権侵害に対する救済（侵害者の責任）にはどのようなものがあるのかについて考えてくる。（2時間）
	授業内容	**商標権の侵害に対する民事上の救済（差止請求権、損害賠償請求権、不当利得請求権、信用回復措置請求権）、刑事罰（商標権侵害罪、両罰規定）について、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）
9	事前学習	教科書の第6章第2節・第5節を読み、商標登録に対して不服を申し立てる制度について考えてくる。（2時間）
	授業内容	**登録異議申立制度（43条の2）及び登録無効審判制度（46条）の意義や仕組みについて、両制度を比較しつつ、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）
10	事前学習	教科書の第6章第5節を読み、不使用の登録商標を取消す制度とはどのようなものかについて考えてくる。（2時間）
	授業内容	**不使用取消審判制度（50条）の意義や仕組みについて、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）
11	事前学習	教科書の第6章第6節を読み、不正な使用や不正な登録についての商標登録を取消す制度にはどのようなものがあるのか について考えてくる。（2時間）
	授業内容	**商標権者による不正使用取消審判（51条）、商標権の移転の結果の不正使用取消審判（52条の2）、使用権者による不正使用取消審判（53条）、代理人等による不当登録取消審判（53条の2）の意義や仕組みについて、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）
12	事前学習	教科書の第13章第3節・第4節を読み、団体商標制度・地域団体商標制度とはどのような制度なのかについて考えてくる。（2時間）
	授業内容	**〔商標法固有の制度（１）〕「団体商標制度」、及び地域ブランドの保護に関する「地域団体商標制度」の意義や仕組みについて、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）
13	事前学習	教科書の第13章第2節を読み、防護標章制度とはどのような制度なのかについて考えてくる。（2時間）
	授業内容	**〔商標法固有の制度（２）〕著名な登録商標の保護に関する「防護標章制度」の意義や仕組みについて、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）
14	事前学習	教科書の第1章第5節、第14章を読み、商標の国際的保護について考えてくる。（2時間）
	授業内容	**パリ条約、WTO-TRIPS協定、マドリッド・プロトコル、商標法条約、ニース協定等の国際条約の内容を学習し、外国出願の必要性、国際条約利用の必要性を理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（2時間）
15	事前学習	教科書及び講義ノートを確認し、これまでの授業で修得した知識を整理・確認する。（4時間）
	授業内容	**授業内で試験（60分）を実施する。試験終了後には、試験問題の「解説」を行う。**
	事後学習	講義ノート（試験問題及び解説）を確認し、知識・思考の再確認・再整理をし、理解を深める。（2時間）

科目名	著作権法特殊講義Ⅰ	担当者	藤田　晶子	期間	前期	単位数	2

授業概要	我が国の著作権法は，知的財産法の中でも特許・実用新案等の他の産業財産権と異なり，出願・審査・登録という権利化のプロセスがなく，著作物が創作の時から保護の対象となる。また，実に種類豊富で多彩な創作活動の成果物が「著作物」として扱われている。著作権法の知識は，企業法務においても，個人の社会生活においても，身近で役立つ法律知識である。法文と判例の検討を通して，著作権法の基礎知識と具体的な問題解決方法の習得を目指す。
授業目的・到達目標	著作権法の条文・判例に親しんで，著作権法独特の法律解釈を学ぶことにより，的確な事例の分析方法，効率的な事案解決能力を身につけることを目標とする。 知的財産法・著作権法は面白い，と実感してほしい。 関連するDP/CP私法学専攻１，３，４，７
履修条件	著作権法は民法・民事訴訟法の特別法としての性格を有する。民事法における先端科目としての性質上，基本の民法・民事訴訟法の基礎知識がベースとなることに留意すること。
授業方法	対面の講義形式であるが，判例研究については受講生に報告を適宜行ってもらう。期間中に小テストを1回行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	平常点（判例報告，ディスカッション等）と期末試験，小テストの内容で総合判定する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019年	有斐閣	著作権判例百選　第６版	小泉，田村 駒田、上野編
	2022年	有斐閣	標準 著作権法 第５版	高林　龍
	備考	このほか、毎回，講義レジュメ資料を配布する。		

参考書	中山信弘「著作権法　第４版」（有斐閣　2023年），清水節・岡本岳「Ｑ＆Ａ著作権の知識100問」（日本加除出版　2013年）
オフィスアワー	火曜日16:30pm～17:30pm 事前にメールで予約を取ること。 e-mail：akiko_fujita@lapinrose.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	事前に本シラバスに挙がっている裁判例の「事案の概要」・「主な争点」・「判旨」に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	著作権法制の概要，著作物性（1）書体，キャラクター，折り紙の折り図等 著作権法制全体の概要，民法の特別法としての位置付け，条文構造等。著作物性については，最判平12.9.7（ゴナU・書体），最判平9.7.17（ポパイネクタイ・キャラクター），大阪高判平16.9.29（グルニエ・ダイン・建築），知高判平23.12.26（折り図）等を検討。
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。（２時間）
2	事前学習	事前に本シラバスに挙がっている裁判例の「事案の概要」・「主な争点」・「判旨」に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	著作物（2）応用美術，編集著作物，データベースの著作物 「応用美術」とは何か，「編集著作物」，「データベースの著作物」とは何か。仙台高判平14.7.9（ファービー人形），知高判平26.8.28（激安ファストファッション），知高判平27.4.14（TRIPP TRAPP），東京地判平12.3.17（NTTタウンページ・データベース）等を検討。
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。（２時間）
3	事前学習	事前に本シラバスに挙がっている裁判例の「事案の概要」・「主な争点」・「判旨」に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	著作物（3）二次的著作物，共同著作物 「二次的著作物」とは何か，「共同著作物」とは何か。共有著作権の譲渡，条文構造，知高判平18.9.26（江戸考古学研究事典・豆腐屋18.11.29），最判平9.7.17（ポパイ・ネクタイ），最判平13.10.25（キャンディ・キャンディ）等の検討。
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。（２時間）

4	事前学習	事前に本シラバスに挙がっている裁判例の「事案の概要」・「主な争点」・「判旨」に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	著作者 「著作者」とは何か。著作権の帰属主体は誰か，映画の著作物の著作者。最判平5.3.30（智恵子抄），知高判平29.10.13（ステラマッカートニー青山），東京地判平10.10.29 （雑誌のインタビュー記事），知高判平18.9.13（グッドバイ・キャロル）等の検討。
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。（２時間）
5	事前学習	事前に本シラバスに挙がっている裁判例の「事案の概要」・「主な争点」・「判旨」に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	職務著作 「職務著作」とは何か，意義・要件。最判平15.4.11（RGBアドベンチャー），知高判平18.10.19（計装士学会），知高判平18.12.26（宇宙開発事業団）等の検討。
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。（２時間）
6	事前学習	事前に本シラバスに挙がっている裁判例の「事案の概要」・「主な争点」・「判旨」に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	著作権・複製権 「複製」とは何か，依拠性と実質的同一性，翻案との違い。東京高判平14.2.18（雪月花），最判昭53.9.7（ワン・レイニー・ナイト･イン・トーキョー）等の検討。
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。（２時間）
7	事前学習	事前に本シラバスに挙がっている裁判例の「事案の概要」・「主な争点」・「判旨」に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	翻案権・二次的著作物の原著作者の権利 「翻案」とは何か，類似性，原著作者の権利が及ぶ範囲。最判平13.6.28（江差追分），東京高判平14.9.6（記念樹），知高判平17.6.14（武蔵）等の検討。
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。（２時間）
8	事前学習	事前に本シラバスに挙がっている裁判例の「事案の概要」・「主な争点」・「判旨」に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	公衆送信権・上演権・頒布権・出版権等の支分権としての財産権 複製権，翻案権以外の「支分権の束」にはどのようなものがあるか。東京地判平10.11.20（ベジャール），東京高判平17.3.3（2ちゃんねる），知高判平30.4.25（ツイッター），最判平14.4.25（中古ソフト）等の検討。
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。（２時間）
9	事前学習	事前に本シラバスに挙がっている裁判例の「事案の概要」・「主な争点」・「判旨」に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	著作権の制限 私的複製，引用，時事事件の報道，試験問題，美術展示等に関する著作権の制限。最判昭55.3.28（パロディ・モンタージュ），東京高判昭60.10.17（藤田嗣治），知高判平18.12.6（国語ドリル），東京地判平13.7.25（バス車体），東京地判平9.9.5（ダリ）等の検討
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。（２時間）
10	事前学習	事前に本シラバスに挙がっている裁判例の「事案の概要」・「主な争点」・「判旨」に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	権利譲渡・利用許諾 著作権のライセンス契約の解釈，譲渡契約の解釈，登録と対抗要件，共有著作権と正当理由等。出版権設定行為，電子書籍関連の改正法。知高判平18.8.31（システムＫ2），知高判平20.3.27（Von Dutch），大阪高判平23.3.31（ひこにゃん）等の検討。
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。（２時間）
11	事前学習	事前に本シラバスに挙がっている裁判例の「事案の概要」・「主な争点」・「判旨」に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	著作者人格権 著作者人格権（公表権・氏名表示権・同一性保持権）の内容・条文。東京地判平12.2.29（中田英寿），大阪高判平25.9.6（新梅田シティ），最判平13.2.13（ときめきメモリアル）等の検討。
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。（２時間）
12	事前学習	事前に本シラバスに挙がっている裁判例の「事案の概要」・「主な争点」・「判旨」に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	著作隣接権，保護期間 「著作隣接権」とは何か。著作権と著作隣接権の関係。各種知的財産権の保護期間，著作権の保護期間，保護期間に関する判例，立法論，戦時加算等。最判平19.12.18（シェーン），知高判平20.2.28（チャップリン），東京地判平18.3.22（リヒャルト・シュトラウス）等の検討。
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。（２時間）
13	事前学習	事前に本シラバスに挙がっている裁判例の「事案の概要」・「主な争点」・「判旨」に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	侵害と救済（1）差止請求，間接侵害 著作権侵害に基づく差止請求の実務，著作権の「間接侵害」といわれる事例，判例法理の検討など。東京高判平成17.3. 31（P2Pファイル交換），最判平23.1.18（まねきＴＶ），最判平23.1.20（ロクラクⅡ），知高判平26.10.22（自炊代行）等の検討。
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。（２時間）

14	事前学習	事前に本シラバスに挙がっている裁判例の「事案の概要」・「主な争点」・「判旨」に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**侵害と救済（2）損害賠償，みなし侵害等 著作権侵害に基づく損害賠償請求の実務，損害額の算定方法，「みなし侵害」等の理解。最判平13.3.2（ビデオメイツ），東京地判平13.5.16（東京リーガルマインド），知高判平24.9. 10（高麗書林）等の検討。**
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。（２時間）
15	事前学習	事前に本シラバスに挙がっている裁判例の「事案の概要」・「主な争点」・「判旨」に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**刑事罰，国際関係 著作権法の罰則規定の理解，国際裁判管轄，ベルヌ条約等の国際関係論点の理解。最判平23.12.19（Winny），最判平13.6.8（ウルトラマン・円谷プロ）等の検討。**
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。（２時間）

科目名	著作権法特殊講義Ⅱ	担当者	藤田　晶子	期間	後期	単位数	2

授業概要	我が国の著作権法は，知的財産法の中でも特許・実用新案等の他の産業財産権と異なり，出願・審査・登録という権利化のプロセスがなく，著作物が創作の時から保護の対象となる。また，実に種類豊富で多彩な創作活動の成果物が「著作物」として扱われている。著作権法の知識は，企業法務においても，個人の社会生活においても，身近で役立つ法律知識である。法文と判例の検討を通して，著作権法の基礎知識と具体的な問題解決方法の習得を目指す。
授業目的・到達目標	著作権法の条文・判例に親しんで，著作権法独特の法律解釈を学ぶことにより，的確な事例の分析方法，効率的な事案解決能力を身につけることを目標とする。 知的財産法・著作権法は面白い，と実感してほしい。 関連するDP/CP私法学専攻１，３，４，７
履修条件	著作権法は民法，民事訴訟法の特別法としての性格を有する。民事法における先端科目としての性質上，基本の民法・民事訴訟法の基礎知識がベースとなることに留意すること。
授業方法	前期の基礎知識を確認し，より実践的な問題分析力を養うため，毎回演習問題の検討を行う。小テストを1回行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	平常点（演習問題分析，ディスカッション等）と期末試験，小テストの内容で総合判定する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019年	有斐閣	著作権判例百選　第６版	小泉，田村 駒田、上野編
	2022年	有斐閣	標準 著作権法 第５版	高林　龍
	備考	このほか、毎回，講義レジュメ資料を配布する。		

参 考 書	中山信弘「著作権法　第４版」（有斐閣　2023年），清水節・岡本岳「Ｑ＆Ａ著作権の知識100問」（日本加除出版　2013年）
オフィスアワー	火曜日16:30pm～17:30pm 事前にメールで予約を取ること。，e-mail akiko_fujita@lapinrose.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	前期のレジュメ，検討した判例に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**著作権法制の概要，著作物（1）書体，キャラクター等** **前期に習得した基礎知識を基に，「演習問題」をその場で検討し，討論を行う。前期の判例知識等の基礎事項も再確認する。**
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。演習問題の解答をまとめ，それを題材にさらに発展的な学習を行うこと。（２時間）
2	事前学習	事前に配布する演習問題を検討し，前期のレジュメ，検討した判例に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**著作物（2）応用美術，編集著作物，データベースの著作物** **前期に習得した基礎知識を基に，「演習問題」を検討し，討論を行う。前期の判例知識等の基礎事項も再確認する。**
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。演習問題の解答をまとめ，それを題材にさらに発展的な学習を行うこと。（２時間）
3	事前学習	事前に配布する演習問題を検討し，前期のレジュメ，検討した判例に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**著作物（3）二次的著作物，共同著作物** **前期に習得した基礎知識を基に，「演習問題」をその場で検討し，討論を行う。前期の判例知識等の基礎事項も再確認する。**
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。演習問題の解答をまとめ，それを題材にさらに発展的な学習を行うこと。（２時間）

4	事前学習	事前に配布する演習問題を検討し，前期のレジュメ，検討した判例に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**著作者** **事前に配布する演習問題を検討し，前期に習得した基礎知識を基に，「演習問題」を検討し，討論を行う。前期の判例知識等の基礎事項も再確認する。**
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。演習問題の解答をまとめ，それを題材にさらに発展的な学習を行うこと。（２時間）
5	事前学習	事前に配布する演習問題を検討し，前期のレジュメ，検討した判例に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**職務著作** **前期に習得した基礎知識を基に，「演習問題」を検討し，討論を行う。前期の判例知識等の基礎事項も再確認する。**
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。演習問題の解答をまとめ，それを題材にさらに発展的な学習を行うこと。（２時間）
6	事前学習	事前に配布する演習問題を検討し，前期のレジュメ，検討した判例に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**著作権・複製権** **前期に習得した基礎知識を基に，「演習問題」を検討し，討論を行う。前期の判例知識等の基礎事項も再確認する。**
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。演習問題の解答をまとめ，それを題材にさらに発展的な学習を行うこと。（２時間）
7	事前学習	事前に配布する演習問題を検討し，前期のレジュメ，検討した判例に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**翻案権・二次的著作物の原著作者の権利** **前期に習得した基礎知識を基に，「演習問題」を検討し，討論を行う。前期の判例知識等の基礎事項も再確認する。**
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。演習問題の解答をまとめ，それを題材にさらに発展的な学習を行うこと。（２時間）
8	事前学習	事前に配布する演習問題を検討し，前期のレジュメ，検討した判例に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**公衆送信権・上演権・頒布権・出版権等の支分権としての財産権** **前期に習得した基礎知識を基に，「演習問題」を検討し，討論を行う。前期の判例知識等の基礎事項も再確認する。**
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。演習問題の解答をまとめ，それを題材にさらに発展的な学習を行うこと。（２時間）
9	事前学習	事前に配布する演習問題を検討し，前期のレジュメ，検討した判例に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**著作権の制限** **前期に習得した基礎知識を基に，「演習問題」を検討し，討論を行う。前期の判例知識等の基礎事項も再確認する。**
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。演習問題の解答をまとめ，それを題材にさらに発展的な学習を行うこと。（２時間）
10	事前学習	事前に配布する演習問題を検討し，前期のレジュメ，検討した判例に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**権利譲渡・利用許諾** **前期に習得した基礎知識を基に，「演習問題」を検討し，討論を行う。前期の判例知識等の基礎事項も再確認する。**
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。演習問題の解答をまとめ，それを題材にさらに発展的な学習を行うこと。（２時間）
11	事前学習	事前に配布する演習問題を検討し，前期のレジュメ，検討した判例に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**著作者人格権** **前期に習得した基礎知識を基に，「演習問題」を検討し，討論を行う。前期の判例知識等の基礎事項も再確認する。**
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。演習問題の解答をまとめ，それを題材にさらに発展的な学習を行うこと。（２時間）
12	事前学習	前期のレジュメ，検討した判例に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**著作隣接権，保護期間** **前期に習得した基礎知識を基に，「演習問題」を検討し，討論を行う。前期の判例知識等の基礎事項も再確認する。**
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。演習問題の解答をまとめ，それを題材にさらに発展的な学習を行うこと。（２時間）
13	事前学習	事前に配布する演習問題を検討し，前期のレジュメ，検討した判例に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**侵害と救済（1）差止請求，間接侵害** **前期に習得した基礎知識を基に，「演習問題」をその場で検討し，討論を行う。前期の判例知識等の基礎事項も再確認する。**
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。演習問題の解答をまとめ，それを題材にさらに発展的な学習を行うこと。（２時間）
14	事前学習	事前に配布する演習問題を検討し，前期のレジュメ，検討した判例に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**侵害と救済（2）損害賠償，みなし侵害等** **前期に習得した基礎知識を基に，「演習問題」を検討し，討論を行う。前期の判例知識等の基礎事項も再確認する。**
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。演習問題の解答をまとめ，それを題材にさらに発展的な学習を行うこと。（２時間）
15	事前学習	事前に配布する演習問題を検討し，前期のレジュメ，検討した判例に目を通しておくこと。（２時間）
	授業内容	**刑事罰・国際関係** **前期に習得した基礎知識を基に，「演習問題」をその場で検討し，討論を行う。前期の判例知識等の基礎事項も再確認する。**
	事後学習	配布レジュメ、教科書等に基づき、講義内容を復習する。演習問題の解答をまとめ，それを題材にさらに発展的な学習を行うこと。（２時間）

科目名	不正競争防止法特殊講義Ⅰ	担当者	小川　宗一	期間	前期	単位数	2

授業概要	実務的な色彩の強い「不正競争防止法」の学習・研究においては、法律の条文のみならず、それを裁判所が具体的な事案において解釈適用した結果である判例の的確な理解が不可欠であることに鑑み、本授業では、不正競争防止法（主として商品等主体混同行為）の判例研究を通じて、不正競争防止法の概要・基本的体系・仕組みについての理論と実務を学修する。
授業目的・到達目標	判例研究を通じて、判例の内容を的確に理解することにより、不正競争防止法の理論と実務を修得し、具体的事案の分析能力や紛争解決能力の取得を目的とする。 不正競争防止法に関する理論と実務について、学生が深く理解をし、説明や議論ができ、的確な事例の分析や事案解決ができるようになることを目標とする。 関連するDP･CP私法学専攻1,3,4,6,7
履修条件	「不正競争防止法特殊講義Ⅱ」も履修することが望ましい。
授業方法	ｾﾞﾐ形式。各学生に判例を割り当て、研究内容をﾊﾟﾜｰﾎﾟｲﾝﾄで報告してもらい、全員で討議。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	報告内容・討議姿勢及びレポートにより、［到達目標］に関する知識･能力の修得度を評価。出席率70％未満は不合格。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2020年	有斐閣	（別冊ジュリスト）「商標・意匠・不正競争判例百選（2版）」	茶園成樹・他編
	2019年	有斐閣	不正競争防止法（2版）	茶園成樹編
	備考			

参考書	必要に応じ紹介する。
オフィスアワー	本授業終了後　授業講堂 【授業内容以外で受け付ける質問･相談について】弁理士試験対策、特許庁商標審査官について 【学生との連絡用メールアドレス】ogawa.soichi〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、授業の内容や目的を理解し、講義全体を概観する。（30分）
	授業内容	**授業の内容・スケジュール、成績評価の方法、教科書等について説明するとともに、判例研究の意義・重要性、判例検索の方法等について説明をし、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。授業で扱う具体的な判例を示し、履修の有無を確認した上で、次回以降の授業で扱うテーマごとの判例を学生達に割り当てる。**
	事後学習	授業内容を記したノート及び配布資料に基づき、今後の授業内容についての理解を深めた上で履修を確認し、割り当てられた判例の確認、判決文の入手等を行い、次回以降の授業の準備に備える。（70分）
2	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商品等主体混同行為（周知性と特定性）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
3	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商品等表示の特定」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）

4	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「周知性の判断基準時」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
5	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「類似性の判断基準」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
6	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「類似性要件の保護範囲限定機能」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
7	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「混同のおそれ」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
8	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「適用除外（普通名称）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
9	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「適用除外（普通名称とアンケート調査）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
10	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「適用除外（法人の名称と自己氏名使用）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
11	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「適用除外（先使用）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
12	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商品形態の商品等表示該当性」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
13	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「店舗外観・内装の保護」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
14	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「差止請求をなし得る地位の譲渡の可否」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）

15	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「営業該当性」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）

科目名	不正競争防止法特殊講義Ⅱ	担当者	小川　宗一	期間	後期	単位数	2

授業概要	実務的な色彩の強い「不正競争防止法」の学習・研究においては、法律の条文のみならず、それを裁判所が具体的な事案において解釈適用した結果である判例の的確な理解が不可欠であることに鑑み、本授業では、不正競争防止法（主として著名表示不正利用行為、商品形態の模倣、営業秘密不正利用行為等）の判例研究を通じて、不正競争防止法の概要・基本的体系・仕組みについての理論と実務を学修する。
授業目的・到達目標	判例研究を通じて、判例の内容を的確に理解することにより、不正競争防止法の理論と実務を修得し、具体的事案の分析能力や紛争解決能力の取得を目的とする。 不正競争防止法に関する理論と実務について、学生が深く理解をし、説明や議論ができ、的確な事例の分析や事案解決ができるようになることを目標とする。 関連するDP･CP私法学専攻1,3,4,6,7
履修条件	「不正競争防止法特殊講義Ⅰ」の履修後であることが望ましい。
授業方法	ｾﾞﾐ形式。各学生に判例を割り当て、研究内容をﾊﾟﾜｰﾎﾟｲﾝﾄで報告してもらい、全員で討議。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	報告内容・討議姿勢及びレポートにより、［到達目標］に関する知識･能力の修得度を評価。出席率70％未満は不合格。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2020年	有斐閣	（別冊ジュリスト）「商標・意匠・不正競争判例百選（2版）」	茶園成樹･他編
	2019年	有斐閣	不正競争防止法（2版）	茶園成樹編
	備考			

参考書	必要に応じ紹介する。
オフィスアワー	本授業終了後　授業講堂 【授業内容以外で受け付ける質問･相談について】弁理士試験対策、特許庁商標審査官について 【学生との連絡用メールアドレス】ogawa.soichi〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、授業の内容や目的を理解し、講義全体を概観する。（30分）
	授業内容	**授業の内容・スケジュール、成績評価の方法、教科書等について説明するとともに、判例研究の意義・重要性、判例検索の方法等について説明をし、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。授業で扱う具体的な判例を示し、履修の有無を確認した上で、次回以降の授業で扱うテーマごとの判例を学生達に割り当てる。**
	事後学習	授業内容を記したノート及び配布資料に基づき、今後の授業内容についての理解を深めた上で履修を確認し、割り当てられた判例の確認、判決文の入手等を行い、次回以降の授業の準備に備える。（70分）
2	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「著名表示不正利用行為（著名性と周知性との区別）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
3	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「著名表示不正利用行為（類似性）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）

4	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商品形態の模倣（独創性の要否）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
5	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商品形態の模倣（部分の模倣の成否）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
6	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商品形態の模倣（善意無重過失取得）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
7	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商品形態の模倣（保護の始期と保護期間の起算点）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
8	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商品形態の模倣（モデルチェンジと保護期間の起算点）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
9	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商品形態の模倣（請求権者・独占的販売権者）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
10	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商品形態の模倣（請求権者・共同開発の場合の処理）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
11	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「営業秘密不正利用行為」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
12	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「品質等誤認行為（営業に関する誤認表示）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
13	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「品質等誤認行為（比較広告　実験の信頼性）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
14	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「信用毀損行為（虚偽の事実　受け手の苦慮）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）

15	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「信用毀損行為（知的財産権の侵害警告）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）

科目名	知的財産条約特殊講義Ⅰ	担当者	加藤　暁子	期間	前期	単位数	2

授業概要	19世紀以来、知的財産権の国際的な保護の重要性が高まるにつれて、条約を締結して各国の国内法の実体、手続の両面においてハーモナイゼーションが進み、企業等の主体も条約が各国法制度に与える影響を考慮に入れ、さらにその形成に関与する活動をも求められている。本講義は産業財産権に関する諸条約を中心に、パリ条約以来の世界的条約について、その概要と問題点、解決策を検討することを目的とする。
授業目的・到達目標	産業財産権に関する基本条約であるパリ条約、TRIPS協定、PCTの概要を把握した上で、それら条約と関わる各主体にあって条約体制への寄与やロビー活動等、積極的な関与を自ら考える姿勢を習得して、それら条約が抱える今日的な課題を説明できるようになることを目標とする。 関連するDP・CP　1，2，3，6
履修条件	特にないが、知的財産条約特殊講義Ⅱも履修すると尚良い。
授業方法	講義を基本として、参加者の興味関心に応じて、講義の内容や重点を変更したり、履修者に発表を求めることがある。資料やレジュメ類を用いて、事例・判例や時事問題、法令・条約の改正を随時紹介し、理解の助けとする。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	合格／不合格の判定は絶対評価により、90点以上(S)、80点以上(A)、70点以上(B)、60点以上(C)は各々5:25:40:30を目安とする相対評価で行う。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年（改訂予定）	東信堂	『講義国際経済法』「第9章　知的財産権」	柳赫秀(該当章の執筆：加藤暁子)
	備考	４月発刊予定の改訂版が出版された場合、教科書指定章のコピーを履修者に配布します。		

参考書	土肥一史『知的財産法入門第１６版』７章、松下・米谷『国際経済法』第18章「知的財産権及び技術貿易」、発明協会『図解』シリーズを中心に、後藤晴男『パリ条約講話第１３版』、尾島明『逐条解説TRIPS協定』等指示する。
オフィスアワー	水曜11-12時、研究室にて(本館1718)。事前にメール(kato.akiko@nihon-u.ac.jp)でアポイントを採ることを勧める。 メールでも質問等を受け付ける。

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	知的財産権に関する条約を列挙しておく。（２時間）
	授業内容	**知的財産権に関する条約体制の概要と変遷**
	事後学習	講義の配布資料の内容を復習する。教科書に指定した文献に目を通す。（２時間）
2	事前学習	講義前に配布する参考文献に目を通しておく。（２時間）
	授業内容	**条約と国内法の関係、条約の解釈、条約違反に対する救済**
	事後学習	講義の配布資料の内容を復習する。 講義時に配布する参考文献（国際法関係辞典からの抜粋等）に目を通す。（２時間）
3	事前学習	土肥７章１節、後藤『パリ条約講話１３版』「パリ条約の主要な内容」の関連部分に目を通しておく。（２時間）
	授業内容	**パリ条約（１）特徴、三大原則（内国民待遇、各国産業財産権の独立）**
	事後学習	講義の配布資料の内容を復習する。（２時間）

4	事前学習	後藤『パリ条約講話１３版』「パリ条約の主要な内容」の関連部分に目を通しておく。（２時間）
	授業内容	**パリ条約（２）三大原則(優先権制度)、個別の産業財産権の保護**
	事後学習	講義の配布資料の内容を復習する。（２時間）
5	事前学習	後藤『パリ条約講話１３版』「パリ条約の主要な内容」の関連部分に目を通しておく。（２時間）
	授業内容	**パリ条約（３）個別の産業財産権の保護(続き)**
	事後学習	講義の配布資料の内容を復習する。（２時間）
6	事前学習	パリ条約及びベルヌ条約の「特別の取極」に当たる条約を挙げておく。（２時間）
	授業内容	**パリ条約：執行、後の知的財産関連条約への影響（２時間）**
	事後学習	講義の配布資料の内容を復習する。（２時間）
7	事前学習	土肥７章７、８節に目を通しておく。（２時間）
	授業内容	**TRIPS協定（１）背景及び沿革、GATT-WTOにおける位置づけ**
	事後学習	講義の配布資料の内容を復習する。（２時間）
8	事前学習	後藤「TRIPS協定とパリ条約」の部分に目を通しておく。（２時間）
	授業内容	**TRIPS協定（２）特徴、原則**
	事後学習	講義の配布資料の内容を復習する。 尾島逐条解説の関連部分に目を通しておく。（２時間）
9	事前学習	後藤「TRIPS協定とパリ条約」の部分に目を通しておく。（２時間）
	授業内容	**TRIPS協定（３）個別の知的財産権の保護**
	事後学習	講義の配布資料の内容を復習する。 尾島逐条解説の関連部分に目を通しておく。（２時間）
10	事前学習	後藤「TRIPS協定とパリ条約」の部分に目を通しておく。（２時間）
	授業内容	**TRIPS協定（４）個別の知的財産権の保護(続き)**
	事後学習	講義の配布資料の内容を復習する。 尾島逐条解説の関連部分に目を通しておく。（２時間）
11	事前学習	事前に配布する参考文献に目を通しておく。（２時間）
	授業内容	**TRIPS協定（５）履行確保措置**
	事後学習	講義の配布資料の内容を復習する。（２時間）
12	事前学習	土肥７章２節、荒木『図解特許協力条約』に目を通しておく。（２時間）
	授業内容	**特許協力条約（１）沿革、特徴、国際出願手続の概要**
	事後学習	講義の配布資料の内容を復習する。（２時間）
13	事前学習	土肥７章２節、荒木『図解特許協力条約』に目を通しておく。（２時間）
	授業内容	**特許協力条約（２）国際段階**
	事後学習	講義の配布資料の内容を復習する。（２時間）
14	事前学習	土肥７章２節、荒木『図解特許協力条約』に目を通しておく。（２時間）
	授業内容	**特許協力条約（３）国際段階(続き)、国内段階**
	事後学習	講義の配布資料の内容を復習する。（２時間）
15	事前学習	これまでの参考文献、配布資料を見返しておく。（２時間）
	授業内容	**まとめ**
	事後学習	講義の配布資料の内容を復習する。（２時間）

科目名	知的財産条約特殊講義Ⅱ	担当者	加藤　暁子	期間	後期	単位数	2

授業概要	19世紀以来、知的財産権の国際的な保護の重要性が高まるにつれて、条約を締結して各国の国内法の実体、手続の両面においてハーモナイゼーションが進み、企業等の主体も条約が各国法制度に与える影響を考慮に入れ、さらにその形成に関与する活動をも求められている。本講義は産業財産権に関する諸条約を中心に、パリ条約以来の世界的条約、さらに欧州特許制度以来の地域条約について、その概要と問題点、解決策を検討することを目的とする。
授業目的・到達目標	知的財産権に関して締結されてきた多様な条約のうちでも産業財産権に関わる条約の概要を把握し、各主体にあって条約体制への寄与やロビー活動等、積極的な関与を自ら考える姿勢を習得して、それら条約が抱える今日的な課題を説明できるようになることを目標とする。 関連するDP・CP　1，2，3，4，6
履修条件	知的財産条約特講Ⅰを履修していることが望ましい。
授業方法	講義を基本として、参加者の興味関心に応じて、講義の内容や重点を変更したり、履修者に発表を求めることがある。資料やレジュメ類を適宜用いて、事例・判例や時事問題、法令・条約の改正を随時紹介し、理解の助けとする。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	合格／不合格の判定は絶対評価により、90点以上(S)、80点以上(A)、70点以上(B)、60点以上(C)は、それぞれ5:25:40:30を目安とする相対評価で行う。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年（改訂予定）	東信堂	『講義国際経済法』「第9章　知的財産権」	柳赫秀(該当章の執筆：加藤暁子)
	備考	教科書について、発刊準備中の改訂版が出版された場合、該当章のコピーを履修者に配布します。		

参考書	土肥一史『知的財産法入門第16版』7章、松下・米谷『国際経済法』第18書知的財産権及び技術貿易、加藤暁子「国際知的財産法の形成－私法統一と公法化のはざまで－」『民商法雑誌』153巻6号869-899頁他、講義において指示する。
オフィスアワー	水曜11-12時、研究室にて(本館1718)。事前にメール(kato.akiko@nihon-u.ac.jp)でアポイントを採ることを勧める。 メールでも質問等を受け付ける。

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	知的財産権に関する条約を列挙し、分類してみる。（２時間）
	授業内容	**知的財産権に関する条約体制の概要**
	事後学習	配布資料、上記の参考文献に目を通す。（２時間）
2	事前学習	日本国憲法における条約と国内法の定めについて確認する。（２時間）
	授業内容	**条約と国内法の関係**
	事後学習	配布資料、及び、その中で指示する参考文献（『国際法関係辞典』等)、サイトに目を通す。（２時間）
3	事前学習	土肥7章1節、7～8節に目を通しておく。（２時間）
	授業内容	**特許権に関わる世界的な条約（１）パリ条約、TRIPS協定(実体規定)**
	事後学習	配布資料、及び、その中で指示する参考文献、サイトに目を通す。（２時間） WIPO HPを閲覧する。

4	事前学習	事前配布資料(経済産業省『不公正貿易報告書』のWTO・TRIPS関連章を予定)に目を通しておく。（２時間）
	授業内容	**特許権に関わる世界的な条約（２）TRIPS協定(履行確保措置、紛争解決)**
	事後学習	配布資料、及び、その中で指示する参考文献、サイトに目を通す。 WTO　HPを閲覧する。（２時間）
5	事前学習	製品評価技術基盤機構（NITE）、及び、農林水産省HP「品種登録」サイトを閲覧しておく。（２時間）
	授業内容	**特許権に関わる世界的な条約（３）ブダペスト条約、ＵＰＯＶ**
	事後学習	配布資料、及び、その中で指示する参考文献、サイトに目を通す。（２時間）
6	事前学習	土肥7章9節、環境省HP「生物多様性」サイトを閲覧しておく。（２時間）
	授業内容	**特許権に関わる世界的な条約（４）生物多様性条約とその附属議定書**
	事後学習	配布資料、及び、その中で指示する参考文献、サイトに目を通す。（２時間）
7	事前学習	特許庁HP「国際出願」サイトのPCT、マドリッド、ハーグ関連情報を閲覧しておく。（２時間）
	授業内容	**手続きの制度調和を目的とした条約及び行政協力（１）ＰＣＴ－ハーグ協定、マドリッド協定附属書との比較を含めて**
	事後学習	配布資料、及び、その中で指示する参考文献、サイトに目を通す。 特許庁『特許行政年次報告書』の上記条約関連箇所を確認しておく。（２時間）
8	事前学習	特許庁HP「パテント・プロセキューション・ハイウェイ(PPH)」「早期出願」サイトを閲覧しておく。（２時間）
	授業内容	**手続きの制度調和を目的とした条約及び行政協力（２）ＰＬＴ、商標法条約等**
	事後学習	配布資料、及び、その中で指示する参考文献、サイトに目を通す。（２時間）
9	事前学習	これまでの資料を見返しておく。（２時間）
	授業内容	**世界的条約　小活**
	事後学習	配布資料、及び、その中で指示する参考文献、サイトに目を通す。（２時間）
10	事前学習	特許庁、経済産業省、外務省HPの地域的条約関連サイトを閲覧する。（２時間）
	授業内容	**地域的条約（１）概論**
	事後学習	配布資料、及び、その中で指示する参考文献、サイトに目を通す。（２時間）
11	事前学習	JETROデュッセルドルフの知財関連サイト、欧州特許庁（EPO）HPを閲覧する。（２時間）
	授業内容	**地域的条約（２）欧州特許条約体制**
	事後学習	配布資料、及び、その中で指示する参考文献、サイトに目を通す。（２時間）
12	事前学習	政府TPP等対策本部のサイトを閲覧する。（２時間）
	授業内容	**地域的条約（３）近時のＦＴＡ，ＥＰＡにおける知的財産の扱い**
	事後学習	配布資料、及び、その中で指示する参考文献、サイトに目を通す。（２時間）
13	事前学習	税関、警察庁のHP、可能であればさらにWCO、InterpolのHPを閲覧する。（２時間）
	授業内容	**知的財産権にかかわる国際協力（１）税関、司法協力と模倣品対策**
	事後学習	配布資料、及び、その中で指示する参考文献、サイトに目を通す。（２時間）
14	事前学習	事前に指示する参考文献に目を通す。（２時間）
	授業内容	**知的財産権にかかわる国際協力（２）世界的課題の解決に向けて**
	事後学習	配布資料、及び、その中で指示する参考文献、サイトに目を通す。（２時間）
15	事前学習	これまでの資料を見返しておく。（２時間）
	授業内容	**まとめ**
	事後学習	配布資料、及び、その中で指示する参考文献、サイトに目を通す。（２時間）

科目名	経済行政法特殊講義 I	担当者	友岡　史仁	期間	前期	単位数	2

授業概要	世の中多くの場所で国や公共団体が行っている規制が、私たちの日常生活（経済活動）にどのような影響を与えているかを法的に見るのが、本授業の主目的である。しかし、このような問題は通常政策論で語られることが多いが、本授業では法律論を展開することで、かかるテーマに関連する議論を精緻に構築していくことを目指すものである。
授業目的・到達目標	私たちの日常の経済活動には、さまざまな行政上の規制が存在する。これを国は「公的規制」と称し、一定の意義を見出してきたが、その一方、規制の非効率化や技術革新などを理由に、規制緩和政策が推進され、多くが自由な経済活動を認めることとの調和が求められている（典型例として、情報通信改革・電力改革等）。本講義では、このような現代社会の公的規制の動きに関わる多様な現実について、リーガルマインドの観点から諸課題を解明する。「公的規制」に関する諸法を知り、そこから公法・私法を横断する現代的課題を発見する力を身に付ける。関連するDP/CP私法学専攻1,2,3,6,7。
履修条件	本特殊講義に関連した公法系（憲法・行政法）および私法系（民法・商法）の関連科目を既習していることが期待される。
授業方法	毎時間報告担当者が選択したテーマ・最新判例等を素材に履修者全員での討論。適宜関連外国語文献の輪読も考える。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	
	平 常 評 価	100%	基本的には、報告内容および議論への積極的参加度合を考慮対象とする。場合によってはレポートを課す。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015年	弘文堂	要説経済行政法	友岡史仁
	2022年	信山社	経済行政法の実践的研究	友岡史仁
	備考			

参 考 書	講義内において確認する。
オフィスアワー	講義終了後（火曜2時限）、講堂にて都度質問を受け付ける。なお、必要に応じて、学生との連絡専用に開設したGoogleメールアドレス（tomookaseminarnul@gmail.com）も併用することとする。メール利用時は件名に該当用件とならび本学大学院生とこちらが識別できる氏名・学籍番号等の情報を記述するよう願いたい（多数のメールを効率的に処理するため）。

【授業計画】

回数	授　業　内　容	
1	事前学習	教科書の第1部を通読し、関連する諸事例を自ら発見するとともにそこで問題となる法的現象について今後授業で取り扱う際の要点を各自抽出し、適切な報告テーマの抽出を試みる。（150分）
	授業内容	**ガイダンス――経済行政法の全体像をつかむとともに、履修者の経済行政法に関わる内容の知識を確認したうえで、今後の方針を確定する。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、今後の授業内で扱う内容や事例の概要を把握する。（90分）
2	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（150分）
	授業内容	**総説①――既読の教科書該当箇所について知識を確認しながら、経済行政に関する具体的な法現象を学ぶ。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（90分）
3	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（150分）
	授業内容	**総説②――国家による経済活動が民営化・民間化されることに伴う法的問題について、これら二つの概念に関する具体的事例を取り上げ法的問題を論ずる**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（90分）

4	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（150分）
	授業内容	**総説③――経済行政法に関連する他の法分野を把握したうえで、それらがどのように相互に関連しているかについて構造的に検討する。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（90分）
5	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（150分）
	授業内容	**総説④――関連する現象がどのように諸外国で生じているかを具体例を取り上げつつ検討する。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（90分）
6	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（150分）
	授業内容	**経済行政法総論――経済行政過程論①　古典的な公法と私法の関係性を前提として、現代社会にどのようにそれらが具体的に存在しているのかについて、具体例を交えながら検討する。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（90分）
7	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（150分）
	授業内容	**経済行政法総論――経済行政過程論②　政府が策定する諸種の「経済行政計画」を取り上げ、その法的効果について検討すると同時に、公的規制を受ける経済活動に対する国民参加という視角からそれらの諸現象を法的に理解する。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（90分）
8	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（150分）
	授業内容	**経済行政法総論――経済行政過程論③　教科書に取り上げられる具体的事例を参考にしながら、公的規制に関わる多様な行為形式一般について判例・裁判例を多用して法的に説明できるようにする。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（90分）
9	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（150分）
	授業内容	**経済行政法総論――経済行政過程論④　８の授業内容を前提に、教科書に取り上げられる具体的事例を参考にしながら、特に公的規制に関わる多様な行為形式のうち、参入規制を前提に判例・裁判例を多用して法的に説明できるようにする。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（90分）
10	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（150分）
	授業内容	**経済行政法総論――経済行政過程論⑤　８・９の授業内容を前提にしながら、教科書に取り上げられる具体的事例を参考にしながら、公的規制に関わる多様な行為形式のうち、料金規制を前提に判例・裁判例を多用して法的に説明できるようにする。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（90分）
11	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（150分）
	授業内容	**経済行政法総論――経済行政過程論⑥　８～10の授業内容を前提にしながら、教科書に取り上げられる具体的事例を参考にしながら、公的規制に関わる多様な行為形式について、特に規制緩和政策を念頭に判例・裁判例を多用して法的に説明できるようにする。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（90分）
12	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（150分）
	授業内容	**経済行政法総論――経済行政過程論⑦　経済行政分野におけるエンフォースメントの実体を知ることとし、ここでは特に事業法等行政上の諸規制の根拠法の実態を検討する。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（90分）
13	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（150分）
	授業内容	**経済行政法総論――経済行政過程論⑧　12の授業内容を前提にしながら、経済行政分野におけるエンフォースメントの実体を知ることとし、ここでは特に事業法と独禁法の関係性について判例・裁判例のほか審決例を多用して法的に説明できるようにする。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（90分）
14	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（150分）
	授業内容	**経済行政法総論――その他の側面について　13までの授業内容を踏まえたうえで、把握しきれていない現代型の行政上の諸規制その他の法改正に伴う制度構造の変革の実態について、検討する。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（90分）
15	事前学習	第14回までに各自報告担当した内容について、改めて復習する。（120分）
	授業内容	**前期総括――１～１４までの授業内容を総括し、各自検討したことの内容の確認のほかそれらに関する展望について討論を行う。**
	事後学習	総括を通じて得られた内容につき、履修者の理解度に応じてレポートの作成を求めることがある。（120分）

科目名	経済行政法特殊講義Ⅱ	担当者	友岡　史仁	期間	後期	単位数	2

授業概要	世の中多くの場所で国や公共団体が行っている規制が、私たちの日常生活（経済活動）にどのような影響を与えているかを法的に見るのが、本授業の主目的である。しかし、このような問題は通常政策論で語られることが多いが、本授業では法律論を展開することで、かかるテーマに関連する議論を精緻に構築していくことを目指すものである。
授業目的・到達目標	私たちの日常の経済活動には、さまざまな行政上の規制が存在する。これを国は「公的規制」と称し、一定の意義を見出してきたが、その一方、規制の非効率化や技術革新などを理由に、規制緩和政策が推進され、多くが自由な経済活動を認めることとの調和が求められている（典型例として、情報通信改革・電力改革等）。本講義では、このような現代社会の公的規制の動きに関わる多様な現実について、リーガルマインドの観点から諸課題を解明する。「公的規制」に関する諸法を知り、そこから公法・私法を横断する現代的な法的課題を発見する力を身に付ける。関連するDP/CP私法学専攻 1,2,3,6,7。
履修条件	本特殊講義に関連した公法系（憲法・行政法）および私法系（民法・商法）の関連科目を既習していることが期待される。
授業方法	毎時間報告担当者が選択したテーマ・最新判例等を素材に履修者全員での討論。適宜関連外国語文献の輪読も考える。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	
	平 常 評 価	100%	基本的には履修者の出席、報告内容および議論への積極的参加度合を考慮対象とする。場合によってはレポートを課す。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015年	弘文堂	要説経済行政法	友岡史仁
	2022年	信山社	経済行政法の実践的研究	友岡史仁
	備考			

参 考 書	講義内において提示する。
オフィスアワー	講義終了後（火曜2時限）、講堂にて都度質問を受け付ける。なお、必要に応じて、学生との連絡専用に開設したGoogleメールアドレス（tomookaseminarnul@gmail.com）も併用することとする。メール利用時は件名に該当用件とならび本学大学院生とこちらが識別できる氏名・学籍番号等の情報を記述するよう願いたい（多数のメールを効率的に処理するため）。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	教科書の第2部から第4部までを一読し、授業内で必要となる法的問題をあらかじめ把握したうえで授業内での討議に際し各自テーマを選択できるようにしておく。（150分）
	授業内容	**ガイダンス――教科書第1部において扱われる経済行政法総論を通じた知識の確認と同第2部から第4部までで扱われる経済行政法各論に取り上げられる論点を整理したうえで、各自討議する関連テーマを選択できるようにする。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、今後の授業内で扱う内容や事例の概要を把握する。（90分）
2	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（150分）
	授業内容	**事業規制・業務規制法制全般①　参入規制の種類を理解したうえで、関連する判例・裁判例等における争点を発見し、それらにかかわる実定法上の法構造を的確に理解する。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（90分）
3	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（120分）
	授業内容	**事業規制・業務規制法制全般②　２で取り上げた授業内容を前提に、参入規制の種類に応じた規制の現在における法的意義とそこにおける現実的な課題について検討する。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（120分）

4	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（150分）
	授業内容	**事業規制・業務規制法制全般③　さまざまな料金規制の種類を理解するとともに、その根拠となる実定法規を読み込むことで対象となる産業のメカニズムを把握し、そこに潜む現代的課題を検討する。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（90分）
5	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（120分）
	授業内容	**事業規制・業務規制法制全般④　４で取り上げた授業内容を前提に、料金規制の種類のうち特に規制緩和と競争政策に密接に関連する判例・裁判例等を意識して、そこでの具体的な法的問題を理解する。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（120分）
6	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（150分）
	授業内容	**産業保護・育成法制　分野を問わない横断的な規制（緩和）の方法について、その根拠となる実定法規とあわせて、そこに規定された諸機能の現代的意義を法的・政策的両面から検討する。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（90分）
7	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（150分）
	授業内容	**エネルギー産業①　エネルギー産業の法構造を根拠となる実定法規に照らして学ぶとともに、その実態について現在進行している規制緩和政策（例、電力システム改革）の内容を見極めるための論点を検討する。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（90分）
8	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（120分）
	授業内容	**エネルギー産業②　７で取り上げた授業内容を前提に、電力以外のエネルギー産業（ガス、石油、再エネ等も含む）に関連する法構造を検討したうえで、現在進行中の競争政策がもたらす具体的な問題点について、法的に論ずる。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（120分）
9	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（120分）
	授業内容	**エネルギー産業③　７・８で取り上げた授業内容を前提に、エネルギー産業の競争政策について、この種の先端を行くとされる欧米の動向を交えた検討を行う。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（120分）
10	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（150分）
	授業内容	**交通産業①　鉄道・タクシーといった交通産業の法構造を根拠となる実定法規に照らして学ぶとともに、その実態について現在進行している規制緩和政策の内容を見極めるための論点を検討する。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（90分）
11	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（120分）
	授業内容	**交通産業②　10で取り上げた授業内容を前提に、特に行政事件が頻発するタクシー産業の諸規制に関わる法的問題について、その事例の意義のほか、被規制者が問題視する規制の実態を法的に検討する。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（120分）
12	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（120分）
	授業内容	**交通産業③　10・11で取り上げた授業内容を前提に、タクシー以外の交通産業について（例、鉄道・航空産業等）、比較的競争が進展する中で問題となる法的現象について把握し検討する。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（120分）
13	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（150分）
	授業内容	**通信産業①　通信インフラを中心とした通信産業の法構造を根拠となる実定法規に照らして学ぶとともに、その実態について現在進行している規制緩和政策の内容を見極めるための論点を検討する。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（90分）
14	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（120分）
	授業内容	**通信産業②　13で取り上げた授業内容を前提に、事業法・独禁法の両面から問題となる通信作業に関する判例・裁判例等を取り上げたうえで、被規制者が問題視する規制の実態を法的に検討する。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。（120分）
15	事前学習	報告担当の院生は報告準備を行う。それ以外の院生は関連する時事問題に関する情報を収集し、その他、判例・裁判例等を該当判例集で読み込む。（120分）
	授業内容	**通信産業③　13・14で取り上げた授業内容を前提に、通信インフラ以外の関連産業に係るより詳細な法的構造を理解したうえで、この種の先端を行くとされる欧米の動向を交えた検討を行う。**
	事後学習	教科書の該当箇所から、授業内で扱った内容や事例の概要を把握する。また、第1回今回までに取り上げた内容について、履修者の理解度に応じてレポートの作成を求めることがある。（120分）

科目名	労働法特殊講義Ⅰ	担当者	新谷　眞人	期間	前期	単位数	2

授業概要	労働法は、社会経済状況と密接に結び付いた法領域である。近年も、働き方改革など世間の注目を集めている。授業では、それらの社会問題が、現行法でどのように基礎づけられているかに着目して研究を進めていきたい。
授業目的・到達目標	労働契約法、労働基準法、労働組合法の基礎知識を養成することを目的とする。 働き方改革の最新動向を説明できることを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，６
履修条件	労働問題，労働裁判に関心のある者。
授業方法	テキストに即して，各自が順番に報告する。報告は、テキスト本文だけでなく、各自が研究して、法的考え方と自分の見解をレジュメにまとめて発表する。その後全員で質疑討論を行う。なお、教員から新聞記事等の資料を配付することがある。

成績評価

種別	割合	評価方法
定期試験		
平常評価	100%	授業参加度、報告の内容等を総合評価する。

教科書

年	出版社	書名	著者名
令和５年度	法律文化社	労働法の基本・第２版	本久洋一・小宮文人編

備考

参考書	菅野和夫『労働法・第12版』弘文堂（2024年２月改訂版刊行予定） 『労働判例百選・第10版』別冊ジュリスト（有斐閣）
オフィスアワー	随時メールで対応いたします。　araya.masato@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを読み、準備をする（2時間）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	授業の復習（2時間）
2	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**労働法とは何か**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
3	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**労働者の法的地位**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）

4	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**労働者とは誰か**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
5	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**使用者とは誰か**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
6	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**労働法とマルチチュード(1)**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
7	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**労働法とマルチチュード(2)**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
8	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**労働契約の締結**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
9	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**労働契約の内容決定**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
10	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**労働契約上の権利義務**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
11	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**いわゆる労働憲章**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
12	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**人事異動**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
13	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**労働協約による労働条件の変更**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
14	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**就業規則による労働条件の変更**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業の復習（2時間）
	授業内容	**前期のまとめ**
	事後学習	前期の学修内容を再確認する。（2時間）

科目名	労働法特殊講義Ⅰ	担当者	大山　盛義	期間	前期	単位数	2

授業概要	労働法判例を通じて現代の日本社会における労働問題を考える。労働法特殊講義Ⅱでは集団的労働関係の権利義務について学修し、学生が自らの権利義務を理解する労働者となることを目的とする
授業目的・到達目標	学生が、個別的労働法分野についての法制度および裁判例などを通して現代日本における雇用・労働問題を理解し、雇用・労働に関する法律及び判例について基本的な知識を獲得するとともに、課題を発見し解決に向けた思考を養い、現代社会における法の役割を理解し、説明することができる力を養成することを目的とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，６
履修条件	学部の講義である、労働法Ⅰおよび労働法Ⅱ（ないし「労働法」）を履修済みであることが望ましい。2022年度六法必携。
授業方法	演習形式で行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	法的思考方法、判決文の読み方が身についてるか、判決に対して自らの意見を論理的に展開できるか等を総合的に考慮して判断する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2020年度	弘文堂	Next 教科書シリーズ労働法〔第2版〕	新谷眞人編
	備考			

参考書	ジュリスト『労働判例百選第10版』有斐閣、ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年）有斐閣。その他、講義において適宜案内する。
オフィスアワー	火曜日3時限研究室にて（メールでアポイントメントをとること）。

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと（２時間）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	指定論文・判例を読む（２時間）
2	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働組合**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
3	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**争議行為**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）

4	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**組合活動**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
5	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**不当労働行為（１）**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
6	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**不当労働行為（２）**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
7	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働協約**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
8	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働災害（１）**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
9	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働災害（２）**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
10	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働時間（１）**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
11	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働時間（２）**
	事後学習	指定論文・判例を読む（２時間）
12	事前学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
	授業内容	**労働者の人格権・平等取扱い**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
13	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働者概念**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
14	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**使用者概念**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
15	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**復習**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）

科目名	労働法特殊講義Ⅱ	担当者	新谷　眞人	期間	後期	単位数	2

授業概要	労働法は、社会経済状況と密接に結び付いた法領域である。近年も、働き方改革など世間の注目を集めている。授業では、それらの社会問題が、現行法でどのように基礎づけられているかに着目して研究を進めていきたい。
授業目的・到達目標	労働契約法、労働基準法、労働組合法の基礎知識を養成することを目的とする。 働き方改革の最新動向を説明でことを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，６
履修条件	労働問題、労働裁判に関心のある者。
授業方法	テキストで取り上げられている論点について、各自が順番に報告する。報告は，テキスト本文だけでなく、そこに示されている参考文献及び判例に目を通したうえで、法的考え方と自分の見解をレジュメにまとめて発表する。その後全員で質疑討論を行う。なお、教員から新聞記事等の資料を配付することがある。

成績評価

種別	割合	評価方法
定 期 試 験		
平 常 評 価	100%	授業参加度、報告の内容等を総合評価する。

教科書

年	出版社	書名	著者名
令和５年度	法律文化社	労働法の基本・第２版	本久洋一・小宮文人編

備考

参 考 書	菅野和夫『労働法・第12版』弘文堂（2024年２月改訂版刊行予定） 『労働判例百選・第10版』別冊ジュリスト（有斐閣）
オフィスアワー	随時メールで対応いたします。　araya.masato@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを読み、準備をする。（2時間）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	授業の復習をする。（2時間）
2	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**解雇、有期労働契約の雇い止め**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
3	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**退職の意思表示、定年制**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）

4	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**賃金支払いの４原則**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
5	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**最低賃金**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
6	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**労働時間の概念**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
7	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**時間外労働の規制**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
8	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**変形労働時間制**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
9	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**休憩・休日・年次有給休暇**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
10	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**就業規則による労働条件の変更**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
11	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**労働災害の補償**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
12	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**業務災害の認定**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
13	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**団結権保障と労働組合**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
14	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**不当労働行為制度**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）
15	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**団体交渉と労働協約**
	事後学習	レジュメを再検討する。（2時間）

科目名	労働法特殊講義Ⅱ	担当者	大山　盛義	期間	後期	単位数	2

授業概要	労働法判例を通じて現代の日本社会における労働問題を考える。労働法特殊講義Ⅱでは集団的労働関係の権利義務について学修し、学生が自らの権利義務を理解する労働者となることを目的とする
授業目的・到達目標	学生が、個別的労働法分野についての法制度および裁判例などを通して現代日本における雇用・労働問題を理解し、雇用・労働に関する法律及び判例について基本的な知識を獲得するとともに、課題を発見し解決に向けた思考を養い、現代社会における法の役割を理解し、説明することができる力を養成することを目的とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，６
履修条件	学部の講義である、労働法Ⅰおよび労働法Ⅱ（ないし「労働法」）を履修済みであることが望ましい。2022年度の六法を必携すること。
授業方法	演習形式で行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	法的思考方法、判決文の読み方が身についてるか、判決に対して自らの意見を論理的に展開できるか等を総合的に考慮して判断する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2020年度	弘文堂	Next 教科書シリーズ労働法〔第2版〕	新谷眞人編
	備考			

参考書	ジュリスト『労働判例百選第10版』有斐閣。その他、講義において適宜案内する。
オフィスアワー	火曜日4時限研究室にて（メールでアポイントメントをとること）。

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと（２時間）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	指定論文・判例を読む（２時間）
2	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働組合**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
3	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**争議行為**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）

4	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**組合活動**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
5	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**不当労働行為（１）**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
6	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**不当労働行為（２）**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
7	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働協約**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
8	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働災害（１）**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
9	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働災害（２）**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
10	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働時間（１）**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
11	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働時間（２）**
	事後学習	指定論文・判例を読む（２時間）
12	事前学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
	授業内容	**労働者の人格権・平等取扱い**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
13	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**労働者概念**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
14	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**使用者概念**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）
15	事前学習	指定論文・判例を読む（２時間）
	授業内容	**復習**
	事後学習	与えられたテーマについて課題を見つけ、解決策を考える（２時間）

科目名	金融法特殊講義Ⅰ	担当者	藤川　信夫	期間	前期	単位数	2

授業概要	金融商品取引法を中心に講義を行う。最新の関連領域についても分かり易く解説する。金商法は、基礎理論から今後の課題に至るまで初学者を念頭に説明し、横断的規制など金融制度全体の将来像についても述べたい。プライム上場市場創設、フィンテック、暗号資産・ブロックチェーン、デジタル通貨・NFT・トークン、サステナブル・ファイナンス、更に生成AIなどの新領域、国際金融法制も採り上げ、規制環境の変化と金融機関のプラクティスを学習する。
授業目的・到達目標	金融商品取引法を中心に、基礎から修得することを目的とする。金商法を主に直接金融分野の他、動産担保等の金融機関を通じた間接金融分野の規律法令、銀行法、保険業法、貸金業法等の業法、銀行取締役の融資責任等会社法関連、リーマン危機後の国際金融規制等対象範囲は広い。大量保有報告書とディスクロージャー制度、プライム市場創設とスチュワードシップ・機関投資家、コーポレートガバナンス・コードと上場規則・開示府令、親子上場とグループガバナンス、企業買収行動指針（2023年経済産業省）、金融革新を背景にフィンテックや暗号資産・NFT・トークン、デジタル通貨と資金決済法、生成AI、ChatGPT、サステナブル・ファイナンスやESG投資・グリーンボンド、トランジション・ファイナンス等の修得も目標とする。金融法全般について高度な内容の修得と実践ができる。金融理論と実務の融合する重要科目で、受講生が修了後・就職後にも役に立つ、実践的・専門的な内容を身に付けさせたい。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻
履修条件	特にない。学部時代の関連科目履修を前提としない。金融や法制度を勉強したことがない、全く新しく学習を始める他分野の出身者も歓迎する。積極的に関心を持ってぜひ参加・受講されたい。また後期からの受講生も歓迎する。
授業方法	政府系銀行の長年の勤務経験と調査・審査、融資・財務ノウハウを生かし、実践的講義を行う。授業資料はこちらが全て、用意する。全くの初学者にも分かり易い授業を行う。パソコンなどを活用したい。金融法制度のあり方・横断的規制などについて、金融商品取引法、銀行・保険・証券業法などを含め議論したい。フィンテックや暗号資産・NFT・トークン、デジタル通貨、生成AIのほか、欧米の国際金融法制などの新領域、最新の課題を多面的に採り上げ、受講生の関心を高めていきたい。完全対面授業の良さを生かして、受講生の皆様と一緒に授業を進めたい。金融ビジネス関連の法知識は重要であり、是非受講生の将来に向けて役立てていただきたい。できるだけ多くの受講生に、積極的に受講してほしい。

成績評価

種別	割合	評価方法
定期試験		
平常評価	100%	授業内評価による。期末定期試験は行わない。授業への積極的な取り組み、議論への参加・発表などを合わせて、総合的に評価する。

教科書

年	出版社	書名	著者名

備考：レジメ配布など。

参考書	基本的に、毎回資料を配布したい。参考書などについては、講義の中で適宜指示する。購入する必要はない。
オフィスアワー	授業の質問のほか、就職、進路相談に積極的に応じます。メガバンク・地方銀行・信用金庫、証券・保険など金融業界のほか、メーカー・商社などグローバル企業の国際業務部門、法務・コーポレート部門の希望者は、ぜひ気楽にご相談下さい。政府系銀行勤務時代に培った各企業や金融業界の人脈、ノウハウを活用し、できるだけ受講生の相談に応じます。授業の前後に直接話に来て下さい。予約不要。fujikawa.nobuo@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	**金融法概説：　金融法、金融商品取引法の全体像、枠組みなど 学習方法、研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。随時、金融判例も採り上げたい。**
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	金融商品取引法の概要、課題と展望などについて、考察する。（2時間）
	授業内容	**金融商品取引法（１）　金融商品取引法と資本市場：資本市場の仕組み・取引対象・プレーヤー、金融商品取引法の内容と目的など、**
	事後学習	講義ノートを確認して、金融商品取引法の概要などについて、復習する。（2時間）
3	事前学習	金融商品取引法と有価証券の発行について、考察する。（2時間）
	授業内容	**金融商品取引法（２）　金融商品取引法と有価証券の発行：　証券発行の取引規制、届出書の審査と監査、売出しの規制、ディスクロージャー（証券発行時、クラウドファンディング、法定開示と証券化商品の開示など）、取引所による上場会社規制、不実の発行開示と民刑事責任・課徴金など**
	事後学習	講義ノートを確認して、金融商品取引法と有価証券の発行などについて内容を復習する。（2時間）

4	事前学習	金融商品取引法と上場会社のディスクロージャーについて、考察する。（2時間）
	授業内容	**金融商品取引法（３）　金融商品取引法と上場会社のディスクロージャー：　継続開示義務（連結情報・セグメント・非財務情報・ESG情報など）、確認書と内部統制報告書、フェア・タイムリーディスクロージャー、不実の継続開示と民刑事責任・課徴金**
	事後学習	講義ノートを確認して、金融商品取引法と上場会社のディスクロージャーなどについて内容を復習する。（2時間）
5	事前学習	金融商品取引法と公開買付けの規制について、考察する。（2時間）
	授業内容	**金融商品取引法（４）　金融商品取引法と公開買付けの規制：　企業買収の方法、公開買付規制の適用範囲、公開買付けの取引規制・手続き、大量保有報告書制度**
	事後学習	講義ノートを確認して、金融商品取引法と公開買付けの規制などについて内容を復習する。（2時間）
6	事前学習	金融商品取引法と市場における有価証券の売買・デリバティブ取引について、考察する。（2時間）
	授業内容	**金融商品取引法（５）　金融商品取引法と市場における有価証券の売買・デリバティブ取引：　有価証券の上場・売買取引、デリバティブ取引（市場・店頭）、金融商品取引所と自主規制、プロ向け・総合的取引所**
	事後学習	講義ノートを確認して、金融商品取引法と市場における有価証券の売買・デリバティブ取引などについて内容を復習する。（2時間）
7	事前学習	金融商品取引法と市場における不公正な取引の禁止について、考察する。（2時間）
	授業内容	**金融商品取引法（６）　金融商品取引法と市場における不公正な取引の禁止：　インサイダー取引禁止の理由、内部情報・外部情報、制裁と防止、相場操縦の禁止、風説の流布・偽計、暗号資産の不公正取引**
	事後学習	講義ノートを確認して、金融商品取引法と市場における不公正な取引の禁止などについて内容を復習する。（2時間）
8	事前学習	金融商品取引法と有価証券の売買・デリバティブ取引の勧誘について、考察する。（2時間）
	授業内容	**金融商品取引法（７）　金融商品取引法と有価証券の売買・デリバティブ取引の勧誘：説明義務（信義則、金融商品取引法など）、適合性原則、不当勧誘禁止、損失補償禁止、未公開株の売付け、外務員制度**
	事後学習	講義ノートを確認して、金融商品取引法と有価証券の売買・デリバティブ取引の勧誘などについて内容を復習する。（2時間）
9	事前学習	金融商品取引法と金融商品取引業の規制について、概要を考察する。（2時間）
	授業内容	**金融商品取引法（８）　金融商品取引法と金融商品取引業の規制：　主要株主・企業グループ規制、投資運用業、投資助言・代理業、ファンド規制・集団投資スキーム持分・ヘッジファンドなど、金融機関と金融商品取引業、仲介者・信用格付業者、投資保護基金**
	事後学習	講義ノートを確認して、金融商品取引法と金融商品取引業の規制などについて内容を復習する。（2時間）
10	事前学習	金融商品取引法のエンフォースメントについて、考察する。（2時間）
	授業内容	**金融商品取引法（９）　金融商品取引法のエンフォースメント：　行政処分と課徴金、緊急差止命令・破産申立権、証券取引等監視委員会、金融商品取引業協会、紛争解決機関・金融ADR、私人による法のエンフォースメント**
	事後学習	講義ノートを確認して、金融商品取引法のエンフォースメントなどについて内容を復習する。（2時間）
11	事前学習	金融商品取引法の課題について、概要を考察する。（2時間）
	授業内容	**金融商品取引法（１０）　金融商品取引法の課題：　資本市場のグローバル化、投資サービス法から金融サービス法へ、フィンテック（FinTech）への対応**
	事後学習	講義ノートを確認して、金融商品取引法の課題などについて復習する。（2時間）
12	事前学習	今後の機能別・横断的な金融規制体系、「決済」法制及び金融サービス仲介法制に係る制度整備について、概要を考察する。（2時間）
	授業内容	**金融法、金融商品取引法の枠組み・課題と将来像（１）：　機能別・横断的な金融規制体系に向けて（金融庁・金融審議会金融制度スタディ・グループ中間整理報告書）、「決済」法制及び金融サービス仲介法制に係る制度整備についての報告≪基本的な考え方≫（金融審議会金融制度スタディ・グループ報告書）**
	事後学習	講義ノートを確認して、機能別・横断的な金融規制体系、「決済」法制及び金融サービス仲介法制に係る制度整備などについて復習する。（2時間）
13	事前学習	今後の公開買付制度・大量保有報告制度、ディスクロージャーなどについて、具体的事例を含め、考察を深める。（2時間）
	授業内容	**金融法、金融商品取引法の枠組み・課題と将来像（２）：　公開買付制度・大量保有報告制度、ディスクロージャー・サステナブル開示（金融庁・金融審議会金融分科会ワーキンググループ報告書）**
	事後学習	講義ノートを確認して、今後の公開買付制度・大量保有報告制度、ディスクロージャーなどについて、具体的事例を含め、さらに深く復習する。（2時間）
14	事前学習	ファイナンス（資金調達）のスキーム、具体的事例などについて、考察する。（2時間）
	授業内容	**ファイナンス（資金調達）の法的スキームと具体的事例：　プロジェクトファイナンス(PF)とSPE・SPC（特別目的会社）、LBO（レバレッジド・バイアウト）、MBO（マネジメント・バイアウト）、M&A（企業買収）ファイナンス**
	事後学習	講義ノートを確認して、ファイナンス（資金調達）のスキーム、具体的事例などについて、さらに復習する。（2時間）
15	事前学習	最初からの講義ノートを見直し、金融法ならびに金融商品取引法全体の体系を考察する。（2時間）
	授業内容	**前期の総まとめ・判例：　金融法の総論について、金融商品取引法を主に、前期の総まとめを行い、課題と今後の展望を含め体系的な学習を行う。インサイダー取引等、重要な金融判例の演習・解説も行う。**
	事後学習	金融法ならびに金融商品取引法の総論について、今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。（2時間）

科目名	金融法特殊講義Ⅱ	担当者	藤川　信夫	期間	後期	単位数	2

授業概要	金融商品取引法等における最新の関連領域を中心に分かり易く講義、解説する。プライム上場市場創設とスチュワードシップコード及びコーポレートガバナンス・コード（上場規則）、フィンテック、暗号資産・ブロックチェーン、デジタル通貨・NFT・トークン、サステナブル・ファイナンス、更に生成AI等の新領域を巡る法制度のほか、サブプライム金融危機後のバーゼル規制など国際金融も採り上げ、規制環境の変化と金融機関のプラクティスを学習する。
授業目的・到達目標	金融商品取引法を中心に、基礎から修得することを目的とする。金商法を主に直接金融分野の他、動産担保等の金融機関を通じた間接金融分野の規律法令、銀行法、保険業法、貸金業法等の業法、銀行取締役の融資責任等会社法関連、リーマン危機後の国際金融規制等対象範囲は広い。大量保有報告書とディスクロージャー制度、プライム市場創設とスチュワードシップ・機関投資家、コーポレートガバナンス・コードと上場規則・開示府令、親子上場とグループガバナンス、企業買収行動指針（2023年経済産業省）、金融革新を背景にフィンテックや暗号資産・NFT・トークン、デジタル通貨と資金決済法、生成AI、ChatGPT、サステナブル・ファイナンスやESG投資・グリーンボンド、トランジション・ファイナンス等の修得も目標とする。金融法全般について高度な内容の修得と実践ができる。金融理論と実務の融合する重要科目で、受講生が修了後・就職後にも役に立つ、実践的・専門的な内容を身に付けさせたい。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻
履修条件	特にない。学部時代の関連科目履修を前提としない。金融や法制度を勉強したことがない、全く新しく学習を始める他分野の出身者も歓迎する。積極的に関心を持ってぜひ参加・受講されたい。また後期からの受講生も歓迎する。
授業方法	政府系銀行の長年の勤務経験と調査・審査、融資・財務ノウハウを生かし、実践的講義を行う。授業資料はこちらが全て、用意する。全くの初学者にも分かり易い授業を行う。パソコンなどを活用したい。金融法制度のあり方・横断的規制などについて、金融商品取引法、銀行・保険・証券業法などを含め議論したい。フィンテックや暗号資産・NFT・トークン、デジタル通貨、生成AIのほか、欧米の国際金融法制などの新領域、最新の課題を多面的に採り上げ、受講生の関心を高めていきたい。完全対面授業の良さを生かして、受講生の皆様と一緒に授業を進めたい。金融ビジネス関連の法知識は重要であり、是非受講生の将来に向けて役立てていただきたい。できるだけ多くの受講生に、積極的に受講してほしい。

成績評価

種別	割合	評価方法
定期試験		
平常評価	100%	授業内評価による。期末定期試験は行わない。授業への積極的な取り組み、議論への参加・発表などを合わせて、総合的に評価する。

教科書

年	出版社	書名	著者名

備考：レジメ配布など。

参考書	基本的に、毎回資料を配布したい。参考書などについては、講義の中で適宜指示する。購入する必要はない。
オフィスアワー	授業の質問のほか、就職、進路相談に積極的に応じます。メガバンク・地方銀行・信用金庫、証券・保険など金融業界のほか、メーカー・商社などグローバル企業の国際業務部門、法務・コーポレート部門の希望者は、ぜひ気楽にご相談下さい。政府系銀行勤務時代に培った各企業や金融業界の人脈、ノウハウを活用し、できるだけ受講生の相談に応じます。授業の前後に直接話に来て下さい。予約不要。fujikawa.nobuo@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	**金融商品取引法等にかかる最新の関連領域の概説：　プライム上場市場、フィンテック・暗号資産、サステナブル・ファイナンス・ESG投資、国際金融法制のほか、随時、金融判例も採り上げたい。上場企業の有価証券報告書、損益計算書・バランスシートの見方など、基礎から教えたい。**
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	プライム市場創設について、考察する。（2時間）
	授業内容	**プライム上場市場創設とコード（１）：　プライム・スタンダード・グロースの各市場創設と概要、東京証券取引所の市場再編**
	事後学習	講義ノートを確認して、プライム市場創設などについて復習する。（2時間）
3	事前学習	プライム市場などとスチュワードシップ・コードについて、考察する。（2時間）
	授業内容	**プライム上場市場創設とコード（２）：　プライム市場などとスチュワードシップ・コード及び機関投資家・アクティビスト・議決権助言会社・格付け機関**
	事後学習	講義ノートを確認して、プライム市場などとスチュワードシップ・コードなどについて復習する。（2時間）

4	事前学習	プライム市場などとコーポレートガバナンス・コードなどについて、考察する。（2時間）
	授業内容	**プライム上場市場創設とコード（３）：　プライム市場などとコーポレートガバナンス・コード（上場規則）・開示府令、親子上場とグループガバナンス、企業買収における行動指針（2023年経済産業省ガイドライン(実務指針)）、上場会社のプラクティス(指名・報酬・監査委員会、インセンティブ報酬設計・運用、資本コスト、政策投資株式、女性活躍推進・ダイバーシティ、ESG・TCFDなど)**
	事後学習	講義ノートを確認して、プライム市場などとコーポレートガバナンス・コード、上場会社の実務対応、などについて復習する。（2時間）
5	事前学習	Web3.0 等の推進とデジタルマネーや暗号資産、ブロックチェーンについて、金商法、資金決済法、外為法などの視点を踏まえて考察する。（2時間）
	授業内容	**金商法・資金決済法と暗号資産（仮想通貨）、デジタルマネー（１）：　Web3.0 等の推進に向けたデジタルマネーや暗号資産、ブロックチェーン等に係る取組みなど**
	事後学習	講義ノートを確認して、Web3.0 等の推進とデジタルマネーや暗号資産、ブロックチェーンなどについて、金商法、資金決済法、外為法などの視点を踏まえて復習する。（2時間）
6	事前学習	デジタルマネーの分類等と２０２２年改正施行後の最新の決済法制について、金商法、資金決済法、外為法などの視点を踏まえて考察する。（2時間）
	授業内容	**金商法・資金決済法と暗号資産（仮想通貨）、デジタルマネー（２）：　デジタルマネーの分類等と２０２２年改正施行後の最新の決済法制度の全体構造と課題、従来型デジタルマネー（預金型、移動業型）と電子決済手段など**
	事後学習	講義ノートを確認して、デジタルマネーの分類等と２０２２年改正施行後の最新の決済法制などについて、金商法、資金決済法、外為法などの視点を踏まえて復習する。（2時間）
7	事前学習	暗号資産等の発行規制、仲介規制について、金商法、資金決済法、外為法などの視点を踏まえて考察する。（2時間）
	授業内容	**金商法・資金決済法と暗号資産（仮想通貨）、デジタルマネー（３）：　発行規制、仲介規制（規制対象行為と行為規制、交換業規制など）、１号電子決済手段、３号電子決済手段、金融機関・投資家の実務対応など**
	事後学習	講義ノートを確認して、暗号資産等の発行規制、仲介規制などについて、金商法、資金決済法、外為法などの視点を踏まえて復習する。（2時間）
8	事前学習	NFT（トークン）と有価証券該当性などについて、金商法、資金決済法、外為法などの視点を踏まえて考察する。（2時間）
	授業内容	**金商法・資金決済法と暗号資産（仮想通貨）、デジタルマネー（４）：　NFT（トークン）と集団投資スキーム持分・有価証券該当性、中央銀行発行のデジタル法定通貨（CBDC）、ブロックチェーンと暗号資産の私法上の取扱いなど**
	事後学習	講義ノートを確認して、NFT（トークン）と有価証券該当性などについて、金商法、資金決済法、外為法などの視点を踏まえて復習する。（2時間）
9	事前学習	フィンテック関連規制の概要について、金商法などの視点を踏まえて考察する。（2時間）
	授業内容	**金商法等とフィンテック（FinTech）をめぐる法規制（１）：　フィンテック（最先端テクノロジーを活用した金融サービス）の生成、発展モデル、概要と関連規制の全体像および展望など**
	事後学習	講義ノートを確認して、フィンテック関連規制の概要などについて、金商法などの視点を踏まえて復習する。（2時間）
10	事前学習	フィンテック関連の銀行法改正、企業の対応などについて、金商法などの視点を踏まえて考察する。（2時間）
	授業内容	**金商法等とフィンテック（FinTech）をめぐる法規制（２）：　FinTech関連の銀行法改正、電子決済等代行業とオープンAPI（アプリケーションプログラミングインタフェースの開放）、欧米のフィンテック関連規制と企業の対応など**
	事後学習	講義ノートを確認して、フィンテック関連の銀行法改正、企業の対応などについて、金商法などの視点を踏まえて復習する。（2時間）
11	事前学習	サステナブル・ファイナンス、ESG投資などについて、考察する。（2時間）
	授業内容	**サステナブル・ファイナンスなど新しいファイナンス（資金調達）：　ESG投資・グリーンボンド、インパクト投資とトランジション・ファイナンス、M&Aファイナンスと公正なM&A新指針（2023年、経済産業省）など、最新のファイナンススキームと関連規制・実務対応など**
	事後学習	講義ノートを確認して、サステナブル・ファイナンス、ESG投資などについて復習する。（2時間）
12	事前学習	生成AI（人工知能）、ChatGPTchを巡る規制動向などについて、考察する。
	授業内容	**生成AI（人工知能）、ChatGPT関連の規制と実務：　生成AI、ChatGPTを中心とした内容・利用方法等に関する法的留意点、米国規制と規制対応の効率化（Regulation Technology）及び規制コンプライアンスなど、**
	事後学習	講義ノートを確認して、生成AI（人工知能）、ChatGPTchを巡る規制動向などについて復習する。（2時間）
13	事前学習	米国ドッドフランク法など国際金融規制について、考察する。（2時間）
	授業内容	**国際金融規制・監督（１）：　リーマン金融危機後の米国オバマ政権の金融改革法（ドッドフランク法）、英国のリングフェンス金融制度改革、バーゼル銀行監督委員会の国際的規制（自己資本比率や流動性比率等）など**
	事後学習	講義ノートを確認して、米国ドッドフランク法など国際金融規制について復習する。（2時間）
14	事前学習	プルーデンス規制、マネロン・テロ資金対策、国際資金決済などついて、考察する。（2時間）
	授業内容	**国際金融規制・監督（２）：　大規模金融機関（SIFIs）のプルーデンス規制（健全性）、破綻処理、ファンド・格付機関規制、米国OFACなどマネロン・テロ資金対策と国際協調、国際資金決済（荷為替信用状、電子船荷証券、ブロックチェーン技術と国際送金等）など**
	事後学習	講義ノートを確認して、プルーデンス規制、マネロン・テロ資金対策、国際資金決済などについて復習する。（2時間）

15	事前学習	最初からの講義ノートを見直し、金商法などの視点を踏まえて、金融法全体の体系を考察する。（2時間）
	授業内容	**後期の総まとめ・判例：　金融法の各論について、金商法改正など最新の関連領域を中心に、後期の総まとめを行い、課題と展望を含め体系的な学習を行う。銀行取締役の注意義務・忠実義務違反等、重要な金融判例の演習・解説も行う。**
	事後学習	金融法の各論について、今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。（2時間）

科目名	社会保障法特殊講義Ⅰ	担当者	神尾真知子	期間	前期	単位数	2

授業概要	総論として、社会保障法の歴史、法理、法体系について学び、各論として、社会保障法特殊講義Ⅰでは、社会保険を中心に取り上げて、代表的な判例を研究する。社会保障法特殊講義Ⅱでは、社会福祉サービス、公的扶助、社会手当を中心に取り上げて、代表的は判例を研究する。ⅠとⅡの両方を履修して、社会保障法全体を理解することができる。
授業目的・到達目標	院生が、社会保障法の理念を理解し、社会保障法全体の体系を把握できるようにする。その上で、社会保険上のさまざまな論点に関する判例を学ぶことによって、社会保障法の法解釈力を身につけることを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，３，６
履修条件	社会保障法特殊講義Ⅰおよび社会保障法特殊講義Ⅱの両方を履修して、社会保障法の全体を理解してほしい。
授業方法	社会保障法の体系書を輪読する。重要判例を取り上げて、法解釈を検討し、受講生が報告する形式で進める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	講義の参加度、講義における報告、発言、レポートなどで総合評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	２０２２年	法律文化社	原理で学ぶ社会保障法	神尾・増田・山田 若尾・金川・衣笠
	備考			

参考書	社会保障法学会編『講座社会保障法』（全６巻）法律文化社、社会保障法学会編『新・講座　社会保障法』有斐閣 神尾真知子・古橋エツ子編著『社会保障』（NEXT教科書シリーズ）弘文堂
オフィスアワー	水曜日12時30分～13時（事前にメールでアポイントを取ること） 適宜場所を指定する。　kamio.machiko〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書の目次を読んで、講義全体を概観する。　（２時間）
	授業内容	**授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、社会保障法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（２時間）
2	事前学習	社会保障法の定義、体系、法源について考察する。（２時間）
	授業内容	**社会保障法の定義、体系、法源**
	事後学習	講義ノートを確認し、社会保障法の定義、体系、法源の理解を確認し、説明できるようにする。（２時間）
3	事前学習	社会保障法の理念と憲法について考察する。（２時間）
	授業内容	**社会保障法の理念と憲法**
	事後学習	講義ノートを確認し、社会保障法の理念と憲法の理解を確認し、説明できるようにする。（２時間）

4	事前学習	社会保障給付の権利、社会保障の歴史と社会保障法学の展開、社会保障法の全体像について考察する。（２時間）
	授業内容	**社会保障給付の権利、社会保障の歴史と社会保障法学の展開、社会保障法の全体像**
	事後学習	社会保障給付の権利、社会保障の歴史と社会保障法学の展開、社会保障法の全体像の確認し、説明できるようにする。（２時間）
5	事前学習	社会保障法の全体像、社会保障の具体的手段・管理運営の組織・財源について考察する。（２時間）
	授業内容	**社会保障法の全体像、社会保障の具体的手段・管理運営の組織・財源**
	事後学習	社会保障法の全体像、社会保障の具体的手段・管理運営の組織・財源を理解し、説明できるようにする。（２時間）
6	事前学習	年金保険の社会保険としての仕組みについて考察する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―年金保険①ー社会保険としての仕組み**
	事後学習	年金保険の社会保険としての仕組みを確認し、説明できるようにする。（２時間）
7	事前学習	年金保険の給付の仕組みについて考察する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―年金保険②ー給付**
	事後学習	年金保険の給付の仕組みにはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。（２時間）
8	事前学習	年金保険に関連する判決文をよく読み、事実の概要と判旨をまとめたレポートを作成する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―年金保険③ー判例**
	事後学習	年金保険関連判決の事実を確認した上で、判旨を理解し、説明できるようにする。（２時間）
9	事前学習	医療保険の社会保険としての仕組みについて考察する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―医療保険①ー社会保険としての仕組み**
	事後学習	医療保険の社会保険としての仕組みを理解し、説明できるようにする。（２時間）
10	事前学習	医療保険の給付の仕組みについて考察する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―医療保険②ー給付**
	事後学習	医療保険の給付の仕組みにはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。（２時間）
11	事前学習	医療保険に関連する判決文をよく読み、事実の概要と判旨をまとめたレポートを作成する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―医療保険③-判例**
	事後学習	医療保険に関連する判決の事実を確認した上で、判旨を理解し、説明できるようにする。（２時間）
12	事前学習	労災保険の社会保険としての仕組みについて考察する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―労災保険①ー社会保険としての仕組み**
	事後学習	労災保険の社会保険としての仕組みを理解し、説明できるようにする。（２時間）
13	事前学習	労災保険の給付の仕組みについて考察する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―労災保険②ー給付**
	事後学習	労災保険の給付の仕組みにはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。（２時間）
14	事前学習	労災保険に関連する判決文をよく読み、事実の概要と判旨をまとめたレポートを作成する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―労災保険③ー判例**
	事後学習	労災保険に関連する判決の事実を確認した上で、判旨を理解し、説明できるようにする。（２時間）
15	事前学習	前学期に学習した内容を確認する。（２時間）
	授業内容	**講義のまとめ**
	事後学習	前学期の学習内容の理解を深める。（２時間）

科目名	社会保障法特殊講義Ⅰ	担当者	橋爪　幸代	期間	前期	単位数	2

授業概要	総論として、社会保障法の歴史、法理、法体系について学び、各論として、社会保障法特殊講義Ⅰでは、社会保険を中心に取り上げて、代表的な判例を学修する。
授業目的・到達目標	社会保障法の理念を理解し、社会保障法全体の体系を把握できるようにする。その上で、社会保険上のさまざまな論点に関する判例を学ぶことによって、社会保障法の法解釈力を身につける。 本講義で学んだことを説明し、社会保障法上の課題について私見を述べることができるようになることを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，３，６
履修条件	社会保障法制度全体を理解するために、社会保障法特殊講義Ⅰおよび社会保障法特殊講義Ⅱの両方を履修すること。
授業方法	社会保障法の体系を理解するために、社会保障法の体系書を基に法制度について理解した上で、関連判例を取り上げて、法解釈を検討する。受講生が報告する形式で進める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	講義の参加度、講義における報告、発言、レポートなどで総合評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2024年度	不磨書房	トピック社会保障法18版	本沢巳代子・新田秀樹編著
	2016年度	有斐閣	社会保障判例百選（第５版）	岩村正彦編
	備考			

参 考 書	社会保障法学会編『講座社会保障法』（全6巻）法律文化社、『新・講座　社会保障法』（全3巻）法律文化社 その他、受講生の関心に応じて、適宜紹介する。
オフィスアワー	火曜日14時40分～16時　研究室にて（事前にメールにてアポイントをとること）hashidume.sachiyo@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書の目次を読んで、講義全体を概観する。　（２時間）
	授業内容	**授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、社会保障法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（２時間）
2	事前学習	社会保障はどのような歴史をたどってきたのか、法理念、法体系、法源は何かについて考察する。（２時間）
	授業内容	**社会保障法の歴史、法理念、法体系、法源**
	事後学習	講義ノートを確認し、社会保障法の歴法、法理念、法体系、法源の理解を確認し、説明できるようにする。（２時間）
3	事前学習	医療保険の社会保険としての仕組みを理解する。（２時間）
	授業内容	**社会保険-医療保険①ー社会保険としての仕組み**
	事後学習	医療保険の社会保険としての仕組みを確認し、説明できるようにする。（２時間）

4	事前学習	医療保険の給付の仕組みを理解する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―医療保険②―給付**
	事後学習	医療保険の給付にはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。（２時間）
5	事前学習	医療保険に関連する判決文をよく読み、事実の概要と判旨をまとめたレポートを作成する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―医療保険③―判例**
	事後学習	医療関連判決の事実を確認した上で、判旨を理解し、説明できるようにする。（２時間）
6	事前学習	労災保険の社会保険としての仕組みを理解する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―労災保険①―社会保険としての仕組み**
	事後学習	労災保険の社会保険としての仕組みを理解し、説明できるようにする。（２時間）
7	事前学習	労災保険の給付の仕組みを理解する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―労災保険②―給付**
	事後学習	労災保険の給付の仕組みにはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。（２時間）
8	事前学習	労災保険に関連する判決文をよく読み、事実の概要と判旨をまとめたレポートを作成する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―労災保険③―判例**
	事後学習	労災保険に関連する判決の事実を確認した上で、判旨を理解し、説明できるようにする。（２時間）
9	事前学習	雇用保険の社会保険としての仕組みを理解する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―雇用保険①―社会保険としての仕組み**
	事後学習	雇用保険の社会保険としての仕組みを理解し、説明できるようにする。（２時間）
10	事前学習	雇用保険の給付の仕組みを理解する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―雇用保険②―給付**
	事後学習	雇用保険の給付の仕組みにはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。（２時間）
11	事前学習	雇用保険に関連する判決文をよく読み、事実の概要と判旨をまとめたレポートを作成する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―雇用保険③―判例**
	事後学習	雇用保険に関連する判決の事実を確認した上で、判旨を理解し、説明できるようにする。（２時間）
12	事前学習	年金保険の社会保険としての仕組みを理解する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―年金保険①―社会保険としての仕組み**
	事後学習	年金保険の社会保険としての仕組みを理解し、説明できるようにする。（２時間）
13	事前学習	年金保険の給付の仕組みを理解する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―年金保険②―給付**
	事後学習	年金保険の給付の仕組みにはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。（２時間）
14	事前学習	年金保険に関連する判決文をよく読み、事実の概要と判旨をまとめたレポートを作成する。（２時間）
	授業内容	**社会保険―年金保険③-判例**
	事後学習	年金保険に関連する判決の事実を確認した上で、判旨を理解し、説明できるようにする。（２時間）
15	事前学習	前学期に学習した内容を確認する。（２時間）
	授業内容	**講義のまとめ**
	事後学習	前学期の学習内容の理解を深める。（２時間）

科目名	社会保障法特殊講義Ⅱ	担当者	神尾真知子	期間	後期	単位数	2

授業概要	社会保障法特殊講義Ⅱは、社会福祉サービス、公的扶助、社会手当を中心に取り上げて、代表的な判例を研究する。
授業目的・到達目標	院生が、社会福祉サービス、公的扶助、社会手当について法制度を理解し、法的論点を検討する力を身につける。代表的な判例を研究し、社会保障法の法解釈力を身につけることを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，３，８
履修条件	社会保障法特殊講義Ⅰを履修していること。講義は、社会保障法特殊講義Ⅰを履修していることを前提に行う。
授業方法	社会保障法の体系書を輪読する。重要判例を取り上げて、法解釈を検討し、受講生が報告する形式で進める。

成績評価

種別	割合	評価方法
定期試験	0%	
平常評価	100%	講義の参加度、講義における報告、発言、判例レポートなどで総合評価する。

教科書

年	出版社	書名	著者名
２０２２年	法律文化社	原理で学ぶ社会保障法	神尾・増田・山田 若尾・金川・衣笠

備考

参考書	社会保障法学会編『講座社会保障法』（全６巻）法律文化社、社会保障法学会編『新・講座　社会保障法』有斐閣 神尾真知子・古橋エツ子編著『社会保障』（NEXT教科書シリーズ）弘文堂
オフィスアワー	水曜日12時30分～13時（事前にメールでアポイントを取ること） 適宜場所を指定する。　kamio.machiko〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	雇用保険の社会保険としての仕組みと給付を理解する。　(2時間)
	授業内容	**社会保険－雇用保険①ー社会保険としての仕組みと給付**
	事後学習	講義ノートを確認し、雇用保険の社会保険としての仕組みと給付を確認し、説明できるようにする。(2時間)
2	事前学習	雇用保険関連判例をよく読み、事実の概要と判旨を確認し、レポートを作成する。(2時間)
	授業内容	**社会保険－雇用保険②ー判例**
	事後学習	講義ノートを確認し、雇用保険関連判例の判旨を理解し、説明できるようにする。(2時間)
3	事前学習	介護保険の社会保険としての仕組みを確認する。(2時間)
	授業内容	**社会保険ー介護保険①－社会保険としての仕組み**
	事後学習	講義ノートを確認し、介護保険はどのような仕組みなのかを理解し、説明できるようにする。(2時間)

4	事前学習	介護保険の給付の仕組みを理解する（2時間）
	授業内容	**社会保険ー介護保険②ー社会保険としての給付**
	事後学習	介護保険の給付にはどのようなものがあるのかを理解し、説明できるようにする。（2時間）
5	事前学習	介護保険関連判例をよく読み、事実の概要を判旨を確認し、レポートを作成する。（2時間）
	授業内容	**社会保険ー介護保険③－判例**
	事後学習	講義ノートを確認し、介護保険関連判例の事実と判旨を理解し、説明できるようにする。（2時間）
6	事前学習	障がい者福祉サービスはどのような仕組みなのかを理解する。（2時間）
	授業内容	**社会福祉サービスー障がい者福祉サービス①ー仕組み**
	事後学習	講義ノートを確認し、障がい者福祉サービスの仕組みを理解し、説明できるようにする。（2時間）
7	事前学習	障がい者福祉サービス関連判例をよく読み、事実と判旨を確認し、レレポートを作成する。（2時間）
	授業内容	**社会福祉サービスー障がい者福祉サービス②－判例**
	事後学習	講義ノートを確認し、障がい者福祉サービス関連判例の判旨を理解し、説明できるようにする。（2時間）
8	事前学習	社会手当とは何か、児童手当の仕組みを確認する。（2時間）
	授業内容	**社会手当ー児童手当①－仕組み**
	事後学習	講義ノートを確認し、児童手当の仕組みを理解し、説明できるようにする。（2時間）
9	事前学習	児童扶養手当の仕組みを確認する。（2時間）
	授業内容	**社会手当ー児童扶養手当①ー仕組み**
	事後学習	講義ノートを確認し、児童扶養手当の仕組みを理解し、説明できるようにする。（2時間）
	事前学習	児童扶養手当関連判例をよく読み、事実と判旨を確認し、レポートを作成する。（2時間）
10	事前学習	児童扶養手当関連判例をよく読み、事実と判旨を確認し、レポートを作成する。（2時間）
	授業内容	**社会手当—児童扶養手当②－判例**
	事後学習	講義ノートを確認し、児童扶養手当関連判例の判旨を理解し、説明できるようにする。（2時間）
11	事前学習	公的扶助とは何か、生活保護の仕組みを確認する。（2時間）
	授業内容	**公的扶助—生活保護①－仕組み**
	事後学習	講義ノートを確認し、生活保護はどのような手続きによって給付されるのかを理解し、説明できるようにする。（2時間）
12	事前学習	生活保護の支給要件を確認する。（2時間）
	授業内容	**公的扶助ー生活保護②－保護の補足性の原則**
	事後学習	講義ノートを確認し、保護の補足性の原則とは何かを理解し、説明できるようにする。（2時間）
13	事前学習	生活保護関連判例をよく読み、事実と判旨を確認し、レポートを作成する。（2時間）
	授業内容	**公的扶助ー生活保護③－判例**
	事後学習	講義ノートを確認し、生活保護関連判例を理解し、説明できるようにする。（2時間）
14	事前学習	外国人に対する社会保障の適用を確認する。（2時間）
	授業内容	**外国人と社会保障①-生存権と社会保障法**
	事後学習	講義ノートを確認し、外国人にはどのような社会保障立法が適用されるのかを理解し、説明できるようにする。（2時間）
15	事前学習	外国人と社会保障関連判例をよく読み、事実と判旨を確認し、レポートを作成する。（2時間）
	授業内容	**外国人と社会保障②－判例**
	事後学習	講義ノートを確認し、外国人と社会保障関連判例の判旨を理解し、説明できるようにする。（2時間）

科目名	社会保障法特殊講義Ⅱ	担当者	橋爪　幸代	期間	後期	単位数	2

授業概要	各論として、社会福祉サービス、公的扶助を中心に取り上げて、代表的な判例を学修する。
授業目的・到達目標	社会福祉サービス、公的扶助、社会手当を取り上げ、法的論点を検討する。代表的な判例を研究する。社会保障法の法解釈力を身につけ、私見が述べられるようにする。各制度について説明できるようにするとともに、各制度における課題について私見が述べられるようにする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，３，６
履修条件	社会保障法制度全体を理解するために、社会保障法特殊講義Ⅰおよび社会保障法特殊講義Ⅱの両方を履修すること。
授業方法	社会保障法の体系を理解するために、社会保障法の体系書を基に法制度について理解した上で、関連判例を取り上げて、法解釈を検討する。受講生が報告する形式で進める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	講義の参加度、講義における報告、発言、レポートなどで総合評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2024年度	不磨書房	トピック社会保障法第18版	本沢巳代子・新田秀樹編著
	2016年度	有斐閣	社会保障判例百選（第５版）	岩村正彦編
	備考			

参 考 書	社会保障法学会編『講座社会保障法』（全6巻）法律文化社、『新・講座　社会保障法』（全3巻）法律文化社 その他、受講生の関心に応じて、適宜紹介する。
オフィスアワー	火曜日14時00分～16時　研究室にて（事前にメールにてアポイントをとること）hashidume.sachiyo@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書の目次を読んで、講義全体を概観する。　（２時間）
	授業内容	**授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、社会保障法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（２時間）
2	事前学習	社会福祉サービスはどのような歴史をたどってきたのかについて考察する。（２時間）
	授業内容	**社会福祉サービス制度の全体像**
	事後学習	講義ノートを確認し、社会福祉サービスの歴史、法理念、法体系、法源の理解を確認し、説明できるようにする。（２時間）
3	事前学習	児童福祉制度の仕組みを調べる。（２時間）
	授業内容	**社会福祉-児童①ー児童福祉サービスの仕組み**
	事後学習	児童福祉サービスの仕組みを確認し、説明できるようにする。（２時間）

4	事前学習	児童福祉サービスの給付の仕組みを調べる。（２時間）
	授業内容	**社会福祉―児童②ー給付**
	事後学習	児童福祉サービスの給付にはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。（２時間）
5	事前学習	児童福祉に関連する判決文をよく読み、事実の概要と判旨をまとめたレポートを作成する。（２時間）
	授業内容	**社会福祉―児童③ー判例**
	事後学習	児童福祉に関連する判決の事実を確認した上で、判旨を理解し、説明できるようにする。（２時間）
6	事前学習	障害者福祉制度の仕組みを調べる。（２時間）
	授業内容	**社会福祉―障害者①ー障害者福祉制度の仕組み**
	事後学習	障害者福祉制度の仕組みを理解し、説明できるようにする。（２時間）
7	事前学習	障害者福祉制度の給付の仕組みを調べる。（２時間）
	授業内容	**社会福祉―障害者②ー給付**
	事後学習	障害者福祉制度の給付の仕組みにはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。（２時間）
8	事前学習	障害者福祉に関連する判決文をよく読み、事実の概要と判旨をまとめたレポートを作成する。（２時間）
	授業内容	**社会福祉―障害者③ー判例**
	事後学習	障害者福祉に関連する判決の事実を確認した上で、判旨を理解し、説明できるようにする。（２時間）
9	事前学習	介護保険の仕組みを調べる。（２時間）
	授業内容	**社会福祉―高齢者①ー介護保険としての仕組み**
	事後学習	介護保険の仕組みを理解し、説明できるようにする。（２時間）
10	事前学習	介護保険の給付の仕組みを調べる。（２時間）
	授業内容	**社会福祉―高齢者②ー給付**
	事後学習	介護保険の給付の仕組みにはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。（２時間）
11	事前学習	介護保険に関連する判決文をよく読み、事実の概要と判旨をまとめたレポートを作成する。（２時間）
	授業内容	**社会福祉―高齢者③ー判例**
	事後学習	介護保険に関連する判決の事実を確認した上で、判旨を理解し、説明できるようにする。（２時間）
12	事前学習	生活保護制度の仕組みを調べる。（２時間）
	授業内容	**生活保護①ー仕組み**
	事後学習	生活保護制度の仕組みを理解し、説明できるようにする。（２時間）
13	事前学習	生活保護の給付の仕組みを調べる。（２時間）
	授業内容	**生活保護②ー給付**
	事後学習	生活保護の給付の仕組みにはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。（２時間）
14	事前学習	生活保護に関連する判決文をよく読み、事実の概要と判旨をまとめたレポートを作成する。（２時間）
	授業内容	**生活保護③-判例**
	事後学習	生活保護に関連する判決の事実を確認した上で、判旨を理解し、説明できるようにする。（２時間）
15	事前学習	後学期に学習した内容を確認する。（２時間）
	授業内容	**講義のまとめ**
	事後学習	後学期の学習内容の理解を深める。（２時間）

科目名	英米法特殊講義Ⅰ	担当者	坂本　力也	期間	前期	単位数	2

授業概要	本講義では、ニューヨーク州弁護士（アメリカ）及び外国法事務弁護士（日本）として、英米法を準拠法とした国際契約に関わった経験を引きつつ、コモンローの基礎となるアメリカ契約法に基づく契約の成立要件と抗弁について判例と事案をとおして説明できる能力を養成する。
授業目的・到達目標	・大陸法との比較においてアメリカ契約法の特徴を説明することができるようになる。 ・英米法系の法域に所属する当事者と契約の交渉をする際に留意すべき事項について法的問題点を挙げて説明できるようになる。 ・英米法の専門用語を正確に理解し法的争点と法理を説明する際に効果的に使用できるようになる。 ・英米法特有のリーガルマインドを説明できるようになる。 関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，２，３，４，６
履修条件	授業での使用言語は日本語を基本とするが、受講者は講義ごとに課される英文資料を予習したうえで講義にのぞみ、日英両言語でなされる質疑応答に積極的に参加することを求められる。
授業方法	講義形式ですすめていくが、事例と判例についてはディスカッション形式ですすめていく。期末レポートのフィードバックは提出日に課題の出題趣旨と評価ポイントの解説をすることで行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	なし
	平 常 評 価	100%	授業での発言（30%）と期末レポートの内容（70%）を総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	1969	West Publishing Co.	Contracts	Chester H. Smith
	備考	講義中に資料を配布する。		

参 考 書	樋口範雄著『アメリカ契約法第2版』（弘文堂、2008年）、『英米判例百選第3版』（有斐閣、1996年）、 『アメリカ法判例百選』（有斐閣、2012年）、『英米法辞典』（東京大学出版会、1991年）
オフィスアワー	日時：水曜日12:30-13:00 場所：9号館1階ロビー 備考：休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	大陸法系と英米法系の特徴について調べ、自分なりの見解と疑問点をまとめてくる。（2時間）
	授業内容	**英米契約法総論（１）** **アメリカ契約法の法源には、主に判例法（common law）と制定法（statutory law）がある。これらの法源の相互関係を説明できるようになる。また、法律上の契約の「定義」と「成立要件」について説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）
2	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**英米契約法総論（２）** **アメリカにおける物品売買を対象とした統一商法典（UCC）第二編のコモンローとの関係を説明することができるようになる。また、コモンローとエクイティーについてその相互関係を説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）
3	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**契約の成立要件：相互の合意の一致：申込（offer）（1）** **申込の「定義」と「要件」について事例・判例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）

4	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**契約の成立要件：相互の合意の一致：申込（offer）（2） 「申込撤回自由の原則」や「オプション契約」など申込に関する法的争点と法理を判例と事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）
5	事前学習	講義で配布した教科書の資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**契約の成立要件：相互の合意の一致：承諾（acceptance）（1） 承諾の「定義」と「要件」について事例・判例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）
6	事前学習	講義で配布した教科書の資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**契約の成立要件：相互の合意の一致：承諾（acceptance）（2） 「ミラーイメージルール」や「メールボックスルール」といった承諾に関する法的争点と法理を説明できるようになる。物品売買に関しては「書式の戦い」に関する法的争点と法理を説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）
7	事前学習	講義で配布した教科書の資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**契約の成立要件：約因（consideration）（1） 約因は、英米契約法に特有の契約成立要件の一つであり、日本には存在しない法理である。約因に関する法的争点と法理について判例と事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）
8	事前学習	講義で配布した教科書の資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**契約の成立要件：約因（consideration）（２） 前週につづき、約因に関する法的争点と法理について判例と事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）
9	事前学習	講義で配布した教科書の資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**契約の成立要件：約因の代替（substitutes for consideration）―約束的禁反言（promissory estoppel） 約因が存在しない場合にも契約の成立が認められる場合を判例と事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）
10	事前学習	講義で配布した教科書の資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**契約の成立に対する抗弁（1） 　契約の成立に対する抗弁として認められてきた契約締結能力（capacity）の欠如、違法性（illegality）、強迫（duress）とかかる抗弁の結果として契約が無効（void）とされる場合と抗弁を主張しうる当事者によって取消しうべき（voidable）契約とされる場合について、判例と事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）
11	事前学習	講義で配布した教科書の資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**契約の成立に対する抗弁（2） 　錯誤（mistake）、詐欺（fraud）、非良心性（unconscionability）の抗弁が存在するときも、かかる抗弁の結果として契約が無効（void）とされる場合と抗弁を主張しうる当事者によって取消しうべき（voidable）契約とされる場合がある。これらの場合について判例と事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）
12	事前学習	講義で配布した教科書の資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**契約の成立に対する抗弁（3） 　詐欺防止法（Statute of Frauds）は17世紀に英国の議会を通過して成立した法律である。同法は一定の種類の契約が書面でなされることを要求し書面がなければ裁判所は契約の内容を強制しないものとする。同法はアメリカに受け継がれ発展してきた。判例と事例をとおして同法の対象となる契約の種類を整理し、関連する法的争点と法理について説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）
13	事前学習	講義で配布した教科書の資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**契約の成立に対する抗弁（4） 前週から続き、詐欺防止法に関する判例と事例をとおして、同法に関連する法的争点と法理について説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）
14	事前学習	講義で配布した教科書の資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。（2時間）
	授業内容	**契約の成立に対する抗弁（5） 　詐欺防止法の対象となる契約でも部分履行（part performance）の法理や禁反言（estoppel）の法理により裁判所で強制されうる場合があることについて判例と事例をとおして説明できるようになる。また、口頭（文書）証拠排除法則(parol evidence rule)についても判例と事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。（2時間）

15	事前学習	事前に課したレポートを作成し提出に備える。（3.5時間）
	授業内容	**レポートの提出と課題の出題趣旨と評価ポイントの解説を行う。**
	事後学習	出題趣旨と評価ポイントを踏まえ自らのパフォーマンスを分析する。（0.5時間）

科目名	英米法特殊講義Ⅱ	担当者	坂本　力也	期間	後期	単位数	2

授業概要	イギリス法を継受し豊富な判例の蓄積をとおして形成されてきたアメリカ不法行為法を判例・事例をとおして学んでいく。
授業目的・到達目標	・アメリカの民事裁判手続の流れを説明できるようになる。 ・アメリカの不法行為法の類型と各不法行為の構成要件及び抗弁について説明できるようになる。 ・英米法の専門用語を正確に理解したうえで上述の説明の中で使用できるようになる。 ・英米法特有のリーガルマインドを説明できるようになる。 関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，２，３，４，６
履修条件	授業での使用言語は日本語を基本とするが、受講者は講義ごとに課される英文資料を予習したうえで講義にのぞみ、日英両言語でなされる質疑応答に積極的に参加する姿勢を求められる。
授業方法	講義形式ですすめていくが、事例と判例についてはディスカッション形式ですすめていく。期末レポートのフィードバックはその提出日に課題の出題趣旨と評価ポイントの解説をとおして行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	なし
	平 常 評 価	100%	授業での発言（30%）と期末レポートの内容（70%）を総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書は講義中にレジュメ・資料を配布する。教科書は使用しない。		

参 考 書	『英米判例百選第3版』（有斐閣、1996年）、『アメリカ法判例百選』（有斐閣、2012年）、『英米法辞典』（東京大学出版会、1991年）
オフィスアワー	日時: 水曜日12:30-13:00 場所: 9号館1階ロビー 備考: 休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	大陸法系と英米法系の法制度の特徴について調べ、自分なりの見解と疑問点をまとめてくる。(2時間)
	授業内容	英米不法行為法を「故意による不法行為（intentional torts）」、「過失による不法行為（negligence）」、及び「厳格責任（strict liability）」に分け説明できるようになる。アメリカの民事裁判手続の流れを説明できるようになる。
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
2	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	アメリカ不法行為法に基づく救済方法（損害賠償・差止命令等）と救済の対象となる損害の類型（懲罰的賠償等）について判例・事例をとおして説明できるようになる。
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
3	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	「故意による不法行為」の類型を整理し、各不法行為の成立要件及び抗弁とそれらに関連する法的争点と法理を判例・事例をとおして説明できるようになる。
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)

4	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	**前週から続き、「故意による不法行為」の類型を整理し、各不法行為の成立要件及び抗弁とそれらに関連する法的争点と法理を判例・事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
5	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	**「過失による不法行為」の成立要件及び抗弁とそれらに関連する法的争点と法理を判例・事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
6	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	**前週から続き、「過失による不法行為」の成立要件及び抗弁とそれらに関連する法的争点と法理を判例・事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
7	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	**前週から続き、「過失による不法行為」の成立要件及び抗弁とそれらに関連する法的争点と法理を判例・事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
8	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	**前週から続き、「過失による不法行為」の成立要件及び抗弁とそれらに関連する法的争点と法理を判例・事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
9	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	**「厳格責任」の対象となる不法行為の類型について説明できるようになる。アメリカにおける「厳格責任」としての「製造物責任（products liability）」の形成過程を判例の流れから説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
10	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	**「厳格責任」の対象となる各不法行為の構成要件と抗弁とそれらに関する法的争点と法理を判例・事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
11	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	**「名誉毀損（defamation）」の成立要件及び抗弁とそれらに関連する法的争点と法理について判例・事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
12	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	**前週から続き、「名誉毀損（defamation）」の成立要件及び抗弁とそれらに関連する法的争点と法理について判例・事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
13	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	**「プライバシーの侵害（invasion of privacy）」の対象となる不法行為の類型を説明できるようになる。「プライバシーの侵害（invasion of privacy）」の対象となる各不法行為の成立要件及び抗弁とそれらに関連する法的争点と法理について判例・事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
14	事前学習	講義で配布した資料を読み、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』で調べておく。(2時間)
	授業内容	**前週から続き、「プライバシーの侵害（invasion of privacy）」の対象となる各不法行為の成立要件及び抗弁とそれらに関連する法的争点と法理について判例・事例をとおして説明できるようになる。**
	事後学習	講義で学んだポイントを復習し法的争点と法理を中心にまとめておく。(2時間)
15	事前学習	事前に課されたレポート課題についてレポートを作成し提出に備える。(3.5時間)
	授業内容	**レポート提出と課題の出題趣旨と評価ポイントの解説を行う。**
	事後学習	出題趣旨と評価ポイントを踏まえ自らのパフォーマンスを評価する。(0.5時間)

科目名	仏法特殊講義Ⅰ	担当者	神尾　真知子	期間	前期	単位数	2

授業概要	フランス法に関する日本語で書かれた概説書を講読し、フランス法はどのように現行のフランス法に形成されたのか、現行フランス法の基本構造はどのようになっているのかを学習する。
授業目的・到達目標	院生が、フランス法の歴史的形成及び現行フランス法の基本構造を理解し、説明できるようにする。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，２，６
履修条件	院生が、自分の研究テーマに関して、フランス法を比較法として研究することをめざすこと。
授業方法	フランス法に関する日本語文献を輪読し、双方向的な講義とする。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	講義への積極的参加などにより総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	２０２１年度	三省堂	『フランス法（第5版）』	滝沢正
	備考			

参 考 書	中村紘一郎他監訳『フランス法律用語辞典（第３版）』三省堂、山口俊夫『概説フランス法上下』東京大学出版会
オフィスアワー	水曜日12時30分～13時（事前にメールでアポイントを取ること） 適宜場所を指定する。　kamio.machiko〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、フランス法を学ぶ意義について考える。教科書第2部第3編第3章「法資料の手引」を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**オリエンテーション―授業スケジュール、成績評価の方法、フランス法の学び方、文献検索方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。**
	事後学習	フランス法の学び方及び文献検索方法を確認する。（2時間）
2	事前学習	担当部分を予習し、ガリア・ローマ期のフランス法の国家体制と裁判制度の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（１）―ガリア・ローマ期のフランス法（国家体制と裁判制度）**
	事後学習	ガリア・ローマ期の国家体制と裁判制度はどのようなものだったのか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
3	事前学習	担当部分を予習し、ガリア・ローマ期のフランス法の法源を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（２）―ガリア・ローマ期のフランス法（法源）**
	事後学習	ガリア・ローマ期のフランス法の法源はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）

4	事前学習	担当部分を予習し、フランク王国期の国家体制と裁判制度の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（３）ーフランク王国期のフランス法（国家体制と裁判制度）**
	事後学習	フランク王国期の国家体制と裁判制度はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
5	事前学習	担当部分を予習し、フランク王国期のフランス法の法源を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（４）ーフランク王国期のフランス法（法源）**
	事後学習	フランク王国期のフランス法の法源はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
6	事前学習	担当部分を予習し、中世封建制度期の国家体制と裁判制度を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（５）ー中世封建制度期のフランス法（国家体制と裁判制度）**
	事後学習	中世封建制度期の国家体制と裁判制度はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
7	事前学習	担当部分を予習し、中世封建制度期のフランス法の法源を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（６）ー中世封建制度期のフランス法（法源）**
	事後学習	中世封建制度期のフランス法の法源はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
8	事前学習	担当部分を予習し、近世絶対王政期の国家体制と裁判制度の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（７）ー近世絶対王政期のフランス法（国家体制と裁判制度）**
	事後学習	近世絶対王政期の国家体制と裁判制度はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
9	事前学習	担当部分を予習し、近世絶対王政期のフランス法の法源を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（８）ー近世絶対王政期のフランス法（法源）**
	事後学習	近世絶対王政期のフランス法の法源はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
10	事前学習	担当部分を予習し、革命高揚期の国家体制と裁判制度の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（９）ー革命高揚期のフランス法（国家体制と裁判制度）**
	事後学習	革命高揚期の国家体制と裁判制度はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
11	事前学習	担当部分を予習し、革命高揚期のフランス法の法源を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（１０）ー革命高揚期のフランス法（法源）**
	事後学習	革命高揚期のフランス法の法源はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
12	事前学習	担当部分を予習し、革命終息期の国家体制と裁判制度の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（１１）ー革命終息期のフランス法（国家体制と裁判制度）**
	事後学習	革命高揚期の国家体制と裁判制度はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
13	事前学習	担当部分を予習し、革命高終息期のフランス法の法源を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（１２）ー革命終息期のフランス法（法源）**
	事後学習	革命終息期のフランス法の法源はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
14	事前学習	担当部分を予習し、旧体制復活期の国家体制と裁判制度の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（１３）ー旧体制復活期のフランス法（国家体制と裁判制度）**
	事後学習	旧体制復活期の国家体制と裁判制度はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
15	事前学習	担当部分を予習し、旧体制復活期のフランス法の法源の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（１４）ー旧体制復活期のフランス法（法源）**
	事後学習	旧体制復活期のフランス法の法源はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）

科目名	仏法特殊講義Ⅱ	担当者	神尾　真知子	期間	後期	単位数	2

授業概要	フランス法に関する日本語で書かれた概説書を講読し、フランス法はどのように現行のフランス法に形成されたのか、現行フランス法の基本構造はどのようになっているのかを学習する。
授業目的・到達目標	院生が、フランス法の歴史的形成及び現行フランス法の基本構造を理解し、説明できるようにする。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，２，６
履修条件	院生が、自分の研究テーマに関して、フランス法を比較法として研究することをめざすこと。
授業方法	フランス法に関する日本語文献を輪読し、双方向的な講義とする。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	講義への積極的参加などにより総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	２０２１年度	三省堂	『フランス法（第5版）』	滝沢正
	備考			

参 考 書	中村紘一郎他監訳『フランス法律用語辞典（第３版）』三省堂、山口俊夫『概説フランス法上下』東京大学出版会
オフィスアワー	水曜日12時30分～13時（事前にメールでアポイントを取ること） 適宜場所を指定する。　kamio.machiko〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、フランス法を学ぶ意義について考える。教科書第2部第3編第3章「法資料の手引」を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**オリエンテーション一授業スケジュール、成績評価の方法、フランス法の学び方、文献検索方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。**
	事後学習	フランス法の学び方及び文献検索方法を確認する。（2時間）
2	事前学習	担当部分を予習し、共和国確立期のフランス法の国家体制と裁判制度の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（１）一共和国確立期のフランス法（国家体制と裁判制度）**
	事後学習	共和国確立期の国家体制と裁判制度はどのようなものだったのか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
3	事前学習	担当部分を予習し、共和国確立期のフランス法の法源を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（２）一共和国確立期のフランス法（法源）**
	事後学習	共和国確立期のフランス法の法源はどのようなものだったか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）

4	事前学習	担当部分を予習し、フランスの大統領と政府の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（３）ー統治機構（大統領と政府）**
	事後学習	大統領と政府はどのような特色を持っているのか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
5	事前学習	担当部分を予習し、フランスの国会と憲法上の諮問機関の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（４）ー統治機構（国会と憲法上の諮問機関）**
	事後学習	国会と憲法上の諮問機関はどのような特色を持っているのか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
6	事前学習	担当部分を予習し、国家行政組織と分権団体の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（５）ー行政組織（国家行政組織と分権団体）**
	事後学習	国家行政組織と分権団体はどのような特色を持っているのか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
7	事前学習	担当部分を予習し、公務員制度と公物制度の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（６）ー行政組織（公務員制度と公物制度）**
	事後学習	公務員制度と公物制度はどのような特色を持っているのか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
8	事前学習	担当部分を予習し、旧植民地と近隣諸国との関係の特色を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（７）ー対外関係（旧植民地と近隣諸国との関係）**
	事後学習	旧植民地と近隣諸国との関係はどのような特色を持っているのか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
9	事前学習	担当部分を予習し、司法裁判所と行政裁判所を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（８）ー裁判所（司法裁判所と行政裁判所）**
	事後学習	司法裁判所と行政裁判所はどのような特色を持っているのか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
10	事前学習	担当部分を予習し、特殊な裁判所を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（９）ー裁判所（特殊な裁判所）**
	事後学習	特殊な裁判所はどのような特色を持っているのか理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
11	事前学習	担当部分を予習し、法律家の養成と職業的法律家を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（１０）ー法律家（法律家の養成と職業的法律家）**
	事後学習	法律家の養成と職業的法律家についての理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
12	事前学習	担当部分を予習し、社会生活と法を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（１１）ー法律家（社会生活と法）**
	事後学習	社会生活と法について理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
13	事前学習	担当部分を予習し、法源の種類を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（１２）ー法源（法源の種類）**
	事後学習	法源の種類について理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
14	事前学習	担当部分を予習し、各法分野の法源を概観する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（１３）ー法源（各法分野の法源）**
	事後学習	各法分野の法源について理解を確認し、説明できるようにする。（2時間）
15	事前学習	これまで学んできたフランス法全体を振り返り、その特色を確認する。（2時間）
	授業内容	**『フランス法』講読（１４）ーフランス法学習内容の振り返り**
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。（2時間）

科目名	知的財産実務特論ＩA(産業財産権Ｉ)	担当者	加藤　浩	期間	前期	単位数	2

授業概要	特許法・実用新案法における理論上・実務上重要な事項を，論点形式，研究発表・討議を中心としたゼミナール形式により理解する授業を提供する。
授業目的・到達目標	（1）特許法・実用新案法における理論上・実務上重要な事項を，論点形式，研究発表・討議を中心として発表し、議論し、理解することができる。 （2）知的財産実務において、特許法・実用新案法を理解して活用できる。 関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻３，４，６，７
履修条件	特になし。
授業方法	講義は、ゼミナール形式とし、プレゼンテーションやディスカションに参加する授業方法により実施する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	
	平 常 評 価	100%	合格／不合格の判定は絶対評価。90点以上(S)、80点以上(A)、70点以上(B)、60点以上(C)は、それぞれ:25:40:30を目安とする相対評価。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない。		

参 考 書	中山信弘「特許法（第４版）」弘文堂、茶園成樹「特許法（第２版）」有斐閣、中山信弘「特許判例百選（第４版）」有斐閣、小泉直樹・田村善之「特許判例百選（第５版）」有斐閣
オフィスアワー	水曜日５時限目に設定する。（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館６階　１６１０号室）メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。また、知的財産法の全体像について考えておく。（２時間）
	授業内容	**授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、知的財産実務特論ＩAの学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、【事例問題１】について、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（２時間）
2	事前学習	事例問題２について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題２について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題２に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
3	事前学習	事例問題３について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題３について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題３に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）

4	事前学習	事例問題４について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題４について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題４に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
5	事前学習	事例問題５について事前に検討しておくこと。（２時間）。
	授業内容	**事例問題５について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題５に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
6	事前学習	事例問題６について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題６について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題６に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
7	事前学習	事例問題７について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題７について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題７に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
8	事前学習	事例問題８について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題８について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題８に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
9	事前学習	事例問題９について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題９について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題９に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
10	事前学習	事例問題１０について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題１０について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題１０に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
11	事前学習	事例問題１１について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題１１について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題１１に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
12	事前学習	事例問題１２について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題１２について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題１２に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
13	事前学習	事例問題１３について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題１３について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題１３に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
14	事前学習	事例問題１４について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題１４について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題１４に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
15	事前学習	事例問題１５について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題１５について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題１５に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）

科目名	知的財産実務特論ＩＢ(産業財産権Ｉ)	担当者	加藤　浩	期間	後期	単位数	2

授業概要	特許法・実用新案法における理論上・実務上重要な事項を，論点形式，研究発表・討議を中心としたゼミナール形式により理解する授業を提供する。
授業目的・到達目標	（1）特許法・実用新案法における理論上・実務上重要な事項を，論点形式，研究発表・討議を中心として発表し、議論し、理解することができる。 （2）知的財産実務において、特許法・実用新案法を理解して活用できる。 関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻３，４，６，７
履修条件	特になし。
授業方法	講義は、ゼミナール形式とし、プレゼンテーションやディスカションに参加する授業方法により実施する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	
	平 常 評 価	100%	合格／不合格の判定は絶対評価。90点以上(S)、80点以上(A)、70点以上(B)、60点以上(C)は、それぞれ:25:40:30を目安とする相対評価。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない。		

参 考 書	中山信弘「特許法（第４版）」弘文堂、茶園成樹「特許法（第２版）」有斐閣、中山信弘「特許判例百選（第４版）」有斐閣、小泉直樹・田村善之「特許判例百選（第５版）」有斐閣
オフィスアワー	水曜日５時限目に設定する。（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館６階　１６１０号室）メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数	授　業　内　容	
1	事前学習	事例問題１６について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題１６について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	講事例問題１６に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
2	事前学習	事例問題１７について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題１７について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題１７に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
3	事前学習	事例問題１８について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題３について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題１８に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）

4	事前学習	事例問題１９について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題１９について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題１９に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
5	事前学習	事例問題２０について事前に検討しておくこと。（２時間）。
	授業内容	**事例問題２０ついて発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題２０に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
6	事前学習	事例問題２１について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題２１について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題２１に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
7	事前学習	事例問題２２について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題２２について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題２２に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
8	事前学習	事例問題２３について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題２３について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題２３に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
9	事前学習	事例問題２４について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題２４について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題２４に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
10	事前学習	事例問題２５について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題２５について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題２５に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
11	事前学習	事例問題２６について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題２６について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題２６に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
12	事前学習	事例問題２７について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題２７について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題２７に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
13	事前学習	事例問題２８について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題２８について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題２８に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
14	事前学習	事例問題２９について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題２９について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題２９に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）
15	事前学習	事例問題３０について事前に検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**事例問題３０について発表させ、知的財産実務の観点から議論する。**
	事後学習	事例問題３０に関する発表と議論の内容について復習しておくこと。（２時間）

科目名	知的財産実務特論ⅡA(産業財産権Ⅱ)	担当者	小川　宗一	期間	前期	単位数	2

授業概要	実務的な色彩の強い「商標法」の学習・研究においては、法律の条文のみならず、それを裁判所が具体的な事案において解釈適用した結果である判例の的確な理解が不可欠であることに鑑み、本授業では、主として、商標登録要件、商標・商品/役務の類似、出願・審査に関する商標法の判例研究を学修する。 なお、本科目は、弁理士試験短答式一部科目免除対応科目である。
授業目的・到達目標	判例研究を通じて、判例の内容を的確に理解することにより、商標法の理論と実務を修得し、具体的事案の分析能力や紛争解決能力の取得を目的とする。 商標法に関する理論と実務について、学生が深く理解をし、説明や議論ができ、的確な事例の分析や事案解決ができるようになることを目標とする。 関連するDP・CP私法学専攻3,4,6,7
履修条件	「商標法特殊講義Ⅰ、Ⅱ」の履修後であることが望ましい。 「知的財産実務特論ⅡB」も履修することが望ましい。
授業方法	ｾﾞﾐ形式。各学生に判例を割り当て、研究内容をﾊﾟﾜｰﾎﾟｲﾝﾄで報告してもらい、全員で討議。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	報告内容・討議姿勢及びﾚﾎﾟｰﾄにより、[到達目標]に関する知識・能力の修得度を評価。 出席率70%未満は不合格。S・A・B・Cは5:25:40:30を目安とする相対評価。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2020年	有斐閣	（別冊ジュリスト）「商標・意匠・不正競争判例百選（2版）」	茶園成樹・他編
	2018年	有斐閣	商標法〔第2版〕	茶園成樹編
	備考			

参考書	必要に応じ紹介する。
オフィスアワー	本授業終了後　授業講堂 【授業内容以外で受け付ける質問・相談について】弁理士試験対策、特許庁商標審査官について 【学生との連絡用メールアドレス】ogawa.soichi○nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、授業の内容や目的を理解し、講義全体を概観する。（30分）
	授業内容	**授業の内容・スケジュール、成績評価の方法、教科書等について説明するとともに、判例研究の意義・重要性、判例検索の方法等について説明をし、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。授業で扱う具体的な判例を示し、履修の有無を確認した上で、次回以降の授業で扱うテーマごとの判例を学生達に割り当てる。**
	事後学習	授業内容を記したノート及び配布資料に基づき、今後の授業内容についての理解を深めた上で履修を確認し、割り当てられた判例の確認、判決文の入手等を行い、次回以降の授業の準備に備える。（70分）
2	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商標登録要件（3条1項3号の趣旨、産地･販売地の意義）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
3	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商標登録要件（立体商標）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）

4	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商標登録要件（単色の色彩商標）」に関する判例研究について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
5	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「使用による識別力の獲得」に関する判例研究について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
6	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「不登録事由（公序良俗を害するおそれがある商標）」に関する判例研究について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
7	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「不登録事由(他人の氏名･名称等を含む商標「他人の名称の意義」「略称の著名性」)」に関する判例研究について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
8	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「不登録事由(他人の氏名･名称等を含む商標「出願後に他人の承諾を欠くこととなった商標の扱い」)」に関する判例研究について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
9	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「不登録事由(他人の氏名･名称等を含む商標「音商標と人の氏名の関係」）に関する判例研究について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
10	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「不登録事由(混同を生じるおそれがある商標）」に関する判例研究について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
11	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「地域団体商標（登録要件）」に関する判例研究について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
12	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「防護標章（登録要件）」に関する判例研究について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
13	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商標類否判断基準」「商標の類似（登録場面における取引実情の考慮）」に関する判例研究について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
14	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商標の類似（侵害場面における取引実情の考慮）」に関する判例研究について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）

15	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商品の類否判断基準」に関する判例研究について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）

科目名	知的財産実務特論ⅡB(産業財産権Ⅱ)	担当者	小川　宗一	期間	後期	単位数	2

授業概要	実務的な色彩の強い「商標法」の学習・研究においては、法律の条文のみならず、それを裁判所が具体的な事案において解釈適用した結果である判例の的確な理解が不可欠であることに鑑み、本授業では、主として、商標権の侵害、審判・訴訟に関する商標法の判例研究を学修する。 なお、本科目は、弁理士試験短答式一部科目免除対応科目である。
授業目的・到達目標	判例研究を通じて、判例の内容を的確に理解することにより、商標法の理論と実務を修得し、具体的事案の分析能力や紛争解決能力の取得を目的とする。 商標法に関する理論と実務について、学生が深く理解をし、説明や議論ができ、的確な事例の分析や事案解決ができるようになることを目標とする。 関連するDP･CP私法学専攻3,4,6,7
履修条件	「商標法特殊講義Ⅰ、Ⅱ」及び「知的財産実務特論ⅡA」の履修後であることが望ましい。
授業方法	ｾﾞﾐ形式。各学生に判例を割り当て、研究内容をﾊﾟﾜｰﾎﾟｲﾝﾄで報告してもらい、全員で討議。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	報告内容・討議姿勢及びレポートにより、[到達目標]に関する知識･能力の修得度を評価。出席率70%未満は不合格。S･A･B･Cは5:25:40:30を目安とする相対評価。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2020年	有斐閣	（別冊ジュリスト）「商標・意匠・不正競争判例百選（2版）」	茶園成樹・他編
	2018年	有斐閣	商標法〔第2版〕	茶園成樹編
	備考			

参考書	必要に応じ紹介する。
オフィスアワー	本授業終了後　授業講堂 【授業内容以外で受け付ける質問･相談について】弁理士試験対策、特許庁商標審査官について 【学生との連絡用メールアドレス】ogawa.soichi〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、授業の内容や目的を理解し、講義全体を概観する。（30分）
	授業内容	**授業の内容・スケジュール、成績評価の方法、教科書等について説明するとともに、判例研究の意義・重要性、判例検索の方法等について説明をし、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。授業で扱う具体的な判例を示し、履修の有無を確認した上で、次回以降の授業で扱うテーマごとの判例を学生達に割り当てる。**
	事後学習	授業内容を記したノート及び配布資料に基づき、今後の授業内容についての理解を深めた上で履修を確認し、割り当てられた判例の確認、判決文の入手等を行い、次回以降の授業の準備に備える。（70分）
2	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商標の使用・打ち消し表示」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
3	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商標権の制限(普通名称)」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）

4	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商標権の制限(先使用）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
5	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商標権の制限(並行輸入）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
6	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商標権の制限（商品の改変）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
7	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商標権の制限（商品の小分け)」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
8	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商標権の制限（権利濫用）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
9	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商標権の制限（無効審判請求の除斥期間経過後の権利行使の許否）」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
10	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「侵害主体・ｲﾝﾀｰﾈｯﾄｼｮｯﾋﾟﾝｸﾞﾓｰﾙ運営者の責任」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
11	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「38条3項と損害不発生の抗弁」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
12	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「拒絶審決取消訴訟係属中にされた商標の分割出願に伴う補正の効果」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
13	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「不使用取消審決取消訴訟における使用事実立証」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）
14	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「不使用取消・商標的使用の要否」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）

15	事前学習	報告者は、指定判例に関する事実の概要・論点・研究内容について、パワーポイントによる報告の準備をする。 報告者以外の学生も、指定判例を読み、その内容把握をした上で、論点について考えてくる。（130分）
	授業内容	**「商標権が分割・移転された場合における使用権者の不正使用」に関する判例について、研究発表を基にして質疑応答・討論を行い、理論と実務上の観点から考察する。**
	事後学習	報告者は、授業内での質疑応答・討論の内容も踏まえて、研究内容についてレポートを作成し、後日に提出する。 報告者以外の者も、配布資料・講義ノートに基づき、当該判例の論点・自分なりの考え方を整理し、理解を深める。（120分）

科目名	知的財産政策特論Ⅰ（知的財産政策）	担当者	金澤　良弘	期間	前期	単位数	2

授業概要	知的財産は，経済・産業・社会の諸活動に深く関わり，国の発展，企業の競争力強化，暮らしの安全と安心の向上，文化の発展等に不可欠になっている。本授業では，知的財産に関して講じられている（講じられてきた）政策について，それらの背景，実現すべき課題，政策の内容，課題達成のための手法等について学修する。
授業目的・到達目標	知的財産をめぐる今日的な課題とそれへの対応方法を学ぶことにより，知的財産の創造・保護及び多様な活用等知的財産に関わる諸活動を効果的に行う力を身に着けることを目的とする。 〔到達目標〕 ・知的財産政策に関わる法体系，推進体制を理解し，説明することができる。 ・知的財産に関する主要な政策課題を指摘し，また，それに対応するための具体的な施策の動向を説明することができる。 〔関連するDP・CP〕私法学専攻１，２，４
履修条件	特になし。
授業方法	配布資料に基づく講義及び学生からの報告とそれに基づく討論により行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	報告・討論における発言内容並びに授業への参加・貢献度を総合的に評価する。出席率が2/3に満たない者は採点対象としない。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特に使用しない。		

参考書	必要な場合には授業中に指示する。
オフィスアワー	火曜日13：30～14：30，場所は指定する講堂等 事前にメールで予約すること（kanazawa.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを読み，授業の概要，授業目的・到達目標，授業の進め方等を理解する。（2時間）
	授業内容	**【イントロダクション】** **本授業の概要，目的・到達目標，履修条件，授業方法，成績評価の方法等について説明する。** **また，知的財産政策の意義について学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，本授業における学修内容，授業方法等について確認する。また，知的財産政策の意義について整理する。（2時間）
2	事前学習	あらかじめ知的財産基本法を読みその内容を把握する。（2時間）
	授業内容	**【知的財産政策の枠組】** **知的財産基本法，知的財産推進計画，知的財産戦略本部等知的財産政策の基本的な枠組について学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，わが国の知的財産政策の枠組について整理する。（2時間）
3	事前学習	知的財産政策がどのような基本方針のもとに，どのような分野を対象として策定・推進されているのかについて，あらかじめ調べておく。（2時間）
	授業内容	**【知的財産政策の基本方針及び対象とする政策分野】** **知的財産政策の基本方針及び対象とする政策分野について学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，知的財産政策の基本方針及び対象とする政策分野について整理する。（2時間）

4	事前学習	大学及び企業の活動と知的財産がどのように関わるのかについて，あらかじめ考えておく。（2時間）
	授業内容	**【大学及び企業の活動と知的財産】 大学及び企業の活動における知的財産の重要性とそれを踏まえた政策について学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，大学及び企業の活動における知的財産の重要性及びそれを踏まえた政策について整理する。（2時間）
5	事前学習	あらかじめ知的財産戦略ビジョン（2018）を読み，その内容を把握する。（2時間）
	授業内容	**【知的財産政策の現況１　知的財産戦略ビジョン】 知的財産戦略ビジョンを通じて知的財産政策の現況について学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，知的財産戦略ビジョンについて整理する。（2時間）
6	事前学習	あらかじめ最新の知的財産推進計画を読み，その内容を把握する。（2時間）
	授業内容	**【知的財産政策の現況２　知的財産推進計画】 最新の知的財産推進計画を通じて知的財産政策の現況について学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，知的財産推進計画について整理する。（2時間）
7	事前学習	科学技術・イノベーションとは何かについて，あらかじめ調べておく。（2時間）
	授業内容	**【主要な政策課題１　科学技術・イノベーションの推進】 科学技術・イノベーション政策における知的財産の役割，現況と問題の所在，問題解決のための取組等について学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，科学技術・イノベーション政策における知的財産の役割について整理する。（2時間）
8	事前学習	国際標準とは何かについて，あらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	**【主要な政策課題２　国際標準への対応】 国際標準への対応について，その現況，問題の所在，問題解決のための取組等について学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，国際標準への取組等について整理する。（2時間）
9	事前学習	中小・ベンチャー企業，地域産業の活性化を図るうえで，知的財産がどのような役割を果たすのかについて，あらかじめ考えておく。（2時間）
	授業内容	**【主要な政策課題３　中小・ベンチャー企業，地域産業への知財支援】 中小・ベンチャー企業，地域産業への知的財産支援について，その現況，問題の所在，問題解決のための取組等について学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，中小・ベンチャー企業，地域産業への知財支援について整理する。（2時間）
10	事前学習	クールジャパンとはどのような取組であるのかについて，事前に調べておく。（2時間）
	授業内容	**【主要な政策課題４　クールジャパンの推進】 クールジャパン政策について，その現況，問題の所在，問題解決のための取組等について学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，クールジャパンの推進について整理する。（2時間）
11	事前学習	コンテンツビジネスを振興するためにはどのような取組が必要であるかについてあらかじめ考えておく。（2時間）
	授業内容	**【主要な政策課題５　コンテンツビジネスの振興】 コンテンツビジネスの振興について，その現況，問題の所在，問題解決のための取組等について学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，コンテンツビジネスの振興について整理する。（2時間）
12	事前学習	知財教育・知財人材育成を推進するためにはどのような取組が必要であるかについて，あらかじめ考えておく。（2時間）
	授業内容	**【主要な政策課題６　知財教育・知財人材育成】 知財教育・知財人材育成について，その現況，問題の所在，問題解決のための取組等について学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，知財教育・知財人材育成について整理する。（2時間）
13	事前学習	事前に提示された課題について，あらかじめその概要を調べておく。（2時間）
	授業内容	**【主要な政策課題７　その他の政策課題１】 知的財産推進計画の策定作業等において検討されている新たな課題を取り上げ，その概要，問題の所在，問題解決のための取組等について学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，当該分野の政策動向について整理する。（2時間）
14	事前学習	事前に提示された課題について，あらかじめその概要を調べておく。（2時間）
	授業内容	**【主要な政策課題８　その他の政策課題２】 知的財産推進計画の策定作業等において検討されている新たな課題を取り上げ，その概要，問題の所在，問題解決のための取組等について学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，当該分野の政策動向について整理する。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業で配布された資料を再読し，知的財産政策の現況，主要政策課題における取組等について，自分なりの整理を行う。（2時間）
	授業内容	**【授業のまとめ】 本授業で学修した事項の振り返りとまとめを行い，今後の知的財産政策を展望する。**
	事後学習	到達目標の達成状況を自己評価し，さらなる学修に向けての課題を明確にする。（2時間）

科目名	知的財産政策特論Ⅰ（国際標準と知的財産）	担当者	劉　斌斌	期間	前期	単位数	2

授業概要	国の産業構造や企業制度の在り方に、国際標準化が大きな影響を与えるようになった。本授業では、「国際標準」という、高度な知的財産戦略の視点から、在るべき対策を明らかにする。既存の標準化論を起点に論じるのではなく、できるだけ多くの事例、最新情報、データを使用しながら、考えさせられる事実・視点を持って語らしめる手法を徹底させ、問題意識のもとに、国際標準化の作用から、知的財産の役割までを考察する。
授業目的・到達目標	国際標準化に向けて、イノベーションや知財政策など、さまざまな変容過程における発展、法問題及び動向に関する考察・研究・討論により、国際的な視野から、知的財産制度、政策および知財実務に関する知識を深めることを目的とする。現代の国際社会での、国際標準化のパターンを理解しながら、知的財産の分野において、諸外国とのかけ橋になり、問題解決ができる、リーダーシップの取れる人材を目指すことを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，２，４
履修条件	特になし
授業方法	レジメ、PPT 、資料など用いて講義する。最新の情報、事例、判例も適宜教材にし、授業時間内で講評・解説・討論を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	討論における積極的な発言内容、報告および授業への参加・貢献度を総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない		

参 考 書	必要な場合には授業中に指示する。
オフィスアワー	研究室にて、月曜日14：40―16：10

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	授業の概要、授業の目的、進行などを理解し、講義を概観すべく予習を行う。（2時間）
	授業内容	**国際標準概論：国際標準化の重要性、標準化の動向、標準化促進制度の活用などについて学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、講義内容ついて理解し、まとめる。（2時間）
2	事前学習	毎回、次回授業のレジメや資料を配布する。しっかり予習しておく。（2時間）
	授業内容	**国際標準化の歴史的な変質に関する考察について、事例を踏まえて理解する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、復習しながら重要なポイントを整理し、まとめる。（2時間）
3	事前学習	次回授業のレジメや資料を配布する。イノベーションの基本などについて調べておく。（2時間）
	授業内容	**技術とイノベーションについて考察・研究・討論する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、イノベーションと競争、組織、制度、政策等との分析視角を認識し、まとめる。（2時間）

4	事前学習	次回授業のレジメや資料を配布するので、判例を読み、日本特許法に関する間接侵害理論を含む予習しておく。（2時間）
	授業内容	**事例、判例で読む：イノベーション戦略背景の下での主要国標準化の制度に関する考察・研究をする（１）**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、政策と実務の面から、標準化に向けて取り込むポイントを復習し、自分なりの理解・研究ノートを整理し、まとめる。（2時間）
5	事前学習	レジメや資料を配布するので、しっかり予習する。判例を読み、判旨を理解して予習しておく。（2時間）
	授業内容	**事例、判例で読む：イノベーション戦略背景の下での主要国標準化の制度に関する考察・研究をする（２）**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、比較法の視点から、自分なりの認識・理解をまとめる。（2時間）
6	事前学習	次回授業のレジメや資料を配布するので、日本のイノベーションと国際競争力、第三次産業革命などの内容を含む予習をしておく。（2時間）
	授業内容	**産業革命の視点からみる：企業のオープンイノベーション戦略について考察・研究・討論をする**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、国際的な視点から講義内容に関して、自分なりの認識を整理しまとめる。（2時間）
7	事前学習	次回授業のレジメや資料を配布するので、事例や判例を踏まえて予習しておく。（2時間）
	授業内容	**標準化・オープン化と企業の知的財産戦略**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、判例を通じて比較法の視点から理解し、ポイントを整理し、まとめる。（2時間）
8	事前学習	次回授業のレジメや資料を配布するので、判例を読む、比較法の視点から予習しておく。（2時間）
	授業内容	**標準化と特許について考察・研究・討論する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、注意点および問題点を整理し、まとめる。（2時間）
9	事前学習	次回授業のレジメや資料を配布する。国によって特許に関する裁判制度の相違などについて調べておく。（2時間）
	授業内容	**技術標準と特許を巡る問題**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、比較をする視点から、事例を踏まえて、イノベーションを促進する制度としての特許とその問題点について、自分なりの理解を整理し、まとめる。（２時間）
10	事前学習	次回授業のレジメや資料を配布するので、国際的な視点から見た、標準必須特許訴訟の流れおよび動向など、予習しておく。（2時間）
	授業内容	**判例で読む：標準必須特許訴訟をめぐる差止め問題**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、比較法の視点から、「標準化法」・「特許法」・「独占禁止法」という三つの法分野から見る標準必須特許訴訟における差止め請求権の行使にまつわる問題点等を認識し、まとめる。（2時間）
11	事前学習	レジメや資料を配布するので、講義内容について調べて、しっかり予習しておく。（2時間）
	授業内容	**（米・日・中）における技術標準と特許をめぐる最新動向及び企業の戦略**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、国際的な視点から、問題にどう向き合うべきか、自分なりの考えを整理し、まとめる。（2時間）
12	事前学習	）レジメや資料を配布するので、しっかり予習しておく。（2時間）
	授業内容	**判例で読む：標準必須特許の認定について**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、授業の内容を確認し、自分なりの認識・理解をまとめる。（2時間）
13	事前学習	レジメや資料を配布するので、米中貿易戦争と標準化について調べて、しっかり予習しておく。（2時間
	授業内容	**中米貿易戦争と知的財産問題（技術標準を中心に）について考察・研究・討論をする。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、授業の内容を確認し、留意点および問題点など、自分なりの認識・理解をまとめる。（2時間）
14	事前学習	レジメや資料を配布するので、比較法の視点から、しっかり予習する。判例を読み、判旨を理解しておく。（2時間）
	授業内容	**具体的な判例を踏まえて、特許標準化と独占禁止について、考察・研究・討論する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、国際的な視点から自分なりの考えを整理し、まとめる。（2時間）
15	事前学習	レジメや資料を配布するので、比較的なの視点から、予習しておく。（２時間）
	授業内容	**最新の情報を踏まえ、国際的な視野や知的財産政策面からの企業知財活動、および知財人材の養成、知財教育に関する動向、展望などについて、比較しながら考察・討論する。**
	事後学習	講義の内容を検討し、知財戦略および国際標準化に向けた戦略を、政策・法務・企業活動などで生かせるよう、知識を深めて、自分なりの理解・考えをまとめる。（２時間）

科目名	知的財産政策特論Ⅱ（知財とイノベーション）	担当者	金澤　良弘	期間	前期	単位数	2

授業概要	イノベーションは，経済成長の推進力として，また，エネルギー・環境，健康・医療等地球的・社会的課題の解決，企業の競争力強化等に重要な役割を果たす。本授業では，イノベーションの意義，企業の競争力への影響，イノベーションにおける知的財産の活用方策等について学修する。
授業目的・到達目標	企業等における創造的な活動において問題点や課題を発見し，解決策を提案する能力を養成することを目的とする。 〔到達目標〕 ・イノベーションの意義，イノベーション・マネジメントの重要性と方法，知的財産の活用方策等について理解し，説明することができる。 ・イノベーションの事例について，成功（失敗）の要因を指摘できるとともに，さらなる発展のために改善すべき点を提案することができる。 〔関連するDP・CP〕私法学専攻１，４，６
履修条件	企業における新しい製品・サービスの創出に関心のある学生の受講を希望する。
授業方法	毎回配布する資料に基づく講義及び討論により進める。授業の中での報告とレポートの提出を求める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	発表・レポートの内容及び授業への参加・貢献を総合的に評価する。出席率2/3未満の者は採点対象としない。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。		

参考書	必要な場合には授業中に指示する。
オフィスアワー	火曜日13：30～14：30，場所は指定する講堂等 事前に予約すること（kanazawa.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを読み，授業の概要，授業目的・到達目標，授業の進め方等を理解する。（2時間）
	授業内容	**【イントロダクション】 本授業の概要，目的・到達目標，履修条件，授業方法，成績評価の方法等について説明する。また，イノベーションの事例を通じて，本授業におけるイノベーションについての共通認識を醸成する。**
	事後学習	配布したプリントを再読し，本授業における学修内容，授業方法等を確認する。（2時間）
2	事前学習	「イノベーションとは何か」について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	**【イノベーションに関する基本的な概念】 イノベーションの定義，イノベーションの普及，イノベーション・マネジメント等イノベーションに関する基本的な概念について学修する。**
	事後学習	配布したプリントを再読し，イノベーションに関する基本的な概念について整理する。（2時間）
3	事前学習	自分が関心を持ったイノベーションの事例について，どのような点が革新的であったのかについて自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	**【イノベーションの事例】 様々なイノベーションの事例について，イノベーションが実現した経緯，成功の要因等について学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，それぞれの事例が成功した要因について整理する。（2時間）

4	事前学習	新しい製品・サービスの成功・失敗が企業の競争力に及ぼす影響について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	**【イノベーションと企業の競争力１】 イノベーション創出が市場における企業の競争力に及ぼす影響について学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，イノベーションが企業の競争力に及ぼす影響について整理する。（2時間）
5	事前学習	新しい製品・サービスの出現が企業の競争力に多大な影響を与えた事例を取り上げ，その概要を調べる。（2時間）
	授業内容	**【イノベーションと企業の競争力２】 企業の競争力に大きな影響を及ぼすタイプのイノベーションについて学修する。**
	事後学習	企業の競争力に大きな影響を及ぼすタイプのイノベーションについて整理する。（2時間）
6	事前学習	新しい製品・サービスにつながる技術や新製品の開発に当たりマネジメントすべき事項について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	**【イノベーション・マネジメント１】 企業の継続的な発展を図るためには，イノベーション・マネジメントが重要であることについて学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，イノベーション・マネジメントの重要性について整理する。（2個間）
7	事前学習	新しい製品・サービスから収益を得るために着目すべき事項について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	**【イノベーション・マネジメント２】 イノベーション・マネジメントにおいて着目すべきる視点及びそれを踏まえた取組について学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，イノベーション・マネジメントにおいて着目すべき事項について整理する。（2個間）
8	事前学習	複数の企業が協働してイノベーションを実現した事例を取り上げ，その概要を調べる。（2時間）
	授業内容	**【イノベーション・マネジメント３】 競争力のある新製品・サービスを創出する方法として取組が進んでいるオープン・イノベーションについて学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，オープン・イノベーションについて整理する。（2時間）
9	事前学習	イノベーション実現のため，どのような知的財産の活用方法があるのかについて自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	**【イノベーションと知財マネジメント１】 イノベーション創出に当たり知財マネジメントが重要であること，その功拙がもたらすメリット・デメリット等について学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，知財マネジメントの巧拙がイノベーションにもたらすメリット・デメリットについて整理する。（2時間）
10	事前学習	知的財産の価値は何によって測るべきか，について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	**【イノベーションと知財マネジメント２】 知的財産権の価値は，それが市場において産み出す経済的価値により評価されること，それゆえ実施する企業の状況や市場環境等に依存すること等について学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，知的財産の価値がそれが活用される状況に依存して決まることについて整理する。（2時間）
11	事前学習	企業による知的財産の活用と大学・公的研究機関における活用との違いを考えてみよう。（2時間）
	授業内容	**【イノベーションと知財マネジメント３】 企業等における知的財産活用の現況について学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，企業における知的財産権活用の現況について整理する。（2時間）
12	事前学習	イノベーションを収益に結びつけるために必要な要件について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	**【イノベーションと知財マネジメント４】 企業等の知財部門がイノベーション創出のために果たすべき役割について学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，イノベーション創出に向けて知財部門が果たすべき役割について整理する。（2時間）
13	事前学習	国全体のイノベーション創出を活性化するために必要であると考えられる施策を挙げてみよう。（2時間）
	授業内容	**【イノベーション政策】 わが国及び主要国のイノベーション政策の現況について学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，わが国及び主要国のイノベーション政策について整理する。（2時間）
14	事前学習	イノベーション創出におけるベンチャービジネスの役割について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	**【イノベーションの担い手】 イノベーションの担い手として期待されるベンチャー・ビジネス及びベンチャー・キャピタル現況等について学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，イノベーションにおけるベンチャービジネスとベンチャーキャピタルの役割について整理する。（2時間）
15	事前学習	配布されたプリントを再読し，イノベーションの重要性と知的財産の役割について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	**【授業のまとめ】 授業において学修した事項について振り返りとまとめを行う。**
	事後学習	到達目標の達成状況を自己評価し，さらなる学修への課題を明確にする。（2時間）

科目名	知的財産政策特論Ⅱ（産学官連携）	担当者	金澤　良弘	期間	後期	単位数	2

授業概要	産学官連携は，大学，企業及び公的研究機関における活動のポテンシャルを高めるとともに，イノベーション創出の有力な手段として積極的に推進されている。本授業では，産学官連携の意義，現況，知財の取扱，推進上の課題と対応策等について，具体的な事例や実務的な対応を通じて学修する。
授業目的・到達目標	イノベーションの創出を目指した産学官連携を推進する上での問題点や課題を発見し，解決策を提案できる能力を養成することを目的とする。 〔到達目標〕 ・産学官連携の意義，現況，推進上の課題とその克服に向けた取組等について理解し，説明することができるようになる。 ・産学官連携の事例について，工夫された点，改善を要する点を指摘するとともに，改善策等を提案することができるようになる。 〔関連するDP・CP〕私法学専攻１，４，６
履修条件	産学共同研究や技術移転などの実務に関心を持つ学生の受講を希望する。
授業方法	配布プリントに基づく講義及び討論による。また，授業の中で報告及びレポートの提出を求める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	発表・レポートの内容及び授業への参加・貢献度を総合的に評価する。出席率が2/3に満たない者は採点対象としない。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。		

参考書	必要な場合には授業中に指示する。
オフィスアワー	火曜日13：30～14：30，場所は指定する講堂等 事前にメールで予約すること（kanazawa.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを読み，授業の概要，授業目的・到達目標，授業方法等を理解する。（2時間）
	授業内容	**【イントロダクション】** **本授業の概要，目的・到達目標，履修条件，授業方法，成績評価の方法等について説明する。また，産学官連携に関する基本的な知識を学修する。**
	事後学習	配布したプリントを再読し，本授業における学習内容，授業方法等を確認する。また，産学官連携に関する基本的な知識について整理する。（2時間）
2	事前学習	企業，大学及び政府のそれぞれが産学官連携に取り組む理由について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	**【産学官連携の意義】** **企業はなぜ大学と連携する必要があるのか，大学はなぜ企業と連携しようとするのか，政府はなぜ産学官連携を推進するのか。産・学・官が産学官連携に取り組む意義について学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，企業，大学及び政府が産学官連携に取り組む意義について整理する。（2時間）
3	事前学習	産学官連携の事例を取り上げ，その概要及び成功（失敗）要因を調べる。（2時間）
	授業内容	**【産学官連携の事例】** **産学官連携の事例について，その経緯，得られた成果，成功（失敗）要因，さらなる発展のために取り組むべき事項等について学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，取り上げた事例の成功（失敗）要因等について整理する。（2時間）

4	事前学習	大学が産・官との連携に取り組む上での問題点・課題について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	**【大学における産学官連携】 大学における産学官連携活動の状況，問題点と課題，対応策等について学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，産学官連携を推進に向けた大学の取組について整理する。（2時間）
5	事前学習	企業が学・官との連携に取り組む上での問題点・課題について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	**【企業における研究開発と産学官連携】 企業における産学官連携活動の現況，問題点，課題等について学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，企業における産学官連携の状況について整理する。（2時間）
6	事前学習	公的研究機関が産・学との連携に取り組む上での問題点・課題について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	**【公的研究機関における産学官連携】 公的研究機関における産学官連携活動の現況，問題点，課題等について学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，公的研究機関の産・学との連携推進策について整理する。（2時間）
7	事前学習	産学官連携に際して締結される契約の種類を挙げてみよう。（2時間）
	授業内容	**【産学官連携と知的財産１】 産学官連携における知的財産の取扱について，産学官の間で締結される各種の契約を通じて学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，産学官連携において知的財産の取扱について考慮すべき事項について整理する。（2時間）
8	事前学習	共同研究契約の締結に当たり知的財産に関して合意しておくべき項目を挙げてみよう。（2時間）
	授業内容	**【産学官連携と知的財産２】 共同研究契約を事例として，産学官連携における知的財産の取扱について学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，共同研究契約において知的財産に関して同意しておくべき項目について整理する。（2時間）
9	事前学習	ライセンス契約の締結に当たり知的財産に関して合意しておくべき項目を挙げてみよう。（2時間）
	授業内容	**【産学官連携と知的財産３】 ライセンス契約を事例として，産学官連携における知的財産の取扱について学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，ライセンス契約において知的財産に関して同意しておくべき項目について整理する。（2時間）
10	事前学習	大学が産学官連携に取り組む際，どのようなリスクが懸念されるかについて自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	**【産学官連携に伴うリスクマネジメント】 産学官連携を行う際に，様々なリスク要因への対応を求められる場合がある。今回は大学が産学官連携を行う際に懸念されるリスクへの対応について学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，大学が産学官連携を行う際に懸念されるリスクへの対応について整理する。（2時間）
11	事前学習	産学官による共同研究を促進するための方策について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	**【産学官連携推進のための取組１】 産学官連携を推進するために講じられている取組のうち，共同研究を促進するための取組について学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，企業と大学の共同研究を促進するための方策について整理する。（2時間）
12	事前学習	大学から企業への技術移転を推進するための方策について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	**【産学官連携推進のための取組２】 産学官連携を推進するために講じられている取組のうち，大学から企業への技術移転を促進するための取組について学修する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，大学から企業への技術移転を促進するための方策について整理する。（2時間）
13	事前学習	産学官連携に関連する企業の取組や政策動向について調べる。（2時間）
	授業内容	**【産学官連携に関連する最近の話題１】 産学官連携に関連する最近の話題を提供し，それについて討論する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，提供された話題について整理する。（2時間）
14	事前学習	産学官連携に関連する企業の取組や政策動向について調べる。（2時間）
	授業内容	**【産学官連携に関連する最近の話題２】 産学官連携に関連する最近の話題を提供し，それについて討論する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し，提供された話題について整理する。（2時間）
15	事前学習	配布プリントを再読し，産学官連携の意義とその促進策について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	**【授業のまとめ】 本授業において学修した事項について振り返りとまとめを行う。**
	事後学習	到達目標の達成状況を自己評価し，さらなる学修への課題を明確にする。

科目名	知的財産ビジネス特論Ⅰ（知財英語・国際ビジネスⅠ）	担当者	三村　淳一	期間	前期	単位数	2

授業概要	知的財産に関わる国際的ビジネスでは、共通公用語である英語が多用される。そして、実務上のコミュニケーションツールとして、英語の重要性は高い。今日では、海外企業や海外弁護士との意思疎通及びビジネスは、ほとんど通訳を通さず、直接的に英語により行われる。また、米国で特許を取得するには英文で特許出願をしなければならない。本講義では、法律・契約・出願という幅広い分野で、知財英語を習得し、国際ビジネスの学習を目指す。
授業目的・到達目標	本講義は、米国の弁護士や弁理士、または企業を代理するパテントネゴシエーターへスマートなレターをドラフトできる人材を育成することを目的とし、最終的には、あらゆる場面で適切な英文レターを記載できる人材を輩出することを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，２，４，６，７
履修条件	私法学特論 Ⅰ を履修済みであることが望ましい。
授業方法	講義形式と演習形式の融合。授業内では、米国弁護士へのレター作成実務を行ったり、受講者をグループ分けし、英語による模擬特許交渉を行う。成績は課題レポートにより行い、フィードバックは、授業内で30分程度解説する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	
	平 常 評 価	100%	合格／不合格の判定は絶対評価により行う。授業内で課題を与え、授業参加度を加味し、評価する。出席率が70%未満は不合格。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2011	オーム社	知財担当者のための実務英文入門	藤野 仁三
	備考	講義で使用するパワーポイント（学生用）を配布するため、上記教科書は必須ではない。		

参 考 書	別途指示する。
オフィスアワー	火曜12:10-1:00　研究室にて

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	教員作成のレジメを配布するので、第1回目の事前学習としては、授業該当箇所をよく読んでおき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**国際ビジネスの現状と課題／知財財産の活用の主な流れ**
	事後学習	日本が置かれている状況を理解し、ノートに書き出しておく。(2時間)
2	事前学習	事前の配布資料P2-4を読み、意味の分からない単語は調べておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**米国出願においてよく用いられる法律英語や英単語の意味の解説**
	事後学習	それぞれの単語がどの様な場面で使用されているか理解し、ノートに書き出しておく。(2時間)
3	事前学習	事前の配布資料P4-7を読み、意味の分からない単語は調べておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**法律制定過程や司法及び契約においてよく用いられる法律英語や英単語の意味の解説**
	事後学習	日本の特許出願書類に対応するものがどの様な意味を有しているのか理解し、ノートに書き出しておく。(2時間)

4	事前学習	事前の配布資料P8-13を読み、配布資料の単語は調べておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**米国特許出願書類：提出す書類の解説。出願料金の計算方法の解説。特許明細書の構成（英文和訳）**
	事後学習	英文特許の各項目の記載すべきことは講義で説明するので、事後にはUSPTOから特許を適宜抽出し、読んで、ノートに書き出しておく。(2時間)
5	事前学習	事前の配布資料P14-16を読み、明細書作成に必用な単語は調べておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**米国特許出願書類：英文特許の書き方（タイトル・背景技術・実施例・クレーム）を解説した後、英文特許出願書類を実際に書いてみる**
	事後学習	日本特許庁から興味のある発明の一部を翻訳し、ノートに書き出しておく。(2時間)
6	事前学習	事前の配布資料P17-18を読み、レター作成に必用な単語は調べておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**特許出願：米国弁護士宛に新規出願依頼の英文レターをドラフトする。講義では、レターのフォーマットから解説する。また弁護士からの出願依頼受領報告レターの和訳を行う。**
	事後学習	英文レター作成の講義では、模範解答を示すので、自己の英文で相手に通じているのか、どの様に修正すればよいのか学習し、ノートに書き出しておく。(2時間)
7	事前学習	事前の配布資料P19-20を読み、庁指令を読むうえで必要な単語は調べておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**特許出願：弁護士からの出願報告レターの和訳。特許庁からの拒絶理由通知の和訳。**
	事後学習	講義では、拒絶理由通知書の一部のみの和訳であるため、講義で使用していない英文も読み、ノートに書き出しておく。(2時間)
8	事前学習	事前の配布資料P21-24を読み、庁指令を読むうえで必要な単語は調べておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**特許出願：前回の拒絶理由に対応すべく、意見書及び補正書を弁護士に作成させる原案を作成（英訳）。特許庁からの最終拒絶理由通知および許可通知の和訳。**
	事後学習	英文レター作成の講義では、模範解答を示すので、自己の英文で相手に通じているのか、どの様に修正すればよいのか学習し、ノートに書き出しておく。(2時間)
9	事前学習	事前の配布資料P25-27を読み、レター作成に必用な単語は調べておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**ライセンス交渉：ライセンス交渉準備（対象特許の抽出・ターゲットの選定・特許権の形式上の瑕疵確認・交渉手法）の講義を行う。また、Patent Negotiator に依頼のためのアポイント予約のレターをドラフトする**
	事後学習	英文レター作成の講義では、模範解答を示すので、自己の英文で相手に通じているのか、どの様に修正すればよいのか学習し、ノートに書き出しておく。(2時間)
10	事前学習	事前の配布資料P28-34を読み、交渉の進め方の概略を掴んでおき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**ライセンス交渉：リスクマネージメント方法 ※リスクを測るため、USPTOのWEBの利用法習得**
	事後学習	講義内ではマイクロソフトを題材に調査を行っているが、自己の就職希望先の企業の調査を同様に行い、特許力を見極め、ノートに書き出しておく(2時間)
11	事前学習	事前の配布資料P34-35を読み、レター作成に必用な単語は調べておき、ノートに列記する(2時間)
	授業内容	**ライセンス交渉：警告状の書き方、警告状への対応 ※実際に警告状及びその応答（ミーティング要請を受ける・会わない）を書く。**
	事後学習	英文レター作成の講義では、模範解答を示すので、自己の英文で相手に通じているのか、どの様に修正すればよいのか学習し、ノートに書き出しておく。(2時間)
12	事前学習	事前の配布資料P36を読み、交渉に必要な準備を行い、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**ライセンス交渉：英語による模擬交渉。学生を２班に分け、特許権者と侵害者間で交渉を英語で行う。**
	事後学習	交渉ではなかなか思ったことが言えない上、予想していたこと異なる方向に議論が向くことがある。反省すべき点を考え、ノートに書き出しておく。(2時間)
13	事前学習	事前の配布資料P38-47を読み、英文ドラフトに必要な英単度は調べておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**ライセンス交渉：米国技術調査会社へ先行技術調査依頼をドラフトする。 調査結果を基に米国弁護士へ無効鑑定依頼レター作成 不公正行為の有無の調査方法を講義**
	事後学習	英文レター作成の講義では、模範解答を示すので、自己の英文で相手に通じているのか、どの様に修正すればよいのか学習し、ノートに書き出しておく。また、日米の特許庁データベースは上記目的以外にも使用できるのでどのようなことができるのか各自が探り、ノートに書き出しておく(2時間)。
14	事前学習	事前の配布資料P48-50を読み、英文ドラフトに必要な英単度は調べておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**ライセンス交渉：米国子会社へ問い合わせレターを作成 米国弁護士に訴訟代理が可能か否かの確認レター作成**
	事後学習	英文レター作成の講義では、模範解答を示すので、自己の英文で相手に通じているのか、どの様に修正すればよいのか学習し、ノートに書き出しておく。(2時間)
15	事前学習	第1回から第14回までの講義内容を復習し、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**まとめ、及び、15回終了までに課題レポートの提出を義務付ける予定であり、講義内で課題に対する解説を行う。**
	事後学習	自己のレポートと解説との差を考え、ノートに書き出しておく。(2時間)

科目名	知的財産ビジネス特論Ⅰ（知財経営戦略）	担当者	若林　広二	期間	後期	単位数	2

授業概要	事業戦略・技術戦略・知財戦略が、三位一体で構築・実施されることが切望されている。本講座では、知的財産を経営資源の構成要素ととらえ、それと密接な関係にあるイノベーションを介して知財戦略と経営戦略の連携を図るための各種戦略策定手法について学修する。
授業目的・到達目標	知財コンサルタント、企業内の技術・知財部門の管理者、知財をベースとした起業家等として、知っておくべき経営戦略の主要フレームワークを修得することを目的とする。知財関連法制、組織論、マーケティング理論、会計・財務などの基礎知識に加え、環境分析、経営資源分析、意思集約、戦略構築、計画推進に関する各種手法を網羅的・体系的に理解することが第一の到達目標であり、さらに、実在企業のケースによる戦略策定業務の疑似体験を経て、知財を経営資源の中核と位置付け、それらを創造・保護・活用のサイクルと整合した経営戦略・事業戦略を構築・推進できるようになることを最終到達目標とする。関連するDP・CP私法学専攻１，２，４，６，７
履修条件	事前学修、授業内課題への回答、中間・期末レポートに多大な時間を要するため、その心構えが十分にできていること。経営戦略の各種フレームワークを将来の知財関連業務に結び付けようと考えていること。
授業方法	授業で使用する資料（PDF）を、Google Classroom（クラスコード：c5t3x76）より事前にダウンロードして授業に臨む。クラス討議や授業内課題への回答結果で各人のクラス参画度を評価する。また、中間・期末の各レポート課題への回答の品質を評価する。授業関連の全ての連絡はGoogle Classroomより行う。講義スライド、ケース、教科書等の全資料は、Google Classroomより入手可（授業中の資料の配布はしない）。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	クラス参画45%、中間レポート25%、期末レポート30%（注）成績評価方法は、状況に応じて変更されることがある。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書は特に指定しないが、履修者は事前にGoogle Classroom（クラスコード：c5t3x76）より授業で使う全資料をダウンロードして目を通しておく。		

参考書	伊丹敬之・西野和美『ケースブック経営戦略の論理（全面改定版）』日本経済新聞出版社2012年、若林広二『道具としての「事業定義」』中央経済社2012年、若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年
オフィスアワー	時間設定せず、Google Classroomのコメント欄、または、メール（wakabayashi.koji@nihon-u.ac.jp）で対応。

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	経営戦略の定義について、経営理念、戦術（施策）との違いより考えておく。（２時間）
	授業内容	**オリエンテーション及び導入講義。 シラバスに基づく前期授業全体の内容についての説明。**
	事後学習	配布資料の内容の復習。（２時間）
2	事前学習	レビット，T.「マーケティング近視眼」『ダイヤモンド･ハーバード･ビジネス』1993年2月-3月号を熟読し、若林広二『道具としての「事業定義」』1～33頁に目を通す。（３時間）
	授業内容	**事業定義１（理論）。 企業の事業定義とその経営成果間の関係性に基づき、事業定義の重要性を再確認する。**
	事後学習	配布資料の内容の復習に基づき、事業定義と企業成長の関係について説明できるようになる。（１時間）
3	事前学習	若林広二『道具としての「事業定義」』101～115頁に目を通す。『ケースブック 経営戦略の論理』16～36頁（AKB48）に目を通して、①AKB48の定義をCFTで表現する、②AKB48の成功要因（KFS)を従来のアイドルグループと比較して検討する。（３時間）
	授業内容	**事業定義２（方法）。 事業定義から事業展開シナリオへの落とし込み方、組織構造への展開方法等について学修。**
	事後学習	配布資料の内容を復習し、事業定義の方法について説明できるようになる。（１時間）

4	事前学習	セコムのケースに基づく、機能の変遷と事業定義（ドメイン）のもたらす効果についてワークシートを用いた検討。（３時間）
	授業内容	**事業定義３（ケース）。 セコムのケースの詳細な分析に基づく事業定義（ドメイン）の変化についての学修。**
	事後学習	配布資料の内容の復習と事前に作成したワークシートの修正。（１時間）
5	事前学習	『ケースブック 経営戦略の論理』282～301頁（アップル）に目を通して、①2012年時点のアップルをSWOTで整理する、②SWOTの結果より2012年以降アップルのとるべき戦略について検討する。（３時間）
	授業内容	**SWOT。自社の強み、弱み、環境の中の機会、脅威を分析･統合し、企業戦略や事業戦略を導き出すという戦略構築上最も基礎的な方法について学修する。**
	事後学習	配布資料の内容を復習し、SWOTの概念について説明できるようになる。（１時間）
6	事前学習	大前研一『マッキンゼー現代の経営戦略』プレジデント社1979年35～74頁を読む。（３時間）
	授業内容	**製品・市場戦略１（理論）。 製品・市場戦略の概念、策定方法、適用対象について学修。**
	事後学習	配布資料の内容の復習により製品・市場戦略の適用手順を説明できるようになる。（１時間）
7	事前学習	アスクルのケースを読み、それに基づく製品・市場分析、KFS（成功要因）等についてワークシートを用いて検討する。（３時間）
	授業内容	**製品・市場戦略２（ケース）。ワークシートに基づく現実の製品・市場戦略についての学修。**
	事後学習	配布資料の内容の復習による製品・市場分析の方法と製品・市場戦略への結び付け方について説明できるようになる。（１時間）
8	事前学習	ポーター，Ｍ．Ｅ．（土岐他訳）『競争の戦略』ダイヤモンド社1982年17～54頁を熟読する。（３時間）
	授業内容	**業界構造分析１（理論）。ポーターの競争要因分析ツール５フォースによる業界構造分析の方法について学修する。**
	事後学習	配布資料の内容を復習し、５フォースを特定業界に適用方法できるようになる。（１時間）
9	事前学習	アップルのケース１（ＰＣメーカー時代）およびケース２（iPod・iPhone時代）に基づくワークシートを用いたアップルのSWOTと５フォースによるアップルとパソコン業界の業界構造の分析。（３時間）
	授業内容	**業界構造分析２（ケース）。マッキントッシュ時代のアップルを通して、SWOTと５フォースの適用方法を学修。それとともに、競争戦略論から見たプラットフォーマーの戦略について考察する。**
	事後学習	各人作成のワークシートの修正。（１時間）
10	事前学習	ハーバード・ビジネス・レビュー編集部『ハーバード・ビジネス・レビューBEST10論文』ダイヤモンド社2014年33～58頁（ブルー・オーシャン戦略）に目を通し、『ケースブック 経営戦略の論理』102～46頁（サムスン電子）に関して、サムスン電子の液晶テレビの事業戦略について検討する。（３時間）
	授業内容	**競争戦略とブルー・オーシャン戦略１（理論）。経営戦略の中核理論とされるポーターの競争戦略と、それに対峙する新しい事業戦略の概念ブルー・オーシャン戦略の理論について、両者を比較しながら理解する。**
	事後学習	配布資料の内容の復習により、ブルー・オーシャン戦略の使い方について理解し、説明できるようになる。（１時間）
11	事前学習	若林広二『戦略づくりの七つ道具』85～100頁を熟読する。（３時間）
	授業内容	**PPM１（理論）。 企業戦略の観点より各事業の位置付け（重点投資、収益源、撤退等）を明確化するツール。各種ポートフォリオ分析手法の背景、概念、作り方と使い方、長所・短所について学修。**
	事後学習	配布資料の内容の復習により、PPMの概念を説明できるようになる。（１時間）
12	事前学習	GEのケースより、花形・金のなる木・問題児・負け犬事業を選定、シャープのケース（『ケースブック 経営戦略の論理』（旧版）305～36頁）より、成功事業・失敗事業を選定する。（３時間）
	授業内容	**PPM２（ケース）。PPMのケースによる経営現場への適用方法について理解する。**
	事後学習	配布資料の内容の復習により、PPMの結果の適用方法を修得する。（１時間）
13	事前学習	若林広二「戦略プロファイリング」『日本大学知財ジャーナル』Vol.９、2016年に目を通す。（３時間）
	授業内容	**特定企業に関する情報の分析に基づいて企業の戦略の全体像について推論を行う戦略プロファイリングの概念について学修する。**
	事後学習	配布資料の内容を復習することにより、戦略プロファイリングについて説明できるようになる。（１時間）
14	事前学習	プラハラード，C.K.＆ハメル,G.「コア・コンピタンス経営」『ハーバード・ビジネス・レビューBEST10論文』2014年307～45頁より、コア･コンピタンスの定義、コア･コンピタンスの要件についてワークシートに基づいて考察した上で、セイコーエプソン（『ケースブック 経営戦略の論理』（旧版）213～46頁）のケースを分析。（３時間）
	授業内容	**バリューチェーン、コア・コンピタンス、プラットフォーム。コア・コンピタンスをバリューチェーン上に位置付け、その概念について復習した上で、ケースにより実在企業に適用する。競争戦略、ブルー・オーシャン戦略を超越したプラットフォーマーの戦略について、第９回目に引き続き検討する。**
	事後学習	配布資料の内容の復習により、コア・コンピタンスを説明できるようになる。（１時間）
15	事前学習	期末レポート作成（提出）。（２時間20分）
	授業内容	**全体のまとめ。経営戦略の主要理論とその適用方法についてまとめる。今後急速な普及が予想されるAIの経営戦略プロセスへの適用についても触れる。**
	事後学習	配布資料（PDF）により全体を復習し、オリエンテーションで説明した授業全体の体系と各理論や専門用語が理解できたかを確認する。（40分）

科目名	知的財産ビジネス特論Ⅱ（企業ブランド戦略）	担当者	臼井　哲也	期間	後期	単位数	2

授業概要	ブランドの生成原理、資産としての特徴、経営戦略における位置づけ、ブランド構築と管理方法およびブランド管理組織について体系的に講じることを通じて、競争優位の源泉としてのブランドの在り方を理解する。
授業目的・到達目標	ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義は大学院修士課程の学生としての論文執筆の基礎的な知識とスキルを身につけることを本授業の到達目標である。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，２，４，６，７
履修条件	主体的な参加意識を備えた院生の受講を歓迎する。
授業方法	教員の示す教材（教科書、論文等）に基づき、教員の解説と受講者による討論により進める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	講義への参加意欲、報告、貢献度を総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	初回授業にて指示する	初回授業にて指示する	初回授業にて指示する	初回授業にて指示する
	備考			

参 考 書	特に指定しない。受講者の関心の応じて随時紹介する。
オフィスアワー	以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間を設定する。 usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスの熟読（2.0時間）
	授業内容	**ブランドと知的財産マネジメントの関係（ガイダンス）（1.5時間）**
	事後学習	講義ノートの整理と教科書予習（2.0時間）
2	事前学習	教科書指定箇所の熟読、報告準備（2.0時間）
	授業内容	**ブランドの生成と機能（1.5時間）**
	事後学習	講義ノートの整理と教科書予習（2.0時間）
3	事前学習	教科書指定箇所の熟読、報告準備（2.0時間）
	授業内容	**経営戦略におけるブランドの位置づけ（1.5時間）**
	事後学習	講義ノートの整理と教科書予習（2.0時間）

4	事前学習	教科書指定箇所の熟読、報告準備（2.0時間）
	授業内容	**ブランド・エクイティという考え方（1.5時間）**
	事後学習	講義ノートの整理と教科書予習（2.0時間）
5	事前学習	教科書指定箇所の熟読、報告準備（2.0時間）
	授業内容	**ブランド構築とマーケティング活動の関係**
	事後学習	講義ノートの整理と教科書予習（2.0時間）
6	事前学習	教科書指定箇所の熟読、報告準備（2.0時間）
	授業内容	**企業ブランドと製品ブランドの関係**
	事後学習	講義ノートの整理と教科書予習（2.0時間）
7	事前学習	教科書指定箇所の熟読、報告準備（2.0時間）
	授業内容	**ブランド・ポートフォリオ管理（1.5時間）**
	事後学習	講義ノートの整理と教科書予習（2.0時間）
8	事前学習	教科書指定箇所の熟読、報告準備（2.0時間）
	授業内容	**ブランド成果は測定できるのか（1.5時間）**
	事後学習	講義ノートの整理と教科書予習（2.0時間）
9	事前学習	教科書指定箇所の熟読、報告準備（2.0時間）
	授業内容	**長期的なブランド管理における課題（1.5時間）**
	事後学習	講義ノートの整理と教科書予習（2.0時間）
10	事前学習	教科書指定箇所の熟読、報告準備（2.0時間）
	授業内容	**新しい動き①　BtoBブランディング（1.5時間）**
	事後学習	講義ノートの整理と教科書予習（2.0時間）
11	事前学習	教科書指定箇所の熟読、報告準備（2.0時間）
	授業内容	**新しい動き②　地域ブランドの開発と管理（1.5時間）**
	事後学習	講義ノートの整理と教科書予習（2.0時間）
12	事前学習	教科書指定箇所の熟読、報告準備（2.0時間）
	授業内容	**新しい動き③　グローバル競争とグローバル・ブランド（1.５時間）**
	事後学習	講義ノートの整理と教科書予習（2.0時間）
13	事前学習	報告準備（2.0時間）
	授業内容	**論文演習①とフィードバック（1.5時間）**
	事後学習	講義ノートの整理（2.0時間）
14	事前学習	報告準備（2.0時間）
	授業内容	**論文演習②とフィードバック（1.5時間）**
	事後学習	講義ノートの整理（2.0時間）
15	事前学習	全復習（2.0時間）
	授業内容	**フィードバック（1.５時間）**
	事後学習	全体の振り返り（2.0時間）

科目名	知的財産ビジネス特論Ⅱ（デジタルメディア）	担当者	菅野　政孝	期間	前期	単位数	2

授業概要	デジタル技術はあらゆる産業界に地殻変動を起こし大変革を迫っている。デジタル新時代に対応していくために何をすべきか。デジタルとアナログとはどのような違いがあるのか。デジタル技術はコンテンツ・メディア産業にどのような影響を与えるのか。デジタル時代に相応しい成長戦略を構築していくために、デジタルの本質を見極め方向性を見誤らないことが大切である。　技術に苦手意識を持つ文系の学生にも判り易く解説していく。
授業目的・到達目標	生産や流通工程、さらにコミュニケーション手段のデジタル化による変容は、旧来の慣習や思考に囚われているとデジタル時代の対応に乗り遅れてしまう。ＡＩ、ＩｏＴ、ビッグデータ、５Ｇといった最先端技術は、スクリーンの中で描かれた未来社会を現実のものにしようとしている。最先端技術とビックデータの活用に取組み、イノベーション創出を活性化するために、コンテンツ業界の制度や慣習、技術動向を把握し、知財関連現行法のあり方、さらにネット社会とサイバースペースでの出来事と法規制のあり方を考察し、デジタル時代に即応しグローバルに展開できるビジネスモデルの構築を提言できる知見を身に付けられることを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，２，４，６，７
履修条件	コンテンツ産業およびメディア産業に興味を持ち、デジタル技術が業界に及ぼす影響とデジタル時代における現行著作権法等の諸問題について積極的に考察する気持ちがあること。
授業方法	パワーポイント資料や参考映像を用いた講義と、発表および議論。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業中に質問・意見を活発に述べているかどうかを重視する。また、授業内レポートの内容と授業への参加度について評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用せず		

参 考 書	『デジタルコンテンツ白書』デジタルコンテンツ協会。その他必要に応じて紹介する
オフィスアワー	時間帯：水曜日　１６：３０～１８：００ 場所　：その時点で面談可能な学内スペース 内容　：学業・研究、就職活動支援、その他諸事可 記事　：メールでの相談可（sugano.masataka@nihon-u.ac.jp）

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	「デジタルとは何か」分かる範囲で考えを纏めておくこと。（２時間）
	授業内容	**デジタルメディアの全体像** **・デジタルメディアに関連する用語　・デジタルメディアの全体像**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
2	事前学習	コンピュータで利用しているメディアにはどのような種類があるか考えてみる。（２時間）
	授業内容	**デジタルの基礎知識** **・文字・音声・映像情報のデジタル化とは？　・コンピュータのデータ形式**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
3	事前学習	自分自身が考える「コンテンツ」とは何かを列挙してみる。（２時間）
	授業内容	**デジタルコンテンツ** **・コンテンツとは何か？**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）

4	事前学習	コンテンツ産業にはどのようなものがあるか考えてみる。（２時間）
	授業内容	**コンテンツ産業の概要** **・コンテンツ産業の概要　・コンテンツの産業政策**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
5	事前学習	自分自身が実際に利用しているコンテンツの産業分野について調査する。（２時間）
	授業内容	**コンテンツ産業分野** **・個別のコンテンツ産業分野についての動向**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
6	事前学習	自分が利用しているメディアがどのように制作されているか考えてみる。（２時間）
	授業内容	**メディアの制作** **・メディアの制作方法について**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
7	事前学習	自分が利用しているメディアはどのような経緯を経て入手できるか調べてみる。（２時間）
	授業内容	**メディアの提供** **・　各メディアがどのようなルートで提供されているか？**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
8	事前学習	メディアを利用していてどのような課題があるか整理する。（２時間）
	授業内容	**メディアの利用** **・メディアを利用する上での課題と対応方法　・メディアリテラシーについて**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
9	事前学習	メディア産業にはどのようなものが有るか考察する。（２時間）
	授業内容	**メディア産業の概要** **・メディア産業の概要　・メディアの産業政策**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
10	事前学習	自分が利用している各メディアのビジネスがどのようなものか考えてみる。（２時間）
	授業内容	**メディアのビジネスと業界** **・個別のメディア分野についての動向**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
11	事前学習	著作権法の中でメディアに関連すると思われる条項についてピックアップしてみる。（２時間）
	授業内容	**メディアと著作権①** **・メディアに関わる著作権法にはどのようなものがあるか　・著作権法の変遷**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
12	事前学習	ＳＮＳや動画サイトを利用していて著作権と関連することがあるか考えてみる。（２時間）
	授業内容	**メディアと著作権②** **・コンテンツの流通と著作権との関係　・海賊版サイト　・ＮＦＴ**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
13	事前学習	世の中でＡＩを使ったサービスにはどのようなものがあるか考えてみる。（２時間）
	授業内容	**ＡＩの概要** **・ＡＩとは何か？　・ＡＩに関する法制度／ガイドライン**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
14	事前学習	ＡＩが生み出す知的財産にはどのようなものがあるか考える。（２時間）
	授業内容	**ＡＩと知的財産** **・ＡＩに関わる知的財産権　・ＡＩと特許　・ＡＩと著作権**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
15	事前学習	前回までの講義の中で最も興味があった内容について感想をまとめる。（２時間）
	授業内容	**デジタルメディアの今後の動向とまとめ**
	事後学習	全体の授業内容を復習し、自分にとっての「デジタルメディア」の意味付けを改めて考察する。（２時間）

科目名	知的財産ビジネス特論Ⅱ（コンテンツ･ビジネス戦略）	担当者	竹内　敏夫	期間	前期	単位数	2

授業概要	コンテンツビジネスに関する著作権を中心とした知的財産権の活用について、講義と具体的なケーススタディにより学習する。 受講する生徒各自がコンテンツビジネスに興味を持ち、コンテンツビジネスが分かる法律家の養成を目的とする。
授業目的・到達目標	コンテンツビジネスのビジネスモデルの理解と、それぞれのコンテンツビジネスを行うにあたって、知的財産の戦略が構築できる実践的な人材を育成することを目的とする。コンテンツビジネスビジネスモデルを理解すると共に、それぞれの特徴を理解し、適切な知的財産戦略を構築できるようになることを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，２，４，６，７
履修条件	知的財産に関する基礎的な知識があることが望ましい。
授業方法	基礎的な知識に関する講義と演習・ケーススタディ

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業内で実施する試験（７０%）とディスカッションのレポート（３０%）により評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし		

参 考 書	「コンテンツ産業論(第2版）」河島伸子著　ミネルヴァ出版(2020年第2版)
オフィスアワー	金曜日　12時10分～13時　教員研究室（1812）takeuchi.toshio@nihon-u.ac.jp　事前に要連絡

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	クールジャパン構想について調べる（２時間）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	自分が興味があるコンテンツビジネスの特徴をつかむ。（２時間）
2	事前学習	コンテンツビジネスの歴史について調べる（２時間）
	授業内容	**コンテンツ産業の発展と歴史**
	事後学習	コンテンツのビジネスの発展の歴史と将来についてまとめる（２時間）
3	事前学習	デジタルコンテンツのビジネスについて調べる。（２時間）
	授業内容	**デジタルコンテンツとコンテンツビジネス**
	事後学習	デジタルコンテンツにおける特徴をまとめる。（２時間）

4	事前学習	映画産業のビジネスについて調べる（２時間）
	授業内容	**映画産業とコンテンツビジネス**
	事後学習	映画産業のコンテンツビジネスの特徴をまとめる。（２時間）
5	事前学習	事前にケーススタディのテーマを選定するので、そのテーマを予習する。（２時間）
	授業内容	**ケーススタディと演習（１）**
	事後学習	ケーススタディしたンテンツビジネスの特徴をまとめる。（２時間）
6	事前学習	音楽産業のビジネスについて調べる（２時間）
	授業内容	**音楽産業とコンテンツビジネス**
	事後学習	音楽産業のコンテンツビジネスの特徴をまとめる。（２時間）
7	事前学習	広告産業のビジネスについて調べる（２時間）
	授業内容	**広告産業とコンテンツビジネス**
	事後学習	広告産業のコンテンツビジネスの特徴をまとめる。（２時間）
8	事前学習	事前にケーススタディのテーマを選定するので、そのテーマを予習する。（２時間）
	授業内容	**ケーススタディと演習（２）**
	事後学習	ケーススタディしたンテンツビジネスの特徴をまとめる。（２時間）
9	事前学習	著作権管理事業について調べる（２時間）
	授業内容	**著作権管理事業とコンテンツビジネス**
	事後学習	著作権管理事業の特徴をまとめる。（２時間）
10	事前学習	事前にケーススタディのテーマを選定するので、そのテーマを予習する。（２時間）
	授業内容	**ケーススタディと演習（３）**
	事後学習	ケーススタディしたンテンツビジネスの特徴をまとめる。（２時間）
11	事前学習	ライセンスビジネスについて調べる（２時間）
	授業内容	**コンテンツ産業とライセンスビジネス**
	事後学習	ライセンスビジネスの特徴をまとめる。（２時間）
12	事前学習	テレビ放送産業のビジネスについて調べる（２時間）
	授業内容	**テレビ放送産業とコンテンツビジネス**
	事後学習	テレビ放送産業の特徴をまとめる。（２時間）
13	事前学習	ゲーム産業のビジネスについて調べる（２時間）
	授業内容	**ゲーム産業とコンテンツビジネス**
	事後学習	ゲーム産業の特徴をまとめる。（２時間）
14	事前学習	事前にケーススタディのテーマを選定するので、そのテーマを予習する。（２時間）
	授業内容	**ケーススタディと演習（４）**
	事後学習	ケーススタディしたンテンツビジネスの特徴をまとめる。（２時間）
15	事前学習	これまで取り上げたコンテンツビジネスの特徴などをまとめる。（２時間）
	授業内容	**授業のまとめ及び試験**
	事後学習	これまで取り上げたコンテンツビジネスの理解していないところを復習する。（２時間）

科目名	知的財産ビジネス特論Ⅱ（知財英語・国際ビジネスⅡ）	担当者	三村　淳一	期間	後期	単位数	2

授業概要	知的財産に関わる国際的ビジネスでは、共通公用語である英語が多用される。そして、実務上のコミュニケーションツールとして、英語の重要性は高い。今日では、海外企業や海外弁護士との意思疎通及びビジネスは、ほとんど通訳を通さず、直接的に英語により行われる。特許交渉の結果、和解による契約や訴訟に発展することもある。本講義では、特に、特許契約書及び判決の読み方を習得し、国際的なビジネスの学習を目指す。
授業目的・到達目標	本講義は、特許契約書にはどのようなものがるかを理解し、その内容を正確に他の受講生（卒業後は上司）に報告できる人材、また、訴訟に発展した場合の判決文を読める人材を育成することを目的とし、最終的には、英文契約書の審査を行える人材を輩出することを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，２，４，６，７
履修条件	私法学特論 Ⅰ を履修済みであることが望ましい。
授業方法	講義形式と演習形式の融合。授業内では、各種契約解説も英文和訳を行い、また、企業間での契約の実際を知るため、実際の契約書の英文和訳を行う。成績は課題レポートにより行い、フィードバックは、授業内で30分程度解説する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	
	平 常 評 価	100%	合格／不合格の判定は絶対評価により行う。授業内で課題を与え、授業参加度を加味し、評価する。出席率が70%未満は不合格。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015	Bloomberg BNA	Drafting Patent License Agreements, Eighth Edition	PatrickO'relley Brian Kacedon
	備考	講義で使用するパワーポイント（学生用）を配布するため、上記教科書は必須ではない。		

参 考 書	別途指示する。
オフィスアワー	火曜12:10-1:00　研究室にて

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	教員作成のレジメを配布するので、第1回目の事前学習としては、授業該当箇所（配布資料P51-54）をよく読んでおき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	（１）ライセンスやAgreementの種類　（２）ライセンス条項の意味 を講義する ・雇用契約における発明の譲渡に関する契約の和訳 ・特許の譲渡契約（ABC企業⇒XYZ企業への譲渡）の和訳
	事後学習	講義では教科書の一部を抜粋して行っている。教科書の講義で使用した以外の部分については、各自がフォロアップとし、ノートに書き出しておく(2時間)
2	事前学習	事前の配布資料P55-58を読み、意味の分からない単語は調べておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	特許ライセンス契約: he Nonexclusive Licenses The Non-assertion Agreements The Exclusive Licenses　に関する英文和訳を行う
	事後学習	講義では教科書の一部を抜粋して行っている。教科書の講義で使用した以外の部分については、各自がフォロアップし、ノートに書き出しておく。(2時間)
3	事前学習	事前の配布資料P59-65を読み、意味の分からない単語は調べておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	特許ライセンス契約: 排他的権利には、反トラスト法的側面やサブライセンス権の問題などがある、このことを示す英文を和訳し、またライセンサーを保護する必要も生じる場合があることを示す英文を和訳する。
	事後学習	講義では教科書の一部を抜粋して行っている。教科書の講義で使用した以外の部分については、各自がフォロアップし、ノートに書き出しておく。(2時間)

4	事前学習	事前の配布資料P66-69を読み、配布資料の単語は調べておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**特許ライセンス契約:特定のタイプのライセンスであるThe Field of Use License, The Cross License, The Grantback Licenseなどに関する英文和訳を行う。**
	事後学習	講義では教科書の一部を抜粋して行っている。教科書の講義で使用した以外の部分については、各自がフォロアップし、ノートに書き出しておく。(2時間)
5	事前学習	事前の配布資料P70-73を読み、配布資料の単語は調べておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**特許ライセンス契約:特定のタイプのライセンスであるThe Sublicense, "Have Made" Rights, The Compulsory License, The Shop Rightなどに関する英文和訳を行う。**
	事後学習	講義では教科書の一部を抜粋して行っている。教科書の講義で使用した以外の部分については、各自がフォロアップし、ノートに書き出しておく。(2時間)
6	事前学習	事前の配布資料P74-76を読み、配布資料の単語は調べておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**特許消尽に関する一般的な説明文の英文和訳を行う。ただし、近年、Lexmark事件で判例変更があったので、新判断の解説を行う。また、ライセンサーのIndemnification に関する解説の和文英訳を行う。**
	事後学習	講義では教科書の一部を抜粋して行っている。教科書の講義で使用した以外の部分については、各自がフォロアップし、ノートに書き出しておく。(2時間)
7	事前学習	事前の配布資料P77-82を読み、配布資料の単語は調べておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**契約書：第6回までは契約に関する教科書の説明を英文和訳し、内容を理解するというものであったが、第7回からは教科書にサンプルで掲載されている実際の契約で書かれている英文を和訳する。**
	事後学習	講義では教科書の一部を抜粋して行っている。教科書の講義で使用した以外の部分については、各自がフォロアップし、ノートに書き出しておく。(2時間)
8	事前学習	事前の配布資料83-88を読み、配布資料の単語は調べておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**契約書：契約のterm, termination, Royalties and Payments, Royalty Reportはどの様に規定されているか和文英訳を行い理解する。**
	事後学習	講義では教科書の一部を抜粋して行っている。教科書の講義で使用した以外の部分については、各自がフォロアップし、ノートに書き出しておく。(2時間)
9	事前学習	事前の配布資料P89-94を読み、配布資料の単語は調べておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**契約書：契約書に含まれる一般条項(Confidentiality, LICENSOR Indemnity, IMPROVEMENTS, Governing Law and Language)はどの様に規定されているか和文英訳を行い理解する。**
	事後学習	講義では教科書の一部を抜粋して行っている。教科書の講義で使用した以外の部分については、各自がフォロアップとして読んでおき、ノートに書き出しておく。(2時間)
10	事前学習	事前の配布資料P95-97を読み、配布資料の単語は調べておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**訴訟：特許関連訴訟の種類を講義し、訴訟の全体の流れを解説する。特に開示手続きでなされる質問状、文書作成要求、自認に関する要求書を実際の事件の書類で読んで理解する。**
	事後学習	それぞれの書類の法的な意味を図書館で調べ、ノートに書き出しておく(2時間)
11	事前学習	事前の配布資料P98-103を読み、配布資料の単語は調べておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**訴訟：訴状(Apple v. Samsung)の一部を翻訳する①**
	事後学習	訴状で記載されている項目の法的な意味を図書館で調べ、ノートに書き出しておく。(2時間)
12	事前学習	事前の配布資料P104-108を読み、配布資料の単語は調べておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**訴訟：訴状(Apple v. Samsung)の一部を翻訳する②**
	事後学習	訴状で記載されている項目の法的な意味を図書館で調べ、ノートに書き出しておく。(2時間)
13	事前学習	事前の配布資料P109-112を読み、配布資料の単語は調べておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**訴訟：評決を読む。評決とは何か、評決にはどのような種類があるか、評決に書かれるものはどのようなものであるかを実際の事件(Apple v. Samsung)を題材に和文英訳する。**
	事後学習	講義で行うのは評決の一部であるため、講義で取り扱っていない他の評決部を読み、、ノートに書き出しておく(2時間)。
14	事前学習	事前の配布資料P113-118（事実関係部）を読み、配布資料の単語は調べておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**判決：判決(Juicy Whip, Inc v. Orange Bang, Inc)を読む。判決文の構成を解説した後、受講者は判決文（事実認定部）の和文英訳を行う**
	事後学習	本事件はCAFC判決であるので、最高裁のなした判決も読み、ノートに書き出しておく（題材は講義中に示す）。(2時間)
15	事前学習	事前の配布資料P119-121（判断部分）を読み、配布資料の単語は調べておき、ノートに列記する。(2時間)
	授業内容	**判決：判決後半を読む。受講者は判決文（CAFCの判断）の和文英訳を行う。また、15回終了までに課題レポートの提出を義務付ける予定であり、講義内で課題に対する解説を行う。**
	事後学習	本事件はCAFC判決であるので、最高裁のなした判決も読み、ノートに書き出しておく（題材は講義中に示す）。自己のレポートと解説との差を考え、ノートに書き出しておく。(2時間)

科目名	知的財産ビジネス特論Ⅲ（知的財産戦略）	担当者	小林　重一	期間	後期	単位数	2

授業概要	近年、イノベーションに寄与する知的財産を経営において有効に活用することが強く求められており、企業における知的財産活動も大きな変革を迫られている。本講義では、経営に資する知財戦略を推進する上でコアとなる知財部門の活動内容を理解し、知財戦略の概念の習得を目指す。
授業目的・到達目標	本講義は、企業における知財部門の役割および知財戦略を推進する上で重要な活動内容（新規性調査を含めた権利化手続き、ライセンスを中心とした権利活用、侵害訴訟対応、ＩＰランドスケープ等）を理解し、知財戦略を実践できる人材を育成することを目的とし、最終的には、企業の知財部門が求める経営に資する人材を輩出することを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，４
履修条件	特に無いが、知的財産ビジネス特論Ⅰ＆Ⅱを履修済みまたは履修中であることが望ましい。
授業方法	講義形式と演習形式の融合。授業内では、特許のクレームドラフティングや新規性調査、権利侵害判定等の演習を行いながら、知財戦略実践において不可欠な権利活用の概念の理解促進を図る。成績は課題レポートにより行い、フィードバックは、授業内で30分程度解説する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	合格／不合格の判定は絶対評価により行う。授業内で与えた課題に対するレポートと授業参加度により評価する。出席率が70%未満は不合格。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2020		経営戦略を成功に導く知財戦略　-実践事例集-	特許庁
	備考	教科書は以下で入手可能。講義でパワーポイント資料を配布するので、教科書は必須ではない。 https://www.jpo.go.jp/support/example/chizai_senryaku_2020.html		

参考書	適宜紹介する。
オフィスアワー	

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	教科書10～19ページを読み、用語の意味を調べてノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**企業における知財戦略の概要について解説する。**
	事後学習	講義では教科書の一部を抜粋して行っている。講義で使用した以外の部分については各自がフォローアップし、ノートに書き出しておく。（2時間）
2	事前学習	事前の配布資料を読み、用語の意味を調べてノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**知財戦略の理解を深めるための基礎事項の解説と演習①（特許の権利範囲とクレームドラフティング）**
	事後学習	講義ではクレームドラフティングの模範解答を示すので、自己の演習結果について分析し、ノートに書き出しておく。（2時間）
3	事前学習	事前の配布資料を読み、用語の意味を調べてノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**知財戦略の理解を深めるための基礎事項の解説と演習②（特許出願手続きと特許調査）**
	事後学習	講義では特許調査の模範事例を示すので、自己でJ-PlatPatを使って調査し、ノートに書き出しておく。（2時間）

4	事前学習	事前の配布資料を読み、用語の意味を調べてノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**知財戦略の理解を深めるための基礎事項の解説と演習③（特許属否判定とデザインアラウンド）**
	事後学習	講義では特許属否判定の模範解答を示すので、自己の演習結果について分析し、ノートに書き出しておく。（2時間）
5	事前学習	事前の配布資料を読み、用語の意味を調べてノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**知財戦略の理解を深めるための基礎事項の解説と演習④（権利活用、特許侵害訴訟、技術契約）**
	事後学習	講義では契約ドラフティングの模範解答を示すので、自己の演習結果について分析し、ノートに書き出しておく。（2時間）
6	事前学習	教科書96～97、118～124、132～138を読み、用語の意味を調べてノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**事例に基づく知財戦略研究①（企業における知的財産管理体制と知財部門の役割）**
	事後学習	講義では教科書の一部を抜粋して行っている。講義で使用した以外の部分については各自がフォローアップし、ノートに書き出しておく。（2時間）
7	事前学習	教科書48～56を読み、用語の意味を調べてノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**事例に基づく知財戦略研究②（サプライチェーンにおける知財戦略、侵害の過失の推定）**
	事後学習	講義では教科書の一部を抜粋して行っている。講義で使用した以外の部分については各自がフォローアップし、ノートに書き出しておく。（2時間）
8	事前学習	教科書38～47を読み、用語の意味を調べてノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**事例に基づく知財戦略研究③（標準化と特許解放）**
	事後学習	講義では教科書の一部を抜粋して行っている。講義で使用した以外の部分については各自がフォローアップし、ノートに書き出しておく。（2時間）
9	事前学習	事前の配布資料を読み、用語の意味を調べておき、ノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**最新知財トレンド①（標準必須特許）**
	事後学習	講義では配布資料の一部を抜粋して行っている。講義で使用した以外の部分については各自がフォローアップし、ノートに書き出しておく。（2時間）
10	事前学習	教科書22～30を読み、用語の意味を調べておき、ノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**事例に基づく知財戦略研究④（オープンイノベーションにおける知財戦略）**
	事後学習	講義では教科書の一部を抜粋して行っている。講義で使用した以外の部分については各自がフォローアップし、ノートに書き出しておく。（2時間）
11	事前学習	教科書80～87を読み、用語の意味を調べておき、ノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**事例に基づく知財戦略研究⑤（IPランドスケープ）**
	事後学習	講義では教科書の一部を抜粋して行っている。講義で使用した以外の部分については各自がフォローアップし、ノートに書き出しておく。（2時間）
12	事前学習	事前の配布資料を読み、用語の意味を調べておき、ノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**最新知財トレンド②（特許マネタイズと防衛スキーム）**
	事後学習	講義では配布資料の一部を抜粋して行っている。講義で使用した以外の部分については各自がフォローアップし、ノートに書き出しておく。（2時間）
13	事前学習	教科書146～153を読み、用語の意味を調べておき、ノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**事例に基づく知財戦略研究⑥（知財ミックス戦略）**
	事後学習	講義では教科書の一部を抜粋して行っている。講義で使用した以外の部分については各自がフォローアップし、ノートに書き出しておく。（2時間）
14	事前学習	教科書162～169を読み、用語の意味を調べておき、ノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**事例に基づく知財戦略研究⑧（ブランド保護、模倣品対応）**
	事後学習	講義では教科書の一部を抜粋して行っている。講義で使用した以外の部分については各自がフォローアップし、ノートに書き出しておく。（2時間）
15	事前学習	事前の配布資料を読み、用語の意味を調べておき、ノートに列記する。（2時間）
	授業内容	**最新知財トレンド③（コーポレートガバナンスコードと知財ガバナンス）**
	事後学習	講義では配布資料の一部を抜粋して行っている。講義で使用した以外の部分については各自がフォローアップし、ノートに書き出しておく。（2時間）

科目名	知的財産ビジネス特論Ⅲ（知財情報検索・解析）	担当者	菅野　政孝	期間	前期	単位数	2

授業概要	知的財産権に関する基礎と知的財産に関わる我が国の組織，及び特許情報調査の目的や具体的な特許分類と，特許情報検索のためのデータベースであるJ-PlatPatの概要，特許情報の具体的検索方法を学修し，実際に種々の手段による特許情報の検索を行う．その後は意匠及び商標の分類と検索方法を学修し，具体的に検索を行う．
授業目的・到達目標	【授業の目的】　本講義では国内のみならず世界の知財情報から目的とする情報を抽出する方法，及び目的ごとに異なる調査手法を学び，検索結果を解析して可視化する方法のスキルを身につける． 【到達目標】　日・米・欧の特許庁が保有する特許，実用新案，意匠，商標の分類に関する知識を身につけ，それらのデータベースから具体的に目的とする権利を抽出し，解析することが出来るようになることを目標とする． 関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，４
履修条件	特になし
授業方法	DBを操作して例題の解説を行う．

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業内でのレポート発表を必須とし，知的財産権の調査・解析の程度とその結果の自分自身の見解内容に基づき評価する．

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特に使用せず，必要に応じ資料を配布		

参 考 書	参考ホームページ「J-PlatPat」．その他，必要に応じて紹介
オフィスアワー	時間帯：木曜日１３：００～１４：００ 場所　：木曜日３時限目の時間帯に相談可能な場所 内容　：学業、就職活動支援、その他諸事可 記事　：メールでの相談随時可（sugano.masataka@nihon-u.ac.jp）

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	知的財産権の意義，種別と内容などについて自分自身で過去学習したことを復習する．学部及び現在までの大学院授業において知的財産権法の未履修者は特許庁ホームページ「知的財産権について（https://www.jpo.go.jp/seido/s_gaiyou/chizai02.htm）」，経産省ホームページ「知的財産制度とは（http://www.meti.go.jp/policy/ipr/overview/ipr_system.html）」に目を通しておく．（２時間）
	授業内容	**知的財産権の基礎**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
2	事前学習	特許を調査する目的を自分自身で考えてみる．（２時間）
	授業内容	**特許情報調査の目的と特許分類**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
3	事前学習	自分自身が特許文献を調査すると仮定した場合に対象としたい技術分野を３個抽出する．（１．５時間）
	授業内容	**国内特許分類調査**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習，及び自分が選んだ技術３件について特許の分類を調査する．（次回発表）（２．５時間）

4	事前学習	自分が選んだ技術３件についての特許分類のとりまとめ（２時間）
	授業内容	**・自分が選んだ技術３件についての特許分類のとりまとめ内容発表とそれに対する解説** **・特許庁特許情報プラットフォーム　J-PlatPat の概要**
	事後学習	授業内での発表と議論の振り返り，授業で学んだ及びJ-PlatPat（https://www.j-platpat.inpit.go.jp/web/all/top/BTmTopPage）の各機能について自分自身でも閲覧する．（２時間）
5	事前学習	J-Plat Pat 以外の知的財産関連検索データベースにはどのようなものがあるか予め調べておく．（１．５時間）
	授業内容	**J-PlatPat 以外の知的財産関連検索データベースの概要**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習．特に予習で調査，あるいは授業内で学んだ知財関連検索ＤＢについて実際に検索してみる．（２．５時間）
6	事前学習	J-PlatPat（https://www.j-platpat.inpit.go.jp/web/all/top/BTmTopPage#）の「特許・実用新案」のページのメニュー（プルダウンメニュー）」に目を通しておく．（１．５時間）
	授業内容	**J-PlatPat を用いての具体的な検索** **・番号からの特許情報検索** **・企業名・発明者からの特許情報検索** **・検索式による特許情報検索**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習，及び特許検索の演習実施＜演習課題については授業内で指示＞（次々回発表）（２．５時間）
7	事前学習	特許に関する条約にはどのようなものがあるか調べる．（２時間）
	授業内容	**海外の特許調査の概要**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
8	事前学習	特許検索の演習結果のとりまとめ（３時間）
	授業内容	**特許検索の演習実施結果の発表とそれに対する解説**
	事後学習	授業内での発表と議論の振り返り（１時間）
9	事前学習	意匠法を復習する．学部及び現在までの大学院授業において意匠法の未履修者は特許庁ホームページの「意匠（https://www.jpo.go.jp/seido/isho/index.html）」に目を通しておく．（２時間）
	授業内容	**意匠の検索** **・意匠の分類**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
10	事前学習	J-PlatPat（https://www.j-platpat.inpit.go.jp/web/all/top/BTmTopPage#）の「意匠」のページのメニュー（プルダウンメニュー）」に目を通しておく．（１．５時間）
	授業内容	**意匠の検索** **・意匠の検索**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習，及び自分が興味のある「物品」を３個選び，意匠分類と関連する意匠の検索結果をまとめる．（次回発表）（２．５時間）
11	事前学習	自分が興味のある「物品」を３個選び，意匠分類と関連する意匠の検索結果のとりまとめ（３時間）
	授業内容	**自分が興味のある「物品」を３個選び，意匠分類と関連する意匠の検索結果発表とそれに対する解説**
	事後学習	授業内での発表と議論の振り返り（１時間）
12	事前学習	商標法を復習する．学部及び現在までの大学院授業において，商標法の未履修者は特許庁ホームページの「商標（https://www.jpo.go.jp/seido/shohyo/index.html）」に目を通しておく．（２時間）
	授業内容	**商標の検索** **・商標の分類**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
13	事前学習	J-PlatPat（https://www.j-platpat.inpit.go.jp/web/all/top/BTmTopPage#）の「商標」のページのメニュー（プルダウンメニュー）」に目を通しておく．（１．５時間）
	授業内容	**商標の検索** **・商標の検索**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習，及び自分が興味のある「商品」，「サービス」を３個選び，商標分類と実際の商標の検索結果をまとめる．（次回発表）（２．５時間）
14	事前学習	自分が興味のある「商品」，「サービス」を３個選び，商標分類と実際の商標の検索結果のとりまとめ（３時間）
	授業内容	**自分が興味のある「商品」，「サービス」を３個選び，商標分類と実際の商標の検索結果発表とそれに対する解説**
	事後学習	授業内での発表と議論の振り返り（１時間）
15	事前学習	これまでの授業内容を復習する．（３時間）
	授業内容	**本授業全体の振り返り**
	事後学習	本授業の感想をとりまとめる．（１時間）

科目名	知的財産ビジネス特論Ⅲ（機械知財）	担当者	竹内　敏夫	期間	後期	単位数	2

授業概要	特許権の基本となる特許詰求の範囲や明細井の法律上の地位、特に、特許詰求の範囲に記載される発明の保渡と利用について法律上の地位や、発明の捉え方など、実務上最も重要な琳項を習得する。本授業では、機械の発明に対する特許請求の範囲や明細料の記載方法を中心に行う。
授業目的・到達目標	権利の得喪や範囲に最も大きな影製を与える特許諮求の範囲に記載された発明を理解してもらうと共に、特許請求の範囲に記載された発明のベースとなる明細害の書き方の基本をマスターして貰うことを目的とする。 明細書を作成するに当たって、審査段階での拒絶理由通知に対処するための補正を意識して、予めどのようなことを記載しておくことが大切かを学ぶ。関連するDP・CP私法学専攻１，４
履修条件	特許法に関する基礎的な知識があることが望ましい。
授業方法	配布資料などを使用して講義形式で行う。また明細書や拒絶理由などの実例に基づいて演習を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	０%	
	平 常 評 価	100%	授業中に出された課題の内容により評価を行う（８０）。また授業中の質問等に対応する答えなどについても加味する（２０）。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			

参 考 書	（独）工業所有権情報・研修館「特許出願書類の書き方ガイド」 https://www.inpit.go.jp/blob/archives/pdf/patent.pdf 「改訂9版 特許明細書の書き方 」伊東国際特許事務所（編集），伊東 忠彦 伊東 忠重（監修）経済産業調査会
オフィスアワー	金曜日　12時10分～13時　教員研究室（1812）takeuchi.toshio@nihon-u.ac.jp　事前に要連絡

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	特許制度を概説するが、実用新案、意匠、商標など他の産業財産権制度との対比する 特許を受けることができる発明、発明とは何かについて調べてくること。（２時間）
	授業内容	**特許制度を概説するが、実用新案、意匠、商標など他の産業財産権制度との対比する 特許を受けることができる発明、発明とは何か**
	事後学習	特許制度を概説するが、実用新案、意匠、商標など他の産業財産権制度との対比する 特許を受けることができる発明、発明とは何かについてまとめる。（２時間）
2	事前学習	発明の捉え方と特許権侵害について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**発明の捉え方と特許権侵害**
	事後学習	発明の捉え方と特許権侵害についてまとめる。（２時間）
3	事前学習	明細書の意義と記載内容について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**明細書の意義と記載内容**
	事後学習	明細書の意義と記載内容についてまとめる。（２時間）

4	事前学習	特許請求の範囲の意義と重要性について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**特許請求の範囲の意義と重要性 強い権利を取得するために気を付けること**
	事後学習	特許請求の範囲の意義と重要性についてまとめる。（２時間）
5	事前学習	発明の表現形式と権利内容について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**発明の表現形式と権利内容**
	事後学習	発明の表現形式と権利内容についてまとめる。（２時間）
6	事前学習	発明の分析と把握方法について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**発明の分析と把握 発明のポイントを如何にして抽出できるか**
	事後学習	発明の分析と把握方法についてまとめる。（２時間）
7	事前学習	具体的な発明の把握の仕方、技術的思想の捉え方について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**仮想事例による演習１　具体的な発明の把握の仕方、技術的思想の捉え方**
	事後学習	具体的な発明の把握の仕方、技術的思想の捉え方につてまとめる。（２時間）
8	事前学習	請求項の記載形式、独立項と従属項の記載の仕方発明の表現方法について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**請求項の記載形式、独立項と従属項の記載の仕方発明の表現方法について**
	事後学習	請求項の記載形式、独立項と従属項の記載の仕方発明の表現方法についてまとめる。（２時間）
9	事前学習	請求項の作成の仕方について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**仮想事例による演習２　請求項作成演習**
	事後学習	請求項の作成の仕方についてまとめる。（２時間）
10	事前学習	明細書の作成の仕方について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**想事例による演習３　明細書作成演習**
	事後学習	明細書の作成の仕方についてまとめる。（２時間）
11	事前学習	産業上利用性違反の拒絶理由への対応について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**拒絶理由への対応について（１）　産業上利用性違反について**
	事後学習	産業上利用性違反の拒絶理由への対応についてまとめる。（２時間）
12	事前学習	新規性・進歩性違反の拒絶理由への対応について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**拒絶理由への対応について（２）　新規性・進歩性違反について**
	事後学習	新規性・進歩性違反の拒絶理由への対応についてまとめる。（２時間）
13	事前学習	記載要件違反への対応について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**拒絶理由への対応について（３）　記載要件違反(特許法36条）への対応について**
	事後学習	記載要件違反への対応についてまとめる。（２時間）
14	事前学習	拒絶査定不服審判の請求の仕方について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**拒絶査定不服審判の請求の仕方について**
	事後学習	拒絶査定不服審判の請求の仕方についてまとめる。（２時間）
15	事前学習	無効審判・異議申し立ての請求の仕方について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**無効審判・異議申し立ての請求の仕方について**
	事後学習	無効審判・異議申し立ての請求の仕方についてまとめる。（２時間）

科目名	知的財産ビジネス特論Ⅲ（ライセンス契約）	担当者	外川　英明	期間	後期	単位数	2

授業概要	わが国は、2002年以来、知的財産立国政策を実行し、我が国企業の国際競争力の向上策を推進してきた。IoT、ビッグデータ、AI、ロボット等、第四次産業革命の下で技術のオープン・クローズ戦略が定着しつつある今日、オープン戦略の柱の一つである知的財産関係ライセンス契約は、その重要性を増してきている。本講座では、企業の競争力強化の重要な要素の一つである知的財産関係ライセンス契約の締結・活用ために必要な基礎と実践の両者を学修する。
授業目的・到達目標	（授業目的）本講座では、企業の競争力強化戦略の重要な要素の一つである知的財産関係契約、とりわけライセンス契約の締結・実施のために必要な基礎知識と実践の両者を学修・修得し、実践する力を身につける。 （到達目標）学生が、以下の目標を達成すること。 ①ライセンス契約の理論的・実践的知識を身につけ、説明することができる。 ②企業の知財オープン・クローズ戦略を理解し、説明することができる。 ③基礎的なライセンス契約の作成・締結を実践することができる。 関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，４
履修条件	特になし。ただし、新聞・雑誌等において、知的財産関連のニュースに注目しておくこと。
授業方法	原則として講義形式で行う。学生によるレポート及びプレゼンテーションを実施する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業中に示す課題についてのレポート、プレゼンテーションの内容及び授業への参加姿勢等授業参加度により、［到達目標］にかかわる能力が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
			パワーポイント等の資料を事前配布する。	
	備考			

参 考 書	必要に応じて紹介する。
オフィスアワー	木曜日　授業終了後　授業講堂

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、「技術のオープン・クローズ戦略」「第四次産業革命」等のキーワードを調べておくこと。（2時間）
	授業内容	**技術契約と技術のオープン・クローズ戦略**
	事後学習	充分復習しておくこと。次回の最初に理解度を確認する質問を行う。（2時間）
2	事前学習	第一回に配布する資料の該当部分を予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	**ビジネスにおけるライセンス契約の意義**
	事後学習	充分復習しておくこと。次回の最初に理解度を確認する質問を行う。（2時間）
3	事前学習	配布資料の該当部分を予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	**契約法、知的財産法とライセンス契約**
	事後学習	充分復習しておくこと。次回の最初に理解度を確認する質問を行う。（2時間）

4	事前学習	配布資料の該当部分を予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	**特許実施契約検討**
	事後学習	充分復習しておくこと。次回の最初に理解度を確認する質問を行う。（2時間）
5	事前学習	配布資料の該当部分を予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	**技術のオープン戦略と包括クロスライセンス契約**
	事後学習	充分復習しておくこと。次回の最初に理解度を確認する質問を行う。（2時間）
6	事前学習	配布資料の該当部分を予習しておくこと。（3時間）
	授業内容	**技術のオープン戦略と技術の標準化・規格化**
	事後学習	充分復習しておくこと。次回の最初に理解度を確認する質問を行う。（2時間）
7	事前学習	配布資料の該当部分を予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	**技術のオープン戦略とパテントプール**
	事後学習	充分復習しておくこと。次回の最初に理解度を確認する質問を行う。（2時間）
8	事前学習	配布資料の該当部分を予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	**技術のオープン戦略とノウハウライセンス契約、秘密保持契約**
	事後学習	充分復習しておくこと。次回の最初に理解度を確認する質問を行う。（2時間）
9	事前学習	配布資料の該当部分を予習しておくこと。（1時間）
	授業内容	**ライセンス契約のその他の個別条項等― 特許実施契約書を事例とする。**
	事後学習	充分復習しておくこと。次回の最初に理解度を確認する質問を行う。（3時間）
10	事前学習	配布資料の該当部分を予習しておくこと。（1時間）
	授業内容	**ライセンス契約のその他の個別条項等― 商標使用許諾契約書を事例とする。**
	事後学習	充分復習しておくこと。次回の最初に理解度を確認する質問を行う。（3時間）
11	事前学習	配布資料の該当部分を予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	**ライセンス契約のその他の個別条項等―ノウハウライセンス契約、秘密保持契約書を事例とする。**
	事後学習	充分復習しておくこと。次回の最初に理解度を確認する質問を行う。（2時間）
12	事前学習	配布資料の該当部分を予習しておくこと。（3時間）
	授業内容	**ライセンス契約と独占禁止法等**
	事後学習	充分復習しておくこと。次回の最初に理解度を確認する質問を行う。（2時間）
13	事前学習	配布資料の該当部分を予習しておくこと。（1時間）
	授業内容	**IoT社会における知的財産契約ー特にIoT社会における契約の特徴に重点を置く。**
	事後学習	充分復習しておくこと。次回の最初に理解度を確認する質問を行う。（3時間）
14	事前学習	配布資料の該当部分を予習しておくこと。（1時間）
	授業内容	**IoT社会における知的財産契約ー特に標準必須特許（SEP）のライセンスに重点を置く。**
	事後学習	充分復習しておくこと。次回の最初に理解度を確認する質問を行う。（3時間）
15	事前学習	配布資料全体を見直し、疑問点を抽出しておくこと。（1時間）
	授業内容	**講座のまとめ**
	事後学習	授業全体の要点をまとめるので復習・確認すること。（2時間）

科目名	知的財産ビジネス特論Ⅳ（ICT知財）	担当者	菅野　政孝	期間	後期	単位数	2

授業概要	ＩＣＴ（情報通信技術）の概要と，「情報」を扱うＩＣＴが人間の創造活動から産み出される知的財産と密接に関わることを知り，ＩＣＴに関連する特許，ソフトウェア特許及びビジネスモデル特許の判例を調査する．次に著作権と関連の深いＩＣＴやサービスを学び，関連する判例を調査する．その後ＩＣＴに関する標準化やパテントプール，著名企業の知的財産戦略を学修する．
授業目的・到達目標	【授業の目的】ＩＣＴは人間の知的活動を支援する技術であり，ＩＣＴに関わる特許や著作権などの知的財産権の保護・活用も技術の進展に呼応して迅速に対応していく必要がある．本講義ではＩＣＴの概要を理解し，ＩＣＴ関連の知的財産権の具体例を分析することによりその特徴を学び，知的財産権の保護・活用に関わる実務スキルを身につける． 【到達目標】ＩＣＴに関連する知的財産権（特許，著作権等）を扱った著名判例の内容を理解し，それに対する自身の見解を持つことによりＩＣＴ関連知的財産権の概要や特徴を解説出来るようになることを目標とする． 関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，４，６，７
履修条件	ＩＣＴに興味があること．また、「知的財産ビジネス特論Ⅴ（ＩＣＴ）」を履修していることが望ましい．
授業方法	資料を用いた講義と，調査・発表及び議論を行う．

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業内でのレポート発表を必須とし，ＩＣＴ関連知的財産権の判例に対する自分自身の見解内容に基づき評価する．

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特に使用せず，必要に応じ資料を配布		

参 考 書	・「メディアとＩＣＴの知的財産権 第2版」；菅野，大谷，山本；共立出版(2018.2) ・その他その都度紹介
オフィスアワー	時間帯：木曜日１３：００～１４：００ 場所　：木曜日３時限目の時間帯に相談可能な場所 内容　：学業、就職活動支援、その他諸事可 記事　：メールでの相談随時可（sugano.masataka@nihon-u.ac.jp）

【授業計画】

回数	授　業　内　容	
1	事前学習	ＩＣＴ（Information Communication Technology)という用語に関する技術，サービスにはどのようなものがあるか自分自身の知識のたな卸しをおこなう．（２時間）
	授業内容	**ＩＣＴの概要** **・ＩＣＴの概観と基本技術**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
2	事前学習	自分が学んだ範囲での知的財産権の種類とその概要を復習しておく．（２時間）
	授業内容	**ＩＣＴの概要** **・ＩＣＴに関連する知的財産権**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
3	事前学習	特許情報プラットフォーム＜J-PlatPat＞（https://www.j-platpat.inpit.go.jp/web/all/top/BTmTopPage）を操作してどのような機能があるか調べる．（１．５時間）
	授業内容	**ＩＣＴと特許権（１）** **・特許となったＩＣＴの動向**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習，及びフローチャートの作成（弁理士業務，自分の生活の流れなど）（次回発表）（２．５時間）

4	事前学習	フローチャートの作成，及び特許法の中で，ＩＣＴやソフトウェアに関連する条文には何があるか調べる．（２時間）
	授業内容	**作成したフローチャートの発表とそれに対する振り返り** **ＩＣＴと特許権（２）** **・ソフトウェアの特徴** **・ソフトウェア関連特許の概要**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習，及びＩＣＴやソフトウェア関連の特許を選び出し，その概要＜項目については授業内で指示＞をまとめる． 特許調査についてはグループを構成してリーダを決め，協力し合って調査する．（２時間）
5	事前学習	ＩＣＴやソフトウェア関連の特許を選び出し，概要作成（３時間）
	授業内容	**ＩＣＴやソフトウェアに関連する特許の概要調査結果発表（グループの代表者）とそれに対する振り返り**
	事後学習	授業内での発表と議論の振り返り（１時間）
6	事前学習	知的財産高等裁判所のホームページ「裁判例検索（http://www.ip.courts.go.jp/app/hanrei_jp/search）」から「ＩＣＴ]，「ソフトウェア」，「ビジネスモデル」といったキーワードでどのような裁判が行われているか目を通してみる．（２．５時間）
	授業内容	**ＩＣＴと特許権（３）** **・ソフトウェア特許に関する判例について**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（１．５時間）
7	事前学習	ビジネスモデル特許について特許庁のホームページ「ビジネス関連発明の最近の動向について（https://www.jpo.go.jp/seido/bijinesu/biz_pat.htm）」に目を通しておく．（１．５時間）
	授業内容	**ＩＣＴと特許権（４）** **・ビジネスモデル特許の概要** **・ビジネスモデル特許関連判例**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習，及びＩＣＴ関連特許，ソフトウェア特許，ビジネスモデル特許に関する判例を選び出し概要＜項目については授業内で指示＞をまとめる．（２．５時間）
8	事前学習	ＩＣＴ関連特許，ソフトウェア特許，ビジネスモデル特許に関する判例を選び出し，概要作成（３時間）
	授業内容	**ＩＣＴと特許権（５）** **・ソフトウェア特許，ビジネスモデル特許の判例調査結果発表とそれに対する振り返り**
	事後学習	授業内での発表と議論の振り返り（１時間）
9	事前学習	著作権法の中で，ＩＣＴやメディア，ディジタルコンテンツに関わると思われる条文には何があるか調べる．（２時間）
	授業内容	**ＩＣＴと著作権（１）** **・ディジタルコンテンツと著作権** **・著作権管理技術について**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
10	事前学習	カラオケ法理判例「昭和５９年（オ）第１２０４号　音楽著作権侵害差止等請求事件」，ファイルローグ事件判例「平成１４年（ワ）第４２３７号　著作権侵害差止等請求事件」，Winny関連判例「平成１９年（う）第４６１号　著作権法違反幇助被告事件」などに目を通しておく．（３時間）
	授業内容	**ＩＣＴと著作権（２）** **・情報流通と著作権**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（１時間）
11	事前学習	「通信と放送の融合」とは何であるか，予め概要を掴んでおく．（１．５時間）
	授業内容	**ＩＣＴと著作権（３）** **・通信／放送と著作権**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習，及びＩＣＴに関連する著作権を扱った判例を選び出し概要＜項目については授業内で指示＞をまとめる． 判例調査についてはグループを構成してリーダを決め，協力し合って調査する．（２．５時間）
12	事前学習	ＩＣＴに関連する著作権を扱った判例を選び出し，概要作成（３時間）
	授業内容	**ＩＣＴに関連する著作権を扱った判例の調査結果発表（グループの代表者）とそれに対する振り返り**
	事後学習	授業内での発表と議論の振り返り（１時間）
13	事前学習	標準・標準化とは何かについて，日本産業標準調査会のホームページ「産業標準化について，日本産業規格（ＪＩＳ）（http://www.jisc.go.jp/jis-act/index.html）」などに目を通しておく． （１．５時間）
	授業内容	**標準化と知財** **・標準化に関する概要** **・標準化事例発表**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習，及びＩＣＴに関連する標準化の事例を選び出し概要＜項目については授業内で指示＞をまとめる．（２．５時間）
14	事前学習	ＩＣＴに関連する標準化の事例を選び出し，概要作成（３時間）
	授業内容	**ＩＣＴに関連する標準化の事例発表とそれに対する振り返り** **パテントプール** **・パテントプールの概要** **・パテントプール事例発表**
	事後学習	授業内での発表と議論の振り返り，及び配布したパワーポイント教材の復習（１時間）

15	事前学習	自分が関心のある企業の特許戦略について調査する．（３時間）
	授業内容	**企業の知的財産戦略** **本授業全体の振り返りと質疑応答**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（１時間）

科目名	知的財産ビジネス特論Ⅳ（化学・バイオ知財）	担当者	光田　賢	期間	半期	単位数	2

授業概要	知財実務の場では化学とバイオテクノロジーは隣接する科学分野として扱われる。本講義では、両分野の発明に関して、基本的なスキルを学ぶ。　化学・製薬・食品・バイオ等の技術者・研究者に対する研究開発戦略や知財戦略の助言、特許出願や保護・活用の実務を担える人材としての基礎知識とスキルを得る。さらに、研究開発の場における技術情報管理の重要性と管理の在り方について学ぶ。
授業目的・到達目標	化学分野とバイオ分野に関わる発明について、特許出願のための基本的な知識とスキル発明の抽出、特許請求範囲や明細書の作成、公開された特許明細書等の技術的範囲の解析、出願戦略など)を習得することを目的とする。 化学分野とバイオ分野における技術者・研究者の発明や発見を受けて、これを特許法上の発明に展開し、特許請求の範囲・明細書を作成できることを目標とする。 さらに、研究開発現場における技術情報の管理の重要性を知り、知財情報管理意識を高める。 関連するDP/CP私法学専攻1，2，4，6
履修条件	学部あるいは院における特許法科目を履修していること、もしくは特許に係わる業務の経験があること。 そして、バイオ・化学分野の特許実務に関心を有すること、或いは知的財産ビジネス特論Ⅴを履修済であること。
授業方法	パワーポイント、配布資料を使用して講義する。発明の抽出、特許請求の範囲や明細書の作成演習も行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	出席率70%未満は不合格とし、受講態度やレポートに基づき、合格/不合格を絶対評価で判定し、(S)(A)(B)(C)は5:25:40:30を目安に相対評価とする。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	「特許・実用新案審査基準」（特許庁のHPよりダウンロード可） 「工業所有権法逐条解説（第22版）」（特許庁のHPよりダウンロード可）		

参 考 書	「化学とﾊﾞｲｵﾃｸﾉﾛｼﾞｰの特許明細書の書き方読み方」第7版（発明推進協会）（入手しなくても可）
オフィスアワー	授業内や授業前後、授業講堂にて質問や相談を受け付ける。 電子メールによる質問・相談は随時可（必ず自分の氏名・学籍番号を記すこと。匿名者には回答致しかねる）

【授業計画】

回数	授　業　内　容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、化学について、自分が過去に習った知識の範囲を確認し、主要な元素記号や化学式の表記法を調べておくこと（２時間）
	授業内容	**化学発明の特許保護；化学に関わる産業（化学産業、素材産業、医農薬産業など）における研究開発の流れと特徴を解説し、そこで生まれる発明と特許保護の関連を講義する。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、特許法における発明の定義を復習し、化学分野における研究プロセスとの関係を整理すること（２時間）
2	事前学習	特許・実用新案審査基準（以下、特許審査基準）第Ⅱ部 明細書及び特許請求の範囲を参照しながら特許法２条、３６条の逐条解説を読んでおくこと（２時間）
	授業内容	**明細書と特許請求範囲の構成；物、方法、生産する方法の発明という概念の化学への適用、および化学特許の構成について、実際の特許明細書を示して講義する。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、特許明細書の形式を36条の趣旨を実際の構成、表現形式として確認すること（２時間）
3	事前学習	特許審査基準第Ⅱ部第2章 特許請求の範囲の記載要件 を読んで、もし不明や疑問の点があれば質問事項として準備しておくこと（２時間）
	授業内容	**特許請求範囲の書き方（クレームドラフティング）；化学分野における発明の特定と請求範囲の表現について講義する。さらに、想定された化学発明に基づき、発明の特定と特許法上の発明への展開の演習を行う。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、演習で指摘された点を整理して、研究で成した発明と特許法上の発明との相違点を整理すること（２時間）

4	事前学習	特許審査基準第Ⅱ部第2章 特許請求の範囲の記載要件 を読むことと、特許法36条5項6項の趣旨を確認しておくこと（２時間）
	授業内容	**特許請求範囲の書き方（クレームの表現形式）；化学分野発明の事例に基づいて、発明の上位概念、下位概念を理解させ、‘強い特許’を作成するための請求範囲構成の考え方について講義する。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、化学物質、化学製品などの具体的な化学品事業を想定して、上位から下位の概念を構成し請求範囲を組み立てる考え方を確認すること（２時間）
5	事前学習	特許審査基準第Ⅱ部第3章 発明の単一性を読み、関係法条の逐条解説を読んでおくこと（２時間）
	授業内容	**発明の単一性；多項制と発明の単一性の関係を解説する。そのうえで、物・方法・物の生産方法のカテゴリーから複数発明を成して一出願とすることを事例を用いて講義する。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、研究者から提示された発明を特許出願する場合、発明の内容に基づいて複数の特許発明を提案できうることを確認すること（２時間）
6	事前学習	特許審査基準第Ⅱ部第2章 第3節 明確性要件 を読むことと過去に習った化学物質や化学反応の表記法ならびに物質特許とは何かについて確認しておくこと。（２時間）
	授業内容	**化学物質の発明（構造式、機能、製法による記載）；物質特許の意義を解説し、化学物質の特定方法、表現方法を有機物質、無機物質など種類毎に説明する。また、物質と組成物の違いについて講義する。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、専門的な表現形式を理解できたかを確認すること（２時間）
7	事前学習	特許法2条3項における発明のカテゴリーを確認し、特許審査基準第Ⅲ部第2章第4節 特定の表現を有する請求項等についての取扱い を読んでおくこと（２時間）
	授業内容	**製法の発明、用途の発明；製法発明に関しては、化学物質の合成反応との対応で解説する。特許法条文には表れない用途発明は方法の発明と捉えられること、そして化学分野において重要であることを事例を挙げて講義する。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、身近にある様々な化学製品もその価値は用途によってもたらされていることを確認し、発明として表現してみること（２時間）
8	事前学習	特許審査基準第Ⅲ部第2章第4節 特定の表現を有する請求項等についての取扱い の中にある数値限定に関わる例を抽出し検討しておくこと（２時間）
	授業内容	**数値の扱い方；化学特許における数値限定された特許請求範囲の例を提示し、拒絶理由の有無について討議・検証を行う。特許出願戦略の観点から、数値の扱い方を講義する。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、数値限定の表記方法と表記する場合に注意すべき点を確認すること。（２時間）
9	事前学習	遺伝子・DNA・タンパクなどの基本的なバイオ技術用語を確認しておくこと。特許審査基準第Ⅱ部第2章 特許請求の範囲の記載要件を読んで発明の内容を解析しておくこと（２時間）
	授業内容	**バイオテクノロジー発明の保護；バイオテクノロジー分野の発明にはどのようなものがあるかを説明し、発明の特定とその表記について講義する。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、バイオ分野の発明としていかなるものがあるかを体系的に整理しておくこと、ならびに発明保護の観点からは特許出願が最善の策とはいえない場合があることを理解したかを確認すること（２時間）
10	事前学習	特許審査基準第Ⅱ部第2章 特許請求の範囲の記載要件 を読んでおくこととブダペスト条約を確認しておくこと（２時間）
	授業内容	**微生物に関わる発明（特許請求範囲の組立と表現）；微生物に関わる発明の実例を解説し、その請求項表記の講義とシミュレーションを行う。また、ブダペスト条約に基づく寄託制度について、その概要と意義について講義する。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、寄託制度の意義とその手続きを確認しておくこと（２時間）
11	事前学習	遺伝子・DNA・タンパク・細胞の相互関係と遺伝子組換え技術について調べて、確認しておくこと（２時間）
	授業内容	**遺伝子に係わる発明（特許請求範囲の組立と表現）；遺伝子組換え技術の成果を発明として捉え、特許の対象になりうる技術的要素の抽出とその表現方法ならびに請求範囲の記載方法について講義する。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、遺伝子関連の発明が特許法上の発明にカテゴライズされうることを確認すること（２時間）
12	事前学習	アミノ酸とタンパクの関係、酵素などの生体タンパク分子の１次構造から高次構造の関係を確認しておくこと（２時間）
	授業内容	**タンパクに係わる発明（特許請求範囲の組立と表現）；組換えタンパクの生産技術を主題に特許の対象になりうる技術的要素とその表記方法ならびに請求範囲の記載方法について講義する。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、特許明細書におけるタンパクの一次配列の基本的表記方法と遺伝子コード配列表記との関係を確認すること。（２時間）
13	事前学習	遺伝子・DNA・タンパク・細胞の関係とを再確認し、さらに生物とは何かを確認しておくこと。種苗法第20条、第21条を確認しておくこと（２時間）
	授業内容	**創製された生物に係わる発明（特許請求範囲の組立と表現、寄託制度、新品種登録制度）；人為的に創製された生物個体や細胞の発明の請求範囲への記載方法と前回までに学習した構成要素の発明と組み合わせた請求範囲の構成について講義する。また、新品種作出への育種技術アプローチと遺伝子組換え技術アプローチによる知財保護戦略を解説する。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、発明の対象生物の種類によって発明保護の戦略が異なることを理解したか を確認すること（２時間）
14	事前学習	第III 部 第5 章 不特許事由を読んでおくことと再生医療とは何かを調べてまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**医療関連発明の特許出願；再生医療技術を中心に医療関連発明の知財保護の制度等を解説し、また、生命倫理規定との関連についても説明し、特許出願の考え方を講義する。 また、過去に起きた虚偽の発明に係わる事件を取り上げ、虚偽発明がなされる原因について論じる。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、わが国がリードするiPS細胞技術などの再生医療技術の特許出願状況、特許成立のキーポイントを確認しておくこと（２時間）
15	事前学習	メディア等で報道された技術情報（発明）の海外流出事件を調べておくこと（２時間）
	授業内容	**これまでに知られる技術情報の海外流出事件について、情報流出の経緯をトレースし、その原因と対策について論じる。**
	事後学習	これまでの配布資料と講義ノートを再読して、当該科目の授業で得た知識・情報を整理する（２時間）

科目名	知的財産ビジネス特論Ⅳ（コンテンツ知財）	担当者	劉　斌斌	期間	前期	単位数	2

授業概要	スーパーグローバルなデジタルネットワーク社会とAI技術の進化は、コンテンツ産業にドラスティックな変容を迫っている。本講義では、コンテンツ国際戦略の視点から、コンテンツ業界の特殊性及び役割を理解するとともに、コンテンツ・メディア産業の誕生から発展普及、そして未来の姿を技術イノベーションとともに俯瞰しつつ、コンテンツビジネスにおけるコンテンツの知財保護や戦略等のイロハから契約まで判例・事例を交えて考察する。
授業目的・到達目標	現代の国際社会での、コンテンツビジネスの国際化における重要性を認識しながら、コンテンツ産業やその隣接産業での活躍を希望する人をはじめ、製造業・サービス産業等においても、コンテンツを利用して事業や企業に新たな価値を創造し経営に貢献することを目指す方を対象に、コンテンツやその事業を「ビジネスの知財戦略」の観点から評価・分析し、事業開発や事業発展に貢献できるプロフェッショナルを養成することを目標とする。関連するDP・CP私法学専攻１，４，６，７
履修条件	特になし
授業方法	レジメ、PPT 、資料など用いて講義する。最新の情報、事例、判例も適宜教材にし、授業時間内で講評・解説・討論を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	討論における積極的な発言内容、報告および授業への参加・貢献度を総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない		

参 考 書	必要な場合には授業中に指示する。
オフィスアワー	研究室にて、月曜日14：40―16：10

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	授業の概要、授業の目的、進行などを理解し、講義を概観すべく予習を行う。（2時間）
	授業内容	**コンテンツとは何か、コンテンツに関する捉えた方等について分析する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、講義内容ついて理解し、講義中に指摘したポイントに関する考察を行っておく。
2	事前学習	毎回、次回授業のレジメや資料を配布する。そのことに関連する知識を習得しディスカッションできる 準備をしておく。（2時間）
	授業内容	**コンテンツ産業にドラスティックな変容に関する考察。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、復習しながら重要なポイントを整理し、まとめる。（2時間）
3	事前学習	レジメや資料を配布する。コンテンツの知財戦略の基本等について調べ、関連する知識を習得しディスカッションできる準備をしておく。（2時間）
	授業内容	**コンテンツ産業の知財戦略について考察・研究・討論する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、講義内容ついて理解し、講義中に指摘したポイントを整理し、まとめる。（2時間）

4	事前学習	レジメや資料を配布する。コンテンツと知的財産の関係等について調べ、関連する知識を習得しディスカッションできる準備をしておく。（2時間）
	授業内容	**コンテンツの知財保護について考察・研究する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、比較をする視点から、事例を踏まえて、コンテンツの知財保護に関する範囲とその問題点について、自分なりの理解を整理し、まとめる。（２時間）
5	事前学習	レジメや資料を配布するので、日本著作権法の仕組みなどの関連する知識を習得しディスカッションできる準備をしておく。（2時間）
	授業内容	**コンテンツの著作権保護における比較考察・研究・討論をする（１）。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、国際的な視点から、講義内容に関して自分なりの認識を整理し、まとめる。（2時間）
6	事前学習	レジメや資料を配布するので、アジア諸国著作権法の仕組みや事例・判例を踏まえて、ディスカッションできる準備をしておく。（2時間）
	授業内容	**コンテンツの著作権保護における比較考察・研究・討論をする（２）。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、判例を通じて比較法の視点から理解し、復習してポイントをまとめる。（2時間）
7	事前学習	レジメや資料を配布するので、関連する知識を習得しディスカッションできる準備をしておく。（2時間）
	授業内容	**デジタルコンテンツの流通と的財産の課題**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、注意点および問題点を整理し、まとめる。（2時間）
8	事前学習	レジメや資料を配布するので、国際的な視点から、関連する知識を習得しディスカッションできる準備をしておく。（2時間）
	授業内容	**コンテンツビジネスの実務と法１（放送）**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、比較法の視点から、日本と他国の相違点を認識し、まとめる。（2時間）
9	事前学習	レジメや資料を配布するので、国際的な視点から、関連する知識を習得しディスカッションできる準備をしておく。（2時間）
	授業内容	**コンテンツビジネスの実務と法2（アニメ等）**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、比較法の視点から、自分なりの理解・研究ノートを整理し、まとめる。（2時間）
10	事前学習	レジメや資料を配布するので、判例を読み、判旨を理解して、関連する知識を習得しディスカッションできる準備をしておく。（2時間）
	授業内容	**コンテンツビジネスの実務と法3（音楽）**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、比較法の視点から、自分なりの認識・理解をまとめる。（2時間）
11	事前学習	レジメや資料を配布するので、判例を読み、判旨を理解して、関連する知識を習得しディスカッションできる準備をしておく。（2時間）
	授業内容	**コンテンツビジネスの実務と法3（ライセンス契約）**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、国際的な視点から、問題にどう向き合うべきか、自分なりの考えを整理し、まとめる。（2時間）
12	事前学習	レジメや資料を配布するので、判例を読み、判旨を理解して、関連する知識を習得しディスカッションできる準備をしておく。（2時間）
	授業内容	**コンテンツビジネスの実務と法４（知財侵害及び救済）**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、授業の内容を確認し、留意点および問題点など、国際的な視点から、自分なりの認識・理解をまとめる。（2時間）
13	事前学習	レジメや資料を配布するので、しっかり予習する。事例を理解して、関連する知識を習得しディスカッションできる準備をしておく。（2時間）
	授業内容	**日本のコンテンツ産業戦略の現状と課題**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、授業の内容を確認し、国際的な視点から、自分なりの認識・理解をまとめる。（2時間）
14	事前学習	レジメや資料を配布するので、事例を踏まえ、関連する知識を習得しディスカッションできる準備をしておく。（2時間）
	授業内容	**アジア諸国におけるコンテンツ保護及び産業戦略の現状と課題**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、国際的な視点から、自分なりの考えを整理し、まとめる。（2時間）
15	事前学習	レジメや資料を配布するので、事例を踏まえ、関連する知識を習得しディスカッションできる準備をしておく。（2時間）
	授業内容	**デジタル・ネット社会における知的財産制度の役割について、どのように捉えるべき？**
	事後学習	講義の内容を検討し、コンテンツ国際戦略の視点から、デジタル・ネット社会において、著作権をはじめ知的財産制度の役割をどのように捉えるべきかについて、自分なりの理解・考えをまとめておく。（２時間）

科目名	知的財産ビジネス特論Ⅴ（ICT）	担当者	菅野　政孝	期間	前期	単位数	2

授業概要	ＩＣＴ（情報通信技術）を取り巻く学問や歴史を踏まえたＩＣＴの全体像，ＩＣＴの中心となるコンピュータのハードウェア，ソフトウェアの概略，コンピュータを用いたサービス／アプリケーション・ビジネスを学修する．またＩＣＴのもう一つの代表である情報通信に関する基礎と情報通信のサービス・アプリケーション・ビジネスとＩＣＴ分野で知るべき法律や情報セキュリティについて学修する．
授業目的・到達目標	【授業の目的】情報通信機器等情報・通信技術（ＩＣＴ）を利用した装置やシステムの仕組みを知ることにより効果的かつ効率的にこれらを利用できる力，及び，世の中の発展に寄与する技術は何かといったことを考察する力も身につける． 【到達目標】ＩＣＴの基本構成であるコンピュータ等の基本的仕組みを理解し説明でき，ＩＣＴやコンテンツ処理技術が我々の生活の中で使われる際の問題を解決し，従来サービスへの応用について工夫できるようになることを目標とする． 関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，２，４，６
履修条件	ＩＣＴに興味があること。
授業方法	①資料を用いた講義と，発表および議論．②出席管理システム（レスポン）を利用して出欠確認を行う．

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業中に質問・意見を活発に述べているかどうかを重視する。また、授業内レポートの内容と授業への参加度について評価する．

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし。		

参 考 書	その都度紹介
オフィスアワー	時間帯：木曜日１３：００～１４：００ 場所　：木曜日３時限目の時間帯に相談可能な場所 内容　：学業、就職活動支援、その他諸事可 記事　：メールでの相談随時可（sugano.masataka@nihon-u.ac.jp）

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	IT(Information Technology) やICT (Information Communication Technology)といった用語の意味をWeb等で調査する．（２時間）
	授業内容	**ＩＣＴの概要と意義**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
2	事前学習	「情報」という言葉（用語）に関し，自分自身が持つ知識を整理する．また，自分が利用しているＩＣＴ機器に格納されている情報種別について棚卸する．（２時間）
	授業内容	**ＩＣＴのインフラ技術（１） ・情報**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習．特にアナログとディジタルの特徴の違いについて理解する． （２時間）
3	事前学習	自分自身が使用しているコンピュータ（ＰＣやタブレット，スマートフォン等）の装置の構成要素を洗い出し，リスト化する．（２時間）
	授業内容	**ＩＣＴのインフラ技術（２） ・コンピュータハードウェア**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）

4	事前学習	自分が使用しているＰＣやスマートフォンのＯＳ，及びアプリケーションの種別を確認し，列挙する．（１．５時間）
	授業内容	**ＩＣＴのインフラ技術（３） ・コンピュータソフトウェア**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習．特にＯＳの役割について十分に理解する．（２．５時間）
5	事前学習	ＰＣ，スマートフォン等で視聴する音楽や画像・映像の情報形式を調査する．またその容量を推測する．（２時間）
	授業内容	**ＩＣＴのインフラ技術（４） ・ディジタルコンテンツ**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習．特にコンテンツ・メディアに容量（情報量）があること，およびその相違について十分に理解する．（２時間）
6	事前学習	自分自身がＰＣやスマートフォンに保有している大量の情報（情報の種別には拘らない）の管理方法と問題点について取りまとめる．（２時間）
	授業内容	**情報活用（１） ・データベース**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
7	事前学習	スーパーマーケットやコンビニで商品を購入した時にレジで収集する情報種別を考えてみる．また，自分がよく利用するこれら店舗（あるいはその企業全体）の１日の利用者数や販売物品の種類と数量，売り上げを調査する．（２．５時間）
	授業内容	**情報活用（２） ・データウェアハウス／BI**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（１．５時間）
8	事前学習	「ユビキタス」という言葉の由来を事前に調べ，ユビキタスという言葉を使った様々な概念をピックアップしてまとめておく．（１．５時間）
	授業内容	**情報活用（３） ・ユビキタス技術 （ICカード，ICタグ，ユビキタス，等）**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習と，これまでの授業内容に関する感想と質問項目をレポートにまとめる．（次回の授業で提出）（２．５時間）
9	事前学習	「通信」という言葉から思い浮かべるサービスの種類，また通信を行う上で必要となる“要素”を抜き出してみる．（３時間）
	授業内容	**情報通信の基礎 ・概要と意義 ・通信とネットワーク**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（１時間）
10	事前学習	世の中で提供されている通信サービスを列挙する．また，携帯電話やスマートフォンを使って相手と通話・メールのやり取りを行う場合の情報交換の仕組みについて考えてみる．（２時間）
	授業内容	**具体的なネットワーク例 ・ブロードバンド，LAN，モバイル**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習．特にネットワーク事例として示した技術・サービスの使い分けについて理解する．（２時間）
11	事前学習	「インターネットとは何か」について考察する．とりわけ前回学習した「モバイル」との仕組みの違いについて考えてみる．（１．５時間）
	授業内容	**インターネット（１） ・インターネットの技術**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習．特にネットワークの構成やアドレスの仕組みについて理解する．（２．５時間）
12	事前学習	インターネットで提供されているサービスを思いつく限り列挙する．また，これらがサービス形態として類別化できるか検討する．（２時間）
	授業内容	**インターネット（２） ・インターネットのサービス**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
13	事前学習	ＩＣＴ分野でここ数年間にわたりマスコミで話題となった情報セキュリティ関連の記事を調査する．また，自分のＰＣのセキュリティ対策についてとりまとめる．（２時間）
	授業内容	**情報セキュリティ ・情報セキュリティ技術と適用事例**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習．特に自分自身のＩＣＴ機器における情報セキュリティについて問題ないか見直してみる．（２時間）
14	事前学習	これまでの授業で学習したＩＣＴについて，自分の経験からの課題を抽出する．（２時間）
	授業内容	**ＩＣＴの課題と解決策**
	事後学習	授業の中で議論した内容も踏まえ，ＩＣＴの課題と考えられる解決策をまとめる．（２時間）
15	事前学習	授業で学習したＩＣＴの中から一つを選び，今後の発展方向を予測する．（２時間）
	授業内容	**ＩＣＴの今後の発展動向とまとめ，及び期末レポートや授業全体の振り返り**
	事後学習	全体の授業内容を復習し，自分にとってのＩＣＴの位置づけ，役割について改めて考察する．（２時間）

科目名	知的財産ビジネス特論Ⅴ（バイオテクノロジー）	担当者	光田　賢	期間	半期	単位数	2

授業概要	特許実務を担うには法律知識と技術知識が必要である。バイオテクノロジー（バイオ）は、技術進化が著しく、医療医薬、食糧、エネルギー、環境保護などへの実用が進んでいる。本授業では、バイオの基礎知識を習得し、発明から実用化に至った実例、知財としての活用事例や事件を学ぶことによって、バイオ分野における知的財産の保護活用とビジネスへの展開を知ると同時に、他技術分野と異なるバイオ特有の知財問題について考察する。
授業目的・到達目標	バイオ特許にかかわる研究開発やビジネスの実務者にとって必要なバイオの基礎的知識を修得するとともに特許の保護や活用の在り方について考察することを目標とする。 バイオ分野における研究開発や事業における特許実務者や経営者として特許戦略や特許活用による事業戦略を構想できる人材となることを目標とする。 関連するDP/CP私法学専攻1，4，6
履修条件	特許法の基礎知識を有し、バイオ分野への高い関心を有すること。
授業方法	パワーポイントならびに配布資料を使用して行う。講義、グループ討論、学生による発表などを行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	出席率70%未満は不合格とし、受講態度やレポートに基づき、合格/不合格を絶対評価で判定し、(S)(A)(B)(C)は5:25:40:30を目安に相対評価とする。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用せず		

参 考 書	必要に応じて提示する。
オフィスアワー	授業内や授業前後，授業講堂にて質問や相談を受け付ける。 電子メールによる質問・相談は随時可（必ず自分の氏名・学籍番号を記すこと。匿名者には回答致しかねます）

【授業計画】

回数	授　業　内　容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに「バイオテクノロジーとは何か」について述べられるよう調べて情報を整理しておくこと（２時間）
	授業内容	**授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介し、バイオテクノロジーとはいかなる学問分野、技術分野であるか、またその知財保護の必要性に概説する。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、バイオテクノロジーを支える複数の学問分野体系を整理する（２時間）
2	事前学習	「生命、生物とは何か」について述べられるよう調べて情報を整理しておくことと自分の考えを整理しておくこと（２時間）
	授業内容	**バイオの基礎（１）；　生命・生物の成り立ちとその構成要素について、講義し、物と生物の相違点について、議論する。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、生命・生物とは何かについて理解を深め、その構成要素について、それを表す用語とともに確認しておくこと（２時間）
3	事前学習	「遺伝子・DNAとは何か」について述べられるよう調べて情報を整理しておくこと（２時間）
	授業内容	**バイオの基礎（２）；　生命の設計図と云われる遺伝子・DNAについて、その本質とは何かを、物の発明という観点を含めて、講義する。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、遺伝子・DNAという語は広く知られ使われているが、その本質的な意味を正しく理解できたかを確認すること（２時間）

4	事前学習	「タンパク質とは何か」について述べられるよう調べて情報を整理しておくこと（２時間）
	授業内容	**バイオの基礎（３）；細胞の直接的な構成要素であるタンパク質について、その構造や機能について、物の発明という観点を含めて、講義する。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、タンパク質とアミノ酸の関係を理解したかを確認すること（２時間）
5	事前学習	「交配・育種の技術とは何か」について述べられるよう調べて情報を整理しておくこと（２時間）
	授業内容	**バイオの技術（１）；人類が生存発展のために利用してきたバイオの歴史を俯瞰し、そこで生まれた作物育種技術について、その原理と応用を講義する。さらにそれら技術に対する特許・育成者権による保護の必要性を理解させる。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、作物育種技術の保護に関わる特許法・種苗法の条文を確認し、それぞれの特徴を確認する（２時間）
6	事前学習	「遺伝子組換えとは何か」について述べられるよう調べて情報を整理しておくこと（２時間）
	授業内容	**バイオの技術（２）；遺伝子組換えに代表される所謂ニューバイオテクノロジーの発生と進化、応用について講義する。そして、技術の発展における知財保護の必要性・重要性を産学連携やベンチャー企業の事例をもって理解させる。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、バイオ分野と他の技術分野との知財保護の相違点を確認すること（２時間）
7	事前学習	「遺伝子組換え作物とは何か」について述べられるよう調べて情報を整理しておくこと。（２時間）
	授業内容	**バイオ技術の産業利用（１）農業と知財；農業分野におけるバイオ、とりわけ遺伝子組換え作物の開発経緯と普及状況、社会的受容性にかかわる問題、特許権の問題などを講義する。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、企業における遺伝子組換え作物に係わる特許戦略と特許権の活用について理解したかを確認すること（２時間）
8	事前学習	「バイオ医薬品とは何か」について述べられるよう調べて情報を整理しておくこと（２時間）
	授業内容	**バイオ技術の産業利用（２）医薬品開発；医薬品開発の流れを説明し、医薬品産業の現状と課題、新規医薬開発のバイオ医薬品開発へのシフトと知財における問題を講義する。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、医薬品開発に関して、これまでに生じた特許問題や特許法改正の背景を理解したかを確認すること（２時間）
9	事前学習	「再生医療とは何か」について述べられるよう調べて情報を整理しておくこと（２時間）
	授業内容	**バイオの産業利用（３）医療技術；iPS細胞など再生医療にかかわる技術の研究開発とその応用について、経緯と現状、今後の課題を講義する。さらに生命倫理と知財保護の関係における問題を議論する。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、最先端技術における特許戦略ならびに生命倫理との関係について理解したかを確認し、自分の意見をまとめること（２時間）
10	事前学習	「バイオレメディエイション（バイオ環境修復）とは何か」について述べられるよう調べて情報を整理しておくこと（２時間）
	授業内容	**バイオの産業利用（４）環境技術；バイオによる環境修復技術について、その発達の経緯、現状と問題について講義する。また、生物多様性や生態系への影響についても論じる。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、環境問題は複雑なシステムの問題であり、その解決アプローチも政治的な要素を含む複雑なものであることを理解したかを確認し、現実の環境問題について自分の考えをまとめること（２時間）
11	事前学習	代表的なバイオ企業（甲社・医薬医療分野）の業容と技術基盤、特許戦略について調査してまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**バイオ企業の知財戦略（１）；甲社に関する調査結果の発表と質疑応答の後に、SWOT分析とグループ討議を行う。このことにより、甲社のコア技術と特許戦略、事業戦略の関係を理解する。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、事例からビジネスにおける特許戦略・特許活用を理解したかについて確認すること（２時間）
12	事前学習	代表的なバイオ企業（乙社・生物由来製品）の業容と技術基盤、特許戦略について調査してまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**バイオ企業の知財戦略（２）；乙社に関する調査結果の発表と質疑応答の後に、SWOT分析とグループ討議を行う。このことにより、乙社のコア技術と特許戦略、事業戦略の関係を理解するとともに、甲社との相違を考察する。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、事例からビジネスにおける特許戦略・特許活用を理解したかについて確認し、甲社と乙社の特許戦略・事業戦略を比較検討すること（２時間）
13	事前学習	指定されたバイオ企業（丙社・新素材）の業容と技術基盤について調査して発表の準備をしておくこと（２時間）
	授業内容	**バイオ企業の知財戦略（３）；調査結果の発表と質疑応答の後に、SWOT分析とグループ討議を行う。このことにより、丙社のコア技術と特許戦略、事業戦略の関係を理解する。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、事例からビジネスにおける特許戦略・特許活用を理解したかについて確認すること（２時間）。
14	事前学習	「バイオ関連ビジネスの今後の展開において予想される問題」について提起できるよう調査してまとめておくこと（２時間）
	授業内容	**バイオ企業の知財戦略（４）；問題提起の発表を行い、問題の所在、重要性、解決策についてグループ討議する。また、バイオ分野において開発中の新技術について講義し、考えられる問題を知財や社会との関係から論じる。**
	事後学習	配布資料と講義ノートを再読して、バイオとその実用化について、技術的観点、事業展開の観点、知財保護と活用の観点から考察し、自分の考えを整理すること（２時間）
15	事前学習	これまでの講義を通じて、理解が不十分な点やさらに知得したい点などを整理して、質問や問題提起の準備をしておくこと（２時間）
	授業内容	**総括；事前学習で準備された点につき、質疑、討論、解説などを行う。さらに今後のバイオ技術の発展と知財保護について討論する。**
	事後学習	これまでの配布資料と講義ノートを再読して、当該科目で得た知識・情報をもとに、バイオ技術と人類・社会の幸福、知財保護の在り方について、自分なりの考えをまとめる（２時間）

科目名	知的財産ビジネス特論Ⅵ（機械・エネルギー）	担当者	石塚　冬樹	期間	前期	単位数	2

授業概要	環境・エネルギー技術を中心に講義する。地球温暖化による気候変動は想定を超える速度で進行し、地球は後戻りのできない臨界点に達しつつある。一方では近年「脱炭素社会」への潮流が急速に進み、世界は大変革を遂げようとしている。日本も2020年10月、「2050年カーボンニュートラル（脱炭素化）」を世界に宣言した。本講義では環境・エネルギー関連の政策や技術を学ぶとともに今後の知財人材としての役割を考える。
授業目的・到達目標	【授業目的】環境・エネルギー技術の現状や課題を学び、現代社会における知財人材として必要な知識を獲得する。またロボット技術を事例として先端技術開発の問題点やあり方を考察し、知財人材として必要な思考能力を育成する。 【到達目標】環境・エネルギー技術に関する広く深い知識を身に付ける。メディア等を通じて発信される関連情報をその背景も含めて理解できる能力、及び自らの考えを表現する能力を身に付ける。 関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，４，６
履修条件	知的好奇心を持ち積極的にディスカッションに参加する意欲を持つか、今はその自信がなくとも受講を通じてそのスタンスを養成しようとする意欲を持つことが望まれる。
授業方法	各回ともパワーポイントを用いるとともに、国内外の最新動向をビデオ映像資料により紹介する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	
	平 常 評 価	100%	授業への参加度及び質疑応答やディスカッションへの積極的参加を評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない。		

参 考 書	「産業構造審議会産業競争力部会報告書」、「技術情報等の適正な管理の在り方に関する研究会報告書」、「平成25年度特許出願技術動向調査報告書（概要）ロボット」、「ロボット新戦略」　（いずれもネットにて無償入手可）
オフィスアワー	授業前後に授業講堂にて行う。メールでの相談は随時受け付ける。 メールアドレス　：　ishizuka.fuyuki11@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを読み、本講義の全体像をつかむ。（２時間）
	授業内容	**１．気候変動と人類の未来　(1)臨界点を迎える地球 スーパーコンピューターによる近未来予測、気候変動・生態系変化・極地異変等の現状、迫る地球の臨界点**
	事後学習	気候変動などの異常現象について、自分の実感や体験と照らしあわせる。（２時間）
2	事前学習	「温室効果ガス」、「ＩＰＣＣ」について調べ、概要をつかむ。（２時間）
	授業内容	**(2)気候変動対策の国際的枠組み 温暖化のメカニズム、温暖化対策の国際的枠組の推移、ＩＰＣＣ報告書、各国の思惑と対立、パリ協定とその後**
	事後学習	「パリ協定」について合意内容・問題点をまとめる。（２時間）
3	事前学習	「固定価格買取制度」について調べ、概要をつかむ。（２時間）
	授業内容	**２．再生可能エネルギー技術　(1)再生可能エネルギー（総論） 再生可能エネルギー普及の意義・状況・課題、固定価格買取制度、海外先進事例と日本の現状**
	事後学習	「再生可能エネルギー」の普及の必要性と意義についてまとめる。（２時間）

4	事前学習	知財分野における「オープン＆クローズ戦略」について調べる。（２時間）
	授業内容	**(2)太陽エネルギー 太陽エネルギーの利用形態と仕組み、日本と世界での普及状況と課題、日本メーカーの知財戦略の失敗事例**
	事後学習	知財戦略のあり方について考えをまとめる。（２時間）
5	事前学習	「風力発電」について調べ、概要をつかむ。（２時間）
	授業内容	**(3)風力エネルギー 風力発電の仕組み、海外事例と日本の現状、特許出願状況分析、日本の風力発電の現状と課題**
	事後学習	日本における風力発電の進むべき方向性について考えをまとめる。（２時間）
6	事前学習	「地熱発電」について調べ、概要をつかむ。（２時間）
	授業内容	**(4)地熱エネルギー 地熱発電の仕組み、海外事例と日本の現状、福島原発事故後の国策大転換、世界有数の資源を生かせない要因**
	事後学習	日本における地熱発電の進むべき方向性について考えをまとめる。（２時間）
7	事前学習	「水力発電」について調べ、概要をつかむ。（２時間）
	授業内容	**(5)河川・海洋エネルギー 水力発電の現状、中小水力発電への期待、巨大な蓄電池：揚水発電、世界6位の海洋大国日本の未来**
	事後学習	日本における河川・海洋エネルギー開発の方向性についてまとめる。（２時間）
8	事前学習	「バイオマス」について調べ、概要をつかむ。（２時間）
	授業内容	**(6)バイオマスエネルギー バイオマスは「地球に優しい」か、カーボンニュートラル、食糧との競合・生態系の破壊、次世代バイオマス**
	事後学習	自動車用バイオ燃料に関する問題点と、今後あるべき方向性についてまとめる。（２時間）
9	事前学習	原子力発電について調べ、概要を掴む。（２時間）
	授業内容	**３．原子力エネルギー技術　(1)原子力発電の仕組み　～事例研究　福島第一原発事故～ 過酷事故とは、原子力発電の仕組み、福島事故の発生要因の分析、巨大システムとリスク要因**
	事後学習	福島事故の発生要因についてまとめる。（２時間）
10	事前学習	核燃料サイクルについて調べ、概要を掴む。（２時間）
	授業内容	**(2)核燃料サイクルと次世代原子力技術 核燃料サイクルとは、イラン核疑惑、もんじゅ廃炉、「準」国産エネルギーへの険しい道のり、次世代原子炉**
	事後学習	原子力エネルギー利用について自分の考えをまとめる。（２時間）
11	事前学習	「ＤＡＲＰＡ」「ＮＥＤＯ」について調べ、概要をつかむ。（２時間）
	授業内容	**４．ロボット技術　(1)ロボットの仕組み　～事例研究　ロボット技術の軍事利用～ 戦場に送り込まれるロボット軍団、ロボット代理戦争の現状、AI殺人ロボット、軍事技術と民生技術の関係**
	事後学習	「ロボット」がもたらす人類への恩恵と脅威について、自分の考えをまとめる（２時間）
12	事前学習	「サイボーグ技術)」について調べ、概要をつかむ。（２時間）
	授業内容	**(2)事例研究　～サイボーグ技術～ 障害・難病の克服、スーパー兵士、許されざる人間改造、人工知能が人間を超える日、全身サイボーグ化事例**
	事後学習	サイボーグ技術開発のあるべき方向性について、自分の考えをまとめる（２時間）
13	事前学習	「ＥＶシフト（自動車の電動化）」について調べ、概要をつかむ。（２時間）
	授業内容	**５．エネルギーの高度利用技術　(1)燃料電池とエコカー 究極のエコカー燃料電池車、ハイブリッド車、電気自動車、ＥＶシフト（脱ガソリン車）の世界的潮流**
	事後学習	「脱ガソリン車」政策に関し、自分の考えをまとめる。（２時間）
14	事前学習	「ヒートポンプ」、「コジェネレーション」について調べ、概要をつかむ（２時間）
	授業内容	**(2)ヒートポンプとコジェネレーション 電力会社vsガス会社、あなたの家にもある高効率システム、六本木ヒルズ・東京ドームシティー等の事例**
	事後学習	「ヒートポンプ」と「コジェネレーション」の原理と応用事例についてまとめる（２時間）
15	事前学習	「グリーン成長戦略」について調べ、概要をつかむ。（２時間）
	授業内容	**６．脱炭素社会への道のり 加速する地球温暖化と対策、各国の環境政策・環境ビジネス、日本の「グリーン成長戦略」、水素社会への道**
	事後学習	講義全体で学んだことをもとに、日本のエネルギー政策への提言をまとめる。（２時間）

科目名	知的財産ビジネス特論Ⅵ（社会安全工学）	担当者	下池　季樹	期間	前期	単位数	2

授業概要	社会安全工学の授業では、建設分野、地球環境分野、そしてこれらを束ねるマネジメント分野の視点から、知的財産に対する関連性および各分野の基本的な理論と事例について学修する。社会安全工学の『社会』とは、現在デジタルワールドと言われているインターネットを中心としたICTの仮想世界よりも、「建設（土木・建築）」分野のリアルな世界のことである。そして『安全』とは、「セキュリティ」や「危機管理」といった概念と重なっている。
授業目的・到達目標	知的財産に関する業務を行うには、技術・経営・法律という座標軸を意識し、各軸の判断基準の相違と基本的な考え方を理解した上で、知的財産にかかわる問題に対する解を統合的に創り出す必要がある。このような能力のある人材の育成が目的である。また実践科目である当授業では、主に建設の実務とビジネスの側面から技術・経営・法律を理解する。 ①建設、地球環境分野から技術の価値を認識できる。②マネジメント分野において、経営の基本的概念を解釈できる。 ③建設、地球環境、マネジメント分野に関連する法律の概要を理解できる。 【関連するDP・CP私法学専攻１，４，６】
履修条件	「地球環境」「建設」「マネジメント」について少しでも興味があること。（予備知識は不要）
授業方法	パワーポイント等の資料を用いた講義と、調査・発表およびディスカッション。最終回でそれまでの調査結果発表や見解に対する総合講評を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	授業中の調査結果発表や質問等の活発度を基準に、[到達目標]にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特に使用せず、必要に応じパワーポイント等の資料を配布。		

参考書	・「PMBOK®ガイド建設拡張版」；一般社団法人PMI日本支部 監修（※マネジメント領域で参考とする）
オフィスアワー	時間帯：土曜日１２：３０～１３：３０ 場所　：土曜日２時限目の授業後，相談可能な場所 内容　：学業、その他諸事可 記事　：メールでの相談随時可（simoike.toshiki○nihon-u.ac.jp）

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	「地球環境」、「建設」、「マネジメント」の各分野において、最近話題となったトピックをネット情報等から調べる。（3時間）
	授業内容	**〈オリエンテーション〉 社会安全工学とは何か。また、地球環境・建設・マネジメントに対する知的財産との関連性。**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習。（1時間）
2	事前学習	「自然災害」と「気候変動」において、知的財産との具体的な関連性を調べる。（2.5時間）
	授業内容	**１．地球環境 １．１ 自然災害と気候変動；気候変動の脅威等。 「自然災害」と「気候変動」において、知的財産との具体的な関連性の調査結果発表や見解等。**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習。リサーチギャップ（さらに研究を進める余地のある未開拓のエリア）を考える。（1.5時間）
3	事前学習	「地震」と「プレートテクトニクス」において、知的財産との具体的な関連性を調べる。（2.5時間）
	授業内容	**１．２ 地震とプレートテクトニクス；生活基盤である地球の成立を知るプレートテクトニクスの概説等。 「地震」と「プレートテクトニクス」において、知的財産との具体的な関連性の調査結果発表や見解等。**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習。リサーチギャップを考える。（1.5時間）

4	事前学習	「SDGs」と「土壌汚染」において、知的財産との具体的な関連性を調べる。（2.5時間）
	授業内容	**１．３ SDGsと土壌汚染；SDGsがビジネスを変える等。 「SDCs」と「土壌汚染」において、知的財産との具体的な関連性の調査結果発表や見解等。**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習。リサーチギャップを考える。（1.5時間）
5	事前学習	「建設構造物」と「景観」において、知的財産との具体的な関連性を調べる。（2.5時間）
	授業内容	**２．建設 ２．１ 建設構造物（土木・建築）と景観；世界の都市の形成史等。 「建設構造物」と「景観」において、知的財産との具体的な関連性の調査結果発表や見解等。**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習。リサーチギャップを考える。（1.5時間）
6	事前学習	「i-Construction」において、知的財産との具体的な関連性を調べる。（2.5時間）
	授業内容	**２．２ i-Construction；建設現場の生産性向上を目指したi-Constructionの取組み等。 「i-Construction」において、知的財産との具体的な関連性の調査結果発表や見解等。**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習。リサーチギャップを考える。（1.5時間）
7	事前学習	「CIM/BIM」と「建設ICT」において、知的財産との具体的な関連性を調べる。（2.5時間）
	授業内容	**２．３ CIM/BIMと建設ICT；すべての段階のプロセスのシームレス化を図るCIM（Construction Information Modeling/Management）の解説と建設産業におけるICTの取組み等。 CIM/BIM」と「建設ICT」において、知的財産との具体的な関連性の調査結果発表や見解等。**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習。リサーチギャップを考える。（1.5時間）
8	事前学習	「建設マネジメント（CM）」において、知的財産との具体的な関連性を調べる。（2.5時間）
	授業内容	**２．４ 建設マネジメント(CM)；建設産業におけるCM（Consutruction Management）の取組み事例等。 「建設マネジメント（CM）」において、知的財産との具体的な関連性の調査結果発表や見解等。**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習。リサーチギャップを考える。（1.5時間）
9	事前学習	「PPP/PFI（官民連携）」において、知的財産との具体的な関連性を調べる。（2.5時間）
	授業内容	**２．５ PPP/PFI（官民連携）；PPP(Public Private Partnership)/PFI(Private Finance Initiative)の取組み事例等。 「PPP/PFI（官民連携）において、知的財産との具体的な関連性の調査結果発表のや見解等。**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習。リサーチギャップを考える。（1.5時間）
10	事前学習	「インフラツーリズム（土木遺産）」において、知的財産との具体的な関連性を調べる。（2.5時間）
	授業内容	**２．６ インフラツーリズム（土木遺産）；土木遺産とは何か。また、日刊建設通信新聞社に連載中のインフラツーリズムの解説等。 「インフラツーリズム（土木遺産）」において、知的財産との具体的な関連性の調査結果発表や見解等。**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習。リサーチギャップを考える。（1.5時間）
11	事前学習	「プロジェクトマネジメント/プログラムマネジメント/ポートフォリオマネジメント」において、知的財産との具体的な関連性を調べる。（2.5時間）
	授業内容	**３．マネジメント ３．１ プロジェクト/プログラム/ポートフォリオマネジメント；各マネジメントの概説及びその重要性について等。 「プロジェクト/プログラム/ポートフォリオマネジメント」において、知的財産との具体的な関連性の調査結果発表**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習。リサーチギャップを考える。（1.5時間）
12	事前学習	「技術経営」において、知的財産との具体的な関連性を調べる。（2.5時間）
	授業内容	**３．２ 技術経営；技術経営の歴史、知的財産の意義等。 「技術経営」において、知的財産との具体的な関連性の調査結果発表や見解等。**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習。リサーチギャップを考える。（1.5時間）
13	事前学習	「スタートアップ・LLP（有限責任事業組合）」において、知的財産との具体的な関連性を調べる。（2.5時間）
	授業内容	**３．３ スタートアップ・LLP（有限責任事業組合）；スタートアップとは何か。また、実際に研究会からLLPを立ち上げた事例等。 「スタートアップ・LLP（有限責任事業組合）」において、知的財産との具体的な関連性の調査結果発表や見解等。**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習。リサーチギャップを考える。（1.5時間）
14	事前学習	「リベラル・アーツ」において、知的財産との関連性を調べる。（2.5時間）
	授業内容	**４．リベラル・アーツ；リベラル・アーツの概要、現在社会においてその考え方が求められる理由等。 「リベラル・アーツ」において、知的財産との関連性の調査結果発表や見解等。**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習。リサーチギャップを考える。（1.5時間）

15	事前学習	これまでの授業内容を復習する。（3時間）
	授業内容	**本授業の内容に関する質問への回答。** **本授業全体の振り返り。** **※発表；本授業の感想。**
	事後学習	回答したパワーポイント教材の復習。考えたリサーチギャップをまとめる。（1時間）

科目名	知的財産ビジネス特論Ⅵ（ナノエレクトロニクス）	担当者	菅野　政孝	期間	後期	単位数	2

授業概要	エレクトロニクスとは電子工学・電子機器という意味であるが，世の中に必須なコンピュータやスマートフォン等の情報通信機器のみでなく，自動車・エネルギー・医療・環境等の最先端産業を支える基幹技術とサービスの事である． これらの技術・サービス及びビジネスに関する概要と関係する知的財産権との関わりについて学修する．
授業目的・到達目標	【授業の目的】エレクトロニクスはコンピュータや通信の根幹技術として発展してきたが，いまやその重心は自動車・エネルギー・健康／医療・地球環境･商工業インフラ・生活インフラ等に移りつつある．本講義ではこれらエレクトロニクス応用技術の進展状況と我が国の産業界が直面する知的財産問題につき考察する力を身につける． 【到達目標】エレクトロニクスの基本構成であるコンピュータ，半導体等の基本的仕組みを説明でき，エレクトロニクスの技術が使われる際の問題を解決して従来サービスへの応用について工夫できるようになることを目標とする． 関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，４，６
履修条件	エレクトロニクスに興味があること［予備知識は不要］
授業方法	図面や配布資料による授業と，質疑応答．

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業内容の理解度，及び授業出席と授業内での質問や意見発表，質問票の提供等の状況により総合的に判断する．

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特に使用せず，必要に応じ資料を配布		

参 考 書	その都度紹介する．
オフィスアワー	時間帯：木曜日１３：００～１４：００ 場所　：木曜日３時限目の時間帯に相談可能な場所 内容　：学業、就職活動支援、その他諸事可 記事　：メールでの相談随時可（sugano.masataka@nihon-u.ac.jp）

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	エレクトロニクスという用語から思いつく技術やサービスの項目を自分なりに取りまとめる． （２時間）
	授業内容	**＜オリエンテーション＞ エレクトロニクス基礎技術とは？**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
2	事前学習	ＰＣがどのような装置から構成されているかを考える．また，光の３原色，色の３原色とは何かを思い出す．（１．５時間）
	授業内容	**１　エレクトロニクスと情報通信 （１）情報のデジタル化とコンピュータの仕組み**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習．特にディジタル情報とは何かについて十分に理解する． （２．５時間）
3	事前学習	前回学習した「情報のデジタル化」や「半導体記録のしくみ」などを復習する．（２時間）
	授業内容	**（２）コンピュータ技術の発展を支える半導体技術**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習．特に半導体の仕組みについて理解する．（２時間）

4	事前学習	「情報のデジタル化」の学習内容を復習する．また，２地点間で情報通信を行うとき，設定された通信容量をオーバーする大量の情報を送る必要が生じてきたら，どのような対処をすることにより大量の情報を送ることが出来るようになるか，のアイデアを考える．（２．５時間）
	授業内容	**（３）コンピュータ技術を応用したデジタル通信**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（１．５時間）
5	事前学習	情報通信産業の国内外における現状や規模，知的財産権に関わるトピック等を調べる．（２時間）
	授業内容	**（４）情報通信産業の将来と知財問題**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習．特に情報通信と知的財産権との関わりについて理解する．（２時間）
6	事前学習	最近最も頻繁に出てくる自動車の「自動運転」とは何であって，どのようなエレクトロニクス技術が応用されているか調べる．（２時間）
	授業内容	**２　エレクトロニクス応用技術の現状と将来** **（１）エレクトロニクスと自動車技術**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
7	事前学習	わが国の電力事業の現状や現在最も問題となっている課題について調べる．（２時間）
	授業内容	**（２）エレクトロニクスと電力エネルギー技術**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習．特に日本での今後の電力エネルギー資源の在り方について予習・授業内容に基づき自分なりに考察してみる．（２時間）
8	事前学習	わが国の自然エネルギーにはどのようなものが有って，その比率や産業規模がどの程度かを調査する．（２時間）
	授業内容	**（３）エレクトロニクスとエコロジー技術**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
9	事前学習	電子化された医療機器にはどのような種類があるか調べる．（２時間）
	授業内容	**（４）エレクトロニクスと医療システム技術**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
10	事前学習	３Ｄプリンタ，レーザ加工，ロボット制御，組み込みコンピュータといった言葉がどのような意味なのか，概要を掴んでおく．（２時間）
	授業内容	**（５）エレクトロニクスと工業生産システム技術**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
11	事前学習	エレクトロニクス応用技術の現状と将来で学んだ技術・産業に関わる知的財産権には何があるか，またその権利に関する問題点は何かについて調査する．（３時間）
	授業内容	**（６）エレクトロニクス応用技術の知財問題**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（１時間）
12	事前学習	エレクトロニクスの知的財産権に関する紛争やビジネス上のトピック等について調査する．（１．５時間）
	授業内容	**３　ビジネス実務に関する話題** **（１）ビジネス活動における知的財産権問題**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習．特に授業の中で示した訴訟事例のいずれかについて実際に判例を調査してみる．（２．５時間）
13	事前学習	わが国が他国や地域と取り結んでいる国際協力協定等について調査する．（１．５時間）
	授業内容	**（２）グローバル経済と国際経済協力**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習と，これまでの授業内容に関する感想と質問項目をレポートにまとめる．（次回の授業で提出）（２．５時間）
14	事前学習	エレクトロニクスの技術規格に関する標準化の事例を調査する．（２時間）
	授業内容	**（３）製品企画の国際標準化と知財権の行使**
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（２時間）
15	事前学習	これまでの授業内容を復習する．（３時間）
	授業内容	**本授業の内容に関する質問への回答** **期末レポート及び本授業全体の振り返り**
	事後学習	回答したパワーポイント資料の復習（１時間）

科目名	私法学特論Ⅰ（外国知財法Ⅰ）	担当者	三村　淳一	期間	前期	単位数	2

授業概要	国際的に見て特異な知的財産制度を有する米国，一つの商業圏を形成し知的財産権における調和ができつつある欧州，各国が独自の知的財産制度を有するアジア諸国など，外国の知的財産法の法体系，行政・司法制度，知的財産法の周辺領域についての基本的知識に加えて，重要判例等を通じて実践的な知識の習得を図り，我が国企業の海外における知的財産戦略について考察する。
授業目的・到達目標	現在、多くの日本企業は米国企業からの特許権行使に悩まされ、場合によては、米国市場からの撤退を余儀なくされている。本授業では、米国でのビジネスを行うに際し、米国企業からの特許紛争を仕掛けられても適正に対応すべく、米国特許法を基礎から学び、米国における特許制度を理解し、その内容を他の受講者に説明できる人材を育成することを目的とし、最終的には、米国において自ら特許交渉を行える人材を輩出することを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，２，３，６
履修条件	特になし
授業方法	講義を基本とするが、米大学にあわせたソクラテスメソッドにより、双方向授業も組み込む。学期末試験を実施し、 フィードバックは、試験終了後に30分程度の試験解説を実施する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	授業内に試験を行う。合格／不合格の判定は絶対評価にり、90点以上(S)、80点以上(A)、70点以上(B)、60点以上(C)は、それぞれ5:25:40:30を目安とする相対評価。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2011	経済産業調査会	米国特許法―判例による米国特許法の解説　改訂版	山下弘綱
	備考			

参考書	Adelman et al "Cases and Materials on Patent Law "[Fifth Edition] (West Group 2018)
オフィスアワー	火曜12:10-1:00　研究室にて

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	日本語の教科書を用いて以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに列記する。(2時間) Gottschalk case/Diamond case SSB case/Bilski case
	授業内容	**特許対象：ソフトウエア、生物関連発明は米国で特許の対象になるか否か講義する。**
	事後学習	判決原文を読んで、授業内容を確認し、ノートに書き出しておく。(2時間)
2	事前学習	日本語の教科書を用いて以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに列記する。(2時間) Juicy Whip, Inc v. Orange Bang Brenner v. Manson
	授業内容	**有用性：有用性の判断。有用性とはどの程度要求されるのかを講義する。**
	事後学習	判決原文を読んで、授業内容を確認し、ノートに書き出しておく。(2時間)
3	事前学習	日本語の教科書を用いて以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに列記する。(2時間) Continental Can case/Egbert case Hall case/Cronyn case
	授業内容	**新規性①：Inherency／公然使用　まず、旧米国法下（先発明主義）での新規性判断時期、及び要件を講義し、その要件の１つである公然使用の意味について講義する。**
	事後学習	判決原文を読んで、授業内容を確認し、ノートに書き出しておく。(2時間)

4	事前学習	日本語の教科書を用いて以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに列記する。（2時間） City of Elizabeth v. ANP Pfaff v. Wells
	授業内容	新規性②：実験的使用／On sale Bar　旧米国法下（先発明主義）での新規性判断に際し、公然と発明を実験した場合、新規性はすべての事例で失ってしまうのか講義する。また、販売により新規性を失うが、販売とはどの時点を指すのか講義する。 また、米国改正法についても講義する。
	事後学習	判決原文を読んで、授業内容を確認し、ノートに書き出しておく。(2時間)
5	事前学習	日本語の教科書を用いて以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに列記する。(2時間) Graham case /KSR/US v Adams/Dillon
	授業内容	自明性：基本判例／組合わせ／化学物質の発明／副次的考慮。米国における自明性の判断基準を講義する。また、米国では進歩性判断をするに当たり副次的考慮を行う必要がある。この副次的考慮にはどの様なものがあるのか講義する。
	事後学習	判決原文を読んで、授業内容を確認し、ノートに書き出しておく。(2時間)
6	事前学習	日本語の教科書を用いて以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに列記する。(2時間) In re Wright/VAS-Cath/Chemcast v. Arco
	授業内容	開示要件：実施可能性要件、記述要件、Best Mode。特許明細書にはどの様のことを記載すべきであるか、１１２条を解説したうえで、上記判例により、記載すべき内容を明確にしていく。
	事後学習	判決原文を読んで、授業内容を確認し、ノートに書き出しておく。(2時間)
7	事前学習	日本語の教科書を用いて以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに列記する。(2時間) Catalina v. Coolsavings Atlantic Thermoplastics
	授業内容	クレーム：クレームの形式及び記載方法。特許請求範囲におけるプリアンブルの意義を明確にし、また、特殊なクレームであるプロダクト・バイ・プロセスクレームについて、解説する。
	事後学習	判決原文を読んで、授業内容を確認し、ノートに書き出しておく。(2時間)
8	事前学習	日本語の教科書を用いて以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに列記する。(2時間) Ethicon v USS/Eli Lilly v Barr Labs/FH v Toyota
	授業内容	出願手続：発明者／２重特許／出願の復活。３つの異なるトピックのオムニバス講義である。例えば、多数のクレームのうちの一部にしか貢献していない発明はの特許に係る権利は何処まで及ぶのかについて講義する。
	事後学習	判決原文を読んで、授業内容を確認し、ノートに書き出しておく。(2時間)
9	事前学習	日本語の教科書を用いて以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに列記する。(2時間) Phillips v. AWH
	授業内容	侵害①：判断基本及び解釈方法。特許請求範囲の記載された用語の解釈は、明細書に記載された定義で行うのか、その明細書内の定義と異なる意味が、権威のある辞書で定義されていた場合、どの様に扱いべきか講義する。
	事後学習	判決原文を読んで、授業内容を確認し、ノートに書き出しておく。(2時間)
10	事前学習	日本語の教科書を用いて以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに列記する。(2時間) Markman v. Westview
	授業内容	侵害②：判断主体（事実問題か？法律問題？）。特許侵害訴訟における、陪審員の役目、裁判官の役目について講義する。
	事後学習	判決原文を読んで、授業内容を確認し、ノートに書き出しておく。(2時間)
11	事前学習	日本語の教科書を用いて以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに列記する。(2時間) Graver Tank/ Warner-Jenkinson/Festo/Corning
	授業内容	侵害③：均等論／逆均等論。均等論の意味、及び適用要件について、判例を通して明確にしていく。
	事後学習	判決原文を読んで、授業内容を確認し、ノートに書き出しておく。(2時間)
12	事前学習	日本語の教科書を用いて以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに列記する。(2時間) HP Co v. B & L
	授業内容	侵害④：間接侵害／故意侵害。米国における間接侵害は、「寄与侵害」及び「侵害の誘発」に分類され、日本とは考えから異なる。上記判例から、それぞれの意味を導き出す。
	事後学習	判決原文を読んで、授業内容を確認し、ノートに書き出しておく。(2時間)
13	事前学習	日本語の教科書を用いて以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに列記する。(2時間) Kingsdown v. Hollister A.C.Aukerman v. R.L.Chaides
	授業内容	抗弁：無効、不公正行為、ミスユース。米国特有の不公正行為による特許権行使不能理論とは何か講義する。また、特許権者が法律で認められた独占権の範囲を不当に拡張しようと試みるとどの様な結論となるか講義する。
	事後学習	判決原文を読んで、授業内容を確認し、ノートに書き出しておく。(2時間)
14	事前学習	日本語の教科書を用いて以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに列記する。(2時間) H.H.Robertson v US Deck/Ebay/Panduit Rite-Hite/Seagate
	授業内容	救済：差し止め、損害賠償。特許侵害が認定された場合の永久差止や予備差止の要件について講義し、また、損害賠償の計算方法、および全体市場価値ルールに基づく場合の損害賠償額計算理論について講義する。
	事後学習	判決原文を読んで、授業内容を確認し、ノートに書き出しておく。(2時間)

15	事前学習	日本語の教科書を用いて以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに列記する。(2時間) Jazz Photo v. US ITC Lexmark最高裁判決
	授業内容	**米国特有の特許制度（RCEや再発行等）及び特許の国際消尽に関し、講義を行う。 また、授業内で試験を行う。試験内容の解説は授業後半で行う。**
	事後学習	判決原文を読んで、授業内容を確認し、ノートに書き出しておく。また、試験で回答できない部分については、解説を聞き、判決原文を再度読み解説を確認し、ノートに書き出しておく。(2時間)

科目名	私法学特論Ⅱ（外国知財法Ⅲ）	担当者	劉　斌斌	期間	後期	単位数	2

授業概要	中国における知的財産制度、知財裁判の仕組みなどに関する法改正の経緯や背景について研究・討論する。常に最新の事例、判例を通じて中国知的財産制度の最前線を紹介すべく、最近の法制度の改正動向、最新の判例を研究することにより、比較法の視点から認識・理解し、その相違点などを探究する。
授業目的・到達目標	近年中国は知的財産権制度の法整備、知的財産権保護する取り組みを強化しつつあると同時に、知的財産権のグローバル・ガバナンスに関しても国際社会から注目されている。この講義では、中国知的財産法における仕組み、裁判制度および改革、権利侵害における判定、損害賠償及び救済など、最新の情報、事例・判例を通じて、考察・研究・討論することにより、国際的な視野を持ち、日中間において活躍できる法律家を養成することを目的とする。比較法の視点から、違いを確認し、国際間における知財紛争や問題に直面した際に、円滑に解決を図れるようになることを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，２，４
履修条件	特になし
授業方法	レジメ、PPT 、資料など用いて講義する。最新の情報、事例、判例も適宜教材にし、授業時間内で講評・解説・討論を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	討論における積極的な発言内容、報告および授業への参加・貢献度を総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない		

参 考 書	必要な場合には授業中に指示する。
オフィスアワー	研究室にて、月曜日14：40―16：10

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	授業の概要、授業の目的、進行などを理解し、中国法、特に知財法を概観すべく予習を行う。（2時間）
	授業内容	**中国における知的財産に関する法律の変遷について考察する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し中国知財法の流れについて理解し、まとめる。（2時間）
2	事前学習	毎回、次回授業のレジメや資料を配布する。レジメや資料により、中国の裁判制度、知財訴訟など予習しておく。（2時間）
	授業内容	**中国における知財訴訟に関する仕組み・問題点及び改革について、事例や判例で読み、理解する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、日本の知財訴訟と比較して中国における知財裁判に関する注意点について整理し、まとめる。（2時間）
3	事前学習	次回授業のレジメや資料を配布する。中国における知財保護ルートについて調べておく。（2時間）
	授業内容	**中国における知財保護ルート：行政ルート、司法ルートに関する考察。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、日中の比較をする視点から、中国における知財保護ルートに関する注意点を理解し、まとめる。（2時間）

4	事前学習	次回授業のレジメや資料を配布するので、日本における発明特許の出願、審査及び手続きを含む予習しておく。（2時間）
	授業内容	**中国における発明特許の出願、審査および手続きについて、理論と実務両面で、その流れ及び変化を、事例を踏まえて学習する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、比較をする視点から、企業が中国に発明特許を出願するときの留意点をまとめる。（2時間）
5	事前学習	次回授業のレジメや資料を配布するので、予習しておく。（2時間）
	授業内容	**中国における特許権利の帰属：仕組みおよび判例に関する分析**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、比較をする視点から理解し、ポイントをまとめる。（2時間）
6	事前学習	次回授業のレジメや資料を配布するので、判例を読み比較法の視点から、予習しておく。（2時間）
	授業内容	**具体的な判例を踏まえて、中国における特許権侵害の判定について、学修・討論・研究する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、注意点および問題点を整理し、まとめる。（2時間）
7	事前学習	次回授業のレジメや資料を配布するので、判例を読み、比較法の視点から、予習しておく。（2時間）
	授業内容	**（中国）特許権侵害訴訟における均等論の適用について、学修・討論・研究する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、日本法との相違点をまとめる。（2時間）
8	事前学習	次回授業のレジメや資料を配布するので、判例を読み日本特許法に関する間接侵害理論を含む予習しておく。（2時間）
	授業内容	**具体的な判例を通じて、（中国）特許権の間接侵害について、討論・研究する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、中国の実務の面での間接侵害の成否、要件などを復習して、自分なりの理解・研究ノートを整理し、まとめる。（2時間）
9	事前学習	レジメや資料を配布するので、しっかり予習する。判例を読み判旨を理解しておく。（2時間）
	授業内容	**（中国）特許権侵害の救済１：差止請求、損害賠償額の算定、懲罰的損害賠償の適用について、討論・研究する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し比較法の視点から、自分なりの認識・理解をまとめる。（2時間）
10	事前学習	レジメや資料を配布するので、しっかり予習する。判例を読み、判旨を理解しておく。（2時間）
	授業内容	**（中国）特許権侵害の救済２：差止請求、損害賠償額の算定、懲罰的損害賠償の適用について、討論・研究する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、特に、損害賠償額の算定、懲罰的損害賠償の適用などについて、国際的な視点から、どう向き合うべきかについて、自分なりの考えを整理し、まとめる。（2時間）
11	事前学習	レジメや資料を配布するので、比較法の視点から、中国商標法の仕組みなどをしっかり予習する。判例を読み判旨を理解しておく。（2時間）
	授業内容	**具体的な判例を踏まえて、中国における商標の類似に関する判定について、研究・討論する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、授業の内容を確認し留意点および問題点など、自分なりの認識・理解をまとめる。（2時間）
12	事前学習	レジメや資料を配布するので、比較法の視点から、日本法を含めてしっかり予習する。判例を読み判旨を理解しておく。（2時間）
	授業内容	**（中国）「商標の使用」：「使用」の判定、取消請求などについて、考察・研究・討論する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し授業の内容を確認し、留意点および問題点など、自分なりの認識・理解をまとめる。（2時間）
13	事前学習	レジメや資料を配布するので、比較法の視点から、しっかり予習する。判例を読み判旨を理解しておく。（2時間）
	授業内容	**（中国）商標権侵害における懲罰的損害賠償の適用、判定及び損害賠償額の算定について、考察・研究・討論する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、特に、損害賠償額の算定、懲罰的損害賠償の適用などについて、国際的な視点からどう向き合うべきか、自分なりの考えを整理し、まとめる。（2時間）
14	事前学習	レジメや資料を配布するので、比較法の視点から、中国著作権法の仕組みなどをしっかり予習する。判例を読み判旨を理解しておく。（2時間）
	授業内容	**（中国）著作権侵害における実質的な類似に関する判定について、考察・研究・討論する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、授業の内容を確認し、留意点および問題点について、自分なりの認識・理解をまとめる。（2時間）
15	事前学習	レジメや資料を配布するので、比較法の視点から、日本法を含めてしっかり予習する。判例を読み判旨を理解しておく。（2時間）
	授業内容	**中国における著作権の間接侵害について、考察・研究・討論する。**
	事後学習	配布されたプリントを再読し、留意点、問題点および今後目指すべき方向について、自分なりの認識・理解をまとめる。（2時間）

科目名	私法学特論Ⅲ（審決取消訴訟）	担当者	大須賀　滋	期間	前期	単位数	2

授業概要	本講義では、特許を中心として、審決取消訴訟の実務について学修する。		
授業目的・到達目標	審決取消訴訟の基本的な仕組みを、特許出願にまで遡って理解するとともに、審決取消訴訟に関する法的問題点について、過去の重要判例を具体的に精査しながら検討することによって、審決取消訴訟のより深い理解と実務的応用力を習得することを目的とする。 本講義では、特許判例百選に掲載された判例を中心としながらも、併せて商標・意匠・不正競争判例百選に掲載された商標・意匠の審決取消訴訟の重要判例も取り上げ、広い視野から審決取消訴訟の全体像を把握し説明することができるようになることを目標とする。 関連するDP・CP私法学専攻1，4，6		
履修条件	特になし		
授業方法	講師による講義を中心としながらも、トピックについての受講生同士の意見交換も交えて進める。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業終了時に実施する小テストの結果及び授業中の質問や意見表明の内容を踏まえて、[到達目標]にかかわる能力が身についているかを評価する。

	年	出版社	書名	著者名
教科書	2019	有斐閣	ジュリスト特許判例百選第5版	小泉直樹・田村善之編
	2020	有斐閣	ジュリスト商標・意匠・不正競争判例百選第2版	茶園成樹・田村善之ほか編
	備考			
参 考 書	適宜紹介する			
オフィスアワー	火曜日2時限目の授業終了後引き続き			

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	裁判所法に定められた裁判の審級や種類についての条文を学習し、さらに民事訴訟法第２章「裁判所」の条文を学習する。（2時間）
	授業内容	**審決取消訴訟の前提となる、我が国における訴訟制度全般、民事訴訟の国内管轄・国際裁判管轄、事物管轄、知的財産訴訟である審決取消訴訟、特許異議取消決定に係る訴訟、存続期間延長登録無効審決取消訴訟、権利侵害訴訟についての包括的な理解を得る。**
	事後学習	授業で学んだ訴訟制度の仕組みや知的財産訴訟に係る各種の訴訟についての理解とその相違点を確認する。（2時間）
2	事前学習	特許出願から審決取消訴訟までがどのような流れで行われるのかを特許法第３章、第３章の２、第６章、第８章を通覧して把握する。（2時間）
	授業内容	**特許出願から審決取消訴訟に至る流れについて、実際の出願例や審判請求書の書式、審決例を参考にしながら具体的に把握する。さらに、我が国の審決取消訴訟の特色について、諸外国のシステムと比較しながら理解する。**
	事後学習	授業で得た内容を基にして、事前学習で通覧した条文について、どの条文が重要な条文であるのかを再確認する。（2時間）
3	事前学習	特許協力条約に基づくPCT出願について、特許協力条約第１章、特許法第９章の条文を通覧し、その概要を把握する。（2時間）
	授業内容	**近時重要性を増している外国出願について、特許、意匠、商標のそれぞれについて説明し、その共通点と相違点を把握する。併せて、欧州単一効特許についても理解を深める。**
	事後学習	授業で得た内容を基にして、外国出願制度について、特許、意匠、商標のそれぞれについての相違を把握するとともに、パリ条約に基づく優先権制度及び国内優先権制度の必要性とその効果について理解を深める。（2時間）

4	事前学習	発明の成立要件に関わる判例とその解説（特許判例百選第5版49事件（省エネ行動シート事件）、53事件（黄桃の育種増殖法事）、54事件（知識ベースシステム事件）を読み、発明の成立要件がなぜ必要とされるのかを検討する。（2時間）
	授業内容	**発明の成立要件に関する判例百選に掲載された判例のほか、その他の判例も紹介するとともに、学説の評価も踏まえ、発明の成立要件の限界について考察する。**
	事後学習	事前学習で把握した判例のほか授業で紹介された判例を再確認し、学説の評価も踏まえて、発明の成立要件の限界をどのあたりとすべきかについて考えをまとめる。（2時間）
5	事前学習	新規性に関する特許法29条1項1号ないし3号の条文の意味を理解するとともに、新規性に係る判例である判例百選第5版58事件（リパーゼ事件）、59事件（棒状ライト事件）とその解説を読み、発明の要旨認定の在り方、公然実施と認められるための要件について検討しておく。（2時間）
	授業内容	**新規性についての確立した判断手法を理解するとともに、リパーゼ事件最高裁判決がもたらした波紋の意味、棒状ライト事件を通じた公然実施が認められるための要件について理解を深めるとともに、用途発明の新規性判断の在り方についても検討する。**
	事後学習	刊行物公知と公然実施の場合の新規性判断手法の相違について再確認するとともに、用途発明の新規性の特殊性についても理解を深める。（2時間）
6	事前学習	新規性に関する特許法29条2項の条文の意味を理解するとともに、特許判例百選第5版65事件（回路用接続部材事件）、66事件（換気扇フィルター及びその製造方法事件）とその解説を読み、進歩性判断についてはどのような問題点が提起されているのかを把握しておく。（2時間）
	授業内容	**進歩性の判断枠組みについての理解を深めるとともに、事前学習の対象となった裁判例が提起した問題点を考察し、欧州、米国、中国の進歩性判断基準とも比較しながら、進歩性判断の在り方について検討する。**
	事後学習	進歩性の判断枠組みを再確認するとともに、各国で進歩性判断の客観性担保のためにどのような工夫がされているかを理解し、事前学習した裁判例も踏まえて、進歩性判断の重要性と困難性について把握する。（2時間）
7	事前学習	特許法36条4項、6項の条文を読むとともに、サポート要件に関する特許判例百選70事件（パラメータ特許事件）、サポート要件と実施可能要件の関係に関する同71事件（フリーバンセリンの使用事件）、明確性要件と実施可能要件との関係に関する72事件（伸縮性トップシート事件）を読んで、それぞれの記載要件についての理解を深める。（2時間）
	授業内容	**上記事前学習の対象とした各判例の検討を通じて、各記載要件の持つ意味とその役割分担の在り方について検討する。その前提として背景にある特許法改正の意味についても説明する。事前学習の対象の裁判例以外の裁判例も見ることにより、より立体的に記載要件の全貌をつかんでいく。**
	事後学習	授業で新たに紹介された裁判例も含めて、各記載要件が特許権の登録を認めるか否かの分水嶺としてどのように機能すべきかを考察する。（2時間）
8	事前学習	侵害訴訟における無効主張を認めた特許判例百選第5版36事件（キルビー事件）とその後の特許法104条の3の新設が、特許無効を無効審判のみに限定していた実務をどのように変えたのかを理解するとともに、無効を回避する方法としての訂正について、とりあえず原則的な訂正審判の条文（特許法126条）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**キルビー判決以前の最高裁判決（最判昭和37・12・7、最判昭和39・8・4）をみることにより、キルビー判決の持つ意味をより具体的に理解するとともに、特許法104条の3の新設が実務にもたらした問題点とその改善策、特に、無効を回避するための訂正についての判例（最判昭和20・4・24、最判29・7・10等）について紹介する。**
	事後学習	授業で紹介された侵害訴訟での無効主張に対抗する訂正の再抗弁が、どのような場合に認められるべきかについて検討する。（2時間）
9	事前学習	延長登録の制度の趣旨について、特許判例百選第5版32事件（オキサリプラティヌム事件）の解説からその概略を把握するとともに、31事件（ベバシズマブ事件）及び上記32事件とその解説から問題点の概要を把握しておく。（2時間）
	授業内容	**延長登録制度は条文が難解なため、条文についての理解を深めるとともに、上記31事件に先立つ最判平成23・4・・28とその原審にまで遡ることにより、延長登録制度をめぐる特許庁と裁判所の理解の相違点を探っていく。また、最判31事件判決後に、延長された特許権の効力について判断した知財高判大合議平成29・1・20も紹介する。**
	事後学習	授業内容を踏まえて、特許法の関連条文を再確認するとともに、医薬品特許の特殊性との関係で、延長登録制度のもつ意味についての理解を深める。（2時間）
10	事前学習	特許判例百選第5版82事件（メリヤス編機事件）とその解説を読んで、審決取消訴訟の審理範囲について制約がされる理由について考えておく。（2時間）
	授業内容	**上記メリヤス編機大法廷判決が実務にもたらした意味について、先行するいくつかの最高裁判決（最判昭和28・10・16、最判昭和35・12・20、最判昭和43・4・4にまで遡って検討するとともに、その後の最判や下級審判決が大法廷判決の例外として認めた場合とその限界について解説する。**
	事後学習	一般に行政事件訴訟では、裁判所における行政処分の違法の審理範囲についてどのような考え方がとられているのか、審決取消訴訟には一般の行政事件訴訟とは異なるどのような特色があるのかについてメリヤス編機事件の最高裁判決を基にして検討する。（2時間）
11	事前学習	特許判例百選第5版86事件（高速旋回式バレル研磨法事件）の判決及び解説を読んで、民事訴訟法上の既判力（民訴法114条）と行政事件訴訟法上の拘束力（行政事件訴訟法33条）がどのように違うのかを把握しておく。（2時間）
	授業内容	**上記86事件の事案を第１次審決・判決、第2次審決・判決にまで遡って検討し、拘束力の客観的範囲をどのようにどのように整理して把握すべきかを明らかにし、例外的場合の取扱いをいくつかの判例を参考にして検討する。**
	事後学習	拘束力の及ぶ客観的範囲とその限界について、授業で紹介された判例を基に再確認しておく。（2時間）
12	事前学習	民事訴訟における通常共同訴訟と必要的共同訴訟の類型の取扱いの相違点について復習しておき、そのような視点から、特許判例百選第5版84事件（磁気治療器事件）、85事件（嗜好食品の製造方法事件）の判決とその解説を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**上記84事件の判断内容とそこから生じる問題点をどう解決すべきかを検討し、上記85事件との対比からも、その点を再考する。同百選83事件（ETNIES事件）から、行政事件訴訟法上の視点も含め、さらに深く検討する。最後に、審判における一事不再理についても説明する。**
	事後学習	1人の共有者が提起した審決取消訴訟について、通常共同訴訟とすべきか必要的共同訴訟とすべきかの仕分けと、必要的共同訴訟とした場合の問題点にどう対応すべきかについての考え方をまとめる。（2時間）
13	事前学習	商標の登録要件である商標法３条、不登録事由である同法４条の条文を通覧しておくとともに、商標法3条1項3号に関する、商標・意匠・不正競争判例百選第2版の3事件（GEORGIA事件）、4事件（LADY GAGA事件）、5事件（コカ・コーラ・ボトル立体商標事件）の判例とその解説を読んで、商標の識別力についての理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	**平成26年の法改正で認められた商標を含め、さまざまな種類の登録商標を通覧して、商標のイメージをつかむとともに、商標の登録要件としてしばしば問題となる商標法3条1項3号に関する上記３つの判決について解説する。商標の不登録事由である商標法4条1項7号（公序良俗違反）の典型的な事案である百選8事件（Anne of GREEN GABLE事件）と限界的な事案である同7事件（コンマ―事件）を対比して検討する。**
	事後学習	商標の登録要件と不登録事由について、授業で取り上げられた判例を振り返って、商標の本質的機能である自他商品・役務識別機能についての理解を深めるとともに、様々な不登録事由についても、授業で取り上げられた判例を基に振り返っておく。（2時間）

14	事前学習	商標法4条1項15号に関する商標・意匠・不正競争判例百選第2版13事件（レールデュタン事件）、同法19号に関する同百選15事件（R&M Interior Store事件）、地域団体商標に関する同百選16事件（喜多方ラーメン事件）、不使用取消に関する44事件（ももいちご事件）の判決と解説を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**商標法4条1項15号の判例の解説とともに、類似、混同に関する不登録事由である10号、11号、15号、19号の関係について整理する。地域団体商標や防護登録商標というやや特殊な例について触れるとともに、いくつかの判例を基に、不使用取消審判に関する取消訴訟の全体像を把握するように努める。最後に、商標の不正使用による取消しについても触れる。**
	事後学習	様々な不登録事由についての関係を整理して理解するとともに、不使用取消審判制度の全体像についても把握できたことを確認する。（2時間）
15	事前学習	商標・意匠・不正競争判例百選第2版55事件（可撓伸縮ホース事件）の判決と解説を読み、意匠法3条1項と2項の関係について検討しておく。（2時間）
	授業内容	**令和元年の意匠法改正で認められるようになった物品から切り離された画像意匠、建築物の意匠、内装の意匠について紹介するとともに、上記百選55事件を中心として、いくつかの判例を紹介し、意匠権の審決取消訴訟についての理解を深める。 授業中に小テストを実施する予定。**
	事後学習	紹介された判例を素材として、デザインとしての意匠の特殊性から登録されるためにどのような要件が必要とされるかについての理解を確認する。（2時間）

科目名	私法学特論Ⅲ（産業技術史と法）	担当者	金澤　良弘	期間	後期	単位数	2

授業概要	産業の発展は，その産業の基礎となる技術の進歩に支えられる。本授業では，主要な産業における産業技術発展の歴史を振り返り，鍵となる技術の発明と普及，法律・制度との関わり，知的財産の果たした役割等について，講義及び学生による発表を通じて学修する。
授業目的・到達目標	新製品・サービスの開発につながる技術・アイデアを創造したり，創造を支援したりする立場からイノベーション創出に貢献できる力を養成することを目的とする。 〔到達目標〕 ・産業技術の発展を支援するために講じられてきた政策・制度を理解し，説明できるようになる。 ・新しい製品・サービスの開発・普及に当たり法律・制度が果たした役割を指摘し，説明できるようになる。 〔関連するDP・CP〕私法学専攻１，４，６
履修条件	企業における製品・サービスの開発に関心を持つ学生の受講を希望する。
授業方法	産業技術に関わる法律・制度に関する講義及び主要産業における技術開発に関する報告に基づく討論による。 各回の報告・討論の対象とする産業技術分野については，受講生の希望を踏まえ変更することがある。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	報告・討論の内容及び授業への参加・貢献度を総合的に評価する。出席率2/3未満の者は採点対象としない。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特に使用しない。		

参考書	必要な場合には授業中に指示する。
オフィスアワー	火曜日13：30～14：30，場所は指定する講堂等 事前にメールで予約すること（kanazawa.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを読み，授業の概要，授業目的・到達目標，授業の進め方等を理解する。（2時間）
	授業内容	**【イントロダクション】** **本授業の概要，目的・到達目標，履修条件，授業方法，成績評価の方法等について説明する。また，産業技術の発展についての事例を学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，産業技術に関する報告の方法等を確認する。（2時間）
2	事前学習	事前に配布する産業技術史に関する資料を読み，産業技術史に関する基本的な知識を得る。（2時間）
	授業内容	**【産業技術政策１　産業技術政策】** **これまでに講じられてきた産業技術政策を概観し，産業技術の発展を目指した法律・制度について学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，産業技術政策について整理する。（2時間）
3	事前学習	技術開発を通じて競争力ある産業を育成するためには，どのような政策が有効であるのかについて自分の考えをまとめる。（２時間）
	授業内容	**【産業技術政策２　コンピュータ産業】** **産業技術の発展を通じた産業育成の事例として，コンピュータ産業に関する技術政策について学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，産業技術開発を通じた産業育成について整理する。（2時間）

4	事前学習	複数の企業が協働して技術開発を行おうとするとき，どのような組織構造が適切であるかについて自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	**【産業技術政策３　技術研究組合制度】** **産業技術の発展に寄与した組織制度の事例として技術研究組合制度を取り上げ，その概要，産業技術の発展への寄与等について学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，産業技術開発の母体となる組織の重要性について整理する。（2時間）
5	事前学習	規制・制度が産業技術の発展に影響を及ぼした事例を調べる。（2時間）
	授業内容	**【産業技術の発展と規制】** **法律・制度による規制が産業技術の発展を促進したり阻害したりする場合がある。規制が産業技術の発展に及ぼす影響について学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，法律・制度による規制が産業技術の発展に及ぼす影響について整理する。（2時間）
6	事前学習	報告者は報告資料を作成する。その他の者は関連する情報収集を行って討論に備える。（2時間）
	授業内容	**【主要な産業における産業技術の発展１　自動車】** **自動車に関する技術について，授業参加者の報告及びそれに基づく全員での討論を行い，当該産業における産業技術の発展と関連する法律・制度との関わりについて学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，当該分野の技術動向について整理する。（2時間）
7	事前学習	報告者は報告資料を作成する。その他の者は関連する情報収集を行って討論に備える。（2時間）
	授業内容	**【主要な産業における産業技術の発展２　自動車用電池】** **自動車用電池に関する技術について，授業参加者の報告及びそれに基づく全員での討論を行い，当該産業における産業技術の発展と関連する法律・制度との関わりについて学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，当該分野の技術動向について整理する。（2時間）
8	事前学習	報告者は報告資料を作成する。その他の者は関連する情報収集を行って討論に備える。（2時間）
	授業内容	**【主要な産業における産業技術の発展３　鉄鋼】** **鉄鋼に関する技術について，授業参加者の報告及びそれに基づく全員での討論を行い，当該産業における産業技術の発展と関連する法律・制度との関わりについて学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，当該分野の技術動向について整理する。（2時間）
9	事前学習	報告者は報告資料を作成する。その他の者は関連する情報収集を行って討論に備える。（2時間）
	授業内容	**【主要な産業における産業技術の発展４　石油化学】** **石油化学に関する技術について，授業参加者の報告及びそれに基づく全員での討論を行い，当該産業における産業技術の発展と関連する法律・制度との関わりについて学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，当該分野の技術動向について整理する。（2時間）
10	事前学習	報告者は報告資料を作成する。その他の者は関連する情報収集を行って討論に備える。（2時間）
	授業内容	**【主要な産業における産業技術の発展５　バイオ】** **バイオに関する技術について，授業参加者の報告及びそれに基づく全員での討論を行い，当該産業における産業技術の発展と関連する法律・制度との関わりについて学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，当該分野の技術動向について整理する。（2時間）
11	事前学習	報告者は報告資料を作成する。その他の者は関連する情報収集を行って討論に備える。（2時間）
	授業内容	**【主要な産業における産業技術の発展６　コンテンツ】** **コンテンツに関する技術について，授業参加者の報告及びそれに基づく全員での討論を行い，当該産業における産業技術の発展と関連する法律・制度との関わりについて学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，当該分野の技術動向について整理する。（2時間）
12	事前学習	報告者は報告資料を作成する。その他の者は関連する情報収集を行って討論に備える。（2時間）
	授業内容	**【主要な産業における産業技術の発展７　アミューズメント】** **アミューズメントに関する技術について，授業参加者の報告及びそれに基づく全員での討論を行い，当該産業における産業技術の発展と関連する法律・制度との関わりについて学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，当該分野の技術動向について整理する。（2時間）
13	事前学習	報告者は報告資料を作成する。その他の者は関連する情報収集を行って討論に備える。（2時間）
	授業内容	**【主要な産業における産業技術の発展８　ロボット】** **ロボットに関する技術について，授業参加者の報告及びそ基づく全員での討論を行い，当該産業における産業技術の発展と関連する法律・制度との関わりについて学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，当該分野の技術動向について整理する。（2時間）
14	事前学習	報告者は報告資料を作成する。その他の者は関連する情報収集を行って討論に備える。（2時間）
	授業内容	**【主要な産業における産業技術の発展９　ドローン】** **ドローンに関する技術について，授業参加者の報告及びそれに基づく全員での討論を行い，当該産業における産業技術の発展と関連する法律・制度との関わりについて学修する。**
	事後学習	配布された資料を再読し，当該分野の技術動向について整理する。（2時間）

15	事前学習	配布された資料を再読し，産業技術の発展と法・制度との関わりについて自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	**【授業のまとめ】** **本授業で学修した事項の振り返り及びまとめを行う。**
	事後学習	到達目標の達成状況を自己評価し，さらなる学修の課題を明確にする。（2時間）

科目名	私法学特論Ⅳ（日米知財比較）	担当者	三村　淳一	期間	後期	単位数	2

授業概要	特許法・実用新案法における理論上・実務上重要な事項を，米国での考え方と比較し、論点形式，研究発表・討議を中心としたゼミナール形式で展開し，両法のさらなる理解を深め，今後の制度のあり方についても考察する。
授業目的・到達目標	日米特許法には類似する制度が存在する場合や全く対応する制度がない場合がある。また、類似する制度でも運用が異なる場合や同じ争点でも日米で判断の異なる場合がある。本講義では、受講者が日米特許法における特定の制度の相違を説明できる人材を養成することを目的とし、最終的には、特許交渉や訴訟において的確な判断を行える特許ネゴシエーターや米国の訴訟弁護士をサポートできる人材を養成することを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻１，２，３，６，７
履修条件	特許・実用新案法特殊講義ＩA及びB、及び　私法学特論 Ⅰ を履修済みまたは履修中にあることが望ましい。
授業方法	講義を基本とする。学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に1時間程度の試験解説を実施する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	授業内で試験予定。合格／不合格の判定は絶対評価により、90点以上(S)、80点以上(A)、70点以上(B)、60点以上(C)は、それぞれ5:25:40:30を目安とする相対評価

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2011	経済産業調査会	米国特許法―判例による米国特許法の解説　改訂版	山下弘綱
	2012	有斐閣	特許判例ガイド 第４版	増井 和夫 田村 善之
	備考	事前学習用の判例はリストをハンドアウトするので、各自が入手する。		

参考書	Cases and Materials on Patent Law, Fifth Edition (West Publishing)
オフィスアワー	火曜12:10-1:00　研究室にて

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに書き出しておく。(2時間) 一太郎事件 v. Gottschalk 事件 電柱広告事件 v Bilski　事件
	授業内容	**特許対象の日米比較(1)：ソフト＆ビジネス方法は特許の対象となるか否かを講義する。**
	事後学習	日米間で判断基準の相違の有無について考察し、ノートに列記する。(2時間)
2	事前学習	以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに書き出しておく。(2時間) 光学的再生可能方法事件　v. Pallin　事件
	授業内容	**特許対象の日米比較(2)：有用性に係る判断で医療特許と特許の対象となるか否かを講義する。**
	事後学習	日米間で判断基準の相違の有無について考察し、ノートに列記する。(2時間)
3	事前学習	以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに書き出しておく。(2時間) 数値制御通電加工装置事件 v. Scott 事件
	授業内容	**特許要件(1)：先願主義ｖ先発明主義の比較し、上記判例で、発明の完成の意味することについて講義する。**
	事後学習	日米間で判断基準の相違の有無について考察し、ノートに列記する。(2時間)

4	事前学習	以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに書き出しておく。(2時間) 電子部品処理用器材事件 v Continental Can 事件
	授業内容	**特許要件(2)：新規性に関する日米比較、特にInheraency の理論とは何か、日米で考え方の違いがあるかを講義する。**
	事後学習	日米間で判断基準の相違の有無について考察し、ノートに列記する。(2時間)
5	事前学習	以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに書き出しておく。(2時間) コーティング装置 v.KSR 事件 電気こたつ事件 v Hybrid 事件
	授業内容	**特許要件(3)：進歩性及び自明性に関する日米比較、特に、先行技術の組み合わせの制限に日米で相違があるのか否か、副次的効果の適用にあたり日米で相違はあるかを講義する。**
	事後学習	日米間で判断基準の相違の有無について考察し、ノートに列記する。(2時間)
6	事前学習	以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに書き出しておく。(2時間) 収納BOX事件 v. Vas-Cath 事件
	授業内容	**特許要件(4)：開示要件に関する日米比較、特に日米における開示要件の差異はあるか否か、図面における開示範囲はどのように判断されるか講義する。**
	事後学習	日米間で判断基準の相違の有無について考察し、ノートに列記する。(2時間)
7	事前学習	以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに書き出しておく。(2時間) ビンゴゲーム事件 v. Chicago Patent Corp 事件
	授業内容	**公序良俗に関する日米比較、特に賭博に使用することができる、即ち、公序良俗に照らし、不正と言える行為を行いうる機器の発明は、特許対象となりうるか否か、日米で考え方の相違はあるか否かを講義する。**
	事後学習	日米間で判断基準の相違の有無について考察し、ノートに列記する。(2時間)
8	事前学習	以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに書き出しておく。(2時間) ブレーキシュー事件 v. Catalina Marketing事件
	授業内容	**クレームの記載方法等に関する日米比較(1)：形式及び解釈、特に、特許請求の範囲の記載方法の日米相違を理解し、又、権利解釈にあたり、日米ともにAll-Element-Rule が適用されるが、米国特有のクレーム形式を用いた場合、Preamble の解釈に日米の相違はあるか否か講義する。**
	事後学習	日米間で判断基準の相違の有無について考察し、ノートに列記する。(2時間)
9	事前学習	以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに書き出しておく。(2時間) 協和発酵事件 v. A.T. 事件 TI v. 磁気媒体リーダー事件
	授業内容	**クレームの記載等に関する日米比較(2)：日米におけるProduct by Process Claim の解釈及びMeans + Function Claimの解釈の相違について講義する。**
	事後学習	日米間で判断基準の相違の有無について考察し、ノートに列記する。(2時間)
10	事前学習	以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに書き出しておく。(2時間) ボールスプライン事件、包装材料ヒートシール事件、組換ヒト組織プラスミノーゲン活性化因子II2審 v. Graver 事件、Warner-Jenkinson 事件、Fest事件
	授業内容	**侵害(1)：均等論の適用要件の日米比較。まずは、日米における均等論下での侵害を示すテストの相違を理解する。次に、日米で、審査禁反言が均等論の適用に及ぼす影響に差異があるか検討する。**
	事後学習	日米間で判断基準の相違の有無について考察し、ノートに列記する。(2時間)
11	事前学習	以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに書き出しておく。(2時間) 風量調整方法事件 v. Phillips 事件
	授業内容	**侵害(2)：侵害判断の手法の日米比較。まずは特許侵害の手法を理解し、クレームの用語を解釈するにあたり、内部証拠を優先するのか、それとも外部証拠を優先するのか講義する。**
	事後学習	日米間で判断基準の相違の有無について考察し、ノートに列記する。(2時間)
12	事前学習	以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに書き出しておく。(2時間) 地図データ作成方法事件 v. Sony Electronics 事件
	授業内容	**抗弁（１）：無効手法の日米比較。日米で、司法において、特許を無効にすることは可能か否かを講義し、 訴訟における当事者適格の条件の日米相違を講義する。**
	事後学習	日米間で判断基準の相違の有無について考察し、ノートに列記する。(2時間)
13	事前学習	以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに書き出しておく。(2時間) ポットカッター事件 v. Morton Salt 事件
	授業内容	**抗弁（２）：ミスユースの日米比較。まず、特許権の濫用とはなにか理解する。そして、非特許品と特許品の抱き合わせビジネスが許されるか否かを講義する。**
	事後学習	日米間で判断基準の相違の有無について考察し、ノートに列記する。(2時間)
14	事前学習	以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに書き出しておく。(2時間) グアニジノ安息香酸誘導体III上告審事件 v. Intermedics 事件
	授業内容	**後発医薬品問題の日米比較。まず、特許権の効力が制限される場合を理解し、後発医薬品メーカーが、第三者の特許権の存続期間中に関係官庁に薬品データを提出するための試験は、特許権侵害となるか否か、日米で取り扱いに相違はあるか否かを講義する。**
	事後学習	日米間で判断基準の相違の有無について考察し、ノートに列記する。(2時間)

15	事前学習	以下の判例を読み、判旨を理解し、ノートに書き出しておく。また、第1回から第14回までの復習し、ノートに書き出しておく。(2時間) クロム酸鉛顔料 v In re Recreative Tech　事件
	授業内容	**特許後の手続の日米比較(行政での有効性の争い)。行政での特許の有効性を争う手法のを講義し、一一時不再理の原則は何処まで適用されるか、日米での相違を講義する。 又、最後の授業で授業内テストを行い、その直後に試験内容の解説を行う。**
	事後学習	日米間で判断基準の相違の有無について考察するとともに、試験で回答できない箇所を再度読み返し、ノートに列記する。(2時間)

科目名	法律学原書研究Ⅰ（英）	担当者	加藤　浩	期間	前期	単位数	1

授業概要	国際連合（UN）が発行する刊行物（原書）を題材として、知的財産法を中心に、法律分野の英語表現について学修するとともに、国際的な視点から法律に関する原書の読み方について学修する。
授業目的・到達目標	（１）知的財産法を中心に、法律分野における英語表現について習得し、法律に関する原書を読むことができる。 （２）国際的な視点から法律の知識を深めることにより、英語で法務を行えるようになることができる。 関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，２，４
履修条件	特になし。
授業方法	講義形式とする。（必要に応じて、双方向型の授業形式も採用する。）毎回、英語辞書を持参のこと。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	
	平 常 評 価	100%	授業内試験、授業への参加度によって評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない。毎回、講義プリントを配布する。		

参 考 書	必要に応じ紹介する。（例えば、国際連合（世界知的所有権機関）が発行する「WIPO Journal」など）
オフィスアワー	水曜日５時限目に設定する。（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） オフィス 研究室（本館６階　１６１０号室）メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。また、知的財産法の全体像について考えておく。（２時間）
	授業内容	**授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、法律学原書研究Ⅰの学習方法や 研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（２時間）
2	事前学習	【Patent Case①：Patent that Changed an Industry】 Patent Case①について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Patent Case①：Patent that Changed an Industry】 Patent Case①を題材として、特許法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Patent Case①について復習し、特許法の英語表現について整理する。（２時間）
3	事前学習	【Patent Case②：Patent Troll】 Patent Case②について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Patent Case②：Patent Troll】 Patent Case②を題材として、特許法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Patent Case②について復習し、特許法の英語表現について整理する。（２時間）

4	事前学習	【Patent Case③：Compulsory License】 Patent Case③について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Patent Case③：Compulsory License】** **Patent Case③を題材として、特許法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Patent Case③について復習し、特許法の英語表現について整理する。（２時間）
5	事前学習	【Patent Case④：Robot Creator】 Patent Case④について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Patent Case④：Robot Creator】** **Patent Case④を題材として、特許法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Patent Case④について復習し、特許法の英語表現について整理する。（２時間）
6	事前学習	【Patent Case⑤：WIPO Green】 Patent Case⑤について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Patent Case⑤：WIPO Green】** **Patent Case⑤を題材として、特許法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Patent Case⑤について復習し、特許法の英語表現について整理する。（２時間）
7	事前学習	【Patent Case⑥：WIPO Re:Search】 Patent Case⑥について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Patent Case⑥：WIPO Re:Search】** **Patent Case⑥を題材として、特許法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Patent Case⑥について復習し、「WIPO Re:Search」の論点について、自分なりの説明をまとめる。（２時間）
8	事前学習	授業内試験を行うので、テスト範囲を復習しておくこと。具体的には、Patent Case①～⑥について、講義プリント、講義ノートを読んで十分に理解しておく。（２時間）
	授業内容	**【授業内試験】** **Patent Case①～⑥について、授業内試験を行う。**
	事後学習	授業内試験の結果に基づいて、テスト範囲をさらに復習しておくこと。具体的には、Patent Case①～⑥について、講義プリント、講義ノートを読んで理解を深める。（２時間）
9	事前学習	【Design Case①：IP and Development】 Design Case①について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Design Case①：IP and Development】** **Design Case①を題材として、意匠法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Design Case①について復習し、意匠法の英語表現について整理する。（２時間）
10	事前学習	【Design Case②：Green Design】 Design Case②について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Design Case②：Green Design】** **Design Case②を題材として、意匠法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Design Case②について復習し、意匠法の英語表現について整理する。（２時間）
11	事前学習	【Design Case③：Universal Design】 Design Case③について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Design Case③：Universal Design】** **Design Case③を題材として、意匠法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Design Case③について復習し、意匠法の英語表現について整理する。（２時間）
12	事前学習	【Design Case④：Faschion Design】 Design Case④について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Design Case④：Faschion Design】** **Design Case④を題材として、意匠法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Design Case④について復習し、意匠法の英語表現について整理する。（２時間）
13	事前学習	【Design Case⑤：Filipino Design】 Design Case⑤について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Design Case⑤：Filipino Design】** **Design Case⑤を題材として、意匠法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Design Case⑤について復習し、意匠法の英語表現について整理する。（２時間）
14	事前学習	【Design Case⑥：Using Intellectual Properties as a Dialogue for Success】 Design Case⑥について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Design Case⑥：Using Intellectual Properties as a Dialogue for Success】** **Design Case⑥を題材として、意匠法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Design Case⑥について復習し、意匠法の英語表現について整理する。（２時間）
15	事前学習	授業内試験を行うので、テスト範囲を復習しておくこと。具体的には、Design Case①～⑥について、講義プリント、講義ノートを読んで十分に理解しておく。（２時間）
	授業内容	**【授業内試験】** **Design Case①～⑥について、授業内試験を行う。**
	事後学習	授業内試験の結果に基づいて、テスト範囲をさらに復習しておくこと。具体的には、Design Case①～⑥について、講義プリント、講義ノートを読んで理解を深める。（２時間）

科目名	法律学原書研究Ⅰ（英）	担当者	坂本　力也	期間	前期	単位数	1

授業概要	アメリカの裁判制度についての原書（American Courts, Fourth Ed. Daniel John Meador & Gregory Mitchell）を輪読する。
授業目的・到達目標	英語の原書を通じてアメリカの裁判制度を理解することを目的とする。アメリカの連邦制度がもたらす州裁判所と連邦裁判所の構造や両者の関係を学ぶことによって、アメリカ特有の裁判システムの理解を深める。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，２，４
履修条件	原書の輪読を中心とする講義であるので、アメリカの司法制度を原書で熟読することに関心があり、積極的に授業へ参加する方を希望します。
授業方法	アサイメントに従って輪読を行う。担当教員がコメントを加えながらアメリカの裁判制度について詳しく説明を加えてゆく。

成績評価

種別	割合	評価方法
定 期 試 験		
平 常 評 価	100%	輪読の内容、授業への積極的参加により評価します。

教科書

年	出版社	書名	著者名
2020	West	American Courts　Fourth.Ed.	Meador & Mitchell

備考

参 考 書	Outline of the U.S Legal System, US Department of State 『英米法辞典』東京大学出版会（1991）
オフィスアワー	日時: 水曜日12:30-13:00 場所: 9号館1階ロビー 備考: 休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	アメリカの司法制度について特徴を調べてくる（２時間）
	授業内容	Introduction to US. Legal System
	事後学習	アメリカの司法制度についての概観を復習する（２時間）
2	事前学習	テキストの1頁から4頁まで読了する（２時間）
	授業内容	Introductory Overview of American Courts（１）
	事後学習	アメリカにおける州と連邦の裁判所の関係について復習する（２時間）
3	事前学習	テキストの5頁から9頁を読了する（２時間）
	授業内容	Introductory Overview of American Courts（２）
	事後学習	アメリカの民事裁判と州の裁判所をめぐる1960年以降の動きについて復習する（２時間）

4	事前学習	テキストの11頁から14頁を読了する（２時間）
	授業内容	The State Courts (Trial Court)
	事後学習	各州の第一審裁判所について復習する（２時間）
5	事前学習	テキストの14頁から18頁まで読了すること（２時間）
	授業内容	The State Courts (Appellate Courts)
	事後学習	各州の上訴裁判所について復習する（２時間）
6	事前学習	テキストの18頁から22頁まで読了する（２時間）
	授業内容	The State Courts(The Business of the State Courts)
	事後学習	州裁判所の果たす役割について復習する（２時間）
7	事前学習	テキストの23頁から27頁まで読了する（２時間）
	授業内容	The Federal Courts (District Courts and Courts of Appeals)
	事後学習	連邦第一審裁判所と連邦中間上訴裁判所について復習する（２時間）
8	事前学習	テキストの27頁から31頁まで読了する（２時間）
	授業内容	The Federal Courts　(Supreme Court and Other Federal Courts)
	事後学習	連邦最高裁とそのほかの連邦の裁判所について復習する（２時間）
9	事前学習	テキストの31頁から36頁まで読了する（２時間）
	授業内容	The Business of Federal Courts; Federal and State Courts Compared
	事後学習	連邦と州の裁判所の比較について復習する（２時間）
10	事前学習	テキストの37頁から43頁を読了する（２時間）
	授業内容	Multiple Sovereignties:State-Federal and Multi-State
	事後学習	州法と連邦法の関係と裁判における法の適用について復習する（２時間）
11	事前学習	テキストの43頁から49頁まで読了する（２時間）
	授業内容	Coexisting　State and Federal Trial Courts
	事後学習	連邦と州の第一審裁判所の共存状況について復習する（２時間）
12	事前学習	教科書の49頁から52頁まで読了する（２時間）
	授業内容	Complex Litigation
	事後学習	複雑な事案における州と連邦の裁判所の関係について復習する（２時間）
13	事前学習	テキストの53頁から60頁まで読了する（２時間）
	授業内容	Dramatis Personae and Judges
	事後学習	アメリカの裁判官について復習する（２時間）
14	事前学習	テキストの63頁から69頁まで読了する（２時間）
	授業内容	Law Clerks　and Staff Attorneys; Other Judicial Adjuncts; Administrative and Clerical Staffs; and Supporting Organizations
	事後学習	裁判官以外の裁判所において裁判官を支援するスタッフについて復習する（２時間）
15	事前学習	テキストの69頁から75頁までを読了する（２時間）
	授業内容	Lawyers
	事後学習	アメリカの弁護士について復習する（２時間）

科目名	法律学原書研究Ⅰ（英）	担当者	高畑　英一郎	期間	前期	単位数	1

授業概要	この講座は、主にアメリカ連邦最高裁の判決文を輪読することを通じて、アメリカにおける権利保障の実態を研究するものである。
授業目的・到達目標	判決文の講読を通じて、連邦最高裁判決のスタイル、法理論、法の事実への適用のあり様に触れ、法律用語や法原則の英専門用語と判例検索術を身に着け、ラテン熟語も含めた英米法律文書を読む基礎能力を修練することを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，２，４
履修条件	特になし。
授業方法	事前に割当て部分を指定することにより、受講者全員で輪読を行う。担当教員がコメントを加えながら法の一般的内容について詳しく説明する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	割り当て部分の翻訳内容と授業への積極的参加によって評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			

参 考 書	田中英夫『英米法辞典』（東京大学出版会）、小山貞夫『英米法律語辞典』（研究社）ほか。
オフィスアワー	月曜18:00～19:00、研究室（９号館９３０３）にて行います。 メールでの相談は（takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp）に送信してください。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	事前にシラバスを読んでくる。（2時間）
	授業内容	**ガイダンス、文献資料の配布、講義の目的・進め方の説明。**
	事後学習	指摘されたテキストを読み、用語や文法事項の確認をしておく。（2時間）
2	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	District of Columbia v. Heller (a)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の内容と限界についての理解を深める。（2時間）
3	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	District of Columbia v. Heller (b)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の内容と限界についての理解を深める。（2時間）

4	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	District of Columbia v. Heller (c)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の内容と限界についての理解を深める。（2時間）
5	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	District of Columbia v. Heller (d)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の内容と限界についての理解を深める。（2時間）
6	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	District of Columbia v. Heller (e)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の内容と限界についての理解を深める。（2時間）
7	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	District of Columbia v. Heller (f)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の内容と限界についての理解を深める。（2時間）
8	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	District of Columbia v. Heller (c)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の内容と限界についての理解を深める。（2時間）
9	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	NYSRPA v. Bruen (a)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の拡張判断についての理解を深める。（2時間）
10	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	NYSRPA v. Bruen (b)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の拡張判断についての理解を深める。（2時間）
11	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	NYSRPA v. Bruen (c)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の拡張判断についての理解を深める。（2時間）
12	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	NYSRPA v. Bruen (d)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の拡張判断についての理解を深める。（2時間）
13	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	NYSRPA v. Bruen (e)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の拡張判断についての理解を深める。（2時間）
14	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	NYSRPA v. Bruen (f)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の拡張判断についての理解を深める。（2時間）
15	事前学習	判決文を読み、議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	NYSRPA v. Bruen (g)
	事後学習	連邦憲法が保障する銃所持の権利の拡張判断についての理解を深める。（2時間）

科目名	法律学原書研究Ⅱ（英）	担当者	加藤　浩	期間	後期	単位数	1

授業概要	国際連合（UN）が発行する刊行物（原書）を題材として、知的財産法を中心に、法律分野の英語表現について学修するとともに、国際的な視点から法律に関する原書の読み方について学修する。
授業目的・到達目標	（１）知的財産法を中心に、法律分野における英語表現について習得し、法律に関する原書を読むことができる。 （２）国際的な視点から法律の知識を深めることにより、英語で法務を行えるようになることができる。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，２，４
履修条件	特になし。
授業方法	講義形式とする。（必要に応じて、双方向型の授業形式も採用する。）毎回、英語辞書を持参のこと。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	
	平 常 評 価	100%	授業内試験、授業への参加度によって評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない。毎回、講義プリントを配布する。		

参 考 書	必要に応じ紹介する。（例えば、国際連合（世界知的所有権機関）が発行する「WIPO Journal」など）
オフィスアワー	水曜日５時限目に設定する。（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） オフィス 研究室（本館６階　１６１０号室）メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数	授　業　内　容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。また、知的財産法の全体像について考えておく。（２時間）
	授業内容	**授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、法律学原書研究Ⅱの学習方法や 研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。**
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（２時間）
2	事前学習	【Trademark Case①：Trademark Graveyard(1)】 Trademark Case①について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Trademark Case①：Trademark Graveyard(1)】 Trademark Case①を題材として、商標法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Trademark Case①について復習し、商標法の英語表現について整理する。（２時間）
3	事前学習	【Trademark Case②：Trademark Graveyard(2)】 Trademark Case②について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Trademark Case②：Trademark Graveyard(2)】 Trademark Case②を題材として、商標法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Trademark Case②について復習し、商標法の英語表現について整理する。（２時間）

4	事前学習	【Trademark Case③：Zombie Brand】 Trademark Case③について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Trademark Case③：Zombie Brand】** **Trademark Case③を題材として、商標法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Trademark Case③について復習し、商標法の英語表現について整理する。（２時間）
5	事前学習	【Trademark Case④：Geographical Indications - From Darjeeling to Doha(1)】 Trademark Case④について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Trademark Case④：Geographical Indications - From Darjeeling to Doha(1)】** **Trademark Case④を題材として、商標法の英語表現について講義する。** **。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Trademark Case④について復習し、商標法の英語表現について整理する。（２時間）
6	事前学習	【Trademark Case⑤：Geographical Indications - From Darjeeling to Doha(2)】 Trademark Case⑤について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Trademark Case⑤：Geographical Indications - From Darjeeling to Doha(2)】** **Trademark Case⑤を題材として、商標法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Trademark Case⑤について復習し、商標法の英語表現について整理する。（２時間）
7	事前学習	【Trademark Case⑥：Trademarks in Metaverse】 Trademark Case⑥について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Trademark Case⑥：Trademarks in Metaverse】** **Trademark Case⑥を題材として、商標法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Trademark Case⑥について復習し、商標法の英語表現について整理する。（２時間）
8	事前学習	授業内試験を行うので、テスト範囲を復習しておくこと。具体的には、Trademark Case①～⑥について、講義プリント、講義ノートを読んで十分に理解しておく。（２時間）
	授業内容	**【授業内試験】** **Trademark Case①～⑥について、授業内試験を行う。**
	事後学習	授業内試験の結果に基づいて、テスト範囲をさらに復習しておくこと。具体的には、Trademark Case①～⑥について、講義プリント、講義ノートを読んで理解を深める。（２時間）
9	事前学習	【Copyright Case①：Manga Phenomenon】 Copyright Case①について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Copyright Case①：Manga Phenomenon】** **Copyright Case①を題材として、著作権法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Copyright Case①について復習し、著作権法の英語表現について整理する。（２時間）
10	事前学習	【Copyright Case②：Google Book Settlement】 Copyright Case②について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Copyright Case②：Google Book Settlement】** **Copyright Case②を題材として、著作権法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Copyright Case②について復習し、著作権法の英語表現について整理する。（２時間）
11	事前学習	【Copyright Case③：Artificial Intelligence (AI) and Copyrught】 Copyright Case③について、事前に講義プリントを読んで、「Google Books Case」の観点から、Copyright Case④の論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Copyright Case③：Artificial Intelligence (AI) and Copyrught】** **Copyright Case③を題材として、著作権法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Copyright Case③について復習し、著作権法の英語表現について整理する。（２時間）
12	事前学習	【Copyright Case④：Monkey Selfie and Copyright】 Copyright Case④について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Copyright Case④：Monkey Selfie and Copyright】** **Copyright Case④を題材として、著作権法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Copyright Case④について復習し、著作権法の英語表現について整理する。（２時間）
13	事前学習	【Copyright Case⑤：Copyright in the Digital Age】 Copyright Case⑤について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Copyright Case⑤：Copyright in the Digital Age】** **Copyright Case⑤を題材として、著作権法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Copyright Case⑤について復習し、著作権法の英語表現について整理する。（２時間）
14	事前学習	【Copyright Case⑥：NFT and Copyright】 Copyright Case⑥について、事前に講義プリントを読んで、論点を整理しておく。（２時間）
	授業内容	**【Copyright Case⑥：NFT and Copyright】** **Copyright Case⑥を題材として、著作権法の英語表現について講義する。**
	事後学習	講義ノートを確認して、Copyright Case⑥について復習し、著作権法の英語表現について整理する。（２時間）
15	事前学習	授業内試験を行うので、テスト範囲を復習しておくこと。具体的には、Copyright Case①～⑥について、講義プリント、講義ノートを読んで十分に理解しておく。（２時間）
	授業内容	**【授業内試験】** **Copyright Case①～⑥について、授業内試験を行う。**
	事後学習	授業内試験の結果に基づいて、テスト範囲をさらに復習しておくこと。具体的には、Copyright Case①～⑥について、講義プリント、講義ノートを読んで理解を深める。（２時間）

科目名	法律学原書研究Ⅱ(英)	担当者	坂本　力也	期間	後期	単位数	1

授業概要	アメリカ法を解説した英語のテキストを利用して、アメリカ法の特徴を学んでゆく。ドイツ、フランスあるいは日本などにおける大陸法と対比されるアメリカやイギリスのコモンロー制度であるが、アメリカとイギリスでは大きく異なる。この講義ではアメリカ法に焦点を当て、その特徴となる点を取り上げて学んでゆく。
授業目的・到達目標	American Law-In a Global Context the Basics-をテキストにして、大陸法とコモンローの大きな違いを理解すると同時に、コモンロー法制におけるアメリカ法の特徴を理解すること目的とする。イギリス法と対比したアメリカ法の特徴を理解することが目標である。 関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，２，４
履修条件	アメリカ法に関心を有する方の参加を歓迎する。原書を使って授業を進めて行くので、積極的に授業に参加されることを希望する。
授業方法	授業中にトピックごとにテキストを輪読し、その後担当講師がコメントを付しながら内容について詳しく説明する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	輪読の内容、授業への積極的参加により評価します。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2005	Oxford University Press	American law In a Global Context, The basics	Fletcher and Sheppard
	備考			

参 考 書	田中英夫「英米法総論」（上）（下）　東大出版会 必要に応じて参考資料等を配布する。
オフィスアワー	日時: 水曜日12:30-13:00 場所: 9号館1階ロビー 備考: 休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	大陸法とコモンローについて調べてくること（２時間）
	授業内容	Intoroduction
	事後学習	アメリカ法を特徴づけるいくつかの要素について復習する（２時間）
2	事前学習	テキストの15頁から21頁を読了する（２時間）
	授業内容	The Common Law
	事後学習	コモンローとは何かを復習する（２時間）
3	事前学習	Scott v. Shepherd, 3 Blackstone's Report 892,96 Eng.Rep. 525(1773)を読了する　（２時間）
	授業内容	Case Study
	事後学習	スコット対シェファード事件を通してコモンローとは何かを復習する（２時間）

4	事前学習	テキスト29頁から36頁を読了する（２時間）
	授業内容	The Civil Law
	事後学習	大陸法の概要や判例法について復習する（２時間）
5	事前学習	テキスト37頁から43頁までを読了する（２時間）
	授業内容	Scholarly Authprity
	事後学習	大陸法において学術的な権威がどのような意味を有しているのか復習する（２時間）
6	事前学習	テキスト43頁から49頁を読了する（２時間）
	授業内容	Civil Law Case Study
	事後学習	ドイツの判決文の特徴を復習する （２時間）
7	事前学習	テキストの54頁から59頁までを読了する（２時間）
	授業内容	The Language of Law（１）
	事後学習	コモンローと大陸法におけるいくつかの法律用語についてを復習する（２時間）
8	事前学習	テキストの59頁から63頁までを読了する（２時間）
	授業内容	The Language of Law (2)
	事後学習	Due Process と Fairness について復習する（２時間）
9	事前学習	テキストの440頁から444頁まで読了する（２時間）
	授業内容	Foundation of Tort Law
	事後学習	不法行為法の基礎について復習する（２時間）
10	事前学習	Vincent v. lake Erie Transportation Company, 109 Minn. 436 を読了する（２時間）
	授業内容	Case Study
	事後学習	ビンセント対レークエリー輸送会社事件に見るアメリカ不法行為法の基礎を復習する（２時間）
11	事前学習	BMW of North American,Inc. v. Ira Gore, Jr. 117 U.S. 599を読了する （２時間）
	授業内容	Case Study
	事後学習	北米BMW対アイラ・ゴア事件を通してアメリカの懲罰的損害賠償について復習する（２時間）
12	事前学習	テキスト502頁から508頁を読了する（２時間）
	授業内容	The American Civil Trial in Outline（１）
	事後学習	アメリカの民事訴訟における最初の手続きについて復習する（２時間）
13	事前学習	テキストの509頁から514頁を読了する（２時間）
	授業内容	The American Civil Trial in Outline（２）
	事後学習	アメリカの民事訴訟における陪審員選任までの裁判上の手続きを復習する（２時間）
14	事前学習	テキストの515頁から519頁までを読了する（２時間）
	授業内容	The American Civil Trial in Outline (3)
	事後学習	アメリカの民事訴訟における判決までの一連の手続きの復習をする（２時間）
15	事前学習	テキストの520頁から524頁までを読了する（２時間）
	授業内容	The American Civil Trial in Outline（４） and Review
	事後学習	上訴や判決の執行などの手続きの復習をする。全体の復習をする（２時間）

科目名	法律学原書研究Ⅱ（英）	担当者	高畑　英一郎	期間	後期	単位数	1

授業概要	この講義では、前学期で輪読したアメリカ連邦最高裁判決について、関連する報道や論文を題材に英語で議論を行う。
授業目的・到達目標	英語を用いたディスカッションを実施することにより、英語の発話能力、弁論能力を養うとともに、英語を通した論理構成能力、法的論証能力を磨くことを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１～６，８
履修条件	法律学原書研究Ⅰ（英）を履修済であることが望ましい。
授業方法	報告担当者が報道記事や論文の内容を紹介し、それについて参加者全員で議論する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	講義での報告と議論への積極的参加によって評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			

参考書	田中英夫『英米法辞典』（東京大学出版会）、小山貞夫『英米法律語辞典』（研究社）ほか。
オフィスアワー	月曜18:00～19:00、研究室（９号館９３０３）にて行います。 メールでの相談は（takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp）に送信してください。

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	事前にシラバスを読んでくる。（2時間）
	授業内容	**ガイダンス、講義の目的・進め方の説明。**
	事後学習	前期に輪読した判決の内容の確認をしておく。（2時間）
2	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）
3	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）

4	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）
5	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）
6	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）
7	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）
8	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）
9	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）
10	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）
11	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）
12	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）
13	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）
14	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）
15	事前学習	議論に参加できるよう内容理解に努める。（2時間）
	授業内容	**報告担当者が提示する。**
	事後学習	アメリカの銃規制についての理解を深める。（2時間）

科目名	法律学原書研究Ⅰ（独）	担当者	益井　公司	期間	前期	単位数	1

授業概要	学生にドイツの法文献を読んできてもらい、訳語を訂正したり、文法的な説明をするだけでなく、その内容についても検討する形で学修を進める。何を読んでいくかについては学生の希望を聞くが、ない場合にはコーイングの文献を読んでいくことにしたい。
授業目的・到達目標	ドイツの法文献を正確に読める能力を養成することを目的とする。それにより、ドイツの文献の内容を正確に理解し、表現できるようになることを到達目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，２，４
履修条件	ドイツ語を履修していることが望ましい。
授業方法	学生各自にドイツ語文献を渡し、それに訳語を作ってきてもらい、他の学生とその訳を基に議論をする形で進める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業おける訳語の出来や内容の理解度を総合評価して決める。

教科書	年	出版社	書名	著者名
		C.H.Beck	Epochen der Rechtsgeschichte in Deutschland	Helmut Coing
	備考			

参 考 書	講義の初めに指示する。
オフィスアワー	木曜日の昼休み、授業講堂を予定している。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを読み、準備をする。（30分）図書館でどのようなドイツ法律用語辞典があるか見ておくこと。
	授業内容	**ドイツ法に関する基本的な説明をする（その１）。**
	事後学習	外国法の調べかたのドイツ法の部分をもう一度読んでおくこと。６０分の復習をすること（以下各授業の終わりには６０分の復習をすること）。
2	事前学習	前回に配ったプリントを読んでおくこと。６０分の予習をすること（以下各授業の初めに６０分の予習をすること）
	授業内容	**ドイツ法に関する基本的な説明をする（その２）。外国法の調べ方（ドイツ）を説明する。**
	事後学習	授業で配ったプリントをよく読むこと。
3	事前学習	Moderne Aufgabe und Tendenzenの部分を読んでくること（各人の担当部分を割り当てる）
	授業内容	**113頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。

4	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**114頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
5	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**１１４頁の３から１１５頁の半ばまでを読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
6	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**１１５頁の終わりまで読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
7	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**１１６頁の４の前までを読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
8	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**１１６頁の４から１１７頁１段落目までを読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
9	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**１１７頁の終わりまでを読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
10	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと
	授業内容	**106頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
11	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**１１８頁の５の前までをを読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
12	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**１１８頁の５から１１９頁の半ばまでを読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
13	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**１１９頁の続きから１２０頁の１段落目の終わりまでをを読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
14	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**１２０頁を終わりまでを読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
15	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**１２１頁から１２１頁を読む。これまで読んできた部分に関する質問を受け付けるとともに、内容の理解を確かめる。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。

科目名	法律学原書研究Ⅱ(独)	担当者	益井　公司	期間	後期	単位数	1

授業概要	学生にドイツの法文献を読んできてもらい、訳語を訂正したり、文法的な説明をするだけでなく、その内容についても検討する形で授業を進める。何を読んでいくかについては学生の希望を聞くが、ない場合にはのエンメリの文献を読んでいくことにしたい。
授業目的・到達目標	ドイツの法文献を正確に読める能力を養成することを目的とする。それにより、ドイツの文献の内容を正確に理解し、表現できるようになることを到達目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，２，４
履修条件	ドイツ語を履修していることが望ましい。
授業方法	学生各自にドイツ語文献を渡し、それに訳語を作ってきてもらい、他の学生とその訳を基に議論をする形で進める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業おける訳語の出来や内容の理解度を総合評価して決める。

教科書	年	出版社	書名	著者名
		C.H.Beck	Das Recht der Leistungsstoerungen	Volker Emmerich
	備考			

参 考 書	講義の初めに指示する。
オフィスアワー	木曜日の昼休み.授業講堂を予定している。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを読み、準備をする。（30分）
	授業内容	**ドイツ法に関する基本的な説明をする（その１）。**
	事後学習	外国法の調べかたのドイツ法の部分をもう一度読んでおくこと。６０分の復習をすること（以下各授業の終わりには６０分の復習をすること）。
2	事前学習	前回に配ったプリントを読んでおきくこと。６０分の予習をすること（以下各授業の初めに６０分の予習をすること）
	授業内容	**ドイツ法に関する基本的な説明をする（その２）。外国法の調べ方（ドイツ）を説明する。**
	事後学習	授業で配ったプリントをよく読むこと。
3	事前学習	Glaebigerverzugの部分の538頁を読んでくること（各人の担当部分を割り当てる）
	授業内容	**359頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。

4	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**360頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
5	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**361頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
6	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**362頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
7	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**363頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
8	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**364項を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
9	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**365頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
10	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと
	授業内容	**366頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
11	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**367頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
12	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**368頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
13	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**369頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
14	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**370頁を読む。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。
15	事前学習	各人が自分の担当でなくても進む予定の部分を読んでをくこと。
	授業内容	**これまでの授業のまとめをする。**
	事後学習	訳語や文法的な説明と合わせて自分でもう一度検討すること。

科目名	法律学原書研究Ⅰ（仏）	担当者	神尾真知子	期間	前期	単位数	1

授業概要	フランス語で記載された法律学に関する文献を読み、理解する。フランス語表現の基礎的理解と情報収集の方法を習得する。		
授業目的・到達目標	院生が、自分の専門のフランス語文献を、内容も含めて理解し説明できるようになることを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，２，４		
履修条件	院生が、フランス法を比較法として研究することをめざすこと。		
授業方法	フランス語の文献を受講者が読み、日本語訳を行い、フランスの社会と法を理解する。双方向的な講義とする。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業参加度と講義への積極的参加などにより総合的に評価する。

	年	出版社	書名	著者名
教科書				
	備考	テキストについては、受講生と相談の上、決定する。		
参 考 書	中村紘一他監訳『フランス法律用語辞典（第3版）』三省堂、滝沢正『フランス法（第4版）』三省堂、山口俊夫『概説フランス法上下』東京大学出版会			
オフィスアワー	水曜日12時30分～13時（事前にメールでアポイントを取ること） 適宜場所を指定する。　kamio.machiko〇nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	フランス法を学ぶ意義について考える。（３０分）
	授業内容	**オリエンテーション　フランス法の学び方、文献検索方法**
	事後学習	フランス法の学び方及び文献検索方法を確認する。（３０分）
2	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（１）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）
3	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（２）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）

4	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（３）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）
5	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（４）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）
6	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（５）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）
7	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（６）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）
8	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（７）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）
9	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（８）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）
10	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（９）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。
11	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（１０）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）
12	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（１１）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）
13	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**地方自治体に関する文献を読む（１２）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）
14	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（１３）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）
15	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**国家制度に関する文献を読む（１４）**
	事後学習	言葉の意味及び内容を理解する。（３０分）

科目名	法律学原書研究Ⅱ（仏）	担当者	神尾真知子	期間	後期	単位数	1

授業概要	フランス語で記載された法律学に関する文献を読み、理解する。フランス語表現の基礎的理解と情報収集の方法を習得する。
授業目的・到達目標	院生が、自分の専門のフランス語文献を、内容を含めて理解し説明できるようになることを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻１，２，４
履修条件	院生が、フランス法を比較法として研究することをめざすこと。
授業方法	フランス法の文献を受講者が読み、日本語訳を行い、フランス法を理解する。双方向的な講義とする。面接授業をベースに、オンライン会議システム「zoom」による受講希望者がいる場合は、zoomを併用した授業を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業参加度、報告などを考慮し評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	テキストは、講義時に受講者と相談する。		

参 考 書	中村紘一他監訳『フランス法律用語辞典（第3版）』三省堂、滝沢正『フランス法（第4版）』三省堂、山口俊夫『概説フランス法上下』東京大学出版会
オフィスアワー	月曜日12時30分～13時（事前にメールでアポイントを取ること） 適宜場所を指定する。　kamio.machiko〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授 業 内 容
1	事前学習	自分の専攻のフランス法講読候補文献を用意し、講義時に持参する。（３０分）
	授業内容	**オリエンテーション：フランス法の学び方、情報検索の方法等を説明する。**
	事後学習	フランス法の基本的な知識を確認する。（３０分）
2	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む(1)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
3	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む(2)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）

4	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む(3)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
5	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む4)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
6	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む(5)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
7	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む(6)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
8	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む(7)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
9	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む(8)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
10	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む(9)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
11	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む(10)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
12	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む(11)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
13	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む(12)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
14	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む(13)**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
15	事前学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）
	授業内容	**専攻文献を読む（１４）**
	事後学習	担当部分を予習し、レポートを作成する。（３０分）

科目名	合同演習	担当者	大久保　拓也 松嶋　隆弘	期間	通年	単位数	2

授業概要	商法に関する法的問題点の分析を中心に受講生の修士論文のテーマに沿った論点を分析する。専門演習は複数の担当教員により多角的に専門的な問題を検討する。
授業目的・到達目標	商法に関する法的問題点を取り扱う。商法に関する近時の論点の分析や裁判例の検討を通じて、商法に関する理解を深めることを目的とする。受講生の修士論文のテーマに関する学会や実務における議論をできる限り取り扱うことにより、受講生が各自のテーマについて理論的に分析・説明・記述することができる能力や知識を習得する。受講生の修士論文のテーマに関する近時の議論や裁判例の動向を検討し、学界の水準を満たす修士論文が書けるレベルに到達する。関連するDP・CPの番号3、4、5、8
履修条件	商事法（会社法）に関する知識と、民法（特に財産法分野）に関する基礎知識があることを求める。 私の担当する商法特殊講義Ⅰ・Ⅱを併行履修することが望ましい。
授業方法	受講者の修士論文に関する資料を調査・分析し、それに基づいた報告を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	受講者のテーマの報告・授業への参加度等の平常の講義への取り組みをもとに総合的に評価する

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	受講者の興味関心を考慮しつつテキストを決める予定である。		

参考書	神作裕之ほか編『会社法判例百選（第4版）』（有斐閣、2021年） その他随時提示する。
オフィスアワー	事前にメールでアポイントメントをとること オフィス 研究室（9号館2階9204）ohkubo.takuya@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを確認すると共に、各自のもつ会社法の教科書を読み、修士論文に関する資料を調査しておくこと。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**ガイダンス。授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。 詳細は、受講生と相談の上決定する。下記は一例であり、授業内容は変更する場合がある。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。（2時間）
2	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の調査と蒐集した資料の分析（調査方法の教授と資料リストの作成を中心に）**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。（2時間）
3	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の調査と蒐集した資料の分析（調査方法の教授と資料リストの作成を中心に）**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。（2時間）

4	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の調査と蒐集した資料の分析（調査方法の教授と資料リストの作成を中心に）**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。（2時間）
5	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の調査と蒐集した資料の分析（論文を中心に）**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。（2時間）
6	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の調査と蒐集した資料の分析（論文を中心に）**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。（2時間）
7	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の調査と蒐集した資料の分析（論文を中心に）**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。（2時間）
8	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の調査と蒐集した資料の分析（論文を中心に）**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。（2時間）
9	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の調査と蒐集した資料の分析（論文を中心に）**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。（2時間）
10	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の調査と蒐集した資料の分析（論文を中心に）**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。（2時間）
11	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の調査と蒐集した資料の分析（論文を中心に）**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。（2時間）
12	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の調査と蒐集した資料の分析（論文を中心に）**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。修士論文を書き進め論文を繰り返し推敲する。（2時間）
13	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の調査と蒐集した資料の分析（判例を中心に）**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。修士論文を書き進め論文を繰り返し推敲する。（2時間）
14	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の調査と蒐集した資料の分析（判例を中心に）**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。修士論文を書き進め論文を繰り返し推敲する。（2時間）
15	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の調査と蒐集した資料の分析（判例を中心に）**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。修士論文を書き進め論文を繰り返し推敲する。（2時間）

16	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の調査と蒐集した資料の分析（判例を中心に）**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。修士論文を書き進め論文を繰り返し推敲する。（2時間）
17	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の調査と蒐集した資料の分析（判例を中心に）**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。修士論文を書き進め論文を繰り返し推敲する。（2時間）
18	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の調査と蒐集した資料の分析（判例を中心に）**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。修士論文を書き進め論文を繰り返し推敲する。（2時間）
19	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の調査と蒐集した資料の分析（判例を中心に）**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。修士論文を書き進め論文を繰り返し推敲する。（2時間）
20	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の読み込みと論文骨子（概要）の作成**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。修士論文を書き進め論文を繰り返し推敲する。（2時間）
21	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の読み込みと論文の執筆**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。修士論文を書き進め論文を繰り返し推敲する。（2時間）
22	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の読み込みと論文の執筆**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。修士論文を書き進め論文を繰り返し推敲する。（2時間）
23	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の読み込みと論文の執筆**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。修士論文を書き進め論文を繰り返し推敲する。（2時間）
24	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の読み込みと論文の執筆と推敲**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。修士論文を書き進め論文を繰り返し推敲する。（2時間）
25	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の読み込みと論文の執筆と推敲**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。修士論文を書き進め論文を繰り返し推敲する。（2時間）
26	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の読み込みと論文の執筆と推敲**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。修士論文の完成の完成に向けて論文を書き進め、繰り返し推敲する。（2時間）
27	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する新しい資料（論文・判例）の調査・資料の読み込みと論文の執筆・推敲**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。修士論文の完成の完成に向けて論文を書き進め、繰り返し推敲する。（2時間）

28	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する新しい資料（論文・判例）の調査・資料の読み込みと論文の執筆・推敲**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。修士論文の完成の完成に向けて論文を書き進め、繰り返し推敲する。（2時間）
29	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文の完成に向けた執筆と推敲**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。修士論文の完成の完成に向けて論文を書き進め、繰り返し推敲する。（2時間）
30	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文の完成に向けた執筆と推敲**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。修士論文の完成の完成に向けて論文を書き進め、繰り返し推敲する。（2時間）

科目名	専門演習(民法)	担当者	大杉　麻美	期間	通年	単位数	4

授業概要	1年次：研究テーマに関する発展的な知識を獲得し、議論を深め、より発展的な知見を得る。また2年次の修士論文作成・提出に備え、研究テーマに関する基礎的知識を修得する。進捗状況を考慮しシラバスの進行が変更される場合がある。 2年次：1年次に研究した内容につき、修士論文の執筆を通して、より発展的な知見を得、私見を論理的に展開する。また修士論文執筆と並行して、研究テーマに関連する発展的テーマについての論文を輪読する。
授業目的・到達目標	1年次：研究テーマに関する発展的な知識を修得するとともに、各自の研究テーマにそった文献研究を行う。また、他のメンバーとの議論を通して、自らの研究テーマに関する知見を深める。 2年次：１年次に学修した内容に基づいて、各自の研究テーマに関して、引き続き文献を収集するなどの調査活動を行うとともに、修士論文の執筆を通して、発展的な知見を得、解決策を模索することのできる能力を養う。 関連するDP・CP私法学専攻3，4，5，8
履修条件	法学部において、民法全般の講義を履修していること。
授業方法	今年度は面接授業を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0％	
	平 常 評 価	100%	演習への参加状況、発表の内容、修士論文等を考慮し、総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	第一法規出版	『論点体系　判例民法＜11＞相続(第3版)』	能見善久・加藤新太郎編
	備考	場合によっては、追加の文献調査を指示することがある。		

参 考 書	詳細については、開講時に指示をする。また演習中に必要に応じて指示をする。
オフィスアワー	火曜日12：10－13：00　研究室(4号館3階431研究室) 教員への連絡用メールアドレス：osugi.mami@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	指定テキストの目次を確認し、何が書かれているかを確認しておく。（1時間以上）
	授業内容	**ガイダンス：通年の講義内容について簡単に解説する。演習のテーマや内容、演習のスケジュール。成績評価方法を説明する。また演習を実施するにあたり必要な事項につき協議を行う。**
	事後学習	指定テキストの目次を再度確認するとともに、年間のスケジュールを作成する。（1時間以上）
2～4	事前学習	指定テキストの該当箇所を読み、レジュメにまとめておく。演習中に指定された文献調査を行う。（1時間以上）
	授業内容	**指定テキストの該当箇所をレジュメに沿って発表し、疑問点につき議論をし、知見を深める。**
	事後学習	演習中に発表したテーマにつき、発展的課題を発見し、文献調査・研究を行う。（1時間以上）
5～12	事前学習	指定テキストの該当箇所を読み、レジュメにまとめておく。演習中に指定された文献調査を行う。（1時間以上）
	授業内容	**指定テキストの該当箇所をレジュメに沿って発表し、疑問点につき議論をし、知見を深める。**
	事後学習	演習中に発表したテーマにつき、発展的課題を発見し、文献調査・研究を行う。（1時間以上）

13～20	事前学習	指定テキストの該当箇所を読み、レジュメにまとめておく。演習中に指定された文献調査を行う。研究テーマに関する文献調査を行う。（1時間以上）
	授業内容	**指定テキストの該当箇所をレジュメに沿って発表し、疑問点につき議論をし、知見を深める。研究テーマに関する文献調査研究について発表する。**
	事後学習	演習中に発表したテーマにつき、発展的課題を発見し、文献調査・研究を行う。引き続き文献調査・研究を行う。（1時間以上）
21～30	事前学習	研究テーマに関する文献調査・研究を行い、レジュメを作成する。研究テーマに関する中間発表の準備をする。（1時間以上）
	授業内容	**研究テーマに関する文献調査・研究について発表する。研究テーマに関する中間発表を行う。**
	事後学習	引き続き研究テーマに関する文献調査・研究を行う。研究テーマに関する中間発表で指摘されたことを踏まえ、引き続き研究を進める。（1時間以上）
31～34	事前学習	研究テーマに関する文献調査・研究を行い、事前に指定された箇所についての修士論文を執筆する。（1時間以上）
	授業内容	**執筆したテーマについて演習中に発表し、議論を通して知見を深める。**
	事後学習	演習中に指摘されたことを踏まえ、引き続き修士論文を作成する。（1時間以上）
35～41	事前学習	研究テーマに関する文献調査・研究を行い、事前に指定された箇所についての修士論文を執筆する。（1時間以上）
	授業内容	**執筆したテーマについて演習中に発表し、議論を通して知見を深める。**
	事後学習	演習中に指摘されたことを踏まえ、引き続き修士論文を作成する。（1時間以上）
42～45	事前学習	研究テーマに関する文献調査・研究を行い、事前に指定された箇所についての修士論文を執筆する。（1時間以上）
	授業内容	**執筆したテーマについて演習中に発表し、議論を通して知見を深める。**
	事後学習	演習中に指摘されたことを踏まえ、引き続き修士論文を作成する。（1時間以上）
46～54	事前学習	研究テーマに関する文献調査・研究を行い、事前に指定された箇所についての修士論文を執筆する。（1時間以上）
	授業内容	**執筆したテーマについて演習中に発表し、議論を通して知見を深める。**
	事後学習	演習中に指摘されたことを踏まえ、引き続き修士論文を作成する。（1時間以上）
55～58	事前学習	研究テーマに関する文献調査・研究を行い、事前に指定された箇所についての修士論文を執筆する。（1時間以上）
	授業内容	**執筆したテーマについて演習中に発表し、議論を通して知見を深める。**
	事後学習	演習中に指摘されたことを踏まえ、引き続き修士論文を作成する。（1時間以上）
59～60	事前学習	執筆した修士論文の全体を再度確認し、提出に備える。（1時間以上）
	授業内容	**修士論文の全体像について演習中に発表し、最終的な内容の確認調整をする。**
	事後学習	修士論文の内容を再度確認し、提出する。（1時間以上）

科目名	専門演習（民法）	担当者	加藤　雅之	期間	通年	単位数	4

授業概要	修士論文執筆に必要な知識および能力を習得することを目的として、研究テーマについて理解を深めていく。
授業目的・到達目標	民法に関する修士論文を作成するための分析力・思考力を修得することを目的とし、修士論文の完成を到達目標とする。 関連するＤＰ・ＣＰ　私法学専攻３，４，５，６
履修条件	特になし。
授業方法	履修者との議論を中心に進める。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	研究報告や質疑応答などの演習への取り組みを総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。		

参 考 書	演習の中で指示する。
オフィスアワー	水曜日　１２：００～１３：００（授業期間中。事前にメールでアポイントを取ること） 研究室（４号館４２３号室）　メールアドレス：kato.masayuki〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	修士論文のテーマを考えておく。（１時間以上）
	授業内容	**修士論文作成に向けたスケジュールの確認**
	事後学習	修士論文のテーマについていくつかの候補を挙げる。（１時間以上）
2～4	事前学習	修士論文のテーマの候補をいくつか考えておく。（１時間以上）
	授業内容	**修士論文のテーマ決定**
	事後学習	関心のあるテーマについての先行業績を調べる。（１時間以上）
5～12	事前学習	修士論文のテーマについての先行業績を調査し、資料を収集する。（１時間以上）
	授業内容	**修士論文のテーマに関する議論状況の整理**
	事後学習	演習で議論した内容を踏まえて、適宜資料をアップデートする。（１時間以上）

13～20	事前学習	先行業績を踏まえて、修士論文において主張すべき内容を整理する。（1時間以上）
	授業内容	**修士論文のテーマに関する現時点での私見の検討**
	事後学習	演習で議論した内容を踏まえて、私見を修正する。（1時間以上）
21～30	事前学習	修士論文の構成、参考文献、私見の要点をまとめる。（1時間以上）
	授業内容	**修士論文中間発表に向けた準備**
	事後学習	演習で議論した内容を踏まえて、修士論文中間発表の内容をまとめる。（1時間以上）
31～34	事前学習	中間発表において受けた質問をもとに、修士論文問題点を抽出しておく。（1時間以上）
	授業内容	**修士論文全体の構成を考える**
	事後学習	演習で議論した内容を踏まえて、修士論文の構成をまとめる。（1時間以上）
35～41	事前学習	修士論文において主張すべき内容を考える。（1時間以上）
	授業内容	**修士論文における主要な論点および私見の検討**
	事後学習	演習で議論した内容を踏まえて、私見の見直しや修正を行う。（1時間以上）
42～45	事前学習	修士論文の作成に向けて、各章の構成を再検討し、執筆をはじめる。（1時間以上）
	授業内容	**修士論文の内容の検討**
	事後学習	演習で議論した内容を踏まえて、修士論文の内容を充実させる。（1時間以上）
46～54	事前学習	修士論文の原稿を作成し、完成した章を提出する。（1時間以上）
	授業内容	**修士論文の作成**
	事後学習	教員からのコメントを踏まえて、修士論文を修正する。（1時間以上）
55～58	事前学習	完成稿に向けて、修士論文の修正を図る。（1時間以上）
	授業内容	**修士論文の修正**
	事後学習	教員からのコメントを踏まえて、修士論文を修正する。（1時間以上）
59～60	事前学習	修士論文完成稿を提出する。（1時間以上）
	授業内容	**修士論文の完成**
	事後学習	修士論文を完成させるとともに、今後の課題があれば抽出する。（1時間以上）

科目名	専門演習（民法）	担当者	清水　恵介	期間	通年	単位数	4

授業概要	民法に関する履修者各自の専門テーマを掘り下げ，修士論文の執筆に向けた準備作業を行う。
授業目的・到達目標	【授業目的】民法領域に関する修士論文を執筆するのに必要なリーガル・リサーチ能力や法的分析力，論文の構成力等を養成することを目的とする。 【到達目標】上記の力を涵養し，説得力のある修士論文を執筆できるようになることを目標とする。 関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻３，４，５，６
履修条件	主として，担当者を指導教授とする本研究科所属大学院生。
授業方法	履修者と意見交換しながら柔軟に対応する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業内での報告や質疑応答，学習姿勢等により総合判断する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	なし		

参 考 書	適宜教示する。
オフィスアワー	当該授業に関する質問を，授業期間中の水曜日12時10分～13時に研究室で受け付ける。ただし，オフィスアワーを利用した質問を希望する学生は，ガイダンスの際に教示するメールアドレス宛てに，質問の概要及び希望日を事前に通知し，希望者の競合等により対応不能である旨の回答がない場合であることを条件とする。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	修士論文の執筆に向けたスケジュールを把握し，本授業の概要・目的・到達目標を理解する。（２時間）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	授業での説明を踏まえて，具体的なスケジュールを立てる。（２時間）
2～4	事前学習	論文のテーマの候補について検討する。（２時間）
	授業内容	**履修者との話し合いを通じて論文のテーマを選択し，適切な射程範囲を設定する。**
	事後学習	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。（２時間）
5～12	事前学習	選択されたテーマに関して文献を収集し，文献リストを作成する。（２時間）
	授業内容	**収集した文献や文献リストを確認・整理し，不足があれば指示する。**
	事後学習	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。（２時間）

13～20	事前学習	選択されたテーマに関する裁判例を収集し，裁判例リストを作成する。（２時間）
	授業内容	**授業内容　収集した裁判例や裁判例リストを確認・整理し，不足があれば指示する。**
	事後学習	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに裁判例を収集する。（２時間）
21～30	事前学習	選択されたテーマに関する学説を整理し，レジュメにまとめる。（２時間）
	授業内容	**整理された学説を確認・検討し，不足や不十分な箇所があれば指示する。**
	事後学習	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。（２時間）
31～34	事前学習	選択されたテーマに関する残された課題を列挙し，課題リストを作成する。（２時間）
	授業内容	**課題リストを確認・整理し，不足があれば指示する。**
	事後学習	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。（２時間）
35～41	事前学習	残された課題についての文献や裁判例，学説を整理し，レジュメにまとめる。（２時間）
	授業内容	**整理された課題を確認・検討し，不足や不十分な箇所があれば指示する。**
	事後学習	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。（２時間）
42～45	事前学習	これまでの整理・検討を踏まえて，現段階での論文を作成する。（２時間）
	授業内容	**論文の中間報告を行わせ，講評を加える。**
	事後学習	授業での講評を踏まえて，論文を修正する。（２時間）
46～54	事前学習	中間報告で明らかとなった課題をまとめる。（２時間）
	授業内容	**上記の課題を検討し，不足や不十分な箇所があれば指示する。**
	事後学習	授業での検討や指示を踏まえて，これを論文に反映させる。（２時間）
55～58	事前学習	論文に完成に向けて推敲する。（２時間）
	授業内容	**推敲された論文を検討し，不足や不十分な箇所があれば指示する。**
	事後学習	授業での検討や指示を踏まえて，これを論文に反映させる。（２時間）
59～60	事前学習	論文の最終報告に向けた予行練習をする。（２時間）
	授業内容	**論文の最終報告を行わせ，講評を加える。**
	事後学習	授業での講評を踏まえて，論文を修正する。（２時間）

科目名	専門演習(商法)	担当者	大久保　拓也	期間	通年	単位数	4

授業概要	現代社会で重要な役割を果たしている会社に関する法的問題点の分析を中心に受講生の修士論文のテーマに沿った論点を分析する。会社法は、平成17(2005)年に全面改正され、平成26(2014)年・令和元(2019)年に重要な改正がなされた。同法は実務に与える影響が大きく、その内容を知っておく必要性が高い。この授業では、会社に関する法規制に関する法知識を身に付ける者を育成する。
授業目的・到達目標	会社法に関する近時の論点の分析や裁判例の検討を通じて、会社法制に関する理解を深めることを目的とする。受講生の修士論文のテーマに関する学会や実務における議論をできる限り取り扱うことにより、各自のテーマについて理論的に分析・説明・記述することができる能力や知識を修得する。受講生の修士論文のテーマに関する近時の議論や裁判例の動向を検討し、学界の水準を満たす修士論文が書けるレベルに到達する。関連するDP・CPの番号3、4、5、8
履修条件	商事法（会社法）に関する知識と、民法（特に財産法分野）に関する基礎知識があることを求める。 私の担当する商法特殊講義Ⅰ・Ⅱを併行履修すること。
授業方法	受講者の修士論文に関する資料を調査・分析し、それに基づいた報告を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	
	平 常 評 価	100%	受講者のテーマの報告・授業への参加度等の平常の講義への取り組みをもとに総合的に評価する

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし。		

参 考 書	神作裕之ほか編『会社法判例百選（第4版）』（有斐閣、2021年） その他随時提示する。
オフィスアワー	事前にメールでアポイントメントをとること 研究室（9号館2階9204）ohkubo.takuya@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを確認すると共に、各自のもつ会社法の教科書を読み、修士論文に関する資料を調査しておくこと。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	**ガイダンス。授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。 詳細は、受講生と相談の上決定する。下記は一例であり、授業内容は変更する場合がある。**
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。（2時間）
2～4	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の調査と蒐集した資料の分析（調査方法の教授と資料リストの作成を中心に）**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。（2時間）
5～12	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の調査と蒐集した資料の分析（論文を中心に）**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。（2時間）

13～20	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の調査と蒐集した資料の分析（論文を中心に）**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。（2時間）
21～30	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の調査と蒐集した資料の分析（判例を中心に）**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。（2時間）
31～34	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の調査と蒐集した資料の分析（判例を中心に）**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。（2時間）
35～41	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の読み込みと論文骨子（概要）の作成**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。（2時間）
42～45	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の読み込みと論文の執筆**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。修士論文を書き進め論文を繰り返し推敲する。（2時間）
46～54	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する資料の読み込みと論文の執筆と推敲**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。修士論文を書き進め論文を繰り返し推敲する。（2時間）
55～58	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文に関する新しい資料（論文・判例）の調査・資料の読み込みと論文の執筆・推敲**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。修士論文を書き進め論文を繰り返し推敲する。（2時間）
59～60	事前学習	新聞の経済面を読んでおく。修士論文に関する資料を調査しておく。修士論文の推敲を行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文の完成に向けた執筆と推敲**
	事後学習	授業で取り扱われた課題を復習する。修士論文に関する配付資料や調査資料を読んで要点をまとめる。修士論文の完成の完成に向けて論文を書き進め、繰り返し推敲する。（2時間）

科目名	専門演習(商法)	担当者	小野寺　千世	期間	通年	単位数	4

授業概要	本講義では、会社法・商法領域に関する諸問題についての研究指導を行う。具体的には、プレゼンや議論を通して研究を深め、会社法・商法領域の論文を作成する。
授業目的・到達目標	(1) 会社法、商法の諸問題に関する判例および学説を理解し、説明することができる。 (2) 会社法、商法の諸問題について、論理的な解決策を提示することができる。 関連するDP・CPの番号3、4、5、8
履修条件	会社法、商法に関する知識と、民法に関する基礎知識があることが好ましい。
授業方法	ゼミナール形式および個別指導により行う。１年次は、研究領域の判例・学説の調査を中心とし、２年次に、論文作成を中心とする。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	受講者のテーマの報告・授業への参加度等の平常の講義への取り組みをもとに総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特に指定しない。		

参 考 書	随時、指示をする。
オフィスアワー	火曜日１２:２０～１３:００研究室にて（事前にメールでアポイントメントをとること。） オフィス 研究室（９号館３階　９３０８号室）　メールアドレス：onodera.chise○nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授 業 内 容
1	事前学習	シラバスを確認すると共に、各自のもつ会社法の教科書を読み、修士論文に関する資料を調査しておくこと。（120分）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	自分の研究内容について検討しておくこと。（120分）
2～4	事前学習	自分の研究の実施計画について考えておくこと。（120分）
	授業内容	**研究の基本の確認**
	事後学習	自分の研究の実施計画について検討、整理しておくこと。（120分）
5～12	事前学習	研究テーマに関連する裁判例、論文を調査しておくこと。（120分）
	授業内容	**研究テーマに関する文献調査と課題の抽出**
	事後学習	研究テーマに関する文献調査と課題の抽出について復習しておくこと。（120分）

13～20	事前学習	研究テーマに関する文献調査、収集を進めておくこと。（120分）
	授業内容	**研究テーマに関する文献調査、収集、分析等**
	事後学習	研究テーマに関する文献調査、収集、分析等について復習しておくこと。（120分）
21～30	事前学習	判例および学説について分析、整理しておくこと。（120分）
	授業内容	**判例および学説等の研究と討議**
	事後学習	判例および学説について復習しておくこと。（120分）
31～34	事前学習	論旨の構築について考えておくこと。（180分）
	授業内容	**修士論文の論旨の構築（問題点の整理と分析）**
	事後学習	論旨の構築について復習しておくこと。（120分）
35～41	事前学習	論文作成について考えておくこと。（180分）
	授業内容	**修士論文テーマの論点、構成等の検討**
	事後学習	論文作成指導について復習しておくこと。（120分）
42～45	事前学習	中間報告の準備を行う。（180分）
	授業内容	**中間報告**
	事後学習	中間報告について復習を行い、今後の展開を整理する。（120分）
46～54	事前学習	論文作成について考えておくこと。（180分）
	授業内容	**修士論文テーマの論理構成と考察などの整理**
	事後学習	論文作成指導に基づき復習しておくこと。（120分）
55～58	事前学習	最終報告の準備を行う。（180分）
	授業内容	**レビューおよび最終報告**
	事後学習	最終報告について復習を行い、論文完成の準備をする。（120分）
59～60	事前学習	最終校正・論文完成について検討しておくこと。（180分）
	授業内容	**総括及び最終校正・論文完成**
	事後学習	最終校正・論文の完成。（120分）

科目名	専門演習（民事訴訟法）	担当者	小田　司	期間	通年	単位数	4

授業概要	この演習では、民事訴訟法の諸問題に関する修士論文を完成させるための知識を修得する。
授業目的・到達目標	民事訴訟法を専門的に研究する上での分析力・思考力を修得する。民事訴訟法を専門的に研究する上での分析力・思考力を養い、最終的には民事訴訟法の諸問題に関する修士論文を完成させることができるようになることを目標とする。 関連するDP・CP私法学専攻3,4,5,8
履修条件	選択したテーマについて、毎回報告できるように準備してくること。
授業方法	選択したテーマに関連する資料を収集し、その資料を分析して毎回報告を行い、最終的に修士論文を完成させる。 Zoomによる受講希望者がいる場合には、Zoomを併用した演習を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	選択したテーマについての報告と報告レジュメの内容を総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特に使用しない。		

参 考 書	高橋宏志『重点講義民事訴訟法上・下』（有斐閣）、伊藤眞・山本和彦編『民事訴訟法の争点』（有斐閣）、高田裕成・畑瑞穂・垣内秀介編『民事訴訟法判例百選〔第６版〕』（有斐閣）など
オフィスアワー	月曜１２：１０～１３：００ 研究室（９号館９３２０） 授業内容の他、法科大学院進学、海外留学（ヨーロッパ諸国）などについて メールアドレス：oda.tsukasa@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを確認すると共に、研究の対象となる民事訴訟法の諸問題について整理する。（２時間）
	授業内容	**年間スケジュールと演習内容の説明**
	事後学習	演習内容を振り返り、学修上の重要事項をまとめる。（２時間）
2～4	事前学習	関心のある論点についての資料を収集し、収集した資料を整理する。（２時間）
	授業内容	**関心のある論点についての資料の収集及び収集した資料の整理**
	事後学習	教員から受けた指導に基づいて、関連する資料を補充する。（２時間）
5～12	事前学習	関心のある論点についてまとめ、報告のためのレジュメを作成する。（２時間）
	授業内容	**関心ある研究テーマについての発表**
	事後学習	教員から受けた指導に基づいて、報告内容について再検討し、必要に応じて修正を加える。（２時間）

13～20	事前学習	関心のある論点の中から、修士論文作成のためのテーマを選択し、報告のためのレジュメを作成する。（２時間）
	授業内容	**修士論文作成のためのテーマの選択**
	事後学習	教員から受けた指導に基づいて、報告内容について再検討し、テーマを選択する。（２時間）
21～30	事前学習	選択したテーマについて、報告のためのレジュメを作成する。（２時間）
	授業内容	**修士論文のテーマの確定及び選択したテーマに関する資料の収集**
	事後学習	教員から受けた指導に基づいて、報告内容について再検討し、必要に応じて修正を加え、テーマに関連する資料を収集する。（２時間）
31～34	事前学習	収集した資料を分析し、報告のためのレジュメを作成する。（２時間）
	授業内容	**収集した資料の分析と報告及び関連する資料の補充**
	事後学習	教員から受けた指導に基づいて、報告内容について再検討し、必要に応じて修正を加え、関連する資料を補充する。（２時間）
35～41	事前学習	収集した資料を分析し、報告のためのレジュメを作成する。（２時間）
	授業内容	**収集した資料の分析と報告及び関連する資料の補充**
	事後学習	教員から受けた指導に基づいて、報告内容について再検討し、必要に応じて修正を加え、関連する資料を補充する。（２時間）
42～45	事前学習	中間報告のための原稿を作成し、提出する。（２時間）
	授業内容	**修士論文についての中間報告**
	事後学習	教員から受けた指導に基づいて、原稿内容について再検討し、必要に応じて修正する。（２時間）
46～54	事前学習	修士論文の部分原稿を作成し、提出する。（２時間）
	授業内容	**修士論文の作成・報告及び関連する資料の補充**
	事後学習	教員から受けた指導に基づいて、原稿内容について再検討をし、必要に応じて修正を加え、関連する資料を補充する。（２時間）
55～58	事前学習	最終報告のための原稿を作成し、提出する。（２時間）
	授業内容	**修士論文についての最終報告**
	事後学習	教員から受けた指導に基づいて、原稿内容について再検討し、必要に応じて修正を加える。（２時間）
59～60	事前学習	修士論文を完成させ、完成稿を提出する。（２時間）
	授業内容	**修士論文の完成とそれに対する指導**
	事後学習	教員から受けた指導に基づいて、修士論文を完成させる。（２時間）

科目名	専門演習(知的財産法)	担当者	加藤　浩	期間	通年	単位数	4

授業概要	知的財産権法に関する諸問題についての研究指導を行う。具体的には、学生によるプレゼンや討論を通して研究を深め、知的財産法領域の論文を作成する。
授業目的・到達目標	（1）特許権、意匠権、商標権、著作権に関する研究を通して、知的財産法を深く説明することができる。 （2）さまざまな事例において、知的財産法を理解して説明することができる。 関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻３，４，５，８
履修条件	特になし。
授業方法	ゼミナール形式及び個別指導により行う。初年次は、研究領域の調査を中心に指導を行い、二年次に、論文作成を中心に指導を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業におけるプレゼンテーション、ディスカッションのほか、修士論文について評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない。毎回、レジュメを配布する。		

参 考 書	必要に応じて、適宜指示する。
オフィスアワー	水曜日５時限目に設定する。（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館６階　１６１０号室）メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	自分の研究内容について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**オリエンテーション**
	事後学習	自分の研究内容について検討しておくこと。（２時間）
2～4	事前学習	自分の研究の実施計画について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**研究の基本**
	事後学習	自分の研究の実施計画について検討しておくこと。（２時間）
5～12	事前学習	研究領域の現状調査と問題発掘について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**研究領域の現状調査と問題発掘**
	事後学習	研究領域の現状調査と問題発掘について復習しておくこと。（２時間）

13～20	事前学習	研究領域の探索調査・データ収集について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**研究領域の探索調査・データ収集**
	事後学習	研究領域の探索調査・データ収集について復習しておくこと。（２時間）
21～30	事前学習	ケーススタディについて考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**ケーススタディ （事例・判例・学説等の研究と討議）**
	事後学習	ケーススタディについて復習しておくこと。（２時間）
31～34	事前学習	論旨の構築について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**論旨の構築（問題点の整理と対応策）**
	事後学習	論旨の構築について復習しておくこと。（２時間）
35～41	事前学習	論文作成について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**論文作成指導（データ解析、論点整理の指導など）**
	事後学習	論文作成指導について復習しておくこと。（２時間）
42～45	事前学習	中間報告の準備を行う。（２時間）
	授業内容	**中間報告**
	事後学習	中間報告について復習を行う。（２時間）
46～54	事前学習	論文作成について考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**論文作成指導（論理構成と考察の指導など）**
	事後学習	論文作成指導について復習しておくこと。（２時間）
55～58	事前学習	最終報告の準備を行う。（２時間）
	授業内容	**レビュー及び最終報告**
	事後学習	最終報告について復習を行う。（２時間）
59～60	事前学習	最終校正・論文完成について検討しておくこと。（２時間）
	授業内容	**総括及び最終校正・論文完成**
	事後学習	最終校正・論文完成を行う。（２時間）

科目名	専門演習(知的財産法)	担当者	竹内　敏夫	期間	通年	単位数	4

授業概要	知的財産権法に関する諸問題についての研究指導を行う。具体的には、学生によるプレゼンや討論を通して研究を深め、知的財産法領域の論文を作成する。
授業目的・到達目標	（1）特許権、意匠権、商標権、著作権に関する研究を通して、知的財産法を深く説明することができる。 （2）さまざまな事例において、知的財産法を理解して説明することができる。 関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻３，４，５，８
履修条件	特になし。
授業方法	ゼミナール形式及び個別指導により行う。初年次は、研究領域の調査を中心に指導を行い、二年次に、論文作成を中心に指導を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業におけるプレゼンテーション、ディスカッションのほか、修士論文について評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	必要に応じて資料を配布する。		

参 考 書	参考文献などは必要に応じて指示する。
オフィスアワー	金曜日　12時10分～13時　教員研究室（1812）takeuchi.toshio@nihon-u.ac.jp　事前に要連絡

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	自分の研究内容について考えておくこと。（120分）
	授業内容	**オリエンテーション、研究内容について**
	事後学習	自分の研究内容について検討すること。（120分）
2～4	事前学習	研究の実施計画について考えておくこと。（120分）
	授業内容	**研究内容と研究計画について**
	事後学習	自分の研究計画について検討すること。（120分）
5～12	事前学習	研究領域の先行研究・現状調査と問題発掘について考えておくこと。(120分)
	授業内容	**研究領域の先行研究・現状調査と問題発掘について**
	事後学習	研究領域の先行研究・現状調査と問題発掘について検討すること。(120分)

13～20	事前学習	究領域の探索・データ収集について考えておくこと。(120分)
	授業内容	**究領域の探索・データ収集について**
	事後学習	究領域の探索・データ収集について検討すること。(120分)
21～30	事前学習	研究内容に関する事例・判例・学説等について考えておくこと。(120分)
	授業内容	**研究内容に関する事例・判例・学説等について(ケーススタディなど)**
	事後学習	研究内容に関する事例・判例・学説等について検討すること。(120分)
31～34	事前学習	論旨の構築について考えておくこと。(120分)
	授業内容	**論旨の構築**
	事後学習	論旨の構築について検討すること。(120分)
35～41	事前学習	論文作成について考えておくこと(120分)
	授業内容	**論文作成指導(データ解析、論点整理の指導など)**
	事後学習	論文作成について検討すること(120分)
42～45	事前学習	中間報告の準備を行う。(120分)
	授業内容	**中間報告**
	事後学習	中間報告の結果について検討を行うこと。(120分)
46～54	事前学習	論文作成について考えておくこと。(120分)
	授業内容	**論文作成指導(論理構成と考察の指導など)**
	事後学習	論文作成指導された内容について復習しておくこと。(120分)
55～58	事前学習	最終報告の準備をおこなうこと。(120分)
	授業内容	**レビュー及び最終報告**
	事後学習	最終報告のレビューの検討を行うこと。(120分)
59～60	事前学習	論文完成に向けて最終校正の準備を行うこと。(120分)
	授業内容	**総括及び最終校正・論文完成**
	事後学習	論文完成に向けて最終校正の内容を検討すること。(120分)

科目名	専門演習（知的財産法）	担当者	藤田　晶子	期間	通年	単位数	4

授業概要	２年間の大学院での研究活動を通して，法学論文の目的，修士論文につきなぜこのテーマを選択するのかを明確にし，そのテーマに資する様々な資料の分析方法，構成，書き方を習得する。特に知的財産法の分野では，法学論文を書く意味として実務上問題になる法的論点に対する提言が重要であり，実務に役立つ法律論文の完成を目指す。
授業目的・到達目標	知的財産法の中で受講生各自が研究論文テーマを絞っていくには，確実に基礎知識を習得することと，幅広い興味を持って研究を積み重ねていくことが肝要である。論文テーマの選び方，研究の進め方の確認をした上で，各自の研究活動と修士論文の完成を目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ私法学専攻３，４，５，８
履修条件	知的財産法は，民事法における先端科目としての性質上，基本の民法・民事訴訟法の基礎知識がベースとなることに留意すること。
授業方法	受講生各自に研究報告を行ってもらい，それをベースにしたディスカッションを通して研究の方向性の軌道修正や研究方法の確認を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	
	平 常 評 価	100%	各自の研究報告の内容と進行状況を評価する。また，最終目標である修士論文の具体的内容も評価対象とする。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし。毎回，報告担当者はレジュメを用意すること。		

参 考 書	各自，研究報告の回に報告資料を事前に作成し，Googleクラスルームに提出すること。
オフィスアワー	火曜日16:30pm～17:30pm 事前にメールで予約を取ること。e-mail：akiko_fujita@lapinrose.jp

【授業計画】

回数	授　業　内　容	
1	事前学習	各自の研究テーマに関連する法的論点，判例，資料等を選んで，発表の準備を行う。わかりやすいレジュメを事前に作成する。（30分以上）
	授業内容	**各自の研究報告とディスカッション**
	事後学習	演習中に判明した課題，ディスカッションの結果を基に，更に研究を進める。（30分以上）
2～4	事前学習	各自の研究テーマに関連する法的論点，判例，資料等を選んで，発表の準備を行う。わかりやすいレジュメを事前に作成する。（30分以上）
	授業内容	**各自の研究報告とディスカッション**
	事後学習	演習中に判明した課題，ディスカッションの結果を基に，更に研究を進める。（30分以上）
5～12	事前学習	各自の研究テーマに関連する法的論点，判例，資料等を選んで，発表の準備を行う。わかりやすいレジュメを事前に作成する。（30分以上）
	授業内容	**各自の研究報告とディスカッション**
	事後学習	演習中に判明した課題，ディスカッションの結果を基に，更に研究を進める。（30分以上）

13〜20	事前学習	各自の研究テーマに関連する法的論点，判例，資料等を選んで，発表の準備を行う。わかりやすいレジュメを事前に作成する。（30分以上）
	授業内容	**各自の研究報告とディスカッション**
	事後学習	演習中に判明した課題，ディスカッションの結果を基に，更に研究を進める。（30分以上）
21〜30	事前学習	各自の研究テーマに関連する法的論点，判例，資料等を選んで，発表の準備を行う。わかりやすいレジュメを事前に作成する。（30分以上）
	授業内容	**各自の研究報告とディスカッション**
	事後学習	演習中に判明した課題，ディスカッションの結果を基に，更に研究を進める。（30分以上）
31〜34	事前学習	各自の研究テーマに関連する法的論点，判例，資料等を選んで，発表の準備を行う。わかりやすいレジュメを事前に作成する。（30分以上）
	授業内容	**各自の研究報告とディスカッション**
	事後学習	演習中に判明した課題，ディスカッションの結果を基に，更に研究を進める。（30分以上）
35〜41	事前学習	各自の研究テーマに関連する法的論点，判例，資料等を選んで，発表の準備を行う。わかりやすいレジュメを事前に作成する。（30分以上）
	授業内容	**各自の研究報告とディスカッション**
	事後学習	演習中に判明した課題，ディスカッションの結果を基に，更に研究を進める。（30分以上）
42〜45	事前学習	各自の研究テーマに関連する法的論点，判例，資料等を選んで，発表の準備を行う。わかりやすいレジュメを事前に作成する。（30分以上）
	授業内容	**各自の研究報告とディスカッション**
	事後学習	演習中に判明した課題，ディスカッションの結果を基に，更に研究を進める。（30分以上）
46〜54	事前学習	各自の研究テーマに関連する法的論点，判例，資料等を選んで，発表の準備を行う。わかりやすいレジュメを事前に作成する。（30分以上）
	授業内容	**各自の研究報告とディスカッション**
	事後学習	演習中に判明した課題，ディスカッションの結果を基に，更に研究を進める。（30分以上）
55〜58	事前学習	各自の研究テーマに関連する法的論点，判例，資料等を選んで，発表の準備を行う。わかりやすいレジュメを事前に作成する。（30分以上）
	授業内容	**各自の研究報告とディスカッション**
	事後学習	演習中に判明した課題，ディスカッションの結果を基に，更に研究を進める。（30分以上）
59〜60	事前学習	修士論文の最終調整を行う。（30分以上）
	授業内容	**各自の研究報告とディスカッション**
	事後学習	修士論文の完成と最終チェック。（30分以上）

科目名	専門演習（知的財産法）	担当者	三村　淳一	期間	通年	単位数	4

授業概要	知的財産権法に関する諸問題についての研究指導及び米国特許出願に関する実務を行う。具体的には、２年間を通じ、学生によるプレゼンや意見交換を通して研究を深め、知的財産法領域の論文を作成する一方、１年目には米国出願の実務を通じ、米国特許出願の手続法の実務演習を行う。また、２年目では受講生の間で最新米国判例の輪講も行う
授業目的・到達目標	受講生は、教員指導の下に、自らの関心及び研究計画に基づき、知的財産法領域の論文を作成する。また、米国への特許出願を経験する中で、その手続き学ぶ。期待する成果は、米国出願に関しては、各自が１人で米国特許出願を行えるようになる。また、論文に関しては、自己が設定した問題に対する仮設及びその検証がしっかり行えているような論文を提出する。知的財産に関わる問題に対する洞察力、論理的解析・思考力、解決策の提案力等を涵養するとともに、論理的な文章表現力を養成し、知的財産法領域の研究成果を論文にまとめる。関連するＤＰ・ＣＰ公法学専攻，私法学専攻３，４，５，８
履修条件	自らが選択した研究課題に関する調査や、討議、発表等を積極的に行う。
授業方法	ゼミナール形式及び個別指導により行う。初年次は、米国出願を中心に指導を行うと共に、修士論文に関しては研究領域の調査を中心に指導を行う。二年次に、論文作成を中心に指導を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業への参加意欲（出席率70%未満者は不合格とする）、中間報告、最終報告、論文作成への取組み等から、総合評価を行う。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。出願の指導は教員作成のレジメを用いる。		

参 考 書	必要に応じて、適宜指示する。
オフィスアワー	火曜日12:10-13:00 三村研究室

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	自分の研究内容について考えておくこと。(2時間)
	授業内容	**オリエンテーション**
	事後学習	自分の研究内容について検討しておくこと。(2時間)
2～4	事前学習	自分の研究の実施計画について考えておくこと。 米国出願：世の中の製品の不具合を考える(各2時間)
	授業内容	**研究の基本** **米国出願：発明創出準備**
	事後学習	自分の研究の実施計画について検討しておくこと。 米国出願：他人の考える不具合を理解する。(各2時間)
5～12	事前学習	研究領域の現状調査と問題発掘について考えておくこと。 米国出願：他人の考える不具合のうち、解決できそうなものを選択(各2時間)
	授業内容	**研究領域の現状調査と問題発掘** **米国出願：発明創出**
	事後学習	研究領域の現状調査と問題発掘について復習しておくこと。 米国出願：発明を考える(各2時間)

13～20	事前学習	研究領域の探索調査・データ収集について考えておくこと。 米国出願：日本語での明細書書き方を図書館で調べる(各2時間)
	授業内容	**研究領域の探索調査・データ収集** **米国出願：日本語明細書の作成**
	事後学習	研究領域の探索調査・データ収集について復習しておくこと。 米国出願：自己作成した日本語明細書が教員により修正された理由を考える(各2時間)
21～30	事前学習	ケーススタディについて考えておくこと。 米国出願：英文明細書作成を行う(各2時間)
	授業内容	**ケーススタディ** **（事例・判例・学説等の研究と討議）** **米国出願：米国への特許出願**
	事後学習	ケーススタディについて復習しておくこと。 米国出願：自己作成した英文明細書が教員により修正された理由を考える(各2時間)
31～34	事前学習	論旨の構築について考えておくこと。(各2時間)
	授業内容	**論旨の構築（問題点の整理と対応策）**
	事後学習	論旨の構築について復習しておくこと。(各2時間)
35～41	事前学習	論文作成について考えておくこと。(各2時間)
	授業内容	**論文作成指導（データ解析、論点整理の指導など）**
	事後学習	論文作成指導について復習しておくこと。(各2時間)
42～45	事前学習	中間報告の準備を行う。(各2時間)
	授業内容	**中間報告**
	事後学習	中間報告について復習を行う。(各2時間)
46～54	事前学習	論文作成について考えておくこと。(各2時間)
	授業内容	**論文作成指導（論理構成と考察の指導など）**
	事後学習	論文作成指導について復習しておくこと。(各2時間)
55～58	事前学習	最終報告の準備を行う。(各2時間)
	授業内容	**振り返り及び最終報告**
	事後学習	最終報告について復習を行う。(各2時間)
59～60	事前学習	最終校正・論文完成について検討しておくこと。(各2時間)
	授業内容	**振り返り及び最終校正・論文完成**
	事後学習	最終校正・論文完成を行う。(各2時間)

科目名	専門演習(知的財産法)	担当者	劉　斌斌	期間	通年	単位数	4

授業概要	この演習では、知的財産法に関する諸問題について研究指導を行う。大学院でのさまざまな研究活動を通して、知的財産法に関する履修者各自の専門テーマを掘り下げ、修士論文の執筆と完成を目指す。
授業目的・到達目標	知的財産法を専門的に研究する上での分析力・思考力を涵養し、知財の現状や特徴を理解しながら解決すべき問題を発見し、国際的な視点から問題意識を深めることのできる人材の育成することを目標とする。
履修条件	特になし
授業方法	レジメ、PPT 、資料など用いて講義する。最新の情報、事例、判例も適宜教材にし、授業時間内で講評・解説・討論を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	討論における積極的な発言内容、報告および授業への参加・貢献度を総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない		

参 考 書	必要な場合には授業中に指示する。
オフィスアワー	研究室にて、月曜日14：40―16：10

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを確認すると共に、研究内容等を考えておく。（2時間）
	授業内容	**スケジュールと演習内容**
	事後学習	授業での説明を踏まえて、具体的なスケジュールを立てる。（2時間）
2～4	事前学習	各自の研究の実施計画について検討する（2時間）
	授業内容	**研究計画：テーマの選択およびその射程範囲を設定する。**
	事後学習	授業での検討を踏まえて自分の論文のテーマや射程範囲について整理する。（2時間）
5～12	事前学習	選択されたテーマに関して現状調査、文献を収集し、文献リストを作成する。（2時間）
	授業内容	**研究領域の現状調査と文献収集**
	事後学習	授業での検討や指示を踏まえて現状や文献をさらに整理する。（2時間）

13～20	事前学習	授業のレジメや資料を配布する。発表と関連する知識を習得しディスカッションできる準備をしておく。（2時間）
	授業内容	**研究テーマと関連する判例・学説等の研究報告とディスカッション**
	事後学習	配布されたレジメや資料等を再読し、ディスカッションの観点やポイントを整理しながら研究を深める。（2時間）
21～30	事前学習	授業のレジメや資料を配布する。発表と関連する知識を習得しディスカッションできる準備をしておく。（2時間）
	授業内容	**研究テーマと関連する判例・学説等の研究報告とディスカッション**
	事後学習	配布されたレジメや資料等を再読し、ディスカッションの観点やポイントを整理しながら研究を深める。（2時間）
31～34	事前学習	授業のレジメや資料を配布する。発表と関連する知識を習得しディスカッションできる準備をしておく。（2時間）
	授業内容	**研究テーマと関連する判例・学説等の研究報告とディスカッション**
	事後学習	配布されたレジメや資料等を再読し、ディスカッションの観点やポイントを整理しながら研究を深める。（2時間）
35～41	事前学習	授業のレジメや資料を配布する。発表と関連する知識を習得しディスカッションできる準備をしておく。（2時間）
	授業内容	**研究テーマと関連する判例・学説等の研究報告とディスカッション**
	事後学習	配布されたレジメや資料等を再読し、ディスカッションの観点やポイントを整理しながら研究を深める。（2時間）
42～45	事前学習	授業のレジメや資料を配布する。発表と関連する知識を習得しディスカッションできる準備をしておく。（2時間）
	授業内容	**研究テーマと関連する判例・学説等の研究報告とディスカッション**
	事後学習	配布されたレジメや資料等を再読し、ディスカッションの観点やポイントを整理しながら研究を深める。（2時間）
46～54	事前学習	授業のレジメや資料を配布する。発表と関連する知識を習得しディスカッションできる準備をしておく。（2時間）
	授業内容	**研究テーマと関連する判例・学説等の研究報告とディスカッション**
	事後学習	配布されたレジメや資料等を再読し、ディスカッションの観点やポイントを整理しながら研究を深める。（2時間）
55～58	事前学習	修士論文の部分原稿を作成し、提出する（2時間）
	授業内容	**修士論文の作成・報告**
	事後学習	教員から受けた指導に基づいて、原稿内容について再検討する。（2時間）
59～60	事前学習	論文の最終校正・完成について検討する（2時間）
	授業内容	**最終校正・論文完成**
	事後学習	授業内での議論や評価を踏まえて、論文を修正する。（2時間）

法学研究科

政治学専攻

政治学専攻

科目名	政治理論特殊講義Ⅰ	担当者	岩崎　正洋	期間	前期	単位数	2

授業概要	本講義は、政治理論の検討を通じて、社会科学（Social Science）の一分野としての政治学（Political Science）を専攻するに際し、これまでに蓄積されてきた先行研究のうち最低限どのようなものを把握しておく必要があるのか、これまでの研究の系譜に自らの研究をどのように位置づけるのか、それらをふまえて自らの問題意識を明確にするにはどうしたらいいのかについて学修する。
授業目的・到達目標	〔授業目的〕本講義では、現代政治学における様々な理論がどのように政治現象を捉え、政治理論を提示してきたのかを理解するために、現代政治学の主要な理論、現実の政治現象と政治理論とのかかわりについて考察する。 〔到達目標〕現代政治学の理論がどのように展開してきたのかについて説明することができる。 関連するDP・CP（政治学専攻3,4,5,7）
履修条件	本講義を受講する前の段階（大学院入学以前）において、政治学の基礎的な知識を学修していること
授業方法	毎回テーマに従って、受講者の報告、教員の講評、質疑応答、報告資料の添削などを行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	授業中の報告、質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、〔到達目標〕にかかわる学修態度が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	1981	早稲田大学出版部	『現代政治学の理論（上）』	白鳥令編
	1982	早稲田大学出版部	『現代政治学の理論（下）』	白鳥令編
	1985	早稲田大学出版部	『現代政治学の理論（続）』	白鳥令編
	備考			

参考書	岩崎正洋『比較政治学入門』勁草書房。白鳥令・曽根泰教編『現代世界の民主主義理論』新評論。佐々木毅『政治学講義』東京大学出版会。その他、授業の際に提示する。
オフィスアワー	月曜日12：10～12：50　研究室（4号館2階425研究室）iwasaki.masahiro62@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	教科書および参考書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**イントロダクション**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
2	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**H・D・ラズウェル：現代政治学の開拓者**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
3	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**C・J・フリードリヒ：政治哲学と経験的政治学の統合**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）

4	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**R・A・ダール：現代民主主義論の展開**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
5	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**C・E・リンドブロム：合理性と福祉の政治経済学**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
6	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**H・A・サイモン：意思決定論の先駆者**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
7	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**S・M・リプセット：政治社会学の再編成**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
8	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**G・サルトーリ：比較政治学の完成**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
9	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**J・ロールズ：正義論の再構築**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
10	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**D・イーストン：システム分析とポスト・ビヘイヴィオラリズム**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
11	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**G・A・アーモンド：システム論から変動論へ**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
12	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**D・B・トルーマン：集団アプローチの展開**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
13	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**H・ユーロー：立法システムと代表の分析**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
14	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**T・パーソンズ：機能主義的社会体系論の確立**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
15	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**総括と展望**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）

科目名	政治理論特殊講義Ⅱ	担当者	岩崎　正洋	期間	後期	単位数	2

授業概要	本講義は、政治理論の検討を通じて、社会科学（Social Science）の一分野としての政治学（Political Science）を専攻するに際し、これまでに蓄積されてきた先行研究のうち最低限どのようなものを把握しておく必要があるのか、これまでの研究の系譜に自らの研究をどのように位置づけるのか、それらをふまえて自らの問題意識を明確にするにはどうしたらいいのかについて学修する。
授業目的・到達目標	〔授業目的〕本講義では、現代政治学における様々な理論がどのように政治現象を捉え、政治理論を提示してきたのかを理解するために、現代政治学の主要な理論、現実の政治現象と政治理論とのかかわりについて考察する。 〔到達目標〕現代政治学の理論がどのように展開してきたのかについて説明することができる。 関連するDP・CP（政治学専攻3,4,5,7）
履修条件	本講義を受講する前の段階（大学院入学以前）において、政治学の基礎的な知識を学修していること
授業方法	毎回テーマに従って、受講者の報告、教員の講評、質疑応答、報告資料の添削などを行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	授業中の報告、質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、〔到達目標〕にかかわる学修態度が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	1981	早稲田大学出版部	『現代政治学の理論（上）』	白鳥令編
	1982	早稲田大学出版部	『現代政治学の理論（下）』	白鳥令編
	1985	早稲田大学出版部	『現代政治学の理論（続）』	白鳥令編
	備考			

参考書	岩崎正洋『比較政治学入門』勁草書房。白鳥令・曽根泰教編『現代世界の民主主義理論』新評論。佐々木毅『政治学講義』東京大学出版会。その他、授業の際に提示する。
オフィスアワー	月曜日12：10～12：50　研究室（4号館2階425研究室）iwasaki.masahiro62@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	教科書および参考書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**イントロダクション**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
2	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**K・W・ドイッチュ：コミュニケーション・アプローチの意義と問題点**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
3	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**J・N・ローズノー：対外政策の科学的研究とリンケッジ・ポリティクス**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）

4	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**現代政治学の理論的系譜：現代政治学のアイデンティティを求めて**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
5	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**B・クリック：政治における理論と実践**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
6	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**R・ミリバンド：マルクス主義政治学の再解釈**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
7	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**M・デュヴェルジェ：自由主義とマルクス主義の接点**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
8	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**B・ド・ジュヴネル：国家権力の位置と役割をめぐって**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
9	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**H・アレント：人間的な「政治」概念の再発見**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
10	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**R・ダーレンドルフ：現代社会における変革と自由**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
11	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**J・ハーバマス：啓蒙的理性の再認による批判理論の提唱へ**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
12	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**A・レイプハルト：多極共存型民主主義理論の妥当性**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
13	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**ヨーロッパの伝統と現代政治学**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
14	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**現代政治学の理論とはいったいどのようなものなのか**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
15	事前学習	授業内容に関連する教科書の該当部分および参考書を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**総括と展望**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）

科目名	政治哲学特殊講義Ⅰ	担当者	松元　雅和	期間	前期	単位数	2

授業概要	本授業では、現代英米圏の政治哲学の先端的研究を学修する。具体的には、J・ファインバーグ『倫理学と法学の架橋―ファインバーグ論文選』（東信堂、2018年）を輪読するとともに、英米圏の指導的なジャーナルに掲載された論文を読解する。
授業目的・到達目標	・授業目的：政治哲学の研究を学修することを通じて、政治哲学の知識と研究方法を習得することができる。 ・到達目標：習得した知識と研究方法を自分自身の研究テーマに活かすことができる。 関連するDP・CP1, 2, 3, 6
履修条件	政治哲学に関する学部レベルの知識を習得し、かつ専門文献を支障なく読み込める英語読解力を身につけていること。
授業方法	毎回、受講者の報告、教員の講評、質疑応答・討議などを行う。

成績評価

種別	割合	評価方法
定期試験		
平常評価	100%	文献発表・積極的な授業参加を基準に、到達目標にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。

教科書

年	出版社	書名	著者名
2018	東信堂	『倫理学と法学の架橋―ファインバーグ論文選』	J・ファインバーグ

備考	受講生は事前に教科書を各自で入手し、初回授業時に持参すること。
参考書	適宜紹介・配付する。
オフィスアワー	水曜日昼休み　研究室（本館8階）　matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。（2時間）
	授業内容	**講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。**
	事後学習	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（2時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（2時間）
3	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（2時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（2時間）

4	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（２時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（２時間）
5	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（２時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（２時間）
6	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（２時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（２時間）
7	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（２時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（２時間）
8	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（２時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（２時間）
9	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（２時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（２時間）
10	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（２時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（２時間）
11	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（２時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（２時間）
12	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（２時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（２時間）
13	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（２時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（２時間）
14	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（２時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（２時間）
15	事前学習	輪読文献全体を振り返る。（２時間）
	授業内容	**これまでの授業内容を総括する。**
	事後学習	授業全体を振り返る。（２時間）

科目名	政治哲学特殊講義Ⅱ	担当者	松元　雅和	期間	後期	単位数	2

授業概要	本授業では、現代英米圏の政治哲学の先端的研究を学修する。具体的には、J・ファインバーグ『倫理学と法学の架橋―ファインバーグ論文選』（東信堂、2018年）を輪読するとともに、英米圏の指導的なジャーナルに掲載された論文を読解する。
授業目的・到達目標	・授業目的：政治哲学の研究を学修することを通じて、政治哲学の知識と研究方法を習得することができる。 ・到達目標：習得した知識と研究方法を自分自身の研究テーマに活かすことができる。 関連するDP・CP1, 2, 3, 6
履修条件	政治哲学に関する学部レベルの知識を習得し、かつ専門文献を支障なく読み込める英語読解力を身につけていること。
授業方法	毎回、受講者の報告、教員の講評、質疑応答・討議などを行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	文献発表・積極的な授業参加を基準に、到達目標にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	東信堂	『倫理学と法学の架橋―ファインバーグ論文選』	J・ファインバーグ
	備考	受講生は事前に教科書を各自で入手し、初回授業時に持参すること。		

参考書	適宜紹介・配付する。
オフィスアワー	水曜日昼休み　研究室（本館8階）　matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。（２時間）
	授業内容	**講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。**
	事後学習	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（２時間）
2	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（２時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（２時間）
3	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（２時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（２時間）

4	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（２時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（２時間）
5	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（２時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（２時間）
6	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（２時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（２時間）
7	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（２時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（２時間）
8	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（２時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（２時間）
9	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（２時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（２時間）
10	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（２時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（２時間）
11	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（２時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（２時間）
12	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（２時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（２時間）
13	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（２時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（２時間）
14	事前学習	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。（２時間）
	授業内容	**指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。**
	事後学習	指定文献を読み直す。（２時間）
15	事前学習	輪読文献全体を振り返る。（２時間）
	授業内容	**これまでの授業内容を総括する。**
	事後学習	授業全体を振り返る。（２時間）

科目名	政治思想史特殊講義Ⅰ	担当者	杉本　竜也	期間	前期	単位数	2

授業概要	本講義では、ジョン・ステュアート・ミルの思想の研究を通して、西洋政治思想の中核的な理論である自由主義（リベラリズム）や功利主義について学修する。
授業目的・到達目標	授業目的：19世紀を代表する哲学者であるジョン・ステュアート・ミルの著作を読み解くことを通して、自由主義（リベラリズム）や功利主義の思想内容にに関する深い理解を得ることを目的とする。 到達目標：ジョン・ステュアート・ミルの主要な著作である『自由論』および『功利主義』を材料として、自由主義（リベラリズム）や功利主義の特徴やその政治に対する影響を理解し、説明できるようになることを目標とする。 関連するDP・CP：1、3、8
履修条件	政治思想や政治哲学といった、政治に関する本質的な学修に対して、関心を持っていること。 講義では教材として基本的に翻訳を使用するが、適宜原書を参照するので、最低限の英語力を有していることが望ましい。
授業方法	ジョン・ステュアート・ミルの著作を材料として、受講者がレジュメを作成・報告する。教員による講評だけでなく、受講者間の議論も行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	講義内での報告や議論・発現の程度等を基準として、到達目標に関する能力が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2020	岩波書店（岩波文庫）	自由論	J. S. ミル
	2021	岩波書店（岩波文庫）	功利主義	J. S. ミル
	備考	安価かつ容易に原書を購入することができるため、できる限り入手しておくこと。		

参考書	関口正司『自由と陶冶　J. S. ミルとマス・デモクラシー』（みすず書房、2010年）〔購入する必要はない〕。
オフィスアワー	水曜日14:40-16:10　研究室（本館8階）　sugimoto.tatsuya○nihon-u.ac.jp（○はアットマークに置き換える。必ず事前にメール等で連絡する。）

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスに目を通し、授業概要や授業目的・到達目標、授業計画を確認する。（2時間）
	授業内容	**授業概要や授業の進め方、スケジュール、そして成績評価の方法について説明を行い、受講者が円滑に授業に入ることができるようする。**
	事後学習	あらためてシラバスの内容と共に、第1回授業の内容を再確認する。（2時間）
2	事前学習	西洋政治思想史や哲学史に関するテキスト等を参照して、19世紀西ヨーロッパの思想動向について概観しておく。（2時間）
	授業内容	**自由主義（リベラリズム）や功利主義を中心とした、19世紀の西ヨーロッパの思想動向について学修する。**
	事後学習	第2回授業内容を再確認する。（2時間）
3	事前学習	ジョン・ステュアート・ミルの生涯や思想概要について概観しておく。（2時間）
	授業内容	**自由主義や功利主義の文脈の中で、ジョン・ステュアート・ミルの生涯や思想内容について学修する。**
	事後学習	第3回授業内容を再確認する。

4	事前学習	『自由論』第1章「序論」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『自由論』第1章「序論」に関するレジュメ報告を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第4回授業内容を再確認する。（2時間）
5	事前学習	『自由論』第2章「思想と討論の自由」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『自由論』第2章「思想と討論の自由」に関するレジュメ報告を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第5回授業内容を再確認する。（2時間）
6	事前学習	『自由論』第3章「幸福の一要素としての個性について」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『自由論』第3章「幸福の一要素としての個性について」に関するレジュメ発表を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第6回授業内容を再確認する。（2時間）
7	事前学習	『自由論』第4章「個人に対する社会の権力の限界について」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『自由論』第4章「個人に対する社会の権力の限界について」に関するレジュメ発表を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第7回授業内容を再確認する。（2時間）
8	事前学習	『自由論』第5章「応用」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『自由論』第5章「応用」に関するレジュメ発表を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第8回授業内容を再確認する。（2時間）
9	事前学習	『功利主義』第1章「概論」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『功利主義』第1章「概論」に関するレジュメ発表を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第9回授業内容を再確認する。（2時間）
10	事前学習	『功利主義』第2章「功利主義とは何か」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『功利主義』第2章「功利主義とは何か」に関するレジュメ発表を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第10回授業内容を再確認する。（2時間）
11	事前学習	『功利主義』第3章「道徳的行為を導く動機づけについて」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『功利主義』第3章「道徳的行為を導く動機づけについて」に関するレジュメ発表を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第11回講義内容を再確認する。（2時間）
12	事前学習	『功利主義』第4章「効用の原理の証明について」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『功利主義』第4章「効用の原理の証明について」に関するレジュメ発表を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第12回講義内容を再確認する。（2時間）
13	事前学習	『功利主義』第5章「正義と効用の関係について」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『功利主義』第5章「正義と効用の関係について」に関するレジュメ発表を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第13回講義内容を再確認する。（2時間）
14	事前学習	『功利主義』附録一「自由と必然について」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『功利主義』附録一「自由と必然について」に関するレジュメ発表を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第14回講義を再確認する。（2時間）
15	事前学習	『功利主義』附録二「道徳と思慮を含む実践あるいは技術の論理学について」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『功利主義』附録二「道徳と思慮を含む実践あるいは技術の論理学について」に関するレジュメ発表を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第15回講義を再確認する。（2時間）

科目名	政治思想史特殊講義Ⅱ	担当者	杉本　竜也	期間	後期	単位数	2

授業概要	本講義では、ジョン・ステュアート・ミルの思想の研究を通して、西洋政治思想の中核的な理論である自由主義（リベラリズム）や功利主義について学修する。
授業目的・到達目標	授業目的：19世紀を代表する哲学者であるジョン・ステュアート・ミルの著作を読み解くことを通して、自由主義（リベラリズム）や功利主義の思想内容にに関する深い理解を得ることを目的とする。 到達目標：ジョン・ステュアート・ミルの主要な著作である『代議制統治論』を材料として、自由主義（リベラリズム）や功利主義の特徴やその政治に対する影響を理解し、説明できるようになることを目標とする。 関連するDP・CP：1、3、8
履修条件	政治思想や政治哲学といった、政治に関する本質的な学修に対して、関心を持っていること。 講義では教材として基本的に翻訳を使用するが、適宜原書を参照するので、最低限の英語力を有していることが望ましい。
授業方法	ジョン・ステュアート・ミルの著作を材料として、受講者がレジュメを作成・報告する。教員による講評だけでなく、受講者間の議論も行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	講義内での報告や議論・発現の程度等を基準として、到達目標に関する能力が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	岩波書店（岩波文庫）	代議制統治論	J. S. ミル
	備考	安価かつ容易に原書を購入することができるため、できる限り入手しておくこと。		

参 考 書	関口正司『自由と陶冶　J. S. ミルとマス・デモクラシー』（みすず書房、2010年）〔購入する必要はない〕。
オフィスアワー	水曜日14:40-16:10　研究室（本館8階）　sugimoto.tatsuya○nihon-u.ac.jp（○はアットマークに置き換える。必ず事前にメール等で連絡する。）

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	『代議制統治論』第1章「統治形態はどの程度まで選択の問題か」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『代議制統治論』第1章「統治形態はどの程度まで選択の問題か」に関するレジュメ報告を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第1回授業内容を再確認する。（2時間）
2	事前学習	『代議制統治論』第2章「よい統治形態の基準」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『代議制統治論』第2章「よい統治形態の基準」に関するレジュメ報告を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第2回授業内容を再確認する。（2時間）
3	事前学習	『代議制統治論』第3章「理想の上で最善の統治形態は代議制統治である」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『代議制統治論』第3章「理想の上で最善の統治形態は代議制統治である」に関するレジュメ報告を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第3回授業内容を再確認する。

4	事前学習	『代議制統治論』第4章「どんな社会条件では代議制統治は適用できないか」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『代議制統治論』第4章「どんな社会条件では代議制統治は適用できないか」に関するレジュメ報告を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第4回授業内容を再確認する。（2時間）
5	事前学習	『代議制統治論』第5章「代表機関の本来の役割について」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『代議制統治論』第5章「代表機関の本来の役割について」に関するレジュメ報告を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第5回授業内容を再確認する。（2時間）
6	事前学習	『代議制統治論』第6章「代議制統治が陥りやすい欠陥や危険について」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『代議制統治論』第6章「代議制統治が陥りやすい欠陥や危険について」に関するレジュメ発表を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第6回授業内容を再確認する。（2時間）
7	事前学習	『代議制統治論』第7章「真の民主政と偽の民主政について」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『代議制統治論』第7章「真の民主政と偽の民主政について」に関するレジュメ発表を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第7回授業内容を再確認する。（2時間）
8	事前学習	『代議制統治論』第8章「選挙人資格の拡大について」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**代議制統治論』第8章「選挙人資格の拡大について」に関するレジュメ発表を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第8回授業内容を再確認する。（2時間）
9	事前学習	『代議制統治論』第9章「二段階選挙は必要か」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『代議制統治論』第9章「二段階選挙は必要か」に関するレジュメ発表を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第9回授業内容を再確認する。（2時間）
10	事前学習	『代議制統治論』第10章「投票方式について」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『代議制統治論』第10章「投票方式について」に関するレジュメ発表を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第10回授業内容を再確認する。（2時間）
11	事前学習	『代議制統治論』第11章「議員の任期について」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『代議制統治論』第11章「議員の任期について」に関するレジュメ発表を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第11回講義内容を再確認する。（2時間）
12	事前学習	『代議制統治論』第13章「第二院について」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『代議制統治論』第13章「第二院について」に関するレジュメ発表を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第12回講義内容を再確認する。（2時間）
13	事前学習	『代議制統治論』第14章「代議制統治体制の執行部について」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『代議制統治論』第14章「代議制統治体制の執行部について」に関するレジュメ発表を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第13回講義内容を再確認する。（2時間）
14	事前学習	『代議制統治論』第15章「地方の代表機関について」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『代議制統治論』第15章「地方の代表機関について」に関するレジュメ発表を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第14回講義を再確認する。（2時間）
15	事前学習	『代議制統治論』第16章「国民的一体性と代議制統治との関連」を読み、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	**『代議制統治論』第16章「国民的一体性と代議制統治との関連」に関するレジュメ発表を行い、それに関して議論を行う。**
	事後学習	第15回講義を再確認する。（2時間）

科目名	日本政治史特殊講義Ⅰ	担当者	浅野　一弘	期間	前期	単位数	2

授業概要	日米関係に着目し、戦後日本政治史の変容を検討する。 日米関係におけるトピックをより深くほりさげる過程で、日本の内政に関連する事象も数多く登場するので、それらを整理しつつ、体系的に学修をすすめていく。
授業目的・到達目標	豊かな教養の修得を目的に、政党、利益集団といった政治的アクターの動向にも留意しつつ、戦後日本政治史の流れをおさえることで、いまの日本政治がかかえる課題についても学修する。 　こうした作業をつうじて、日本政治史を論理的・批判的にみる力をやしなえるだけでなく、自己を謙虚にみつめなおす省察力をも涵養することにつながろう。 【関連するＤＰ・ＣＰ：政治学専攻１、３、８】
履修条件	「日本政治史特殊講義Ⅱ」とあわせて受講することがのぞましい。
授業方法	授業の形態は、あくまでも、講義形式を基本とするが、機会をみつけては、ディスカッションの要素をとり入れる。 なお、教科書は毎時間使用するので、かならず持参すること。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	20%	レポート課題の内容によって、評価する。
	平常評価	80%	講義内容に関する疑問点の解消に努める質問等の積極的姿勢やディスカッション時の発言内容などを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	２０２２年	同文舘出版	『日米首脳会談と戦後政治』 （※ソフトカバーのものを使用するので、注意すること）	浅野一弘
	備考	教科書は毎時間使用するので、かならず持参すること。		

参考書	藤本一美・浅野一弘『日米首脳会談と政治過程－１９５１年～１９８３年－』（龍溪書舎、１９９４年）
オフィスアワー	水曜日・お昼休み（休暇中をのぞく）に実施する。希望者は９号館２階の９２０３研究室までくること。

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**戦後政治史のなかの政権とリーダーシップ**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】
2	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**戦後政治史のなかの日米関係**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】
3	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**吉田茂の思想と行動－戦後政治史のなかの吉田政権－**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】

4	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**吉田茂の考えた日米関係－戦後政治史のなかの吉田政権－**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】
5	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**戦後政治史のなかの吉田政権の意味**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】
6	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**岸信介の思想と行動－戦後政治史のなかの岸政権－**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】
7	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**岸信介の考えた日米関係－戦後政治史のなかの岸政権－**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】
8	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**戦後政治史のなかの岸政権の意味**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】
9	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**佐藤栄作の思想と行動－戦後政治史のなかの佐藤政権－**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】
10	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**佐藤栄作の考えた日米関係（対リンドン・ジョンソン政権）－戦後政治史のなかの佐藤政権－**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】
11	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、当該首脳会談を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**佐藤栄作の考えた日米関係（対リチャード・ニクソン政権）－戦後政治史のなかの佐藤政権－**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。　可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】
12	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**戦後政治史のなかの佐藤政権の意味**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】
13	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**三木武夫の思想と行動－戦後政治史のなかの三木政権－**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】
14	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**三木武夫の考えた日米関係－戦後政治史のなかの三木政権－**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】

15	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**戦後政治史のなかの三木政権の意味**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】

科目名	日本政治史特殊講義Ⅰ	担当者	中静　未知	期間	前期	単位数	2

授業概要	近現代日本の政治・国家・社会の歴史に関わる文献を講読する。文献の要約や論題に関する討議を通じて、歴史的な知識と理解を深めるとともに、専門書の読解力や論理的思考など学問研究に必要な能力を修得する。 ※授業計画に示した論題は【例示】です（「歴史問題」として現在も議論のある事項等を示しました）。 　実際に扱う論題は、受講者の専攻・関心・希望等を考慮して決定します。
授業目的・到達目標	・政治研究の基礎教養として、近現代日本の政治・国家・社会の歴史的事実に関する知識と理解を得る。 ・研究に不可欠な能力として、専門書・研究書の読解力を高めるとともに、学問研究という営為の作法を学ぶ。 ・事実（社会的事象）に対する客観的な捉え方と論理的な思考法を修得し、客観的・論理的な説明ができるようになる。 関連するDP・CP：政治学専攻1,3,8
履修条件	日本の近現代史に関心があれば専攻は問いませんが、文献読解の訓練を受ける覚悟はしてください。 受講者の専攻・関心・能力と当方の専門性をすりあわせて、意味ある学びの場を設定するつもりです。
授業方法	近現代日本政治史の専門的文献を教材とし、受講者の発表（文献の論旨要約、論点提示等）と検討、論題に関する解説・討議等を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	読解力や内容の理解度、発表や討議の質を通じて、到達目標に関わる能力の修得度を総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	開講時に相談の上で決める。		

参考書	開講後、取りあげる論題に即した文献を紹介する。
オフィスアワー	水曜昼休み(12:10-12:50)：事前にメール等で予約して下さい。 研究室（9号館4階405号）nakashizuka.michi@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	自分の関心事、本講で考えたい論題や時代、解読解説つきで読みたい文献等につき、考えをまとめてくる（60分）
	授業内容	**授業案内、論題の設定・関係文献の紹介、授業の進め方の設定など**
	事後学習	選定した論題に関する文献を自分でも探してみる（文献検索の実践）（180分）
2	事前学習	テキストに相当する文献に何を選ぶか考えをまとめてくる（60分）
	授業内容	**テキスト決定** **歴史の見方について（講義）**
	事後学習	歴史的事実に対する学問的な捉え方の認識を新たにして、自分が持つ歴史的知識やその見方の検証をする（180分）
3	事前学習	選定したテキストを読み、論題に関する知識を仕入れる（180分）
	授業内容	**論題例①　日本国憲法** **制定経緯、占領期の政治状況など基本的な史実の概説→質疑応答**
	事後学習	不明な点や理解不足について自覚し、調べるなどして知識と理解を補う（60分）

4	事前学習	テキストに基づく発表①Ａの準備（読解・要約、論点抽出、レジュメ作成など）（210分）
	授業内容	**テキストに基づく発表→読解指導、論点の修正・補充、論点に関連する知見や文献紹介など**
	事後学習	読解と発表の反省（不足点や誤りなどを自覚し、方法を学ぶ）（30分）
5	事前学習	テキストに基づく発表①Ｂの準備（読解・要約、論点抽出、レジュメ作成など）（210分）
	授業内容	**テキストに基づく発表→読解指導、論点の修正・補充、論点に関連する知見や文献紹介など 論題②に関する文献選定**
	事後学習	読解と発表の反省（不足点や誤りなどを自覚し、方法を学ぶ）（30分）
6	事前学習	読解と発表で抽出された論点について考えをまとめる（適宜他の文献等も参照する）（180分）
	授業内容	**論題・論点に関する討議 〔論題例①の想定論点〕明治憲法との比較（政治権力構造の相違）／立憲主義と国家権力／改憲案の検討など**
	事後学習	討議の内容を含めて論題に関する認識と理解を深める（60分）
7	事前学習	選定したテキストを読み、論題に関する知識を仕入れる（180分）
	授業内容	**論題例②　靖国問題 靖国神社に関する基本的な史実（発祥～終戦／戦後／Ａ級戦犯合祀等）の概説→質疑応答**
	事後学習	不明な点や理解不足について自覚し、調べるなどして知識と理解を補う（60分）
8	事前学習	テキストに基づく発表②Ａの準備（読解・要約、論点抽出、レジュメ作成など）（210分）
	授業内容	**テキストに基づく発表→読解指導、論点の修正・補充、論点に関連する知見や文献紹介など**
	事後学習	読解と発表の反省（不足点や誤りなどを自覚し、方法を学ぶ）（30分）
9	事前学習	テキストに基づく発表②Ｂの準備（読解・要約、論点抽出、レジュメ作成など）（210分）
	授業内容	**テキストに基づく発表→読解指導、論点の修正・補充、論点に関連する知見や文献紹介など 論題③に関する文献選定**
	事後学習	読解と発表の反省（不足点や誤りなどを自覚し、方法を学ぶ）（30分）
10	事前学習	読解と発表で抽出された論点について考えをまとめる（適宜他の文献等も参照する）（180分）
	授業内容	**論題・論点に関する討議 〔論題例②の想定論点〕靖国参拝が持つ意味（慰霊と顕彰、信教の自由、政治的な含意・効果）など**
	事後学習	討議の内容を含めて論題に関する認識と理解を深める（60分）
11	事前学習	選定したテキストを読み、論題に関する知識を仕入れる（180分）
	授業内容	**論題例③　戦争 開戦の経緯と状況など基本的な史実の概説→質疑応答**
	事後学習	不明な点や理解不足について自覚し、調べるなどして知識と理解を補う（60分）
12	事前学習	テキストに基づく発表③Ａの準備（読解・要約、論点抽出、レジュメ作成など）（210分）
	授業内容	**テキストに基づく発表→読解指導、論点の修正・補充、論点に関連する知見や文献紹介など**
	事後学習	読解と発表の反省（不足点や誤りなどを自覚し、方法を学ぶ）（30分）
13	事前学習	テキストに基づく発表③Ｂの準備（読解・要約、論点抽出、レジュメ作成など）（210分）
	授業内容	**テキストに基づく発表→読解指導、論点の修正・補充、論点に関連する知見や文献紹介など 論題④に関する文献選定**
	事後学習	読解と発表の反省（不足点や誤りなどを自覚し、方法を学ぶ）（30分）
14	事前学習	読解と発表で抽出された論点について考えをまとめる（適宜他の文献等も参照する）（180分）
	授業内容	**論題・論点に関する討議 〔論題例③の想定論点〕開戦原因／戦争のルール／戦争犯罪と戦争責任／南京事件／ポツダム宣言と東京裁判など**
	事後学習	討議の内容を含めて論題に関する認識と理解を深める（60分）
15	事前学習	授業内容を振り返り、疑問点・補足事項などを考えてくる（120分）
	授業内容	**総括・補足説明等**
	事後学習	とりあげた論題や討議に表れた問題等につき、他の文献を読むなどして理解を深める（120分）

科目名	日本政治史特殊講義Ⅱ	担当者	浅野　一弘	期間	後期	単位数	2

授業概要	橋本龍太郎から野田佳彦までの政権を対象とし、戦後日本政治史の変容を検討する。 内閣総理大臣のリーダーシップというトピックをより深くほりさげる過程で、日本の内政・外交に関連する事象も数多く登場するので、それらを整理しつつ、体系的に学修をすすめていく。
授業目的・到達目標	豊かな教養の修得を目的に、政党、利益集団といった政治的アクターの動向にも留意しつつ、戦後日本政治史の流れをおさえることで、いまの日本政治がかかえる課題についても学修する。 こうした作業をつうじて、日本政治史を論理的・批判的にみる力をやしなえるだけでなく、自己を謙虚にみつめなおす省察力をも涵養することにつながろう。 【関連するＤＰ・ＣＰ：政治学専攻１、３、８】
履修条件	「日本政治史特殊講義Ⅰ」とあわせて受講することがのぞましい。
授業方法	授業の形態は、あくまでも、講義形式を基本とするが、機会をみつけては、ディスカッションの要素をとり入れる。 なお、教科書は毎時間使用するので、かならず持参すること。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	20%	レポート課題の内容によって、評価する。
	平常評価	80%	講義内容に関する疑問点の解消に努める質問等の積極的姿勢やディスカッション時の発言内容などを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	２０１２年	龍溪書舎	『現代日本宰相論－１９９６年～２０１１年の日本政治－』	藤本一美編
	備考	教科書は毎時間使用するので、かならず持参すること。		

参考書	浅野一弘『日米首脳会談と「現代政治」』（同文舘出版、２０００年）をあげておく。
オフィスアワー	水曜日・お昼休み（休暇中をのぞく）に実施する。希望者は９号館２階の９２０３研究室までくること。

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**内閣総理大臣とリーダーシップの意味**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】
2	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**内閣総理大臣のリーダーシップの類型化**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】
3	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**内閣総理大臣の権限**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】

4	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**橋本龍太郎内閣**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】
5	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**小渕恵三内閣**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】
6	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**森喜朗内閣**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】
7	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**小泉純一郎内閣**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】
8	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**安倍晋三内閣**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】
9	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**福田康夫内閣**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】
10	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**麻生太郎内閣**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】
11	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、当該首脳会談を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**鳩山由紀夫内閣**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】
12	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**菅直人内閣**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】
13	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**野田佳彦内閣**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】
14	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**自民党政権と民主党政権との比較**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】

15	事前学習	教科書の該当箇所を精読し、授業内容を考察するうえで必要な戦後日本政治史の基礎的知識をおさえておく。【１２０分】
	授業内容	**内閣総理大臣の職務権限の範囲**
	事後学習	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。【１２０分】

科目名	日本政治史特殊講義Ⅱ	担当者	中静　未知	期間	後期	単位数	2

授業概要	近現代日本の政治・国家・社会の歴史に関わる文献を講読する。文献の要約や論題に関する討議を通じて、歴史的な知識と理解を深めるとともに、専門書の読解力や論理的思考など学問研究に必要な能力を修得する。 ※授業計画に示した論題は【例示】です（「歴史問題」として現在も議論のある事項等を示しました）。 　実際に扱う論題は、受講者の専攻・関心・希望等を考慮して決定します。
授業目的・到達目標	・政治研究の基礎教養として、近現代日本の政治・国家・社会の歴史的事実に関する知識と理解を得る。 ・研究に不可欠な能力として、専門書・研究書の読解力を高めるとともに、学問研究という営為の作法を学ぶ。 ・事実（社会的事象）に対する客観的な捉え方と論理的な思考法を修得し、客観的・論理的な説明ができるようになる。 関連するDP・CP：政治学専攻1,3,8
履修条件	日本の近現代史に関心があれば専攻は問いませんが、文献読解の訓練を受ける覚悟はしてください。 受講者の専攻・関心・能力と当方の専門性をすりあわせて、意味ある学びの場を設定するつもりです。
授業方法	近現代日本政治史の専門的文献を教材とし、受講者の発表（文献の論旨要約、論点提示等）と検討、論題に関する解説・討議等を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	読解力や内容の理解度、発表や討議の質を通じて、到達目標に関わる能力の修得度を総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	開講時に相談の上で決める。		

参 考 書	開講後、取りあげる論題に即した文献を紹介する。
オフィスアワー	水曜昼休み(12:10-12:50)：事前にメール等で予約して下さい。 研究室（9号館4階405号）nakashizuka.michi@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	自分の関心事、本講で考えたい論題や時代、解読解説つきで読みたい文献等につき、考えをまとめてくる（60分）
	授業内容	**授業案内、論題の設定・関係文献の紹介、授業の進め方の設定など**
	事後学習	選定した論題に関する文献を自分でも探してみる（文献検索の実践）（180分）
2	事前学習	テキストに相当する文献に何を選ぶか考えをまとめてくる（60分）
	授業内容	**テキスト決定** **歴史の見方について（講義）**
	事後学習	歴史的事実に対する学問的な捉え方の認識を新たにして、自分が持つ歴史的知識やその見方の検証をする（180分）
3	事前学習	選定したテキストを読み、論題に関する知識を仕入れる（180分）
	授業内容	**論題例①　植民地・占領地** **日本の植民地獲得の経緯／植民地･占領地の統治機構・施策例・実態など基本的な史実の概説→質疑応答**
	事後学習	不明な点や理解不足について自覚し、調べるなどして知識と理解を補う（60分）

4	事前学習	テキストに基づく発表①Aの準備（読解・要約、論点抽出、レジュメ作成など）（210分）
	授業内容	**テキストに基づく発表→読解指導、論点の修正・補充、論点に関連する知見や文献紹介など**
	事後学習	読解と発表の反省（不足点や誤りなどを自覚し、方法を学ぶ）（30分）
5	事前学習	テキストに基づく発表①Bの準備（読解・要約、論点抽出、レジュメ作成など）（210分）
	授業内容	**テキストに基づく発表→読解指導、論点の修正・補充、論点に関連する知見や文献紹介など 論題②に関する文献選定**
	事後学習	読解と発表の反省（不足点や誤りなどを自覚し、方法を学ぶ）（30分）
6	事前学習	読解と発表で抽出された論点について考えをまとめる（適宜他の文献等も参照する）（180分）
	授業内容	**論題・論点に関する討議 〔論題例①の想定論点〕日本の植民地統治・他国との比較／植民地保有の得失など**
	事後学習	討議の内容を含めて論題に関する認識と理解を深める（60分）
7	事前学習	選定したテキストを読み、論題に関する知識を仕入れる（180分）
	授業内容	**論題例②　在日外国人、日本人、在外日本人 植民地統治の影響、植民解除後の措置・処遇／移民政策など基本的な史実の概説→質疑応答**
	事後学習	不明な点や理解不足について自覚し、調べるなどして知識と理解を補う（60分）
8	事前学習	テキストに基づく発表②Aの準備（読解・要約、論点抽出、レジュメ作成など）（210分）
	授業内容	**テキストに基づく発表→読解指導、論点の修正・補充、論点に関連する知見や文献紹介など**
	事後学習	読解と発表の反省（不足点や誤りなどを自覚し、方法を学ぶ）（30分）
9	事前学習	テキストに基づく発表②Bの準備（読解・要約、論点抽出、レジュメ作成など）（210分）
	授業内容	**テキストに基づく発表→読解指導、論点の修正・補充、論点に関連する知見や文献紹介など 論題③に関する文献選定**
	事後学習	読解と発表の反省（不足点や誤りなどを自覚し、方法を学ぶ）（30分）
10	事前学習	読解と発表で抽出された論点について考えをまとめる（適宜他の文献等も参照する）（180分）
	授業内容	**論題・論点に関する討議 〔論題例②の想定論点〕同化政策・「強制」動員・帰国運動／国家と民族、多民族国家／旧植民地-宗主国の関係など**
	事後学習	討議の内容を含めて論題に関する認識と理解を深める（60分）
11	事前学習	選定したテキストを読み、論題に関する知識を仕入れる（180分）
	授業内容	**論題例③　社会保障、国民の権利と人権 日本における社会保障・権利と人権の歴史の概説→質疑応答**
	事後学習	不明な点や理解不足について自覚し、調べるなどして知識と理解を補う（60分）
12	事前学習	テキストに基づく発表③Aの準備（読解・要約、論点抽出、レジュメ作成など）（210分）
	授業内容	**テキストに基づく発表→読解指導、論点の修正・補充、論点に関連する知見や文献紹介など**
	事後学習	読解と発表の反省（不足点や誤りなどを自覚し、方法を学ぶ）（30分）
13	事前学習	テキストに基づく発表③Bの準備（読解・要約、論点抽出、レジュメ作成など）（210分）
	授業内容	**テキストに基づく発表→読解指導、論点の修正・補充、論点に関連する知見や文献紹介など 論題④に関する文献選定**
	事後学習	読解と発表の反省（不足点や誤りなどを自覚し、方法を学ぶ）（30分）
14	事前学習	読解と発表で抽出された論点について考えをまとめる（適宜他の文献等も参照する）（180分）
	授業内容	**論題・論点に関する討議 〔論題例③の想定論点〕日本的社会保障（世帯・家族／企業福利／個人）／他国比較／福祉国家の理念など**
	事後学習	討議の内容を含めて論題に関する認識と理解を深める（60分）
15	事前学習	授業内容を振り返り、疑問点・補足事項などを考えてくる（120分）
	授業内容	**総括・補足説明等**
	事後学習	とりあげた論題や討議に表れた問題等につき、他の文献を読むなどして理解を深める（120分）

科目名	西洋政治史特殊講義Ⅰ	担当者	渡邉容一郎	期間	前期	単位数	2

授業概要	本年度は「政治思想から見たイギリス政治史」を年間統一テーマに設定し、近現代イギリス政治史と政治思想との関連について、より専門的に考察する。
授業目的・到達目標	政治思想の面から近現代イギリス政治史を学修することにより、イギリス政治の本質について深い理解を得ること、そしてそこから現代日本政治のあり方に関する思考力や洞察力を身につけていくことを目的としている。 本特殊講義では、イギリス政治史に政治思想がどのように影響をおよぼしてきたかを理解し、その背景や政治史的意義について論理的に説明できるようになることを目指すとともに、現代日本政治の課題も指摘できるようにする。 関連するDP・CP　政治学専攻１，２，３，４，６，８
履修条件	特になし。
授業方法	板書を用いた講義形式で行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	第15回目の授業終了時に実施する授業内試験により、[到達目標]に関わる基礎知識や思考力が身についているかを確認する。授業内試験の詳細は初回の授業で指示する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2022	晃洋書房	西洋政治史	渡邉　容一郎
	備考			

参考書	授業の中で適宜紹介する。
オフィスアワー	火曜日　14:40～16:10 9号館2階　9207研究室 watanabe.yoichiro@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを用意するとともに、大学院で西洋政治史を学ぶ意味を自分なりに考えたうえで、それを教員にわかりやすく簡潔に説明できるようにしておく。 ＜60分＞
	授業内容	**授業全体のガイダンス、西洋政治史の研究方法(1)、イギリス政治史研究と政治思想(1)**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜180分＞
2	事前学習	中世身分制議会の特徴をノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**イギリス議会の成立と法の支配**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞
3	事前学習	宗教改革の特徴と意義をノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**イギリス宗教改革の政治思想とその影響**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞

4	事前学習	絶対王政の特徴と意義をノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**イギリス絶対王政の政治思想とその影響**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞
5	事前学習	代表的な近代政治思想についてノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**近代の政治思想とその影響**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞
6	事前学習	清教徒革命の経緯をノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**清教徒革命とホッブズ**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞
7	事前学習	清教徒革命の特徴と意義をノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**議会派の政治思想とその影響**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞
8	事前学習	代表的な近代自然法思想についてノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**近代自然法思想とその影響**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞
9	事前学習	名誉革命の経緯についてノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**名誉革命とロック**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞
10	事前学習	名誉革命の特徴と意義をノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**教会と国家**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞
11	事前学習	18世紀前半の流れをノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**ウォルポール対ボリングブルック**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞
12	事前学習	18世紀後半の流れをノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**イギリス急進主義の政治思想とその影響**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞
13	事前学習	フランス革命の経緯をノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**フランス革命とペイン**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞
14	事前学習	フランス革命の特徴と意義をノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**フランス革命とバーク**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞
15	事前学習	これまで学んだ内容を振り返るとともに、授業ノートや参考文献などを復習して授業内試験の準備を行う。＜210分＞
	授業内容	**フランス革命とロマン主義、授業内試験(60分)、授業内試験に関するフィードバック(採点と添削を伴う答案返却指導)**
	事後学習	返却指導された答案を各自復習し、評価された点や反省点をそれぞれ自分の修士論文作成に反映できるようにする。＜30分＞

科目名	西洋政治史特殊講義Ⅱ	担当者	渡邉容一郎	期間	後期	単位数	2

授業概要	年間統一テーマ「政治思想から見たイギリス政治史」に基づき、近現代イギリス政治史と政治思想との関連について、より専門的に考察する。
授業目的・到達目標	前期同様、政治思想の面から近現代イギリス政治史を学修することにより、イギリス政治の本質について深い理解を得ること、そしてそこから現代日本政治のあり方に関する思考力や洞察力を身につけていくことを目的としている。 本特殊講義では、イギリス政治史に政治思想がどのように影響をおよぼしてきたかを理解し、その背景や政治史的意義について論理的に説明できるようになることを目指すとともに、現代日本政治の課題も指摘できるようにする。 関連するDP・CP　政治学専攻１，２，３，４，６，８
履修条件	特になし。
授業方法	板書を用いた講義形式で行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	第15回目の授業終了時に実施する授業内試験により、[到達目標]に関わる基礎知識や思考力が身についているかを確認する。授業内試験の詳細は初回の授業で指示する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2022	晃洋書房	西洋政治史	渡邉　容一郎
	備考			

参考書	授業の中で適宜紹介する。
オフィスアワー	火曜日　14:40～16:10 9号館2階　9207研究室 watanabe.yoichiro@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを用意するとともに、大学院で西洋政治史を学ぶ意味を自分なりに考えたうえで、それを教員にわかりやすく簡潔に説明できるようにしておく。 ＜60分＞
	授業内容	**授業全体のガイダンス、西洋政治史の研究方法(2)、イギリス政治史研究と政治思想(2)**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜180分＞
2	事前学習	19世紀前半の流れをノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**工業化と民主化の政治思想**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞
3	事前学習	産業革命の特徴と意義をノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**功利主義(ベンサム)の政治史的意義**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞

4	事前学習	代表的な初期社会主義思想についてノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**功利主義(J.S.ミル)の政治史的意義**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞
5	事前学習	進化論の特徴をノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**進化論の政治史的意義**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞
6	事前学習	議院内閣制の特徴をノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**バジョットのイギリス憲政論**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞
7	事前学習	19世紀後半の流れをノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**イギリス理想主義哲学の政治史的意義**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞
8	事前学習	協同主義の特徴をノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**協同主義の政治史的意義**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞
9	事前学習	マルクス主義の特徴をノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**マルクス主義とキリスト教社会主義**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞
10	事前学習	20世紀前半の流れをノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**労働党の誕生とイギリス社会主義**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞
11	事前学習	イギリス保守主義の特徴をノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**イギリス保守主義の理論化とその背景**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞
12	事前学習	1930年代の流れをノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**全体主義の政治思想とその影響**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞
13	事前学習	第二次世界大戦後の流れをノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**戦後福祉国家の政治思想とその影響**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞
14	事前学習	新自由主義の特徴をノートに整理しておく。＜120分＞
	授業内容	**サッチャリズムの政治思想とその影響**
	事後学習	各自授業ノートを復習し、今回のテーマの要点をまとめておく。＜120分＞
15	事前学習	これまで学んだ内容を振り返るとともに、授業ノートや参考文献などを復習して授業内試験の準備を行う。＜210分＞
	授業内容	**ニューレーバーの政治思想とその影響、授業内試験(60分)、授業内試験に関するフィードバック(採点と添削を伴う答案返却指導)**
	事後学習	返却指導された答案を各自復習し、評価された点や反省点をそれぞれ自分の修士論文作成に反映できるようにする。＜30分＞

科目名	国際政治学特殊講義Ⅰ	担当者	信夫　隆司	期間	前期	単位数	2

授業概要	本講義では、日本国内で罪を犯した米兵に対する刑事裁判権という問題を中心として、地位協定における刑事裁判権条項について他国と比較しながら、戦後の日米関係および国際政治の流れについて学修する。
授業目的・到達目標	戦後の日本外交を中心にすえながら、戦後の国際政治の全体像を理解できるようにすることを授業の目的とする。たんに事実関係を追うだけではなく、この授業で取り上げる出来事が、日本の外交および国際政治全体のなかで、どのような意味をもっていたのか、また、それが他の出来事にどのように影響を及ぼしたのかを理解し説明できるようになることを到達目標とする。 関連するDP・CP政治学専攻１，２，３，６
履修条件	なし。
授業方法	配布資料を用いて、院生がレポートを作成・発表し、議論する授業方法である。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	事前の学習、講義における発表、講義における討論への積極的参加等を総合的に判断する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2021	みすず書房	米兵はなぜ裁かれないのか	信夫隆司
	備考			

参考書	授業時に、適宜、紹介する。
オフィスアワー	授業の前後に授業講堂。shinobu.takashi○nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスをよく読み、講義内容を理解する。（１２０分）
	授業内容	**ガイダンス：シラバスについて説明し、必要な資料を配付する。**
	事後学習	前期の全般的な授業内容を理解する。（１２０分）
2	事前学習	地位協定とはいかなるものかをまとめる。（１２０分）
	授業内容	**ベルリンの壁vs地位協定の壁、冷戦終焉と米軍、刑事裁判権とは何かについて学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（１２０分）
3	事前学習	地位協定の運用改善、および、アメリカが米兵を守るために築いた砦とはなにかをまとめる。（１５０分）
	授業内容	**米軍の現状、地位協定の原理、地位協定の運用改善状況、アメリカが米兵を守るために築いた砦とは何かについて学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（９０分）

4	事前学習	１９９５年に沖縄で起きた米兵による少女暴行事件とはなにか、身柄引き渡しに関する地位協定の規定はどのようになっているかを調べる。（１５０分）
	授業内容	**身柄引き渡しに関し、地位協定の運用がどのように改善されたのかを学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（９０分）
5	事前学習	軍属の公務犯罪は日米いずれで処罰できるのかを調べる。（１５０分）
	授業内容	**地位協定上、軍属の公務犯罪は日米いずれが処罰できるのか、この問題の運用の改善点を学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（９０分）
6	事前学習	軍属の範囲の見直しについて調べる。（１２０分）
	授業内容	**軍属とはなにか、運用の改善で軍属の範囲はどのようになったのかを学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（１２０分）
7	事前学習	アメリカ側による処分結果の通報制度について調べる。（１２０分）
	授業内容	**米兵が罪を犯し、アメリカ側が裁判権を有する場合、処分結果をどのように日本側に通報するのかを学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（１２０分）
8	事前学習	なぜ公務犯罪がアメリカ側の第一次裁判権の対象となったのかを調べる。（１２０分）
	授業内容	**アメリカの連邦最高裁の判決にさかのぼって、公務犯罪について学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（１２０分）
9	事前学習	ＮＡＴＯ軍地位協定交渉における公務犯罪の扱いを調べる。（１５０分）
	授業内容	**ＮＡＴＯ軍地位協定交渉における公務犯罪の扱いについて学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（９０分）
10	事前学習	ジラード事件および伊江島事件について調べる。（１２０分）
	授業内容	**ジラード事件および伊江島事件における公務犯罪の問題について学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（１２０分）
11	事前学習	日米行政協定第１７条改正時の日本側代表による一方的陳述について調べる。（１２０分）
	授業内容	**日米間の裁判権放棄密約とはいかなるものかを学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（１２０分）
12	事前学習	オランダ方式およびドイツ方式といわれる裁判権放棄方式とはいかなるものかを調べる。（１５０分）
	授業内容	**オランダ方式およびドイツ方式といわれる裁判権放棄方式について学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（９０分）
13	事前学習	日米が交わしたとされる拘禁権密約とはいかなるものかを調べる。（１５０分）
	授業内容	**日米が交わした拘禁権密約とはなにかを学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（９０分）
14	事前学習	現在の日米地位協定の刑事裁判権条項をどのように変えるべきかを考察する。（１５０分）
	授業内容	**刑事裁判権放棄密約、拘禁の問題等を中心に、日米地位協定の改善点を学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（９０分）
15	事前学習	日米地位協定の問題点をまとめる。（９０分）
	授業内容	**他国の軍隊が駐留するとどのような問題が生じるかを学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（１５０分）

科目名	国際政治学特殊講義Ⅰ	担当者	山本　直	期間	前期	単位数	2

授業概要	国際政治学の古典的な著作を講読することを通じて、近現代の国際政治を多面的に把握および理解するための素地を養う。
授業目的・到達目標	国際政治の理論に基づき、近現代の国際政治で観察される事象を多面的に考察し説明することができる。 関連するDP・CP（政治学専攻）1,2,3,6
履修条件	授業に積極的に参加する姿勢が求められる。
授業方法	下記の教科書の内容を履修者が報告する。報告の内容に従い議論する。

成績評価

種別	割合	評価方法
定期試験		
平常評価	100%	報告50%、議論への参加50%

教科書

年	出版社	書名	著者名
2020	勁草書房	国際レジーム	スティーヴン・D・クラズナー

備考	
参考書	モーゲンソー（原彬久訳）『国際政治－権力と平和－』上・中・下、岩波書店、2013年. 信夫隆司『国際政治理論の系譜』信山社、2004年.その他授業で紹介する。
オフィスアワー	水曜昼休み。4号館415研究室にて。他の曜日・時限も調整できます。事前にアポイントをとってください。 yamamoto.tadashi15@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	教科書を購入しざっと目を通す。（２時間）
	授業内容	**授業の進め方を説明する。**
	事後学習	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
2	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**構造的要因とレジームの結果について学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
3	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**レジームと言葉について学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）

4	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**帰納的分析の教訓について学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
5	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**レジームのダイナミクスについて学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
6	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**アナーキーな世界におけるレジームの態様について学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
7	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**国際レジームに対する需要について学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
8	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**安全保障レジームについて学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
9	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**戦後経済秩序における埋め込まれた自由主義について学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
10	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**レジーム変化の源泉と効果について学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
11	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**レジームのダイナミクスと機能について学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
12	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**レジームの進化について学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
13	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**レジーム分析への批判について学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
14	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**レジームとリアリズムの限界について学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
15	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**これまでの授業の内容をまとめて整理する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）

科目名	国際政治学特殊講義Ⅱ	担当者	信夫　隆司	期間	後期	単位数	2

授業概要	本講義では、戦後国際政治の基調をなした冷戦およびその崩壊を中心として、戦後国際政治のおおきな流れを理解しながら、冷戦および冷戦崩壊という国際変動に、日本外交がどのように対応してきたのかを学修する。
授業目的・到達目標	戦後国際政治の基調および日本外交を中心にすえながら、戦後の国際政治の全体像を理解できるようにすると共に、国際政治の変動のなかで日本外交がどのように対応してきたのかを理解することを授業の目的とする。たんに事実関係を追うだけではなく、可能なかぎり映像資料を用い、この授業で取り上げる出来事が、日本の外交および国際政治全体のなかで、どのような意味をもっていたのか、また、それが他の出来事にどのように影響を及ぼしたのかを理解し説明できるようになることを到達目標とする。 関連するDP・CP政治学専攻１，２，３，６
履修条件	なし。
授業方法	映像資料を用いて、院生がレポートを作成・発表し、議論する授業方法である。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	
	平 常 評 価	100%	事前の学習、講義における発表、講義における討論への積極的参加等を総合的に判断する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない。		

参 考 書	授業時に、適宜、紹介する。
オフィスアワー	授業の前後に授業講堂。shinobu.takashi○nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスをよく読み、講義内容を理解する。（１２０分）
	授業内容	**ガイダンス：シラバスについて説明し、必要な資料を配付する。**
	事後学習	後期の全般的な授業内容を理解する。（１２０分）
2	事前学習	冷戦はどのようにして始まったのかをまとめる。（１２０分）
	授業内容	**第二次世界大戦から戦後にかけての国際情勢から、米ソ冷戦がどのように始まったのかを学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（１２０分）
3	事前学習	第二次世界大戦終結直前の国際情勢とはいかなるものであったのか、米英ソの首脳は戦後の国際政治情勢をどのようにとらえていたのかをまとめる。（１２０分）
	授業内容	**ヤルタ会談、ポツダム宣言、第二次世界大戦の終結、戦後世界の構想について映像を視聴しながら学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（１２０分）

4	事前学習	ヨーロッパにおける冷戦がアジアに飛び火した朝鮮戦争の勃発が、日本の再独立および日米安全保障条約の締結に至った状況を調べる（１５０分）
	授業内容	**朝鮮戦争とはいかなるものであったのか、映像を通して学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（９０分）
5	事前学習	日本の戦後外交を規定したサンフランシスコ平和条約、日米安保条約、行政協定とはいかなるものであったのかをまとめる。（１５０分）
	授業内容	**サンフランシスコ平和条約、日米安保条約、および、行政協定の内容について学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（９０分）
6	事前学習	１９６０年に日米安保条約および行政協定が改正され、現行の安保条約および地位協定となったが、旧条約と新条約の違いは何かを整理する。（１２０分）
	授業内容	**日米安保条約の改定は、戦後最大の政治運動として位置づけられる。日米関係だけでなく、日米安保条約の改正が日本の国内政治に与えた影響も学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（１２０分）
7	事前学習	第三次世界大戦にもっとも近づいたといわれる１９６２年１０月のキューバ危機について調べる。（１２０分）
	授業内容	**「十月の悪夢」（前編）という映像を通し、なぜキューバ危機が起こったのかを学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（１２０分）
8	事前学習	第三次世界大戦にもっとも近づいたといわれる１９６２年１０月のキューバ危機が、どのように終息したのかを調べる。（１２０分）
	授業内容	**「十月の悪夢」（後編）という映像を通し、キューバ危機がどのように終息したのかを学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（１２０分）
9	事前学習	戦後日本外交の節目となる沖縄返還、それに伴う核持ち込み密約について調べる（１２０分）
	授業内容	**「他策ナカリシヲ信ゼムト欲ス」を視聴しながら、沖縄返還交渉において佐藤総理の密使をつとめた若泉敬氏の役割について学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（１２０分）
10	事前学習	冷戦終焉の発端となった１９８９年８月の「ヨーロッパ・ピクニック計画」とはいかなるものであったのかを調べる。（１５０分）
	授業内容	**「ヨーロッパ・ピクニック計画」という映像を視聴しながら、この計画がベルリンの壁崩壊へとどのようにつながったのかを学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（９０分）
11	事前学習	冷戦崩壊を決定づけることになったソ連邦の崩壊について調べる。（１２０分）
	授業内容	**ソ連邦はなぜ崩壊したのか、その要因とは何だったのか、その後、ソ連邦はどのようになったのかを学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（１２０分）
12	事前学習	冷戦崩壊後、湾岸戦争が勃発する。湾岸戦争とはいかなるものであったのかを調べる。（１２０分）
	授業内容	**イラクによるクウェートへの侵攻後、湾岸戦争はなぜ起こったのか、どのように終結したのか学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（１２０分）
13	事前学習	湾岸戦争の日本への影響のひとつとして、日本がPKOに参加することになる。これは、戦後初めての自衛隊海外派遣となるが、この派遣をめぐってどのような議論がたたかわされたのかを整理する。（１５０分）
	授業内容	**PKO参加５原則とはいかなるものなのかを学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（９０分）
14	事前学習	PKO協力法に基づき、１９９２年９月以降、自衛隊がカンボジアに派遣された。この派遣の意味とは何だったのか、問題点とは何かをまとめる。（１５０分）
	授業内容	**カンボジアのタケオに駐留した自衛隊の活動とはいかなるものであったのか、また、１９９３年４月から５月にかけ、日本人ボランティア及び文民警察官が相次いで殺害された。なぜこのようなことが起こったのかを学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（９０分）
15	事前学習	戦後国際政治の流れ、および、それへの日本外交の対応についてまとめる（９０分）
	授業内容	**戦後国際政治の流れ、および、それへの日本外交の対応がいかなるものであったのかを学修する。**
	事後学習	レポートおよびそれに基づく議論を振り返り、論点を整理する。（１５０分）

科目名	国際政治学特殊講義Ⅱ	担当者	山本　直	期間	後期	単位数	2

授業概要	国際政治学の古典的な著作を講読することを通じて、近現代の国際政治を多面的に把握および理解するための素地を養う。
授業目的・到達目標	国際政治の理論に基づき、近現代の国際政治で観察される事象を多面的に考察し説明することができる。 関連するDP・CP（政治学専攻）1,2,3,6
履修条件	授業に積極的に参加する姿勢が求められる。
授業方法	下記の教科書の内容を履修者が報告する。報告の内容に従い議論する。

成績評価

種別	割合	評価方法
定期試験		
平常評価	100%	報告50%、議論への参加50%

教科書

年	出版社	書名	著者名
2010	勁草書房	国際政治の理論	ケネス・ウォルツ（河野・岡垣訳）

備考

参考書	モーゲンソー（原彬久訳）『国際政治－権力と平和－』上・中・下、岩波書店、2013年. 信夫隆司『国際政治理論の系譜』信山社、2004年.その他授業で紹介する。
オフィスアワー	水曜昼休み。4号館415研究室にて。他の曜日・時限も調整できます。事前にアポイントをとってください。 yamamoto.tadashi15@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	教科書を購入しその構成を大まかに把握する。（２時間）
	授業内容	**授業の進め方を説明する。**
	事後学習	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
2	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**国際政治における法則と理論について学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
3	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**国際政治におけるホブソンとレーニンの理論について学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）

4	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**国際政治における還元主義的理論について学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
5	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**国際政治における体系的なアプローチと理論について学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
6	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**国際政治における還元主義的理論と体系的理論について学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
7	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**国際政治における構造について学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
8	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**国際政治における政治構造について学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
9	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**アナーキー秩序と勢力均衡について学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
10	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**国際政治における構造的要因と経済的影響について学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
11	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**国際政治における構造的要因と軍事的影響について学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
12	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**国際政治における構造的要因と軍事的影響の展望について学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
13	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**国際政治理論と国際関係の管理について学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
14	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**国際政治における古典的リアリズムと新しいリアリズムについて学修する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）
15	事前学習	教科書と参考書を予習して授業に備える。（２時間）
	授業内容	**これまでの授業の内容をまとめて整理する。**
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（２時間）

科目名	国際関係論特殊講義 I	担当者	柑本　英雄	期間	前期	単位数	2

授業概要	本講義は、国際政治が歩んできた道のりを考察しながら、わたしたちが生きる21世紀の目指すべき政治の意味を考える。国際協力、国際社会の紛争や平和構築を読み解く際の補助線となる「国際関係論的な視角」を学ぶ。
授業目的・到達目標	国際関係論の理論を学び、国際社会の「現実」「事実」を「理論的な立場（一般化）」から分析する力を養うことを目標とする。 関連するDP・CP政治学専攻1,2,3,4
履修条件	①講義は、全て出席して、全体の理解が届くように構成されているので、出席回数を計算してギリギリで単位を取得しようとは考えず、毎回休まず出席すること。②テキストを予習して講義に臨むこと。
授業方法	演習形式で行う。出席管理システム（レスポン）を利用して、出席確認を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業に対する積極的な姿勢や報告内容により、「到達目標」にかかわる能力が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015	勁草書房	国際関係理論	吉川直人・野口和彦編
	備考			

参 考 書	必要に応じて適宜紹介する。
オフィスアワー	水曜日12:15～12:55　研究室(事前にアポイントメントを取ること)

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	教科書に目を通すほか、ニュースフィード系のウェブサイトを利用して、その週の世界の主要な国際政治・経済の出来事をフォローしておく。（必要時間、2時間）
	授業内容	**イントロダクション：なぜ国際関係理論が重要なのか**
	事後学習	授業中に出てきた用語や内容について、理解度を確認しておく。（必要時間、2時間）
2	事前学習	「国際関係理論の構図」（p. 2–p. 10）を読み、理論とは何かをノートにまとめる。（必要時間、2時間）
	授業内容	**国際関係理論の構図と分析：なぜ国際関係理論が重要なのか**
	事後学習	講義中に出てきた単語を確認して、ノートにまとめる。（必要時間、2時間）
3	事前学習	「国際関係理論の構図」（p. 10–p. 26）を読み、様々な理論についてノートにまとめる。（必要時間、2時間）
	授業内容	**国際関係理論の構図と分析：理論をめぐる方法論**
	事後学習	国際関係理論の歴史を、さまざまな理論を中心にノートにまとめる。（必要時間、2時間）

4	事前学習	「第1章　近代国際システムの興隆」（p. 28-p. 40）を読み、第一次世界大戦までの国際社会についてノートにまとめる。（必要時間、2時間）
	授業内容	**近代国際システムの構築：ウェストファリア体制の確立**
	事後学習	国民国家の形成過程をノートにまとめる。（必要時間、2時間）
5	事前学習	「第1章　近代国際システムの興隆」（p. 41-p. 61）を読み、第一次世界大戦以降の国際社会についてノートにまとめる。（必要時間、2時間）
	授業内容	**近代国際システムの構築：ウェストファリア体制の拡大**
	事後学習	現代国際関係を理解するうえで、ウェストフェリア条約の締結はどのような意味を持っているのか考え、ノートにまとめる。（必要時間、2時間）
6	事前学習	「第2章　定性的研究方法への道案内」（p. 64-p. 80）を読み、定性的の意味をノートにまとめる。。（必要時間、2時間）
	授業内容	**定性的研究方法の入門：定性的方法論**
	事後学習	論文を1つ選び、ノート1頁にまとめる。（必要時間、2時間）
7	事前学習	「第2章　定性的研究方法への道案内」（p. 80-p. 99）を読み、定性的研究の方法をノートにまとめる。（必要時間、2時間）
	授業内容	**定性的研究方法の入門：定性的研究の進め方**
	事後学習	研究課題を設定し、基本仮説と競合仮説を立て、反実仮想の形式で基本仮説と競合仮説をノートにまとめる。（必要時間、2時間）
8	事前学習	第1回から第7回の復習をしておく。
	授業内容	**第1回から第7回のまでの範囲から中間テストを行う。**
	事後学習	出題された内容について復習し、自分の言葉でノートにまとめる。（必要時間、2時間）
9	事前学習	「第3章　定量的研究方法への道案内」（p. 102-p. 110）を読み、統計的手法の意味をノートにまとめる。（必要時間、2時間）
	授業内容	**定量的研究方法の入門：定量的研究**
	事後学習	定量的研究方法への道案内研究が客観性に優れるといわれる理由についてノートにまとめる。。（必要時間、2時間）
10	事前学習	「第3章　定量的研究方法への道案内」（p. 110-p. 125）を読み、データの整理方法をノートにまとめる。（必要時間、2時間）
	授業内容	**定量的研究方法の入門：統計的分析手法**
	事後学習	定量的研究方法への道案内研究が客観性に優れるといわれる理由について考えてみよう。（必要時間、2時間）
11	事前学習	「第4章　分析レベルと分析アプローチ」（p. 128-p. 141）を読み、分析レベルの意味をノートにまとめる。（必要時間、2時間）
	授業内容	**分析レベルと分析アプローチについての理解：分析レベルの枠組み**
	事後学習	分析レベルと事例をノートにまとめる。（必要時間、2時間）
12	事前学習	「第4章　分析レベルと分析アプローチ」（p. 141-p. 151）を読み、3つのアプローチをノートにまとめる。（必要時間、2時間）
	授業内容	**分析レベルと分析アプローチ：分析のアプローチ**
	事後学習	合理的選択アプローチ、制度的アプローチ、文化的アプローチの意味をノートにまとめる。（必要時間、2時間）
13	事前学習	「第5章　リアリズム」（p. 154-p. 168）を読み、リアリズムについてノートにまとめる。。（必要時間、2時間）
	授業内容	**リアリズム：リアリズムとは何か**
	事後学習	リアリズムにおける仮説と国際関係観について考え、ノートにまとめる。（必要時間、2時間）
14	事前学習	「第5章　リアリズム」（p. 168-p. 182）を読み、リアリズムは国際社会をどのようにとらえているのかノートにまとめる。（必要時間、2時間）
	授業内容	**リアリズム：リアリズムの発展**
	事後学習	リアリズムは現在の国際社会を分析するために役に立つのか考え、ノートにまとめる。（必要時間、2時間）
15	事前学習	これまでに学習した内容を復習する。（必要時間、2時間）
	授業内容	**まとめと講評**
	事後学習	これまでの学習で不足している知識や理解が不十分な事項がないか確認する。（必要時間、2時間）

科目名	国際関係論特殊講義Ⅱ	担当者	柑本　英雄	期間	後期	単位数	2

授業概要	本講義は、国際政治が歩んできた道のりを考察しながら、わたしたちが生きる21世紀の目指すべき政治の意味を考える。国際協力、国際社会の紛争や平和構築を読み解く際の補助線となる「国際関係論的な視角」を学ぶ。
授業目的・到達目標	国際関係論の理論を学び、国際社会の「現実」「事実」を「理論的な立場（一般化）」から分析する力を養うことを目標とする。 関連するDP・CP政治学専攻1,2,3,4
履修条件	①講義は、全て出席して、全体の理解が届くように構成されているので、出席回数を計算してギリギリで単位を取得しようとは考えず、毎回休まず出席すること。②テキストを予習して講義に臨むこと。
授業方法	演習形式で行う。出席管理システム（レスポン）を利用して、出席確認を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	授業に対する積極的な姿勢や報告内容により、「到達目標」にかかわる能力が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015	勁草書房	国際関係理論	吉川直人・野口和彦編
	備考			

参考書	必要に応じて適宜紹介する。
オフィスアワー	水曜日12:15～12:55　研究室(事前にアポイントメントを取ること)

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	教科書の該当部分や前期のノートに目を通すほか、ニュースフィード系のウェブサイトを利用して、最近の世界の主要な国際政治・経済の出来事をフォローしておく。（必要時間、2時間）
	授業内容	**前期の振り返り**
	事後学習	授業中に出てきた用語や内容についてノートにまとめ、理解度を確認しておこう。（必要時間、2時間）
2	事前学習	「第６章　リベラリズム」（p. 184–p. 194）を、リベラリズムの意味を考えながら読み、ノートにまとめる。（必要時間、2時間）
	授業内容	**リベラリズムの国際政治観**
	事後学習	リベラリズムの意味、起源、歴史的意味についてノートにまとめる。（必要時間、2時間）
3	事前学習	「第６章　リベラリズム」（p. 194–p. 210）を、リベラリズムの意味を考えながら読み、ノートにまとめる。（必要時間、2時間）
	授業内容	**リベラリズムの展開**
	事後学習	リアリズムとリベラリズムにおける安全保障のアプローチの違いを考え、自分の言葉でノートにまとめる。（必要時間、2時間）

4	事前学習	「第７章　国際政治経済論」（p. 212-p. 238）を、国際政治を考えるうえでなぜ貿易や市場経済についての理解が必要なのかを考えながら読み、出てくる用語をノートにまとめる。（必要時間、2時間）
	授業内容	**国際関係論と国際政治経済論**
	事後学習	国際政治経済論とはどのような理論なのか、ノートにまとめる。（必要時間、2時間）
5	事前学習	「第８章　従属論と世界システム論」（p. 240-p. 261）を読み、従属論についてノートにまとめる。（必要時間、2時間）
	授業内容	**従属論**
	事後学習	従属論がなぜ発展したのか考え、ノートにまとめる。（必要時間、2時間）
6	事前学習	「第８章　従属論と世界システム論」（p. 261-p. 270）を、従属論の意味を考えながら読んでみよう。（必要時間、2時間）
	授業内容	**世界システム論**
	事後学習	世界システム論を今日の世界に当てはめ、ノートにまとめる。（必要時間、2時間）
7	事前学習	第１回から第７回の復習をしておく。
	授業内容	**第1回から第7回のまでの範囲から中間テストを行う。**
	事後学習	講義に出てきた内容について理解したことを自分の言葉でノートにまとめる。（必要時間、2時間）
8	事前学習	「第９章　コントラクティビズム」（p. 272-p. 281）を、コントラクティビズムの意味を考えながら読み、ノートにまとめる。（必要時間、2時間）
	授業内容	**コントラクティビズムの概念**
	事後学習	コントラクティビズムとリアリズムやリベラリズムとの相違について考え、ノートにまとめる。（必要時間、2時間）
9	事前学習	「第９章　コントラクティビズム」（p. 282-p. 292）を、コントラクティビズムに対する様々な考え方を理解しながら読み、ノートにまとめる。（必要時間、2時間）
	授業内容	**コントラクティビズムの展開**
	事後学習	コントラクティビズムの２つの分析アプローチについて理解し、ノートにまとめる。（必要時間、2時間）
10	事前学習	「第１０章　規範理論」（p. 294-p. 313）を、国際関係論における規範理論の意味を考えながら読み、規範理論としてのリアリズムとリベラリズムについてノートにまとめる。（必要時間、2時間）
	授業内容	**国際関係における規範理論**
	事後学習	国際関係論における規範理論とは何かについて考え、ノートにまとめる。（必要時間、2時間）
11	事前学習	「第１０章　規範理論」（p. 313-p. 323）を、国際関係論における規範理論の意味を考えながら読んでみよう。（必要時間、2時間）
	授業内容	**ポスト冷戦期の規範理論**
	事後学習	国家中心的道徳主義についてノートにまとめる。（必要時間、2時間）
12	事前学習	「第１１章　批判的国際理論」（p. 326-p. 345）を、批判的国際理論が登場した背景を考えながら読み、ノートにまとめる。（必要時間、2時間）
	授業内容	**批判的国際理論の誕生**
	事後学習	批判的国際理論と主流理論の違いについて考え、ノートにまとめる。（必要時間、2時間）
13	事前学習	「第１１章　批判的国際理論」（p. 345-p. 357）を、コックスとリンクレータのアプローチを確認しながら読み、ノートにまとめる。（必要時間、2時間）
	授業内容	**批判的国際理論の展望**
	事後学習	批判的国際理論が現在国際社会に対してどのような見方を提供できるか考え、ノートにまとめる。（必要時間、2時間）
14	事前学習	これまでの学習を通して、国際関係理論とは何か、国際関係理論がなぜ必要なのかについて再考する。（必要時間、2時間）
	授業内容	**まとめ**
	事後学習	様々な理論を通して、今日の国際社会における問題を考え、ノートにまとめる。（必要時間、2時間）
15	事前学習	教科書やノートを読み、これまでの学びを復習する。（必要時間、2時間）
	授業内容	**講義から得られた知見**
	事後学習	これまでの学習で不足している知識や理解が不十分な事項がないか確認する。（必要時間、2時間）

科目名	地域研究特殊講義 I	担当者	窪田　悠一	期間	前期	単位数	2

授業概要	本講義では、地域研究の学術的な思考様式や分析手順を学ぶ。特に、ここでは事例研究とその方法に焦点を当て、事例の選択、データの収集、分析・推論の方法、一般化や理論化などについて考察する。本講義では社会科学一般に通じる方法論的問題をテーマを考察の対象としていることから、本研究科における他の専門科目を補完するものとなっている。
授業目的・到達目標	本講義の目標は、事例研究の（実践）方法とそれをめぐる議論を理解し、社会科学的な研究テーマにおける問題の発見とその検討を学術的な手順に従って行うことができるようになることである。ここでは学生が自ら問題を捉え、そこから一定の手続きに基づく形で発見を導き出す力を養うことを目指す。こうした問題の発見や適切な分析方法の応用が出来る能力は、本研究科における修士論文その他の知的プロジェクトへの取り組みの際だけでなく、大学院修了後も不可欠なものであると考える。関連するDP・CP政治学専攻２，４，６
履修条件	特になし。
授業方法	講義では先行研究（主に英文で書かれた学術論文、書籍）に関する内容の理解を促進するため、リーディングに関するリアクション・ペーパーやプレセンテーションを行う。また、そうした知識を様々な事象に応用し、テーマの全体像を把握するためにグループ・ディスカッションを行う。これらに加えて、それぞれの課題に関して自ら問いを設定し、それに対する答えを提示する能力を習得することを目的に、担当教員との相談のもと学生自らが選んだテーマ・事例について研究論文を作成し、これを報告する研究発表会を設ける。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	リーディングに関するリアクション・ペーパー・プレゼンテーション、研究計画発表・最終発表、（出席を前提とした）講義中の積極的な発言

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	初回授業時に示す。		

参 考 書	初回授業時に示す。
オフィスアワー	月曜3限

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスや授業に関連する文献に目を通し、事前知識を得る。（２時間）
	授業内容	**イントロダクション（シラバスの説明、本講義のテーマ）**
	事後学習	授業の概要について振り返るとともに、履修するかどうかを決める。また疑問点があれば、担当教員に確認する。（２時間）
2	事前学習	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。（２時間）
	授業内容	**社会科学における事例研究**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。（２時間）
3	事前学習	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。（２時間）
	授業内容	**事例研究のデザイン**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。（２時間）

4	事前学習	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。（２時間）
	授業内容	**事例選択**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。（２時間）
5	事前学習	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。（２時間）
	授業内容	**データ収集**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。（２時間）
6	事前学習	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。（２時間）
	授業内容	**事例研究の実践**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。（２時間）
7	事前学習	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。（２時間）
	授業内容	**研究計画発表**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。（２時間）
8	事前学習	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。（２時間）
	授業内容	**研究計画発表**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。（２時間）
9	事前学習	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。（２時間）
	授業内容	**事例研究と因果関係**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。（２時間）
10	事前学習	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。（２時間）
	授業内容	**一般化と理論構築**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。（２時間）
11	事前学習	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。（２時間）
	授業内容	**分析の方法**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。（２時間）
12	事前学習	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。（２時間）
	授業内容	**事例研究の執筆**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。（２時間）
13	事前学習	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。（２時間）
	授業内容	**事例研究の評価基準**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。（２時間）
14	事前学習	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。（２時間）
	授業内容	**最終発表**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。（２時間）
15	事前学習	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。（２時間）
	授業内容	**最終発表**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。（２時間）

科目名	地域研究特殊講義Ⅱ	担当者	窪田　悠一	期間	後期	単位数	2

授業概要	本授業では、まず計量データ分析における現象の捉え方の基本的立場や研究のプロセスについて議論を行い、その次に分析の基礎として政治現象の数値化を考察するとともに、データの集計や図表による表現方法を扱う。そして統計的な推定や検定の仕組みを概観しながら、多様な回帰分析の手法に取り組む。
授業目的・到達目標	本授業では、政治学的なテーマを中心に様々な社会現象を題材にして、１）それらに関するデータの計量的な分析手法を理解し、２）そうした分析を用いた学術論文や実務報告書を批判的に読みこなし、３）自らが分析を行い、かつ結果を解釈することができるようになることを目指す。こうした分析・批判能力は、他の授業におけるレポートや学位論文などの知的プロジェクトを遂行する上で必要不可欠であるだけでな く、修了後における諸業務においても重要になってくるものと思われる。関連するDP・CP政治学専攻２，４，６
履修条件	特になし。
授業方法	授業は各分析手法が用いられる場面や適用例を紹介しながら進められるが、実際のデータを用いたコンピュータによる演習が中心となる。これに加えて、授業で学んだ分析手法を自らの関心に合わせて応用できるようにするため、担当教員との相談のもと学生自らが選んだテーマと分析に基づいた研究論文を作成し、これを報告する研究発表会を設ける。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	（出席を前提とした）講義中の積極的な発言と課題提出、研究計画発表、研究論文及び最終発表

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2013年	オーム社	Stataによる計量政治学	浅野正彦・矢内勇生
	2018年	オーム社	Rによる計量政治学	浅野正彦・矢内勇生
	備考			

参 考 書	
オフィスアワー	月曜3限

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスや授業に関連する文献に目を通し、事前知識を得る。（２時間）
	授業内容	**イントロダクション（シラバスの説明、本講義のテーマ）**
	事後学習	授業の概要について振り返るとともに、履修するかどうかを決める。また疑問点があれば、担当教員に確認する。（２時間）
2	事前学習	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。（２時間）
	授業内容	**実証研究の基礎（政治学における実証研究、研究デザインと実施のプロセス）**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。（２時間）
3	事前学習	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。（２時間）
	授業内容	**政治現象の数値化（概念の定義・操作化、測定尺度）**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。（２時間）

4	事前学習	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。（２時間）
	授業内容	**集計表とグラフ**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。（２時間）
5	事前学習	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。（２時間）
	授業内容	**記述統計**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。（２時間）
6	事前学習	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。（２時間）
	授業内容	**統計的推定（仮説検定、区間推定、 標準誤差）**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。（２時間）
7	事前学習	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。（２時間）
	授業内容	**変数間の関連性の検定**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。（２時間）
8	事前学習	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。（２時間）
	授業内容	**研究計画発表**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。（２時間）
9	事前学習	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。（２時間）
	授業内容	**研究計画発表会**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。（２時間）
10	事前学習	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。（２時間）
	授業内容	**回帰分析の基礎とバリエーション**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。（２時間）
11	事前学習	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。（２時間）
	授業内容	**単回帰と重回帰**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。（２時間）
12	事前学習	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。（２時間）
	授業内容	**ロジスティック回帰分析**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。（２時間）
13	事前学習	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。（２時間）
	授業内容	**回帰分析の復習と個別チュートリアル**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。（２時間）
14	事前学習	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。（２時間）
	授業内容	**回帰分析の復習と個別チュートリアル/研究発表**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。（２時間）
15	事前学習	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。（２時間）
	授業内容	**研究発表**
	事後学習	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。（２時間）

科目名	行政学特殊講義Ⅰ	担当者	岩井　義和	期間	前期	単位数	2

授業概要	現在、国民の欲求や価値観は急速に多様化し、社会における組織と国民との双方向性コミュニケーションや、国民相互のコミュニケーションの促進が重要となってきている。そこで本講義では、各種の関係の全過程の中で展開される「情報過程」及び、Publicという人間関係を作り上げるコミュニケーションの必要性を検討する。
授業目的・到達目標	各種関係者が行うコミュニケーション、組織マネジメント、コミュニケーション・マネジメントなどを検討し、Public同士がお互いに共鳴し、両者が調整することで社会の良き方向を導き出すPublic Relaitionsの意義を理解できるようになる。関連するＤＰ・ＣＰ政治学専攻１，３，４，５
履修条件	特に指定しないが、授業目標を理解し、到達目標に向かって意欲を持って取り組める院生。
授業方法	教員による講義（問題提起）、学生による研究報告（プレゼン）というように双方向性のある講義を行う。学生には、意見を求めます。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	50%	レポート試験と平常評価を半々にすることを前提とするが、受講生の数や受講態度等を勘案し、すべて平常評価に切り替えることもある。
	平常評価	50%	報告や討論等を通じて、研究等の進捗状況や研究への取り組みの姿勢などを総合的に判断して評価する。場合によってはすべて平常評価によって成績評価を行う場合もある。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない。		

参考書	講義時に随時、紹介する。
オフィスアワー	水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	行政広報・Public Relationsの必要性を考えてくる（２時間）
	授業内容	**ガイダンス（行政広報・Public Relationsの関係）**
	事後学習	授業内容を踏まえ、所要の文献リストを作成するなど今後の学習計画を自分自身で構築する（2時間）
2	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**コミュニケーションの意義（パブリック・コミュニケーションの検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
3	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**Publicの概念（集合体の検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）

4	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**コミュニケーション過程概観（コミュニケーション・モデルの検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
5	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**双方向コミュニケーションの理論的考察①（行政学と行政広報活動を検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
6	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**双方向コミュニケーションの理論的考察②（行政活動の歴史と行政広報活動を検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
7	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**情報の主体と客体（組織と広報の関係を検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
8	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**社会構造とコミュニケーション対象（社会構造分析を検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
9	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**対象とコミュニケーション（対象の区分について検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
10	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**コミュニケーション組織の役割①（専担組織の役割）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
11	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**コミュニケーション組織の役割②（専担職員の役割）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
12	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**コミュニケーション・マネジメント①（広報活動マネジメントを検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
13	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**コミュニケーション・マネジメント②（広聴活動マネジメントを検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
14	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**コミュニケーション・マネジメント③（調整マネジメントの検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
15	事前学習	これまでの授業を通じた質問事項・コメントなどを考えておく（2時間）
	授業内容	**授業の振り返り**
	事後学習	これまでの授業内容を総括整理し、知識を確実なものとしておく（2時間）

科目名	行政学特殊講義Ⅰ	担当者	上村　進	期間	前期	単位数	2

授業概要	行政のデジタル化について学習する。現代の行政組織・運営は、ICTの活用なくして語ることはできないことから、行政情報化の意義、ICT政策全般の概要、電子政府・電子自治体などについて分析・考察する。
授業目的・到達目標	①行政デジタル化の意義について論理的・科学的・合理的に考察することができる。 ②国・地域社会の抱える諸課題の原因を説明でき、デジタル化を通じた解決策を具体的に考察することができる。 ③より良い社会の構築のためにデジタルを活用した行政の在り方をどうすべきか説明できる。 関連DP/CP　政治学専攻1，3，4，5
履修条件	特になし
授業方法	講義形式及び、毎回テーマに応じて履修者間でのディスカッションやレポート講評など併用した授業を行う。 なお、授業計画は最新の政策動向・デジタル化の進展状況に応じて変動あり得る。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	①レポートにより，到達目標①にかかわる基礎知識が身についているかを確認する。 ②ディスカッションにおいて到達目標②③にかかわる能力が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			

参考書	情報通信白書最新版、デジタル関係諸法律・政府決定・政策文書など 具体的には授業内で指示する
オフィスアワー	金曜日　昼休み　事前アポイント必須　研究室（本館6階1604研究室）　kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②指定教科書の導入部分を読み進めておく。100分
	授業内容	**ガイダンス・最新のデジタル化進展状況**
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。100分
2	事前学習	指定文献を読み込み該当部分の発表準備及び質問事項の整理を行う。140分
	授業内容	**我が国デジタル化の歩み①（通信自由化の経緯など）**
	事後学習	履修者間の議論や講評をまとめ、ノート化しておく。140分。
3	事前学習	指定文献の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。120分
	授業内容	**我が国デジタル化の歩み②（インターネット導入以降）**
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。120分

4	事前学習	指定文献の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。120分
	授業内容	**デジタル経済の進展とICT市場の動向**
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。120分
5	事前学習	指定文献の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。120分
	授業内容	**企業活動とDX（デジタル・トランスフォーメーション）**
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。120分
6	事前学習	指定文献の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。120分
	授業内容	**デジタル化と包摂的社会形成**
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。120分
7	事前学習	指定文献の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。120分
	授業内容	**国民生活とデジタル化**
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。120分
8	事前学習	指定文献の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。120分
	授業内容	**行政とデジタル化（総論）**
	事後学習	履修者間の議論や講評をノート化し、最終レポートに反映させる準備をする。120分
9	事前学習	指定文献の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。120分
	授業内容	**電子政府①（基本法制・政策方向など）**
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。120分
10	事前学習	指定文献の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。120分
	授業内容	**電子政府②（各論：オンライン申請、行政DXなど）**
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。120分
11	事前学習	指定文献の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。120分
	授業内容	**電子自治体①（自治体クラウド、自治体オンラインなど）**
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。120分
12	事前学習	指定文献の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。120分
	授業内容	**電子自治体②（自治体とRPA・AIなど）**
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。120分
13	事前学習	指定文献の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。120分
	授業内容	**デジタル防災**
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。120分
14	事前学習	指定文献の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。120分
	授業内容	**諸外国の電子政府・電子自治体**
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。120分
15	事前学習	最終レポートを作成し、発表の準備をしておく。
	授業内容	**授業の振り返り及び最終レポートの合評会**
	事後学習	履修者間の議論や講評を最終レポートに反映させ完成させる。120分

科目名	行政学特殊講義Ⅰ	担当者	児玉　博昭	期間	前期	単位数	2

授業概要	行政学の研究領域は多岐にわたるが、行政制度に関する研究分野から、中央地方関係をテーマに取り上げる。日本の地方自治制度はどのように形成されてきたのか、地方分権改革はどのように推進されてきたのかについて考察する。
授業目的・到達目標	地方分権改革に関する専門的知識を修得することを目的とする。明治以来の集権体制はいかなる要因で現代福祉国家型の集権体制に変容したのか。第1次地方分権改革、三位一体の改革、第2次地方分権改革はいかなる要因で実現したのか・しなかったのか。制度改革の分析視角について理解することを目標とする。 DP/CP政治学専攻1,3,4,5
履修条件	特にないが、行政学に関して基礎的知識を有することが望ましい。
授業方法	教科書に沿って講義形式で行う。学生との質疑応答を通じて対話型の授業を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	授業内の発言状況、レポート課題の内容によって評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2012	法律文化社	日本の中央地方関係	市川喜崇
	2012	有斐閣	地方分権改革の政治学	木寺元
	備考			

参考書	礒崎初仁・金井利之・伊藤正次『ホーンブック地方自治（新版）』北樹出版、2020年 西尾勝『地方分権改革』東京大学出版会、2007年
オフィスアワー	水曜4時限（14:40～16:10）（事前にメールで予約を取ること）kodama.hiroaki@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	参考書の第2章を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**日本の地方自治制度の歴史について概観する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
2	事前学習	課題書①の第1章を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**課題と視角：福祉国家における集権と分権について学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
3	事前学習	課題書①の第2章を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**戦時期：旧体制のもとでの機能的集権化の進行について学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）

4	事前学習	課題書①の第3章を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**占領改革期：旧体制の終焉と機能的集権体制の成立について学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
5	事前学習	課題書①の第4章を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**機能的集権体制の中の総務省：「連動システム」の形成とその管理について学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
6	事前学習	課題書①の第5章を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**中央－地方関係史の包括的再解釈について学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
7	事前学習	参考書の第3章を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**地方分権改革について学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
8	事前学習	課題書②の序章を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**問いの所在：中央地方関係・アイディア・官僚制について学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
9	事前学習	課題書②の第1章を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**分析枠組みについて学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
10	事前学習	課題書②の第2章を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**市町村合併の推進について学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
11	事前学習	課題書②の第3章を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**機関委任事務制度の廃止について学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
12	事前学習	課題書②の第4章の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**地方財政制度改革について学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
13	事前学習	課題書②の第5章を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**第二次分権改革の隘路ついて学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
14	事前学習	課題書②の終章を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**地方制度改革と「アイディア」の政治について学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
15	事前学習	課題書①②それぞれの感想をレポートにまとめること。（120分）
	授業内容	**課題書の興味深い点や疑問点、自身の研究との関連性について発表し、意見を交換する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）

科目名	行政学特殊講義Ⅰ	担当者	山田　光矢	期間	前期	単位数	2

授業概要	世界大恐慌を契機に明確な存在となった行政国家・福祉国家の政治・行政・地方行政の特色と、現実の政治・行政・地方行政の役割やそこから見えてくる問題点などを、院生の興味や修士論文のテーマ等を手掛かりに、院生の報告とディスカッションを通じながら、今後の政治・行政・地方行政の望ましい在り方を考えていく。
授業目的・到達目標	行政は国家機構の中でどのような位置を占め、人々の社会生活にどのような役割を果たしているのかを、受講生自身の眼で観察し、受講生自身の行政観から考えてもらい、国家や地方公共団体の実践している行政の本質やあり方を、受講生自身の言葉で確立することを目標とする。その視点を土台に、受講生が興味を持つテーマや私が考えてもらいたいテーマを提示し、それを対象に現実の行政を分析し、行政への考え方の質を高め、自分の感えより高度なものにする。関連するＤＰ・ＣＰ政治学専攻１，３，４，５
履修条件	授業目標を理解し、到達目標に向かって意欲を持って取り組める院生。
授業方法	講義と演習を取り混ぜて行う。可能な限り院生の報告を軸に、受講生の興味あるテーマをみんなが理解し、自分の課題として考え、討論を通じて全体の意識が高まる方向へとリードしていく。状況に応じて書籍や資料等の分析も行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	50%	レポート試験と平常評価を半々にすることを前提とするが、受講生の数や受講態度等を勘案し、すべて平常評価に切り替えることもある。
	平常評価	50%	報告や討論等を通じて、研究等の進捗状況や研究への取り組みの姿勢などを総合的に判断して評価する。場合によってはすべて平常評価によって成績評価を行う場合もある。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書の代わりに、山田光矢著「行政改革の理論と実態」政経研究第41巻第4号（平成18年）日本大学法学会をつかう		

参考書	2018年　弘文堂　『Next教科書シリーズ　政治学』　吉野篤編・山田光矢他著
オフィスアワー	水曜日5限に空き教室を利用するかメールで行います。毎週確実に対応できないことも考えられるので、相談を希望する場合には事前にメールで連絡し、私からの相談可能の連絡を受けてください。（yamada.mitsuya@nihon-u.ac.jp）

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	行政国家と行政の特色について考えてくる（2時間）
	授業内容	**ガイダンス 政治と行政・三権分立論と五権分立論**
	事後学習	他の院生の選択テーマを相互に理解する（2時間）
2	事前学習	参考書「第1章　人類と政治」を読み、人類の歴史と国家の誕生とその変質を整理してくる（2時間）
	授業内容	**人類の歴史と、政治や行政の役割の変化を報告してもらい質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）
3	事前学習	参考書第1章にあるW.W.ロストーの「take offの原理」から国家と行政の変質を整理してくる（2時間）
	授業内容	**国家の誕生とその変質そして行政の役割の変化等について報告してもらい質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）

4	事前学習	参考書「第1章」にある官房学・シュタイン行政学・アメリカ行政学の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	**官房学と二つの行政学の特徴を中心に報告してもらい質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）
5	事前学習	参考書「第5章　デモクラシーの理論と諸相」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	**近代市民社会と大衆社会のデモクラシーの変質と行政の役割の変化等を報告してもらい質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）
6	事前学習	参考書「第6章　自由民主主義体制の諸原理と政治制度」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	**議院内閣制・大統領制・半大統領制の相違と特色等を報告してもらい質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）
7	事前学習	アメリカ大統領の政権交代と政策や行政サービスの変質と行政役割を整理してくる（2時間）
	授業内容	**アメリカ大統領制の特色と問題点に関する報告してもらい質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）
8	事前学習	日本を中心に議院内閣制における政権交代と政策や行政サービスの変質と行政の役割を整理してくる（2時間）
	授業内容	**院議院内閣制の特色と問題点に関する報告をしてもらい質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）
9	事前学習	受講生の興味のある政策Ⅰに関してその特色や問題点を整理してくる（2時間）
	授業内容	**院生の報告に合わせて質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）
10	事前学習	受講生の興味のある政策Ⅱに関してその特色や問題点を整理してくる（2時間）
	授業内容	**院生の報告に合わせて質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）
11	事前学習	「受講生の興味のある政策Ⅲに関してその特色や問題点を整理してくる（2時間）
	授業内容	**院生の報告に合わせて質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）
12	事前学習	受講生の興味のある政策Ⅳに関してその特色や問題点を整理してくる（2時間）
	授業内容	**院生の報告に合わせて質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）
13	事前学習	受講生の興味のある政策Ⅴに関してその特色や問題点を整理してくる（2時間）
	授業内容	**院生の報告に合わせて質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）
14	事前学習	これまで分析したテーマから学んだことを整理してくる（2時間）
	授業内容	**院生の報告に合わせて質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）
15	事前学習	自分の興味のある分野を整理してレポートを作成してくる（2時間）
	授業内容	**それぞれの考えを評価し、お互いの理解度を高める。**
	事後学習	最終レポートを再整理する（2時間）

科目名	行政学特殊講義Ⅱ	担当者	岩井　義和	期間	後期	単位数	2

授業概要	現在、国民の欲求や価値観は急速に多様化し、社会における組織と国民との双方向性コミュニケーションや、国民相互のコミュニケーションの促進が重要となってきている。そこで本講義では、各種の関係の全過程の中で展開される「情報過程」及び、Publicという人間関係を作り上げるコミュニケーションの必要性を検討する。
授業目的・到達目標	各種関係者が行うコミュニケーション、組織マネジメント、コミュニケーション・マネジメントなどを検討し、Public同士がお互いに共鳴し、両者が調整することで社会の良き方向を導き出すPublic Relaitionsの意義を理解できるようになる。関連するＤＰ・ＣＰ政治学専攻１，３，４，５
履修条件	特に指定しないが、授業目標を理解し、到達目標に向かって意欲を持って取り組める院生。
授業方法	教員による講義（問題提起）、学生による研究報告（プレゼン）というように双方向性のある講義を行う。学生には、意見を求めます。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	50%	レポート試験と平常評価を半々にすることを前提とするが、受講生の数や受講態度等を勘案し、すべて平常評価に切り替えることもある。
	平 常 評 価	50%	報告や討論等を通じて、研究等の進捗状況や研究への取り組みの姿勢などを総合的に判断して評価する。場合によってはすべて平常評価によって成績評価を行う場合もある。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない。		

参 考 書	講義時に随時、紹介する。
オフィスアワー	水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	行政広報・Public Relations・パブリック・コミュニケーションの必要性を考えてくる（２時間）
	授業内容	**ガイダンス（行政広報・Public Relations、パブリック・コミュニケーションの関係）**
	事後学習	授業内容を踏まえ、所要の文献リストを作成するなど今後の学習計画を自分自身で構築する（2時間）
2	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**公共性の考え方（公共領域の多元化について検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
3	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**公共基準の問題点（行政の価値基準について検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）

4	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**コミュニケーション戦略（コミュニケーション・ミックスについて検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
5	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**メディアの特性①（従来型メディアの検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
6	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**メディアの特性②（メディア分類の検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
7	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**メディアの特性③（メディアミックスの検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
8	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**Public別コミュニケーション①（行政・地方公共団体）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
9	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**Public別コミュニケーション②（地域・住民）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
10	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**Public別コミュニケーション③（企業・消費者）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
11	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**Public別コミュニケーション④（政治・国際関係）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
12	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**Public別コミュニケーション④（NPO・その他）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
13	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**共鳴のコミュニケーション（双方向コミュニケーションの検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
14	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**Public形成のコミュニケーション（双方向コミュニケーションの意義について検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
15	事前学習	これまでの授業を通じた質問事項・コメントなどを考えておく（2時間）
	授業内容	**授業の振り返り**
	事後学習	これまでの授業内容を総括整理し、知識を確実なものとしておく（2時間）

科目名	行政学特殊講義Ⅱ	担当者	上村　進	期間	後期	単位数	2

授業概要	前期に引き続き行政のデジタル化について学習する。特に今期は、①データを活用した新しい行政の在り方（オープンデータ、スーパーシティなど）、②データ活用の一方、重要性の増大する個人情報保護の課題、③近年脅威が深刻化してきているサイバーセキュリティなどについて分析・考察する。
授業目的・到達目標	①行政デジタル化の意義について論理的・科学的・合理的に考察することができる。 ②国・地域社会の抱える諸課題の原因を説明でき、デジタル化を通じた解決策を具体的に考察することができる。 ③より良い社会の構築のためにデジタルを活用した行政の在り方をどうすべきか説明できる。 関連DP/CP　政治学専攻1，3，4，5
履修条件	特になし
授業方法	講義形式及び、毎回テーマに応じて履修者間でのディスカッションやレポート講評など併用した授業を行う。 なお、授業計画は最新の政策動向・デジタル化の進展状況に応じて変動あり得る。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	
	平 常 評 価	100%	①レポートにより，到達目標①にかかわる基礎知識が身についているかを確認する。 ②ディスカッションにおいて到達目標②③にかかわる能力が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			

参 考 書	情報通信白書最新版、サイバーセキュリティ白書最新版、関係諸法律・政府決定・政策文書など 具体的には授業内で指示する
オフィスアワー	金曜昼休み。事前アポイントのこと。kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②指定教科書の導入部分を読み進めておく。100分
	授業内容	**ガイダンス・オープンデータ①（中央政府の取組）**
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。100分
2	事前学習	指定文献を読み込み該当部分の発表準備及び質問事項の整理を行う。140分
	授業内容	**オープンデータ②（自治体の取組）**
	事後学習	履修者間の議論や講評をまとめ、ノート化しておく。140分。
3	事前学習	指定文献の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。120分
	授業内容	**スマートシティ・スーパーシティ**
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。120分

4	事前学習	指定文献の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。120分
	授業内容	**個人情報保護①（基本原則と法制度概要）**
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。120分
5	事前学習	指定文献の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。120分
	授業内容	**個人情報保護②（基本的禁止事項：要配慮個人情報の扱い・目的外使用・第三者提供など）**
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。120分
6	事前学習	指定文献の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。120分
	授業内容	**個人情報保護③（海外移転・匿名加工情報・仮名加工情報など）**
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。120分
7	事前学習	指定文献の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。120分
	授業内容	**IoTと行政の役割**
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。120分
8	事前学習	指定文献の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。120分
	授業内容	**サイバーセキュリテイの概要**
	事後学習	履修者間の議論や講評をノート化し、最終レポートに反映させる準備をする。120分
9	事前学習	指定文献の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。120分
	授業内容	**主なインシデント事例①（ウイルス・マルウェアによる攻撃事例など）**
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。120分
10	事前学習	指定文献の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。120分
	授業内容	**主なインシデント事例②（サイバーアタックと安全保障）**
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。120分
11	事前学習	指定文献の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。120分
	授業内容	**サイバーセキュリティ政策の概要**
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。120分
12	事前学習	指定文献の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。120分
	授業内容	**サイバー犯罪の動向と法規定（不正指令電磁的記録罪など）**
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。120分
13	事前学習	指定文献の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。120分
	授業内容	**セキュリティに係る施策①（内閣の取組み）**
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。120分
14	事前学習	指定文献の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。120分
	授業内容	**セキュリティに係る施策②（各重要セクターの取組み）**
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。120分
15	事前学習	最終レポートを作成し、発表の準備をしておく。
	授業内容	**授業の振り返り及び最終レポートの合評会**
	事後学習	履修者間の議論や講評を最終レポートに反映させ完成させる。120分

科目名	行政学特殊講義Ⅱ	担当者	児玉　博昭	期間	後期	単位数	2

授業概要	行政学の研究領域は多岐にわたるが、行政活動に関する研究分野から、政策評価をテーマに取り上げる。社会課題の解決に向けた取組を体系的に評価し、改善に有効な情報を提供するプログラム評価の考え方や進め方について学習する。
授業目的・到達目標	プログラム評価に関する専門的知識を修得することを目的とする。プログラム評価の意義、評価の階層とプログラムセオリー、評価デザインと手法の選択、評価結果のまとめ・伝達と活用ろいった基礎概念から、ニーズ評価とセオリー評価、プロセス評価とアウトカム評価、インパクト評価の方法、効率性の評価、質的・量的データの収集・分析などの評価・分析手法、さらには業績測定と評価指標、政策評価、事業評価について理解することを目標とする。 DP/CP政治学専攻1,3,4,5
履修条件	特にないが、行政学に関して基礎的知識を有することが望ましい。
授業方法	教科書に沿って講義形式で行う。学生との質疑応答を通じて対話型の授業を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	授業内の発言状況、レポート課題の内容によって評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2020	晃洋書房	プログラム評価ハンドブック	源由理子・大島巌 、山谷清志
	備考			

参考書	P.H.ロッシ＝M.W.リプセイ＝H.E.フリーマン『プログラム評価の理論と方法』日本評論社、2005年
オフィスアワー	水曜4時限（14:40～16:10）（事前にメールで予約を取ること）kodama.hiroaki@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**評価と評価学：評価の意義と基本、歴史などについて学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
2	事前学習	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**プログラム評価とは：プログラム評価の定義・目的などについて学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
3	事前学習	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**評価の5階層とプログラムセオリー：評価の5階層とプログラムセオリーなどについて学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）

4	事前学習	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**評価の計画：評価デザインと手法の選択について学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
5	事前学習	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**評価結果のまとめ・伝達と活用：データの分析と解釈、評価結果の伝達などについて学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
6	事前学習	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**プログラムの設計・開発段階の評価：ニーズ評価, セオリー評価の方法について学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
7	事前学習	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**プログラムの形成・改善段階の評価：プロセス評価とアウトカム/インパクト評価の方法について学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
8	事前学習	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**プログラムの介入後の評価：インパクト評価の方法について学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
9	事前学習	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**効率性の評価：費用の算出、効率性評価の観点、費用便益による意思決定について学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
10	事前学習	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**データの収集・分析①：量的データの収集・分析、指標の設定などについて学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
11	事前学習	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**データの収集・分析②：質的データの収集・分析などについて学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
12	事前学習	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**業績測定と評価指標：業績測定の意義と実際、評価指標の作り方・使い方について学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
13	事前学習	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**政策評価：政策評価の類型・方式・規準について学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
14	事前学習	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**ＯＤＡ事業評価：JICAによるODA事業評価について学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）
15	事前学習	教科書の該当箇所を通読し、講義の概要を把握しておくこと。（120分）
	授業内容	**ＮＰＯ事業評価：ＮＰＯ事業評価の射程などについて学習する。**
	事後学習	授業内容を復習し、必要に応じて関連文献を参照すること。（120分）

科目名	行政学特殊講義Ⅱ	担当者	山田　光矢	期間	後期	単位数	2

授業概要	明治維新以降の日本の政治行政改革の歴史を軸に、日本の行政国家・福祉国家の政治・行政・地方行政の特色と、現実の政治・行政・地方行政の役割やそこから見えてくる問題点などを、院生の興味や修士論文のテーマ等を手掛かりに、院生の報告とディスカッションを通じながら、今後の政治・行政・地方行政の望ましい在り方を考えていく。
授業目的・到達目標	行政は国家機構の中でどのような位置を占め、人々の社会生活にどのような役割を果たしているのかを、受講生自身の眼で観察し、受講生自身の行政観から考えてもらい、国家や地方公共団体の実践している行政の本質やあり方を、受講生自身の言葉で確立することを目標とする。その視点を土台に、受講生が興味を持つテーマや私が考えてもらいたいテーマを提示し、それを対象に現実の行政を分析し、行政への考え方の質を高め、自分の感えより高度なものにする。関連するＤＰ・ＣＰ政治学専攻１，３，４，５
履修条件	授業目標を理解し、到達目標に向かって意欲を持って取り組める院生。
授業方法	講義と演習を取り混ぜて行う。可能な限り院生の報告を軸に、受講生の興味あるテーマをみんなが理解し、自分の課題として考え、討論を通じて全体の意識が高まる方向へとリードしていく。状況に応じて書籍や資料等の分析も行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	50%	レポート試験と平常評価を半々にすることを前提とするが、受講生の数や受講態度等を勘案し、すべて平常評価に切り替えることもある。
	平常評価	50%	報告や討論等を通じて、研究等の進捗状況や研究への取り組みの姿勢などを総合的に判断して評価する。場合によってはすべて平常評価によって成績評価を行う場合もある。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	弘文堂	『Next教科書シリーズ　政治学』	吉野篤編・山田光矢他著
	備考			

参考書	山田光矢著「行政改革の理論と実態」政経研究第41巻第4号（平成18年）日本大学法学会 その他、必要に応じて指定する
オフィスアワー	水曜日5限に空き教室を利用するかメールで行います。毎週確実に対応できないことも考えられるので、相談を希望する場合には事前にメールで連絡し、私からの相談可能の連絡を受けてください。（yamada.mitsuya@nihon-u.ac.jp）

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	日本の政治・行政・地方行政の特色を整理してくる（2時間）
	授業内容	**ガイダンス 日本の政治・行政・地方行政の相互関係**
	事後学習	日本の政治・行政・地方行政の特色を理解する（2時間）
2	事前学習	教科書「第14章　日本の行政」の「1　明治維新と官制」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	**院生の報告に合わせて質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）
3	事前学習	教科書「第14章　日本の行政」の「2　統一国家の確立と行政機構」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	**院生の報告に合わせて質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）

4	事前学習	教科書「第14章　日本の行政」の「3　近代的統一国家と行政機構」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	**院生の報告に合わせて質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）
5	事前学習	教科書「第14章　日本の行政」の「4　公務員(官吏・吏員)制度の変遷」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	**院生の報告に合わせて質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）
6	事前学習	教科書「第14章　日本の行政」の「5　国家の変質と行政組織」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	**院生の報告に合わせて質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）
7	事前学習	教科書「第14章　日本の行政」の「6　行政改革の歴史と手法」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	**院生の報告に合わせて質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）
8	事前学習	教科書「第14章　日本の行政」の「7　行政機構改革と内閣府」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	**院生の報告に合わせて質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）
9	事前学習	受講生の興味のある行政や行政機構に関してその特色や問題点を整理してくる（2時間）
	授業内容	**院生の報告に合わせて質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）
10	事前学習	受講生の興味のある行政や行政機構に関してその特色や問題点を整理してくる（2時間）
	授業内容	**院生の報告に合わせて質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）
11	事前学習	受講生の興味のある行政や行政機構に関してその特色や問題点を整理してくる（2時間）
	授業内容	**院生の報告に合わせて質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）
12	事前学習	受講生の興味のある行政や行政機構に関してその特色や問題点を整理してくる（2時間）
	授業内容	**院生の報告に合わせて質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）
13	事前学習	受講生の興味のある行政や行政機構に関してその特色や問題点を整理してくる（2時間）
	授業内容	**院生の報告に合わせて質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）
14	事前学習	これまでの報告の中から興味を持ったテーマをより深い視点で整理してくる（2時間）
	授業内容	**院生の報告に合わせて質疑応答を行う**
	事後学習	報告者の報告内容と自分の考えを比較し自分の考えをまとめる（2時間）
15	事前学習	これまでの報告の中から興味を持ったテーマを深く分析した内容を整理してレポートを作成してくる（2時間）
	授業内容	**それぞれの考えを評価しお互いの理解度を高める。**
	事後学習	最終レポートを再整理する（2時間）

科目名	地方自治論特殊講義Ⅰ	担当者	林　紀行	期間	前期	単位数	2

授業概要	本講義では、地方自治の理論と実践に焦点を当てることとする。地方自治体の役割や機能に関する枠組みを理解した上で、その現実と地方自治体が直面する課題についての検討を行う。
授業目的・到達目標	地方自治に関わる理論と現実を分析し、地方自治体が抱える問題の要因、解決方法の検討ができるようになることを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰは、政治学専攻１，３，４，５，７である。
履修条件	履修に条件は設けない。各回の授業にきちんと出席すること。テキストや論文をきちんと検討したうえで、まとめること。
授業方法	原則として、講義形式で行う。また、教科書の内容を扱った次の回は、学生によるレポートの報告を行ったうえで、教員と受講者のディスカッションを行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	講義への参加状況、研究報告（プレゼン）で総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2021	東洋経済新報社	テキストブック　地方自治【第３版】	北山俊哉・稲継裕昭
	備考	【第３版】を用意すること。		

参考書	教科書の各章にある【文献案内】を参照すること。
オフィスアワー	火曜日２限とする。時間調整をするために、事前に次のメールに予約をすること。【連絡先】hayashi.noriyuki@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスを確認し、教科書の第1章から第7章まで目を通しておくこと。（120分）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	地方自治体が行っている政策について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
2	事前学習	なぜ地方自治が必要なのかについて検討し、ノートにまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**地方自治体の意味と意義**
	事後学習	地方自治体が行っている個性的な政策について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
3	事前学習	テキスト第1章にある研究課題に関するレポートを作成する。（120分）
	授業内容	**国と地方の事務の分担、人口ビジョン、足による民主主義、福祉の磁石**
	事後学習	講義を受けた結果を反映し、レポートの内容を修正・追加しておくこと。（120分）

4	事前学習	首長の行政運営について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**首長：対住民関係、対議会関係、対職員関係**
	事後学習	地方自治体における首長―議会関係について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
5	事前学習	テキスト第2章にある研究課題に関するレポートを作成する。（120分）
	授業内容	**首長と選挙、選挙公約**
	事後学習	講義を受けた結果を反映し、レポートの内容を修正・追加しておくこと。（120分）
6	事前学習	行政組織について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**自治体の組織：組織構成、意思決定、組織再編**
	事後学習	地方自治体の組織再編について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
7	事前学習	テキスト第3章にある研究課題に関するレポートを作成する。（120分）
	授業内容	**一部事務組合、広域連合、自治体組織の比較**
	事後学習	講義を受けた結果を反映し、レポートの内容を修正・追加しておくこと。（120分）
8	事前学習	地方議会が抱える問題について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**議会：二元代表制、選挙制度、議会改革**
	事後学習	地方議員のなり手不足問題について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
9	事前学習	テキスト第4章にある研究課題に関するレポートを作成する。（120分）
	授業内容	**議員定数、選挙、首長提出議案**
	事後学習	講義を受けた結果を反映し、レポートの内容を修正・追加しておくこと。（120分）
10	事前学習	住民参加の仕組みについて調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**住民と自治体：住民、住民参加、直接請求制度**
	事後学習	協働のまちづくりについて調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
11	事前学習	テキスト第5章にある研究課題に関するレポートを作成する。（120分）
	授業内容	**直接請求制度、住民投票、自治会**
	事後学習	講義を受けた結果を反映し、レポートの内容を修正・追加しておくこと。（120分）
12	事前学習	稟議制度について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**政策形成と決定：政策モデル、政策形成の類型と実態**
	事後学習	総合計画について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
13	事前学習	テキスト第6章にある研究課題に関するレポートを作成する。（120分）
	授業内容	**予算要求、政策、総合計画とマニフェスト**
	事後学習	講義を受けた結果を反映し、レポートの内容を修正・追加しておくこと。（120分）
14	事前学習	地方公務員の試験について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**人事：地方公務員の種類、地方公務員のキャリア、人事政策**
	事後学習	公務員のなり手不足問題について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
15	事前学習	テキスト第7章にある研究課題に関するレポートを作成する。（120分）
	授業内容	**地方自治体職員の給与、非正規職員、公務員制度改革**
	事後学習	講義を受けた結果を反映し、レポートの内容を修正・追加しておくこと。（120分）

科目名	地方自治論特殊講義Ⅰ	担当者	福島　康仁	期間	前期	単位数	2

授業概要	地方分権時代が名実ともに進み、自治体、住民など地域主体として自己選択の場が増え、自己責任が重く圧し掛かってきているが、本講義ではそもそも地方自治の本質とあり方、また課題について検討する。		
授業目的・到達目標	地方自治に関わる問題を日常生活のなかから根本的な問題を分析し解決できるようになることを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰ政治学専攻１，３，４，５，７		
履修条件	特に定めないが、地方自治に関心をもって講義に臨むこと。テキストや論文を読む手間を惜しまないこと。		
授業方法	教員による講義（問題提起）、学生による研究報告（プレゼン）というように双方向性のある講義を行う。 学生には、意見を求めます。		
成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	講義への参加状況、研究報告（プレゼン）、リサーチペーパーで総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	弘文堂	『地方自治論』	福島康仁編
	備考			
参考書	『必携自治体職員ハンドブック』公職研			
オフィスアワー	原則水曜日の昼休みとする。事前にメールなどでアポイントメントをとること（別の人の相談がはいっていたり、研究室にいないことがあります）。場所は本館６階の研究室。fukushima.yasuhito@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	地方自治は必要なのかを考えてくる（２時間）
	授業内容	**ガイダンス 地方自治とはなにか**
	事後学習	理想的な地方自治について考える（２時間）
2	事前学習	憲法の条文を読んで、その内容を理解してくる（２時間）
	授業内容	**地方自治の意義 日本国憲法と地方自治**
	事後学習	日本国憲法での位置づけについて再度検証する。（２時間）
3	事前学習	地方分権の意義について考えてくる（２時間）
	授業内容	**国と地方自治体の役割分担**
	事後学習	国はどのようなことをすべきか（２時間）

4	事前学習	地方自治体の種類について調べてくる（２時間）
	授業内容	**地方自治体の種類と区域**
	事後学習	地方自治体の権限について理解をしているか検証する（２時間）
5	事前学習	住民の役割について理解する（２時間）
	授業内容	**地方自治体住民と住民自治**
	事後学習	住民の役割と課題について理解する（２時間）
6	事前学習	自治権について地方自治法を読んで切る（２時間）
	授業内容	**地方自治体の自治権**
	事後学習	自治権とはなにか定義する（２時間）
7	事前学習	地方自治法の議決機関に関する条文を読んでくる（２時間）
	授業内容	**議決機関**
	事後学習	議決機関の課題について整理し、自分なりの考えを整理する（２時間）
8	事前学習	地方自治法の執行機関に関する条文を読んでくる（２時間）
	授業内容	**執行機関**
	事後学習	執行機関の課題について整理し、自分なりの考えを整理する（２時間）
9	事前学習	地方自治法の長と議会の関係に関する条文を読んでくる（２時間）
	授業内容	**長と議会の関係**
	事後学習	長と議会の課題について整理し、自分なりの考えを整理する（２時間）
10	事前学習	財務管理に関する条文を読んでくる（２時間）
	授業内容	**地方自治体の財務管理**
	事後学習	財務管理の課題について整理し、自分なりの考えを整理する（２時間）
11	事前学習	地方自治法の公の施設に関する条文を読んでくる（２時間）
	授業内容	**公の施設と指定管理者制度**
	事後学習	公の施設と指定管理者制度の課題について整理し、自分なりの考えを整理する（２時間）
12	事前学習	国の関与に関する条文を読んでくる（２時間）
	授業内容	**国の関与と地方自治体**
	事後学習	国の関与について整理し、自分なりの考えを整理する（２時間）
13	事前学習	都道府県と市町村の関係に関する条文を読んでくる（２時間）
	授業内容	**都道府県と市町村**
	事後学習	都道府県と市町村の関係を整理する（２時間）
14	事前学習	地方行政の方向について検討する（２時間）
	授業内容	**地方行政の動向**
	事後学習	地方行政の動向について最近の事例をふくめ整理する（２時間）
15	事前学習	地方行財政の課題を自分で整理してみる（２時間）
	授業内容	**地方行財政の現状と課題**
	事後学習	まとめ（２時間）

科目名	地方自治論特殊講義Ⅱ	担当者	林　紀行	期間	後期	単位数	2

授業概要	本講義では、地方自治体の行政運営に関する枠組みを理解した上で、その現実と地方自治体が直面する課題についての検討を行う。
授業目的・到達目標	地方自治に関わる理論と現実を分析し、地方自治体が抱える問題の要因、解決方法の検討ができるようになることを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰは、政治学専攻２，３，４，７である。
履修条件	履修に条件は設けない。各回の授業にきちんと出席すること。テキストや論文をきちんと検討したうえで、まとめること。
授業方法	原則として、講義形式で行う。また、教科書の内容を扱った次の回は、学生によるレポートの報告を行ったうえで、教員と受講者のディスカッションを行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	
	平 常 評 価	100%	講義への参加状況、研究報告（プレゼン）で総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2021	東洋経済新報社	テキストブック　地方自治【第３版】	北山俊哉・稲継裕昭
	備考	【第３版】を用意すること。		

参 考 書	教科書の各章にある【文献案内】を参照すること。
オフィスアワー	火曜日２限とする。時間調整をするために、事前に次のメールに予約をすること。【連絡先】hayashi.noriyuki@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを確認し、教科書の第8章から第14章まで目を通しておくこと。（120分）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	地方自治体が行っている行政改革について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
2	事前学習	国と地方の権限配分について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**財政：地方財政、地方交付税、自治体財政の健全化**
	事後学習	地方自治体の財政状況について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
3	事前学習	テキスト第8章にある研究課題に関するレポートを作成する。（120分）
	授業内容	**公共施設、地方交付税、消費税**
	事後学習	講義を受けた結果を反映し、レポートの内容を修正・追加しておくこと。（120分）

4	事前学習	戦前の地方自治制度について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**地方自治の歴史：戦前の制度、戦後の制度改革**
	事後学習	現在行われている改革について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
5	事前学習	テキスト第9章にある研究課題に関するレポートを作成する。（120分）
	授業内容	**市町村合併、GHQの政策と憲法、集権と分権**
	事後学習	講義を受けた結果を反映し、レポートの内容を修正・追加しておくこと。（120分）
6	事前学習	地方自治体の組織について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**政府間関係：階層構造、諸外国の地方自治、分権改革**
	事後学習	第一次、第二次分権改革について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
7	事前学習	テキスト第10章にある研究課題に関するレポートを作成する。（120分）
	授業内容	**地方六団体、平成の大合併、三位一体の改革**
	事後学習	講義を受けた結果を反映し、レポートの内容を修正・追加しておくこと。（120分）
8	事前学習	地方自治体間の連携について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**圏域・自治体間連携**
	事後学習	大阪都構想について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
9	事前学習	テキスト第11章にある研究課題に関するレポートを作成する。（120分）
	授業内容	**スピルオーバー、連携中枢都市圏、定住自立圏**
	事後学習	講義を受けた結果を反映し、レポートの内容を修正・追加しておくこと。（120分）
10	事前学習	住民参加の仕組みについて調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**公と民：NPM、民間活用**
	事後学習	シビックテックについて調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
11	事前学習	テキスト第12章にある研究課題に関するレポートを作成する。（120分）
	授業内容	**第三セクター、指定管理者制度、水道事業**
	事後学習	講義を受けた結果を反映し、レポートの内容を修正・追加しておくこと。（120分）
12	事前学習	稟議制度について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**情報化：情報化の展開と課題**
	事後学習	行政における生成ＡＩの活用について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
13	事前学習	テキスト第13章にある研究課題に関するレポートを作成する。（120分）
	授業内容	**地方自治体のHP、地方自治体における情報化の定義と活動**
	事後学習	講義を受けた結果を反映し、レポートの内容を修正・追加しておくこと。（120分）
14	事前学習	自然災害への対応について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**危機管理と災害対応：公助、災害対策基本法、BCP**
	事後学習	新型コロナウイルスへの対応について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
15	事前学習	テキスト第14章にある研究課題に関するレポートを作成する。（120分）
	授業内容	**ハザードマップ、防災計画、災害時の連携**
	事後学習	講義を受けた結果を反映し、レポートの内容を修正・追加しておくこと。（120分）

科目名	地方自治論特殊講義Ⅱ	担当者	福島　康仁	期間	後期	単位数	2

授業概要	地方分権時代が名実ともに進み、自治体、住民など地域主体として自己選択の場が増え、自己責任が重く圧し掛かってきているが、本講義ではそもそも地方自治の本質とあり方、また課題について検討する。
授業目的・到達目標	現代地方自治の課題を表面的ではなく根本的に分析できる能力と、その処方箋を自らが考え、他人に理路整然と分かりやすく伝えることができる。関連するＤＰ・ＣＰ政治学専攻２，３，４，７
履修条件	特に定めないが、地方自治に関心をもって講義に臨むこと。
授業方法	教員による講義、学生による研究報告（プレゼン）というように双方向性のある講義を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	0%	
	平 常 評 価	100%	講義への参加状況、研究報告（プレゼン）、リサーチペーパーで総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし。		

参 考 書	福島康仁編『地方自治論』弘文堂、2018年。
オフィスアワー	原則水曜日の昼休みとする。事前にメールなどでアポイントメントをとること（別の人の相談がはいっていたり、研究室にいないことがあります）。場所は本館６階の研究室。fukushima.yasuhito@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	問題関心を明確にしてくること（２時間）
	授業内容	**授業方法の説明、評価方法**
	事後学習	自分の問題関心と講義の内容を確認し、自分の研究の中の位置づけを確認する（２時間）
2	事前学習	地方分権改革によって生じた地方自治体の動向について勉強する（２時間）
	授業内容	**地方分権下における地方自治体**
	事後学習	地方分権改革で地方自治体の行動形態についてまとめる（２時間）
3	事前学習	前週の受講生のテーマに沿って予習をしてくる（２時間）
	授業内容	**研究課題に対する報告、討論、講評（１）**
	事後学習	研究報告を聞いたうえで、討論、論評から自らの研究に取り入れるものをレポートなどにまとめておくこと（２時間）

4	事前学習	前週の受講生のテーマに沿って予習をしてくる（２時間）
	授業内容	**研究課題に対する報告、討論、講評（２）**
	事後学習	研究報告を聞いたうえで、討論、論評から自らの研究に取り入れるものをレポートなどにまとめておくこと（２時間）
5	事前学習	前週の受講生のテーマに沿って予習をしてくる（２時間）
	授業内容	**研究課題に対する報告、討論、講評（３）**
	事後学習	研究報告を聞いたうえで、討論、論評から自らの研究に取り入れるものをレポートなどにまとめておくこと（２時間）
6	事前学習	前週の受講生のテーマに沿って予習をしてくる（２時間）
	授業内容	**研究課題に対する報告、討論、講評（４）**
	事後学習	研究報告を聞いたうえで、討論、論評から自らの研究に取り入れるものをレポートなどにまとめておくこと（２時間）
7	事前学習	前週の受講生のテーマに沿って予習をしてくる（２時間）
	授業内容	**研究課題に対する報告、討論、講評（５）**
	事後学習	研究報告を聞いたうえで、討論、論評から自らの研究に取り入れるものをレポートなどにまとめておくこと（２時間）
8	事前学習	前週の受講生のテーマに沿って予習をしてくる（２時間）
	授業内容	**研究課題に対する報告、討論、講評（６）**
	事後学習	研究報告を聞いたうえで、討論、論評から自らの研究に取り入れるものをレポートなどにまとめておくこと（２時間）
9	事前学習	前週の受講生のテーマに沿って予習をしてくる（２時間）
	授業内容	**研究課題に対する報告、討論、講評（７）**
	事後学習	研究報告を聞いたうえで、討論、論評から自らの研究に取り入れるものをレポートなどにまとめておくこと（２時間）
10	事前学習	前週の受講生のテーマに沿って予習をしてくる（２時間）
	授業内容	**研究課題に対する報告、討論、講評（８）**
	事後学習	研究報告を聞いたうえで、討論、論評から自らの研究に取り入れるものをレポートなどにまとめておくこと（２時間）
11	事前学習	いままでの議論を踏まえて、政策課題を各自感がてくること（２時間）
	授業内容	**政策課題の抽出**
	事後学習	議論を通じた政策課題をまとめておくこと（２時間）
12	事前学習	それぞれの政策課題を分析してくること（２時間）
	授業内容	**政策課題の分析**
	事後学習	政策課題の分析をそれぞれまとめておくこと（２時間）
13	事前学習	リサーチペーパーの作成方法について参考書などで調べてみる（２時間）
	授業内容	**リサーチペーパーの作成方法**
	事後学習	自らリサーチペーパーの概要を作成してみる（２時間）
14	事前学習	リサーチペーパーの概要を作成してくる（２時間）
	授業内容	**リサーチペーパーの作成の留意点**
	事後学習	講義をもとに修正する（２時間）
15	事前学習	リサーチペーパーを作成し完成させる（２時間）
	授業内容	**リサーチペーパーの作成、提出**
	事後学習	議論、検討を踏まえてリサーチペーパーを修正完成させる（２時間）

科目名	政治過程論特殊講義Ⅰ	担当者	岩井　奉信	期間	前期	単位数	2

授業概要	本授業では、現代日本をフィールドとして、政治の実態について、実証的に研究していく。現代日本の政治過程に関する著作や論文を輪読した上で、履修者が個々の修士論文や関心事項にもとづいて、研究テーマを定め、実際の政治過程に関して、実証的な分析を体験していく。2024年度については、「政治改革」「政治資金」などをテーマとして扱うことを考えている。
授業目的・到達目標	日本政治の動態について、実証的に分析することを通じて、現代政治の実態を知ると同時に、それぞれの研究を通じて、政治過程や政治行動に関する実証的な分析方法についても習得することを目的とする。関連するＤＰ・ＣＰ政治学専攻２，３，６
履修条件	現代日本政治について関心のあることが最低限の履修条件である。
授業方法	著作や論文の輪読及び各自の研究についての個人発表などで授業を進めていく。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	輪読における著作や論文の読み込み、個人発表への取り組みと報告内容についての評価。

教科書	年	出版社	書名	著者名
			教科書、課題指定図書は、履修者と協議の上、決定する	
	備考			

参 考 書	授業の時に指示する。
オフィスアワー	木曜日　昼休み　２号館大学院教員室

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	日本政治に対する深い関心を持つことが求められる。（２時間）
	授業内容	**政治過程論に関する共通認識を得るための議論及び各自の研究テーマや関心領域の聞き取り**
	事後学習	現代日本政治のどこに注目するかの問題意識を醸成する。（２時間）
2	事前学習	日本政治に対する深い関心を持つことが求められる。（２時間）
	授業内容	**前期の授業テーマに関する基本的認識を共有するための講義**
	事後学習	現代日本政治のどこに注目するかの問題意識を醸成する。（２時間）
3	事前学習	指定課題図書を事前に熟読しておくこと。（２時間）
	授業内容	**指定課題図書の輪読（１）**
	事後学習	課題図書の各章について、再度、読み直し、問題の所在を確認すること。（２時間）

4	事前学習	指定課題図書を事前に熟読しておくこと。（２時間）
	授業内容	**指定課題図書の輪読（２）**
	事後学習	課題図書の各章について、再度、読み直し、問題の所在を確認すること。（２時間）
5	事前学習	指定課題図書を事前に熟読しておくこと。（２時間）
	授業内容	**指定課題図書の輪読（３）**
	事後学習	課題図書の各章について、再度、読み直し、問題の所在を確認すること。（２時間）
6	事前学習	指定課題図書を事前に熟読しておくこと。（２時間）
	授業内容	**指定課題図書の輪読（４）**
	事後学習	課題図書の各章について、再度、読み直し、問題の所在を確認すること。（２時間）
7	事前学習	指定課題図書を事前に熟読しておくこと。（２時間）
	授業内容	**指定課題図書の輪読（５）**
	事後学習	課題図書の各章について、再度、読み直し、問題の所在を確認すること。（２時間）
8	事前学習	指定課題図書を事前に熟読しておくこと。（２時間）
	授業内容	**指定課題図書の輪読（６）**
	事後学習	課題図書の各章について、再度、読み直し、問題の所在を確認すること。（２時間）
9	事前学習	指定課題図書を事前に熟読しておくこと。（２時間）
	授業内容	**指定課題図書の輪読（７）**
	事後学習	課題図書の各章について、再度、読み直し、問題の所在を確認すること。（２時間）
10	事前学習	指定課題図書を事前に熟読しておくこと。（２時間）
	授業内容	**指定課題図書の輪読（８）**
	事後学習	課題図書の各章について、再度、読み直し、問題の所在を確認すること。（２時間）
11	事前学習	指定課題図書を事前に熟読しておくこと。（２時間）
	授業内容	**指定課題図書の輪読（９）**
	事後学習	課題図書の各章について、再度、読み直し、問題の所在を確認すること。（２時間）
12	事前学習	指定課題図書を事前に熟読しておくこと。（２時間）
	授業内容	**指定課題図書の輪読（１０）**
	事後学習	課題図書の各章について、再度、読み直し、問題の所在を確認すること。（２時間）
13	事前学習	指定課題図書を事前に熟読しておくこと。（２時間）
	授業内容	**指定課題図書の輪読（１１）**
	事後学習	課題図書の各章について、再度、読み直し、問題の所在を確認すること。（２時間）
14	事前学習	指定課題図書を事前に熟読しておくこと。（２時間）
	授業内容	**指定課題図書の輪読（１２）**
	事後学習	課題図書の各章について、再度、読み直し、問題の所在を確認すること。（２時間）
15	事前学習	指定課題図書について、感想を考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**授業の総括**
	事後学習	政治改革の意義と課題について、再認識し、新たな問題意識を持つこと。（２時間）

科目名	政治過程論特殊講義Ⅱ	担当者	岩井　奉信	期間	後期	単位数	2

授業概要	本授業では、現代日本をフィールドとして、政治の実態について、実証的に研究していく。現代日本の政治過程に関する著作や論文を輪読した上で、履修者が個々の修士論文や関心事項にもとづいて、研究テーマを定め、実際の政治過程に関して、実証的な分析を体験していく。具体的なテーマや課題図書については、受講者と相談の上で決定する。
授業目的・到達目標	日本政治の動態について、実証的に分析することを通じて、現代政治の実態を知ると同時に、それぞれの研究を通じて、政治過程や政治行動に関する実証的な分析方法についても習得することを目的とする。 関連するＤＰ・ＣＰ政治学専攻２，３，６
履修条件	現代日本政治について関心のあることが最低限の履修条件である。
授業方法	著作や論文の輪読及び各自の研究についての個人発表などで授業を進めていく。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	輪読における著作や論文の読み込み、個人発表への取り組みと報告内容についての評価。

教科書	年	出版社	書名	著者名
			教科書、課題指定図書については、履修者と協議の上、決定する。	
	備考	特になし。		

参考書	授業の時に指示する。
オフィスアワー	木曜日　昼休み　２号館大学院教員室

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	日本政治に対する深い関心を持つことが求められる。（２時間）
	授業内容	**政治過程論に関する共通認識を得るための議論及び各自の研究テーマや関心領域の聞き取り**
	事後学習	現代日本政治のどこに注目するかの問題意識を醸成する。（２時間）
2	事前学習	日本政治に対する深い関心を持つことが求められる。（２時間）
	授業内容	**前期の授業テーマに関する基本的認識を共有するための講義**
	事後学習	現代日本政治のどこに注目するかの問題意識を醸成する。（２時間）
3	事前学習	指定課題図書を事前に熟読しておくこと。（２時間）
	授業内容	**指定課題図書の輪読（１）**
	事後学習	課題図書の各章について、再度、読み直し、問題の所在を確認すること。（２時間）

4	事前学習	指定課題図書を事前に熟読しておくこと。（２時間）
	授業内容	**指定課題図書の輪読（２）**
	事後学習	課題図書の各章について、再度、読み直し、問題の所在を確認すること。（２時間）
5	事前学習	指定課題図書を事前に熟読しておくこと。（２時間）
	授業内容	**指定課題図書の輪読（３）**
	事後学習	課題図書の各章について、再度、読み直し、問題の所在を確認すること。（２時間）
6	事前学習	指定課題図書を事前に熟読しておくこと。（２時間）
	授業内容	**指定課題図書の輪読（４）**
	事後学習	課題図書の各章について、再度、読み直し、問題の所在を確認すること。（２時間）
7	事前学習	指定課題図書を事前に熟読しておくこと。（２時間）
	授業内容	**指定課題図書の輪読（５）**
	事後学習	課題図書の各章について、再度、読み直し、問題の所在を確認すること。（２時間）
8	事前学習	指定課題図書を事前に熟読しておくこと。（２時間）
	授業内容	**指定課題図書の輪読（６）**
	事後学習	課題図書の各章について、再度、読み直し、問題の所在を確認すること。（２時間）
9	事前学習	指定課題図書を事前に熟読しておくこと。（２時間）
	授業内容	**指定課題図書の輪読（７）**
	事後学習	課題図書の各章について、再度、読み直し、問題の所在を確認すること。（２時間）
10	事前学習	指定課題図書を事前に熟読しておくこと。（２時間）
	授業内容	**指定課題図書の輪読（８）**
	事後学習	課題図書の各章について、再度、読み直し、問題の所在を確認すること。（２時間）
11	事前学習	指定課題図書を事前に熟読しておくこと。（２時間）
	授業内容	**指定課題図書の輪読（９）**
	事後学習	課題図書の各章について、再度、読み直し、問題の所在を確認すること。（２時間）
12	事前学習	指定課題図書を事前に熟読しておくこと。（２時間）
	授業内容	**指定課題図書の輪読（１０）**
	事後学習	課題図書の各章について、再度、読み直し、問題の所在を確認すること。（２時間）
13	事前学習	指定課題図書を事前に熟読しておくこと。（２時間）
	授業内容	**指定課題図書の輪読（１１）**
	事後学習	課題図書の各章について、再度、読み直し、問題の所在を確認すること。（２時間）
14	事前学習	指定課題図書を事前に熟読しておくこと。（２時間）
	授業内容	**指定課題図書の輪読（１２）**
	事後学習	課題図書の各章について、再度、読み直し、問題の所在を確認すること。（２時間）
15	事前学習	指定課題図書について、感想を考えておくこと。（２時間）
	授業内容	**授業の総括**
	事後学習	日本の政治過程を学ぶ意義と課題について、再認識し、新たな問題意識を持つこと。（２時間）

科目名	公共政策論特殊講義Ⅰ	担当者	水戸　克典	期間	前期	単位数	2

授業概要	本講義では､国会を中心とした公共政策の形成過程に焦点を当て、その特質を解説しながら、日本政治の問題と課題について多面的に検討していきます。本講義の履修を通じ、公共政策に関する現状や問題について自分の言葉で説明できるようになる力を養成します。
授業目的・到達目標	現代の公共政策やその形成過程の実態を理解しつつ、その課題や改革の方向性について論理的に説明できるようになることを目標とします。 関連するDP・CP政治学専攻１，２，３
履修条件	報告（複数回）するのは勿論のこと、授業内の討議に積極的に参加することが求められます。※履修する場合、他の人の意見を否定することに終始したり、議論そのものをクラッシュさせるような行為はご遠慮ください。
授業方法	毎回、報告者による発表の後、履修者全員で討議し、政策の形成過程に関する理解を深めていきます。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	事前準備をした上で、授業内の討議に積極的に参加することが求められます。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし		

参 考 書	授業中に適宜紹介します。
オフィスアワー	金曜日１２：１５～１２：５５　研究室 ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	履修を希望する場合は、初回のガイダンスに必ず出席すること（2時間）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	ガイダンスで示された履修条件を確認すること（2時間）
2	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**現代政治と議会の機能**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
3	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**議院内閣制下の議会**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）

4	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**議会類型論**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
5	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**戦前の帝国議会と戦後の国会**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
6	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**国会の制度と慣行**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
7	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**内閣提出法案と議員提出法案**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
8	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**会期制の問題と課題**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
9	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**委員会審査と本会議の審議**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
10	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**二院制とわが国の参議院**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
11	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**与野党の立法行動**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
12	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**議院運営委員会と国会対策委員会**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
13	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**党議決定と党議拘束**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
14	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**国会無能論と国会機能論**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
15	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**前期まとめ**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）

科目名	公共政策論特殊講義Ⅱ	担当者	水戸　克典	期間	後期	単位数	2

授業概要	前期の特殊講義Ⅰに引き続き､国会を中心とした公共政策の形成過程に焦点を当て、その特質を解説しながら、日本政治の問題と課題について多面的に検討していきます。本講義の履修を通じ、公共政策に関する現状や問題について自分の言葉で説明できるようになる力を養成します。
授業目的・到達目標	前期に引き続き、現代の公共政策やその形成過程の実態を理解しつつ、その課題や改革の方向性について論理的に説明できるようになることを目標とします。 関連するDP・CP政治学専攻２，３，４
履修条件	報告（複数回）するのは勿論のこと、授業内の討議に積極的に参加することが求められます。※履修する場合、他の人の意見を否定することに終始したり、議論そのものをクラッシュさせるような行為はご遠慮ください。
授業方法	毎回、報告者による発表の後、履修者全員で討議し、政策の形成過程に関する理解を深めていきます。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	事前準備をした上で、授業内の討議に積極的に参加することが求められます。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし		

参 考 書	授業中に適宜紹介します。
オフィスアワー	金曜日１２：１５～１２：５５　研究室 ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	履修を希望する場合には、初回のガイダンスに必ず出席すること（2時間）
	授業内容	**法律の立案と官僚の役割**
	事後学習	ガイダンスで示された履修条件を確認すること（2時間）
2	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**法律の立案と審議会**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
3	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**内閣法制局と衆参法制局**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）

4	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**与党審査（１）**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
5	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**与党審査（２）**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
6	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**族議員の登場とその役割**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
7	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**ポスト５５年体制下の与党審査**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
8	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**政府手続き―事務次官等会議**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
9	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**政府手続き―閣議決定**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
10	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**予算編成（１）**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
11	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**予算編成（２）**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
12	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**国会と決算**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
13	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**国会とマス・メディア**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
14	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**国会改革**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
15	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**まとめ**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）

科目名	財政学特殊講義Ⅰ	担当者	川又　祐	期間	前期	単位数	2

授業概要	和訳（輪読）した自分の文章が正しいものか、受講生が協力、共同して点検し、完成訳を作成する。
授業目的・到達目標	外国文献を正確に精密に読解できる能力の獲得を目標とする。 関連するDP・CP政治学専攻1, 4, 5, 6, 8
履修条件	特になし。
授業方法	前学期後学期とも、受講生に和訳（輪読）を報告してもらう。演習・輪読の形式をとるので、辞書を携行すること。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	課題報告60%　参加度40%

教科書	年	出版社	書名	著者名
	1958	Macmillan	Classics in the Theory of Public Finance	Musgrave and Peacock
	備考	教科書の必要な個所をコピー配布する。		

参考書	授業中に紹介する
オフィスアワー	毎週金曜日昼休み、本館8階の研究室で質問・相談に応じます。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	財政学の教科書を閲読する（２時間）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	和訳の技法を確認する。（２時間）
2	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**租税論1　A.ワグナーの租税原則**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）
3	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**租税論2　A.ワグナーの租税原則**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）

4	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**経費論1　M.パンタレオーニの経費論**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）
5	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**経費論2　M.パンタレオーニの経費論**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）
6	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**課税論1　L.v.シュタインの租税論**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）
7	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**課税論2　L.v.シュタインの租税論**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）
8	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**公共財1　U.マッツォーラの公共財価格の形成**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）
9	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**公共財2　U.マッツォーラの公共財価格の形成**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）
10	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**累進課税1　A.J.C.ステュアートの租税論**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）
11	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**累進課税2　A.J.C.ステュアートの租税論**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）
12	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**公正な課税1　K.ヴィクセルの新原則**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）
13	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**公正な課税2　K.ヴィクセルの新原則**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）
14	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**公正な課税３　K.ヴィクセルの新原則**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）
15	事前学習	後学期に向けノートを整理する。（２時間）
	授業内容	**まとめ**
	事後学習	後学期に向けノートを整理する。（２時間）

科目名	財政学特殊講義Ⅱ	担当者	川又　祐	期間	後期	単位数	2

授業概要	和訳（輪読）した自分の文章が正しいものか、受講生が協力、共同して点検し、完成訳を作成する。
授業目的・到達目標	外国文献を正確に精密に読解できる能力の獲得を目標とする。 関連するDP・CP政治学専攻1，4，5，6，8
履修条件	特になし。
授業方法	前学期後学期とも、受講生に和訳（輪読）を報告してもらう。演習・輪読の形式をとるので、辞書を携行すること。

成績評価

種別	割合	評価方法
定 期 試 験		
平 常 評 価	100%	課題報告60%　参加度40%

教科書

年	出版社	書名	著者名
1958	Macmillan	Classics in the Theory of Public Finance	Musgrave and Peacock

備考	教科書の必要な個所をコピー配布する。
参 考 書	授業中に紹介する
オフィスアワー	毎週金曜日昼休み、本館8階の研究室で質問・相談に応じます。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	前学期の課題を復習する。（２時間）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	自分の当番箇所を確認する（２時間）
2	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**純粋租税論１　F.Y.エッジワース**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）
3	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**純粋租税論２　F.Y.エッジワース**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）

4	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**純粋租税論３　F.Y.エッジワース**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）
5	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**財政原則1　G.モンテマルティニの純粋理論**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）
6	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**財政原則2　G.モンテマルティニの純粋理論**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）
7	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**租税論1　P.ルロア・ボーリューの総論**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）
8	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**租税論2　P.ルロア・ボーリューの総論**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）
9	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**公的欲求1　E.バローネの公的欲求**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）
	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
10	**授業内容**	**公的欲求2　E.バローネの公的欲求**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）
11	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**課税の公正1　E.リンダールの租税論**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）
12	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**課税の公正2　E.リンダールの租税論**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）
13	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**租税論1　E.ザックスの租税評価論**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）
14	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**租税論2　E.ザックスの租税評価論**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）
15	事前学習	当該文章を和訳する。（２時間）
	授業内容	**まとめ**
	事後学習	輪読後の和訳を確認する。（２時間）

科目名	経済政策特殊講義Ⅰ	担当者	稲葉　陽二	期間	前期	単位数	2

授業概要	外部性を伴う信頼・規範・ネットワークであるソーシャル・キャピタル（社会関係資本以下SCと略）は社会経済活動のかなめです。特に、市場メカニズムが必ずしも十分に機能しない健康、福祉、生活の安全、開発経済、組織内での意思決定等の分野ではSCが悪い影響も含め重要な意味を持ちます。本講座ではSCの内容とその影響、およびそれに影響を与える諸要因の分析など、SC研究の基礎を学びます。DP・CP1,2,4。
授業目的・到達目標	本講義は、以下の問題意識を持ち、研究者としてのSCの理論的基礎を習得することを目標とします。 【問題意識１】　ガバナンスや行動変容等の重要概念が機能する前提条件（ミッシングリンク）としてSCが必要である。組織のガバナンスや行動変容は国やコミュニティ、組織などのレベルと、個人レベルそれぞれのSCによって影響される。例えば、健康のために行動変容が提唱されるが、多くは長続きしない。コロナ禍のような生命にかかわる事態でさえ、SCがなければ人々にマスク一つさえ装着させることができない。【問題意識２】　現在、組織の現場では様々な理不尽が生じており、しかもこれに乗じた経営者やリーダーの腐敗（社会の理不尽）が生じているが、現行の法理ではこれを正すことが難しい。しかし、SCの理論から組織を分析すれば、経営者／リーダーの役割をより明確に把握でき、したっがてその責任もより明らかにする可能性がある。関連するＤＰ・ＣＰ政治学専攻１，２，４
履修条件	なし。ただし、適宜原著論文を配布する講義形式であるが、受講者の質疑応答について他の受講者も応答するアクティブ・ラーニング形式であるため、クラスコントリビューションを期待する。
授業方法	講義形式とアクティブラーニング形式。対面授業であるが、Zoomにより録画を作成するので、受講者の希望に応じてリモート受講も認める。前半は埴淵知哉先生の『社会関係資本の地域分析』を用いて社会関係資本論を概観し、後半は稲葉の『日本の違和感―社会関係資本で解く日本の理不尽・現場の理不尽』（仮 ）を用いて、社会関係資本の定義について解説する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	クラスコントリビューションによって評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2024(近刊)	東大出版会	『日本の違和感―社会関係資本で解く日本の理不尽・現場の理不尽』（仮 ）	稲葉陽二
	2018	ナカニシヤ書店	『社会関係資本の地域分析』	埴淵知哉
	備考	『社会関係資本の地域分析』は絶版のため著者に許可を得てPDFを配布する。		

参 考 書	稲葉陽二（2011）『ソーシャル・キャピタル入門』中公新書 Putnam(2020『Bowling Alone　20th anniversary edition』
オフィスアワー	毎週金曜日20時から21時Zoomにて実施。 事前アポイントメントは不要。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	『社会関係資本の地域分析』第1章「社会関係資本論の研究動」を読んでおいてください。（２時間）
	授業内容	**SCはどのような概念か　基本的問題意識の確認と社会関係資本論の研究動向の紹介をおこないます。放送大学原田順子先生担当講座における、稲葉の解説録画（17分）の視聴を含みます。**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（２時間）
2	事前学習	『社会関係資本の地域分析』第２章「測定をめぐる諸問題」を読んでおいてください。（２時間）
	授業内容	**測定の意味、概念の細分化とその整合性、下位概念の枠組み、概念が機能する「場」の検討、グローバルとローカルの区別、測定の基本的枠組み（2時間）**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（２時間）
3	事前学習	『社会関係資本の地域分析』第３章「地域変数の諸問題」を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	**地域の操作化、集計単位をめぐる問題、社会関係資本論における地域単位、地域単位をどう決めるか、地理的文脈の問題（2時間）**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（２時間）

4	事前学習	1章から第3章までの復讐。（2時間）
	授業内容	**外部講師を招いての公開授業。詳細は3月末までに決定。テーマは社会関係資本の研究方法。**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（２時間）
5	事前学習	『社会関係資本の地域分析』第４章「地理的・歴史的な規定要因」を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	**社会関係資本の規定要因の概観：社会関係資本が豊な場所はどこか？地域差の意味、都市化と郊外化、近隣に建造環境、歴史的経緯の影響、日本の特殊性。**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（２時間）
6	事前学習	『社会関係資本の地域分析』第5章「都市化・郊外化」を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	**日米主要データにみる都市化との関連、地域特性（文脈的要因）の分析方法、都市化・郊外化の指標、データの概観、都市化・郊外化による社会関係資本の地域差、都市対農村か都心対郊外か。**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（２時間）
7	事前学習	『社会関係資本の地域分析』第6章「ウオーカビリティ」・第7章「開発時期と歴史的経緯」補論２「近隣の社会的断片化指標」を読んでおいてください。
	授業内容	**ウオーカビリティの測定、ウオーカビリティによる社会関係資本の地域差、「地域の年齢」のはかり方、開発時期による社会関係資本の違い、近隣の断片化指標**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（２時間）
8	事前学習	『社会関係資本の地域分析』第4章から第7章の復讐をお願いします。公開授業講師より配布資料あり（2時間）ただし、講師のご都合により日時変更の可能性があります。
	授業内容	**外部講師を招いての公開授業。詳細は3月末までに決定。テーマは社会関係資本の規定要因**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（２時間）
9	事前学習	『社会関係資本の地域分析』第8章「曖昧さ」と「数量化」の構図を読んでおいてください。
	授業内容	**数量化の進展とその認識論的前提、数量化の困難さに起因する客観主義の深化、曖昧さをめぐる論争、**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（２時間）
10	事前学習	『社会関係資本の地域分析』第9章｛地域問題関心」補論3「保健師の知己診断と社会関係資本」を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	**社会関係資本の実証分析の実例の解説**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（２時間）
11	事前学習	『社会関係資本の地域分析』第8章から第9章、補論3を復讐しておいてください。公開授業講師より配布資料あり（2時間）ただし、講師のご都合により日時変更の可能性があります。さい。（2時間）
	授業内容	**外部講師を招いての公開授業。詳細は3月末までに決定。テーマは社会関係資本の実証研究の実施・分析方法について**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（２時間）
12	事前学習	『日本の違和感―社会関係資本で解く日本の理不尽・現場の理不尽』序章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	**講師が感じる日本の経済、社会活動のおける「違和感」の実例をあげ、筆者の問題意識に確認をします。**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（２時間）
13	事前学習	『日本の違和感―社会関係資本で解く日本の理不尽・現場の理不尽』第1章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	**社会関係資本の計測についてのこれまでの手法、社会関係資本水準の国際比較、社会関係資本低迷の理由－暫定的な考察 、ネットワークからの視点　超高齢化社会の進展、歴史的・文化的経緯と関係流動性、大守の社会的選択仮説**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（２時間）
14	事前学習	『日本の違和感―社会関係資本で解く日本の理不尽・現場の理不尽』第２章「社会関係資本とはなにか」を読んでおいてください （2時間）
	授業内容	**社会関係資本研究の潮流－なぜコールマンをベンチマークとするのか、コールマンのボート、ジェームズ・コールマンの社会関係資本論、ロバート・パットナムの社会関係資本論、Making Democracy Work、Bowling Alone、エリノア・オストロムの社会関係資本論、なぜ社会関係資本が必要だったのか**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（２時間）
15	事前学習	『日本の違和感―社会関係資本で解く日本の理不尽・現場の理不尽』第3章「3人の碩学からなにを学ぶのか　定義についての考察（2時間）を読んでおいてください。
	授業内容	**コールマン、パットナム、オストロム3人に碩学の社会関係資本論を起点に稲葉の社会関係資本の定義について解説します。**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（２時間）

科目名	経済政策特殊講義Ⅰ	担当者	横溝　えりか	期間	前期	単位数	2

授業概要	この経済政策特殊講義では国際経済政策を学びます。前期開講の経済政策特殊講義Ⅰでは国際貿易政策を、後期開講の経済政策特殊講義Ⅱでは国際マクロ経済政策を学びます。
授業目的・到達目標	国際貿易政策の理論的基礎を習得することを目標とする。 関連するDP・CP 政治学専攻1,2,4
履修条件	特になし
授業方法	講義形式で行うが、各自、講義中に言及する原著論文も講読することで、講義内容のさらなる理解・展開を期待する。 面接授業をベースに、オンライン会議システム「Zoom」による受講希望者がいる場合にはZoomを併用した授業を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	講義内容の理解、クラスへの参加と提出レポートとを合わせて、総合的に判断する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	丸善出版	クルーグマン 国際経済学 理論と政策 上 貿易編	クルーグマン/オブズフェルド他
	備考			

参考書	クルグマン/オブズフェルド/メリッツ『クルーグマン 国際経済学　理論と政策　下 金融編』丸善出版、2017年。
オフィスアワー	授業期間中の水曜日(12:20～50) 本館9階研究室　事前にアポイントメントをとること　yokomizo.erika NUメール

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章冒頭にある導入説明を読む。（２時間）
	授業内容	経済政策特殊講義Ⅰを受講するにあたって 講義テーマや概要、講義スケジュール、成績評価の方法、他の講義科目との関連を含めて、経済政策特殊講義Ⅰの学習方法について説明し、受講生が講義を受ける準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（２時間）
2	事前学習	教科書9章を利用する。（２時間）
	授業内容	貿易政策のツール　1 基本的な関税の分析
	事後学習	教科書9章、ノート、原著論文等を利用する。（２時間）
3	事前学習	教科書9章を利用する。（２時間）
	授業内容	貿易政策のツール　2 関税の費用と便益
	事後学習	教科書9章、ノート、原著論文等を利用する。（２時間）

4	事前学習	教科書9章を利用する。（２時間）
	授業内容	**貿易政策のツール　3** **関税以外の貿易政策のツール**
	事後学習	教科書9章、ノート、原著論文等を利用する。（２時間）
5	事前学習	教科書10章を利用する。（２時間）
	授業内容	**貿易政策の政治経済　1** **自由貿易支持論**
	事後学習	教科書10章、ノート、原著論文等を利用する。（２時間）
6	事前学習	教科書10章を利用する。（２時間）
	授業内容	**貿易政策の政治経済　2** **国民厚生から見た自由貿易反対論**
	事後学習	教科書10章、ノート、原著論文等を利用する。（２時間）
7	事前学習	教科書10章を利用する。（２時間）
	授業内容	**貿易政策の政治経済　3** **所得分配と貿易政策**
	事後学習	教科書10章、ノート、原著論文等を利用する。（２時間）
8	事前学習	教科書10章を利用する。（２時間）
	授業内容	**貿易政策の政治経済　4** **国際交渉と貿易政策**
	事後学習	教科書10章、ノート、原著論文等を利用する。（２時間）
9	事前学習	教科書10章を利用する。（２時間）
	授業内容	**貿易政策の政治経済　5** **ドーハ・ラウンド**
	事後学習	教科書10章、ノート、原著論文等を利用する。（２時間）
10	事前学習	教科書11章を利用する。（２時間）
	授業内容	**発展途上国の貿易政策　1** **輸入代替工業化**
	事後学習	教科書11章、ノート、原著論文等を利用する。（２時間）
11	事前学習	教科書11章を利用する。（２時間）
	授業内容	**発展途上国の貿易政策　2** **貿易と成長**
	事後学習	教科書11章、ノート、原著論文等を利用する。（２時間）
12	事前学習	教科書12章を利用する。（２時間）
	授業内容	**貿易政策をめぐる論争　1** **貿易政策を支持する経済理論**
	事後学習	教科書12章、ノート、原著論文等を利用する。 （２時間）
13	事前学習	教科書12章を利用する。（２時間）
	授業内容	**貿易政策をめぐる論争　2** **グローバル化と低賃金労働**
	事後学習	教科書12章、ノート、原著論文等を利用する。（２時間）
14	事前学習	教科書12章を利用する。（２時間）
	授業内容	**貿易政策をめぐる論争　3** **グローバル化と環境**
	事後学習	教科書12章、ノート、原著論文等を利用する。（２時間）
15	事前学習	教科書9～12章、ノート、原著論文等を利用する。（２時間）
	授業内容	**理解度の確認**
	事後学習	教科書9～12章、ノート、原著論文等を利用する。（２時間）

科目名	経済政策特殊講義Ⅱ	担当者	稲葉　陽二	期間	後期	単位数	2

授業概要	社会の絆を意味する社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）は社会経済活動の要である。本講義ではその負の側面に焦点をあて、日本の経済・社会の病理を解き明かす。社会関係資本の内容とその影響、規定要因にかんする分析手法など、前期の講座で習得した内容を応用し、より広範な事象を対象に実証分析を学び、政策的含意を検討する。CP・CP1,2,4。
授業目的・到達目標	ソーシャル・キャピタル研究者として実証研究が実施できるようにすることを目標とする。基本的な問題意識は経済政策特殊講義Ⅰに加えて、より学際的な見識を養い、それを社会に実装することができる研究者の育成を目指す。経済社会の諸事象は、単独の学問領域で分析しようとすると自らに都合の良い要素を取り入れ、それ以外の要素を排除し、結果として歪みを生み、社会実装にあたって適切な対応が取れなくなる可能性がある。我々の経済社会は専門の縦糸だけではなく、専門研究から得た知見を制度変更も含めた社会実装するには、人々が納得して協力するようにする横糸も不可欠になる。本講座は縦糸（専門性）も尊重しつつ横糸についての見識を養うため、複数の専門領域にまたがる学際的見識を得ることを目標とする。 関連するＤＰ・ＣＰ政治学専攻１，２，４
履修条件	経済政策特殊講義Ⅰを履修済であることが望ましい
授業方法	講義形式とアクティブラーニング形式。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	クラスコントリビューションおよびソーシャル・キャピタルのケーススタディを１件プレゼンする。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2024（近刊）	東大出版会	『日本の違和感―社会関係資本で解く日本の理不尽・現場の理不尽』　（仮 ）	稲葉陽二
	備考			

参 考 書	稲葉陽二著『ソーシャル・キャピタル入門』中公新書 オープンアクセスの最新論文も適宜紹介・配布する
オフィスアワー	毎週金曜日20時から21時　Zoomにて実施

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	教科書序章から第3章まで目をとおしておいてください
	授業内容	ガイダンスとして、講師のリサーチ・クエスチョンを共有するため、以下の録画を視聴して、意見交換。受講者の希望を伺います。労働政策研究・研究機構　第127回労働政策フォーラム稲葉基調報講演「ソーシャル・キャピタルからみる日本の違和感ー企業に求められる姿勢」https://www.jil.go.jp/event/ro_forum/20230927/video/01.html
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）
2	事前学習	教科書第２章「社会関係資本とはなにか」を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	なぜ社会関係資本という概念を必要としたかの背景と定義のより詳細な再確認確認
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）
3	事前学習	教科書第3章「3人の碩学からなにを学ぶのか　定義についての考察」を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	なぜ、筆者の定義に至ったのかについてのロジックと「心の外部性」についてのより詳細な解説。山岸の「信頼の解き放ち理論への疑問」の提示
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）

4	事前学習	外部講師を招いての公開授業。講師未定。テーマは「外部性」について。
	授業内容	**本講義の主要概念である「心の外部性」について「心の」と「外部性」とに分けてより深く探求する。**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）
5	事前学習	教科書第4章「社会関係資本のダークサイド」第1節「社会関係資本の負の外部性にたいする弱者泣き寝入り仮説」を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	**社会関係資本の負の外部性にたいする弱者泣き寝入り仮説、ケース１　公害被害者泣き寝入りケース、 ケース２　ばいじん排出許可証を被害者である洗濯店が電力会社へ販売するケース、ケース３　排出許可証の価格を可変とした場合、ケース４　セットアップコストが高いケース：集合行為のジレンマ 外部性を通常の社会活動を含めた定義に拡張した場合の含意：社会関係資本の負の外部性にたいする弱者泣き寝入り仮説**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）
6	事前学習	教科書第4章「社会関係資本のダークサイド」第２節以降「社会関係資本の負の外部性、悪用、格差」「ソーシャル・キャピタルと経済格差」を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	**社会関係資本のダークサイドについての６つの切り口 、ソーシャル・キャピタルと経済格差 凸性の含意**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします（2時間）。
7	事前学習	教科書第5章「はかり方と分析の仕方の進歩：社会シミュレーションと計算社会科学の出現」を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	**計算社会科学、潜在連合テスト、WEATの概説**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）
8	事前学習	第6章「過去の実証研究から明らかになったこと―データの整備と理解の深化」を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	**オープンアクセスのパネルデータ整備とその研究成果について解説**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）
9	事前学習	第6章「過去の実証研究から明らかになったこと―データの整備と理解の深化」のなかで「大規模データによる分析紐づけの天才ラジ・チェティ」を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	**チェティの4論文に解説**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）
10	事前学習	教科書5章6章の復讐をお願いします。（2時間）
	授業内容	**外部講師を招いての公開授業。講師未定。テーマは「社会関係資本の規定要因」について**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）
11	事前学習	教科書第6章「社会関係資本を育む」を読んでおいてください（2時間
	授業内容	**社会関係資本の規定要因の解説**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）
12	事前学習	第7章「日本経済・社会を社会関係資本の視点で再考する」を読んでおいて下さい（2時間）
	授業内容	**日本は過去30年間以上にわたり経済が低迷し、特に技術進歩がみられない。その一方で、企業には内部留保がちくせいされるているのに、企業不祥事は枚挙にいとまがない。この、日本の社会の病理を社会関係資本から解説する**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）
13	事前学習	第8章を読んでおいてください（2時間）
	授業内容	**社会関係資本からみた日本の経済社会の問題点とそれらの解決のための施策**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）
14	事前学習	資料を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	**外部から講師を招いた公開授業**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）
15	事前学習	本講義で得た知見をまとめた上で、社会も病理に立ち向かうための施策提案を準備してきてください。
	授業内容	**ディスカッション　受講者より発表ののち、討論**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）

科目名	経済政策特殊講義Ⅱ	担当者	横溝　えりか	期間	後期	単位数	2

授業概要	この経済政策特殊講義では国際経済政策を学びます。前期開講の経済政策特殊講義Ⅰでは国際貿易政策を、 後期開講の経済政策特殊講義Ⅱでは国際マクロ経済政策を学びます。
授業目的・ 到達目標	国際マクロ経済政策の理論的基礎を習得することを目標とする。 関連するDP・CP 政治学専攻1,2,4
履修条件	特になし
授業方法	講義形式で行うが、各自、講義中に言及する原著論文も講読することで、講義内容のさらなる理解・展開を期待する。 面接授業をベースに、オンライン会議システム「Zoom」による受講希望者がいる場合にはZoomを併用した授業を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	講義内容の理解、クラスへの参加と提出レポートとを合わせて、 総合的に判断する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	丸善出版	クルーグマン国際経済学　理論と政策　下 金融編	クルグマン /オブズフェルド 他
	備考			

参 考 書	クルグマン/オブズフェルド/メリッツ『クルーグマン国際経済学　理論と政策　下 金融編』丸善出版、2017年。
オフィス アワー	授業期間中の水曜日(12:20～50) 本館9階研究室　事前にアポイントメントをとること　yokomizo.erika NUメール

【授業計画】

回数		授 業 内 容
1	事前学習	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章冒頭にある導入説明を読む。（２時間）
	授業内容	**経済政策特殊講義Ⅱを受講するにあたって 講義テーマや概要、講義スケジュール、成績評価の方法、他の講義科目との関連を含めて、経済政策特殊講義Ⅱの学習方法について説明し、受講生が講義を受ける準備を具体的に行えるようにする。**
	事後学習	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（２時間）
2	事前学習	教科書19章を利用する。（2時間）
	授業内容	**国際通貨システム　1 開放経済におけるマクロ経済政策の目標**
	事後学習	教科書19章、ノート、原著論文等を利用する。（2時間）
3	事前学習	教科書19章を利用する。（2時間）
	授業内容	**国際通貨システム　2 通貨システムの分類：開放経済の通貨のトリレンマ**
	事後学習	教科書19章、ノート、原著論文等を利用する。（2時間）

4	事前学習	教科書19章を利用する。（2時間）
	授業内容	**国際通貨システム　3** **ブレトンウッズ体制と国際通貨基金(IMF)**
	事後学習	教科書19章、ノート、原著論文等を利用する。（2時間）
5	事前学習	教科書19章を利用する。（2時間）
	授業内容	**国際通貨システム　4** **国内均衡と対外均衡を達成する政策オプションの分析**
	事後学習	教科書19章、ノート、原著論文等を利用する。（2時間）
6	事前学習	教科書20章を利用する。（2時間）
	授業内容	**金融のグローバル化：機会と危機　1** **国際資本市場と取引による利益**
	事後学習	教科書20章、ノート、原著論文等を利用する。（2時間）
7	事前学習	教科書20章を利用する。（2時間）
	授業内容	**金融のグローバル化：機会と危機　2** **国際銀行業務と国際資本市場**
	事後学習	教科書20章、ノート、原著論文等を利用する。（2時間）
8	事前学習	教科書20章を利用する。（2時間）
	授業内容	**金融のグローバル化：機会と危機　3** **銀行業務と金融の脆弱性**
	事後学習	教科書20章、ノート、原著論文等を利用する。（2時間）
9	事前学習	教科書21章を利用する。（2時間）
	授業内容	**最適通貨圏とユーロ　1** **ヨーロッパの単一通貨はどう発展したか**
	事後学習	教科書21章、ノート、原著論文等を利用する。（2時間）
10	事前学習	教科書21章を利用する。（2時間）
	授業内容	**最適通貨圏とユーロ　2** **ユーロとユーロ圏の経済政策**
	事後学習	教科書21章、ノート、原著論文等を利用する。（2時間）
11	事前学習	教科書21章を利用する。（2時間）
	授業内容	**最適通貨圏とユーロ　3** **最適通貨圏の理論**
	事後学習	教科書21章、ノート、原著論文等を利用する。（2時間）
12	事前学習	教科書22章を利用する。（2時間）
	授業内容	**発展途上国：成長、危機、改革　1** **世界経済の所得、富、成長**
	事後学習	教科書22章、ノート、原著論文等を利用する。（2時間）
13	事前学習	教科書22章を利用する。（2時間）
	授業内容	**発展途上国：債務と安定化と改革　2** **発展途上国の構造的な特徴**
	事後学習	教科書22章、ノート、原著論文等を利用する。（2時間）
14	事前学習	教科書22章を利用する。（2時間）
	授業内容	**発展途上国：債務と安定化と改革　3** **発展途上国の借り入れと負債**
	事後学習	教科書22章、ノート、原著論文等を利用する。（2時間）
15	事前学習	教科書19～22章、ノート、原著論文等を利用する。（2時間）
	授業内容	**理解度の確認**
	事後学習	教科書19～23章、ノート、原著論文等を利用する。（2時間）

科目名	社会保障特殊講義Ⅰ	担当者	矢野　聡	期間	前期	単位数	2

授業概要	わが国の社会保障の現状について、専門的に理解する。社会保障の歴史、経済とのかかわり、政治と社会保障について述べるとともに諸外国の制度比較も行う。オンライン方式・ズームの講義方式による授業、ズーム授業参加者による演習形式で授業を行う。
授業目的・到達目標	講義は社会保障の中でも中核の制度としての社会保険制度の完全理解をおこなう。同時に現行制度の問題点および将来のあり方等についても詳述し、制度全般の理解を求める。社会保障と関連諸分野との理解を通じて、わが国の政治・経済・社会の構成を正しく把握できるようにする。社会保障の理念および実際の制度を完全に理解することを目標にする。関連するＤＰ・ＣＰ政治学専攻１，３，８
履修条件	社会保障の理解はあらゆる分野で必要とされている。できれば基本的な制度を理解している諸君の履修が望ましい。
授業方法	基本的な項目は講義方式から始めるが、予めレジュメを送付する。各制度のプレゼンについては演習方式とする。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	80%を授業内での記述試験で、残り20%は授業参加度を重視して評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書は用いない。		

参 考 書	社会福祉士養成講座15　『社会保障』　中央法規出版　2019年 矢野　聡『日本公的年金政策史』、ミネルヴァ書房、2012年
オフィスアワー	メールアドレスで随時連絡・相談を受け付ける。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**社会保障概論**
	事後学習	講義内容でノートを整理する。（２時間）
2	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**社会保障の起源**
	事後学習	講義内容でノートを整理する。（２時間）
3	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**社会保障の発展**
	事後学習	講義内容でノートを整理する。（２時間）

4	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**わが国の社会保障の始まり**
	事後学習	講義内容でノートを整理する。（２時間）
5	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**わが国の社会保障の成長・発展**
	事後学習	講義内容でノートを整理する。（２時間）
6	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**経済復興と社会保障**
	事後学習	講義内容でノートを整理する。（２時間）
7	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**高度経済成長と社会保障の発展（国民皆保険、皆年金）**
	事後学習	講義内容でノートを整理する。（２時間）
8	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**国家目標としての社会保障**
	事後学習	講義内容でノートを整理する。（２時間）
9	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**社会保障の成熟化**
	事後学習	講義内容でノートを整理する。（２時間）
10	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**社会保障と経済との軋轢**
	事後学習	講義内容でノートを整理する。（２時間）
11	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**社会保障と平等、公正**
	事後学習	講義内容でノートを整理する。（２時間）
12	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**公的年金制度**
	事後学習	講義内容でノートを整理する。（２時間）
13	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**準公的年金制度**
	事後学習	講義内容でノートを整理する。（２時間）
14	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**公的医療保険制度（健康保険、各種共済）**
	事後学習	講義内容でノートを整理する。（２時間）
15	事前学習	配布されたレジュメの課題に沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**前期課題について学内レポート提出をする**
	事後学習	ノートを整理する。（２時間）

科目名	社会保障特殊講義Ⅱ	担当者	矢野　聡	期間	後期	単位数	2

授業概要	社会保障と関連諸分野との理解を通じて、わが国の政治・経済・社会の構成を正しく把握できるようにする。社会保障の理念および実際の制度を完全に理解することを目標にする。同時に社会保障の批評及び政策提言が可能になるように知識を高める。
授業目的・到達目標	わが国の社会保障の現状について、専門的に理解し説明できるようになる。社会保障の歴史、経済とのかかわり、政治と社会保障について述べるとともに諸外国の制度比較も行う。講義は社会保障の中でも中核の制度としての社会保険制度の完全理解をおこなう。同時に現行制度の問題点および将来のあり方等についても詳述し、制度全般の理解を求める。関連するＤＰ・ＣＰ政治学専攻１，３，８
履修条件	社会保障の理解はあらゆる分野で必要とされている。できれば基本的な制度を理解している諸君の履修が望ましい。
授業方法	基本的な項目は講義から始めるが、各制度のプレゼンについては演習方式とする。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業で80%を授業内での記述試験で、残り20%は授業参加度を重視して評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書は用いない。		

参 考 書	参考書は膨大だが、大学院生の習熟度に応じて講義の都度指示する。
オフィスアワー	木、金曜日11時30分から13時前まで　研究室にて

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**労働と社会保障**
	事後学習	講義メモでノートを作る。（２時間）
2	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**労働者災害補償保険制度**
	事後学習	講義メモでノートを作る。（２時間）
3	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**雇用保険制度**
	事後学習	講義メモでノートを作る。（２時間）

4	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**高齢者ケアと社会保障**
	事後学習	配講義メモでノートを作る。（２時間）
5	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**介護保険制度**
	事後学習	講義メモでノートを作る。（２時間）
6	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**社会福祉と社会保障**
	事後学習	講義メモでノートを作る。（２時間）
7	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**公的扶助（生活保護）制度**
	事後学習	講義メモでノートを作る。（２時間）
8	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**保健医療サービスと社会保障**
	事後学習	講義メモでノートを作る。（２時間）
9	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**公衆衛生関連立法**
	事後学習	講義メモでノートを作る。（２時間）
10	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**人権と社会保障**
	事後学習	講義メモでノートを作る。（２時間）
11	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**身体的、知的、精神障がい者福祉と社会保障**
	事後学習	講義メモでノートを作る。（２時間）
12	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**社会保障の将来　税と社会保障の一体改革**
	事後学習	講義メモでノートを作る。（２時間）
13	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**社会保障の将来　保健医療サービスと社会福祉サービス**
	事後学習	講義メモでノートを作る。（２時間）
14	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**社会保障の将来　介護福祉労働と外国人労働者**
	事後学習	講義メモでノートを作る。（２時間）
15	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**学内レポート試験：与えられた課題についてレポートを提出する。**
	事後学習	講義をまとめる。（２時間）

科目名	公共経済学特殊講義Ⅰ	担当者	竹本　亨	期間	前期	単位数	2

授業概要	公共経済学は、市場の問題点や政府の経済行動を、ミクロ経済学の理論を応用して理論的に分析する学問である。そこで、この公共経済学特殊講義Ⅰでは、公共経済学を理論的に学ぶために必要なミクロ経済学の理論、特に消費者行動と企業行動、市場均衡に関する理論を学修する。
授業目的・到達目標	公共経済学の基礎であるミクロ経済学のうちの消費者行動と企業行動、市場均衡に関する理論について理解することを目的とする。そして、それらを応用する力を習得し、公共経済学の論文を読んだり、自ら現実の問題にそれらの理論を適用して分析できるようになることを目標とする。 関連するDP・CP政治学専攻2，3，4
履修条件	特になし
授業方法	授業は演習形式で行う。毎回、履修者が事前に割り振られた箇所の説明を行った（履修者で分担して全員が毎回どこかを担当することを基本とする。履修者が１名の場合も同様である。）後、教員が必要な解説を行う。その際に、教員からの質疑応答を行なったり、授業参加者間でディスカッションを行なったりする。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	毎回の担当箇所の説明や質疑応答、ディスカッションでの発言内容を基準に，［到達目標］にかかわる能力が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014	日本評論社	ミクロ経済学の力	神取道宏
	備考			

参考書	使用しない
オフィスアワー	水曜日 12:10～12:50（休暇中を除く。必ずその週の水曜日までにメールでアポイントメントを取ること）研究室（４号館５階451研究室）メールアドレス（takemoto.toruとアットマーク以下はNUメールアドレス（nihon-u.ac.jp））

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバス等をしっかりと読み、授業内容や履修方法、教科書などについて疑問点を整理しておく（１時間）。
	授業内容	**経済学の目的と方法**
	事後学習	事前に整理しておいた履修に関わる疑問点について、授業での説明を思い出しながら再度検討する。その上で、教科書等を利用して授業内容を復習し、ノートを整理する（３時間）。
2	事前学習	教科書の1.1～1.2をしっかりと読んだ上で、自分の担当箇所についてわかりやすく説明する準備を行う（３時間）。
	授業内容	**選好と効用関数**
	事後学習	教科書等を利用して授業内容（教科書の1.1～1.2の内容）を復習し、ノートを整理する（１時間）。
3	事前学習	教科書の1.3～1.4をしっかりと読んだ上で、自分の担当箇所についてわかりやすく説明する準備を行う（３時間）。
	授業内容	**最適消費**
	事後学習	教科書等を利用して授業内容（教科書の1.3～1.4の内容）を復習し、ノートを整理する（１時間）。

4	事前学習	教科書の1.5～1.6をしっかりと読んだ上で、自分の担当箇所についてわかりやすく説明する準備を行う（３時間）。
	授業内容	**限界分析**
	事後学習	教科書等を利用して授業内容（教科書の1.5～1.6の内容）を復習し、ノートを整理する（１時間）。
5	事前学習	教科書の1.7～1.10をしっかりと読んだ上で、自分の担当箇所についてわかりやすく説明する準備を行う（３時間）。
	授業内容	**所得効果と代替効果**
	事後学習	教科書等を利用して授業内容（教科書の1.7～1.10の内容）を復習し、ノートを整理する（１時間）。
6	事前学習	教科書の2.1～2.2をしっかりと読んだ上で、自分の担当箇所についてわかりやすく説明する準備を行う（３時間）。
	授業内容	**生産要素が一つの場合の企業行動**
	事後学習	教科書等を利用して授業内容（教科書の2.1～2.2の内容）を復習し、ノートを整理する（１時間）。
7	事前学習	教科書の2.3をしっかりと読んだ上で、自分の担当箇所についてわかりやすく説明する準備を行う（３時間）。
	授業内容	**生産要素が二つの場合の企業行動**
	事後学習	教科書等を利用して授業内容（教科書の2.3の内容）を復習し、ノートを整理する（１時間）。
8	事前学習	教科書の2.4～2.5をしっかりと読んだ上で、自分の担当箇所についてわかりやすく説明する準備を行う（３時間）。
	授業内容	**一般的な場合の企業行動**
	事後学習	教科書等を利用して授業内容（教科書の2.4～2.5の内容）を復習し、ノートを整理する（１時間）。
9	事前学習	教科書の1.1～2.5の内容を整理する（１時間）。
	授業内容	**消費者行動と企業行動のまとめ**
	事後学習	消費者行動と企業行動（教科書の1.1～2.5の内容）についてまとめを行う（３時間）。
10	事前学習	教科書の3.1をしっかりと読んだ上で、自分の担当箇所についてわかりやすく説明する準備を行う（３時間）。
	授業内容	**部分均衡分析**
	事後学習	教科書等を利用して授業内容（教科書の3.1の内容）を復習し、ノートを整理する（１時間）。
11	事前学習	教科書の3.3(a)～(c)をしっかりと読んだ上で、自分の担当箇所についてわかりやすく説明する準備を行う（３時間）。
	授業内容	**一般均衡モデル**
	事後学習	教科書等を利用して授業内容（教科書の3.3(a)～(c)の内容）を復習し、ノートを整理する（１時間）。
12	事前学習	教科書の3.3(d)～(f)をしっかりと読んだ上で、自分の担当箇所についてわかりやすく説明する準備を行う（３時間）。
	授業内容	**均衡の存在**
	事後学習	教科書等を利用して授業内容（教科書の3.3(d)～(f)の内容）を復習し、ノートを整理する（１時間）。
13	事前学習	教科書の3.3(g)～(h)をしっかりと読んだ上で、自分の担当箇所についてわかりやすく説明する準備を行う（３時間）。
	授業内容	**厚生経済学の第１基本定理**
	事後学習	教科書等を利用して授業内容（教科書の3.3(g)～(h)の内容）を復習し、ノートを整理する（１時間）。
14	事前学習	教科書の3.3(i)～(k)をしっかりと読んだ上で、自分の担当箇所についてわかりやすく説明する準備を行う（３時間）。
	授業内容	**厚生経済学の第２基本定理**
	事後学習	教科書等を利用して授業内容（教科書の3.3(i)～(k)の内容）を復習し、ノートを整理する（１時間）。
15	事前学習	教科書の3.1～3.3の内容を整理する（１時間）。
	授業内容	**市場均衡のまとめ**
	事後学習	市場均衡（教科書の3.1～3.3の内容）についてまとめを行う（３時間）。

科目名	公共経済学特殊講義Ⅱ	担当者	竹本　亨	期間	後期	単位数	2

授業概要	公共経済学は、市場の問題点や政府の経済行動を、ミクロ経済学の理論を応用して理論的に分析する学問である。そこで、この公共経済学特殊講義Ⅱでは、ミクロ経済学の理論を応用して、市場の失敗（外部性、公共財、独占、寡占、情報の非対称性）に関する理論を学修する。
授業目的・到達目標	市場の失敗（外部性、公共財、独占、寡占、情報の非対称性）に関する理論について理解することを目的とする。そして、それらを応用する力を習得し、公共経済学の論文を読んだり、自ら現実の問題にそれらの理論を適用して分析できるようになることを目標とする。 関連するDP・CP政治学専攻2，3，4
履修条件	公共経済学特殊講義Ⅰを履修していること。
授業方法	授業は演習形式で行う。毎回、履修者が事前に割り振られた箇所の説明を行った（履修者で分担して全員が毎回どこかを担当することを基本とする。履修者が１名の場合も同様である。）後、教員が必要な解説を行う。その際に、教員からの質疑応答を行なったり、授業参加者間でディスカッションを行なったりする。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	毎回の担当箇所の説明や質疑応答、ディスカッションでの発言内容を基準に，［到達目標］にかかわる能力が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014	日本評論社	ミクロ経済学の力	神取道宏
	備考			

参考書	使用しない
オフィスアワー	水曜日 12:10～12:50（休暇中を除く。必ずその週の水曜日までにメールでアポイントメントを取ること）研究室（４号館５階451研究室）メールアドレス（takemoto.toruとアットマーク以下はNUメールアドレス（nihon-u.ac.jp））

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	教科書の4.1(a)をしっかりと読んで内容を理解する（１時間）。
	授業内容	**外部性①：外部不経済**
	事後学習	公共経済学特殊講義Ⅰで学んだ内容（教科書の1.1～3.3の内容）を復習する。そして、本日の授業内容（教科書の4.1(a)の内容）を復習し、ノートを整理する（３時間）。
2	事前学習	教科書の4.1(b)～(d)をしっかりと読んだ上で、自分の担当箇所についてわかりやすく説明する準備を行う（３時間）。
	授業内容	**外部性②：ピグー税とピグー補助金**
	事後学習	教科書等を利用して授業内容（教科書の4.1(b)～(d)の内容）を復習し、ノートを整理する（１時間）。
3	事前学習	教科書の4.1(e)～(f)をしっかりと読んだ上で、自分の担当箇所についてわかりやすく説明する準備を行う（３時間）。
	授業内容	**外部性③：コースの定理**
	事後学習	教科書等を利用して授業内容（教科書の4.1(e)～(f)の内容）を復習し、ノートを整理する（１時間）。

4	事前学習	教科書の4.2(a)～(b)をしっかりと読んだ上で、自分の担当箇所についてわかりやすく説明する準備を行う（３時間）。
	授業内容	**公共財①：部分均衡分析**
	事後学習	教科書等を利用して授業内容（教科書の4.2(a)～(b)の内容）を復習し、ノートを整理する（１時間）。
5	事前学習	教科書の4.2(c)をしっかりと読んだ上で、自分の担当箇所についてわかりやすく説明する準備を行う（３時間）。
	授業内容	**公共財②：一般均衡分析**
	事後学習	教科書等を利用して授業内容（教科書の4.2(c)の内容）を復習し、ノートを整理する（１時間）。
6	事前学習	教科書の5.1～5.3をしっかりと読んだ上で、自分の担当箇所についてわかりやすく説明する準備を行う（３時間）。
	授業内容	**独占**
	事後学習	教科書等を利用して授業内容（教科書の5.1～5.3の内容）を復習し、ノートを整理する（１時間）。
7	事前学習	教科書の4.1～5.3の内容を整理する（１時間）。
	授業内容	**外部性と公共財、独占のまとめ**
	事後学習	外部性と公共財、独占（教科書の4.1～5.3の内容）についてまとめを行う（３時間）。
8	事前学習	教科書の6.1～6.4をしっかりと読んだ上で、自分の担当箇所についてわかりやすく説明する準備を行う（３時間）。
	授業内容	**ナッシュ均衡**
	事後学習	教科書等を利用して授業内容（教科書の6.1～6.4の内容）を復習し、ノートを整理する（１時間）。
9	事前学習	教科書の6.5(a)の内容を整理する（３時間）。
	授業内容	**クールノー・モデル**
	事後学習	教科書等を利用して授業内容（教科書の6.5(a)の内容）を復習し、ノートを整理する（１時間）。
10	事前学習	教科書の6.5(b)をしっかりと読んだ上で、自分の担当箇所についてわかりやすく説明する準備を行う（３時間）。
	授業内容	**ベルトラン・モデル**
	事後学習	教科書等を利用して授業内容（教科書の6.5(b)の内容）を復習し、ノートを整理する（１時間）。
11	事前学習	教科書の7.1～7.2をしっかりと読んだ上で、自分の担当箇所についてわかりやすく説明する準備を行う（３時間）。
	授業内容	**部分ゲーム完全均衡**
	事後学習	教科書等を利用して授業内容（教科書の7.1～7.2の内容）を復習し、ノートを整理する（１時間）。
12	事前学習	教科書の7.3～7.5をしっかりと読んだ上で、自分の担当箇所についてわかりやすく説明する準備を行う（３時間）。
	授業内容	**シュタッケルベルク・モデル**
	事後学習	教科書等を利用して授業内容（教科書の7.3～7.5の内容）を復習し、ノートを整理する（１時間）。
13	事前学習	教科書の8.1～8.2をしっかりと読んだ上で、自分の担当箇所についてわかりやすく説明する準備を行う（３時間）。
	授業内容	**保険とモラル・ハザード**
	事後学習	教科書等を利用して授業内容（教科書の8.1～8.2の内容）を復習し、ノートを整理する（１時間）。
14	事前学習	教科書の9.1～9.3をしっかりと読んだ上で、自分の担当箇所についてわかりやすく説明する準備を行う（３時間）。
	授業内容	**逆淘汰とシグナリング**
	事後学習	教科書等を利用して授業内容（教科書の9.1～9.3の内容）を復習し、ノートを整理する（１時間）。
15	事前学習	教科書の6.1～9.3の内容を整理する（１時間）。
	授業内容	**寡占と情報の非対称性のまとめ**
	事後学習	寡占と情報の非対称性（教科書の6.1～9.3の内容）についてまとめを行う（３時間）。

科目名	政治学特論 I	担当者	岩崎　正洋	期間	前期	単位数	2

授業概要	本講義は、現代政治学における代表的な業績の検討を通じて、政治学（Political Science）を専攻するに際し、これまでに蓄積されてきた先行研究のうち最低限どのようなものを把握しておく必要があるのか、これまでの研究の系譜に自らの研究をどのように位置づけるのか、それらをふまえて自らの問題意識を明確にするにはどうしたらいいのかについて学修する。
授業目的・到達目標	〔授業目的〕本講義では、現代政治学における代表的な研究がどのように政治現象を捉え、政治分析を行ってきたのかを理解するために、現代政治学の主要な理論、現実の政治現象と政治理論とのかかわりについて考察する。 〔到達目標〕現代政治学における代表的な研究がどのような論理構成となっているのかについて説明することができる。 関連するDP・CP（政治学専攻1,3,5）
履修条件	この授業を受講する前の段階（大学院入学以前）において、政治学の基礎的な知識を学修していること。
授業方法	毎回テーマに従って，受講者の報告，教員の講評，質疑応答，報告資料の添削などを行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業中の報告、質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、〔到達目標〕にかかわる学修態度が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015	勁草書房	『比較政治学入門』	岩崎正洋
	備考			

参 考 書	この授業に関連するテーマとして、「国家」、「民主主義」、「権威主義」、「民主化」、「政治体制」などが挙げられるが、これらに関する文献に、ついては、授業中に提示する。
オフィスアワー	月曜日12：10～12：50　研究室（4号館2階425研究室）iwasaki.masahiro62@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**イントロダクション**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典などにあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
2	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**R・A・ダールの『ポリアーキー』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
3	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**R・A・ダールの『ポリアーキー』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）

4	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**R・A・ダールの『ポリアーキー』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
5	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**ハンチントンの『第三の波』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
6	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**ハンチントンの『第三の波』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
7	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**ハンチントンの『第三の波』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
8	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**ハンチントンの『第三の波』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
9	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**リンスの『民主体制の崩壊』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
10	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**リンスの『民主体制の崩壊』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
11	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**リンスの『民主体制の崩壊』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
12	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**リンスの『民主体制の崩壊』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
13	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**ムーアの『独裁と民主政治の社会的起源』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
14	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**ムーアの『独裁と民主政治の社会的起源』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
15	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**ムーアの『独裁と民主政治の社会的起源』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）

科目名	政治学特論Ⅱ	担当者	岩崎　正洋	期間	後期	単位数	2

授業概要	本講義は、現代政治学における代表的な業績の検討を通じて、政治学（Political Science）を専攻するに際し、これまでに蓄積されてきた先行研究のうち最低限どのようなものを把握しておく必要があるのか、これまでの研究の系譜に自らの研究をどのように位置づけるのか、それらをふまえて自らの問題意識を明確にするにはどうしたらいいのかについて学修する。
授業目的・到達目標	〔授業目的〕本講義では、現代政治学における代表的な研究がどのように政治現象を捉え、政治分析を行ってきたのかを理解するために、現代政治学の主要な理論、現実の政治現象と政治理論とのかかわりについて考察する。 〔到達目標〕現代政治学における代表的な研究がどのような論理構成となっているのかについて説明することができる。 関連するDP・CP（政治学専攻2,4,8）
履修条件	この授業を受講する前の段階（大学院入学以前）において、政治学の基礎的な知識を学修していること。
授業方法	毎回テーマに従って，受講者の報告，教員の講評，質疑応答，報告資料の添削などを行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	授業中の報告、質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、〔到達目標〕にかかわる学修態度が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015	勁草書房	『比較政治学入門』	岩崎正洋
	備考			

参考書	この授業に関連するテーマとして、「国家」、「民主主義」、「権威主義」、「民主化」、「政治体制」などが挙げられるが、これらに関する文献に、ついては、授業中に提示する。
オフィスアワー	月曜日12：10～12：50　研究室（4号館2階425研究室）iwasaki.masahiro62@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**イントロダクション**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典などにあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
2	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**ムーアの『独裁と民主政治の社会的起源』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
3	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**ムーアの『独裁と民主政治の社会的起源』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）

4	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**ムーアの『独裁と民主政治の社会的起源』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
5	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**レイプハルトの『民主主義対民主主義』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
6	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**レイプハルトの『民主主義対民主主義』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
7	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**レイプハルトの『民主主義対民主主義』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
8	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**レイプハルトの『民主主義対民主主義』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
9	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**レイプハルトの『民主主義対民主主義』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
10	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**シュンペーターの『資本主義・社会主義・民主主義』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
11	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**シュンペーターの『資本主義・社会主義・民主主義』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
12	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**シュンペーターの『資本主義・社会主義・民主主義』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
13	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**シュンペーターの『資本主義・社会主義・民主主義』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
14	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**シュンペーターの『資本主義・社会主義・民主主義』の輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
15	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**総括**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）

科目名	公共政策論特論	担当者	水戸　克典	期間	前期	単位数	2

授業概要	本講義では､現代日本の公共政策に焦点を当て、その問題と課題について多面的に検討しながら、わが国の政治・社会についての理解を深めていきます。本講義の履修を通じ、公共政策に関する現状やその問題について自分の言葉で説明できるようになる力を養成します。
授業目的・到達目標	現代の公共政策やその形成過程の実態を理解しつつ、その課題や改革の方向性について論理的に説明できるようになることを目標とします。 関連するDP・CP政治学専攻１，２，３
履修条件	報告（複数回）するのは勿論のこと、授業内の討議に積極的に参加することが求められます。※履修する場合、他の人の意見を否定することに終始したり、議論そのものをクラッシュさせるような行為はご遠慮ください。
授業方法	毎回、報告者による発表の後、履修者全員で討議を行ないます。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	事前準備をした上で、授業内の討議に積極的に参加することが求められます。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし		

参 考 書	授業中に適宜紹介します。
オフィスアワー	金曜日１２：１５～１２：５５　研究室にて ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	履修を希望する場合は、初回ガイダンスに必ず出席すること（2時間）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	ガイダンスで示された履修条件を確認すること（2時間）
2	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**公共政策と政策科学**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
3	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**国家と公共政策**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）

4	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**公共政策における政府と市場**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
5	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**公共政策における合理性と非合理性**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
6	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**公共政策における効率性と応答性**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
7	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**政策類型論（１）**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
8	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**政策類型論（２）**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
9	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**公共政策のモデル（１）**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
10	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**公共政策のモデル（２）**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
11	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**現代日本における公共政策の現状と課題（１）**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
12	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**現代日本における公共政策の現状と課題（２）**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
13	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**現代日本における公共政策の現状と課題（３）**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
14	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**現代日本における公共政策の現状と課題（４）**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
15	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**まとめ**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）

科目名	地方自治論特論	担当者	福島　康仁	期間	前期	単位数	2

授業概要	本講義の目的は地方自治の諸課題の本質を分析し解決策を考案するための知識を身に着けることにある。			
授業目的・到達目標	地方自治制度に関する基礎知識について理解し、自ら地域課題の本質を分析し、自らの解決策を考察することができる。 関連するＤＰ・ＣＰ政治学専攻２，３，４			
履修条件	特になし。			
授業方法	講義と学生による報告により、双方向性の授業にする。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験			
	平 常 評 価	100%	授業での報告と、最後にレポートを提出してもらい評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2020	公職研	必携自治体職員ハンドブック	公職研編
	備考			
参 考 書	福島康仁編『地方自治論』（弘文堂）			
オフィスアワー	原則水曜日の昼休みとする。事前にメールなどでアポイントメントをとること（別の人の相談がはいっていたり、研究室にいないことがあります）。場所は本館６階の研究室。fukushima.yasuhito@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	地方自治とはなにか考える。（２時間）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	地方自治の本旨について理解する。（２時間）
2	事前学習	地方分権の歴史について考える。（２時間）
	授業内容	**中央地方関係の動き（１）**
	事後学習	第1次分権改革について理解する。（２時間）
3	事前学習	第2次分権改革以降について考える。（２時間）
	授業内容	**中法地方関係の動き（２）**
	事後学習	現在の分権改革について考える。（２時間）

4	事前学習	地方行財政の課題を調べてくる。（２時間）
	授業内容	**地方行財政の課題**
	事後学習	議論をもとに課題を再度まとめてみる。（２時間）
5	事前学習	新しい公共空間とはなにか調べる（２時間）
	授業内容	**新しい公共空間と地方自治**
	事後学習	地方自治の新しい形について論じてみる。（２時間）
6	事前学習	コミュニティの定義について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**コミュニティ**
	事後学習	コミュニティの課題について調べる。（２時間）
7	事前学習	条例の種類について調べてくる。（２時間）
	授業内容	**地方自治と条例制定（１）**
	事後学習	条例の動向についてまとめる。（２時間）
8	事前学習	現在の条例の動向について調べる（２時間）
	授業内容	**地方自治と条例制定（２）**
	事後学習	条例の限界についてまとめる。（２時間）
9	事前学習	市町村合併について調べる。（２時間）
	授業内容	**市町村の規模と地方自治（１）**
	事後学習	市町村の規模について考える。（２時間）
10	事前学習	住民自治と市町村の規模について考える。（２時間）
	授業内容	**市町村の規模と地方自治（２）**
	事後学習	適正な市町村規模についてまとめてみる。（２時間）
11	事前学習	地方議会について地方自治法を読んでくる。（２時間）
	授業内容	**地方自治と地方議会（１）**
	事後学習	地方議会について現状を理解する。（２時間）
12	事前学習	地方議会の課題を明らかにする。（２時間）
	授業内容	**地方自治と地方議会（２）**
	事後学習	地方議会の課題に対応する処方を考える。（２時間）
13	事前学習	公の施設について地方自治法を読む。（２時間）
	授業内容	**公の施設の管理運営**
	事後学習	公の施設の管理運営上の問題点をまとめる。（２時間）
14	事前学習	長と議会について地方自治法を読む。（２時間）
	授業内容	**長と議会**
	事後学習	長と議会の課題をまとめる。（２時間）
15	事前学習	いままでの疑問点を明らかにする。（２時間）
	授業内容	**総括**
	事後学習	全体的な課題をまとめる。（２時間）

科目名	行政制度論特論	担当者	上村　進	期間	後期	単位数	2

授業概要	中央政府の行政組織・行政運営の根幹をなす諸制度を学習する。特に組織定員管理・給与、パブリックコメント、不服審査、情報公開、プライバシー保護、独立行政法人、政策評価など、公務員が日々直面する課題に焦点を当てる。 法制度中心に授業するが、条文解釈や判例研究ではなく、それらの立法措置がとられた社会的・政治的背景、解決が目指される公共課題とは何か、これらの制度で行政にどのような影響がもたらされたかを中心に分析・考察する。
授業目的・到達目標	我が国の内閣・各府省がどのようなメカニズムで機能しているのか理解し、説明できるようになる。 関連DP/CP　政治学専攻２，３，４，５
履修条件	特になし。
授業方法	制度の講義及び履修者の発表・議論を適宜併用して授業を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業内における発表の出来栄え、議論への参画状況・発言内容などを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	適宜授業内で指示する。		

参 考 書	適宜授業内で指示する。
オフィスアワー	金曜昼休み。事前アポイントのこと。kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを踏まえ、質問内容などを考えてくる（1時間）
	授業内容	**ガイダンス・我が国中央政府の組織・運営の概要**
	事後学習	授業内容を踏まえ、所要の文献リストを作成するなど今後の学習計画を構築する（1時間）
2	事前学習	指定された文献を読み、該当部分の発表準備・質問すべき事項の整理などを行う（２時間）
	授業内容	**中央政府の組織管理・国家行政組織法の概要**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
3	事前学習	指定された文献を読み、該当部分の発表準備・質問すべき事項の整理などを行う（２時間）
	授業内容	**中央政府の定員管理の実際**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）

4	事前学習	指定された文献を読み、該当部分の発表準備・質問すべき事項の整理などを行う（２時間）
	授業内容	**公務員制度・給与制度**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
5	事前学習	指定された文献を読み、該当部分の発表準備・質問すべき事項の整理などを行う（２時間）
	授業内容	**行政手続・聴聞・パブリックコメント制度の概要**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
6	事前学習	指定された文献を読み、該当部分の発表準備・質問すべき事項の整理などを行う（２時間）
	授業内容	**行政不服審査の概要と運営実態**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
7	事前学習	指定された文献を読み、該当部分の発表準備・質問すべき事項の整理などを行う（２時間）
	授業内容	**政府情報公開の概要と運営実態**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
8	事前学習	指定された文献を読み、該当部分の発表準備・質問すべき事項の整理などを行う（２時間）
	授業内容	**行政機関における個人情報保護の概要**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
9	事前学習	指定された文献を読み、該当部分の発表準備・質問すべき事項の整理などを行う（２時間）
	授業内容	**独立行政法人制度**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
10	事前学習	指定された文献を読み、該当部分の発表準備・質問すべき事項の整理などを行う（２時間）
	授業内容	**独立行政法人の評価**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
11	事前学習	指定された文献を読み、該当部分の発表準備・質問すべき事項の整理などを行う（２時間）
	授業内容	**特殊法人・認可法人に係る諸制度**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
12	事前学習	指定された文献を読み、該当部分の発表準備・質問すべき事項の整理などを行う（２時間）
	授業内容	**指定法人制度、公益法人・NPO法人と行政の関係**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
13	事前学習	指定された文献を読み、該当部分の発表準備・質問すべき事項の整理などを行う（２時間）
	授業内容	**政策評価・行政相談と中央行政**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
14	事前学習	指定された文献を読み、該当部分の発表準備・質問すべき事項の整理などを行う（２時間）
	授業内容	**公文書管理制度の意義と実態**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
15	事前学習	これまでの授業を通じた質問事項・コメントなどを考えておく（3時間）
	授業内容	**総括・振り返り・日本の行政制度に係るディスカッション**
	事後学習	これまでの授業内容を総括整理し、知識を確実なものとしておく（3時間）

科目名	地方財政論特論	担当者	林　紀行	期間	前期	単位数	2

授業概要	本講義では、地方議会に関する理論と議会運営の実態に焦点を当てることとする。地方議会の役割や権限に関する枠組みを理解した上で、その現実と地方議会が直面する課題についての検討を行う。
授業目的・到達目標	地方議会に関する理論と現実を分析し、地方議会が抱える問題の要因、解決方法の検討ができるようになることを目標とする。関連するＤＰ・ＣＰは、政治学専攻２、３、４である。
履修条件	履修に条件は設けない。各回の授業にきちんと出席すること。テキストや論文をきちんと検討したうえで、まとめること。
授業方法	原則として、講義形式で行う。また、事例研究として、受講者による研究報告を行った上で、教員と受講者のディスカッションを行うことがある。

成績評価

種別	割合	評価方法
定 期 試 験	0%	
平 常 評 価	100%	講義への参加状況、事例研究の報告で総合的に評価する。

教科書

年	出版社	書名	著者名
2023	ぎょうせい	地方議会議員ハンドブック【第２次改訂版】	全国市議会議長会

備考：【第２次改訂版】を用意すること。

参 考 書	江藤俊昭『自治を担う「フォーラム」としての議会 ―政策実現のための質問・質疑　自治体議会政策学会叢書』（イマジン出版、2023年）
オフィスアワー	火曜日２限とする。時間調整をするために、事前に次のメールに予約をすること。【連絡先】hayashi.noriyuki@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを確認し、地方議会の役割について、ノートにまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	地方議会に関するニュースについて調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
2	事前学習	なぜ地方議会が必要なのかについて検討し、ノートにまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**地方議会の地位と権限**
	事後学習	地方自治制度における地方議会の位置づけについて調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
3	事前学習	地方議員の活動について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**地方議会議員の地位**
	事後学習	地方議員に対する懲罰の状況について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）

4	事前学習	2023年の統一地方選挙について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**地方議会議員の選挙**
	事後学習	地方議会議員選挙における投票率の低下について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
5	事前学習	議会基本条例の制定状況について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**議会基本条例**
	事後学習	議会基本条例で規定されている内容について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
6	事前学習	事例研究の対象となる地方議会について調べ、報告資料をまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**事例研究（１）議員の成り手不足問題①**
	事後学習	講義を受けた結果を反映し、報告資料の内容を修正・追加しておくこと。（120分）
7	事前学習	事例研究の対象となる地方議会について調べ、報告資料をまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**事例研究（２）議員の成り手不足問題②**
	事後学習	講義を受けた結果を反映し、報告資料の内容を修正・追加しておくこと。（120分）
8	事前学習	首長が提案した議案の議決態様について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**地方議会の監視機能**
	事後学習	専決処分の状況について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
9	事前学習	議員・委員会が提案した議案の議決態様について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**地方議会の政策立案機能**
	事後学習	政策型議員提案条例の制定状況について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
10	事前学習	地方議会の本会議の運営について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**本会議の運営**
	事後学習	地方議会の本会議を活性化する方法について検討し、ノートにまとめておくこと。（120分）
11	事前学習	地方議会の委員会の運営について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**委員会の運営**
	事後学習	地方議会の委員会を活性化する方法について検討し、ノートにまとめておくこと。（120分）
12	事前学習	請願、陳情について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**対住民関係**
	事後学習	議会報告会について調べ、ノートにまとめておくこと。（120分）
13	事前学習	事例研究の対象となる地方議会について調べ、報告資料をまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**事例研究（３）議会改革①**
	事後学習	講義を受けた結果を反映し、報告資料の内容を修正・追加しておくこと。（120分）
14	事前学習	事例研究の対象となる地方議会について調べ、報告資料をまとめておくこと。（120分）
	授業内容	**事例研究（４）議会改革②**
	事後学習	講義を受けた結果を反映し、報告資料の内容を修正・追加しておくこと。（120分）
15	事前学習	事例研究（３）と（４）の内容を掘り下げ、議会改革のポイントを整理しておくこと。（120分）
	授業内容	**講義の総括：地方議会改革の展望**
	事後学習	講義を受け、レポートを作成し、提出すること。（120分）

科目名	政策管理特論	担当者	山田　光矢	期間	後期	単位数	2

授業概要	日本の国家（中央政府）と地方公共団体(地方政府）の行財政改革がどのように管理され、継続・改革・廃止等の決定がなされてきたのかを、受講生の研究テーマと合わせる形で、年代を追って分析するとともに諸外国の同様な政策と対比する形で明確化し、将来世代に向けて実践すべき行財政改革の方向性やあるべき姿を分析していく。
授業目的・到達目標	行財政改革を実践させてきた要因を、時代背景や社会環境や国際的な影響などを軸に分析し、それぞれの時代の位特徴的な行財政改革を選び、その目標・実態・特徴・問題点等を分析し、毎回その報告を受け、質疑応答を通じて、対象とした行財政の実像を理解し、そのあるべき管理の方向性等を明らかにする。現実の政策の分析を通じて行財政をよりよい方向に移管させるための管理のあり方や、そうした政策の将来に向けた対応のあり方を、実際の政策をモデルに分析評価できる資質を向上させる。 関連するDP・CP政治学専攻1・2・3・4・5
履修条件	授業目標を理解し、到達目標に向かって意欲を持って取り組める院生。
授業方法	演習形式で行う。報告者の興味あるテーマをみんなが理解し、自分の課題として考え、討論を通じて全体の意識が高まる方向へとリードしていく。状況に応じて書籍や資料等の分析も行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	50%	レポート試験と平常評価を半々にすることを前提とするが、受講生の数や受講態度等を勘案し、すべて平常評価に切り替えることもある。
	平 常 評 価	50%	報告や討論等を通じて、研究等の進捗状況や研究への取り組みの姿勢などを総合的に判断して評価する。場合によってはすべて平常評価によって成績評価を行う場合もある。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			

参 考 書	必要に応じて紹介する その他各受講生が必要として紹介する各書籍等
オフィスアワー	木曜日5限に空き教室を利用するかメールで行います。毎週確実に対応できないことも考えられるので、相談を希望する場合には事前にメールで連絡し、私からの相談可能の連絡を受けてください。（yamada.mitsuya@nihon-u.ac.jp）

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	戦後日本の行財政改革の特徴や問題点を広いスパンで概観してくる（２時間）
	授業内容	**ガイダンス 　課題や参考文献・資料等の確定 　報告課題の調整と報告順位の確定**
	事後学習	次週に扱う資料の概要を確認する（２時間）
2	事前学習	戦後のGHQの指導(1945－50年）の下で行われた行財政改革のなかの興味のあるテーマを選んで分析し整理してくる（２時間）
	授業内容	**課題の報告と質疑応答 　必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えをまとめる（２時間）
3	事前学習	講和会議後の戦後復興期(1950年代）の行財政改革のなかの興味のあるテーマを選んで分析し整理してくる（２時間）
	授業内容	**課題の報告と質疑応答 　必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えをまとめる（２時間）

4	事前学習	高度経済成長期(1960年代) の行財政改革のなかの興味のあるテーマを選んで分析し整理してくる（２時間）
	授業内容	**行政課題の報告と質疑応答 必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えをまとめる（２時間）
5	事前学習	低成長期(1970年代) の行財政改革のなかの興味のあるテーマを選んで分析し整理してくる（２時間）
	授業内容	**課題の報告と質疑応答 必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えをまとめる（２時間）
6	事前学習	バブル期(1980年代) のなかの興味のあるテーマを選んで分析し整理してくる（２時間）
	授業内容	**課題の報告と質疑応答 必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えからをまとめる（２時間）
7	事前学習	バブル崩壊期(1990年代)の行財政改革のなかの興味のあるテーマを選んで分析し整理してくる（２時間）
	授業内容	**課題の報告と質疑応答 必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えをまとめる（２時間）
8	事前学習	橋本行革(1990年代)のなかの興味のあるテーマを選んで分析し整理してくる（２時間）
	授業内容	**課題の報告と質疑応答 必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えをまとめる（２時間）
9	事前学習	小泉改革(2000年代前半)のなかの興味のあるテーマを選んで分析し整理してくる（２時間）
	授業内容	**課題の報告と質疑応答 必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えをまとめる（２時間）
10	事前学習	民主党政権(2010年前後)の行財政改革なかの興味のあるテーマを選んで分析し整理してくる（２時間）
	授業内容	**課題の報告と質疑応答 必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えをまとめる（２時間）
11	事前学習	第二次安倍内閣(2010年代)の行財政改革のなかの興味のあるテーマを選んで分析し整理してくる（２時間）
	授業内容	**課題の報告と質疑応答 必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えをまとめる（２時間）
12	事前学習	コロナ禍(2020年以降)の行財政改革なかの興味のあるテーマを選んで分析し整理してくる（２時間）
	授業内容	**課題の報告と質疑応答 必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えかまとめる（２時間）
13	事前学習	DX改革における改革なかの興味のあるテーマを選んで分析し整理してくる（２時間）
	授業内容	**課題の報告と質疑応答 必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えをまとめる（２時間）
14	事前学習	これまでの資料を整理し自分の考えを整理してくる（２時間）
	授業内容	**課題の報告 必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えをまとめる（２時間）
15	事前学習	自分の興味のある分野を整理してレポートを提出する（２時間）
	授業内容	**レポート内容を相互に解説し、お互いの理解度を高める**
	事後学習	レポート内容を再整理する（２時間）

科目名	危機管理特論	担当者	岩井　義和	期間	前期	単位数	2

授業概要	現在、あらゆる組織において説明責任の果たし方、社会的責任の取り方等、危機管理に際しての「広報」をメインとする、いわゆる情報の取り扱いの不手際から傷口を広げる不祥事が後を絶たない。これは、官・民とも、社会の動向（国民目線）を軽視し、情報の収集（広聴）、分析、マネジメント、発信（広報）をないがしろにしてきているということである。そこで本講義では、広報の概念を中心に、対象との関係における危機的状況を脱する方策を検討する。
授業目的・到達目標	各種関係者が行う「広報活動の効果的な手法」、「情報の発信」「情報の危機管理」、「組織マネジメント」、「コミュニケーション・マネジメント」などを検討し、危機的状況を脱する可能性を見出す、Public Relaitions意義を理解できるようになる。ＤＰ・ＣＰ政治学専攻２，３，４
履修条件	特に指定しないが、授業目標を理解し、到達目標に向かって意欲を持って取り組める院生。
授業方法	教員による講義（問題提起）、学生による研究報告（プレゼン）というように双方向性のある講義を行う。学生には、意見を求めます。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	50%	レポート試験と平常評価を半々にすることを前提とするが、受講生の数や受講態度等を勘案し、すべて平常評価に切り替えることもある。
	平 常 評 価	50%	報告や討論等を通じて、研究等の進捗状況や研究への取り組みの姿勢などを総合的に判断して評価する。場合によってはすべて平常評価によって成績評価を行う場合もある。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない。		

参 考 書	講義時に随時、紹介する。
オフィスアワー	水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	危機管理とPublic Relationsの関係性を考えてくる（２時間）
	授業内容	**危機とは何か（危機への対応について検討）**
	事後学習	授業内容を踏まえ、所要の文献リストを作成するなど今後の学習計画を自分自身で構築する（2時間）
2	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**危機のマネジメント（危機に対するマネジメントを検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
3	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**危機とメディア（危機におけるメディア対応の検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）

4	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**リスクとリスクマネジメント（リスクとは何かを検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
5	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**リスク・コミュニケーション（リスク・コミュニケーションについて検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
6	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**危機管理とリーダシップ（危機管理におけるリーダシップの役割について検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
7	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**情報とリスクマネジメント（情報とリスクマネジメントの関係について検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
8	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**災害時の広報とPublic Relations（災害時の時間軸とPublic Relationsの検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
9	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**行政組織と災害（行政組織における広報とPublic Relationsを検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
10	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**企業と災害（企業における広報とPublic Relationsを検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
11	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**復旧・復興期の広報とPublic Relations（時間経過における広報とPublic Relationsの役割検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
12	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**組織における危機管理（組織における危機への備えについて検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
13	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**緊急時の広報とPublic Relations（必要な要素と対象を検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
14	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**危機広報（組織体制などを検討）**
	事後学習	授業内容を再整理し、ノートを整理するなどにより知識を確実なものとしておく（2時間）
15	事前学習	これまでの授業を通じた質問事項・コメントなどを考えておく（2時間）
	授業内容	**授業の振り返り**
	事後学習	これまでの授業内容を総括整理し、知識を確実なものとしておく（2時間）

科目名	社会保障特論	担当者	矢野　聡	期間	後期	単位数	2

授業概要	わが国の社会・経済及び政治について理解するうえで社会保障の基本的知識は欠かせない。そこで社会保障制度の概観についてわかりやすく講義し、特にわが国の社会保障について制度全般の完全理解を目指す。社会保障制度全般の理解を通じて、現代日本の社会、経済、政治構造を理解する。
授業目的・到達目標	主に社会保障の歴史、理念、制度全般の理解し説明できるようになることを目標とする。予習のうえ、演習方式で理解の度合いを深める。 関連するＤＰ・ＣＰ政治学専攻１，３，８
履修条件	社会保障を全く知らない初心者でもよいが、あらかじめ社会保障についての基本的理解がなされていることが望ましい。
授業方法	講義形式と演習形式の併用を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	80%を授業内でのレポート記述試験で、残り20%は授業参加度を重視して評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特定の教科書は用いない。		

参 考 書	社会福祉士養成講座15　『社会保障論』中央法規出版　2019年、矢野　聡　『日本公的年金政策史』ミネルヴァ書房　2012年、ほか受講者の習熟度に応じて指示する。
オフィスアワー	木、金曜日11時30分から13時前まで　研究室にて

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**社会保障の理念、目的**
	事後学習	講義演習でノートを整理する。（２時間）
2	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**医療保険制度、医療提供制度**
	事後学習	講義演習でノートを整理する。（２時間）
3	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**公的年金制度**
	事後学習	講義演習でノートを整理する。（２時間）

4	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**労働者災害補償保険**
	事後学習	講義演習でノートを整理する。（２時間）
5	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**雇用保険**
	事後学習	講義演習でノートを整理する。（２時間）
6	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**介護保険**
	事後学習	講義演習でノートを整理する。（２時間）
7	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**児童手当制度、ワークライフバランス、子育て制度**
	事後学習	講義演習でノートを整理する。（２時間）
8	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**公的扶助（生活保護）制度**
	事後学習	講義演習でノートを整理する。（２時間）
9	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**身体・知的障がい者、精神障がい者福祉制度**
	事後学習	講義演習でノートを整理する。（２時間）
10	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**児童虐待防止、ＤＶ防止、高齢者虐待防止、障害者虐待防止制度**
	事後学習	講義演習でノートを整理する。（２時間）
11	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**国家財政と社会保障給付費との関係**
	事後学習	講義演習でノートを整理する。（２時間）
12	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**国際政治・日本の政治と社会保障**
	事後学習	講義演習でノートを整理する。（２時間）
13	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**中央、地方政府の行政と社会保障**
	事後学習	講義演習でノートを整理する。（２時間）
14	事前学習	配布されたレジュメに沿って予習する。（２時間）
	授業内容	**社会保障制度及び給付状況の国際比較**
	事後学習	講義演習でノートを整理する。（２時間）
15	事前学習	従来のノートを総括する。（２時間）
	授業内容	**まとめ、課題を提出し、レポートを作成する。**
	事後学習	ノートを整理する。（２時間）

科目名	経済政策特論	担当者	稲葉　陽二	期間	後期	単位数	2

授業概要	公共財としての社会関係資本（ソーシャル・キャピタル以下SCと略）について、コモンズ（共有資源）に焦点をあて学ぶ。①公共経済学の観点から公共財の需給の基本と、②オストラムらの研究によって明らかにされたSCの公共財としてのコモンズ維持管理機能について学び、③リフキンによって指摘されている、AIの導入など新技術の社会的悪影響を緩和する施策としてのWEB上のコモンズの重要性について検討する。DP・CP4、6,7,8。
授業目的・到達目標	AIに象徴される技術進歩は，SC研究に新たな付加価値を与えている．オストロムによってコモンズの運営にとってSCが不可欠であることが明らかにされたが，リフキンは，技術進歩の過程で，技術開発と情報の共有の領域で，新たなコモンズが多数生まれていることを指摘している．今日のAI時代においては，コモンズの運営について不可欠であるSCは，技術開発と情報の共有のコモンズの前提条件として新たな付加価値を生むことが期待されている．さらにリフキンは，コモンズの役割を政府メカニズムや市場メカニズムとともに，我々の社会を統治する三つのメカニズムの一つとして，再評価している．本授業ではコモンズを円滑に機能させるのに不可欠なSCについての理解を深めることを目標としている。
履修条件	特にない。DP・CP4、6,7,8であるが、初学者には基礎概念・理論の解説から始める。
授業方法	講義形式とアクティブラーニング形式。対面であるが、毎回Zoomにて録画するので、受講者の希望があればZoomライブ形式での受講も可能とする。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業内評価。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2011	中央公論新社	『ソーシャル・キャピタル入門』	稲葉陽二
	2021	東大出版会	『AIは社会をどのようにかえるか　ソーシャル・キャピタルと格差の視点から』	佐藤嘉倫/稲葉陽二ほか（編著）
	2015	NHK出版	『限界費用ゼロ社会』関連部分適宜コピー配布	ジェレミー・リフキン　柴田裕之訳
	備考	授業教材となる論文・資料は授業内にコピー配布		

参 考 書	Ostrom et al. （2002），茂木愛一郎監訳『コモンズのドラマ―持続可能な資源間理論の15年』知泉書館 盛山和夫（2021）『協力の条件－ゲーム理論とともに考えるジレンマの構図』有斐閣
オフィスアワー	毎週金曜日20時から21時　Zoomにて実施 事前にメールにてアポイントメントをとってください。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	教科書『ソーシャル・キャピタル入門』（2時間）
	授業内容	**授業計画、目標の説明、ソーシャル・キャピタル定義を含め概要説明**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間） ）
2	事前学習	事前配布資料を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	**公共財とはなにか、公共財の最適供給、公共財の自発的供給、**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）））
3	事前学習	事前配布資料を読んでおいてください。
	授業内容	**コモンズと公共財としてのソーシャル・キャピタル**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）

4	事前学習	事前配布資料を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	**外部性とは何か、外部性の把握と評価**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）
5	事前学習	事前配布資料を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	**自然独占とＡＩ（AI時代の自然独占に起因する新しい「コモンズの悲劇」）**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）
6	事前学習	参考文献『コモンズのドラマ』第2章共有資源と制度の持続可能性（コピー事前配布）を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	**共有資源の持続可能な管理に関する分析、重要な意味を持つ要因についての補完、方法論上の問題への取り組み**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）
7	事前学習	参考文献『コモンズのドラマ』第３章不平等な灌漑利用主体（コピー事前配布）を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	**灌漑利用主体に関する大規模多変量解析、異質性、大規模標本に基づく研究の問題点**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）
8	事前学習	参考文献『コモンズのドラマ』第４章コモンズ・ディレンマにおける協調行動に影響を与える諸要因不平等（コピー事前配布）を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	**コモンズ・ディレンマを抑制する協調的行動に関する要因を実験心理学における選好研究からレビューする。**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）
9	事前学習	参考文献『コモンズのドラマ』第５章コモンズを利用する（コピー事前配布）を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	**互恵主義と公正性の理論モデル、理論的予測、公共財―比較、**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）
10	事前学習	事前配布資料を読んでおいてください（2時間）
	授業内容	**WEB上のコモンズについて。**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）
11	事前学習	教科書『限界費用ゼロ社会〈モノのインターネット〉と共有型経済の台頭』第2部限界費用がほぼゼロの社会（コピー事前配布）を読んでおいてください（2時間）
	授業内容	**極限生産性の世界とはどのようなものか、3D プリンティングによる生産主体のメーカーから大衆への変化、大規模公開オンライン講座（MOOC)による限界費用ゼロ教育の影響、労働者はどうなるのか、生産消費者の台頭とスマート経済の構築**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）
12	事前学習	教科書『限界費用ゼロ社会〈モノのインターネット〉と共有型経済の台頭』第3部協働型コモンズの台頭（コピー事前配布）を読んでおいてください（2時間）
	授業内容	**コモンズの喜劇、協働主義者は戦いに備える、インテリジェント・インフラの規程と支配をめぐる争い、**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）
13	事前学習	教科書『限界費用ゼロ社会〈モノのインターネット〉と共有型経済の台頭』第３部社会関係資本と共有型経済（コピー事前配布）を読んでおいてください（2時間）
	授業内容	**所有からアクセスへの転換、社会関係資本のクラウドファンディング、民主化する通貨、人間味ある起業家精神、労働の再考**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）
14	事前学習	事前配布資料を読んでおいてください（2時間）
	授業内容	**仮想空間上の新しいコモンズをどうまもるか**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）
15	事前学習	1回～14回までの資料を参照してください（2時間）
	授業内容	**講義のまとめと受講者とのディスカッション**
	事後学習	授業録画の再確認をお願いします。（2時間）

科目名	地域政策特論	担当者	福島　康仁	期間	後期	単位数	2

授業概要	地方分権一括法の施行以来、地域政策は国の地域振興政策の意味合いから脱し、地域主導へとその流れは転換しつつあり、地方自治体は地域の自立のために積極的に取り組んでいるところである。本講義では、地域政策の手法と視点を学ぶ。
授業目的・到達目標	受講生は地域課題の抽出、課題解決手法、その考え方を身につける。関連するDP・CP政治学専攻２，３，４，７
履修条件	特になし。
授業方法	講義だけでなく、受講生にも報告してもらい、学生が自主的に議論する場を設ける。対面授業をベースに，オンライン会議システム「Zoom」による受講希望者がいる場合は，Zoomを併用した授業を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	報告とレポート提出によって採点する

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	公職研	必携自治体職員ハンドブック	公職研編集部
	備考	特になし。		

参 考 書	適宜紹介する
オフィスアワー	原則水曜日の昼休みとする。事前にメールなどでアポイントメントをとること（別の人の相談がはいっていたり、研究室にいないことがあります）。場所は本館６階の研究室。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	シラバスを検討する（２時間）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	自分の関心と修論テーマをリンクできればのぞましい。（２時間）
2	事前学習	地域をつくるアクターを列挙する（２時間）
	授業内容	**地域を作る主体について検討**
	事後学習	地域をつくるアクターの特性についてまとめる（２時間）
3	事前学習	中央地方関係の類型についてまとめる（２時間）
	授業内容	**中央地方関係（１）**
	事後学習	中央地方関係の現状についてまとめる（２時間）

4	事前学習	中央地方関係の動向について調べる（２時間）
	授業内容	**中央地方関係（２）**
	事後学習	現状と課題について検討する（２時間）
5	事前学習	PPPについて調べる（２時間）
	授業内容	**官民関係（１）**
	事後学習	PPPの概念についてまとめる（２時間）
6	事前学習	PPPの問題点についてまとめる（２時間）
	授業内容	**官民関係（２）**
	事後学習	PPPの使い方について検討する（２時間）
7	事前学習	定住人口と交流人口の違いについて調べる（２時間）
	授業内容	**観光政策（１）**
	事後学習	交流人口と観光政策の関係について調べる（２時間）
8	事前学習	観光政策の課題について考える（２時間）
	授業内容	**観光政策（２）**
	事後学習	地域活性化と観光政策の関係について調べる（２時間）
9	事前学習	国際化の現状についてまとめる（２時間）
	授業内容	**国際化政策（１）**
	事後学習	自治体の国際化政策をまとめる（２時間）
10	事前学習	自治体の国際化政策の歴史についてまとめる（２時間）
	授業内容	**国際化政策（２）**
	事後学習	自治体の国際化政策の問題点についてまとめる（２時間）
11	事前学習	情報化と社会にというテーマでまとめてみる（２時間）
	授業内容	**情報化政策（１）**
	事後学習	自治体での活用例を整理する（２時間）
12	事前学習	情報化の現状について調べる（２時間）
	授業内容	**情報化政策（２）**
	事後学習	情報化の課題についてまとめる（２時間）
13	事前学習	少子高齢化の現状について調べる（２時間）
	授業内容	**少子高齢化政策**
	事後学習	少子高齢化政策の事例についてまとめる（２時間）
14	事前学習	最新の課題について議論します。課題は前週にお伝えします。（２時間）
	授業内容	**総括**
	事後学習	議論をまとめ自分なりの結論を導き出すこと。（２時間）
15	事前学習	最新の課題について議論します。課題は前週にお伝えします。（２時間）
	授業内容	**総括**
	事後学習	議論をまとめ自分なりの結論を導き出すこと。（２時間）

科目名	環境政策特論	担当者	信夫　隆司	期間	前期	単位数	2

授業概要	地球温暖化、オゾン層の破壊、長距離越境大気汚染（酸性雨）、生物多様性、野生生物の取引制限、森林減少、砂漠化といった地球環境問題を中心に、問題発生の原因、その影響、国際的な取組、わが国における対応について学修する。
授業目的・到達目標	上記のさまざまな地球環境問題について、おもに国際社会の取組を中心として、どのような対応が取られているのか、その効果はいかなるものか、また、国内における対応を理解し、地球環境問題がわれわれの生活にどのように影響を及ぼしているのかを理解し説明できるようになることを目標とする。 関連するDP・CP政治学専攻２，３，４，７
履修条件	なし。
授業方法	自ら関心のあるテーマを選択のうえ、レジュメを作成し、プレゼンを行う方式で授業をすすめる。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	事前学習、レジュメの作成、プレゼン、議論への積極的参加を総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない。		

参 考 書	講義の際、適宜、紹介する。
オフィスアワー	授業の前後に授業講堂。shinobu.takashi〇nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	地球環境問題全般について調べてみよう。（１２０分）
	授業内容	**ガイダンス：地球環境問題にはどのようなものがあるかを学修する。**
	事後学習	自ら関心を有する地球環境問題について考えてみる。（１２０分）
2	事前学習	事前にテーマについて学習し、レジュメを作成して、プレゼンの準備をする。（１２０分）
	授業内容	**地球温暖化（１）。地球温暖化の科学的メカニズムを学修する。**
	事後学習	授業時におけるプレゼン、それに基づく議論を振り返り、問題点をさらに深める。（１２０分）
3	事前学習	事前にテーマについて学習し、レジュメを作成して、プレゼンの準備をする。（１２０分）
	授業内容	**地球温暖化（２）。気候変動枠組み条約、および、京都議定書が生まれた背景を理解し、それらの条約の内容について学修する。**
	事後学習	授業時におけるプレゼン、それに基づく議論を振り返り、問題点をさらに深める。（１２０分）

4	事前学習	事前にテーマについて学習し、レジュメを作成して、プレゼンの準備をする。（１５０分）
	授業内容	**地球温暖化（３）。京都議定書後のパリ協定について学修する。とくに、京都議定書とパリ協定との違いについて理解し、パリ協定における問題点を把握する。**
	事後学習	授業時におけるプレゼン、それに基づく議論を振り返り、問題点をさらに深める。（９０分）
5	事前学習	事前にテーマについて学習し、レジュメを作成して、プレゼンの準備をする。（１５０分）
	授業内容	**オゾン層破壊（１）。オゾン層破壊の科学的なメカニズムを学修する。**
	事後学習	授業時におけるプレゼン、それに基づく議論を振り返り、問題点をさらに深める。（９０分）
6	事前学習	事前にテーマについて学習し、レジュメを作成して、プレゼンの準備をする。（１２０分）
	授業内容	**オゾン層破壊（２）。オゾン層を保護するためのウィーン条約およびモントリオール議定書を学修し、地球温暖化への対処との違いについて理解する。**
	事後学習	授業時におけるプレゼン、それに基づく議論を振り返り、問題点をさらに深める。（１２０分）
7	事前学習	事前にテーマについて学習し、レジュメを作成して、プレゼンの準備をする。（１２０分）
	授業内容	**長距離越境大気汚染（酸性雨）（１）。長距離越境提起汚染（酸性雨）の科学的メカニズムを学修する。**
	事後学習	授業時におけるプレゼン、それに基づく議論を振り返り、問題点をさらに深める。（１２０分）
8	事前学習	事前にテーマについて学習し、レジュメを作成して、プレゼンの準備をする。（１５０分）
	授業内容	**長距離越境大気汚染（酸性雨）（２）。長距離越境大気汚染条約、ならびに、関連の議定書を学修し、現在の酸性雨の問題を理解する。**
	事後学習	授業時におけるプレゼン、それに基づく議論を振り返り、問題点をさらに深める。（９０分）
9	事前学習	事前にテーマについて学習し、レジュメを作成して、プレゼンの準備をする。（１２０分）
	授業内容	**生物多様性（１）。生物多様性減少の科学的メカニズムを理解する。**
	事後学習	授業時におけるプレゼン、それに基づく議論を振り返り、問題点をさらに深める。（１２０分）
10	事前学習	事前にテーマについて学習し、レジュメを作成して、プレゼンの準備をする。（１２０分）
	授業内容	**生物多様性（２）。生物多様性条約および名古屋議定書を中心に、その全体像を学修する。**
	事後学習	授業時におけるプレゼン、それに基づく議論を振り返り、問題点をさらに深める。（１２０分）
11	事前学習	事前にテーマについて学習し、レジュメを作成して、プレゼンの準備をする。（１５０分）
	授業内容	**生物多様性（３）。生物多様性以外の野生生物にかかわる条約を学修する。とくに、もっとも身近なワシントン条約について学修し、われわれの生活とのかかわりを理解する。**
	事後学習	授業時におけるプレゼン、それに基づく議論を振り返り、問題点をさらに深める。（９０分）
12	事前学習	事前にテーマについて学習し、レジュメを作成して、プレゼンの準備をする。（１５０分）
	授業内容	**森林減少（１）。森林減少にかかわる科学的メカニズムを学修する。**
	事後学習	授業時におけるプレゼン、それに基づく議論を振り返り、問題点をさらに深める。（９０分）
13	事前学習	事前にテーマについて学習し、レジュメを作成して、プレゼンの準備をする。（１２０分）
	授業内容	**森林減少（２）。森林減少を防ぐための国際社会の取り組みを学修する。**
	事後学習	授業時におけるプレゼン、それに基づく議論を振り返り、問題点をさらに深める。（１２０分）
14	事前学習	事前にテーマについて学習し、レジュメを作成して、プレゼンの準備をする。（１２０分）
	授業内容	**砂漠化（１）。砂漠化はなぜ起きるのか、その科学的メカニズムを学修する。**
	事後学習	授業時におけるプレゼン、それに基づく議論を振り返り、問題点をさらに深める。（１２０分）
15	事前学習	事前にテーマについて学習し、レジュメを作成して、プレゼンの準備をする。（９０分）
	授業内容	**砂漠化（２）。砂漠化防止条約をはじめとする、国際社会の取り組みを学修する。**
	事後学習	授業時におけるプレゼン、それに基づく議論を振り返り、問題点をさらに深める。（１５０分）

科目名	政策研究特論	担当者	山田　光矢	期間	前期	単位数	2

授業概要	日本の現在行われている政策をモデルに、国と地方や政治と行政と地方行政の役割や相互協力のあるべき姿を、日本経済新聞の「データで読む地域再生」（土曜日朝刊:名称や掲載曜日等に変更があった場合にはそれに従う）の記事を中心に分析し、そうした政策や政治・行政・地方行政の対応や特徴と問題点等を明らかにし、日本の政策のあるべき姿や方向性を、各国の政策と対比する形で明確化し分析していく。
授業目的・到達目標	院生の興味のある行政課題を選び、その目標・実態・特徴・問題点等を分析し、毎回その報告を受け、質疑応答を通じて、対象とした行政の実像を理解し、そのあるべき管理の方向正当を明らかにする。現実の政策の実態の分析を通じて行政をよりよい方向に移管させるための管理のあり方や、そうした政策の将来に向けた対応のあり方を、行（財）政改改革の視点から分析評価できる資質を向上させる。関連するDP・CP政治学専攻１，２，３，４
履修条件	授業目標を理解し、到達目標に向かって意欲を持って取り組める院生。
授業方法	演習形式で行う。報告者の興味あるテーマをみんなが理解し、自分の課題として考え、討論を通じて全体の意識が高まる方向へとリードしていく。状況に応じて書籍や資料等の分析も行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験	50%	レポート試験と平常評価を半々にすることを前提とするが、受講生の数や受講態度等を勘案し、すべて平常評価に切り替えることもある。
	平 常 評 価	50%	報告や討論等を通じて、研究等の進捗状況や研究への取り組みの姿勢などを総合的に判断して評価する。場合によってはすべて平常評価によって成績評価を行う場合もある。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			

参 考 書	必要に応じて紹介する その他各受講生が必要として紹介する各書籍等
オフィスアワー	木曜日5限に空き教室を利用するかメールで行います。毎週確実に対応できないことも考えられるので、相談を希望する場合には事前にメールで連絡し、私からの相談可能の連絡を受けてください。（yamada.mitsuya@nihon-u.ac.jp）

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	直前の日本経済新聞土曜日朝刊の「データで読む地方創生」を読んでその概要を理解してくる（２時間）
	授業内容	**ガイダンス 課題や参考文献・資料等の確定 報告課題の調整と報告順位の確定**
	事後学習	「地域総合」の概要を再確認する（２時間）
2	事前学習	直前の日本経済新聞土曜日朝刊の「データで読む地方創生」を読んで内容を分析・整理してくる（２時間）
	授業内容	**課題の報告と質疑応答 必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えをまとめる（２時間）
3	事前学習	直前の日本経済新聞土曜日朝刊の「データで読む地方創生」を読んで内容を分析・整理してくる（２時間）
	授業内容	**課題の報告と質疑応答 必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えをまとめる（２時間）

4	事前学習	直前の日本経済新聞土曜日朝刊の「データで読む地方創生」を読んで内容を分析・整理してくる（２時間）
	授業内容	**行政課題の報告と質疑応答 必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えをまとめる（２時間）
5	事前学習	直前の日本経済新聞土曜日朝刊の「データで読む地方創生」を読んで内容を分析・整理してくる（２時間）
	授業内容	**課題の報告と質疑応答 必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えをまとめる（２時間）
6	事前学習	直前の日本経済新聞土曜日朝刊の「データで読む地方創生」を読んで内容を分析・整理してくる（２時間）
	授業内容	**課題の報告と質疑応答 必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えをまとめる（２時間）
7	事前学習	これまで読んだ6回の日本経済新聞土曜日朝刊の「データで読む地方創生」から見えてくる日本の地方創生策の傾向・特徴・問題点などを分析・整理してくる（２時間）
	授業内容	**課題の報告と質疑応答 必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えをまとめる（２時間）
8	事前学習	直前の日本経済新聞土曜日朝刊の「データで読む地方創生」を読んで内容を分析・整理してくる（２時間）
	授業内容	**課題の報告と質疑応答 必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えをまとめる（２時間）
9	事前学習	直前の日本経済新聞土曜日朝刊の「データで読む地方創生」を読んで内容を分析・整理してくる（２時間）
	授業内容	**課題の報告と質疑応答 必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えをまとめる（２時間）
10	事前学習	直前の日本経済新聞土曜日朝刊の「データで読む地方創生」を読んで内容を分析・整理してくる（２時間）
	授業内容	**課題の報告と質疑応答 必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えをまとめる（２時間）
11	事前学習	直前の日本経済新聞土曜日朝刊の「データで読む地方創生」を読んで内容を分析・整理してくる（２時間）
	授業内容	**課題の報告と質疑応答 必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えをまとめる（２時間）
12	事前学習	直前の日本経済新聞土曜日朝刊の「データで読む地方創生」を読んで内容を分析・整理してくる（２時間）
	授業内容	**課題の報告と質疑応答 必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えをまとめる（２時間）
13	事前学習	直前の日本経済新聞土曜日朝刊の「データで読む地方創生」を読んで内容を分析・整理してくる（２時間）
	授業内容	**課題の報告と質疑応答 必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えをまとめる（２時間）
14	事前学習	これまで読んだ6回の日本経済新聞土曜日朝刊の「データで読む地方創生」から見えてくる日本の地方創生策の傾向・特徴・問題点などを分析・整理してくる（２時間）
	授業内容	**課題の報告と質疑応答 必要に応じてまとめと講評を行う**
	事後学習	報告者との質疑応答を通じて自分の考えをまとめる（２時間）
15	事前学習	自分の興味のある分野を整理してレポートを提出する（２時間）
	授業内容	**レポート内容を相互に解説し、お互いの理解度を高める**
	事後学習	レポート内容を再整理する（２時間）

科目名	公共政策特殊演習	担当者	水戸　克典	期間	後期	単位数	2

授業概要	本演習では、政策立案の基礎を学びながら、グループワークを通じて現代日本における公共政策の問題と課題について学びます。グループごとに実際に政策立案を行うことで、わが国の公共政策の問題と課題について、その基本的な考え方を身に付けます。本演習の履修を通じ、公共政策に関する現状や問題について自分の言葉で説明できるようになる力を養成します。
授業目的・到達目標	前期に引き続き、現代の公共政策やその形成過程の実態を理解しつつ、その課題や改革の方向性について論理的に説明できるようになることを目標とします。 関連するDP・CP政治学専攻２，３，４
履修条件	グループワーク（討議を含む）を行う関係で、毎回授業に積極的に参加することが求められます。※履修する場合、他の人の意見を否定することに終始したり、議論そのものをクラッシュさせるような行為はご遠慮ください。
授業方法	履修者の関心に配慮しつつ、政策の問題と課題について議論します。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	事前準備をした上で、グループワークへの積極的な参加が不可欠です。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし		

参 考 書	授業中に適宜指示します。
オフィスアワー	金曜日１２：１５～１２：５５　研究室にて ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	履修を希望する場合は、初回のガイダンスに必ず出席すること（2時間）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	ガイダンスで示された履修条件を確認すること（2時間）
2	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**公共政策立案の基礎（１）**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
3	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**公共政策立案の基礎（２）**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）

4	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**公共政策立案の基礎（３）**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
5	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**グループワーク－政策立案演習**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
6	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**グループワーク－政策立案演習**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
7	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**グループワーク－政策立案演習**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
8	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**グループワーク－政策立案演習**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
9	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**プレゼンテーション（１）**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
10	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**グループワーク－政策立案演習**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
11	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**グループワーク－政策立案演習**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
12	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**グループワーク－政策立案演習**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
13	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**グループワーク－政策立案演習**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
14	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**プレゼンテーション（２）**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）
15	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集するとともに、その内容に関し事前に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	**まとめ**
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理しつつ、その課題について再検討すること（2時間）

科目名	公共政策実務演習	担当者	上村　進	期間	後期	単位数	2

授業概要	公共・公益部門における現状分析・政策企画等の実務遂行に当たって、必須の技能となる政策リサーチ・データ分析の基礎技能を修得する。このため実際に受講者自身が修士論文テーマ等に即したデータ分析の実施計画を立て、その結果を授業内で発表する。
授業目的・到達目標	①政策リサーチに必要な各種の基礎技能を踏まえたEBPM（Evidence Based Policy Making）を実践できる。 ②実務上、利用頻度の高いEXCEL機能を活用した基本的なデータ分析を実行できる。 ③データ分析に適したアンケート調査等を設計でき、集計結果に基づく統計解析を実施できる。 関連するDP・CP政治学専攻４，５，６，８
履修条件	特になし。数式等はほぼ使わないので統計学を履修していなくても受講可能。 Excelデータ解析を実施するので、個人用PCを持参して受講することが望まれる。
授業方法	①指定テキストの輪読 ②Excelのデータ分析機能を用いた簡易な統計解析等の実習 なお、下記の授業計画は統計未修者を念頭に記載しており、実際には受講者の統計知識の程度・受講人数等により大幅な変動があり得る。詳細は初回授業で受講者と相談の上、決定する。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験	0%	
	平常評価	100%	毎回の授業への参画・実習状況、分析結果の個人発表内容等により評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2022年	東京大学出版会	政策リサーチ入門　増補版　：仮説検証による問題解決の技法	伊藤修一郎
	2021年	インプレス	Excelデータ分析の全知識	三好大悟
	2022年	SBCreative	Excelデータ分析の教科書	日吉弘子
	備考			

参考書	その他、内田治著「Excelによるアンケート分析」（2020年東京書籍）他、授業内で適宜指示する。
オフィスアワー	金曜昼休み。事前アポイントのこと。kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	シラバス・事前配布資料を読み、質問事項等を考えてくる（2時間）。
	授業内容	**①政策リサーチのタイプ、②オープンデータサイトの調べ方１（データカタログ）**
	事後学習	授業内容を踏まえ、今後の自分の学習計画等を立てる（2時間）。
2	事前学習	自分の修士論文テーマ等に即してリサーチクエスチョン、データ出所等を説明できるようにしておく（2時間）。
	授業内容	**①リサーチクエスチョンの立て方、②オープンデータサイトの調べ方２（E-Stat, RESASなど）**
	事後学習	授業内容を踏まえて、各自のリサーチクエスチョンを精緻化するとともに、各データサイトの探索を行う（2時間）。
3	事前学習	自分の修士論文テーマ等に即して研究の前提となる仮説、引用文献等を説明できるようにしておく（2時間）。
	授業内容	**①仮説の立て方、②文献リサーチの方法論**
	事後学習	授業内容を踏まえ、必要に応じて各自の仮説を再構築するとともに、引用文献を精査する（2時間）。

4	事前学習	各自の修士論文テーマ等に即して、データ収集方法、分析手法等を説明できるようにしておく（2時間）。
	授業内容	**個人発表①（各自のテーマに基づくデータ分析の実施計画）**
	事後学習	授業内容を踏まえて、データ分析の実施計画を精緻化する（2時間）。
5	事前学習	各自の修士論文テーマ等に即して、アンケートの実施方法・分析手法等を説明できるようにしておく（2時間）。
	授業内容	**個人発表②（アンケート調査の設計）**
	事後学習	授業内容を踏まえて、各自でアンケート調査の実施計画を精緻化する（2時間）。
6	事前学習	教科書等の指定範囲を読み込み、例題等を自分でも解いてみることにより授業内で実習ができるようにしておく（2時間）。
	授業内容	**基本統計量の概念（平均値と標準偏差など）**
	事後学習	授業内容を踏まえて、各自で分析手法を復習し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
7	事前学習	教科書等の指定範囲を読み込み、例題等を自分でも解いてみることにより授業内で実習ができるようにしておく（2時間）。
	授業内容	**仮説検定の基礎１（帰無仮説と対立仮説など）**
	事後学習	授業内容を踏まえて、各自で分析手法を復習し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
8	事前学習	教科書等の指定範囲を読み込み、例題等を自分でも解いてみることにより授業内で実習ができるようにしておく（2時間）。
	授業内容	**仮説検定の基礎２（確率分布の種類）**
	事後学習	授業内容を踏まえて、各自で分析手法を復習し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
9	事前学習	教科書等の指定範囲を読み込み、例題等を自分でも解いてみることにより授業内で実習ができるようにしておく（2時間）。
	授業内容	**仮説検定の基礎３（有意水準、t値とp値、決定係数）**
	事後学習	授業内容を踏まえて、各自で分析手法を復習し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
10	事前学習	教科書等の指定範囲を読み込み、例題等を自分でも解いてみることにより授業内で実習ができるようにしておく（2時間）。
	授業内容	**仮説検定（t検定とカイ二乗検定）**
	事後学習	授業内容を踏まえて、各自で分析手法を復習し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
11	事前学習	教科書等の指定範囲を読み込み、例題等を自分でも解いてみることにより授業内で実習ができるようにしておく（2時間）。
	授業内容	**重回帰分析①：理論編**
	事後学習	授業内容を踏まえて、各自で分析手法を復習し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
12	事前学習	教科書等の指定範囲を読み込み、例題等を自分でも解いてみることにより授業内で実習ができるようにしておく（2時間）。
	授業内容	**重回帰分析②：実践編**
	事後学習	授業内容を踏まえて、各自で分析手法を復習し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
13	事前学習	受講者各自が実施したアンケート調査に基づいて、統計分析を行い、その内容を発表できるようにしておく（2時間）。
	授業内容	**個人発表③（アンケート調査の分析結果発表）**
	事後学習	授業内容を踏まえて、各自で分析手法を復習し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
14	事前学習	各自で実施した独自分析結果の発表準備を行う（2時間）。
	授業内容	**個人発表④（各自のテーマに即したデータ分析の結果発表）**
	事後学習	授業内での指摘を踏まえ、自分の分析結果を更に精緻化する（2時間）。
15	事前学習	各自で実施した独自分析結果の発表準備を行う（2時間）。
	授業内容	**個人発表⑤（各自のテーマに即したデータ分析の結果発表）**
	事後学習	授業内での指摘を踏まえ、自分の分析結果を更に精緻化する（2時間）。

科目名	政治学原書研究Ⅰ(英)	担当者	岩崎　正洋	期間	前期	単位数	1

授業概要	本講義は、現代政治学における代表的な原書（英語）の検討を通じて、政治学（Political Science）を専攻するに際し、これまでに蓄積されてきた先行研究のうち最低限どのようなものを把握しておく必要があるのか、これまでの研究の系譜に自らの研究をどのように位置づけるのか、それらをふまえて自らの問題意識を明確にするにはどうしたらいいのかについて学修する。
授業目的・到達目標	〔授業目的〕本講義では、現代政治学における代表的な研究がどのように政治現象を捉え、政治分析を行ってきたのかを理解するために、現代政治学の主要な理論、現実の政治現象と政治理論とのかかわりについて考察する。 〔到達目標〕現代政治学における代表的な研究がどのような論理構成となっているのかについて説明することができる。 関連するDP・CP（政治学専攻2,6,8）
履修条件	この授業を受講する前の段階（大学院入学以前）において、政治学の基礎的な知識を学修していること。
授業方法	毎回テーマに従って，受講者の報告，教員の講評，質疑応答，報告資料の添削などを行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	授業中の報告、質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、〔到達目標〕にかかわる学修態度が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2007	Cambridge University Press	Democracy	Charles Tilly
	備考			

参考書	この授業に関連するテーマとして、「民主主義」、「民主化」、「権威主義化」、「体制変動」、「政治発展」などが挙げられるが、これらに関する文献については、授業中に提示する。
オフィスアワー	月曜日12：10～12：50　研究室（4号館2階425研究室）iwasaki.masahiro62@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典などにあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
2	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	Democracyの輪読
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
3	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	Democracyの輪読
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）

4	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
5	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
6	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
7	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
8	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
9	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
10	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
11	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
12	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
13	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
14	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
15	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）

科目名	政治学原書研究Ⅰ(英)	担当者	信夫　隆司	期間	前期	単位数	1

授業概要	本講義では、戦後の日米関係および国際政治に関する基本的な英語文献および関連する新聞記事を学修する。			
授業目的・到達目標	戦後の日米関係および国際政治に関する英文を読み、法学研究科政治学専攻において必要な英語読解の能力を身につけることを目的とする。何となくではなく、英語をきちんと理解できたというところまで、英語の能力をアップすることを目的とする。それによって、修士論文作成における英語文献の理解にも役立つようにする。 関連するDP・CP政治学専攻２，６，８			
履修条件	なし。			
授業方法	課題として出された英文を翻訳し、発表すると同時に、その内容について議論しながら講義を進める。また、履修者の関心に応じた内容に変更する場合もある。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	事前学習、英語の訳のレベル、授業への積極的参加等を総合的に評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない。		
参考書	講義の際、適宜、紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後に授業講堂。shinobu.takashi○nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、講義内容を理解する。（１２０分）
	授業内容	**ガイダンス：シラバスの内容について説明するとともに、必要な資料を配布する。**
	事後学習	前期の全般的な授業内容を理解する。（１２０分）
2	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１２０分）
	授業内容	The Subordination of Japan: The Frustration of Roosevelt's Vision, The Cold War and Japan's Fate
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（１２０分）
3	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１５０分）
	授業内容	The Subordination of Japan: The Reverse Course, The Turning Point
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（９０分）

4	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１２０分）
	授業内容	**英字新聞の国際政治・日本外交に関する記事を読む。**
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（１２０分）
5	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１５０分）
	授業内容	**英字新聞の国際政治・日本外交に関する記事を読む。**
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（９０分）
6	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１５０分）
	授業内容	The Subordination of Japan: Yoshida's Choice
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（９０分）
7	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１２０分）
	授業内容	The Subordination of Japan: The San Francisco Peace Treaty of 1951, Troubled Legacy of the Peace Treaty
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（１２０分）
8	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１２０分）
	授業内容	**英字新聞の国際政治・日本外交に関する記事を読む。**
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（１２０分）
9	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１５０分）
	授業内容	**英字新聞の国際政治・日本外交に関する記事を読む。**
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（９０分）
10	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１５０分）
	授業内容	The Subordination of Japan: The Mutual Security Treaty of 1951
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（９０分）
11	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１５０分）
	授業内容	The Subordination of Japan: The American Cold War Order in East Asia
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（９０分）
12	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１２０分）
	授業内容	**英字新聞の国際政治・日本外交に関する記事を読む。**
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（１２０分）
13	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１２０分）
	授業内容	The Subordination of Japan: The Yoshida Legacy
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（１２０分）
14	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１２０分）
	授業内容	The Subordination of Japan: Subordinate Independence
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（１２０分）
15	事前学習	前期の講義内容を振り返る。（９０分）
	授業内容	**前期のまとめ**
	事後学習	修士論文作成等に資する点を理解する。（１５０分）

科目名	政治学原書研究Ⅱ(英)	担当者	岩崎　正洋	期間	後期	単位数	1

授業概要	本講義は、現代政治学における代表的な原書（英語）の検討を通じて、政治学（Political Science）を専攻するに際し、これまでに蓄積されてきた先行研究のうち最低限どのようなものを把握しておく必要があるのか、これまでの研究の系譜に自らの研究をどのように位置づけるのか、それらをふまえて自らの問題意識を明確にするにはどうしたらいいのかについて学修する。
授業目的・到達目標	〔授業目的〕本講義では、現代政治学における代表的な研究がどのように政治現象を捉え、政治分析を行ってきたのかを理解するために、現代政治学の主要な理論、現実の政治現象と政治理論とのかかわりについて考察する。 〔到達目標〕現代政治学における代表的な研究がどのような論理構成となっているのかについて説明することができる。 関連するDP・CP（政治学専攻2,6,8）
履修条件	この授業を受講する前の段階（大学院入学以前）において、政治学の基礎的な知識を学修していること。
授業方法	毎回テーマに従って，受講者の報告，教員の講評，質疑応答，報告資料の添削などを行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	授業中の報告、質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、〔到達目標〕にかかわる学修態度が身についているかを評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2007	Cambridge University Press	Democracy	Charles Tilly
	備考			

参考書	この授業に関連するテーマとして、「民主主義」、「民主化」、「権威主義化」、「体制変動」、「政治発展」などが挙げられるが、これらに関する文献については、授業中に提示する。
オフィスアワー	月曜日12：10～12：50　研究室（4号館2階425研究室）iwasaki.masahiro62@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**イントロダクション**
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典などにあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
2	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
3	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）

4	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
5	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
6	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
7	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
8	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
9	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
10	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
11	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
12	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
13	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
14	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）
15	事前学習	教科書を精読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	**Democracyの輪読**
	事後学習	授業で取り扱った部分を中心に、改めて内容の理解を深めるとともに、日本語訳の修正等を行う。（2時間）

科目名	政治学原書研究Ⅱ(英)	担当者	信夫　隆司	期間	後期	単位数	1

授業概要	本講義では、戦後の日米関係および国際政治に関する基本的な英語文献および関連する新聞記事を学修する。			
授業目的・到達目標	戦後の日米関係および国際政治に関する英文を読み、法学研究科政治学専攻において必要な英語読解の能力を身につけることを目的とする。何となくではなく、英語をきちんと理解できたというところまで、英語の能力をアップすることを目的とする。それによって、修士論文作成における英語文献の理解にも役立つようにする。 関連するDP・CP政治学専攻２，６，８			
履修条件	なし。			
授業方法	課題として出された英文を翻訳し、発表すると同時に、その内容について議論しながら講義を進める。また、履修者の関心に応じた内容に変更する場合もある。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験			
	平 常 評 価	100%	事前学習、英語の訳のレベル、授業への積極的参加等を総合的に評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない。		
参 考 書	講義の際、適宜、紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後に授業講堂で。shinobu.takashi○nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授　業　内　容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、講義内容を理解する。（１２０分）
	授業内容	**ガイダンス：シラバスの内容について説明するとともに、必要な資料を配布する。**
	事後学習	後期の全般的な講義内容を理解する。（１２０分）
2	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１２０分）
	授業内容	**For the Soul of Japan: Trauma**
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（１２０分）
3	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１５０分）
	授業内容	**英字新聞の国際政治・日本外交に関する記事を読む。**
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（９０分）

4	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１２０分）
	授業内容	**英字新聞の国際政治・日本外交に関する記事を読む。**
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（１２０分）
5	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１５０分）
	授業内容	For the Soul of Japan: Relentless of US Pressure
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（９０分）
6	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１５０分）
	授業内容	For the Soul of Japan: The Lucky Dragon Incident(1)
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（９０分）
7	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１５０分）
	授業内容	**英字新聞の国際政治・日本外交に関する記事を読む。**
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（９０分）
8	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１２０分）
	授業内容	**英字新聞の国際政治・日本外交に関する記事を読む。**
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（１２０分）
9	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１２０分）
	授業内容	For the Soul of Japan: The Lucky Dragon Incident(2)
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（１２０分）
10	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１２０分）
	授業内容	For the Soul of Japan: Hiroshima and Japanese Identity
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（１２０分）
11	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１５０分）
	授業内容	**英字新聞の国際政治・日本外交に関する記事を読む。**
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（９０分）
12	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１２０分）
	授業内容	**英字新聞の国際政治・日本外交に関する記事を読む。**
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（１２０分）
13	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１５０分）
	授業内容	For the Soul of Japan: American Instruction in Japanese Politics
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（９０分）
14	事前学習	事前に与えられた課題を訳出し、レポートを作成する。（１５０分）
	授業内容	For the Soul of Japan: The Anti-Treaty Demonstrations, The Legacy of Ampo
	事後学習	自分の作成したレポートと講義における訳をあらためて検討してみる。また、英文の時代背景並びに今日的課題についても学習する。（９０分）
15	事前学習	後期の講義内容を振り返る。（１２０分）
	授業内容	**後期のまとめ**
	事後学習	修士論文作成等に資する点を理解する。（１２０分）

科目名	政治学原書研究Ⅰ(独)	担当者	川又　祐	期間	前期	単位数	1

授業概要	ドイツ語の文法事項を確認・復習しながら、より日本語として適切な表現を追究する。和訳のいくつかの可能性を受講生と議論する双方向の授業を実施する。
授業目的・到達目標	外国文献を正確に精密に読解できる能力の獲得を目標とする。 ＤＰ・ＣＰ政治学専攻２，６，８
履修条件	すでにドイツ語を履修していることが望ましいが、相談に応じる。輪読を予定しているので予習が欠かせない。
授業方法	最初の講義の時間に受講生と相談して原書を決定する。指定された箇所の和訳を報告（輪読）してもらう。辞書を携行すること。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	演習60%　参加度40%

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2001	C.H.Beck	Geschichte der Politikwissenschaft in Deutschland	Wilhelm Bleek
	備考	最初の授業で資料を配布する。		

参 考 書	適宜紹介する
オフィスアワー	毎週金曜日昼休み、本館8階の研究室で質問・相談に応じます。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	辞書、電子辞書、ウェブ辞書の使い方を確認する。（３０分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	当番箇所を確認して、次回に備える。（３０分）
2	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	1. Einleitung:Aspekte der Geschichte der Politikwissenschaft
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
3	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	a) Ideengeschichte
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）

4	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	b) Gelehrtengeschichte
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
5	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	c) Universitaetsgeschichte
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
6	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	d) Sozialgeschichte
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
7	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	e) Politikgeschichte
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
8	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	f) Synoptiksche Konzeption der Wissenschaftsgeschichte
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
9	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	2. Die Anfaenge der Politiklehre an der mittelalterlichen Universitaeten
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
10	**授業内容**	a) Die Entstehung der Universitaeten
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
11	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	b) Artistenfakultaet und -studium
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
12	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	c) Die aristotelische Tradition der aelteren Lehre der Politik
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
13	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	d) Ausblick　1
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
14	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	d) Ausblick　2
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
15	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	**まとめ**
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）

科目名	政治学原書研究Ⅱ(独)	担当者	川又　祐	期間	後期	単位数	1

授業概要	ドイツ語の文法事項を確認・復習しながら、より日本語として適切な表現を追究する。和訳のいくつかの可能性を受講生と議論する双方向の授業を実施する。
授業目的・到達目標	外国文献を正確に精密に読解できる能力の獲得を目標とする。 ＤＰ・ＣＰ政治学専攻２，６，８
履修条件	すでにドイツ語を履修していることが望ましいが、相談に応じる。輪読を予定しているので予習が欠かせない。
授業方法	最初の講義の時間に受講生と相談して原書を決定する。指定された箇所の和訳を報告（輪読）してもらう。辞書を携行すること。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	演習60%　参加度40%

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2001	C.H.Beck	Geschichte der Politikwissenschaft in Deutschland	Wilhelm Bleek
	備考	最初の授業で資料を配布する。		

参 考 書	適宜紹介する
オフィスアワー	毎週金曜日昼休み、本館8階の研究室で質問・相談に応じます。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	3. Fruehneuzeitlicher Staat und Auffaecherung der Staatswissenschaften
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
2	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	a) Protestantische Politiklehre im Heiligen Roemischen Reich Deutscher Nation 1
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
3	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	a) Protestantische Politiklehre im Heiligen Roemischen Reich Deutscher Nation 2
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）

4	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	b) Die Entstehung des neuzeitlichen Verwaltungsstaates und die Ausbildung des Berufsbeamtentums　1
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
5	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	b) Die Entstehung des neuzeitlichen Verwaltungsstaates und die Ausbildung des Berufsbeamtentums　2
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
6	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	c) Die Staatswissenschaften des aelteren Wohlfahrtsstaates
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
7	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	d) Politik als Staatswissenschaft
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
8	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	e) Ausblick
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
9	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	3. Frueneuzeitlicher Staat und Auffaecherung　der Staatswissenschaften
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
10	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	a) Protestantische Politiklehre im Heiligen Roemischen Reich Deutscher Nation
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
11	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	b) Die Entstehung des neuzeitlichen Verwaltungsstaates und die Ausbildung des Berufsbeamtentums
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
12	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	c) Die Staatswissenschaften des aelteren Wohlfahrtsstaates
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
13	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	d) Politik als Staatswissenschaft
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
14	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	e) Ausblick
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）
15	事前学習	当番箇所の和訳を準備する。（３０分）
	授業内容	**まとめ**
	事後学習	授業の前後で訳が変化した箇所を確認する。（３０分）

科目名	政治学原書研究Ⅰ(仏)	担当者	上村　進	期間	前期	単位数	1

授業概要	フランスの政治・行政体制に関する仏語文献を読み、理解する。
授業目的・到達目標	受講者の研究領域に係る仏語文献を読みこなし、内容を理解の上説明できるようにする。 関連するDP・CP　政治学専攻2,6,8
履修条件	学部でフランス語を履修していることが望ましいが、初学者であっても意欲に応じて履修可能とする。
授業方法	フランスの政治・行政制度に係る基礎的文献の輪読に係る双方向講義とする。 面接授業をベースに、オンライン受講希望者がいる場合はZoom併用で授業を行う。

成績評価

種別	割合	評価方法
定期試験		
平常評価	100%	授業参加度・毎回の授業内発現の出来栄えなどにより総合的に評価する。

教科書

年	出版社	書名	著者名
2020	hachette	La Constitution commenté　23e édition	Simon-Louis Formey
2020	Gualino	L'essentiel des Institution politique et administrative de la France	Dominique Grandguillot

備考

参考書	下條美智彦『フランスの行政』早稲田大学出版部、大山礼子『フランスの政治制度』東信堂
オフィスアワー	金曜昼休み　kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	フランス政治行政を学ぶ意義について考える（15分）
	授業内容	**オリエンテーション、フランス政治行政の学び方**
	事後学習	授業内容を確認する（15分）
2	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランス国家と国民**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）
3	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランスにおける公共と自由の概念**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）

4	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランスの民主代表制**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）
5	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**1958年憲法の概要**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）
6	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランス大統領制**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）
7	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランスの首相及び政府**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）
8	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランスの議会**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）
9	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランスの憲法院・国務院・会計検査院**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）
10	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランスの権利擁護官**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）
11	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランスの中央政府**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）
12	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランスの市町村**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）
13	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランスの州・県**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）
14	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランス司法制度**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）
15	事前学習	授業全体を通じた質問・意見などの発言内容を考える（45分）
	授業内容	**授業内容のまとめ・振り返り・学習成果の確認**
	事後学習	授業全体を通じた総括的まとめを行う（45分）

科目名	政治学原書研究Ⅱ(仏)	担当者	上村　進	期間	後期	単位数	1

授業概要	前期の授業を踏まえ、その学習基盤の上に立ってフランスの政治・行政体制に関し更に深掘りした仏語文献を読み、理解する。
授業目的・到達目標	受講者の研究領域に係る仏語文献を読みこなし、内容を理解の上説明できるようにする。 関連するDP・CP　政治学専攻2,6,8
履修条件	学部でフランス語を履修していることが望ましいが、初学者であっても意欲に応じて履修可能とする。
授業方法	フランスの政治・行政制度に係る基礎的文献の輪読に係る双方向講義とする。 面接授業をベースに、オンライン受講希望者がいる場合はZoom併用で授業を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業参加度・毎回の授業内発現の出来栄えなどにより総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2020	hachette	La Constitution commenté　23e édition	Simon-Louis Formey
	2020	Gualino	L'essentiel des Institution politique et administrative de la France	Dominique Grandguillot
	備考			

参 考 書	下條美智彦『フランスの行政』早稲田大学出版部、大山礼子『フランスの政治制度』東信堂
オフィスアワー	金曜昼休み　kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	フランス政治行政を学ぶ意義について考える（15分）
	授業内容	**オリエンテーション、フランス政治行政の学び方**
	事後学習	授業内容を確認する（15分）
2	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランスの国家原理と国民主権**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）
3	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランス大統領の地位**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）

4	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランス大統領の権限**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）
5	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランス大統領と首相の関係**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）
6	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランス大統領・政府と議会の関係**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）
7	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランス議会の構成**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）
8	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランス国会の権限**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）
9	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランス国会の運営**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）
10	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランス国会議員の地位**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）
11	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランス憲法院の権限・機能**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）
12	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランスの司法制度**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）
13	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランスの権利擁護官**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）
14	事前学習	担当部分を予習し、発表の準備を行う（30分）
	授業内容	**フランスの地方制度**
	事後学習	授業内容を確認しまとめておく（30分）
15	事前学習	授業全体を通じた質問・意見などの発言内容を考える（45分）
	授業内容	**授業内容のまとめ・振り返り・学習成果の確認**
	事後学習	授業全体を通じた総括的まとめを行う（45分）

科目名	専門演習(西洋政治史)	担当者	渡邉　容一郎	期間	通年	単位数	4

授業概要	修士論文の完成に向けて、研究室生の研究計画ならびに修士論文テーマに合わせた専門的個別指導(スーパービジョン)を実施する。スーパービジョンの詳細については下記の「授業方法」を参照されたい。
授業目的・到達目標	1年目は、高度な専門知識を身につけたうえで、歴史的な視点で政治と政治学に関する諸問題を考察できるようになることを目標とする。それを踏まえて2年目は、独創力溢れる「修士論文」の完成を最終的な目標とする。 関連するDP・CP　政治学専攻１，２，３，４，５，６，７，８
履修条件	当該入学試験に合格した大学院生が中心となるが、修士論文テーマとの関係で西洋政治史的な専門知識や思考力、あるいは研究方法について学ぶことを希望する院生の聴講も(指導教授の許可を得たうえで)歓迎する。
授業方法	上記のとおり、原則として、研究室生の修士論文テーマとその研究計画に基づいたスーパービジョン形式で行う。具体的には、指導教員が予め示した複数の文献を講読した後、教員が示した課題(テーマ)についてのエッセイ(小規模の専門論文)を事前に執筆し、毎回授業開始時に提出して、その内容を踏まえた質疑応答やエッセイの添削指導などを行う。そしてその成果は修士論文等の作成・完成に反映される。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	修士論文の内容評価に加え、上記のとおり研究テーマに関するエッセイを毎回作成してもらい、それについても毎回総合的に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2023	晃洋書房	西洋政治史	渡邉　容一郎
	備考			

参 考 書	授業の中で適宜紹介する。
オフィスアワー	火曜日　14：40～16：10 9号館2階　9207研究室 watanabe.yoichiro@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	専門演習用ノートブックとシラバス、研究計画書を用意して、当該研究テーマを選んだ理由を教員にわかりやすく説明できるようにしておく。（2時間）
	授業内容	**「専門演習」に関するオリエンテーション(スーパービジョン、使用教科書等についての概要説明) 次回以降のエッセイに関する課題とリーディングアサインメントの提示**
	事後学習	指定された課題文献を読み、次回授業の前日までにエッセイを作成する。（2時間）
2～4	事前学習	次回授業に提出するエッセイを作成し、指導教員からの質問に答えられるよう準備しておく。（2時間）
	授業内容	**各自の研究テーマに関する個別指導(提出されたエッセイに基づくスーパービジョン)**
	事後学習	授業で指摘された内容を確認するとともに、指定された課題文献を読み、次回授業で提出するエッセイを作成する。（2時間）
5～12	事前学習	次回授業に提出するエッセイを作成し、指導教員からの質問に答えられるよう準備しておく。（2時間）
	授業内容	**各自の研究テーマに関する個別指導(提出されたエッセイに基づくスーパービジョン)**
	事後学習	授業で指摘された内容を確認するとともに、指定された課題文献を読み、次回授業で提出するエッセイを作成する。（2時間）

13～20	事前学習	次回授業に提出するエッセイを作成し、指導教員からの質問に答えられるよう準備しておく。（2時間）
	授業内容	**各自の研究テーマに関する個別指導（提出されたエッセイに基づくスーパービジョン）**
	事後学習	授業で指摘された内容を確認するとともに、指定された課題文献を読み、次回授業で提出するエッセイを作成する。（2時間）
21～30	事前学習	次回授業に提出するエッセイを作成し、指導教員からの質問に答えられるよう準備しておく。（2時間）
	授業内容	**各自の研究テーマに関する個別指導（提出されたエッセイに基づくスーパービジョン）**
	事後学習	授業で指摘された内容を確認するとともに、指定された課題文献を読み、次回授業で提出するエッセイを作成する。（2時間）
31～34	事前学習	修士論文テーマに関する先行研究文献を渉猟し、修士論文の「序論」を作成する。（2時間）
	授業内容	**修士論文テーマに関する「序論」作成指導**
	事後学習	授業内容を振り返り、それを修士論文「序論」の作成に反映させる。（2時間）
35～41	事前学習	修士論文テーマに関する先行研究文献を渉猟し、修士論文の「本論Ⅰ」を作成する。（2時間）
	授業内容	**修士論文テーマに関する「本論Ⅰ」作成指導**
	事後学習	授業内容を振り返り、それを修士論文「本論Ⅰ」の作成に反映させる。（2時間）
42～45	事前学習	修士論文テーマに関する先行研究文献を渉猟し、修士論文の「本論Ⅱ」を作成する。（2時間）
	授業内容	**修士論文テーマに関する「本論Ⅱ」作成指導**
	事後学習	授業内容を振り返り、それを修士論文「本論Ⅱ」の作成に反映させる。（2時間）
46～54	事前学習	修士論文テーマに関する先行研究文献を渉猟し、修士論文の「本論Ⅲ」を作成する。（2時間）
	授業内容	**修士論文テーマに関する「本論Ⅲ」作成指導**
	事後学習	授業内容を振り返り、それを修士論文「本論Ⅲ」の作成に反映させる。（2時間）
55～58	事前学習	修士論文テーマに関する先行研究文献を渉猟し、修士論文の「結論」を作成する。（2時間）
	授業内容	**修士論文テーマに関する「結論」作成指導**
	事後学習	授業内容を振り返り、それを修士論文「結論」の作成に反映させる。（2時間）
59～60	事前学習	修士論文提出前の最終チェックを行う。（2時間）
	授業内容	**修士論文提出前の最終点検指導**
	事後学習	修士論文の内容全体を振り返るとともに、最終試験等の準備を行う。（2時間）

科目名	専門演習(行政学)	担当者	上村　進	期間	通年	単位数	4

授業概要	修士論文を執筆するために、アクティブラーニングを基本とした授業を行う。学生の事前準備の発表及びこれに対する議論など学生主体の授業方法を多く取り入れる。
授業目的・到達目標	授業目的〕一つのテーマで学術的な研究論文を準備し、執筆するのに必要な学問的な方法論、問題意識、先行研究の渉猟、論文のオリジナリティなどにかかわる能力を修得する。 〔到達目標〕一定程度の学術的な水準の修士論文を書き上げることにより、現代行政における諸問題について考察し、自分の見解を述べることができる。 DP/CP　政治学専攻　１，２，３，４，５，６，７，８
履修条件	公共政策コースの院生を対象とする。
授業方法	基本的に、毎回テーマに従って、受講者が報告を行うとともに、参加者同士の討論を中心に行う形式とする。授業内において、報告内容の講評、解説、報告資料の添削などを行うことによりフィードバックを行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	授業における報告や討論を評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	授業内で適宜指示する。		

参 考 書	授業内で適宜指示する。
オフィスアワー	金曜昼休み。事前アポイントのこと。kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	自らの学問的な関心をまとめておくこと。（2時間）
	授業内容	**論文の書き方の確認・問題意識の精緻化**
	事後学習	授業内容を踏まえ、学術論文の技法を復習するとともに学術上の問題意識を確立する（４時間）
2～4	事前学習	自らの学術的問題意識に沿ったリサーチクエスチョン・仮説を考えてくる（４時間）
	授業内容	**リサーチクエスチョン及び研究仮説の構築**
	事後学習	授業内容を踏まえ、修士論文冒頭部分の構想を固める（４時間）
5～12	事前学習	自らのリサーチクエスチョンに沿った仮説検証方法、先行研究リスト、テーマ案を検討してくる（４時間）
	授業内容	**研究方法の設定、先行研究調査、論文テーマの確定**
	事後学習	授業内容を踏まえ、研究方法・論文テーマを確定する（時間限定無し）。

13～20	事前学習	修士論文の章立てを考え、それぞれの概要を執筆してくる（2時間）
	授業内容	**修士論文全体構成・各章内容の確定**
	事後学習	授業内容を踏まえ、論文構成・概要を修正する（2時間）
21～30	事前学習	実地調査・資料収集等を行い、その結果を報告できるようにする（時間限定なし）
	授業内容	**実地調査・資料収集状況の報告**
	事後学習	授業内容を踏まえて所要の補足調査等を行う（時間限定なし）
31～34	事前学習	調査結果等をレポート形式でとりまとめ、報告できるようにする（５時間）
	授業内容	**実地調査・収集資料のとりまとめ**
	事後学習	N授業内容を踏まえて所要の修正・補足調査等を行う（時間限定なし）。
35～41	事前学習	章ごとに前回までに取りまとめたレポートに独自の分析・考察を加える（2時間）
	授業内容	**論文各パーツの執筆①**
	事後学習	授業内容を踏まえて所要の修正等を行う（2時間）。
42～45	事前学習	章ごとに前回までに取りまとめたレポートに独自の分析・考察を加える（2時間）
	授業内容	**論文各パーツの執筆②**
	事後学習	授業内容を踏まえて所要の修正を行う（2時間）。
46～54	事前学習	前回までに執筆したパーツを全体構想のもとに整序し修士論文をまとめてくる（2時間）
	授業内容	**論文の1次修正**
	事後学習	授業内容を踏まえて必要な補足調査・資料収集等を行う（時間限定なし）。
55～58	事前学習	所要の論文修正を行う（2時間）
	授業内容	**論文の2次修正**
	事後学習	授業内容を踏まえて必要な補足調査・資料収集等を行う（時間限定なし）。
59～60	事前学習	所要の論文修正を行う（2時間）
	授業内容	**論文の最終仕上げ**
	事後学習	最終的な論文修正を行う（時間限定なし）。

科目名	専門演習(行政学)	担当者	児玉　博昭	期間	通年	単位数	4

授業概要	修士論文を執筆するために、アクティブラーニングを基本とした授業を行う。学生主体の授業方法を多く取り入れる。
授業目的・到達目標	一つのテーマで学術的な論文を執筆するのに必要な研究能力を修得することを目的とする。修士論文にふさわしい学術的な水準の論文を書き上げることにより、行政における諸問題について考察し、自分の見解を述られるようになることを目標とする。 DP/CP政治学専攻1,2,3,4,5,6,7,8
履修条件	行政学を専攻する者を対象とする。
授業方法	学生が発表する報告や執筆した論文について検討を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定 期 試 験		
	平 常 評 価	100%	学生の発表報告や作成資料に基づき研究能力の修得度を評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2022	東京大学出版会	政策リサーチ入門（増補版）	伊藤修一郎
	備考			

参 考 書	授業時に適宜指示する。
オフィスアワー	金曜4時限（14:40～16:10）（事前にメールで予約を取ること）kodama.hiroaki@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	自らの学問的な関心を大まかに考えておくこと。（120分）
	授業内容	**研究論文の意義と作業手順、論文の執筆要領を確認する。**
	事後学習	研究の進め方や論文の書き方について理解すること。（120分）
2～4	事前学習	自らの学問的な関心をまとめておくこと。（120分×3回）
	授業内容	**学問的関心を提示し、問題意識を精緻化する。**
	事後学習	学術的な水準に見合うように自らの学問的な関心を精緻化すること。（120分×3回）
5～12	事前学習	研究方法に関する先行研究を渉猟しておくこと。（120分×8回）
	授業内容	**研究方法を検討する。**
	事後学習	自らの学問的な関心に見合う研究方法をまとめておくこと。（120分×8回）

13～20	事前学習	先行研究を渉猟しておくこと。（120分×8回）
	授業内容	**主たる先行研究を渉猟する。**
	事後学習	自らの学問的な関心に見合う先行研究の系譜をまとめておくこと。（120分×8回）
21～30	事前学習	先行研究を渉猟しておくこと。（120分×10回）
	授業内容	**主たる先行研究と自己の問題意識・研究方法との関係を検討する。**
	事後学習	問題意識を精緻化すること。（120分×10回）
31～34	事前学習	論文のテーマと構成案をまとめておくこと。（120分×4回）
	授業内容	**論文のテーマと構成を確定させる。**
	事後学習	論文のテーマと構成を精緻化すること。（120分×4回）
35～41	事前学習	論文の各章の内容をまとめておくこと。（120分×7回）
	授業内容	**論文の各章の内容を検討する。**
	事後学習	論文の各章の内容を修正しておくこと。（120分×7回）
42～45	事前学習	論文全体をまとめておくこと。（120分×4回）
	授業内容	**論文の全体像の提示する。**
	事後学習	論文全体の修正を重ねること。（120分×4回）
46～54	事前学習	論文の各章を執筆しておくこと。（120分×4回）
	授業内容	**論文の各章を形式やバランスを含めて検討する。**
	事後学習	論文の各章を修正しておくこと。（120分×4回）
55～58	事前学習	論文全体を仕上げておくこと。（120分×4回）
	授業内容	**論文の最終仕上げに向けて検討する。**
	事後学習	追加調査等によって論文の不足を補うこと。（120分×4回）
59～60	事前学習	論文を仕上げ、要旨をまとめておくこと。（120分×2回）
	授業内容	**修士論文を完成させ、概要を報告する。**
	事後学習	論文の総仕上げを行うこと。（120分×2回）

科目名	専門演習（地方自治論）	担当者	福島　康仁	期間	通年	単位数	4

授業概要	修士論文を執筆するために、アクティブラーニングを基本とし授業を行う。演習の要素がつよいので、学生主体の議論を多く取り入れる。
授業目的・到達目標	この授業は、修士論文を執筆するための研究指導を目的としている。修士論文を執筆するために、問題意識をもち、、先行研究を調べ、論文を作成するまでの過程を学ぶ。 修士論文として十分な学術的な水準に論文を書き上げることを到達目標とする。 関連するＤＰ・ＣＰ政治学専攻1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8
履修条件	指導の質を上げるために地方自治論を専攻するものに限定する。
授業方法	学生による報告によって論文作成に向けて検討を行う。

成績評価

種別	割合	評価方法
定 期 試 験		
平 常 評 価	100%	論文作成までのすべてのプロセスを評価対象とする。適宜プレゼンテーションをし、レポート、レジメの提出をする。履修生同士の討論をする。

教科書

年	出版社	書名	著者名
2021年	公職研	必携自治体職員ハンドブック	公職研編集部

備考	

参 考 書	研究プロセスで各人に提示する。
オフィスアワー	原則水曜日の昼休みとする。事前にメールなどでアポイントメントをとること（別の人の相談がはいっていたり、研究室にいないことがあります）。場所は本館６階の研究室。fukushima.yasuhito@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授　業　内　容
1	事前学習	修士論文のテーマについて漠然でもよいので考えてくる（１時間以上）
	授業内容	**ガイダンス**
	事後学習	議論をふまえて練り直す（１時間以上）
2～4	事前学習	問題意識についてあらためて、テーマを考える（１時間以上）
	授業内容	**問題意識、学問的関心について検討する**
	事後学習	議論をふまえてテーマを絞る（１時間以上）
5～12	事前学習	研究方法について考えてくる（１時間以上）
	授業内容	**研究のアプローチについて検討する。**
	事後学習	議論を踏まえてアプローチを変更する（１時間以上）

13～20	事前学習	先行研究についてまとめてくる（１時間以上）
	授業内容	**先行研究について検討する。**
	事後学習	先行研究をさらにすすめて調べる（１時間以上）
21～30	事前学習	先行研究の論文リストをつくる（１時間以上）
	授業内容	**先行研究を踏まえたうえで、自分の論文の作成方向について検討する**
	事後学習	オリジナルとはなにかまとめてみる（１時間以上）
31～34	事前学習	テーマの趣旨を文章でまとめてくる（１時間以上）
	授業内容	**テーマを確定する**
	事後学習	議論を踏まえてテーマを修正する（１時間以上）
35～41	事前学習	論文の章立てを考えてくる（１時間以上）
	授業内容	**論文の各章についての作成、検討する。**
	事後学習	論文の章だけを変更する（１時間以上）
42～45	事前学習	論文の柱を考え、節をを確定する（１時間以上）
	授業内容	**論文の各章についての作成、検討する**
	事後学習	論文の章、節を変更、確定する（１時間以上）
46～54	事前学習	論文を自分なりに書いてくる（１時間以上）
	授業内容	**論文の全体のバランスなど調整作業をおこなう**
	事後学習	議論を踏まえて修正をくり返す（１時間以上）
55～58	事前学習	自分なりに論文を仕上げる（１時間以上）
	授業内容	**論文完成のための最終調整作業をおこなう**
	事後学習	議論を踏まえて、論文の不足を補う（１時間以上）
59～60	事前学習	論文の要旨をまとめてくる（１時間以上）
	授業内容	**論文の最終仕上げと概要報告をおこなう。**
	事後学習	論文の総仕上げをおこなう（１時間以上）

科目名	専門演習(政治理論)	担当者	岩崎　正洋	期間	通年	単位数	4

授業概要	社会科学（Social Science）の一分野としての政治学（Political Science）を専攻するに際し、これまでに蓄積されてきた先行研究のうち最低限どのようなものを把握しておく必要があるのか、これまでの研究の系譜に自らの研究をどのように位置づけることができるのか、それらをふまえて自らの問題意識を明確にすると、どのようなことがいえるのか、研究を通して何を明らかにしたいのかなどについて、学術的な形式に則ってまとめていくことを学修する。
授業目的・到達目標	〔授業目的〕修士論文を執筆、一つのテーマで学術的な研究論文を準備し、執筆するのに必要な学問的な方法論、問題意識、先行研究の渉猟、論文のオリジナリティなどにかかわる能力を修得する。 〔到達目標〕最終的に二年間で、一定程度の学術的な水準の修士論文を書き上げることにより、現代政治学における諸問題について考察し、自分の見解を述べることができる。 関連するDP・CP（政治学専攻1,2,3,4,5,6,7,8、）
履修条件	大学院において政治理論を専攻とすること。
授業方法	基本的に、学生による報告および学生が執筆した論文の検討を行う。

成績評価	種別	割合	評価方法
	定期試験		
	平常評価	100%	〔到達目標〕に関する基礎知識が身についているかを、授業中の報告やワーキングペーパーなどを基準に評価する。

教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015年	勁草書房	『比較政治学入門』	岩崎正洋
	1999年	東海大学出版会	『政党システムの理論』	岩崎正洋
	2006年	東海大学出版会	『政治発展と民主化の比較政治学』	岩崎正洋
	備考			

参考書	授業の際に提示する。
オフィスアワー	月曜日12：10～12：50　研究室（4号館2階425研究室）iwasaki.masahiro62@nihon-u.ac.jp

【授業計画】

回数		授業内容
1	事前学習	自らの学問的な関心をまとめておくこと。（2時間）
	授業内容	**イントロダクション**
	事後学習	学術的な水準に見合うように自らの学問的な関心を精緻化すること。（2時間）
2～4	事前学習	自らの学問的な関心をまとめておくこと。（2時間×3回）
	授業内容	**学問的関心の提示、問題意識の精緻化。**
	事後学習	学術的な水準に見合うように自らの学問的な関心を精緻化すること。（2時間×3回）
5～12	事前学習	研究方法に関する先行研究を渉猟しておくこと。（2時間×8回）
	授業内容	**研究方法の検討。**
	事後学習	自らの学問的な関心に見合う研究方法をまとめておくこと。（2時間×8回）

13～20	事前学習	先行研究を渉猟しておくこと。（2時間×8回）
	授業内容	**主たる先行研究の渉猟。**
	事後学習	自らの学問的な関心に見合う先行研究の系譜をまとめておくこと。（2時間×8回）
21～30	事前学習	先行研究を渉猟しておくこと。（2時間×10回）
	授業内容	**主たる先行研究と自己の問題意識、自己の研究方法との関係に関する検討**
	事後学習	問題意識を精緻化すること。（2時間×10回）
31～34	事前学習	修士論文のテーマおよび構成（案）をまとめておくこと。（2時間×4回）
	授業内容	**修士論文のテーマおよび構成の確定。**
	事後学習	修士論文のテーマおよび構成を精緻化すること。（2時間×4回）
35～41	事前学習	各章の内容をまとめておくこと。（2時間×7回）
	授業内容	**修士論文の各章についての報告および検討。**
	事後学習	各章の内容を修正しておくこと。（2時間×7回）
42～45	事前学習	修士論文全体をまとめておくこと。（2時間×4回）
	授業内容	**修士論文の全体像の提示。**
	事後学習	修士論文全体の修正を重ねること。（2時間×4回）
46～54	事前学習	修士論文の各章を執筆しておくこと。（2時間×4回）
	授業内容	**修士論文の各章の検討。**
	事後学習	修士論文の各章を修正しておくこと。（2時間×4回）
55～58	事前学習	修士論文全体をまとめておくこと。（2時間×4回）
	授業内容	**修士論文の最終的な仕上げに向けた検討。**
	事後学習	修士論文全体の最終的な修正を行うこと。（2時間×4回）
59～60	事前学習	修士論文全体を完成させておくこと。（2時間×2回）
	授業内容	**修士論文の完成。**
	事後学習	修士論文全体を修正し完成させること。（2時間×2回）